国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

図面リスト

特-01	特記仕様書(1)	A-22	階段室2　断面詳細図（改修）	A-44	家具詳細図１（改修図）	S-01	構造特記仕様書
特-02	特記仕様書(2)	A-23	階段室2　平面詳細図（改修）	A-45	家具詳細図２（改修図）	S-02	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造配筋基準図(1)
特-03	特記仕様書(3)	A-24-1	1F天井伏図（撤去図・改修図）	A-46	家具詳細図３（改修図）	S-03	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造配筋基準図(2)
特-04	特記仕様書(4)	A-24-2	2F天井伏図（撤去図・改修図）	A-47	家具詳細図４（改修図）	S-04	鉄骨構造標準図(1)
特-05	特記仕様書(5)	A-24-3	3F天井伏図（撤去図・改修図）	A-48	家具詳細図５（改修図）	S-05	鉄骨構造標準図(2)
特-06	特記仕様書(6)	A-25	普通教室平面詳細図(改修図)	A-49	家具詳細図６（改修図）	S-06	ﾊｲﾍﾞｰｽNEO標準図
特-07	特記仕様書(7)	A-26	職員室平面詳細図・展開図(改修図)	A-50	サインキープラン・サイン表（改修図）	S-07	ｽｸﾘｭｰﾊﾟｲﾙEAZET設計施工標準
A-01	工事区分表	A-27	校長室・事務室平面詳細図（改修図）	A-51	詳細図　1	S-08	エレベーターシャフト構造図
A-02	法チェック図	A-28	昇降口平面詳細図（改修図）	A-52	詳細図　2	S-09	エレベーター伏図・軸組図
A-02-2	法チェック図2	A-29	放送室・スタジオ・職員更衣室平面詳細図（改修図）	A-53	屋根詳細図(参考図)		
A-03	求積図（建物）	A-30	会議室平面詳細図(改修図)	A-54	外断熱詳細図		
A-04	配置図・案内図	A-31	普通教室1平面詳細図(改修図)	A-55	ベランダ手すり詳細図		
A-05	仕上表	A-32	多目的教室詳細図（改修図）	A-56	物置詳細図(参考図)		
A-06	1階平面図（撤去図・改修図）	A-33	普通教室6,9平面詳細図(改修図)	A-57	物置基礎図(参考図)		
A-07	2階平面図（撤去図・改修図）	A-33-1	階段室1　展開図（撤去）	A-58	木製間仕切り詳細図(改修図)		
A-08	3階平面図(撤去図・改修図)	A-33-2	階段室1　展開図（改修）	A-59	エレベーター詳細図（改修図）		
A-09	R階平面図（撤去図・改修図）	A-33-3	階段室2　展開図（撤去）	A-60	エレベーター詳細図（１）（参考図）		
A-10	南・東立面図(撤去図)	A-33-4	階段室2　展開図（改修）	A-61	エレベーター詳細図（２）（参考図）		
A-11	西・北立面図(撤去図)	A-34	展開図1（改修図）	A-62	エレベーター詳細図（３）（参考図）		
A-12	南・東立面図(改修図)	A-35	展開図2（改修図）	A-63	エレベーター詳細図（４）（参考図）		
A-13	西・北立面図(改修図)	A-35-1	展開図3（改修図）	A-64	エレベーター詳細図（５）（参考図）		
A-14	矩計図(撤去図)	A-36	建具キープラン・建具表1(撤去図)	A-65	エレベーター詳細図（６）（参考図）		
A-15	矩計図(改修図)	A-37	建具表2（撤去図）	A-66	仮設計画図1		
A-16	階段室1　断面詳細図（撤去）	A-38	建具表3（撤去図）	A-67	外構図		
A-17	階段室1　平面詳細図（撤去）	A-39	建具キープラン・建具表（改修図）	A-68	駐車場舗装詳細図		
A-18	階段室1　断面詳細図（改修）	A-40	建具表2（改修図）				
A-19	階段室1　平面詳細図（改修）	A-41	建具表3（改修図）				
A-20	階段室2　断面詳細図（撤去）	A-42	家具キープラン1（改修図）				
A-21	階段室2　平面詳細図（撤去）	A-43	家具キープラン2（改修図）				

株式会社相互一級建築士事務所

国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

図面リスト

A-69	特記仕様書(1)	S-10	構造特記仕様書				
A-70	特記仕様書(2)	S-11	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造配筋基準図(1)				
A-71	特記仕様書(3)	S-12	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造配筋基準図(2)				
A-72	特記仕様書(4)	S-13	鉄骨構造標準図(1)				
A-73	特記仕様書(5)	S-14	鉄骨構造標準図(2)				
A-74	特記仕様書(6)	S-15	ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ柱状図				
A-75	特記仕様書(7)	S-16	基礎・屋根伏図・軸組図				
A-76	木造特記仕様書	S-17	部材リスト表				
A-77	配置・案内図						
A-78	敷地求積図・面積表						
A-79	仕上表・平面図・建具表・伏図						
A-80	立面図・矩計図・壁量計算						
A-81	渡り廊下　断面詳細						
A-82	建具表・展開図・天井伏図						
A-83	既存ｺﾝﾃﾅ撤去図　平面図　外						
A-84	既存ｺﾝﾃﾅ撤去図　立面図　外						

株式会社　グローバル企画設計

国補　古里小学校南校舎長寿命化　　改修工事設計図

仕 様 書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　長野市大字金箱

2．工事種目

	建物名	構　造	階　数	延床面積	建設年	種　別
1	南校舎	鉄筋コンクリート造	3階建て	2,158.8㎡	S48年	長寿命化改修

3．工事内容
・仮設工事　外部足場　内部足場
・防水改修　屋根葺替え　下屋屋根葺替え
・外壁改修　外壁ひび割れ改修
・建具改修　アルミサッシ改修(カバー工法)　鋼製建具改修
・塗装改修　(a)外壁塗装：ひび割れ改修施工の上可とう形改修塗材Ｅ
(b)内壁塗装：木部下地調整ＲＢ種　UC
(c)その他外部塗装：鉄部下地調整ＲＢ種の上ＤＰ
(d)その他内部塗装：巾木　枠塗装ｰ式
・内装改修　床改修　壁木質化改修　断熱改修　天井改修　スクールパーティション改修
・環境配慮改修工事　アスベスト含有建材（レベル３）の除去
・その他改修　エレベーター設置

4．工事範囲
※「2. 工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「2. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て、今回工事範囲とする。

工事項目＼工事種目	1　南校舎			
2　仮設工事	○			
3　防水改修工事	○			
4　外壁改修工事				
コンクリート打放し仕上げ外壁	○			
モルタル塗り仕上げ外壁	○			
タイル張り仕上げ外壁				
仕上塗材仕上げ外壁	○			
5　建具改修工事	○			
6　内装改修工事	○			
7　塗装改修工事	○			
8　耐震改修工事				
9　環境配慮改修工事	○			

Ⅱ　建築改修工事仕様

1．共通仕様
（1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて長野市建設工事共通仕様書による。
（2）（1）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書・同監理指針（建築工事編）（令和７年版）」（以下、「改修標仕」という。）に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和７年版）」（以下「標仕」という。）による。
（3）改修標仕で、「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守［1.1.13］の規定を優先する。
なお、関係法令等を遵守する場合は具体的な対応策について監督職員と協議すること。

2．特記仕様
（1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。
（3）本工事は特記あるものを除き、長野市契約規則及び工事請負契約書の記載事項による。
（4）特記事項に記載の［　　］内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（5）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（6）Ⓖ 印は「国等による環境物品等の調達等の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。なお、特定調達品目か否かの判断基準は監督職員との協議による。
（7）長野市環境方針について
工事の施工に当たり、長野市環境方針(最新版)を考慮の上、設計図書及び改修標仕に基づくとともに、環境に配慮した材料の使用、廃棄物の発生抑制、アイドリングストップや省エネ重機の使用による省エネルギーの推進、低公害工事機材の使用、工事従業者への教育など、施工に当たり細心の注意を払うことにより、工事の環境への影響を極力少なくするよう配慮すること。なお、具体的な計画を、施工計画書に記載し実践するものとする。
また、循環型社会の構築への取り組みとして、リサイクル促進の観点から「長野市溶融スラグ入りコンクリート二次製品利用基準」に基づき、溶融スラグ入りコンクリート二次製品の積極的な利用に努めること。

（8）長野市公契約等基本条例に関する事項
受注者等は、法令を遵守するとともに、次に掲げる取組その他長野市公契約等基本条例第３条の基本理念に基づく必要な取組を行ない、公契約等を適正に履行するよう努めなければならない。
1）長野市公契約等基本条例の内容について、労働者等へ周知するとともに、事務所（作業所）等へポスターを掲示すること。
2）業務の一部を下請負者等に履行させるときは、長野市公契約等基本条例の内容について説明し、各々の対等な立場における合意に基づいて適正に契約を締結すること。
⊙ 長野市公契約等労働環境報告書１部及び施工体系図（共通仕様書に定められたもの）の写し１部を契約後速やかに監督職員へ提出すること。この場合、業務の一部を下請負者等に履行させるときは、下請負者等の労働環境報告書を取りまとめて提出すること。
（9）本工事における必要な諸手続等は、原則として受注者において行うこと。
（10）工事の着手前に工事概要等を近隣住民等に周知するなど、理解協力を求めること。
また、工事車両の通行による道路の損傷には十分留意し、損傷が発生した場合は、道路管理者と協議の上、受注者の責任において速やかに修復すること。
（11）工事区域外に土砂等を散乱することがないように注意すること。また、道路を汚した場合は速やかに清掃すること。
（12）作業時間、作業日、騒音振動等については、近隣住民に配慮し、関係法令を遵守することとし、事前に監督職員と協議の上、工事内容、施工条件等考慮して決めること。特に建設業法、建設リサイクル法に留意すること。
（13）施設用途を充分に理解し、転倒防止、落下防止、衝突防止、足掛かり、指詰め防止、面取り等に配慮し、図示なくとも施工段階で考慮し安全性の高い施設になるよう努めること。
（14）諸材料については、必要に応じ見本品または現品を提出し、監督職員の承諾を受けて使用すること。
ただし、JIS規格合格品等で監督職員がそれを確認できた場合はこの限りでない。
（15）施工上必要ある個所は、監督職員の指示により適切なる材料をもって養生を施し、急硬急乾凍結破損の防止をすること。
（16）工事の施工に当たり、建築、電気設備、機械設備等の取合いを十分に検討すること。
（17）施工期間中の降雨等の排水については、任意仮設により水処理を行うこと。
（18）工事の施工に当たり、必要最小限の樹木の枝打ち伐採は工事に含む（監督職員と協議、承諾の上実施すること）。
（19）工事完了後検査不可能個所の施工にあたっては、必要に応じ監督職員の立会いの下、施工すること。
（20）工事完了後は速やかに工事現場内外の清掃、後片付け及び損傷個所の復旧補修をし、監督職員の確認を受けること。
（21）上記各事項に要する諸経費は、全て受注者において負担する。
ただし、現寸・製品検査の市係員の出張旅費は、市負担とする。
（22）工事しゅん工引渡し後特記あるものを除き、工事の施工に起因した不具合が生じた場合は、木造建物及び工作物１年間（受注者の故意または重大な過失による場合、５年間）、木造以外の建物及び工作物２年間（同、10年間）以内に、期日を定め補修工事をし、市建築課係員の検査を受けること。
（23）暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置について
1）長野市が発注する建設工事(以下「発注工事」という。)において、暴力団員等による不当要求又は工事妨害(以下「不当介入」という。)を受けた場合は、断固としてこれを拒否すること。また、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うこと。
2）上記により警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を記載した書面により発注者に報告すること。
3）発注工事において、暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。
（24）過去の工事における瑕疵等を発見した場合は速やかに監督職員に報告すること。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	① 適用基準等	⊙建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修　令和４年版） ⊙工事写真撮影ガイドブック（建築工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和５年版） ・建築物解体工事共通仕様書(令和４年版)同解説・令和５年版（国土交通省官房官庁営繕部監修）
	② 熱中症対策に資する現場管理費補正(試行)	本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して現場管理費の補正を試行的に実施する対象工事である。熱中症リスク軽減対策として、遮光ネット(足場に設置するものに限る)等の設置を予定し現場管理費の補正を求める場合は、受発注者間で必要な設置期間を協議し、設計変更により対応する。 受注者は、事前（施工計画書等）に「熱中症リスク軽減に対する具体的対策内容」を記載し、竣工時に熱中症対策に資する現場管理の実績報告書を提出するものとする。
	②-2 猛暑を考慮した工期設定	猛暑による作業不能日数（ＷＢＧＴ値31以上の過去５年分の平均）を５日と設定し、発注の当初工期に加算しています。工期中に発生した猛暑による作業不能日数が著しく増加した場合は、受発注者協議により必要に応じて契約変更で対応するものとします。
	③ 工事実績情報の登録	※ 適用する（工事カルテ：請負金額500万以上）　・適用しない　［1.1.4］
	④ 火災保険等	工事目的物及び工事用材料（支給材料を含む）について、次により保険を付す。 保険の種類　・火災保険　※ 建設工事保険（⊙ 水災害特約を含む ） 保険期間　工事着手から工事目的物引渡し日まで
	⑤ 書類の書式等	※長野市公共建築工事関係提出書類様式（令和４年度改定）による。
	⑥ 品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。　(1.2.2) ※ 風速（Vo=30m/s） ※ 地表面粗度区分（　・Ⅰ　・Ⅱ　※Ⅲ　・Ⅳ ） ・ 積雪区分　建告示第 1455 号　別表（　・第25号　・第26号　）
	⑦ 電気保安技術者	⊙適用する　・適用しない　［1.3.3］
	⑧ 条件明示項目	部分引渡し　⊙無　・有　範囲（　　）　［1.3.5］ 引渡し時期：令和　年　月 部分使用　⊙無　・有　範囲（　　） 使用開始時期：令和　年　月 イメージアップ　・行う（　　）
	⑨ 週休２日工事	本工事は、発注者指定型の週休２日工事の対象工事である。実施にあたっては、長野市週休２日工事実施要領により行う。 ※ 月単位の週休２日工事 本工事は、月単位の週休２日工事である。当初予定価格において、４週８休以上の達成を前提とした経費補正を行っている。そのため、現場の閉所実績を確認し、月単位での４週８休未満の場合は、実施要領に定めるところにより減額変更を行う。 ⊙ 通期の週休２日工事 本工事は、通期の週休２日工事である。当初予定価格において４週８休以上の達成を前提とした経費補正を行っている。そのため、４週８休未満の場合は、実施要領に定めるところにより減額変更を行う。

⑩ 発生材の処理等	※構外搬出適切処理　［1.3.12］
⑪ 環境配慮	揮発性有機化合物を放散させる建築材料等　［1.4.1］ 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の 1）から 5）を満たすものとする。 1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 2）保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 3）接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを 放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 5）1）、3）及び 4）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
⑫ 材料の品質等	建築材料等　［1.4.2］ 本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし、製造業者等が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。 材料・機材等の製造業者は、次の（1）から（6）すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。 （1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 （2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 （3）安定的な供給が可能であること。 （4）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 （5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 （6）販売、保守等の営業体制が整えられていること。 ※製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁 平成18年2月15日）に準拠した証明書等を、監督職員に提出する。
⑬ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
⑭ 石綿含有建材の調査	アスベスト含有建材の撤去に当たり、石綿障害予防規則第3条の規定に基づきあらかじめ事前調査を次の事項について行うこと。調査は、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」及び「建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する指針に基づく石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル」を参考に行うこと（書面調査及び現地調査）。 調査範囲　※ 改修対象の全ての建材　・ 図示　［1.5.1］ 調査事項 (a)アスベスト含有建材等の使用部位 (b)アスベスト含有建材等の種類、厚さ、使用数量 (c)アスベスト含有建材等使用数量の確認 (d)施工範囲等の確認 (e)廃棄物などの搬出方法 既存の石綿含有建材の調査報告書　（貸与　※ 有　・ 無　） 名称：古里小学校南校舎被服室外アスベスト含有調査結果報告書　（令和6年　7月） 名称：古里小学校南校舎3ﾌｧ室外アスベスト含有調査結果報告書　（令和6年　8月） 調査結果 調査の結果を確認表及び図面等に記録し、監督職員に提出する。 調査結果、設計図書等と異なる場合は監督職員と協議する。 都道府県等への報告 ⊙ 行う　石綿に関する事前調査結果を石綿事前調査結果報告システムにより報告する。 ・ 行わない 分析による石綿含有の調査　※ 行う　⊙ 行わない

材料名（箇所）	調査方法（１材料あたりの試料数：3サンプル）
	※ 定性分析　・定量分析
	※ 定性分析　・定量分析

採取箇所　※ 図示　・
分析対象　※ アスベスト ６種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト）
分析方法　※ JIS A 1481-1～4　及び同等以上の精度を有する方法とする。
留意事項
施工調査は、建築物石綿含有建材調査者が行うこと。
発注者から提供された石綿に係る分析調査結果を活用する場合には、調査の時期や方法、対象とした石綿の種類、調査範囲等について確認すること（特定建築材料における石綿含有の考え方について、平成18年9月5日付環境省水・大気環境局大気環境課長通知（環水大大発第060905003号）以前の調査においては、石綿1重量%を超えない建築材料について「石綿なし」とされている可能性があること、また、平成20年2月15日付環境省水・大気環境局大気環境課長通知（環水大大発第080215002号）以前の調査においては、クリソタイル、アモサイト及びクロシドライト以外の石綿（アンソフィライト、トレモライト及びアクチノライト）が使用されている可能性があるがこれらの分析が行われていないおそれがあること）。
施工調査にあたっては、内装等の内側など外側からの目視のみでは確認できない部分にもアスベスト含有建材がある場合があることに注意すること。

⑮ 施工数量調査	調査範囲　（ 外壁　）　［1.6.2］ 調査方法　（ 目視、浮部は打診　） 既存部分の破壊を行った場合の補修方法　※ 図示　［1.6.3］
⑯ 埋設配管・配線調査	※ 既存資料調査 ・ 放射線透過試験 労働安全衛生法、「電離放射線障害防止規制」（昭和47年労働省令第41号）等に定めるところによるほか、次による。 （1）作業主任者は、エックス線作業主任者の資格を有するものとし、資格を証明するものとし、資格を証明する資料を監督職員に提出する。 （2）放射線照射量は最小限のものとし、照射中は人体に影響のない程度まで照射器より離れる。また、作業者以外の立入禁止措置を講ずる。 （3）露出時間は、コンクリートの厚さ等により、適宜調整する。 （4）付近にフィルム、磁気ディスク等放射線の影響を受けるものの有無を確認する。 （5）躯体の墨出しは、表裏でズレがないように措置を講ずる。

⑰ 技能士	［1.7.2］	

適用工事種別	技　能　検　定　作　業
防水改修工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　⊙ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業　・セメント系防水工事作業 ⊙シーリング防水工事作業　・ＦＲＰ防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・左官作業　⊙内外装板金作業
外壁改修工事	⊙左官作業　・タイル張り作業　⊙建築塗装作業
建具改修工事	⊙ビル用サッシ施工作業　⊙ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業
内装改修工事	⊙プラスチック系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上作業 ⊙ボード仕上げ工事作業　⊙鋼製下地工事作業 ⊙壁装作業　⊙大工工事作業　⊙タイル張り作業
塗装改修工事	⊙建築塗装作業
耐震改修工事	・鉄骨組立作業　・型枠工事作業　・とび作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ 押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	・コンクリートブロック工事作業 ⊙エーエルシーパネル工事作業
石工事	・石張り作業
植栽工事	・造園工事作業

⑱ 見本施工の実施	・実施する　⊙実施しない　［1.7.5］
⑲ 化学物質の濃度測定	［1.7.9］ 設計書の仕様のみならず、ＶＯＣ等濃度を下げる施工方法を提案し、かつ、しゅん工前に「厚生労働省が定める室内濃度に関する指針値」によるＶＯＣ測定（対象物：ホルムアルデヒト、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン）を行い、指針値以下であることを確認する。また、測定により指針値を超えた場合、監督員との協議により必要な措置（強制換気等による対象物質の放散法、ＶＯＣ等の吸収、分解法他、工期の延期及び再検査等）を講ずるものとする。 測定結果について、測定時の室温を記載した報告書を監督職員に提出すること。 測定はアクティブ方式にて行う。 着工前の測定　⊙ 行わない　・ 行う 測定対象室　※ 図示 測定箇所数　※ 図示
⑳ 技術検査	中間技術検査　・行わない　［1.8.2］ ※行う（長野市建設工事中間検査実施要領第３（契約金額5000万以上）） ※行う（長野市合同検査実施要領第４（条件付一般競争入札対象工事））
㉑ 完成図等	完成図　［1.9.1～3］［表 1.9.1］ ※ 作成する

様式等	作成方法	部数	備考
建築主体原図	CADデータ	1	
総合版製本	見開きＡ1製本		
	見開きＡ3製本	4	

※　製本については、白焼きとし、背表紙に年度と工事名、表紙に年度、工事名、設計者名、工事監理者名、施工者名、工期しゅん工日を印刷する。
※　電気設備工事、機械設備工事等が別途発注されている場合は総合版で提出すること。
※　CADデータの提出は、CDに.jww形式（SXF対応拡張線色・線種）のものを１部提出する。

保全に関する資料
※ 作成する　提出部数２部
なお、「建築物等の利用に関する説明書」は、建築物等の利用に関する説明書作成の手引き（国土交通省大臣官房官庁営繕部計画課保全指導室）を参考に、保全に関する事項について作成すること。

㉒ 電子納品に関する事項（試行）	※適用する　⊙適用しない(国庫補助事業による工事)
㉓ 情報共有システム	本工事は、情報共有システムを利用できる工事である。利用にあたっては、長野市情報共有システム実施要領により行う。 利用するシステムは「長野市情報共有システム機能仕様書」を満たすものから受注者が選択し、事前に監督員の承諾を受けるものとする。 情報共有システム利用に要する費用（登録料及び利用料）は、共通仮設費の積み上げによる算定とし、設計変更により対応する。
㉔ 完成写真	⊙作成する　・作成しない 下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ（㎜）
※カラー　※ 2L判 ・ ｷｬﾋﾞﾈ判	外部（4）　内部（28）	※ 1	※ 100×125 以上
・カラー半切木製パネル 324×400（㎜）	外部（　）内部（　）	※ 2	・
※電子データ（ﾌﾙｻｲｽﾞ＋ｻﾑﾈｲﾙ）	外部（　）内部（　）	※ 1	※ 428 万画素以上 ※ 350 dpi以上

電子データは、RGB 各 8 ビット（フルカラー）、JPEG 形式最高画質としCD-Rにて提出する。
撮影業者は監督職員の承諾する撮影業者（建築完成写真撮影の実績のある業者）とする。

㉕ 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
㉖ 設計ＧＬ	※ 図示　⊙ 設計ＧＬ= 現状ＧＬ
㉗ 工事写真	・「営繕工事電子納品要領（令和３年改定）」による ・ 着工前状況及び完成後の工事写真について電子データで１部提出すること。
28　工事数量総括表	・有り　・なし

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　NO　SCALE	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. 特-01
	設計年月日　R7. 2. 28	図面名称　特記仕様書（1）	

2 仮設工事

① 足場その他

足場を設ける場合、「改修標仕」2.2.1 (2) によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の (2) 手すり据置方式又は (3) 手すり先行専用足場方式により行うこと。 [2.2.1]

内部足場 [2.2.1]

種別 ※ きゃたつ、足場板等 ・ローリングタワー ・ [2.2.1]

外部足場 ・ 設置する ・ 設置しない

種別 ※ 枠組足場又はくさび緊結式足場 ・ 単管本足場 ・ 仮設ゴンドラ

・ 移動式足場

範囲 ※ 工事に必要な範囲

防護シートによる養生 ※ 行う ・ 行わない

材料、撤去材等の運搬 [2.2.1][表 2.2.1]

・ A 種 ※ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ E 種

② 養生

既存部分の養生 ※ ビニルシート等 ・ [2.3.1]

既存家具等の養生 ※ ビニルシート等 ・

既存ブラインド、カーテン等の養生 ※ ビニルシート等（保管場所 ） ・

固定家具等の移動 ※ 行わない ・ 行う（図示）

3 仮設開仕切 仮設開仕切り等の種別 [2.3.2][表 2.3.1]

種 別	下 地	仕上材（厚さ mm）	塗 装	
・ A 種	※ 軽量鉄骨	・ 合板（※ 9.0 ・ ）	※ 無し	
※ B 種	・ 木下地	※ せっこうボード（※ 9.5 ・ ）	・ 片面	
・ C 種	単管下地	防炎シート		
仮設扉	※ 木製扉	※ 合板張り程度 ・	※ 無し	
	・ 鋼製扉	※ 片面フラッシュ程度 ・	・ 有り	

充てん材 ・グラスウール 32K（厚：50mm以上） ・

④ 監督職員事務所

・ 既存建物内の一部を使用する ・ 構内に設置する [2.4.1]

※ 設けない

⑤ 快適トイレ

本工事は、現場に以下の仕様を満たす快適トイレを設置する対象工事である。

当初予定価格において（１）～（11）の仕様を満たす男女別で１台ずつ計２台設置を前提とした経費補正を行っている。なお、調達が困難で未設置の場合には減額変更を行う。

【快適トイレに求める機能】

（１）洋式便器

（２）水洗又は簡易水洗機能（し尿処理装置付き含む）

（３）臭い逆流防止機能

（４）容易に開かない施錠機能

（５）照明設備

（６）衣類掛け等のフック、又は荷物の置ける棚等（耐荷重５kg以上とする）

【付属品として備えるもの】

（７）現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示

（８）入口の目隠しの設置（男女別トイレ間も含め入口が直接見えない配置等）

（９）サニタリーボックス（女性用トイレに必ず設置）

（10）鏡と手洗器

（11）便座除菌クリーナー等の衛生用品

設置する快適トイレは関連工事等の関係者に無償で使用させること。

⑥ 工事用水 構内既存の施設 ・利用できない ※利用できる（※ 有償 ・ 無償）

⑦ 工事用電力 構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※ 有償 ・ 無償）

⑧ 交通誘導員 ※配置する （延べ 220 人） ・配置しない

・ 設計変更の対象とする（指定仮設）

3 防水改修工事

① 降雨等に対する養生方法 ※ 改修標仕3.1.3 (5) による。 ・ [3.1.3]

② 改修用ドレン ※ 設ける（POAS、POAS Ⅰ、POD、POD Ⅰ、POS、POS Ⅰ、POX工法の場合） [3.2.5(3)]

（主防水材製造所の仕様による）

・ 設けない

③ 既存下地の補修及び処置 補修箇所の形状、長さ、数量等 （※図示 ・ ） [3.2.6]

POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした

立上り部等の補修及び処置 [3.2.6(4)(ｳ)]

※ 改修標仕 3.2.6(4)(ｳ)(g)①～③による。

架台回り等の欠損部及び防水層末端部の納まり部 （※図示 ・ ）[3.2.6(6)]

④ 既存防水層表面の仕上げ塗装

既存露出防水層表面仕上塗装の除去（M4AS、M4ASI、M4C、M4DI工法） [3.2.6(3)(ｲ)]

・ 除去する

⊙ 除去しない

既存塗膜防水層の表面仕上塗装の除去（L4X工法） [3.2.6(3)(ｶ)]

・ 除去する

⊙ 除去しない

5 アスファルト防水 [3.3.2、3][表 3.1.1][表 3.3.3～10]

防水改修工法の種類		施工箇所	新規防水層の種別
保護防水	・ P１B		・B-1 ※ B-2
	・ P１BⅠ		・BI-1 ※ BI-2
	・ P２AⅠ		・AI-1 ※ AI-2 ・AI-3
	・ P２A		・A-1 ※ A-2 ・A-3
	・ M４C		・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4
露出防水	・ M３D ・P０D		・D-1 ※D-2
	・ P０DⅠ ・M３DⅠ ・ M４DⅠ		・D-1I ※D-I2
屋内防水	・ P１E ・P２E		・E-1 ※E-2 （保護層は図示による）

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2]

※ 改修標仕 表3.3.3から表3.3.9による ・図示

部分結着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2]

※ 改修標仕 表3.3.3から表3.3.9による ・図示

押え金物の材質及び形状寸法 [3.3.2]

材質 ※アルミニウム ・図示

形状 ※L-30×15×2.0 ・図示

M３D、P０D、P０DⅠ、M３DⅠ、M４DⅠ工法の脱気装置 [3.3.3]

※ 設けない ・ 設ける（アスファルトルーフィング類製造所の指定による）

断熱工法の断熱材 （ ノンフロンのもの Ⓖ ） [3.3.2]

屋根保護防水断熱工法の断熱材の材質及び厚さ

材質 ※押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材３種ｂA（ｽｷﾝ層付き）（JIS A 9521）

厚さ(mm) ・30 ・50 ・100

屋根露出防水断熱工法の断熱材の材質及び厚さ

材質 ※発泡プラスチック断熱材（JIS A 9521）

硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材２種１号又は２号の場合は、透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの。

厚さ(mm) ・30 ・50 ・100

絶縁用シート

屋根保護防水密着工法または根保護防水絶縁工法の絶縁用シート

材質・厚さ(mm) ・ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上 ・図示

・フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ・図示

屋根保護防水密着断熱工法または屋根保護防水絶縁断熱工法の絶縁用シート

材質・厚さ(mm) ※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ・図示

保護コンクリート

設計基準強度 ※18N/mm² ・ N/mm²

スランプ ※15cm ・18cm

立上り部の保護工法 [3.3.2]

・ 乾式保護材 乾式保護材の材料 ・

・ コンクリート押え

・ モルタル押え（屋内等）

・ れんが押え（・図示 ・ ）

れんがの材料 ・JIS R 1250（普通れんが及び化粧れんが） ・

屋根露出防水絶縁断熱工法におけるルーフドレン回り及び立上り部周辺の [3.3.4(4)(ｲ)(g)]

断熱材の張りじまい位置

※図示 ・

平場の保護コンクリートの厚さ [3.3.5(4)]

こて仕上げの場合 ※80mm以上 ・

床面の仕上りの平たん さ ※ａ種 ・ｂ種 ・ｃ種 [表8.1.5]

床タイル張り等の場合 ※60mm以上 ・

保護層等の屋上排水溝

・ モルタル金こて仕上げ ※ 図示 [3.3.5(7)]

6 改質アスファルトシート防水 [3.4.2][表 3.1.1][3.4.3][表 3.4.1～3]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	厚さ(mm)
・ M４AS工法		・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2	
・ M３AS工法		・AS-T3 ・AS-T4	
・ P０AS工法		・AS-J1 ・AS-J3	
・ M３ASⅠ工法 ・ M４ASⅠ工法 ・ P０ASⅠ工法		・ASⅠ-T1 ・ASⅠ-J1	

改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2]

※改修標仕 表3.4.1から表3.4.3による ・図示

粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2]

※改修標仕 表3.4.1から表3.4.3による ・図示

押え金物の材質及び形状寸法 [3.4.2]

材質 ※アルミニウム ・図示

形状 ※L-30×15×2.0 ・図示

屋根露出防水断熱工法の断熱材 （ ノンフロンのもの Ⓖ ） [3.4.2]

材質 ※発泡プラスチック断熱材（JIS A 9521）

硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材２種１号又は２号の場合は、透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの。

厚さ(mm) ・30 ・50 ・100

M３AS、P０AS、M３ASⅠ、M４ASⅠ、P０ASⅠ工法の脱気装置 [3.4.3]

※ 設けない ・ 設ける（改質アスファルトシート製造所の指定による）

M３ASⅠ、M４ASⅠ、P０ASⅠ工法における防湿層の設置 [表3.4.3(注)]

※ 設ける ・ 設けない

7 合成高分子系ルーフィングシート防水 [3.5.2][表 3.1.1][3.5.3][表 3.5.1,2]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	仕上げ塗料等	使用分類
・ P０S工法		・S-F1 ・S-F2	ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ系	※非歩行
・ P０SⅠ工法		・S-M1 ・S-M2	・シルバー	・軽歩行
・ S４S工法		・SI-F1 ・SI-F2		
・ S４SⅠ工法		・SI-M1 ・SI-M2		
・ S３S工法		・S-F1 ・S-F2		
・ S３SⅠ工法		・SI-F1 ・SI-F2		
・ M４S工法		・S-M1 ・S-M2		
・ M４SⅠ工法				
・ P１S工法		・S-C1	・カラー	

既存防水層（立上り部等）の撤去 [3.1.4]

（POS（機械）、POSI（機械）、MAS、M4SI、S4S（機械）、S4SI（機械）の場合）

※ 除去する（ルーフィング類製造所の仕様による）

・ 除去しない

ルーフィングシート(JIS A 6008)の種類及び厚さ [3.5.2]

※改修標仕 表3.5.1から表3.5.2による ・図示

絶縁用シート [3.5.2]

材質 ※発泡ポリエチレンシート ・図示

固定金具の材質及び寸法形状 [3.5.2]

材質 ※ステンレス鋼板 ・防錆処理した鋼板 ・図示

厚さ(mm) ※0.4 ・

断熱工法の断熱材 （ノンフロンのもの Ⓖ ） [3.5.2]

機械式固定工法の断熱材の材質及び厚さ

材質 ※発泡プラスチック断熱材（JIS A 9521）

硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材２種１号又は２号の場合は、透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるものとし、ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材は適用しない。

厚さ(mm) ・30 ・50 ・100

接着工法の断熱材の材質及び厚さ

材質 ※発泡プラスチック断熱材（JIS A 9521）

硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材２種１号又は２号の場合は、透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるものとし、ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材の場合は、密度及び熱伝導率が、JIS A 9521の規格に準ずるものとする。

厚さ(mm) ・30 ・50 ・100

脱気装置の種類 [3.5.3]

※ 設けない ・ 設ける（ルーフィングシート製造所の指定による）

仕上塗料の種類、使用量 （種類 ・ 使用量 kg/m²） [表3.5.1～2]

※ 設けない ・ 設ける（ルーフィングシート製造所の指定による）

屋内保護密着工法（S-C１）の場合のモルタル塗り厚さ [表3.5.3]

※（ ）mm

プレキャストコンクリート下地の目地処理 [3.5.4]

※図示 ・

プレキャストコンクリート下地の入隅部の増張り（S-F1、SI-F1の場合） [3.5.4]

※図示 ・

一般部のルーフィングシートの張付け（機械式固定工法の場合）

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※適用する

・適用しない

立上り部の保護モルタル 塗厚 ※7mm以下 ・

⑧ 塗膜防水 [表 3.1.1][3.6.3][表 3.6.1～2]

防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	仕上げ塗料塗り
・ P０X工法	ベランダ	・ X-1 ・ X-1H	シリコン系
⊙ L４X工法		⊙ X-2 ・ X-2H	・シルバー ⊙ カラー
・ P１Y工法		※ Y-2 ・	
・ P２Y工法			

既存防水層（立上り部等）の撤去 [3.1.4]

※ 除去する（ルーフィング類製造所の仕様による）

・ 除去しない

脱気装置の種類 [3.6.3]

※ 設けない ・ 設ける（主材料製造所の指定による）

保護層の仕様 [表3.6.3]

※ 図示

⑨ シーリング

シーリング改修工法の種類 [3.7.4～7][表 3.7.1]

・ シーリング充填工法 ⊙ シーリング再充填工法

・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ ブリッジ工法

シーリング材の種類、施工箇所 [3.7.2][表 3.7.1]

※ 下表以外は、改修標仕表 3.7.1 を標準とする

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
打継目地、ひび割れ誘発目地	PS-2（仕上塗装無し） PU-2（仕上塗装有）
鋼製建具廻り	MS-2

仕上げを行わない施工箇所（ ）

シーリング材の目地寸法 [3.7.3]

※標仕9.7.3(1)による ・

接着性試験 [3.7.8]

※行う（※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験） ・行わない

⑩ とい

といの材種 [3.8.2][表 3.8.1]

・ 配管用鋼管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管

・ 建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管(RF-VP) Ⓖ

・ 表面処理鋼板 ・ ステンレス鋼板 ⊙アルミ既製品

とい受金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔 [3.8.2][表 3.8.2]

※ 改修標仕 表3.8.2による ・図示

※ 多雪地域（軒どいの取付間隔は0.5m以下）

降雨の場合の養生 [3.8.3]

・

鋼管製といの防露 [3.8.2][表 3.8.4]

・ 次の箇所は行わない（ ）

ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒドの放散量

※ 規制対象外 ・ 第三種

掃除口 ※ 有り ・ 無し

たてどい受け金物の取付け [3.8.3]

※ 図示 ・ 標仕 13.5.3 (d) (2) による

⑪ アルミニウム製笠木 [3.9.2][表 3.9.1]

種 類	呼称肉厚(mm)	表面処理	固定間隔	備 考
⊙ 250形	1.6以上	※ AB-1 又は BB-1 種	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	付属部品の材料及びコーナー部・突当り部等の役物は、笠木本体の製造所の仕様による。
・ 300形	1.8以上	・ BB-2 種 （ ）		
・ 350形	2.0以上			
・ 100形				

板材折曲げ形の笠木本体幅及び板厚 ※ 図示 ・ [3.9.3]

工法

既存笠木等の撤去 ⊙ 行う （範囲 ※ 図示 ・ ）

下地補修の工法 ※ 図示

板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※ 図示

建築基準法に基づく風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する

・適用しない

⑫ 折板葺 (13.3.3)(表 13.2.1)

形 式	※ 重ね形 ・ はぜ締め形 ⊙ かん合形
形状(mm)	山高（ 100 ） 山ピッチ（ 500 ） 板厚 ・ 0.6 ⊙ 0.8
材 料（規格等）	※ 塗装溶融 55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(CGLCCR-20-AZ 150) ・
軒先面戸板	※ 有り ・ 無し
断 熱 材	※ 有り（種別：フネンエース 厚さ： 4 mm） ・ 無し
	防火性能 ※ 30 分耐火 ・ 無し

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

⊙図示による ・

耐雪性能に応じた性能

・適用する（・図示 ・ ） ⊙適用しない

折板けらば納め ※けらば包みによる方法 ・

⑬ 保証書

保証書

※ 受注者及び施工業者連名で、保証書を提出すること。

保証期間 10年

4 外壁改修工事

① 施工数量調査

調査範囲 ※ 外壁改修範囲 ・図示の範囲 [1.6.2]

調査内容

ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。

モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 浮き部分の調査は打診調査とする。

コンクリート表面のはがれ及びひく落部を壁面に表示する。

塗り仕上げについては、コンクリート、モルタル、仕上げ塗材表面のはがれ及びひく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。

調査報告書の部数 ※ ２部

② コンクリート打放し仕上げ外壁の改修

材料 [4.2.4]

Ｕカットシール材充填工法

⊙ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング

・ 可とう性エポキシ樹脂

・ ポリマーセメントモルタル

シール工法

・ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂

充填工法

⊙ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル

※ 樹脂注入工法 [4.2.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	備 考
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※ 200～300	※	
		・	・	
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	※ 50～100	※ 40 ・	
	0.3以上～0.5 未満	※ 100～200	※ 70 ・	
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0 以下	※ 150～250	※ 130 ・	
		・	・	

注入材料

※ 建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024） ・低粘度形 ・中粘度形

・

コア抜取りによる確認 ※ 行わない

・ 行う（抜取り部の補修方法： ）

※ Ｕカットシール材充填工法 [4.2.6]

充填材料	品質・規格等	備 考
⊙ シーリング材	※1成分形又は２成分形ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・ 行う
・ 可とう性エポキシ樹脂		

※ シール工法 （ひび割れ幅 0.2mm未満） [4.2.7]

・ パテ状エポキシ樹脂

・ 可とう性エポキシ樹脂

※ 充填工法 [4.2.8]

・ エポキシ樹脂モルタル

⊙ ポリマーセメントモルタル

③ モルタル塗り仕上げ外壁の改修

既存モルタル塗りの撤去 [4.3.2][4.3.3][4.3.3]

・ 行う（※ 全面 ・ 図示の範囲）

材料 [4.3.5]

Ｕカットシール材充填工法

⊙ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング

・ 可とう性エポキシ樹脂

・ ポリマーセメントモルタル

シール工法

・ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂

充填工法

⊙ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル

モルタル塗替え工法

モルタル（ ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料）

既製目地材 ・ 適用する（形状 ※ 図示 ・ ）

アンカーピンニング注入工法

※ エポキシ樹脂

・ ポリマーセメントスラリー

アンカーピンの材質

※ ステンレス SUS 304、呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの

・

注入口付アンカーピンニング注入工法

※ エポキシ樹脂

・ ポリマーセメントスラリー

注入口付アンカーピンの材質

※ ステンレス SUS 304、呼び径外径 6mm

・

※ 樹脂注入工法 [4.3.6]

注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	備 考
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※ 200～300	※	
		・	・	
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	※ 50～100	※ 40 ・	
	0.3以上～0.5 未満	※ 100～200	※ 70 ・	
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0 以下	※ 150～250	※ 130 ・	
		・	・	

注入材料

※ 建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024） ・低粘度形 ⊙中粘度形

・

コア抜取りによる確認 ※ 行わない

・ 行う（抜取り部の補修方法： ）

※ Ｕカットシール材充填工法 [4.3.7]

充填材料	品質・規格等	備 考
⊙ シーリング材	※1成分形又は２成分形ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・ 行う
・ 可とう性エポキシ樹脂		

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765

一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号

一級建築士登録 第293036号 相野 徹

縮 尺 NO SCALE

設計年月日 R7.2.28

工事名 国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

図面名称 特記仕様書 (2)

No. 特-02

※ シール工法 （ひび割れ幅 0.2㎜未満） [4.3.8]
・ パテ状エポキシ樹脂
・ 可とう性エポキシ樹脂
⊙ 充填工法（モルタル撤去部 0.25㎡／1ヵ所 以下の場合） [4.3.9]
・ エポキシ樹脂モルタル
⊙ ポリマーセメントモルタル
・ モルタル塗替え工法 [4.3.10]
塗厚 ※ 図示
塗厚 25㎜ を超える場合の補強 ※ 行う ・行わない ・図示

⊙ アンカーピンニング注入工法 [4.3.11～16]

改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数（本／㎡）		注入口の箇所数（箇／㎡）		充填量注入量
	一般部	指定部	一般部	指定部	
⊙アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※ 16 ・	※ 25 ・	―	―	※ 25ml ・
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※ 13 ・	※ 20 ・	※ 12 ・	※ 20 ・	※ 25ml ・
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※ 13 ・	※ 20 ・	※ 12 ・	※ 20 ・	※ 50ml ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	―	―	※ 25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 50ml ・

④ タイル張り仕上げ外壁の改修

既存タイル張りの撤去 [4.4.2～4.4.4]
・ 外壁タイル張り全面 ⊙ 図示の範囲
撤去範囲 ※ 下地モルタルまで ・ 張付けモルタルまで ・ タイルのみ

材料 [4.4.5]
アンカーピンニング注入工法
※ エポキシ樹脂
・ ポリマーセメントスラリー
アンカーピンの材質
※ ステンレス SUS 304、呼び径 4㎜ の丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピンニング注入工法
※ エポキシ樹脂
・ ポリマーセメントスラリー
注入口付アンカーピンの材質
※ ステンレス SUS 304、呼び径外径 6㎜
・
タイル張替え工法及びタイル部分張替え工法
タイル部分張替え工法用張付け材料
※ ポリマーセメントモルタル
・ 外装タイル接着剤張りの接着剤（目地詰め ※ 行う ・ 行わない）
タイルの種類

主な用途の施工箇所	形状寸法（㎜）	吸水率の区分			うわぐすり		役物		色		再生材の適用	耐凍害性		備考
		Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施釉	無釉	あり	なし	標準	特注	G	あり	なし	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする。

シーリング材
打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ・
伸縮調整目地、その他の目地 ※ 変性シリコーン系 ・

※ 樹脂注入工法 [4.4.6]

注入工法の種類	ひび割れ幅（㎜）	注入口間隔（㎜）	注入量（mL/m）	備 考
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※ 200～300 ・	※ ・	
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	※ 50～100 ・	※ 40 ・	
	0.3以上～0.5 未満	※ 100～200 ・	※ 70 ・	
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0 以下	※ 150～250 ・	※ 130 ・	

注入材料
※ 建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024） ・低粘度形 ・中粘度形
・
コア抜取りによる確認 ※ 行わない
・ 行う（抜取り部の補修方法： ）

※ タイル部分張替え工法 [4.4.7]
※ 張替え面積が0.25㎡を超える場合は、タイル張替え工法による

※ タイル張替え工法
伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地 [4.4.8]
位置 ※ 改修標仕 表4.4.2による ・ 図示

・ タイルの見本焼及び試験張り [4.4.8]
見本焼 ・ 行う ※ 行わない
試験張り ・ 行う ※ 行わない

・ セメントモルタルによるタイル張り
下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法 [4.4.8]
・ 目荒し工法（改修標仕4.3.10(3)(ｳ)による）
・
下地モルタルの接着力試験（ ・ 行う ・ 行わない） [4.4.8]
壁タイル張りの工法 [4.4.8][表4.4.5]
内外装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り
内外装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り

有機系接着剤によるタイル張り [4.4.8]
下地調整材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理方法 [4.4.8]
・ 目荒し工法（改修標仕4.3.10(3)(ｳ)による）
下地調整材塗りの接着力試験（ ・ 行う ・ 行わない） [4.4.8]
壁タイル張りの工法 [4.4.8]
外装タイル ※ 外装タイル接着剤張り
ユニットタイル ※ 外装タイル接着剤張り
目地詰め（ ※ 行う ・ 行わない） [4.4.8]

・ アンカーピンニング注入工法 [4.4.9～4.4.14]

改修工法の種類（モルタルを撤去しない場合）	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数（本／㎡）		注入口の箇所数（箇／㎡）		充填量注入量
	一般部	指定部	一般部	指定部	
⊙アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※ 16 ・	※ 25 ・	―	―	※ 25ml ・
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※ 13 ・	※ 20 ・	※ 12 ・	※ 20 ・	※ 25ml ・
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※ 13 ・	※ 20 ・	※ 12 ・	※ 20 ・	※ 50ml ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	―	―	※ 25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 25ml ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 9 ・	※ 16 ・	※ 50ml ・

⑤ 仕上塗材仕上げ外壁等の改修

・ 薄付け仕上塗材 [4.5.2][表4.5.1]

呼び名	仕上げの形状	工 法		
・ 外装薄塗材Ｓi	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状	・吹付け		
	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
・ 可とう形外装薄塗材Ｓi	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状	・吹付け		
	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
※ 外装薄塗材Ｅ（見上げ面）	⊙ 砂壁状 ・ ゆず肌状	⊙吹付け	⊙アクリルシリコン	
	・ 平たん状 ・ 凹凸状	・こて塗り		
	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
	・ 着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り		
・ 可とう形外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状 ・ ゆず肌状	・吹付け		
	・ 平たん状 ・ 凹凸状	・こて塗り		
	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
・ 防水形外装薄塗材Ｅ	・ ゆず肌状 ・ さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り		
	・ 凹凸状	・吹付け		
・ 外装薄塗材Ｓ	・ 砂壁状	・吹付け		

・ 厚付け仕上塗材 [4.5.2][表4.5.1]

呼び名	仕上げの形状	工 法		
・ 外装厚塗材Ｃ	・ 吹放し ・ 凸部処理	・吹付け		
	・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし	・こて塗り		
・ 外装厚塗材Si ・ 外装厚塗材Ｅ	・ 吹放し ・ 凸部処理	・吹付け		
	・ 平たん状 ・ 凹凸状 ・ ひき起こし	・こて塗り ・ﾛｰﾗｰ塗り		

⊙ 複層仕上塗材 [4.5.2][表4.5.1]

呼び名	仕上げの形状	工 法	耐候性	溶媒	外観	上塗材 樹脂
・ 複層塗材ＣＥ ・ 複層塗材ＲＥ ・ 複層塗材Ｓi ・ 複層塗材Ｅ	・ 凸部処理 ・ 凹凸状	・吹付け	⊙ 1種 ・ 2種 ・ 3種	※ 水系 ・ 溶剤系	⊙ つやあり ・ つやなし ・ ﾒﾀﾘｯｸ	・ ｱｸﾘﾙ系 ・ ｼﾘｶ系 ・ ﾎﾞﾘﾏｰ系 ⊙ ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ系 ・ ふっ素系
	・ ゆず肌状	・ﾛｰﾗｰ塗り				
・ 可とう形複層塗材ＣＥ	・ 凸部処理 ・ 凹凸状	・吹付け				
	・ ゆず肌状	・ﾛｰﾗｰ塗り				
・ 防水形複層塗材ＣＥ ・ 防水形複層塗材ＲＥ ※ 防水形複層塗材Ｅ	・ 凸部処理 ・ 凹凸状	・吹付け				
	⊙ ゆず肌状	⊙ﾛｰﾗｰ塗り				

⊙ 可とう形改修用仕上塗材 [4.5.2][表4.5.1][表4.5.2]

呼び名	仕上げの形状	工 法	耐候性	溶媒	外観	上塗材 樹脂
※ 可とう形改修塗材Ｅ ・ 可とう形改修塗材ＲＥ ・ 可とう形改修塗材ＣＥ	・ 平たん状	⊙ﾛｰﾗｰ塗り	⊙ 1種 ・ 2種 ・ 3種	※ 水系 ・ 溶剤系	⊙ つやあり ・ つやなし ・ ﾒﾀﾘｯｸ	・ ｱｸﾘﾙ系 ・ ｼﾘｶ系 ・ ﾎﾞﾘﾏｰ系 ⊙ ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ系 ・ ふっ素系
	・ さざ波状	・ﾛｰﾗｰ塗り				
	⊙ ゆず肌状	・吹付け				

既存塗膜等の除去及び下地処理及び下地調整 [4.5.4][表4.5.4～8]

工 法	処理範囲	下地面の補修
・ サンダー工法	※ 既存仕上面全体 ・（既存塗膜の除去範囲は処理面積の 30 %とする）	4-1又は4-3による
・ 高圧水洗工法 加圧力は試験施工による	※ 既存仕上面全体 ・（既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする）	
・ 塗膜はく離剤工法	※ 既存仕上面全体 ・	
⊙ 水洗い工法	※ 上記処理範囲以外の既存仕上面全体 ・	

下地調整材 [4.5.5]
※ 下地調整塗材（※Ｃ－１ ・Ｃ－２ ・ＣＭ－２ ・ ）
・ ポリマーセメントモルタル
・ 防水形仕上げ塗材主材を使用

マスチック塗材塗り [4.6.2][表4.6.1]
工種 ・Ａ種 ・Ｂ種

5 建具改修工事

① 改修工法の適用 [5.1.3]

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
⊙ アルミニウム製建具		⊙	・	※ 建具表による ・ 図示
⊙ 鋼製建具	・ 外部	・	⊙	※ 建具表による ・ 図示
	⊙ 内部	・	⊙	※ 建具表による ・ 図示
⊙ 鋼製軽量建具		・	・	※ 建具表による ・ 図示
⊙ ステンレス製建具		・	・	※ 建具表による ・ 図示

2 見本の製作等 建具見本製作 ・ 行う（建具符号： ） ※ 行わない [5.1.5]
特殊な建具の仮組 ・ 行う（建具符号： ） ※ 行わない

3 防犯建物部品 ・ 適用する（図示） ・ 適用しない [5.1.7]

④ アルミニウム製建具
外部に面する建具 [5.2.2][表 5.2.1]

種 別	耐風圧性	気圧性	水密性	枠見込み(㎜)	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－４	Ａ－３	Ｗ－４	※ 70 ・	※ 図示
⊙Ｂ種	Ｓ－５				
・Ｃ種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	100	

表面処理 ※ BB-1種 ・ BB-2種（・ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝｶﾗｰ） [5.2.4][表 5.2.2]
水切板、ぜん板等 ※図示による [5.2.5]
結露水の処理方法 ※図示による [5.2.4]
防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級（ ） [5.2.2]
断熱ドアセット、断熱サッシ G ・ 適用する 断熱性の等級（ ）
耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追随性の等級（ ）
屋内建具 [5.2.4][表 5.2.2]
表面処理 ※ BC-1 種又は BB-1 種
・ BC-2 種又は BB-2 種（・ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）

⑤ 網戸 防虫網の材料 [5.2.3]
網の種別 ※ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ 合成樹脂製 ・ ステンレス製（SUS 316）
形 式 ※ 外部可動式 ・ 固定式

6 樹脂製建具
外部に面する建具 [5.3.2][表 5.3.1]

種 別	耐風圧性	気圧性	水密性	枠見込み(㎜)	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－４	Ａ－４	Ｗ－４	※ 70 ・	※ 図示
・Ｂ種	Ｓ－５		Ｗ－５		
・Ｃ種	Ｓ－６				

遮音性能等級 ・Ｔ－１種 ・Ｔ－２種
断熱性能等級 ・Ｈ－４種 ・Ｈ－５種 ・Ｈ－６種 ・Ｈ－７種 ・Ｈ－８種
日射熱取得性等級 ・Ｎ－１種 ・Ｎ－２種 ・Ｎ－３種
表面色 ※ 標準色 ・特注色 [5.3.4]

⑦ 鋼製建具 防火戸の指定 ※ 建具表による [5.1.4]
特定防火設備の戸 ⊙ 適用する [5.4.4]
簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5.4.2][表 5.4.1]
耐風圧性 ・ Ｓ-4 ⊙ Ｓ-5 ・ Ｓ-6 [5.4.2]
防音ドアセット、防音サッシ ・適用する 遮音性の等級（ ） [5.4.2]
断熱ドアセット、断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級（ ） [5.4.2]
耐震ドアセット ・適用する 面内変形追随性の等級（ ） [5.4.2]
片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950㎜ [5.4.4]
又は有効高さが2,400㎜を超える場合の鋼板類の厚さ ※図示
くつずりの仕上 ※ ステンレス鋼板 ＨＬ [5.4.4]

8 鋼製軽量建具 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5.5.2]
防音ドアセット、防音サッシ ・適用する 遮音性の等級（ ） [5.5.2]
断熱ドアセット、断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級（ ） [5.5.2]
耐震ドアセット ・適用する 面内変形追随性の等級（ ） [5.5.2]
片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950㎜ [5.5.4]
又は有効高さが2,400㎜を超える場合の鋼板類の厚さ ※図示

9 ステンレス製建具 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5.6.2]
耐風圧性の適用は建具表による [5.6.3]

施工箇所	鋼材の種類
屋外	※ SUS304又はSUS430JIL
屋内	※ SUS430 ・ SUS304又はSUS430JIL

特定防火設備の戸 ・ 適用あり [表 5.6.1]
表面仕上げ ※ ＨＬ程度 ・ 鏡面仕上げ [5.6.4]
曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ（補強あり） [5.6.5]
くつずりの仕上 ※ ステンレス鋼板 ＨＬ

⑩ 木製建具
建具材の加工、組立時の含水率 ※ Ａ種 ・ Ｂ種 [5.7.2][表5.7.1]
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆ ・ [5.7.2]
枠、くつずりの材料 ・ 建具表による ・ [5.7.2]

⊙フラッシュ戸 [5.7.2][表5.7.2]
表面材の合板の種類

合板の種類	表面材の品質等	備 考
⊙普通合板	接着の程度 ※水掛り箇所１類、その他２類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹１等 ・（ ）	
・天然木化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所１類、その他２類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹１等 ・（ ）	
・特殊加工化粧合板	接着の程度 ※水掛り箇所１類、その他２類以上 ・ 板面の品質 ※広葉樹１等 ・（ ）	
・ＭＤＦ	表裏面の状態による区分（ ） 曲げ強さによる区分（ ） 接着剤による区分（ ） 難燃性による区分（ ） ・（ ）	

表面材のホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆ ・
表面板の厚さ ※表5.7.6による [5.7.3]
引戸の定規縁 ・召し合せかまちいんろう付きとする [5.7.4]

・かまち戸 [5.7.2][5.7.3][表5.7.9]
かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）
見込み寸法 ※36㎜ ・建具表による ・

・ふすま [5.7.2][表5.7.3][5.7.3][表5.7.7][5.7.4][表5.7.10]
種別、工法 ・Ⅰ型 ・Ⅱ型
上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法 ※19.5㎜ ・建具表による ・

・戸ぶすま [5.7.2][5.7.3][表5.7.7][5.7.4]
表面材の種類、品質等（ ）
見込み寸法 ※30㎜ ・建具表による ・

・紙張り障子 [5.7.2][表5.7.4][5.7.3][表5.7.11]
見込み寸法 ※30㎜ ・建具表による ・

⑪ 建具用金物 金物の種類・見え掛り部の材質等 [5.8.2]
※改修標仕 表5.8.1及び適用（備考欄の特記事項も含め）は、建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標仕 表5.8.2による ・
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標仕 表5.8.3による ・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標仕 表5.8.4による ・
木製建具に使用する戸車及びレール
※改修標仕 表5.8.3による ・
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置
・建具表による ・

⑫ 鍵 マスターキー ※ 製作する ・ 製作しない [5.8.4]
鍵の製作本数等 ※ 3本１組 ・（ ）本 鍵箱 ※ 必要 ・ 不要

13 自動ドア開閉装置 戸の開閉方式 ・図示による ・ [5.9.2]
自動ドア開閉装置の性能 [5.9.2]
駆動装置の性能
※引き戸用駆動装置の場合、改修標仕 表5.9.1による
防錆の適用 ・適用する ・適用しない
・
車椅子使用者用便房出入口の引き戸用駆動装置の性能
※引き戸用駆動装置の場合、改修標仕 表5.9.2による
防錆の適用 ・適用する ・適用しない
・
検出装置の性能
※引き戸用駆動装置の場合、改修標仕 表5.9.3による
防錆の適用 ・適用する ・適用しない
・
引き戸用検出装置の種類は、改修標仕 表5.9.4による [5.9.2]
種類 ・光線（反射）センサー ・熱線センサー ・音波センサー ・光電センサー
・電波センサー ・タッチスイッチ（・無線式 ・光電式）・押しボタンスイッチ
・車椅子使用者便房スイッチ（・大形（開・閉）押しボタンスイッチ
・非接触スイッチ）
凍結防止装置 ・適用する ・適用しない [5.9.2]

14 自閉式上吊り引戸装置 性能 ※改修標仕 表5.10.1による ・図示による [5.10.3]

15 重量シャッター シャッターの種類 [5.11.2]

シャッターの種類	開閉方式の種類
・ 管理用シャッター	※ 電動式（手動併用） ・ 手動式
・ 外壁用防火シャッター	※ 電動式（手動併用） ・ 手動式
・ 屋内用防火シャッター	※ 電動式（手動併用） ・ 手動式
・ 防煙シャッター	※ 電動式（手動併用） ・ 手動式

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号
一級建築士登録 第293036号 相野 徹

縮 尺 NO SCALE
設計年月日 R7.2.28
工事名 国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称 特記仕様書 (3)
No. 特-03

外部開口部に設ける重量シャッター　耐風圧強度（　）pa
安全装置の設置箇所 [5.11.2]
急降下制御装置または急降下停止装置の設置個所　・図示による　・
障害物感知装置の設置個所　・図示による　・
危害防止機構の設置個所　・図示による　・
管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない [5.11.2]

スラット及びシャッターケース用鋼板 [5.11.3]
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・
ステンレス鋼板の種類 [5.11.3][5.6.3]
※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・

16　軽量シャッター
開閉方式　※ 手動式　・ 電動式（手動併用） [5.12.2][表5.12.1]
耐風圧強度（　）pa
電動式の場合の安全装置
障害物感知装置の設置個所　・図示による　・
スラットの材質の種類 [5.12.3]
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※ Z06又はF06　・
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※ AZ90　・
スラットの種類 [5.12.4]
・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

16　オーバーヘッドドア
区分、材料 [5.13.2][5.13.3]

ｾｸｼｮﾝ材料	風圧力区分 (Pa)	開閉方式	収納形式	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙの材料
※ ｽﾃｰﾙﾀｲﾌﾟ	・125	※ ﾊﾞﾗﾝｽ式	・ ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形	※溶融亜鉛めっき鋼板
・ ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ	・100	・ ﾁｪｰﾝ式	・ ﾛｰﾍｯﾄﾞ形	・ ステンレス鋼板
・ ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・75	・ 電動式	・ ﾊｲﾘﾌﾄ形	
	・50		・ ﾊﾞｰﾁｶﾙ形	

電動式の場合の障害物感知装置の設置箇所　・図示（　）

17　ガラス
適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による [5.14.2]
・フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類
・図示（※建具表　・　）による　・
⊙型板ガラスの厚さによる種類
⊙図示（※建具表　・　）による　・
⊙網入板ガラス及び線入板ガラス　網又は線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類
⊙図示（※建具表　・　）による　・
・合わせガラス　材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ、特性による種類
・図示（※建具表　・　）による　・
⊙強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称（呼び厚を含む）、特性による種類
⊙図示（※建具表　・　）による　・
・熱線吸収板ガラス　板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類
・図示（※建具表　・　）による　・
⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、日射取得性及び日射遮熱性による区分、乾燥気体の種類
⊙図示（※建具表　・　）による　・
・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類、厚さによる種類、日射熱遮へい性及び耐久性の区分
・図示（※建具表　・　）による　・
・倍強度ガラス　材料板ガラスの種類、厚さによる種類
・図示（※建具表　・　）による　・

ガラス留め材及び溝の大きさ [5.14.2][5.14.3][図5.14.1]

建具の種類	ガラスの留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※ シーリング材 ⊙ 建築用ガスケット ※グレイジングチャンネル ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	・ 建築用ガスケット ・グレイジングビート	※ 建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・

18　ガラスブロック積み
材料等 [5.14.5]

表面形状	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調 クリア	色調 乳白	目地幅（mm） 平積み	目地幅（mm） 曲面積み	伸縮調整目地位置 (mm)
・ 正方形	・160×160	95	・	・	※8～15	外側	※6m以下ごとに
	・200×200	95	・ ・	・ ・	・15～25	※15以下 内側	幅10～25 ・図示
・ 長方形	・		・	・		※6以上 ・	・
	・		・	・			

壁用金属枠及び補強材
・設ける（形状　・図示　・　）　・設けない
力骨　材質　※ステンレス鋼（SUS304）
寸法　※径5.5mm
形状　※はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色（　）
シーリング材の種類　（　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　・図示による　・
形状　・図示による　・
工法 [5.14.5]
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法　※適用する　・適用しない
木下地の場合の壁用金属枠の取付け間隔（　）
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示による

19　ガラス用フィルム

用途による区分	記号	貼り面	性能値
※ ガラス飛散防止フィルム	ＧＳ	※ 内貼り　・ 外貼り	飛散防止性能ＡＢ
・ 日射調整フィルム	ＳＣ		
・ ガラス貫通防止フィルム	ＳＦ		

品質　JIS A5759 による

6　内装改修工事

① 改修範囲
既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3]
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・ 図示の範囲
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・ 図示の範囲
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※ 既存のまま
・ 図示の範囲

② 既存床の撤去並びに下地補修
ビニル床シート等の除去　※ 仕上げ材のみ（接着剤とも）　・ 下地モルタルとも（※ 図示の範囲　・除去範囲全て） [6.2.2]
合成樹脂塗り床材の除去工法　・ 機械的除去工法　・ 目荒工法
改修後の床の清掃範囲　※ 改修箇所の室内

③ 既存壁の撤去並びに下地補修
間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2]
※ 図示
・ モルタル塗り（塗り厚 25mm を超える場合の補強　※ 行う　・ 行わない）

④ 木材一般 Ⓖ
木材の品質 [6.5.2]
木材の現場における含水率　※A種　・B種
※信州木材認証製品又は同等品（長野県産材）　・改修標仕 6.5.2　・市販品
・保存処理木材を適用する箇所（　）
・間伐材等※1）：間伐材、林地残材又は小径木であること。
注1　間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。

5　製材
・「製材の日本農林規格」による下地用製材 [6.5.2][表6.5.1]

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※ 2級 ・	※ A種　・ B種 ・	
		※ 2級 ・	※ A種　・ B種 ・	
		※ 2級 ・	※ A種　・ B種 ・	

・「製材の日本農林規格」による造作用製材 [6.5.2][表6.5.1]

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面	12×120	※ 上小節 ・	※ A種　・ B種 ・	
見え掛り面以外		※ 小節以上 ・	※ A種　・ B種 ・	
			※ A種	

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 [6.5.2][表6.5.1]

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※ 1等 ・	※ 10%以下 ・ A種　・ B種	
		※ 1等 ・	※ 10%以下 ・ A種　・ B種	

・「製材の日本農林規格」以外の製材 [6.5.2][表6.5.1][表6.5.2][6.5.5]

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	含水率	防虫処理
		（　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	※ A種　・ B種 ・	・ 行う ・ 行わない
		（　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	※ A種　・ B種 ・	・ 行う ・ 行わない

⑥ 造作用集成材
⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 [6.5.2]

施工箇所	品名	樹種	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
枠材	針葉樹集成材	パイン	20mm	150程度	※ 1等　・ 2等
					※ 1等　・ 2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材 [6.5.2]

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板： 芯材：				※1等　・2等
		化粧薄板： 芯材：				※1等　・2等

⊙「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 [6.5.2]

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)
枠材・ササラ	タモ	20mm	1等	※ 15以下 ・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材 [6.5.2]

施工箇所	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)
	化粧薄板： 芯材：				※ 15以下 ・
	化粧薄板： 芯材：				※ 15以下

7　造作用単板積層材
・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 [6.5.2][6.5.5]

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質（表面の化粧加工）	防虫処理
			・ 有り（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工）	・ 行う ・ 行わない
			・ 無し（等級：・1等・2等・3棟）	

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 [6.5.2][6.5.5]

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質（表面の化粧加工）	含水率(%)	防虫処理
		・ 有り（加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工）	※ 14以下 ・	・ 行う ・ 行わない
		・ 無し（　）		

・ＣＬＴ（直行集成板） [6.5.2]

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法(mm)

⑧ 合板等
⊙「合板の日本農林規格」による普通合板 [6.5.2][6.5.5]

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
内装壁 木製建具	シナ合板 ラワン合板	※ 5.5 ・		※ 1類 ・ 2類	広葉樹　・1等　※2等以上 針葉樹 ※C-D以上　・	・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による構造用合板 [6.5.2][6.5.5]

施工箇所	品名	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	板面の品質	保存処理	防虫処理	強度等級
		※ 12 ・	・1級 ※2級以上		・ ※C-D以上		・行う ・行わない	

接着の程度　常温湿潤状態となる場所での使用
※特類　・
その他の場合
※1類以上　・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 [6.5.2][6.5.5]

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
				・ 1類 ・ 特類	・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [6.5.2][6.5.5]

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・ 1類 ・ 2類	・行う ・行わない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 [6.5.2][6.5.5]

施工箇所	品名	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		※ 12 ・	※ 1類 ・ 2類		・ オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装	・行う ・行わない

・パーティクルボード [6.5.2]

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※ 13ﾀｲﾌﾟ ・	※ MR1(M)又はMR2(p)ﾀｲﾌﾟ ・	・ 難燃 ・	※ 15 ・

・構造用パネル [6.5.2]

施工箇所	品　名	寸法(mm)

・ＭＤＦ [6.5.2]

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

9　接合具等
造作材の化粧面の釘打ち [6.5.3]
・適用する（※隠し釘打ち　・　）　・適用しない
建金物の形状、寸法及び材質 [6.5.3][表6.5.3～表6.5.5]
※改修標仕6.5.3(2)(ｱ)による
接着剤（木れんが用接着含む）のホルムアルデヒド放散量 [6.5.3][6.5.4]
※Ｆ☆☆☆　・

10　防腐・防蟻処理
・薬剤による防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材 [6.5.5]
適用部材：（　）
・工場における薬剤の加圧注入処理による防腐・防蟻処理 [6.5.5]

適用部材	保存処理性能区分
	・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４
	・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 [6.5.5]

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ・	・
	・	・

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理 [6.5.5]
適用部材：（　）
・合板等の加圧注入処理等による防腐・防蟻処理 [6.5.5]

11　鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組
間仕切軸組に用いる木材 [6.5.6]
※（製材を用いる場合）　杉又は松　・
床組に用いる木材
※（製材を用いる場合）　杉又は松　・

⑫ 窓、出入口その他
※（製材を用いる場合）　吊元枠、水掛りの下枠及び敷居は、ひのき、その他は、松又は杉
・ [6.5.7]

13　床板張り
縁甲板及び上がりがまちに用いる木材 [6.5.8]
※（製材を用いる場合）　ひのき　・

14　壁及び天井下地
※（製材を用いる場合）　杉又は松　・ [6.5.9]

⑮ 軽量鉄骨天井下地
野縁等の種類 [6.6.2][表 6.6.1]
屋外（※ 25 形　・ 19 形）
屋内（※ 19 形　・ 25 形）
・屋外の場合の形式及び寸法 [6.6.3]
野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離
・図示による　・
野縁の間隔
・図示による　・
工法 [6.6.4]
⊙既存の埋込インサート　⊙ 使用する　・ 使用しない
⊙あと施工アンカーの材料　⊙ 金属系アンカー　・ 接着系アンカー
⊙あと施工アンカーの引抜き試験　⊙ 行う　・ 行わない
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　・図示による　・
・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　・図示による　・
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所、補強方法　・図示による　・
・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
補強箇所、補強方法　・図示による　・

⑯ 軽量鉄骨壁下地
スタッド、ランナ等の種類 [6.7.3]
※改修標仕 表6.7.1 によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
スタッドの高さが 5.0m を超える場合
⊙図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強 [6.7.4]
※改修標仕6.7.4(5)による　・図示による

⑰ 接着剤等
接着剤のホルムアルデヒド放散量 [6.8.2]
※Ｆ☆☆☆
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合のゴム床タイル用接着剤の主成分による区分 [6.8.2][表6.8.2]
・図示による　・
下地の施工 [6.8.3]
改修標仕6.8.3(1)(ｱ)から(ｳ)以外の下地の工法
・図示による　・

⑱ ビニル床シート張り Ⓖ
材料 [6.8.2]

種　類	JIS の記号	色　柄	厚さ(mm)
※ 発泡層のないもの	※ ＦＳ　・	※ 無地　⊙ マーブル柄	※ 2.0　・
・ 発泡層のあるもの		※ 柄物　・ 無地	
・			

接合部の処理　※ 熱溶接工法　・ 突付け　・ [6.8.3]

19　ビニル床タイル張り Ⓖ [6.8.2]

種　類	JIS の記号	厚さ(mm)	備　考
※ コンポジションビニル床タイル（半硬質）	ＫＴ	※ 2.0	
・ コンポジションビニル床タイル（軟質）	ＫＴ	・	
・ ホモジニアスビニル床タイル	ＴＴ、ＦＴ	・	

20　特殊機能床 Ⓖ
材料 [6.8.2]

シート・タイルの種別	種類	性能	厚さ、寸法、形状(mm)
・ 帯電防止床シート			厚さ：
・ 帯電防止床タイル			寸法：　厚さ：
・ 視覚障害者用床タイル			形状：
・ 耐動荷重性床シート			厚さ：
・ 防滑性床シート			厚さ：
・ 防滑性床タイル			寸法：　厚さ：

㉑ ビニル巾木
材質の種類　※ 軟質　・ 硬質
高さ(mm)　※ 60　・ 70　・ 100
厚さ(mm)　※ 1.5以上　・

㉒ カーペット敷き
・ 織じゅうたん [6.9.2～3][表6.9.1～2]

織り方	パイル形状	帯電性	備　考
・ ウィルトンカーペット	・ カットパイル	・適用する	
・ ダブルフェースカーペット	・ ループパイル	・適用しない	
・ アキスミンスターカーペット	・ カット、ループパイル併用		

色柄、パイル糸の種類等
※　無地（種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種）
・　柄物（標準品）
・
下敷き材　※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・
見切り、押え金物
・適用する（材質、形状等　・図示　・　）
・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※シートボンド工法　・

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺　NO SCALE
設計年月日　R7. 2. 28
工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称　特記仕様書（4）
No. 特-04

6 内装改修工事

・タフテッドカーペット [6.9.2～3][表 6.9.2]

パイル形状	パイル長(mm)	工 法	帯電性	備考
・カットパイル	※ 5～7 ・	※ 全面接着工法	・適用する	
・ループパイル	※ 4～6 ・	・ グリッパー工法	・適用しない	
・カット、ループ併用	・			

下敷き材 （グリッパー工法の場合）
※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm
・
見切り、押え金物
・適用する（材質、形状等 ・図示 ・ ）
・適用しない

⊙ タイルカーペット [6.9.2～3][表 6.9.2]

種類	パイル形状	寸法	総厚さ(mm)	施工箇所	備考
※ 第一種 ・第二種	※ ループパイル	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	図示による	
・第一種 ・第二種	・ カットパイル	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・		
・第一種 ・第二種	・ カット、ループ併用	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・		

見切り、押え金物
・適用する（材質、形状等 ・図示 ・ ）
⊙適用しない
タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し ・
平場 ※市松敷き ・模様流し ・
階段 ・市松敷き ※模様流し ・

23 合成樹脂塗床 合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆

種類 [6.10.3][表 6.10.4～8]

種 類	工 法	仕上げの種類	施工箇所
・厚膜型塗床材（弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床材）		※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ	
・厚膜型塗床材（ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床材）	・ 薄膜流し展べ仕上げ ・ 厚膜流し展べ仕上げ ・ 樹脂モルタル仕上げ	・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ	
・薄膜型塗床材（ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床材）		※ 平滑仕上げ	
・			

24 防塵用塗料塗り 材料 水性アクリル系塗料 （※標準色 ・ ）
仕上種別 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ
塗布量 プライマー塗りのうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は 0.5 kg/m²以上とする

㉕ フローリング張り フローリングのホルムアルデヒド放散量
※改修標仕 6.11.2(2)による ・

単層フローリング G [6.11.2～7][表 6.11.1～5]

種 類	工 法	樹種	厚さ、幅及び長さ
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等	・ 釘留め(根太張り)	・	※ 改修標仕 表6.11.1による ・
	・ 釘留め（直張り）	・	※ 改修標仕 表6.11.3による ・
	※ 接着工法	・	※ 改修標仕 表6.11.5による ・
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等	※ 接着工法	・	・

複合フローリング G ・ [6.11.2～7][表 6.11.1～5]

種 類	工 法	樹種	厚さ、幅及び長さ
⊙ 複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ（天然木化粧）	・ 釘留め(根太張り)	・	※ 改修標仕 表6.11.2による ・A種 ・B種 ・C種
	・ 釘留め（直張り）	・	※ 改修標仕 表6.11.4による ・A種 ・B種 ・C種
	※ 接着工法	⊙ オーク	※ 改修標仕 表6.11.6による ・A種 ・B種 ・C種

接着工法の場合の不陸緩衝材
※合成樹脂発泡シート ・

26 畳敷き 種別 [6.12.2]
・A種 ・B種 ・C種
・D種（畳床 ・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N）

・衝撃緩和型畳
畳表（JIS A 5902） ・C１ ・C２

㉗ せっこうボード、その他ボード及び合板張り 材料 [6.13.2][表 6.13.1]

規格名称	種 類	厚さ(mm)等
木質系ｾﾒﾝﾄ板	・硬質木毛セメント板 G	・15 ・20 ・25 ・
	・中質木毛セメント板 G	・15 ・20 ・25 ・
	・普通木毛セメント板 G	・15 ・20 ・25 ・
	・硬質木片セメント板 G	・12 ・15 ・18 ・21 ・
	・普通木片セメント板 G	・30 ・
繊維強化ｾﾒﾝﾄ板	・けい酸カルシウム板	タイプ２(無石綿) ・6 ・8
火山性ｶﾞﾗｽ質複層板(VSﾎﾞｰﾄﾞ)	・火山性ｶﾞﾗｽ質複層板	
繊維板	・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ（ＭＤＦ）	・3 ・7 ・9 ・12 ・
	・ハードボード（素地） G	・無研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ） ・研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ） ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・
	・ハードボード（化粧） G	・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・
	・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ G	・Ａ級（・天井仕上 ・内装仕上 ・） ・9 ・12 ・15 ・18 ・
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ G	・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・
	・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ G	・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・塗装 ・10 ・12
吸音材料	⊙ ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板	⊙ ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ（※ 9（不燃） ・12 ・ ） ・凹凸ﾀｲﾌﾟ（※ 9（不燃） ・12 ・ ）
	・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音ﾎﾞｰﾄﾞ 1号	・25 ・
	・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ 32K	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包） ・
石膏ﾎﾞｰﾄﾞ製品	⊙ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	※ 12.5（不燃） ・ 9.5（準不燃）
	・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	・化粧板（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様） ・9.5（不燃） ・
	・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ	※ 12.5（不燃） ・
	・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	※ 12.5（不燃） ・ 15（不燃）
	・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ	・9.5 ・
	・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(木目)	模様（※ 柾目 ・ 板目）専用下地材付き ・12.5（不燃） 幅 440mm 程度
	⊙ 化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ)	⊙ 9.5（準不燃）

ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 [6.13.2]
※Ｆ☆☆☆ ・
ボード表面への化粧張仕上げの有無
・有り（種類： ） ・

天井ボードの重ね張りの張り付け方法 [6.13.3]
（ロックウール吸音板を除く）
( )

せっこうボードの目地工法 [6.13.3]
種類
・図示（仕上げ表）による ・
せっこうボードのエッジの種類（突付け工法、目透し工法の場合）
・図示による ⊙ ベベルエッジ

材料 [6.13.2]

種 類	規 格	防虫処理
⊙ 普通合板 G	表面の樹種名（ シナ ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（ 5.5 ）	・行う ・行わない
・ 天然木化粧合板 G	化粧板の樹種名（ ） 厚さ（mm）（ ）	・行う ・行わない
・ 特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法（ ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装 ） 表面性能（ ） 厚さ（mm）（ ）	・行う ・行わない

合板のホルムアルデヒド放散量 [6.13.2]
※改修標仕 6.13.2(2)(イ)のいずれかによる
・

合板の張付け ・Ａ種 ・Ｂ種 [6.13.3][表6.13.3]

㉘ 壁紙張り ホルムアルデヒド放散量 ※Ｆ☆☆☆ ・

種類 [6.14.2]

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維(織物)	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	塩化ﾋﾞﾆﾙ	その他	防火性能	備 考
教室	⊙	・	・	・	・	・	⊙不燃 ・準不燃 ・難燃	掲示クロス
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	

施工 [6.14.3]
モルタル面及びプラスター面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ [表 7.2.4]
※Ｂ種 ・Ａ種
コンクリート面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ [表 7.2.5]
※Ｂ種 ・Ａ種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面の素地ごしらえ及びけい酸ｶﾙｼｳﾑ板面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ
※Ｂ種 ・Ａ種 [表 7.2.7]

㉙ モルタル塗り モルタル ⊙現場調合材料 ・既調合材料 [6.15.3]
既設目地材 ・設ける 施工箇所（ ） [6.15.3]
形状（・図示 ・ ）
⊙設けない
床の目地 ・設ける 目地割 ※ 2m程度（最大目地間隔 3m程度） [6.15.6]
・
種類 ※ 押し目地 ・
⊙設けない

外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 [6.15.6]

㉚ タイル張り 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 [6.16.2]
位置 （ ※ 改修標仕 6.16.2による ・ 図示による ）
見本焼及び試験施工 [6.16.2]
見本焼 ・行う ※ 行わない
試験張り ・行う ※ 行わない

セメントモルタルによるタイル張り [6.16.3]
タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	釉薬 施釉	無釉	役物 有	無	色 標準	特注	再生材適用 G	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

既調合モルタル
・ 既調合もモルタルの製造所の仕様による
・
下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法
・ 高圧水洗による目荒し工法（改修標仕 4.3.10(3)(イ) による）

壁タイル張りの工法
内外装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り

有機系接着剤によるタイル張り [6.16.4]
タイルの形状、寸法等

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	釉薬 施釉	無釉	役物 有	無	色 標準	特注	再生材適用 G	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ Ｆ☆☆☆ ・
外装タイルにおける目地詰め ・ 行う ・ 行わない
目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ ポリウレタンシーリング材 ・
ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタンシーリング材 ・
伸縮調整目地 ※ 変性シリコーンシーリング材 ・
その他の目地 ※ 変性シリコーンシーリング材 ・

下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法
・ 高圧水洗による目荒し工法（改修標仕 4.3.10(3)(イ) による）

31 セルフレベリング材塗り 種類 ・せっこう系 ⊙ セメント系 [6.17.2][表 6.17.1]
塗厚 ・ 5.0 mm

32 断熱材 (19.9.3)

断熱材名	種類（記号）	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ ・	・ ・	
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	※ A種2種ｂ ※ A種3種ｂ	⊙50mm ・ ・	
⊙硬質ウレタンフォーム断熱材	・ ・	⊙30mm ・	外壁・最上階天井
・フェノールフォーム断熱材	※ A種1種 ・	・ ・	

フェノールフォームを使用した断熱材及び接着剤のフォルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆ ・

⊙断熱材現場発泡工法 (19.9.4)
断熱材の種類 ・Ａ種1 ⊙Ａ種1H
吹付け厚さ(mm) ・25 ⊙30
施工箇所 ⊙図示による ・

33 浴室天井材 市販品

材 質	表面仕上げ	性 能	幅(mm)	備 考
※ アルミニウム製	※ 焼付け塗装品	準不燃品	※ 200	回り縁は縁付きとし製造所の標準品とする。
	・ アルマイト処理品		・ 100	

34 フリーアクセスフロア 材料等 (20.2.2)

施工箇所	構造	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材	備 考
	・支柱調整式 ・置敷式	・	・	・ 1.0Ｇ ・ 0.6Ｇ	・ 3,000N ・ 5,000N	・ 帯電防止床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

帯電防止性能 ・Ｕ値（クラス1） ・Ｕ値（クラス2）
漏洩抵抗 ・Ｒ≧1×10Ω6 ・
耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の試験方法
※ 標仕20.2.2(2)(イ)による ・
耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の寸法精度
※ 標仕20.2.2(2)(オ)による ・

35 可動間仕切 材料等 (20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ	ﾊﾟﾈﾙ表面の仕上げ	遮音性能(dB/500Hz)
・ｽﾀｯﾄﾞ式（内蔵）			※ ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付け	・ 0
・ｽﾀｯﾄﾞ式（露出）			・ 壁紙張り	・ 12
・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式				・ 20
・ﾊﾟﾈﾙ式				・ 28
				・ 36

パネル内に取付ける建具
・ あり（寸法及び形状 ・図示 ・ ）
・ なし
パネルの材料のホルムアルデヒド放散量
※Ｆ☆☆☆ ・

36 移動間仕切 材料等 (20.2.4)

操作方法による種類	圧縮装置の操作方法	ﾊﾟﾈﾙの表面材 材質	仕上げ	遮音性(dB/500Hz)
・ 手動式	・ ﾌﾟｯｼｭ式	※ 鋼板	※ 焼付塗装	・ 36未満
・ 電動式	・ ﾊﾝﾄﾞﾙ式		・壁紙張り	・ 36以上
・ 部分電動式				

ハンガーレールの取付け下地の補強
※ 標仕 20.2.4(3)(カ)による ・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
※ 標仕 20.2.4(3)(エ)による ・図示による
ハンガーレール
※ 標仕 20.2.4(3)(オ)による ・図示による
ランナー
※ 標仕 20.2.4(3)(ク)による ・図示による
あと施アンカー
・ 使用する
種類： 材質： 寸法：
・ 使用しない

37 トイレブース 材料等 (20.2.5)

パネル表面材の材質	脚部の種類	ドアエッジの材質
・ ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ	・ アルミニウム製
・ ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板	・	・ ステンレス製
		・ 表面材と同材

38 手すり 材料等 (20.2.6)

種 別	表面仕上げ	直径(mm)	施工箇所	備考
※ 集成材	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ ・	※35 ・45		(市販品)
・ ステンレス	・HL ・			
・ 鋼製	・EP-G ・SOP			
・ ﾋﾞﾆﾙ製ﾊﾝﾄﾞﾚｰﾙ				

39 階段滑止め 材料等 (20.2.7)

材 種	形状	寸法(mm)	取付工法
⊙ ステンレス製（SUS304）	・ ひも型	⊙50	※ 接着工法
・ 黄銅製押出型材	⊙ タイヤ型	・	・ 埋込み工法
・ アルミニウム製押出型材			

40 黒板及びホワイトボード (20.2.9)

種 類		寸法(mm)	色 彩	備 考
⊙ 黒板	※ 焼付け ・ ほうろう		※ 緑 ・ 黒	※ 平面 ・ 曲面 ・ ｽｸﾘｰﾝ付引分
⊙ ホワイトボード			※ 白	

※黒板は電子黒板対応品

41 表示 (20.2.11)
・衝突防止表示
形状、寸法（・ 30φ ・ ）
材質（・ ステンレス製 ・ ）
・非常用進入口等の表示等
※消防法に適合する市販品 ・

室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状寸法材質色、書体、印刷等の種別、取付け形式
⊙図示による ・

42 ブラインド 材料等 (20.2.14)
・横形ブラインド
種類 ※ギア式 ・コード式 ・操作棒式
幅、高さ ・図示による ・
スラットの幅 ※25mm ・
材質
スラット ※アルミニウム合金製 ・
ヘッドボックス ※鋼製 ・
ボトムレール ※鋼製 ・
縦形ブラインド
幅、高さ ・図示による ・
開閉方式 ・片引き ・両備開き
操作方法 ※2本操作コード方式 ・1本操作コード方式
スラットの材質 ・焼付け塗装仕上げのアルミスラット
・消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工クロススラット
スラットの幅 （ ）mm

43 ロールスクリーン 材料等 (20.2.15)

材種	品質	遮光性能	操作方式	幅、高さ	取付箇所
・ ポリエステル	・	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級	・ 電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式	・ 図示 ・	・ 図示 ・

44 カーテン ・ 既存再使用する（養生方法： ） [2.3.1][5.1.6]
⊙ 新設する（ ※ 防炎加工品 ・ ） (20.2.14)

材料等

形式		開閉操作方式	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・ｼﾝｸﾞﾙ	・片引き	⊙手引き	・つまみひだ	※ 防炎加工	・ 図示	
⊙ﾀﾞﾌﾞﾙ	⊙引分け	・ひも引き	（三つ山ひだ、	・		
		・電動	二つ山ひだ）	・		
			・箱ひだ、片ひだ			
			⊙プレーンひだ			
						(暗幕)

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号
一級建築士登録 第293036号 相野 徹

縮 尺 NO SCALE
設計年月日 R7.2.28

工事名 国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称 特記仕様書（5）

No. 特-05

6 内装改修工事

45 カーテンレール

既存利用
・ 既存再使用する　⊙ 新設する

材料等　(20.2.16)
レール及びブランケットの強さによる区分
※ 10-90　・
レールの材料による区分
※ アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
・ ステンレス製
レールの仕上げ　※アルマイト　・
レールの形状　※角形　・
カーテンの付属物　フック（ひるかん）　※鋼製　・樹脂製

46 ブラインドボックス及びカーテンボックス

既存利用
・ 既存再使用する　・ 新設する

清幅×深さ（mm）　・ 90×150　・ 120×80　※ 120×150　・ 150×80　・ 図示による
材質　・ 集成材（仕上げ：　）
・ アルミニウム製　押出し型材（市販品）
種別（様仕 表14.2.1）　・BC-1種　BC-2種
色合い　・標準色（　）　・特注色（　）
・ 鋼製（仕上げ：　）

47 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊙ アルミニウム製	・450×450	⊙一般型	◎屋内外用	⊙額縁タイプ	⊙額縁枠タイプ
・	⊙600×600	・	・屋内用	・目地タイプ	・目地タイプ

48 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・ アルミニウム製	・450×450	・一般型	・屋内外用	・鍵付き
・	・600×600	・密閉型	・屋内用	
		・		

49 屋内掲示板

枠の材質　※ アルミニウム製
表面の材質　※ 塩ビ発泡シート張り　・

50 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・ 人工大理石
奥行き(mm)　・ 約 450　・ 約 600

51 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 網入り磨板ガラス	※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き
・ 線入り磨板ガラス	・	・	

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式（巻取り型）	※ 不燃布（不燃認定品）	※ 500 ・ 800 ・	ガイドレール ※ 固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・ 800	表面仕上げ ※ 天井材張り　・

52 収納家具

降下機構　煙感知器連動及び主導開放装置（埋込型）
材質形状、寸法　※ 図示による　・
合板類、集成材、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※Ｆ☆☆☆☆　・

53 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

ブロックパターンは JIS T 9251 による　[6.8.2]
色彩は黄色を原則とする
屋 内　※ 塩化ビニル製　・ 磁器又はせっ器質タイル（※ 300　・　）
・ レジンコンクリート製
屋 外　※ レジンコンクリート製　・ 磁器又はせっ器質タイル（※ 300　・　）

7 塗装改修工事

① 材料

屋内で使用するホルムアルデヒドの放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・

② 下地調整

種別　[7.2.2～7.2.7][表 7.2.1～7.2.7]

下地面の種類	下地調整の種別	備考
木部	・ ＲＡ種　※ ＲＢ種	
鉄鋼面	・ ＲＡ種　※ ＲＢ種	
亜鉛めっき鋼面	・ ＲＡ種　※ ＲＢ種	
ﾓﾙﾀﾙ面、せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面	・ ＲＡ種　※ ＲＢ種	
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP以外）、ALCﾊﾟﾈﾙ面	・ ＲＡ種　※ ＲＢ種	
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP）	・ ＲＡ種　・ ＲＢ種	
押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・ ＲＣ種	
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他のﾎﾞｰﾄﾞ面	・ ＲＡ種　※ ＲＢ種	

③ 素地ごしらえ

種別　[7.3.2～7.3.7][表 7.3.1～7.3.7]

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ Ａ種　・ Ｂ種
	透明塗りの場合	・ Ａ種　※ Ｂ種
鉄鋼面	耐候性塗料塗り(DP)の場合	・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種
	上記以外の場合	・ Ａ種　・ Ｂ種　※ Ｃ種
亜鉛めっき鋼面		・ Ａ種　・ Ｂ種
ﾓﾙﾀﾙ面、せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面		・ Ａ種　※ Ｂ種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP以外）、ALCﾊﾟﾈﾙ面		・ Ａ種　※ Ｂ種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP）		※ Ａ種　・ Ｂ種
押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		・ Ａ種　※ Ｂ種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、	目地：継目処理工法	※ Ａ種　・ Ｂ種
その他のﾎﾞｰﾄﾞ面	目地：継目処理工法以外	・ Ａ種　※ Ｂ種

④ 錆止め塗料塗り

種別　[7.4.2～7.4.3][表7.4.1～7.4.6]

下地面等			錆止め塗料の種別 新規	錆止め塗料の種別 塗替え	工程の種別 新規	工程の種別 塗替え
鉄鋼面	見え掛り部分	SOP	A種		※ A種　・ B種	C種
		DP	1回目　C種 2,3回目 D種	・ RAの場合 1回目　C種 2,3回目 D種 ・ RBの場合 E種	※ A種　・ B種	・ A種 ・ B種 ⊙ C種
		EP-G	・ A種　※ B種		※ A種　・ B種	C種
	見え隠れ部分	SOP	A種		・ A種　※ B種	C種
		DP	1回目　C種 2,3回目　D種		※ A種　・ B種	・ A種 ・ B種　・ C種
		EP-G	・ A種　※ B種		・ A種　※ B種	C種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	SOP	※ A種　・ B種		※ A種　・ B種	C種
		DP	B種		改修標仕 表7.4.6	
		EP-G	C種		※ A種　・ B種	C種
	鋼製建具以外	SOP	・ A種　※ B種		・ A種　※ B種	C種
		DP	B種		改修標仕 表7.4.6	
		SOP	C種		・ A種　※ B種	C種

⑤ 塗装塗り

種別　[7.5.2～7.13.2][表7.5.1～7.13.1]

塗装の種類	塗装面	工程 新規	工程 塗替え
⊙合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＳＯＰ）	・木部（屋外）	※Ａ種　・	※Ｂ種　・
	・木部（屋内）	※Ｂ種　・	※Ｂ種　・
	・鉄鋼面	・Ａ種・Ｂ種	※Ｂ種　・
	・亜鉛めっき鋼面	※Ｂ種　・	※Ｂ種　・
	⊙鋼製建具	※Ｂ種　・	※Ａ種　・
・ｸﾘﾔﾗｯｶｰ塗り（ＣＬ）	・木部	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種
・ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散形塗料（ＮＡＤ）	・屋内のｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面	※Ｂ種	※Ｂ種 ・
⊙耐候性塗料塗り（ＤＰ）	・鉄鋼面 上塗り ・１級(ふっ素樹脂) ⊙２級(ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂) ・３級(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ樹脂)	※Ａ種	○ Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
	・亜鉛めっき鋼面 上塗り ・１級(ふっ素樹脂) ・２級(ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂) ・３級(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ樹脂)	※Ａ種	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
	・ｺﾝｸﾘｰﾄ面	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・A-1種　・A-2種 ・B-1種　・B-2種 ・C-1種　・C-2種
	・押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・A-1種　・A-2種 ・B-1種　・B-2種 ・C-1種　・C-2種
・つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ－Ｇ）	・ｺﾝｸﾘｰﾄ面	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ｂ種　・Ｃ種
	・ﾓﾙﾀﾙ面	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ｂ種　・Ｃ種
	・ﾌﾟﾗｽﾀｰ面	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ｂ種　・Ｃ種
	・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ｂ種　・Ｃ種
	・屋内木部	※Ａ種　・	・Ａ種　※Ｂ種
	・屋内鉄鋼面	※Ａ種・Ｂ種	・Ａ種　※Ｂ種
	・屋内亜鉛めっき鋼面	※Ａ種・Ｂ種	※Ａ種　・Ｂ種
⊙合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ）	・ｺﾝｸﾘｰﾄ面	・Ａ種・Ｂ種	・Ａ種　※Ｂ種
	⊙ﾓﾙﾀﾙ面	・Ａ種 ⊙Ｂ種	・Ａ種　※Ｂ種
	・ﾌﾟﾗｽﾀｰ面	・Ａ種・Ｂ種	・Ａ種　※Ｂ種
	・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面	・Ａ種・Ｂ種	・Ａ種　※Ｂ種
⊙ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り（ＵＣ）		⊙Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種　※Ｂ種
・ﾋﾞｸﾞﾒﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り		—	—
・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り（ＯＳ）		—	—
・木材保護塗料塗り（ＷＰ）	屋外	・Ａ種 ※Ｂ種	・Ａ種 ※Ｂ種

塗料の種類等
クリヤラッカー塗り（ＣＬ）　[表7.6.1]
種別がＡ種の場合における、改修標仕 表 7.6.1 の工程2
・塗料の種類（　）
ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）
種別がＡ種の場合における、改修標仕 表 7.11.1 の工程1の着色　⊙適用する
オイルステイン塗り（ＯＳ）の仕様　[表7.11.1]
・図示による　・

8 耐震改修工事等

（略）

9 環境配慮改修工事

① 石綿含有建材の除去後の仕上げ

石綿含有建材の除去後の仕上げ　※外壁改修工事参照　[9.1.1]

2 石綿粉じん濃度測定

アスベスト粉じん濃度測定　[9.1.1]
・ 行う（測定名称及び測定点は下表による）

測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）	備考
・ 測定 1	処理作業前	処理作業室内	各 1 点	－
・ 測定 2		施工区画周辺又は敷地境界	計　点	－
・ 測定 3	処理作業中	処理作業室内	各 1 点	－
※ 測定 4		ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入口	各 1 点	空気の流れを確認
※ 測定 5		負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各 1 点	除じん装置の性能確認
・ 測定 6		施工区画周辺又は敷地境界	計 4 点	4方向各1点
※ 測定 7	処理作業後（隔離ｼｰﾄ撤去前）	処理作業室内	各 1 点	－
・ 測定 8		施工区画周辺又は敷地境界	計 4 点	4方向各1点
・ 測定 9	処理作業後シート	処理作業室内	各 1 点	－
・ 測定 10	撤去後１週間以降	調査対象室外部の付近	計 1 点	－

測定箇所　※ 図示

アスベスト粉じん濃度測定方法
アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法－第１部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による。
測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10	測定 5
計数機器	位相差顕微鏡		
ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀの直径	25 mm		47 mm
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min
試料の吸引時間	5 min	120 min	240 min
試料の透明化	アセトン－トリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法		
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野		
計数アスベスト	直径 3μm 未満、長さ 5μm 以上、長さと直径比 3:1 以上		
定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l

報告書の作成（記録する項目）
ｱ、測定結果
ｲ、測定時間
ｳ、測定位置（測定高さとともに図面上に記載する。）
ｴ、サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量）
ｵ、マウンティング方法
ｶ、顕微鏡視野面積、計数視野数
ｷ、測定時（各測定場所ごと）天候、温度、湿度、外気の風速及び風向

3 ｱｽﾍﾞｽﾄ含有吹付け材の除去（レベル1）

アスベスト含有吹付け材の除去　[9.1.3]
・ 行う　除去方法は 9.1.3 によるほか、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様とする。
除去物及び汚染物質等
処理方法
※ 密封処理（二重袋梱包）
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
・ セメント固化
アスベスト含有吹付け材の処分
・埋立処分
・溶融施設
・無害化処理施設

4 ｱｽﾍﾞｽﾄ含有保温材等の除去（レベル 2）

アスベスト含有保温材の除去　[9.1.4]
・ 行う（※ 手ばらし　・ 手ばらし以外）
作用場の隔離
・ 行う　・ 行わない
アスベスト含有保温材等の処分
・埋立処分
・溶融施設
・無害化処理施設

5 ｱｽﾍﾞｽﾄ含有成形板の除去（レベル 3）

アスベスト含有成形板の除去　[9.1.5]
⊙ 行う
隔離養生（負圧不要）
⊙ 行う ※1　・ 行わない
注1：けい酸カルシウム板第一種の場合は必須

アスベスト含有成形板の処分
⊙埋立処分
・溶融施設
・無害化処理施設

6 ｱｽﾍﾞｽﾄ含有仕上塗材の除去

除去方法　[9.1.6]
・ 集じん装置付き超高圧水洗工法（100MPa以上）
・ 湿式集じん装置付きディスクグラインダー工法
※ 乾式集じん装置付きディスクグラインダー工法
・ 剥離剤工法
・ 超音波ケレン工法
隔離養生（負圧不要）
・ 行う　・ 行わない
アスベスト含有仕上塗材の処分
⊙埋立処分
・溶融施設
・無害化処理施設

7 作業結果の確認・報告

石綿含有建材の除去等作業完了後は、適切に作業が行われたこと及び取り残しがないことを確認すること。
また、確認した結果を発注者に書面で報告すること。

⑧ 外断熱改修工事

断熱材の種類　[9.2.2]

材料名	厚さ(mm)
⊙ビーズ法ポリスチレンフォーム（ノンフロン Ｇ）	50mm
・押出法ポリスチレンフォームＡ種（ノンフロン Ｇ）	
・硬質ウレタンフォーム（ノンフロン Ｇ）　・フェノールフォーム	
・ロックウール　・グラスウール	

外装材の種類　[9.2.2]

・	防火性能	

既存外壁の仕上材の撤去　・有り　⊙なし　[9.2.3]
下地面の清掃及び下地調整　※断熱材製造所の指定する仕様
・
欠損分の改修　・行う　⊙行わない
通気層　・有り（　mm ）　⊙なし　[9.2.4]
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法　※適用する　・適用しない
試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける
特記無き事項は、製造所の仕様による。

⑨ 断熱・防露改修工事

断熱材（ノンフロン）　[9.3.2～9.3.4]

工法	材料名	種別及び品質	厚さ(mm)
・断熱材打込み工法 JIS A 9521 建築用断熱材	・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ（ｽｷﾝ層なし） ・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ ・ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ		
⊙断熱材現場発泡工法	建築物断熱用吹付け 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ（難燃性）	・A種1　⊙A種1H ・A種2　・A種2H ・A種3 ・B種	30mm
・断熱材後張り工法 JIS A 9521 建築用断熱材	・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ（ｽｷﾝ層なし） ・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ ・ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ ・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ		

10 屋上緑化改修工事 Ｇ

植栽基盤及び材料　[9.4.2]
※ 屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示
見切材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※図示

11 透水性アスファルト舗装改修工事 Ｇ

路盤材料　[9.5.4][表9.5.3]
※再生クラッシャラン（ＲＣ－４０）Ｇ
・クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－４０）Ｇ
・クラッシャラン（Ｃ－４０）Ｇ
透水性の高いものを使用する
路盤の締固の度試験　※行う　[9.5.4]
遮断層、凍上抑制層及びフィルター層の材料（厚さは図示）　[9.5.4][表9.5.1]
・遮断層　※川砂、海砂又良質な山砂　・
・凍上抑制層　※再生クラッシャラン Ｇ　・クラッシャラン　切り込み砂利　・砂
・フィルター層　※ごみ、泥等の有機物を含まない砂　・
盛土に用いる材料　[9.5.3][表8.28.1]
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種
路床安定処理　[9.5.3][表9.5.2]
※添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントB種 Ｇ
・高炉セメントＢ種 Ｇ
・生石灰（　）　・消石灰（　）
添加量　kg/m3（目標CBR　※５以上　・　）
路床土の支持力比試験　※行う（※乱した土　・乱さない土）
路床締固め度の試験　※行う
砂の粒度試験　※行う　[9.5.3]
開粒度アスファルト混合物　[9.5.7][表9.5.5][表9.5.6]
歩道部　※ストレートアスファルト
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　・行う　[9.5.9]

12 PCB含有シーリング材処分

・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及びPCB含有分析の要否を判定する
採取箇所数　計　箇所
採取箇所　※図示　・
・第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う
分析個数　計　箇所
・除去処理工事
除去範囲　※図示
撤去方法　・「標準施工要領書（日本シーリング工事業共同組合連合会／日本シーリング材工業会）」による

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺　NO SCALE
設計年月日　R7.2.28

工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称　特記仕様書（6）

No. 特-06

⑩ 舗装工事

1 路床安定処理

添加材料による安定処理　・行う　・行わない　(22.2.2～3)(表 22.2.2)

種類　・ 普通ポルトランドセメント　・ フライアッシュセメントB種
・ 生石灰（　　）　・ 消石灰（　　）

添加量　kg/㎡（目標 CBR ※ 5 以上 ・　　）

2 盛り土に用いる材料

・ A種　※ B種　・ C種　・ D種　(22.2.3)(表 3.2.1)

③ 遮断層、凍上抑制層フィルター層の材料

・ 遮断層　※ 川砂、海砂又良質な山砂　(22.2.2～3)
・ 凍上抑制層　※ 再生クラッシャラン　・ クラッシャラン　切り込み砂利　・ 砂
⊙ ﾌｨﾙﾀｰ層　※ ごみ、泥等の有機物を含まない砂

4 路床土の支持力比試験

・ 行う（※ 乱した土　・ 乱さない土）合格判定値　以上　・行わない　(22.2.5)

⑤ 路床締固め度の試験

⊙ 行う（合格判定値　以上）　・行わない　(22.2.5)

6 砂の粒度試験

・ 行う　・行わない

⑦ 路盤材料 G

※ 再生クラッシャラン（ＲＣ－４０） G　(22.3.3)
・ クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－４０） G
・ クラッシャラン（Ｃ－４０）
透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

⑧ 路盤の締固め度の試験

※ 行う　(22.3.5)

⑨ アスファルト舗装

車道部の基層　※ 無し　・ 有り
アスファルト　※ 再生アスファルト　・ ストレートアスファルト　(22.4.3)
加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表 22.4.6)

区分	・ 一般地域	⊙ 寒冷地域
表層	※ 密粒度アスファルト混合物（13）	※ 密粒度アスファルト混合物（13F）
	・ 細粒度アスファルト混合物（13）	・ 細粒度ギャップアスファルト混合物（13F）
基層	・ 粗粒度アスファルト混合物（20）	

シールコート　※ 行わない　・ 行う（施工範囲：　　）　(22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験　※ 行わない　・行う　(22.4.6)

10 コンクリート舗装

早強セメント　※ 使用しない　・ 使用する　(22.5.3)
注入目地材料　※ 低弾性タイプ　・ 高弾性タイプ　(表 22.5.3)
溶接金網　※ 有り　・ 無し　(22.5.3～4)
厚さ試験　※ 行わない　・ 行う　(22.5.6)
(22.6.2～3)

11 カラー舗装

種類	材料	区分	車道部の基層
※ 加熱系	・有色骨材（焼成）・着色骨材（樹脂被覆）・自然石	・ 車道	※ 無し　・ 有り
・ 常温系	・	・ 歩道	

12 透水性アスファルト舗装 G

アスファルト混合物の抽出試験　※ 行わない　・ 行う　(22.7.6)(22.4.6)

13 排水性アスファルト舗装 G

タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類　(22.8.3)(表 22.8.2)

適用時期	種　類
下記以外	ＰＫＲ-Ｔ１
冬期	ＰＫＲ-Ｔ２

アスファルト混合物の抽出試験　※ 行わない　・ 行う　(22.8.6)

14 ブロック系舗装 G

・ コンクリート平板舗装（コンクリート平板は、JIS A 5371 の平板）　(22.9.2～3)

種　類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材
※ 普通平板（N）	※ 300角	※ 60	※ 砂
・ 透水平板（P）	・		・モルタル

・ インターロッキングブロック舗装　(22.9.2～3)

種　類	厚さ(mm)	色彩及び表面加工等
※ 普通ブロック（N）	車道部　※ 80　・	※ 標準品
・ 透水性ブロック（P）	歩道部　※ 60　・	・
・ 誘導、注意喚起用ブロック		誘導、注意喚起用は黄色系とする
・ 植生ブロック（V）	※ 80　・ 100	

・インターロッキングブロック（JIS A 5371）

項　目		品　質　・　性　能		
材料	セメント	JIS R 5210 ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、JIS R 5211 高炉ｾﾒﾝﾄ、JIS R 5212 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄ、JIS R 5213 ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄ、白色ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄとする。		
	骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。		
	混和材料	ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸの品質に有害な影響を及ぼさない。		
	着色材料	無機質材料を用い、耐候性に優れ、かつｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。		
外観		使用上有害なきず、ひびわれ、欠け、変形等がない。		
寸法許容差(mm)		長　さ	幅	厚　さ
普通タイプ		±３	±３	±３
透水性タイプ		±３	±３	＋５～－１
植生用タイプ		±３	±３	±３
曲げ強度(N/mm²)	普通タイプ	５．０以上		
	透水性タイプ	３．０以上		
	植生用タイプ	４．０以上		
透水係数(cm/sec)	透水性タイプ	1×10^{-2} 以上		
圧縮強度(N/mm²)	普通タイプ	３２．０以上		
	透水性タイプ	１７．０以上		

・ 舗石舗装（石材は、JIS A 5003 の ２等品）　(22.9.2～3)

種　類	厚さ(mm)	施工方法	基　層
※ 小舗石（花こう岩）	※ 80～100　・	※ うろこ張り	※ コンクリート舗装
・	・	・	・ アスファルト舗装

⑮ 砂利敷き

⊙ Ａ種　・ Ｂ種　(22.10.2)(表 22.10.1)

⑯ 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	揮発性有機溶剤の含有率
・ １種 G	常温	液状	※ 白	※ 150	※ 1.0	塗料総質量に対して
・ ２種 G	加熱		・	・	・	5% 以下
※ ３種１号	溶融	粉体状				

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	NO SCALE
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	特記仕様書（7）
No.	特-07

工　事　区　分　表

躯体関係

項目		建築	電気	機械			備考
1．RC造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部（基礎部）	貫通スリーブ材及び取付け	○	○	○			
	補強を要する型枠材及び取付け	○					
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○			
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○			
	貫通孔・開口部の施工	○					
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○			防火区画・防煙区画
	埋込形盤類及び、箱類の型枠	○					
~~2．土間基礎・ピット貫通孔~~	~~S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強~~						
	~~使用されたスリーブの穴埋め~~						
	~~予備スリーブの穴埋め~~						
	~~貫通孔・開口部のスキ出し~~						
3．設備機器の基礎	建築設計図に記入あるもの	○					
	室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）		○	○			
	屋外・屋上の基礎　AC ~~受水槽・キュービクル~~	○					
4．昇降機関連	昇降路・機械室の躯体	○					
	機械室の床開口	○					
	機械室の床配管ピット・蓋・防油堤	○					
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	○					
	昇降路内ピット防水・集水桝・点検用タラップ	○					
	各階出入口穴あけ・同補強	○					
	出入口扉・三方枠	○					
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補強	○					
	昇降路がＲＣ造の時、軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式	○					
	機械室天井フック取付	○					
	ホール押釦・インジケータ・損素などの壁開口	○					
	~~機械室換気設備~~						
	昇降路がＳ造の時の中層ビームブラケット受けピース	○					
	ＥＶ機械室からインターホンまでの配線工事		○				
	ＥＶ機械室からインターホンまでの配管工事		○				
5．その他	トラフ・ピット類（ふたを含む）	○					
	~~湧水・汚水~~ピット・ＲＣ造各種水槽	○					
	~~床上用防水~~・マンホール・タラップ式	○					
	~~避雷設備・同接地工事~~		○				
	ＡＬＣ板の壁開口部・補強	○	○				
	~~排房排水溝~~						
	~~厨房グリース阻集器~~						
	~~オイルサービスタンクの防油堤~~						
	~~ゴリーアクセスフロア内の防水堤~~						

仕上げ関係

項目		建築	電気	機械			備考
1．軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○					
	補強を要しないボードの切り込み		○	○			
	開口部の墨出し		○	○			
	軽量鉄骨壁のボックス取付金具及びその取付		○				
	点検口設置の下地の補強	○					
2．既製間仕切り	切り込み及び補強	○	○	○			
	位置ボックス	○	○	○			
3．吊りボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○			
4．外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○		○			
	ウェザーカバー、ベントキャップ			○			
	換気扇			○			
5．流し台まわり	流し台・つり戸棚・~~水切り棚・ビルトインガスコンロ~~	○					
	~~レンジフード~~						
	換気機器			○			
~~6．浴室まわり~~	~~ユニットバス、シャワーユニット~~						換気扇・照明共
	~~既製浴槽（ふたをむく）~~						
	~~洗濯機パン~~						
	~~浴室及び便所の床排水金物~~						
7．便所まわり	~~洗面カウンター~~						
	化粧鏡			○			
	衛生器具			○			
	便所用手すり			○			
	衛生器具、手すり補強下地	○					
8．事務室ほか	~~ファンコイルカバー~~						
	家具組み込みの洗面器	○					
	~~洗面化粧台~~						
9．配線ピット	コンセント・電話・情報等		○				
	複合アウトレット用開口	○					
	予備開口　及びブレート	○					
10．その他	~~主要ピット及びトレンチのマンホールふた~~						
	~~機器搬入用フック・ビーム~~						
	~~チェンブロック~~						
	~~化粧マンホールふたの表面仕上げ~~						
	点検口（天井・床下）	○					
	~~排煙口等の天井仕上材の取付け~~						
	~~自動開鎖装置を取り付る防火戸の切り込み補強及びドアチェッカー、フロアヒンジ~~						
	~~消火器BOX設置工事~~						
	消火器			○			
	洗面器取付の下地の補強	○					
	誘導標識	○					
	ＡＬＣ板・石の設備機器取付用穴明け	○					
	一般用手すり	○					
	防火戸	○					
	~~防火シャッター~~						
	~~ガスもれ~~						

屋外排水設備・外構

項目		建築	電気	機械			備考
1．雨水	屋外雨水排水設備	○					
	桝及び桝ふた	○					
	雨水タテ樋	○					
2．雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○			
	桝及び桝ふた			○			
	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	○					
3．植栽	植栽及び客土	○					
	樹木の伐採・伐根	○					
~~4．オーケート防湿化槽の基礎~~	~~ピット形の躯体及び砂充填~~						
	~~土砂以外のユニット形浄化槽本体・配管及び据付等~~						
	~~ピット形以外~~						
~~5．重油オイルタンク~~	~~タンク室の躯体及び砂充填~~						
	~~土砂以外のオイルタンク本体・配管及び据付等~~						
	~~タンク室形以外~~						
6．その他	換気扇類スイッチ		○	○			強弱コントロールスイッチは機械設備
	換気扇類スイッチ設置・配線		○				
7．空調設備	空調機　室外機電源		○				
	空調機　室内機電源		○				
	室内機～室内機制御配線			○			
	室内機～リモコン間制御配線			○			
	空調室外機基礎	○					
	機器用架台類			○			
	全熱交換機電源		○				
	全熱交換機～リモコン間配線			○			
	全熱交換形換気扇の操作スイッチ			○			
	壁掛全熱交換機～リモコン間配線		○				

電気配線配管

項目		建築	電気	機械			備考
1．配管配線	機器附属の制御盤以降の配管配線（接地線共）			○			2次側
	機器附属の制御盤への電源供給配管配線		○				1次側
	自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管配線		○				
	機器と附属操作スイッチの渡り配管配線		○	○			
	~~中優器用節水装置の制御盤以降の配管配線~~						
	~~注油口内子ース端子より子ース用配管配線~~						
	機器類・実験台などへの接続（直接接続するもの）		○				
	~~天井吊り形ＦＣＵ及び全熱交換形換気扇と操作スイッチとの渡り配管及び位置ボックス~~						
	~~天井吊り形ＦＣＵ及び全熱交換形換気扇と操作スイッチとの渡り配線~~						
	~~電機錠~~						
2．その他	工事用電力・水道・下水・燃料	○	○	○			
	受電後の電力費料金	○	○	○			（引渡しまでの間）
	各種申請手続き等（建築基準法、労働基準法、消防法他）	○	○	○			
	仮設の設置撤去（仮囲い、内外部足場）	○					（電気・機械の単独工事分は各々設置撤去）

■建築基準法

法第26条	（防火壁）耐火建築物のため該当せず	不要	
法第27条	（耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物）	該当　耐火建築物	適合
法第28条1項	（居室の採光）必要採光面積　1/5以上	該当　※基準法による開口面積の検討参照	適合
法第28条2項	（居室の換気）必要換気面積1/20以上	該当　※基準法による開口面積の検討参照	適合
法第28条3項	（火気使用室の換気）　（機械設備工事）	該当	適合
法第33条	（避雷設備）	不要	
法第35条	（避難及び消火に関する基準）　令116条の2で定める窓その他の開口部を有しない居室等	該当	適合
	令第119条（廊下の幅）	該当　⇒中廊下→2.3m以上、片廊下→ 1.8m以上	適合
	令第120条（直通階段）　主要構造部が耐火構造	該当　⇒居室からの歩行距離50m（内装制限なし）	適合
	令第121条（２以上の直通階段の設置）	該当	
	令第122条（避難階段の設置）	該当せず	
	令第125条（屋外への出口）	該当　⇒階段から屋外：50m以内、居室の各部分から：100m以内	適合
	令第126条	該当せず	
	令第126条の2（排煙設備）	不要	
	令第126条の4（非常用照明）	不要	
	令第126条の6（非常用進入口）　３階以上の階	該当	適合
	令第128条（敷地内の通路）　出口から道に通ずる幅員1.5m以上の通路設置	該当	適合
法第35条の2	（特殊建築物、火気使用室の内装制限）令128条の4により該当せず	該当	適合
法第35条の3	（無窓の居室等の主要構造部）	該当せず	
法第36条	（第2章の規定を実施し、又は補足するため必要な技術的基準）		
	令第21条（居室の天井高さ）　2.1m以上	該当	適合
	令第23条（階段の寸法）　階段の有効幅 1,610　蹴上154.2　踏面270	該当　階段の有効幅1400 以上　蹴上160以下　踏面260以上 直上階の居室床面積　199.66㎡	適合
	令第24条（踊場の位置）　高さ3m超	該当	適合
	令第25条2項（階段等の手摺）	該当	適合
	令第25条3項（階段等の手摺）　階段の幅≦3m	不要	
	令第112条1項（防火区画）　面積区画（1,500㎡以内）	該当	適合
	令第112条9項（防火区画）　竪穴区画　3階に居室	該当	適合
	令第114条（界壁等）	該当	適合
法第52条2項	前面道路幅員による容積率：　幅員8.000m	該当	適合
法第56条の2	（日影規制）	該当　日影規制：第１種住居地域	適合
法第22条	（外壁の開口部の防火戸）　延焼のおそれのある部分には防火設備設置	該当	適合

耐火仕様					※括弧内数値については、基準法上要求時間を示す。
外壁	鉄筋コンクリート造　ｔ＝120以上	耐火２時間	建令107　H12建告1399	（１階：耐火２時間　２階～５階：耐火１時間）	
外壁	鉄筋コンクリート造　ｔ＝120	耐火２時間	建令107　H12建告1399	（１階：耐火２時間　２階～５階：耐火１時間）	
屋根	鉄筋コンクリート造　ｔ＝120	耐火２時間	建令107　H12建告1399	（耐火30分）	
屋根	長尺カラーGL鋼板丸馳折板葺き　H=100　t=0.8 無機質高充填フォーム裏貼　t=4	耐火30分	FP030RF-1451-1	（耐火30分）	
RC梁（２G）	鉄筋コンクリート造　ｔ＝3以上（かぶり厚さ）	耐火２時間	建令107　H12建告1399	（耐火２時間）	
RC梁（3G～RG）	鉄筋コンクリート造　ｔ＝3以上（かぶり厚さ）	耐火２時間	建令107　H12建告1399	（耐火１時間）	
RC柱（2C～5C）	鉄筋コンクリート造　ｔ＝3以上（かぶり厚さ）	耐火２時間	建令107　H12建告1399	**（耐火２時間）**	
S柱（１C）	岩綿吹付　カサ比重0.28以上　ｔ＝25	耐火２時間	FP120CN-9463	**（耐火２時間）**	※主要構造部でない部材（小梁等）については耐火被覆なし。
階段	鉄筋コンクリート造			（耐火30分）	
延焼の恐れのある部分の開口部　：　準防火構造					

■消防法

対象条件	設置すべき消防用設備等
延べ面積　延べ面積　2158.845㎡	誘導標識　消火機器　自動火災報知設備　屋内消火栓　消防機関へ通報する火災報知設備
階の規模　地上3階	消火機器　自動火災報知設備
収容人員　収容人員　3階164人	非常警報設備　法第22条 防火管理者の選任　避難器具（救助袋）

■福祉のまちづくり条例

出入口	直接地上へ通ずる出入口巾	80cm以上	ＯＫ
	室の出入口巾	80cm以上	ＯＫ
	自動的に開閉する構造	自動開閉なし	ＯＫ
	車いす使用者が円滑に開閉して通過出来る構造	引戸	ＯＫ
	支障となる段を設けないこと	段なし	ＯＫ
廊下等	表面は滑りにくい材料で仕上る	ビニル床シート（防滑仕様）	ＯＫ
	段を設ける場合の構造	段なし	ＯＫ
	直接地上へ通ずる出入口から不特定多数が利用する各室の出入口に至る通路巾	120cm以上	ＯＫ
	同通路末端	車いすの回転に支障のないもの	ＯＫ
	同通路　車いす転回部分	50m以内ごと（廊下長さ50m未満）	ＯＫ
	高低差がある場合の措置	傾斜路設置	ＯＫ
	昇降機、車いす用昇降機の昇降路の出入口に接する部分は、水平とする	段なし	ＯＫ
	傾斜路及び踊り場	傾斜路勾配1/12以下、踊り場なし	ＯＫ
便所（多目的トイレ）	車いす使用者が円滑に利用することができる床面積		ＯＫ
	腰かけ便座、手摺の適切な配置		ＯＫ
	出入口の巾	80cm以上	ＯＫ
	便所、便房の出入口の戸は車いす使用者が円滑に開閉して通過できる構造	引戸	ＯＫ
	車いす使用車便房を設置した旨を出入口付近に表示する		
	操作が容易な洗面器の設置		
駐車場	車いす使用者が利用する駐車部分を設けること	表示	ＯＫ
	施設出入口から車いす使用者駐車場施設へは出来るだけ距離が短くなるように設置する		ＯＫ
	駐車スペースの巾	350cm以上	ＯＫ
	施設出入口から駐車スペースまで至る駐車場内の経路は「敷地内の通路」に準じたもの		ＯＫ
階段	手摺を設ける		ＯＫ
	主たる階段には回り段を設けない		ＯＫ
	表面は粗面とし滑りにくい材料で仕上げる	ビニル床シート（防滑仕様）	ＯＫ
	つまづきにくい構造		ＯＫ
	段を識別しやすいものとすること		ＯＫ
敷地内の通路	表面は粗面、あるいは滑りにくい材料で仕上げること	アスファルト舗装	ＯＫ
	段を設ける場合は「階段」に準じること	段なし	ＯＫ
	施設出入口から道、空地、駐車場への通路巾	120cm以上	ＯＫ
	高低差がある場合は傾斜路、踊り場を設ける	傾斜路	ＯＫ
	通路を横断する排水溝を設ける場合はつえ、車いすのキャスターが落ち込まない溝蓋を設置		ＯＫ
	傾斜路、踊り場は「廊下等」に準じる		ＯＫ

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　F第38252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺　A1 NON　A3 NON

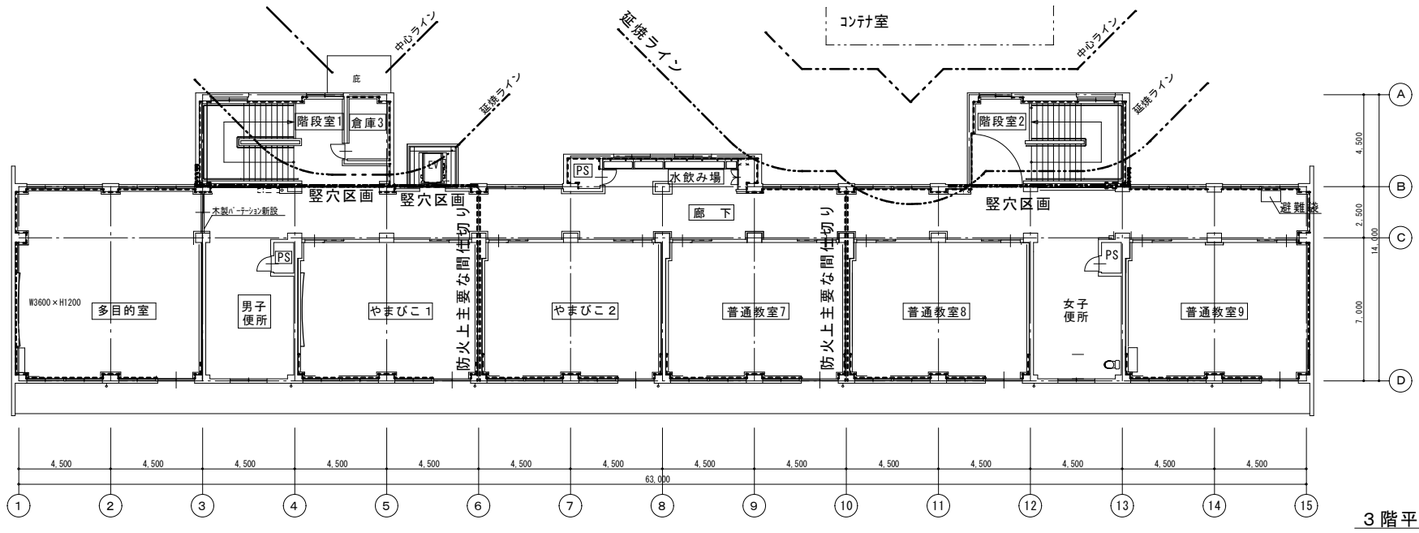
設計年月日　R5.8.11

工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

図面名称　法チェック図

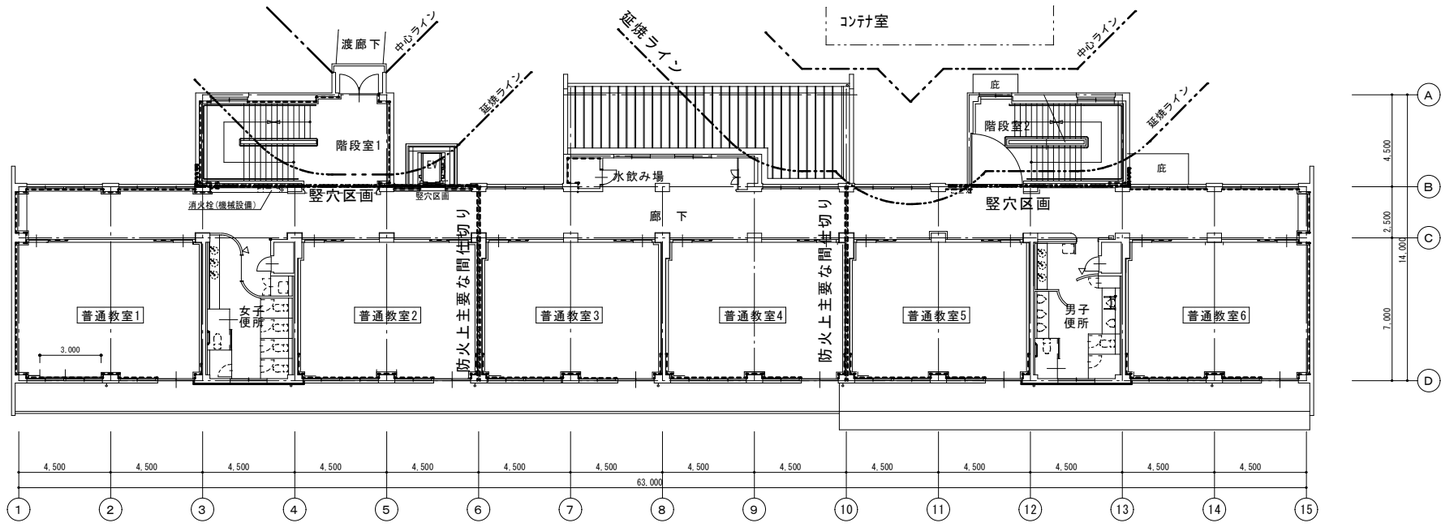
No. A-02

凡例
- 竪穴区画
- 延焼ライン
- 延焼ライン中心線



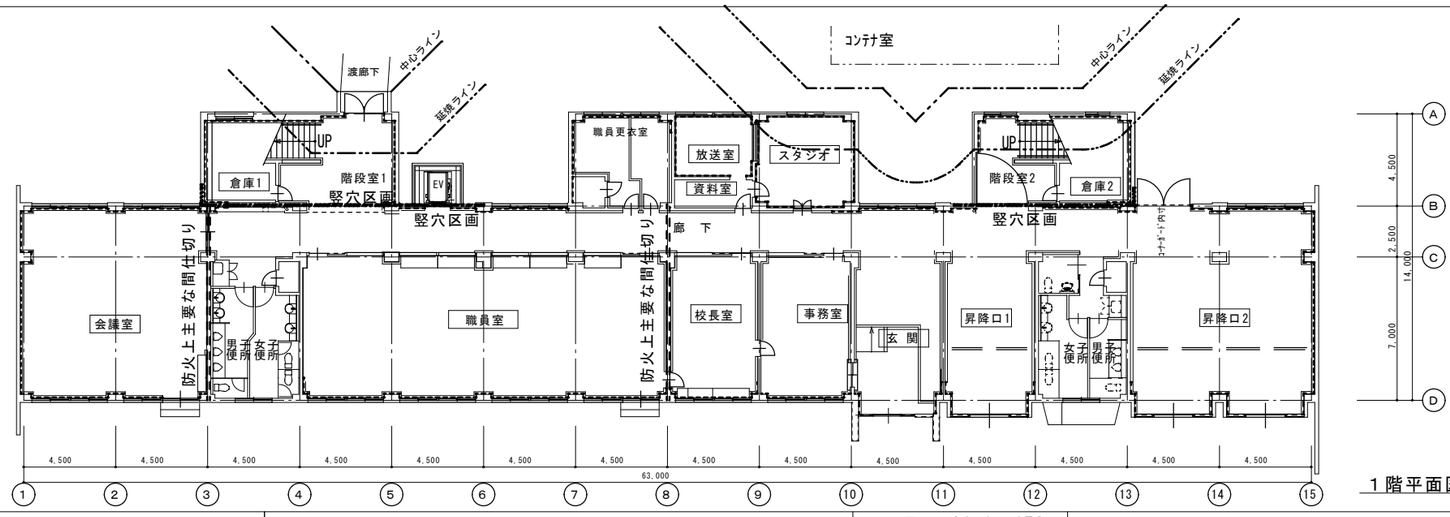
3階平面図（改修図）

凡例
- 竪穴区画
- 延焼ライン
- 延焼ライン中心線



2階平面図（改修図）

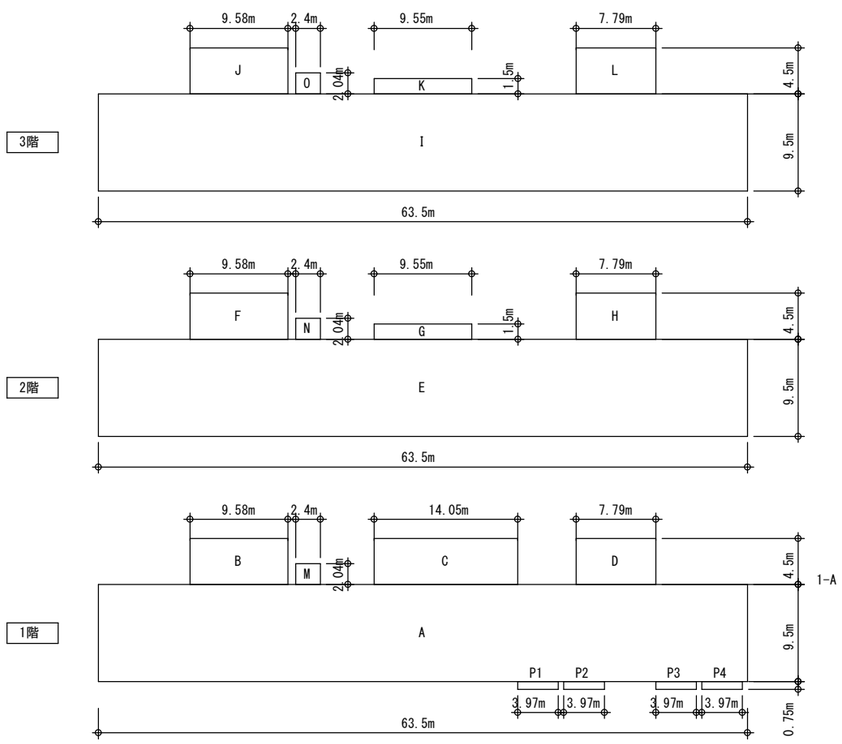
凡例
- 竪穴区画
- 延焼ライン
- 延焼ライン中心線

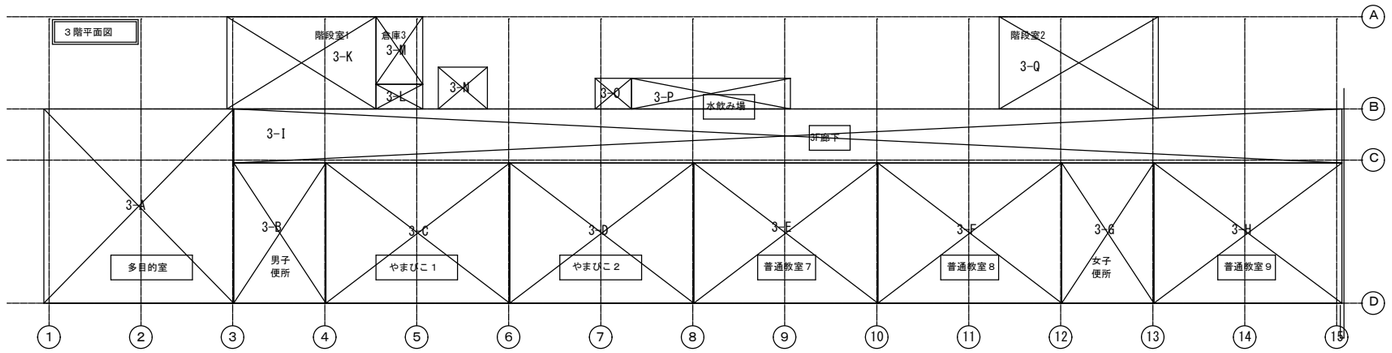


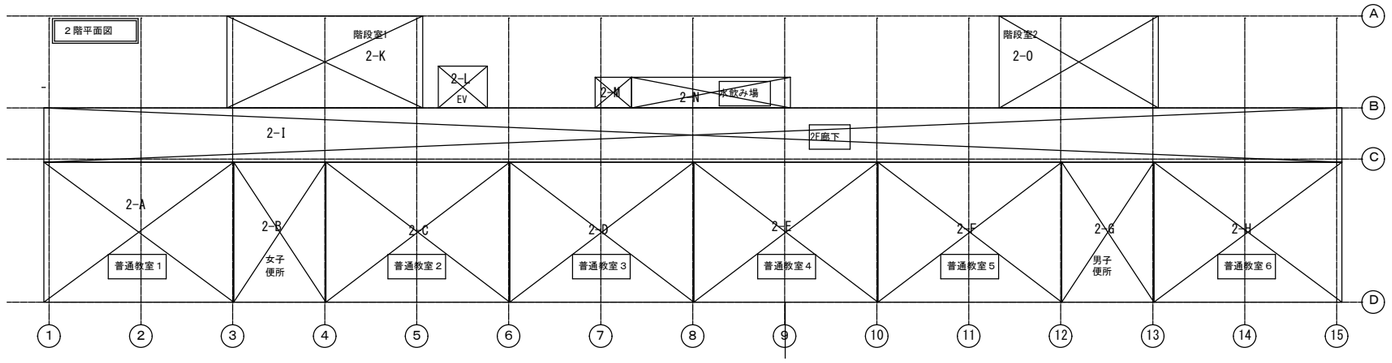
1階平面図（改修図）

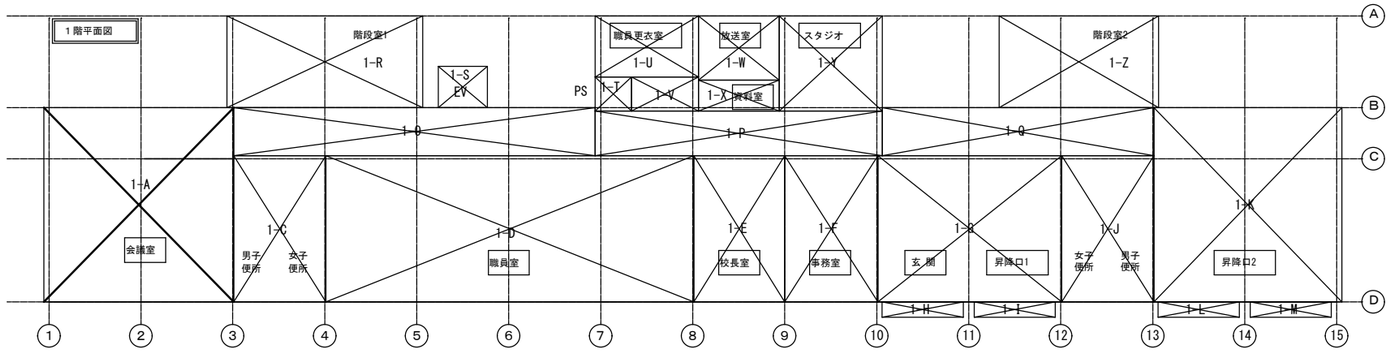
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1 1：150 A3 1：300	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	法チェック図2
		No.	A-02-2









1階　761.446 m2

A：	63.5	×9.5 = 603.25
B：	9.58	×4.5 = 43.11
C：	14.05	×4.5 = 63.225
D：	7.79	×4.5 = 35.055
M：	2.04	×2.4 = 4.896
P1：	3.97	×0.75= 2.9775
P2：	3.97	×0.75= 2.9775
P3：	3.97	×0.75= 2.9775
P4：	3.97	×0.75= 2.9775

2階　700.636m2

E：	63.5	×9.5 = 603.25
F：	9.58	×4.5 = 43.11
G：	9.55	×1.5 = 14.325
H：	7.79	×4.5 = 35.055
N：	2.04	×2.4 = 4.896

3階　700.636m2

I：	63.5	×9.5 = 603.25
J：	9.58	×4.5 = 43.11
K：	9.55	×1.5 = 14.325
L：	7.79	×4.5 = 35.055
O：	2.04	×2.4 = 4.896

合計　2,161.718 m2

各室面積 m2

1階

会議室	1-A	9.3 ×9.5 = 88.35	階段室1	1-R	9.58 ×4.5 = 43.11
男子女子便所	1-C	4.5 ×7.15 = 32.175	EV	1-S	2.4 ×2.04 = 4.896
職員室	1-D	18.0 ×7.15 =128.7	PS	1-T	1.775×1.665= 2.955375
校長室	1-E	4.45 ×7.15 = 31.8175	職員更衣室	1-U	5.05 ×3.0 = 15.15
事務室	1-F	4.55 ×7.15 = 32.5325		1-V	3.275×1.665= 5.452875
玄関・昇降口1	1-G	9.0 ×7.15 = 64.35	調整室	1-W	3.95 ×3.15 = 12.4425
	1-H	3.97 ×0.75 = 2.9775	資料室	1-X	3.95 ×1.515= 5.98425
	1-I	3.97 ×0.75 = 2.9775	スタジオ	1-Y	5.05 ×4.665= 23.55825
男子女子便所	1-J	4.55 ×7.15 = 32.5325	階段室2	1-Z	7.79 ×4.5 = 35.055
昇降口2	1-K	9.2 ×9.5 = 87.4			
	1-L	3.97 ×0.75 = 2.9775			
	1-M	3.97 ×0.75 = 2.9775			
1階廊下	1-O	17.675×2.35 = 41.53625			
	1-P	14.05 ×2.185= 30.69925			
	1-Q	13.275×2.35 = 31.19625			

761.446m2

2階

普通教室1	2-A	9.3 ×9.5 = 88.35
女子便所	2-B	4.5 ×7.0 = 31.5
普通教室2	2-C	9.0 ×6.85 = 61.65
普通教室3	2-D	9.0 ×6.85 = 61.65
普通教室4	2-E	9.0 ×6.85 = 61.65
普通教室5	2-F	9.0 ×6.85 = 61.65
男子便所	2-G	4.5 ×7.15 = 30.825
普通教室6	2-H	9.2 ×9.5 = 87.4
廊下	2-I	63.5 ×2.65 =168.275
~~2-J~~	~~—~~	~~—~~
階段室1	2-K	9.58 ×4.5 = 43.11
EV	2-L	2.4 ×2.04 = 4.896
PS	2-M	1.775×1.5 = 2.6625
水飲み場	2-N	7.775×1.5 = 11.6625
階段室2	2-O	7.79 ×4.5 = 30.055

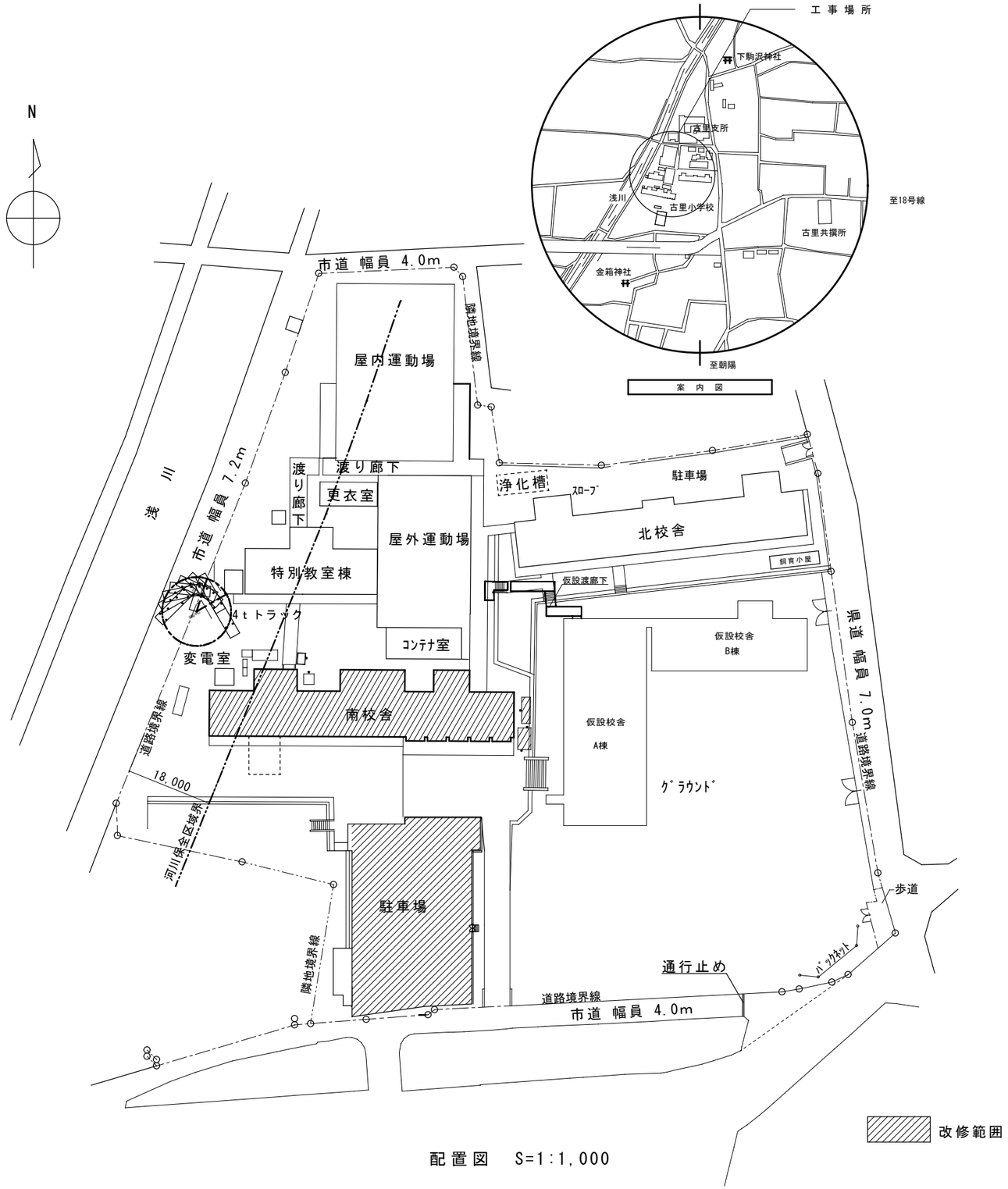
700.636m2

3階

多目的室	3-A	9.3 ×9.5 = 88.35
男子便所	3-B	4.5 ×7.0 = 31.5
やまびこ1	3-C	9.0 ×6.85 = 61.65
やまびこ2	3-D	9.0 ×6.85 = 61.65
普通教室7	3-E	9.0 ×6.85 = 61.65
普通教室8	3-F	9.0 ×6.85 = 61.65
女子便所	3-G	4.5 ×7.15 = 30.825
普通教室9	3-H	9.2 ×9.5 = 87.4
廊下	3-I	54.2 ×2.65 =143.63
~~3-J~~	~~—~~	~~—~~
階段室1	3-K	7.29 ×4.5 = 32.805
	3-L	2.29 ×1.2 = 2.748
倉庫3F	3-M	2.29 ×3.3 = 7.557
EV	3-N	2.4 ×2.04 = 4.896
PS	3-O	1.775×1.5 = 2.6625
水飲み場	3-P	7.775×1.5 = 11.6625
階段室2	3-Q	7.79 ×4.5 = 30.055

700.636m2

相互一級建築士事務所	長野市北尾張部765	縮　尺	A1 1：150 A3 1：300
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号		工事名	国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
一級建築士登録　第293036号	相野　徹	設計年月日	R7.2.28
		図面名称	求積図（建物）
		No.	A-03



配置図　S=1:1,000

概略工事工程表

工　種	R8				9月	10月	11月	12月	R9 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R10 1月	2月	3月
仮設校舎（別途工事）					建設																	撤去	
仮設工事									準備工	外部足場設置								外部足場撤去					
撤去工事										撤去工事													
屋根工事										屋根工事													
内外装工事												内外装											
塗装工事																		外壁塗装					
EV棟・コンテナ室										コンテナ室改築			エレベーター棟建設										
駐車場																			舗装工事				
学　校							引越	冬休み			春休み				夏休み				引越	冬休み			

※仮設校舎への引っ越し完了後、工事着手となるため、実工期間については、１１カ月とする。
なお、コンテナ室改築工事部については、新営工事とし、実工期７か月とする。

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：500 A3 1：1000	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-04
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　配置図・案内図	

既存外部仕上(南校舎)

部位	仕様	
屋根	折板（カクイチ断熱瓦棒葺き Eタイプ）t0.5(放送室、塔屋共)撤去	D
	下地母屋C-100×50×20×1.6　撤去	D
外壁	モルタル刷毛引き､アクリルリシン吹付（下地ﾓﾙﾀﾙ★アスベスト含有）残置、打継目地コーキング（★アスベスト含有）撤去　建具回りコーキング（★アスベスト含有）撤去	E
	一部コンクリート打放し	E
柱型･梁型	柱型:オーバーレイ合板 打放し､防水材(シリコン)吹付､打継目地コーキング（★アスベスト含有）撤去	E
	梁型:オーバーレイ合板 打放し､防水材(シリコン)吹付	E
庇	ベニヤ打放し アクリル系リシン吹付　RF　P.H出入口庇：撤去	E
		E
ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ	スラブ下地コンパネ打放し 梁型:オーバーレイ合板打放し 防水剤吹付 モルタル防水 2層(和光寒冷地仕様同等)塗り★ フロアドレインBC100φ撤去　スチール手すり撤去	E,D
	軒天：打放しアクリルリシン吹付（下地ﾓﾙﾀﾙ★アスベスト含有）　昇降口・玄関：アルミ角波板撤去（下地共）	E,D
樋	竪樋：GP100φOP､受金物(FB6×25 OP @1,500) 持ち金物(FB4.5 OP 重ね丁番造り @1500)　撤去	D
	軒樋：谷コイル（ナショナル）又は同等品、亜鉛鉄板22#　200×200　OP　受金物　FB6×25　@900　撤去	D
巾木	モルタル金ゴテ★	F
笠木	パラペット：プレコン（2,3階）撤去　屋上：カラー鉄板#26　撤去	D

改修外部仕上(南校舎)

部位	仕様
屋根	完全嵌合式折板　t=0.8　裏貼り高充填フォームプラスチックt=4.0　山高100　働き幅500　下屋部屋根共　新設
	下地母屋C-100×50×20×2.3　新設
外壁	ひび割れ補修の上水洗い　下地調整塗材(C-2)塗布　可とう形改修用仕上塗材E(耐候性1種)上塗り水系　　打継目地：シーリング打ち替え
	打放部：防水型複層塗材E　　便所：湿式外断熱EPSｔ50（難燃性）
柱型･梁型 基礎	打放部：防水型複層塗材E　　基礎：防水型複層塗材E
	打継目地：シーリング打ち替え
庇	ひび割れ補修の上水洗い　ウレタン塗膜防水X-2　粗面仕上げ　新設　　RF　P.H出入口庇：撤去　アルミ庇（既製品）新設
	軒天：外装薄塗材E塗
ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ	水洗い　ウレタン塗膜防水X-2　粗面仕上げ　新設　　手すり：アルミ製H1100笠木共　新設
	軒天：外装薄塗材E塗　　昇降口・玄関：アルミスパンドレルｔ0.6　幅120　下地LGS共　新設
樋	竪樋：アルミ既製品φ114ﾊﾞﾝﾄﾞﾚｽﾀｲﾌﾟ　受金物 @2,900新設
	軒樋：高耐候性塩ビシート複合鋼板t1.6(ｼｰﾄt1.2+塗装ｶﾞﾙﾐ亜鉛ﾒｯｷ鋼板t0.4)　新設　下屋部･PH軒樋　アルミ既製品185×120　受金物アルミ既製品共@455　新設
巾木	モルタル金ゴテ（欠損部新設）+ウレタン塗膜防水立上り新設
笠木・てすり	パラペット笠木：アルミ既製品（2,3階）（支持金物共）新設　屋上：アルミ既製品（支持金物共）　新設
	ベランダ手すり：アルミ既製品（2,3階）（支持金物共）笠木に取付　新設

既存内部仕上(南校舎)

階	室名（既存名称）	下地	床	記号内容	下地	巾木	記号内容	下地	腰壁	壁	記号内容	下地	天井	CH	記号内容	備考	記号内容
1	昇降口1，2	M	人研　真鍮目地切	C		人研　H=100	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	F	S	有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9目ｽｶﾝ貼	2610	C	下足入　傘立て　掃除用具入	A
		M	ビニル床シート★	C					サテン塗り	サテン塗り	F						
	玄関	M	磁器質タイル100角	C	M	人研　H=100	F	W	カラマツ羽目板	カラマツ羽目板	C	S	有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9目ｽｶﾝ貼	2610	C		
		M	ビニル床シート★	C													
	事務室	M	モザイクパーケット	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	W	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	F	S	有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9貼	3100	C	行事用黒板 掲示板 洗面台 ｶﾞﾗｽ棚	A
			アイラック（塗装）			VP			サテン塗り	サテン塗り			ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　ｻﾃﾝ塗り（梁型）		F	鏡400×400､ﾛｯｶｰ､棚	A
	校長室	M	モザイクパーケット	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	W	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	F	S	有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9貼	3100	C	掲示板　行事用黒板900×1800	A
			アイラック（塗装）			VP			サテン塗り	サテン塗り			ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　ｻﾃﾝ塗り（梁型）		F	流し台(ｶﾞｽ台付)ﾛｯｶｰ､掃除用具入れ	A
	職員室	M	ビニル床シート★	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	W	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	F	S	有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9貼	3100	C	行事用黒板1200×3600 掲示板	A
						EP			サテン塗り	サテン塗り			ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　ｻﾃﾝ塗り（梁型）		F	一般黒板900×1800 流し台 吊戸棚	A
	ふるさと	M	ビニル床シート★	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	W	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　★	F	S	有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9貼	3100	C	流し台1800､暗幕用ﾚｰﾙ	A
						EP			サテン塗り	サテン塗り			ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　ｻﾃﾝ塗り（梁型）		F		
	スタジオ	M	サニータウン(ｶｰﾍﾟｯﾄ)★	C	M	木製　OP　H100	A	W	有孔ﾍﾞﾆﾔｔ6　UC	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ厚20　PB9	C	S	有孔石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9下地	2600	C	二重窓、暗幕用ﾚｰﾙ､暗幕､換気扇	A
			同等品						GWｔ20+PB9下地	有孔ﾍﾞﾆﾔｔ6 CL			ｸﾞﾗｽｳｰﾙt=70 ｻﾃﾝﾈｯﾄ張り				
	調整室	M	サニータウン(ｶｰﾍﾟｯﾄ)★	C	M	木製　OP　H100	A	W	有孔ベニヤｔ6 CL	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ厚20　PB9	C	S	吸音ﾎﾞｰﾄﾞ　303□	2600	C	二重窓､行事用黒板､棚(ﾚｺｰﾄﾞ用)	A
			同等品						GWｔ20+PB9下地	有孔ﾍﾞﾆﾔｔ6 CL						暗幕用ﾚｰﾙ､暗幕	A
	資料室	M	サニータウン(ｶｰﾍﾟｯﾄ)★	C	M	木製　OP　H100	A	W	有孔ベニヤｔ6 CL	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ厚20　PB9	C	S	吸音ﾎﾞｰﾄﾞ　303□	2600	C	棚	A
			同等品						GWｔ20+PB9下地	有孔ﾍﾞﾆﾔｔ6 CL							
	職員更衣室	M	カラークリート	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ　EP　★	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	–	木毛板t=15打込み 色ｾﾒﾝﾄ吹付	–	F	棚	A
						VP											
	物入れ（倉庫1，2）	M	カラークリート	F	M	–	–	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	–	木毛板t=15打込み 色ｾﾒﾝﾄ吹付	–	F	棚	A
2	教室	M	モザイクパーケット	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	有孔PB t=9 目すかしEP	3050	C	曲面黒板(ｽﾁｰﾙ製)一般黒板､教師ﾛｯｶｰ	A
			アイラック（塗装）			VP			サテン塗り	サテン塗り	F	S	PB t=9 目地張りEP ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ ｻﾃﾝ塗り★			生徒ﾛｯｶｰ､掃除ﾛｯｶｰ､観察台、暗幕ﾚｰﾙ	A
3	教室 やまびこ1，2	M	モザイクパーケット	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★一部ﾍﾞﾆﾔ	F	S	有孔PB t=9 目すかしEP	3050	C	曲面黒板(ｽﾁｰﾙ製)一般黒板､教師ﾛｯｶｰ	A
			アイラック（塗装）			VP			サテン塗り	サテン塗り	F	S	PB t=9 目地張りEP ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ ｻﾃﾝ塗り★			生徒ﾛｯｶｰ､掃除ﾛｯｶｰ､観察台、暗幕ﾚｰﾙ	A
	物入れ（倉庫3）	M	カラークリート	F	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	有孔PB t=9 目すかしEP	2300	C	ｽﾄｰﾌﾞ入れ棚	A
	被服室	M	ビニル床シートt=2　★	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	有孔PB t=9 目すかしEP	3050	C	ｽﾄｰﾌﾞ入れ棚	A
									サテン塗り	サテン塗り	F	S	PB t=9 目地張りEP ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ ｻﾃﾝ塗り★				
共通	廊下	M	ビニル床シートt=2　★	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	有孔化粧石こうボード　t=9	3050	C	傘掛け(ﾌｯｸ付45ヶ)	A
						VP							目すかし EP				
	階　段	M	ビニル床シートt=2　★	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	モルタル金ゴテ★ サテン塗り	3050	F	手すり付	A
						VP											
	水飲み場	M	ビニル床シートt=2　★	C	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞt=9貼	3050	C	掃除用ｼﾝｸ､温水器､洗面流し	A
			人研目地	C		VP											
	男子便所	M	ビニル床シートt=2　★	F	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	化粧石こうボード　t=9.5	2600	F		
			便器改修部のみ仕上撤去	B	M	モルタル金ゴテH=100★	F	S	一部化粧ｹｲｶﾙ板T6	一部化粧ｹｲｶﾙ板T6	F	S	上階便器改修部のみ撤去		B		
	女子便所	M	ビニル床シートt=2　★	F	M	モルタル金ゴテH=100★	F	M	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ★　EP	F	S	化粧石こうボード　t=9.5	2600	F		
			便器改修部のみ仕上撤去	B	M	モルタル金ゴテH=100★	F	S	一部化粧ｹｲｶﾙ板T6	一部化粧ｹｲｶﾙ板T6	F	S	上階便器改修部のみ撤去		B		
PH	高架水槽室	M	ﾓﾙﾀﾙ防水金ｺﾞﾃ押え	F	M	モルタル金ゴテH=100★	F		ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き★	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き★	F		木毛板t=15 打込 ｶﾗｰｾﾒﾝﾄ吹付		E	出入口庇撤去	

改修内部仕上(南校舎)

階	室名	下地	床	改修内容	下地	巾木	改修内容	下地	腰壁	改修内容	下地	壁	記号内容	下地	天井	CH	記号内容	備考	
1	昇降口1，2	M	磁器質タイル100角	c	S	磁器質タイル100角	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5　目透かし張　UC	c	S	化粧石こうボード　t=9.5	2615	c		
		M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.0 ﾓﾙﾀﾙｔ28	c	S	木製　UC　H100	a	S	下地合板ｔ9　H900	c		下地PB12.5							
	玄関	M	磁器質タイル100角	c	S	磁器質タイル100角	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5　目透かし張　UC	c	S	化粧石こうボード　t=9.5	2615	c		
		M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.0 ﾓﾙﾀﾙｔ28	c	S	木製　UC　H100	a	S	下地合板ｔ9　H900	c		下地PB12.5							
	事務室	M	天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	c	S	木製　UC　H100	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5 目透し張 UC 下地PB12.5	c	S	化粧石こうボード t9.5	3100	c	カーテン	
			t15塗装品　下地ﾓﾙﾀﾙｔ15					S	下地合板ｔ9　H900	c	S	一部掲示クロス張り 下地合板t5.5+PB12.5	c						
	校長室	M	天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	c	S	木製　UC　H100	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5　目透かし張　UC	c	S	化粧石こうボード　t=9.5	3100	c	カーテン	
			t15塗装品　下地ﾓﾙﾀﾙｔ15					S	下地合板ｔ9　H900	c	S	下地PB12.5							
	職員室	M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.0 ﾓﾙﾀﾙｔ28	c	S	木製　UC　H100	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5 目透し張 UC 下地PB12.5	c	S	化粧石こうボード　t=9.5	3100	c	流し前面化粧ｹｲｶﾙ板貼	
								S	下地合板ｔ9　H900	c	S	一部掲示クロス張り 下地合板t5.5+PB12.5	c		梁型:PB12.5下地シナ合板t5.5			耐水合板ｔ9下地 カーテン	
	会議室	M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.0 ﾓﾙﾀﾙｔ28	c	S	木製　UC　H100	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5　目透かし張　UC	c	S	吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t9.5	3100	c	カーテン	
								S	下地合板ｔ9　H900	c	S	下地PB12.5			梁型:PB12.5下地シナ合板t5.5				
	スタジオ	M	ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄt6.5	c	S	木製　UC　H100	a	S	–		S	有孔ｼﾅ合板t=6.0　目透かし張　UC	c	S	ロックウール吸音板　t=9	2600	c	天井裏:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ25kgt100	
											S	裏面t=50ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填寒冷紗貼り			石膏ﾎﾞｰﾄﾞt9.5下地			暗幕	
	放送室	M	ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄt6.5	c	S	木製　UC　H100	a	S	–		S	有孔ｼﾅ合板t=6.0　目透かし張　UC	c	S	ロックウール吸音板　t=9	2600	c	天井裏:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ25kgt100	
											S	裏面t=50ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填寒冷紗貼り			石膏ﾎﾞｰﾄﾞt9.5下地			暗幕	
	資料室	M	ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄt6.5	c	S	木製　UC　H100	a	S	–		S	有孔ｼﾅ合板t=6.0　目透かし張　UC	c	S	ロックウール吸音板　t=9	2600	c	天井裏:ｸﾞﾗｽｳｰﾙ25kgt100	
											S	裏面t=50ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填寒冷紗貼り			石膏ﾎﾞｰﾄﾞt9.5下地				
	職員更衣室	M	ビニル床シートt=2.0	c	S	ﾋﾞﾆﾙ巾木　H60	a	S	–		S	PB12.5下地ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ貼り	c	S	化粧石こうボード　t=9.5　下地共	2600	c		
			下地ﾓﾙﾀﾙｔ28															カーテン	
	倉庫1，2	M	ビニル床シートt=2.0	a	M	ﾋﾞﾆﾙ巾木　H60	a	M	RC壁下地EP塗り	e	M	RC壁下地EP塗り	e	M	EP	2600	e	棚	
			下地ﾓﾙﾀﾙｔ28						一部ウレタン吹付			一部ウレタン吹付							
2	普通教室	M	天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	c	S	木製　UC　H100	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	掲示クロス張り 下地合板t5.5+PB12.5	c	S	吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞt9.5	3100	c	カーテン	
			t15塗装品　下地ﾓﾙﾀﾙｔ15					S	下地合板ｔ9　H900	c	S	一部PB12.5下地シナ合板t5.5	c		梁型:PB12.5下地シナ合板t5.5				
3	普通教室 やまびこ1，2	M	天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	c	S	木製　UC　H100	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	掲示クロス張り 下地合板t5.5+PB12.5	c	S	吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞt9.5	3100	c	カーテン	
			t15塗装品　下地ﾓﾙﾀﾙｔ15					S	下地合板ｔ9　H750	c	S	一部PB12.5下地シナ合板t5.5	c		梁型:PB12.5下地シナ合板t5.5				
	倉庫3	M	ビニル床シートt=2.0	c	M	ﾋﾞﾆﾙ巾木　H60	c	M	RC壁下地EP塗り	e	S	化粧石こうボード t=9.5　下地共	2300	c	棚				
			下地ﾓﾙﾀﾙｔ28						**一部ウレタン吹付**	a		一部ウレタン吹付	a						
	多目的室	M	天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	c	S	木製　UC　H100	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	掲示クロス張り 下地合板t5.5+PB12.5	c	S	吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞt9.5	3100	c	カーテン	
			t15塗装品　下地ﾓﾙﾀﾙｔ15					S	下地合板ｔ9　H900	c	S	一部PB12.5下地シナ合板t5.5	c		梁型:PB12.5下地シナ合板t5.5				
共通	廊下	M	ビニル床シートt=2.0	c	S	木製　UC　H100	c	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5目透かし張　UC	c	S	化粧石こうボード　t=9.5	2615	c	手提げ掛けフック各教室40個	
			下地ﾓﾙﾀﾙｔ28			柱型ﾋﾞﾆﾙ巾木H100		S	下地合板ｔ9　H1100		S	下地PB12.5							
	階　段	M	ビニル床シートt=2.0	c	S	ササラ巾木　木製	a	S	羽目板ｔ12(信州産ｶﾗﾏﾂ) UC	c	S	ｼﾅ合板t=5.5目透し張 UC PB12.5下地	c	S	下地調整の上EP	–	e	木製手すりφ35	
			下地ﾓﾙﾀﾙｔ28						下地PB12.5　H900	c	S	一部掲示クロス張り 下地合板t5.5+PB12.5	c	S	化粧石こうボードt=9.5(3Fのみ)	2615	c	段鼻すべり止め	
	水飲み場	M	ビニル床シートt=2.0	c	S	木製　UC　H100	a	S	流し前化粧ケイカルt6	c	S	ｼﾅ合板t=5.5目透かし張　UC	c	S	化粧石こうボード　t=9.5	2615	c		
			下地ﾓﾙﾀﾙｔ28						耐水PBt12.5下地			下地PB12.5							
	男子便所	M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.0 ﾓﾙﾀﾙｔ28	g	M	既存のまま	g	S	化粧ケイカルt6	g	S	化粧ケイカルt6	g	S	化粧石こうボード　t=9.5	2615	g		
			抗菌防滑 便器改修部のみ改修	b	M	既存のまま	g	S	P耐水PBt12.5下地	g	S	耐水ﾎﾞｰﾄﾞt12.5下地			上階便器改修部のみ改修	2615	b		
	女子便所	M	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.0 ﾓﾙﾀﾙｔ28	g	M	既存のまま	g	S	化粧ケイカルt6	g	S	化粧ケイカルt6	g	S	化粧石こうボード　t=9.5	2615	g		
			抗菌防滑 便器改修部のみ改修	b	M	既存のまま	g	S	耐水ﾎﾞｰﾄﾞt12.5下地	g	S	耐水ﾎﾞｰﾄﾞt12.5下地			上階便器改修部のみ改修	2615	b		
PH	高架水槽室		ﾓﾙﾀﾙ防水金ｺﾞﾃ押え	g	M	既存のまま	g	M	既存のまま	g	M	モルタル刷毛引き	g	S	既存ｶﾗｰｾﾒﾝﾄ吹付けにEP	2500	e	出入口庇新設	

改修内容凡例

既存	A：仕上撤去 B：図示の仕上撤去 C：下地共撤去 D：図示の下地共撤去 E：下地の調整 F：既存のまま	改修	a：仕上新設 b：図示の仕上新設 c：下地共新設 d：図示の下地共新設 e：塗装の塗替え f：ひび割れ補修 g：既存のまま	下地	M：モルタル S：軽量鉄骨 W：木

★：アスベスト含有建材

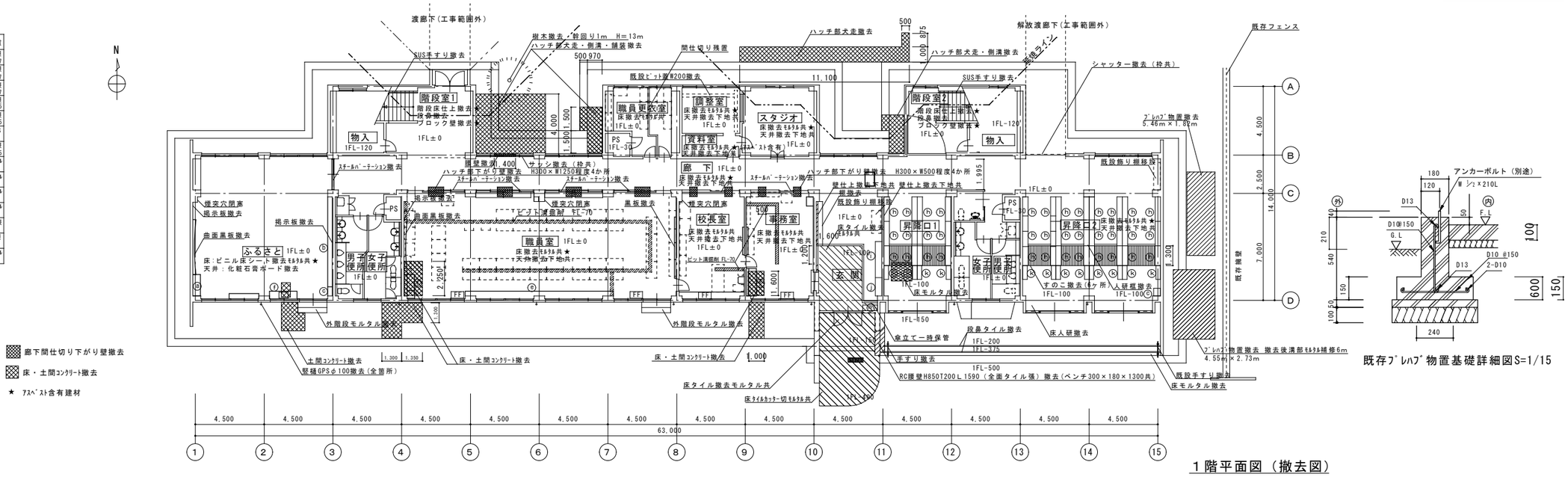
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　　相野　徹

縮尺	NON
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	仕上表
No.	A-05

撤去図

撤去家具一覧

記号	名称 寸法	材質
ⓐ	教師用戸棚(棚4段) W1350×H1790×D500	鋼製 t0.7
ⓑ	生徒用ロッカー(3段) W5400×H950×D380	鋼製 t0.7
ⓒ	掲示用具入 W500×H1790×D380	鋼製 t0.7
ⓓ	観察台(棚1段)ﾌﾗｯｼｭ W1850×H600×D340	木製 t 35
ⓔ	地袋(棚1段)ﾌﾗｯｼｭ W1340O×H800×D540	木製 t 35
ⓕ	流し台 W1800×H800×D550	SUS
ⓖ	食器棚(棚4段) W1200×H1800×D400	木製 t 25
ⓗ	生徒用下足入 W2200×H1200×D325	ｽﾁｰﾙ
ⓘ	教師用下足入 W2400×H1730×D350	ｽﾁｰﾙ
ⓙ	来客用下足入 W1028×H1710×D350	ｽﾁｰﾙ
ⓚ	生徒用傘立て W900×H500×D300	ｽﾁｰﾙ
ⓛ	手洗い W3000×H700×D600	木製 SUS
ⓜ	バケツ流し W600×H400×D600	木製 SUS
ⓝ	来客用傘立て W972×H540×D375	ｽﾁｰﾙ



廊下間仕切り下がり壁撤去

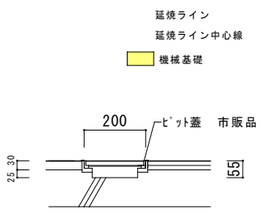
床・土間ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去

★ ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材

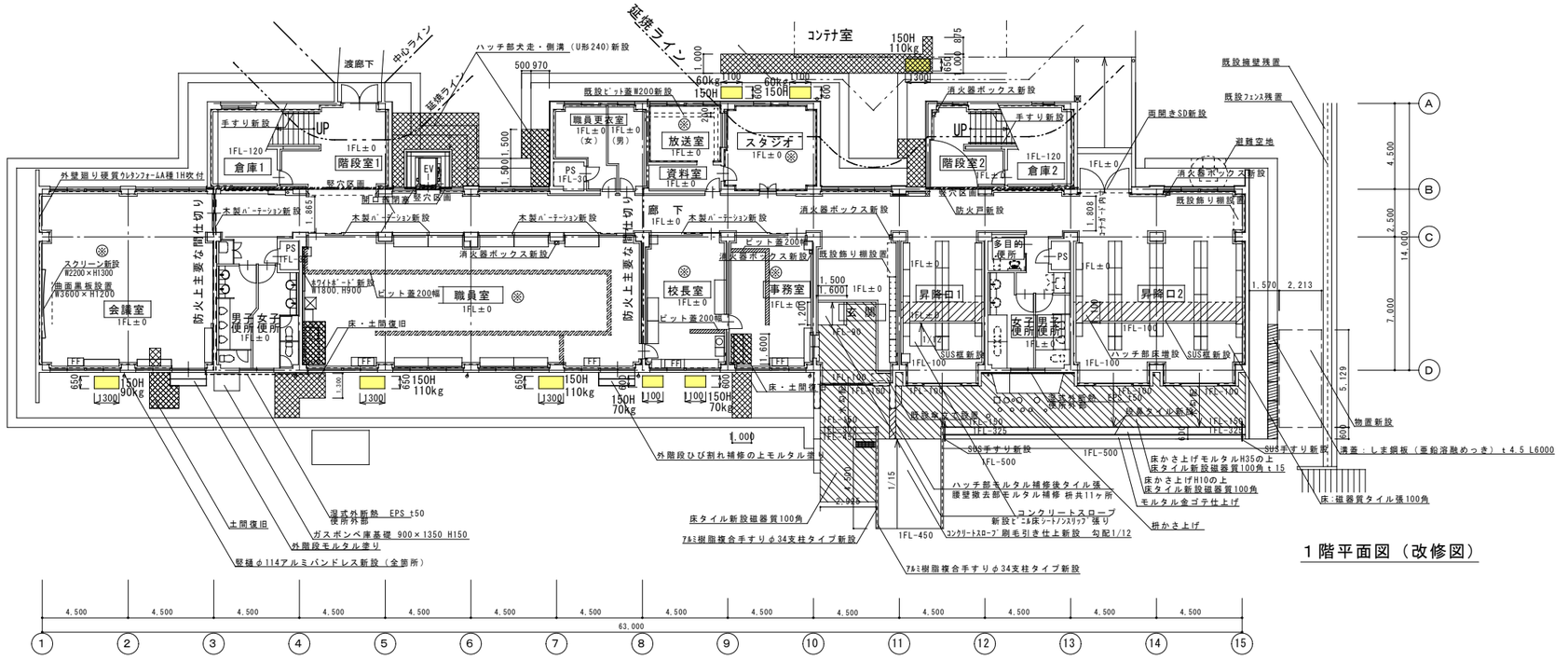
1階平面図(撤去図)

改修図

凡例
- 床・土間復旧 RC t120 鉄筋D-10@300 端部差筋ｱﾝｶｰD10@300
- ⊗ VOC測定箇所 1F 6ヶ所
- 床ｺﾝｸﾘｰﾄかさ上げ 100
- 床ﾀｲﾙ張り 床かさ上げ50
- 配線ﾋﾟｯﾄ 幅200 D55
- 防火上主要な間仕切り
- 竪穴区画
- 延焼ライン
- 延焼ライン中心線
- 機械基礎



配線ﾋﾟｯﾄ詳細 S=1/10



⊗ VOC測定箇所 1F 6ヶ所

1階平面図(改修図)

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号 一級建築士登録 第293036号 相野 徹	縮尺	A1 1:150 A3 1:300	工事名 国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称 1階平面図(撤去図・改修図)
			No. A-06

撤去図

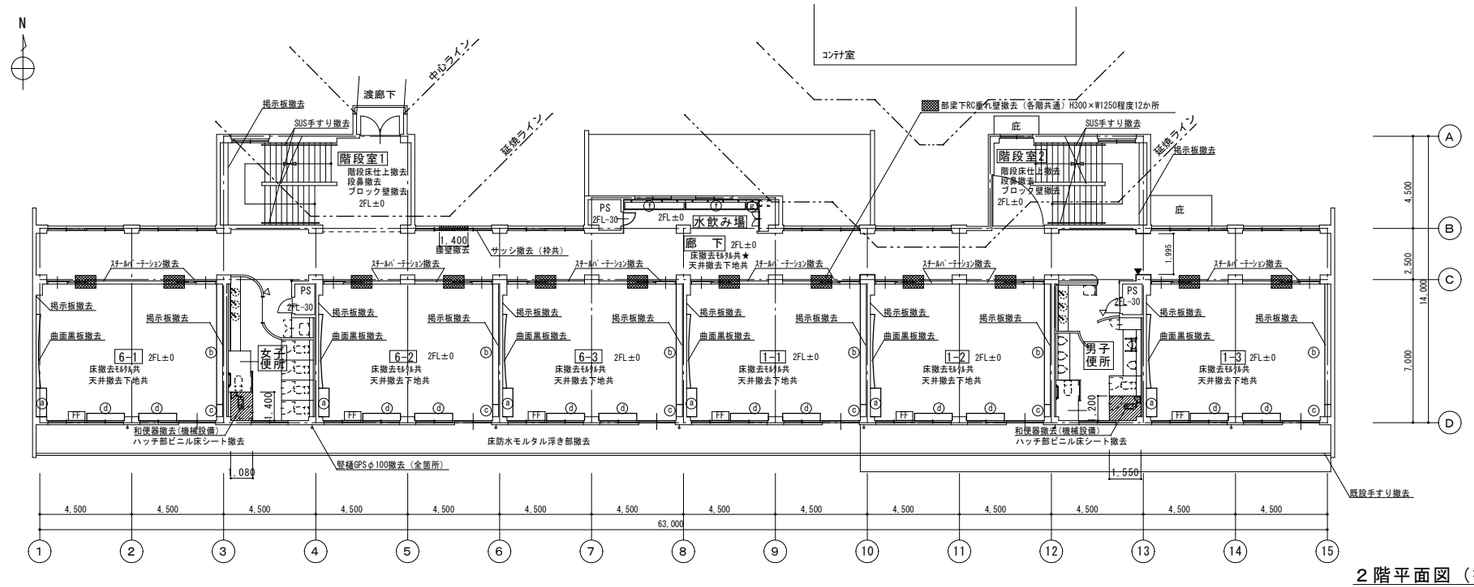
撤去家具一覧

記号	名称 寸法	材質
ⓐ	教師用戸棚(棚4段) W1350×H1790×D500	鋼製 t0.7
ⓑ	生徒用ロッカー(3段) W5680×H950×D380	鋼製 t0.7
ⓒ	掲示用具入 W500×H1790×D380	鋼製 t0.7
ⓓ	観察台(棚1段)ﾌﾗｯｼｭ W1850×H600×D340	木製 t35
ⓔ	地袋(棚1段)ﾌﾗｯｼｭ W1340×H800×D540	木製 t35
ⓕ	手洗い W3000×H700×D600	木製 SUS
ⓖ	バケツ流し	木製 SUS

凡例

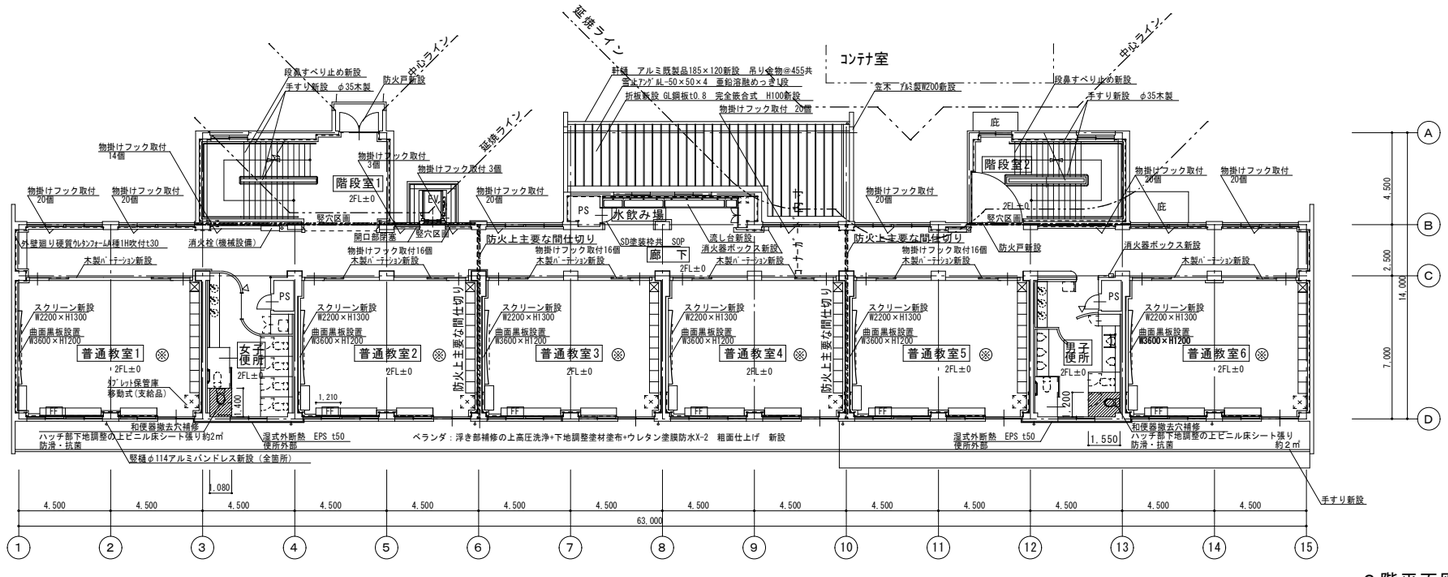
▨ 廊下間仕切り下がり壁撤去

★ ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材



２階平面図（撤去図）

改修図



※ VOC測定箇所 2F 6ヶ所

２階平面図（改修図）

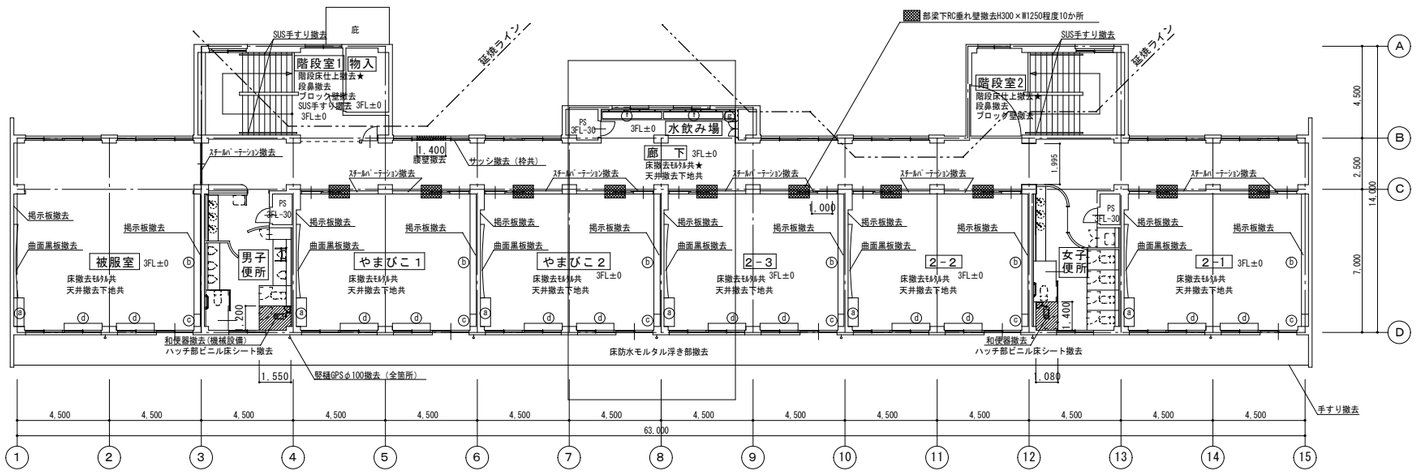
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺	A1 1：150 A3 1：300	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　２階平面図（撤去図・改修図）　No. A-07

撤去図

撤去家具一覧

記号	名称 寸法	材質
ⓐ	教師用戸棚（棚4段）	鋼製
	W1350×H1790×D500	t0.7
ⓑ	生徒用ロッカー（3段）	鋼製
	W5680×H950×D380	t0.7
ⓒ	掃除用具入	鋼製
	W500×H1790×D380	t0.7
ⓓ	靴箱台（棚1段）ﾌﾗｯｼｭ	木製
	W1850×H600×D340	t35
ⓔ	地袋（棚1段）ﾌﾗｯｼｭ	木製
	W13400×H800×D540	t35
ⓕ	手洗い	木製
	W3000×H700×D600	SUS
ⓖ	バケツ流し	木製
	W600×H400×D600	SUS

★　ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材

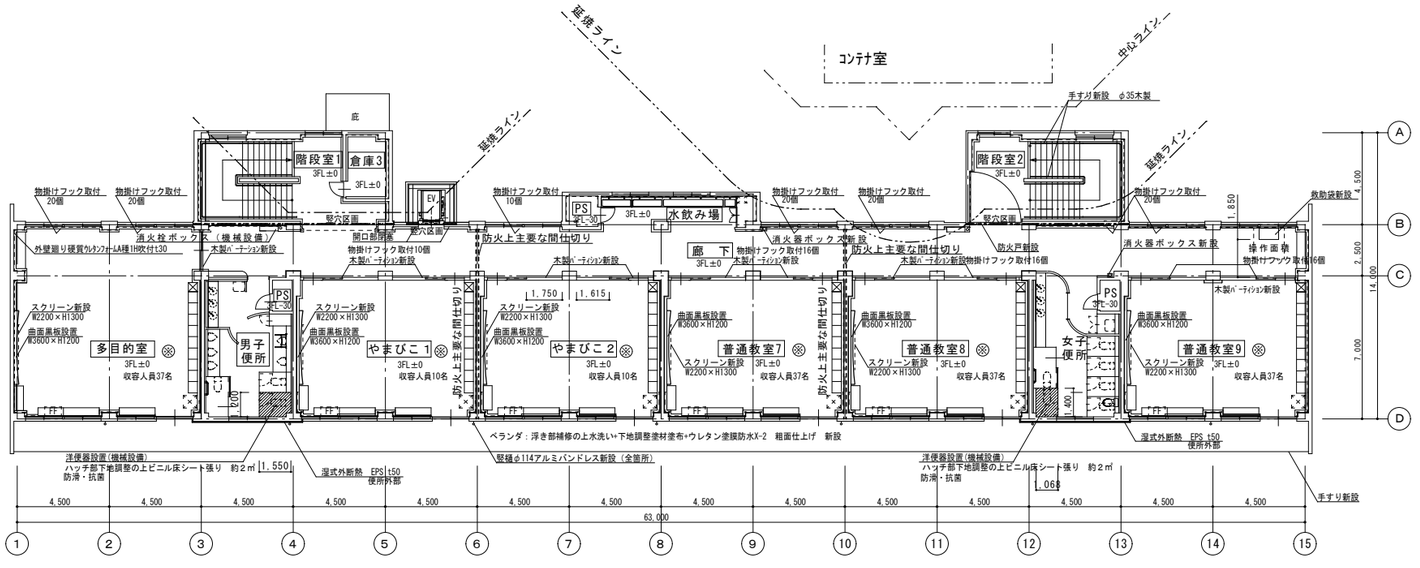


3階平面図（撤去図）

改修図

凡例
- ＝＝ 防火上主要な間仕切り
- ⊏⊐ 竪穴区画
- ----- 延焼ライン
- ——— ウレタン吹付

⊗ VOC測定箇所

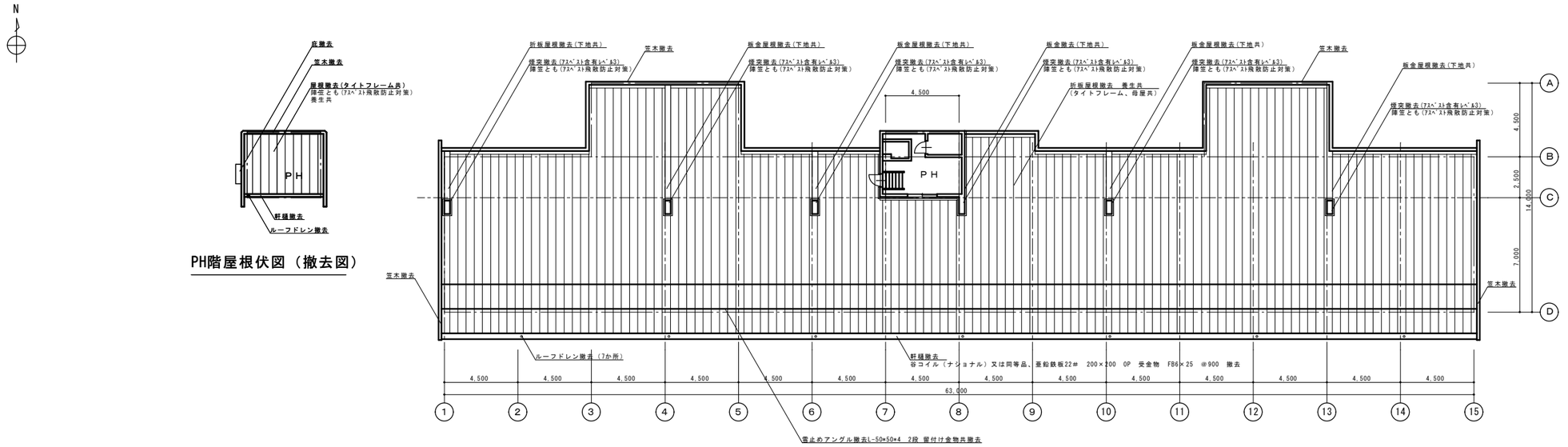


⊗ VOC測定箇所　3F　6ヶ所

3階平面図（改修図）

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：150 A3 1：300	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-08
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　3階平面図（撤去図・改修図）	

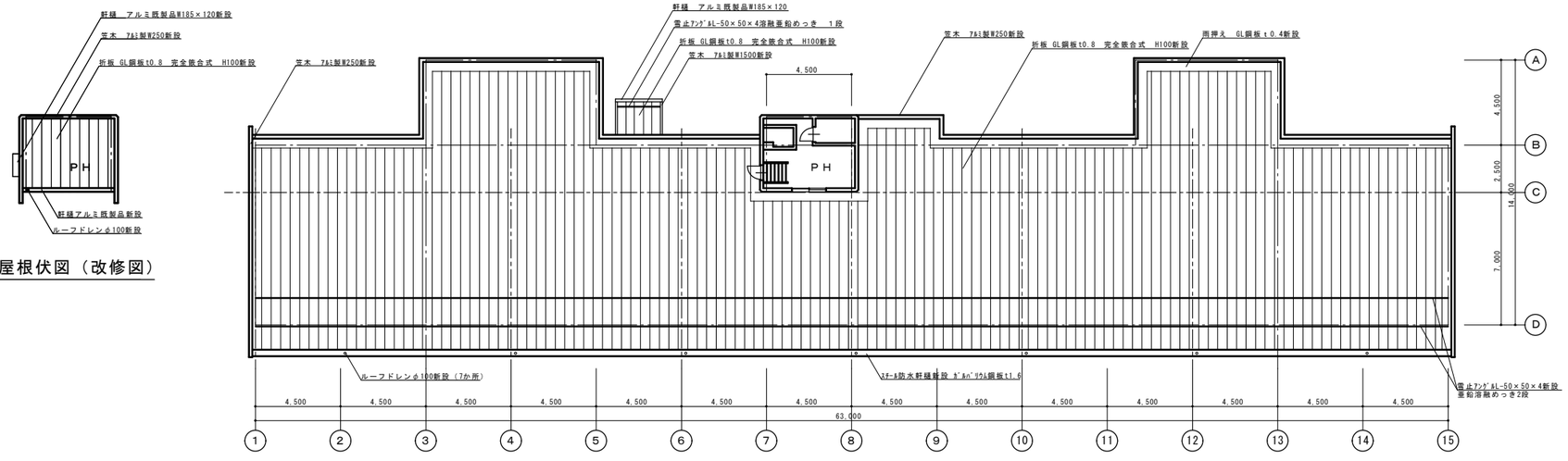
撤去図



PH階屋根伏図（撤去図）

R階平面図（撤去図）

改修図

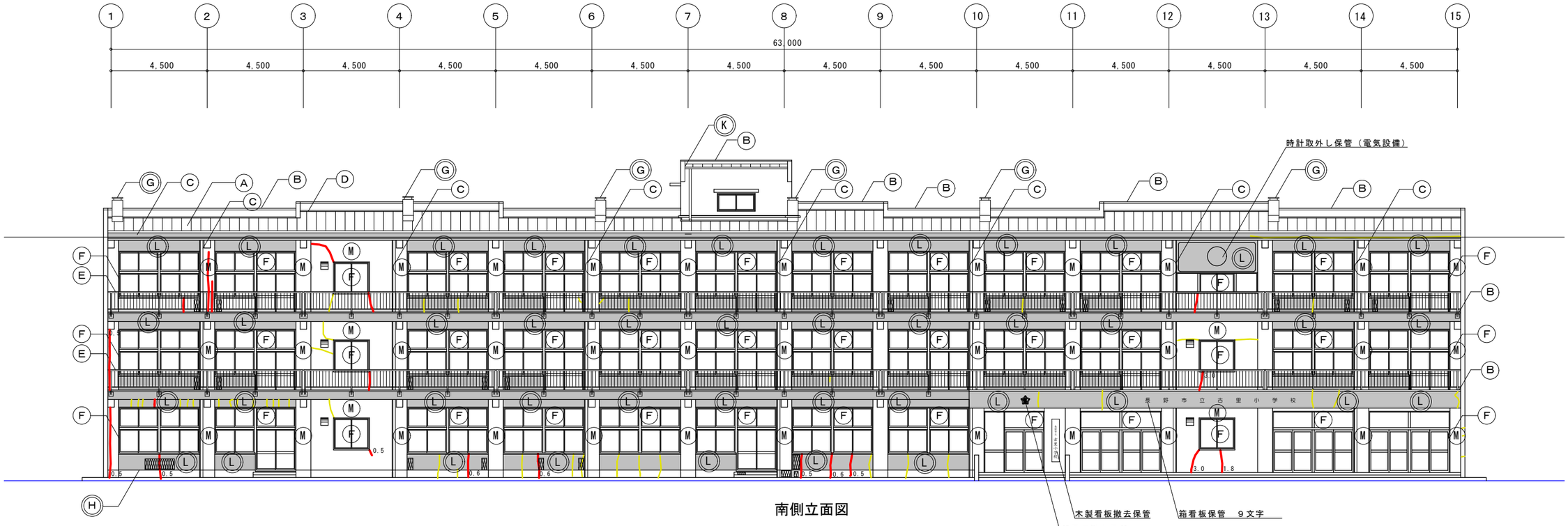


PH階屋根伏図（改修図）

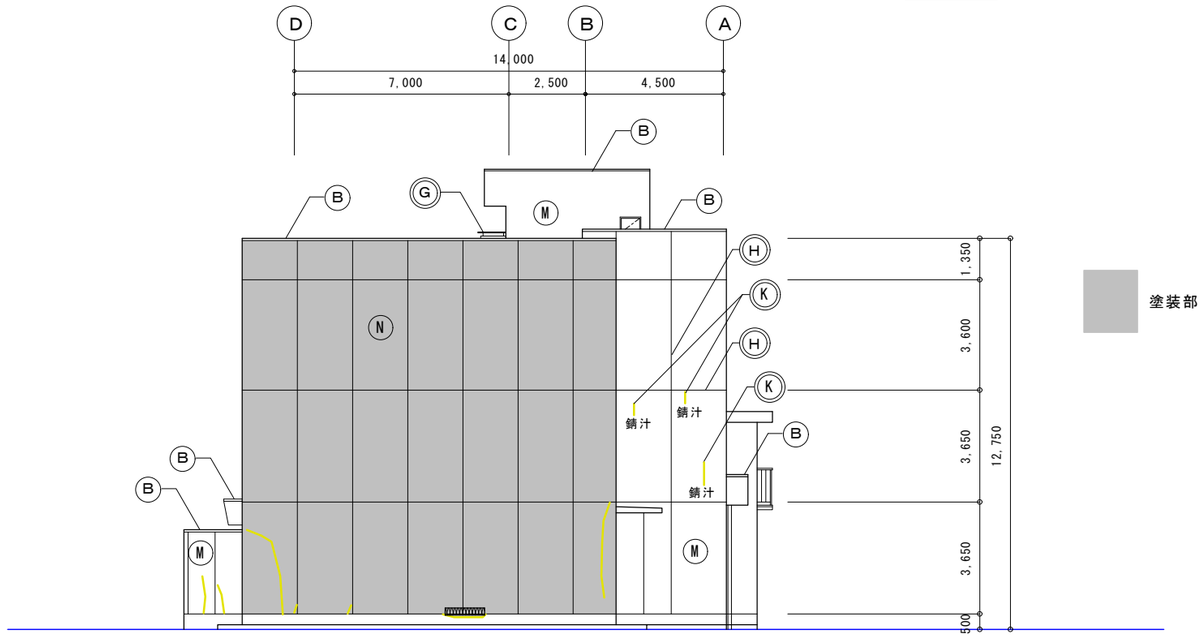
R階平面図（改修図）

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺	A1 1：150 A3 1：300
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	R階平面図（撤去図・改修図）
No.	A-09



南側立面図



東側立面図

塗装部

凡例
浮き部
ひび割れ0.5ｍｍ以上
ひび割れ0.2ｍｍ以上0.5ｍｍ未満

南面・東面　ベランダの想定ひび割れ長さ

0.2ｍｍ以上1.0ｍｍ未満		66.9m
1.0ｍｍ以上	上記の10%	6.7m

浮き部想定面積　　外壁面積の10%

浮き　50.2m

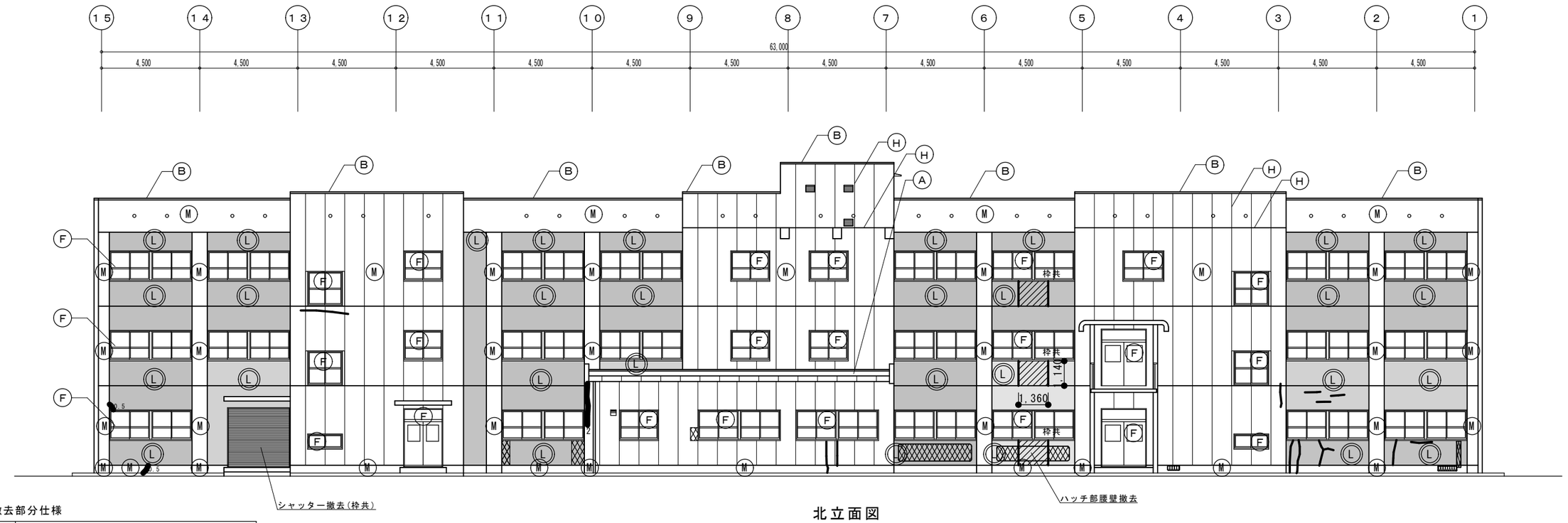
既存撤去部分仕上げ

記号	仕　上
A	屋根：カラー鋼板t＝0.5 瓦棒葺き折板 撤去 雪止めアングルL-50×50×4 2段　撤去
B	笠木：カラー鋼板t＝0.4 230×100 撤去
C	軒樋：カラー鋼板t=1.0 W250×H200 （受金物共）撤去 縦樋：白ガス管（受金物共）撤去 1F～3F
D	雨押え：カラー鋼板 t =0.4 L=450　撤去
E	スチール手摺 H＝950（笠木共）撤去
F	アルミサッシ：全サッシ撤去（枠残し）
G	煙突　撤去（小屋裏にて切断）ｱｽﾍﾞｽﾄ含有
H	シーリング撤去（アスベスト含有）
I	クラック補修　太線は亀裂　数字は亀裂幅 数字無き亀裂は幅0.2以上0.5未満とする 指示位置以外に0.2ｍｍ以上のひび割れがあった場合は監督員と協議の上補修する 塗装下地材：アスベスト含有
J	モルタル浮き補修 アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　外壁塗装下地材：アスベスト含有
K	錆汁・鉄筋露出部ｺﾝｸﾘｰﾄはつり撤去後 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ補修　下地材:ｱｽﾍﾞｽﾄ含有
L	下地ﾓﾙﾀﾙ(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有) ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付 残置
M	打放し撥水剤塗布 残置
N	打放しの上ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付 残置

◎アスベスト含有　　アスベスト含有建材撤去時には粉じんを飛散させない工具を使用すること

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

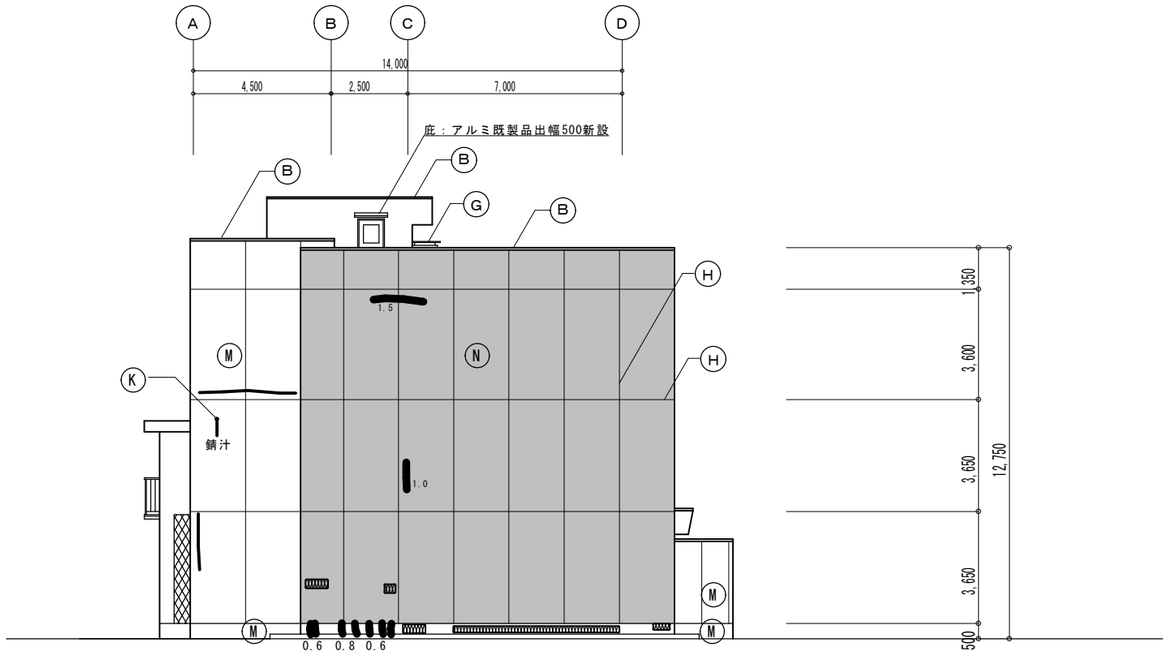
縮　尺	A1 1：100 A3 1：200	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	南・東面立面図（撤去図）
		No.	A-10



北立面図

既存撤去部分仕様

記号	仕　　上
(A)	屋根：カラー鋼板t＝0.5 瓦棒葺き折板 撤去 雪止めアングルL-50×50×4 2段　撤去
(B)	笠木：カラー鋼板t＝0.4 230×100 撤去
(C)	軒樋：カラー鋼板t=1.0 W250×H200 （受金物共）撤去 縦樋：白ガス管（受金物共）撤去 1F～3F
(D)	雨押え：カラー鋼板 t =0.4 L=450　撤去
(E)	スチール手摺 H＝950（笠木共）撤去
(F)	アルミサッシ：全サッシ撤去（枠残し）
(G)	煙突　撤去（小屋裏にて切断）ｱｽﾍﾞｽﾄ含有
(H)	シーリング撤去（アスベスト含有）
(I)	クラック補修　太線は亀裂　数字は亀裂幅 数字無き亀裂は幅0.2以上0.5未満とする 指示位置以外に0.2mm以上のひび割れがあった場合は監督員と協議の上補修する 塗装下地材：アスベスト含有
(J)	モルタル浮き補修 アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　塗装下地材：アスベスト含有
(K)	錆汁・鉄筋露出部ｺﾝｸﾘｰﾄはつり撤去後 ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ補修　塗装下地材:ｱｽﾍﾞｽﾄ含有
(L)	下地ﾓﾙﾀﾙ(ｱｽﾍﾞｽﾄ含有）ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付　残置
(M)	打放し撥水剤塗布　残置
(N)	打放しの上ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付　残置



西立面図

凡例

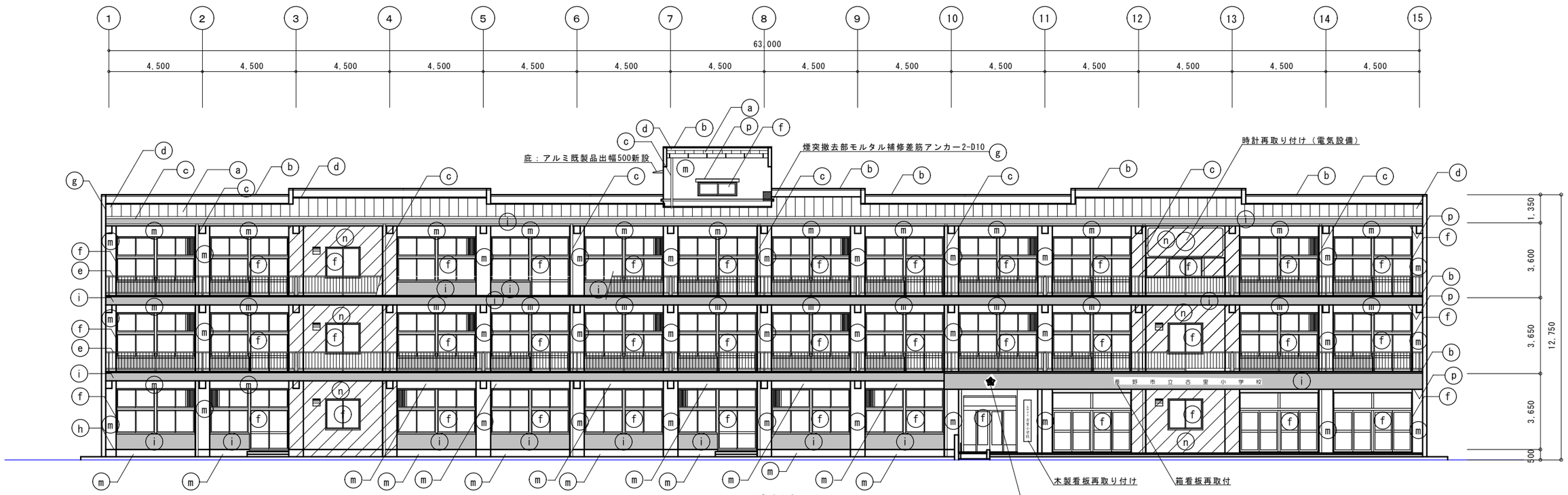
浮き部 (J)
ひび割れ0.5mm以上
ひび割れ0.2mm以上0.5mm未満 (I)

北面・西面想定ひび割れ長さ・浮き面積

0.2mm以上1.0mm未満	61.8m
1.0mm以上	6.1m
浮き	61.8㎡

◎アスベスト含有　　アスベスト含有建材撤去時には粉じんの飛散防止対策をすること

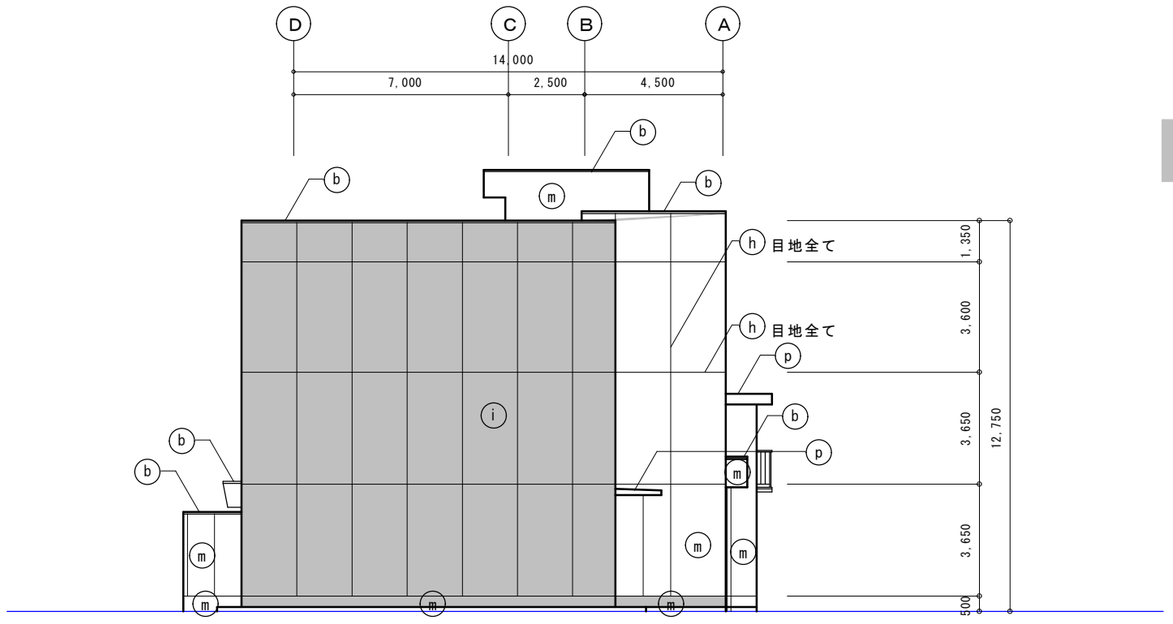
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：100 A3 1：200	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-11
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　西・北面立面図（撤去図）	



南側立面図

改修部分仕上げ

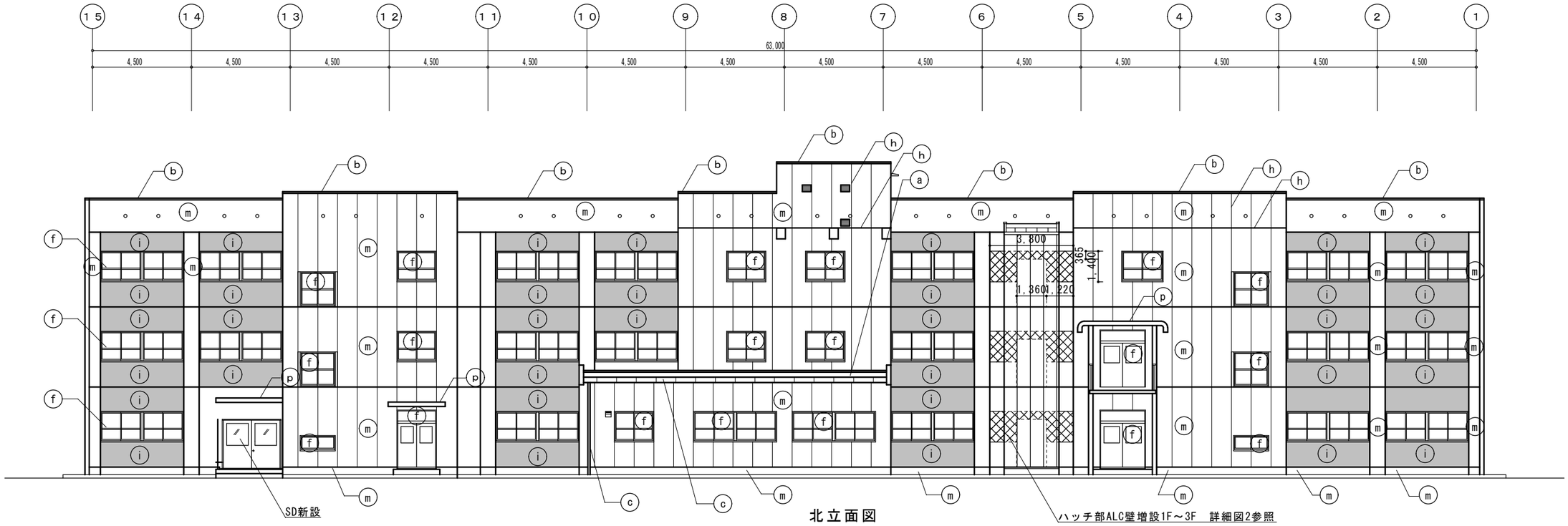
記号	仕　　上
a	屋根：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板完全嵌合式折板H100 t0.8 雪止めアングルL-50×50×4溶融亜鉛めっき 2段 バレーガード付　　下屋 PH EVは1段
b	笠木：アルミ既製品　W＝250
c	軒樋：ｽﾁｰﾙ防水軒樋 ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t1.6 下地共（新設） 縦樋：ｱﾙﾐﾊﾞﾝﾄﾞﾚｽ既製品φ114（受金物共＠2900以下） 1F～3F
d	雨押え：カラー鋼板 t =0.4 W=500
e	アルミ手摺 H＝1100（笠木共）新設
f	アルミサッシ：カバー工法他（ペアガラス）全サッシ
g	煙突　撤去部モルタル補修
h	シーリング　塗装部：PU-2
i	外壁塗装改修　（水洗い+下地調整（C-2)+ 可とう形改修塗材E上塗り水系）
m	基礎・外壁打放改修　（水洗い+下地調整（C-2)+ 防水型複層塗材E）
n	外壁(ハッチング部)　外断熱　EPS t=50(難燃性) ｸﾞﾗｽﾌｧｲﾊﾞｰﾒｯｼｭ　仕上げはメーカー仕様下地ﾓﾙﾀﾙ
p	ベランダ・庇：水洗い 下地調整+ウレタン塗膜防水 軒天：外装薄塗材E塗



東側立面図

既存塗装部

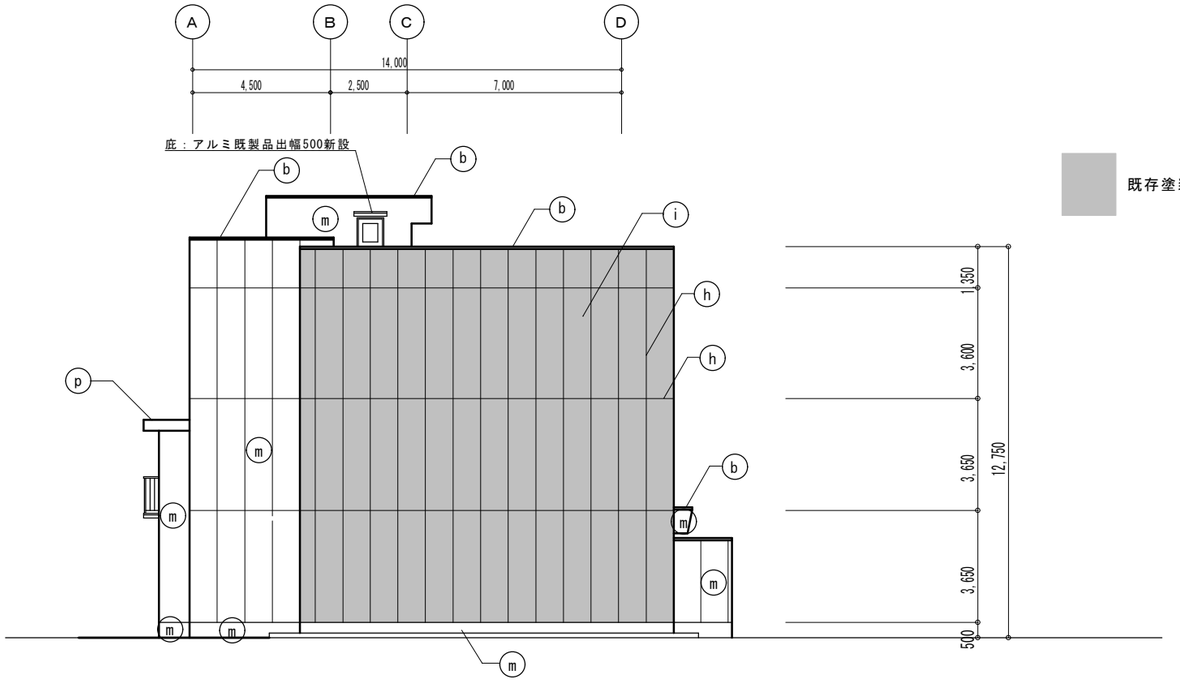
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：100 A3 1：200	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-12
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　南・東面立面図（改修図）	



北立面図

改修部分仕上げ

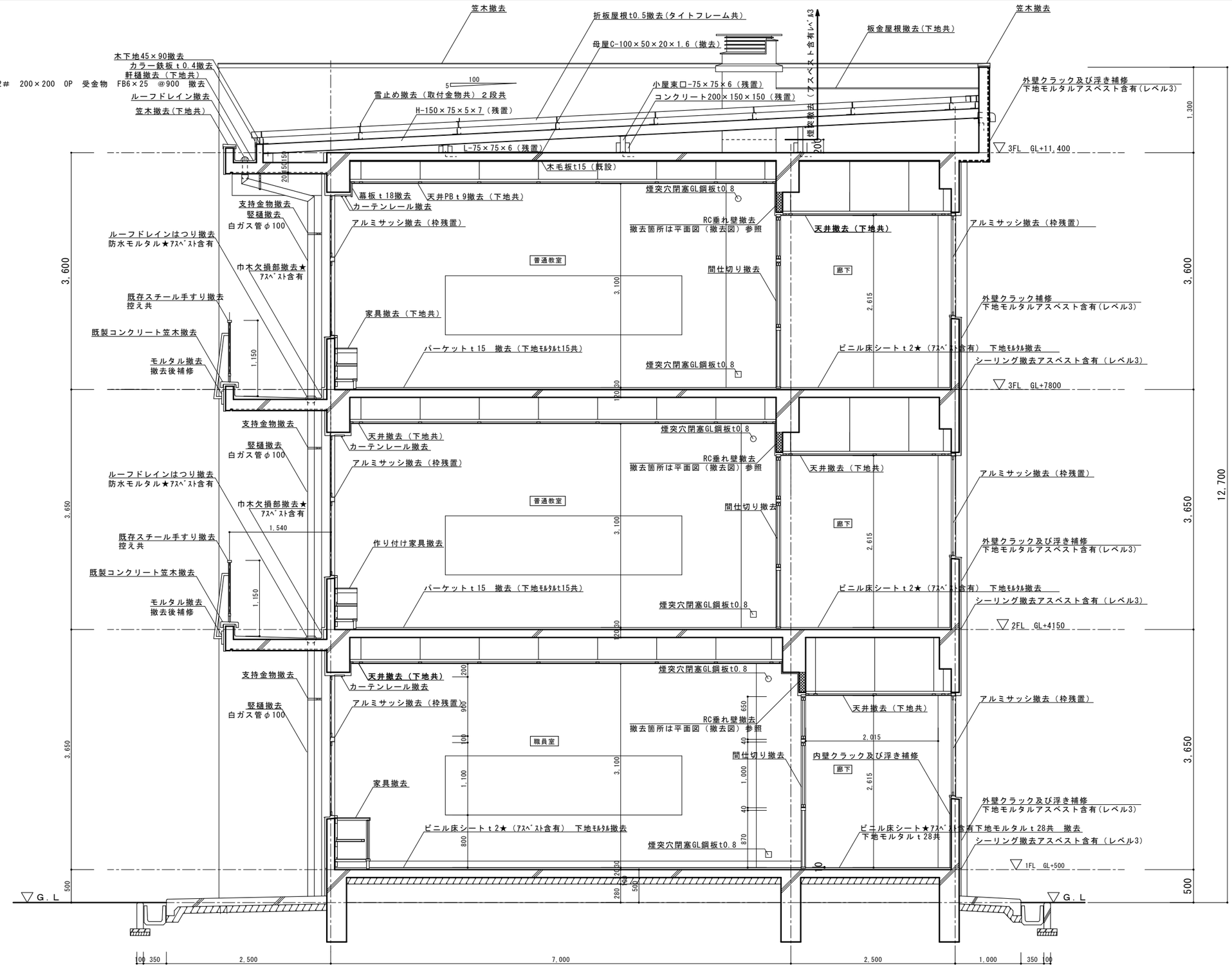
記号	仕　　上
ⓐ	屋根：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板完全嵌合式折板H100 t0.8 雪止めアングルＬ-50×50×4溶融亜鉛めっき 2段 バレーガード付
ⓑ	笠木：アルミ既製品　W＝250
ⓒ	軒樋：ｽﾁｰﾙ防水軒樋 ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.6 下地共（新設） 縦樋：ｱﾙﾐﾊﾞﾝﾄﾞﾚｽ既製品φ114(受金物共＠2900以下) 1F～3F
ⓓ	雨押え：カラー鋼板ｔ=0.4 W=500
ⓔ	アルミ手摺 Ｈ＝1100（笠木共）新設
ⓕ	アルミサッシ：カバー工法(ペアガラス）全サッシ
ⓖ	煙突　撤去後蓋設置
ⓗ	シーリング　塗装部：PU-2　打放し部：PS-2
ⓘ	外壁塗装改修　（水洗い+下地調整(C-2）+ 可とう形改修塗材E上塗り水系）
ⓜ	基礎・外壁打放改修　（水洗い+下地調整(C-2）+ 防水型複層塗材E）
ⓝ	外壁(ハッチング部）　外断熱　EPS t=50(難燃性) ｸﾞﾗｽﾌｧｲﾊﾞｰﾒｯｼｭ　仕上げはメーカー仕様
ⓟ	ベランダ・庇：水洗い 下地調整+ウレタン塗膜防水 軒天：外装薄塗材E塗



西立面図

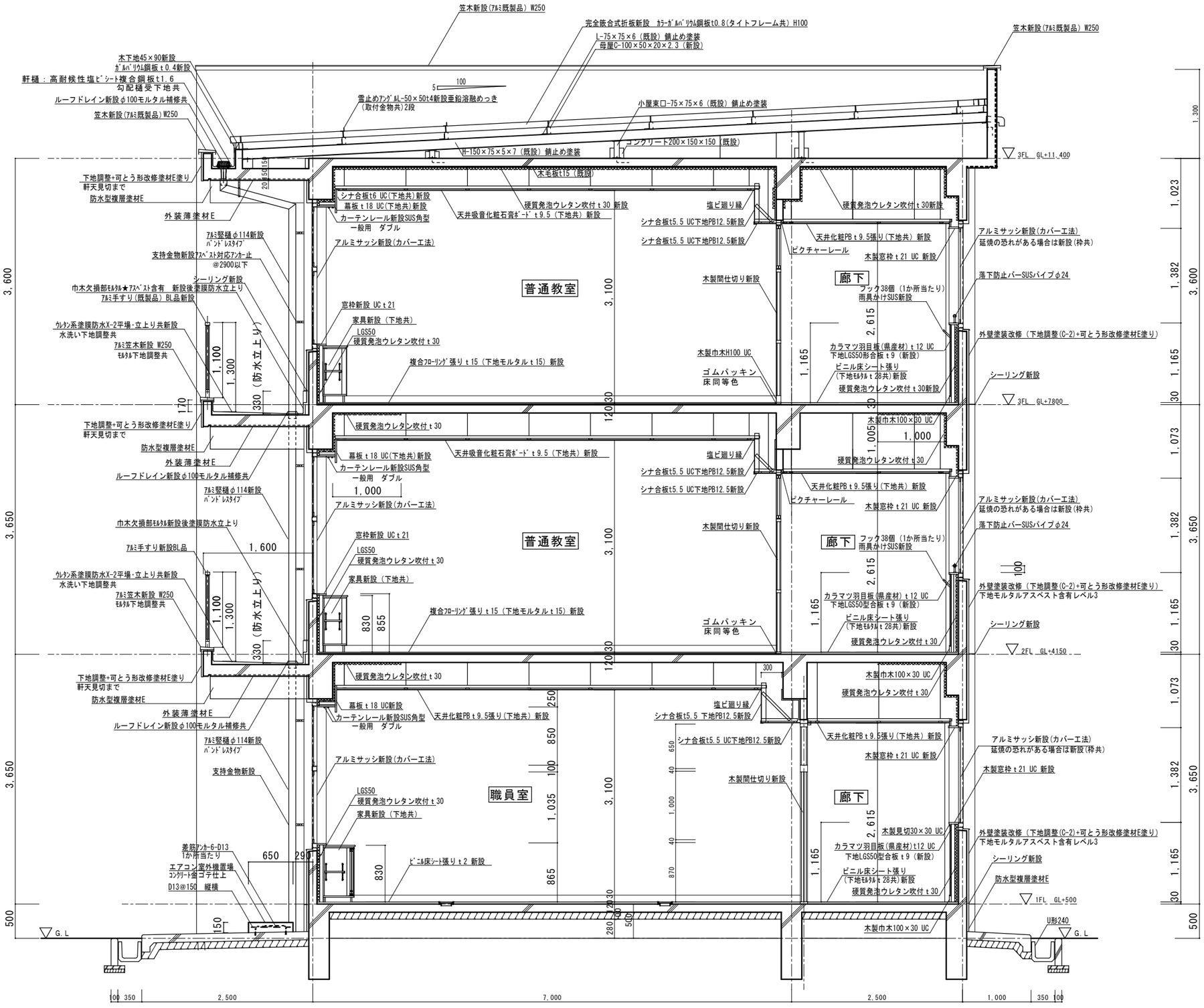
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：100 A3 1：200	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　西・北面立面図（改修図）	No. A-13

谷コイル（ナショナル）又は同等品、亜鉛鉄板22#　200×200　0P　受金物　FB6×25　@900　撤去



★ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材

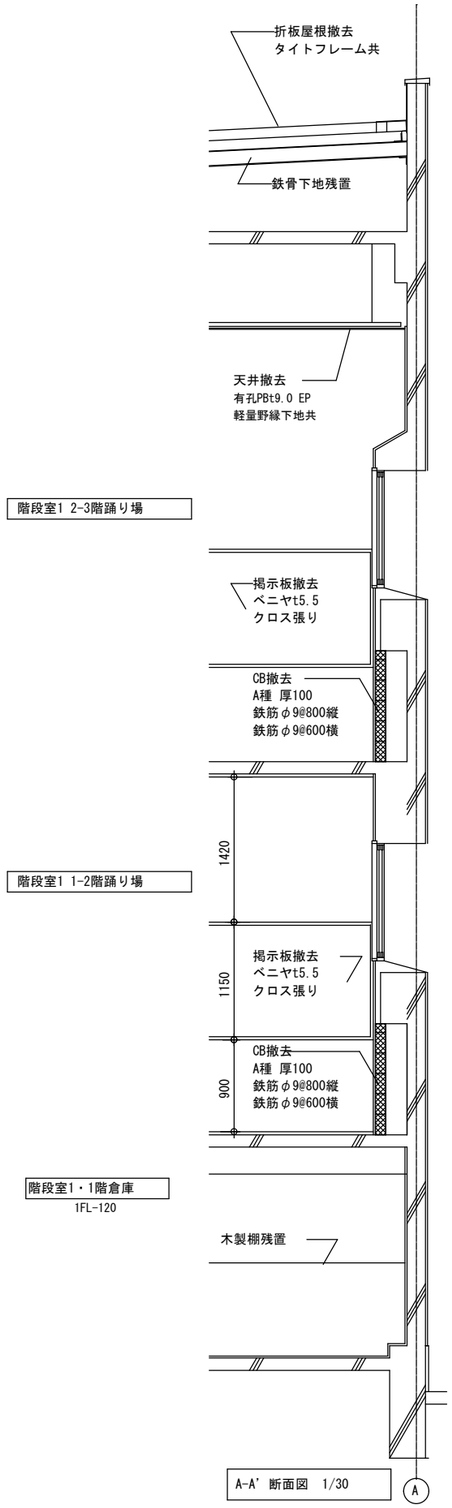
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺　A1 1：30 A3 1：60	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-14
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　矩計図（撤去図）	

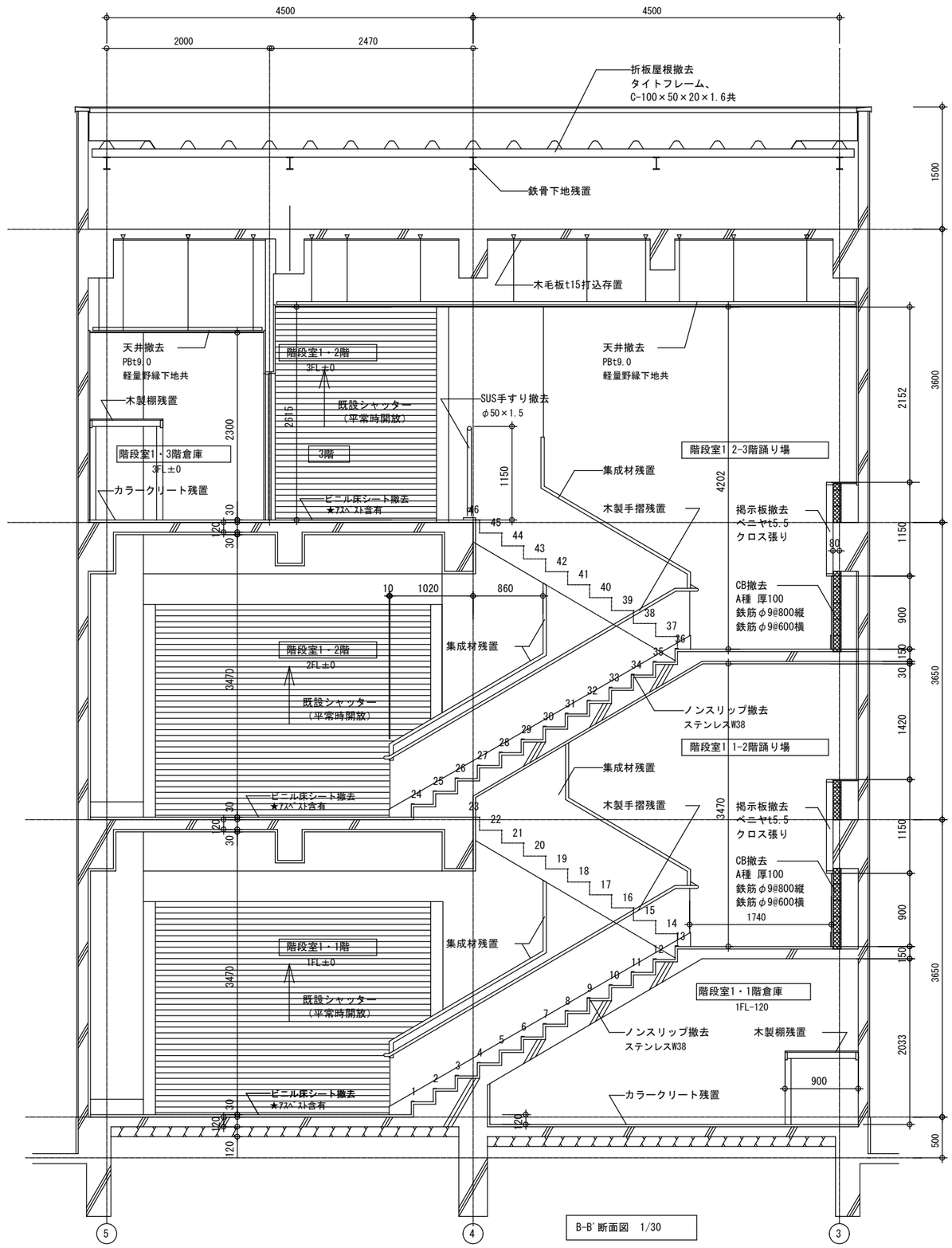


・アルミ手摺はBL150型又は同等品以上とし
　手すり強度1470N/m以上とする
・手すり取付用アンカーは各階１か所
　引張試験を行う

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：30 A3 1：60	工事名　国補　古里小学校南校舎 長寿命化改修建築工事	No. A-15
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　矩計図（改修図）	

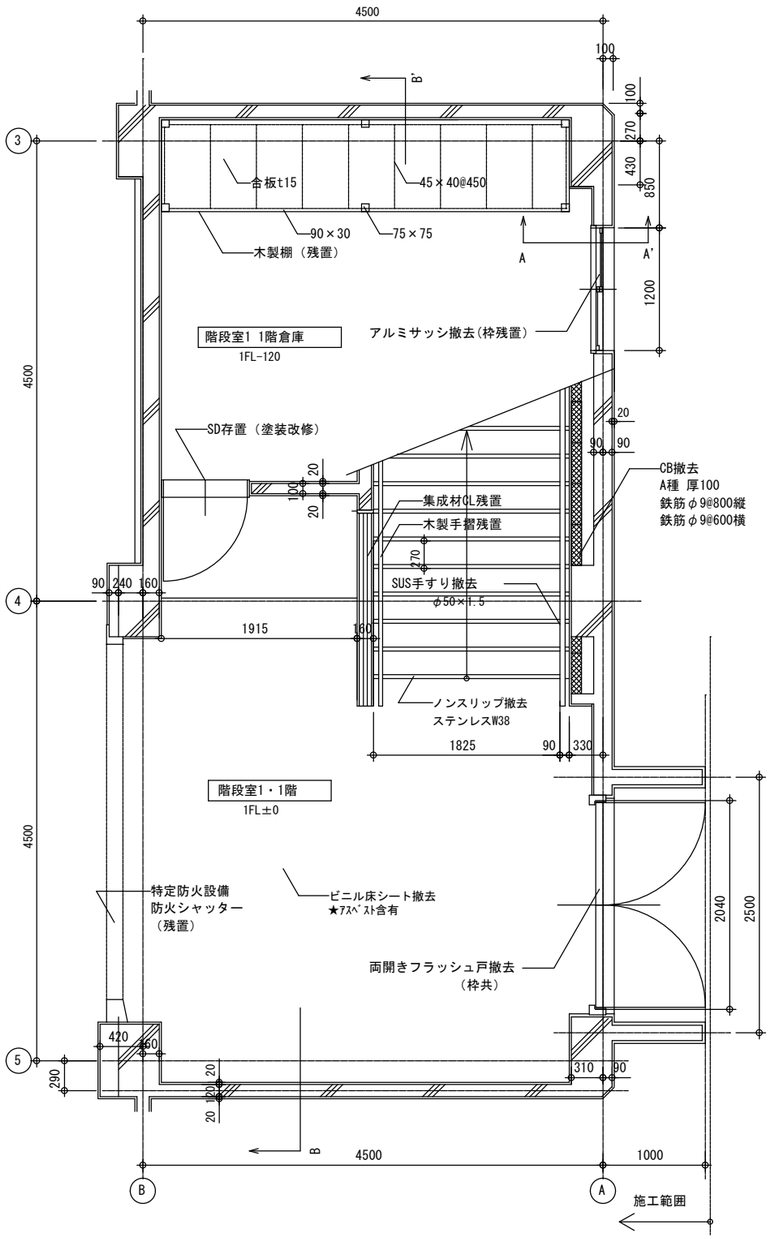
階段室1



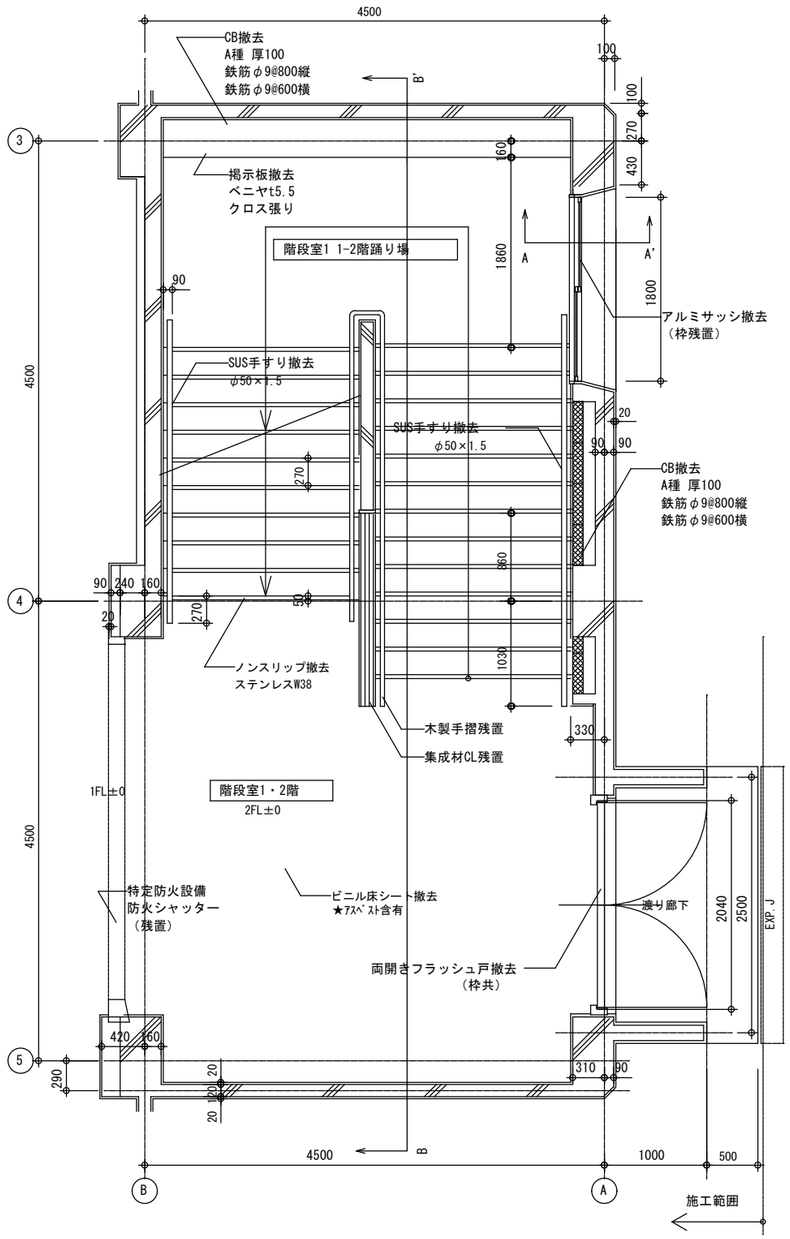


相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺	A1 1：30 A3 1：60	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-16
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　階段室1　断面詳細図（撤去図）	

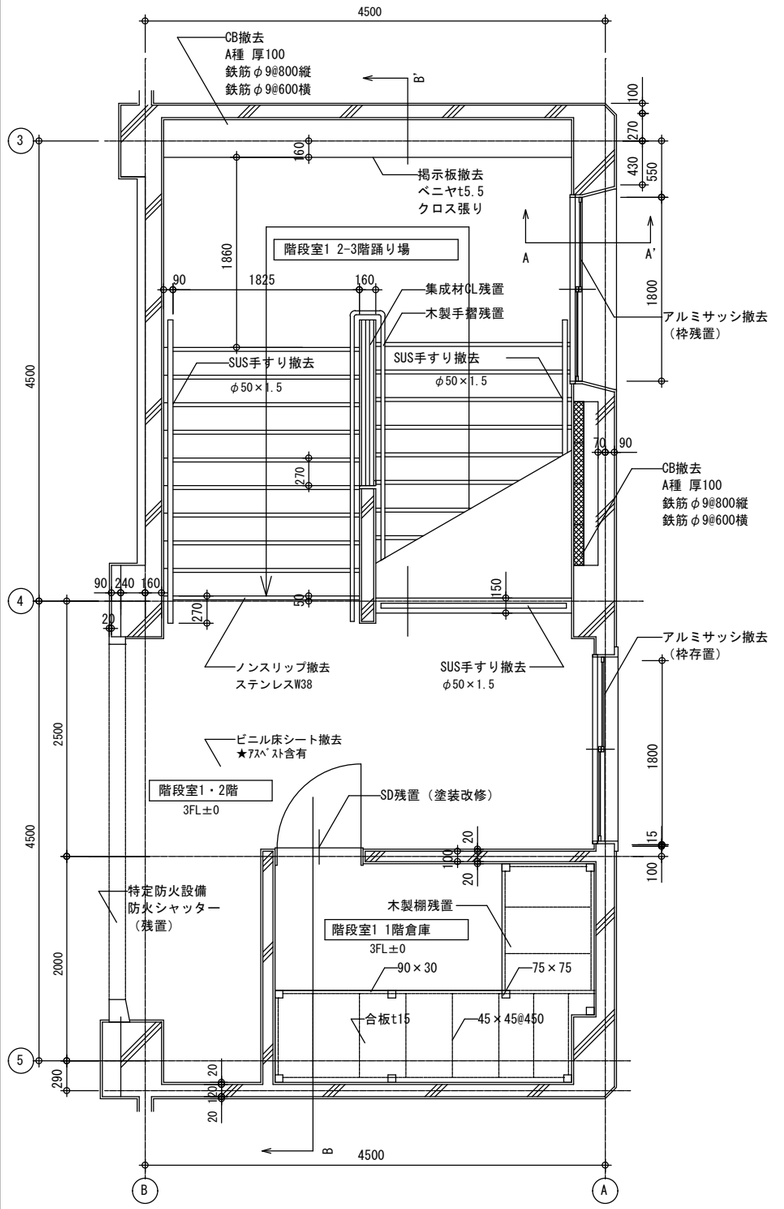
階段室1



階段室1 1階平面詳細図　1/30



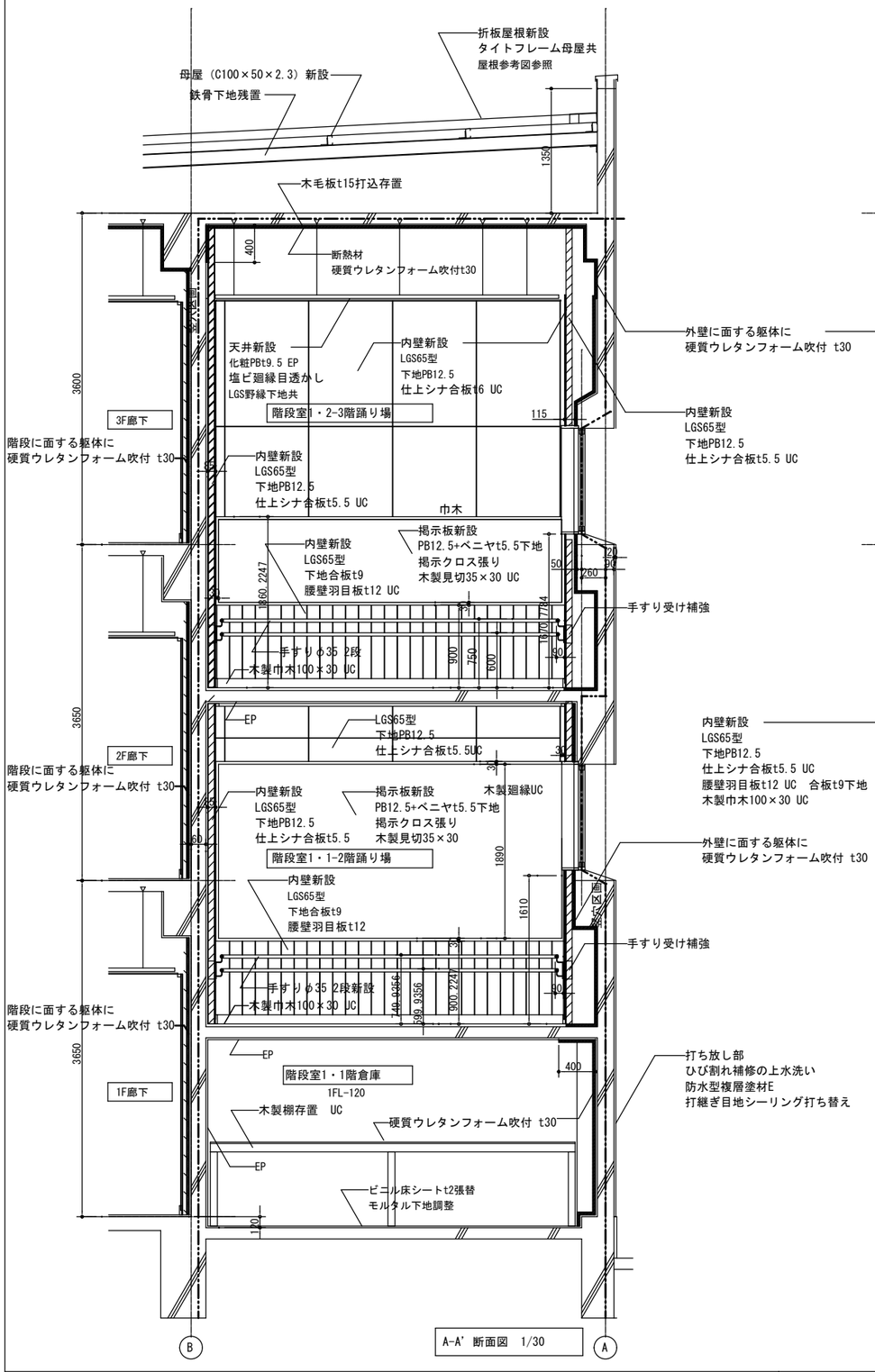
階段室1 2階平面詳細図　1/30

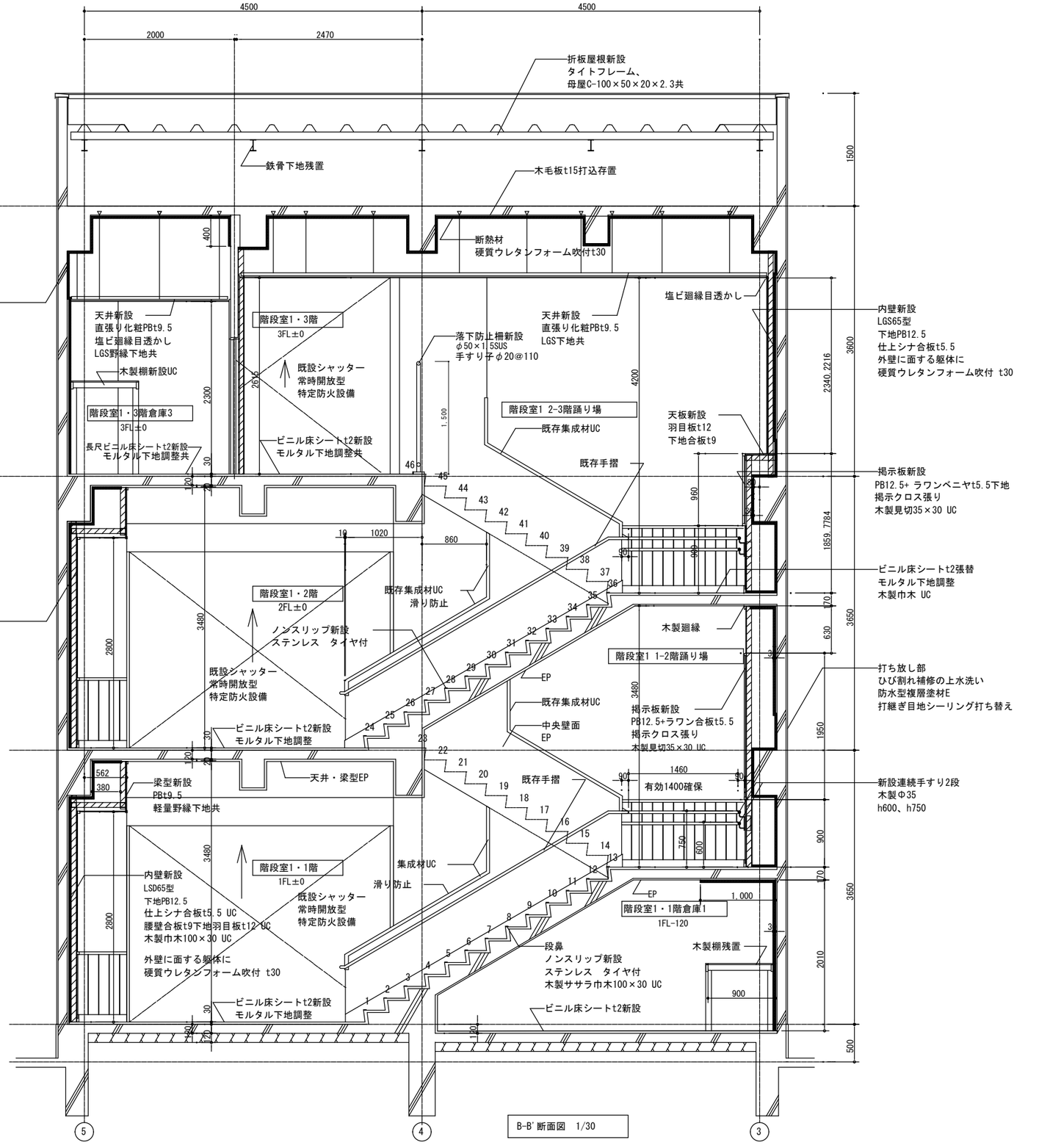


階段室1 3階平面詳細図　1/30

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：30 A3 1：60 設計年月日　R7.2.28	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　階段室1　平面詳細図（撤去図）	No. A-17

階段室1





LGS50 ：廊下

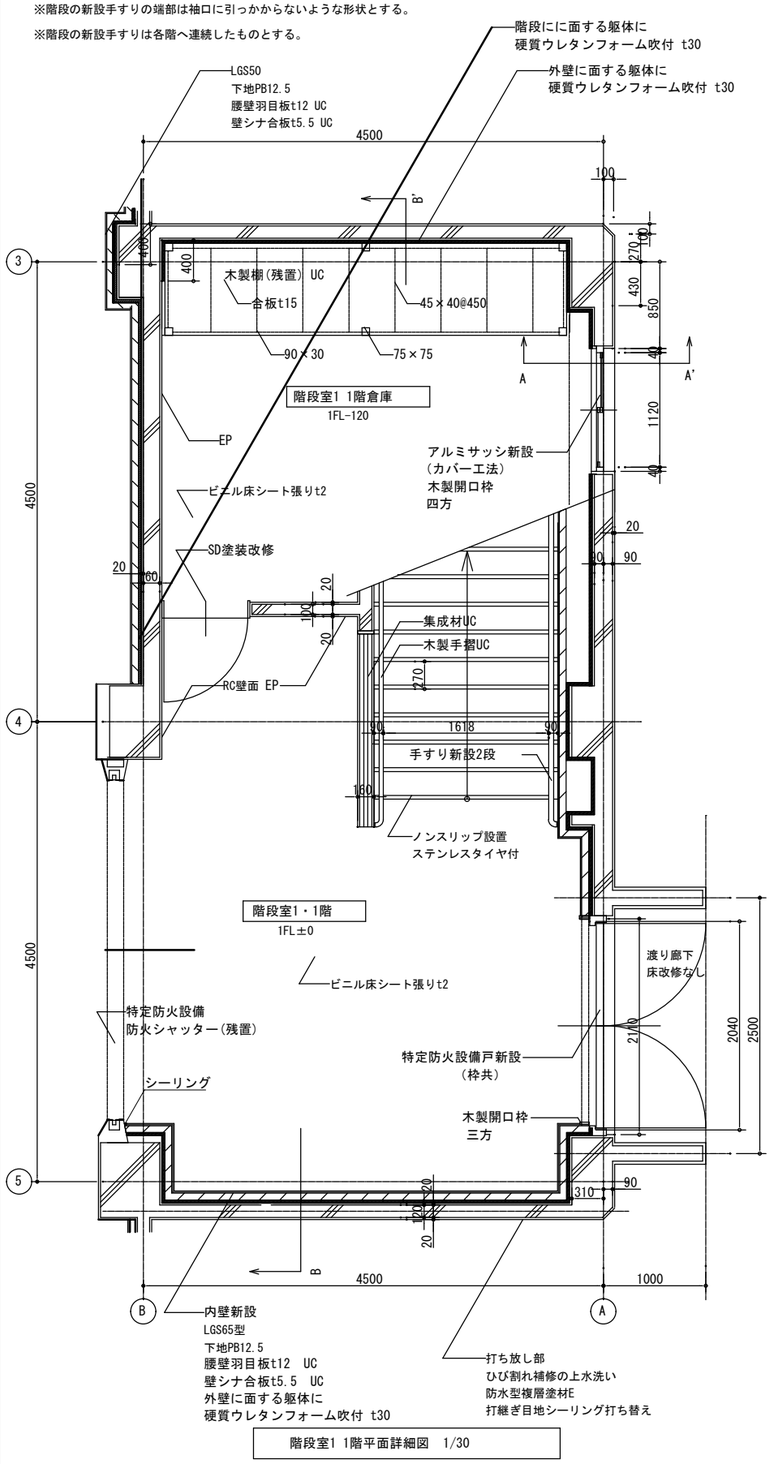
LGS65 ：階段室

断熱材：硬質ウレタンフォーム吹付 t30

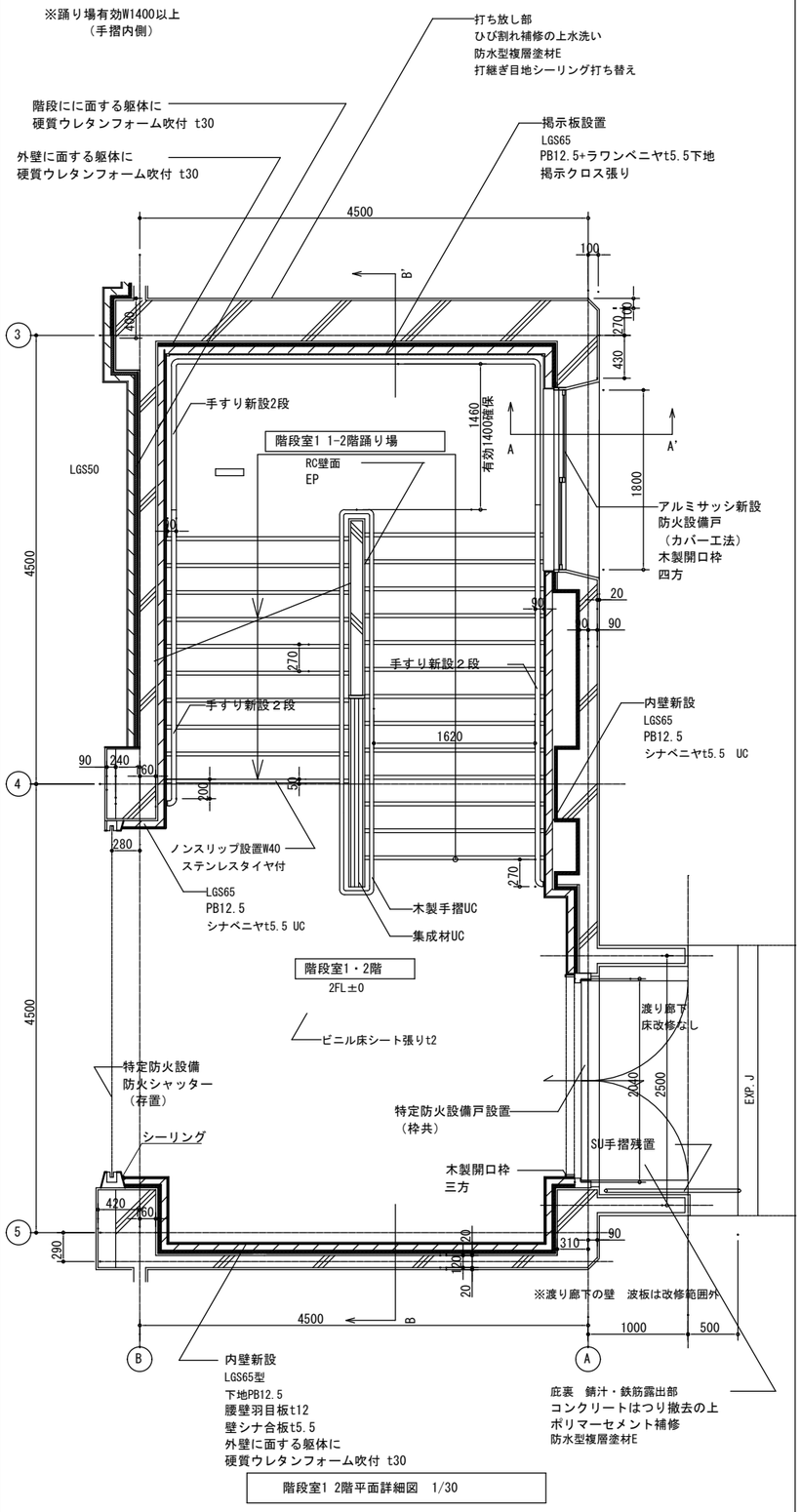
相互一級建築士事務所	長野市北尾張部765	縮尺	A1 1：30 A3 1：60
一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号		工事名	国補 古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
一級建築士登録 第293036号	相野 徹	設計年月日	R7.2.28
		図面名称	階段室1 断面詳細図（改修図）
		No.	A-18

階段室1

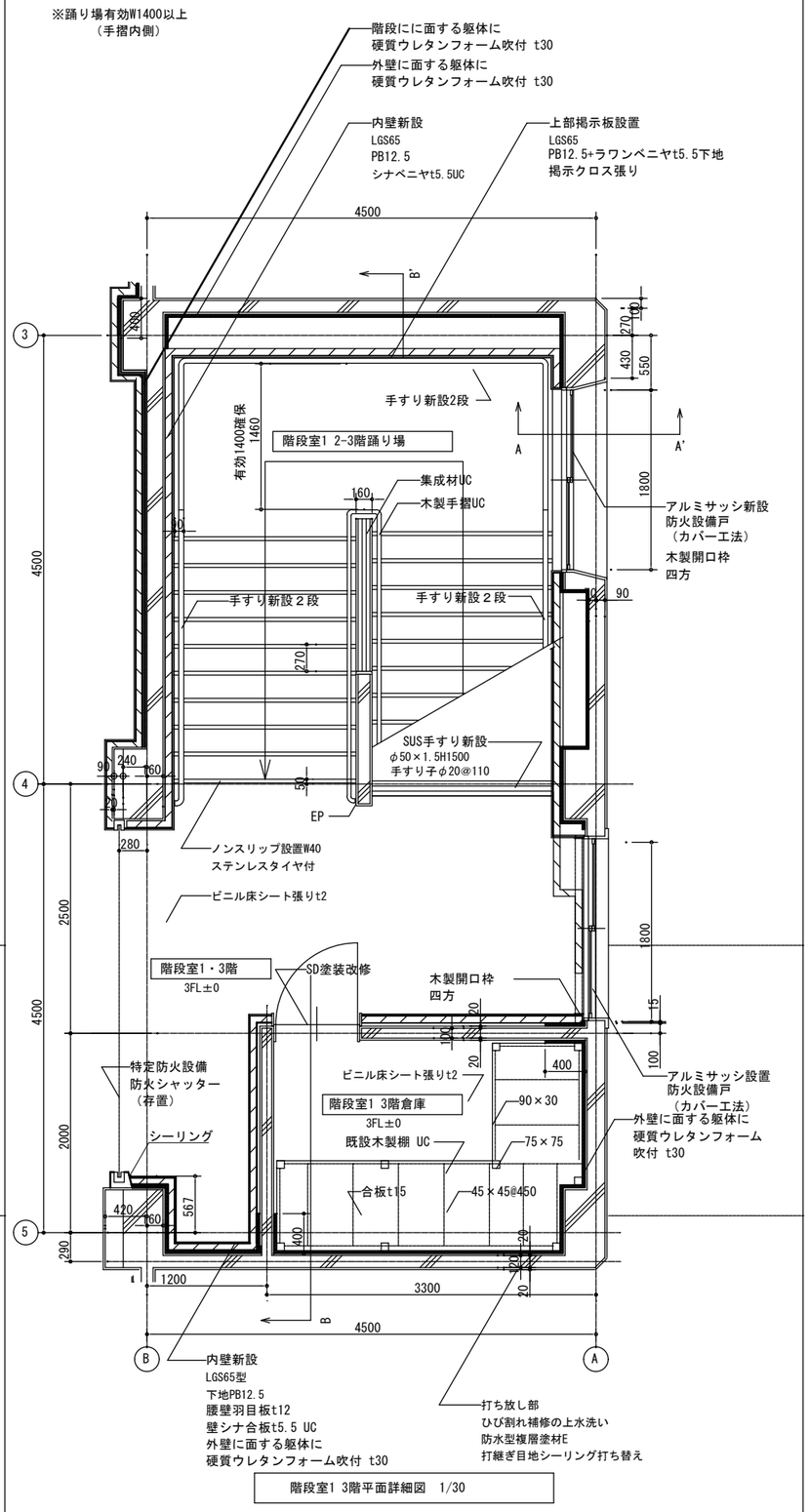
※階段の段鼻はノンスリップを設置し、踏面と明瞭に区別できる色とする。
※階段の踏面と蹴込みの色を変え段を識別しやすくする。
※階段の新設手すりは2段とし、壁と手すりの色相や明度の差を設け、手すりを認識しやすくする。
※階段の新設手すりの端部は袖口に引っかからないような形状とする。
※階段の新設手すりは各階へ連続したものとする。



階段室1 1階平面詳細図 1/30



階段室1 2階平面詳細図 1/30



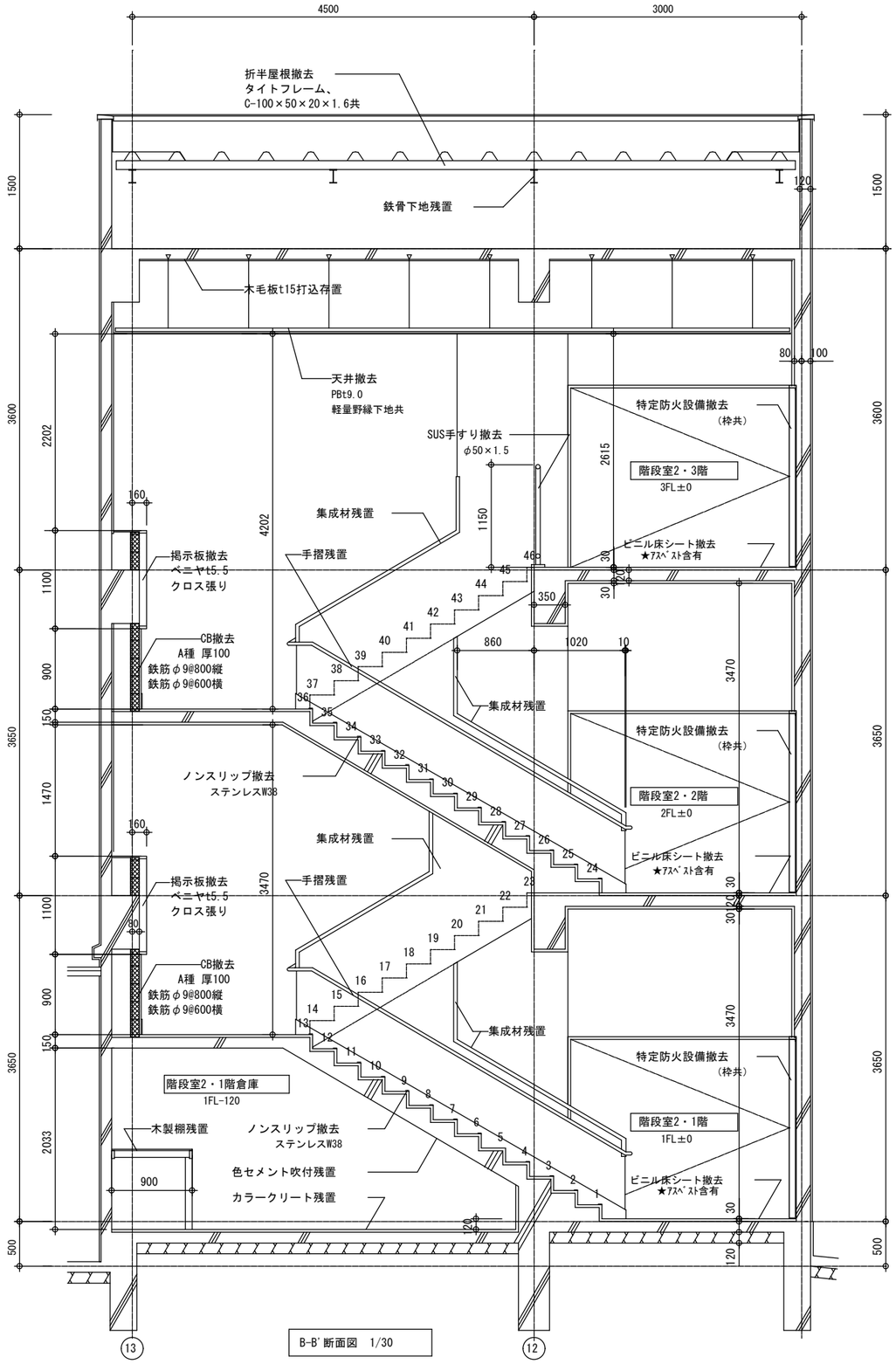
階段室1 3階平面詳細図 1/30

LGS50 ：廊下
LGS65 ：階段室
断熱材：硬質ウレタンフォーム吹付 t30

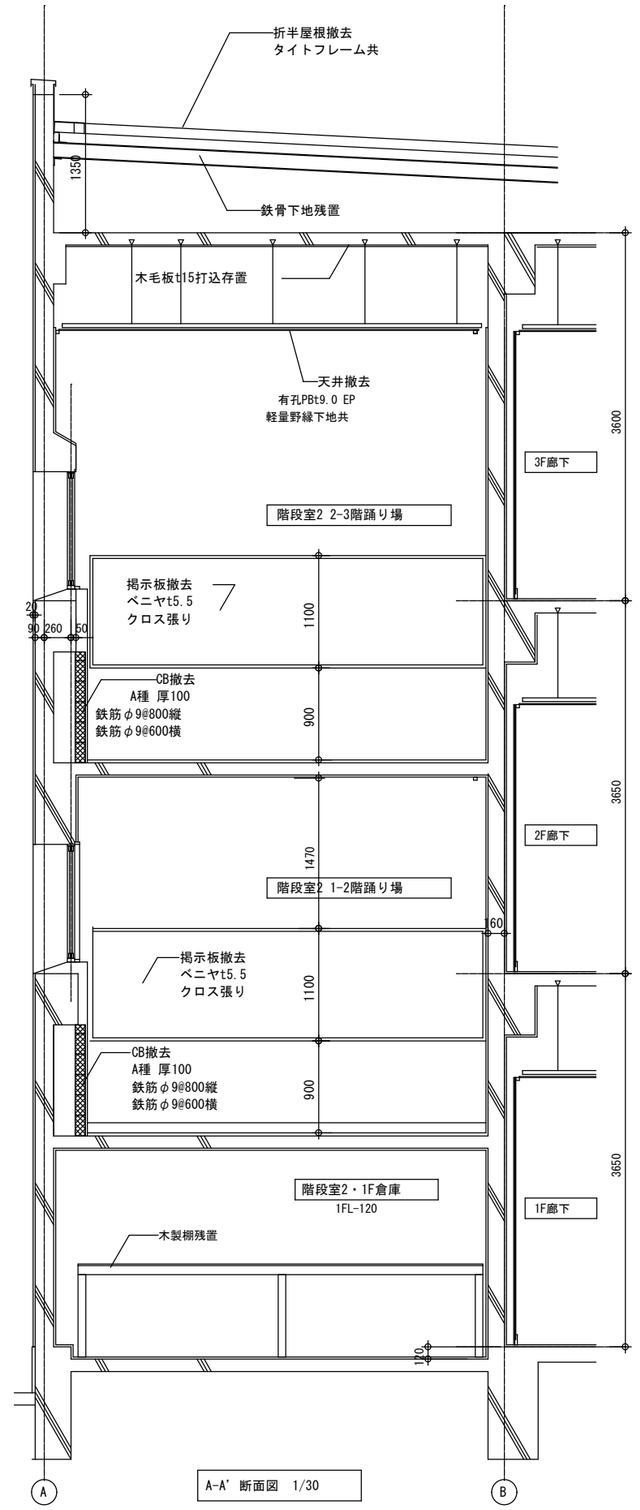
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺	A1 1：30 A3 1：60	工事名	国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	階段室1　平面詳細図（改修図）
		No.	A-19

階段室1



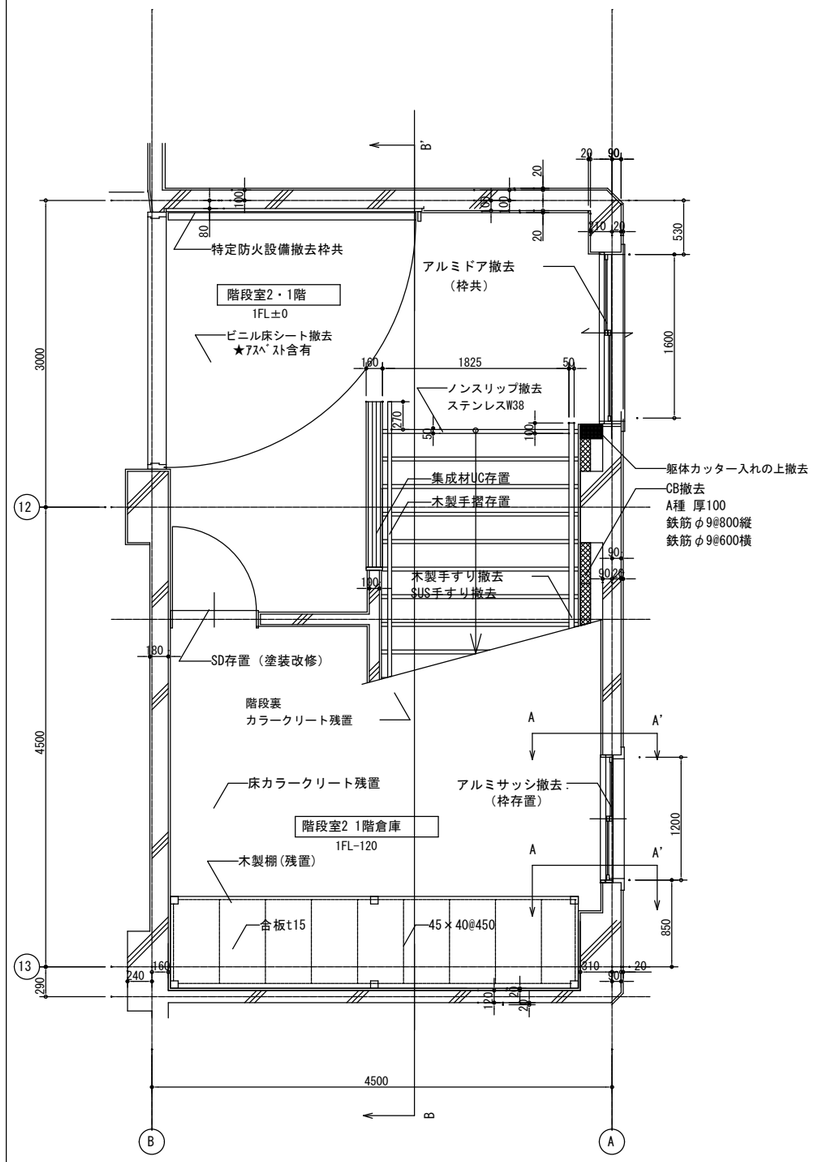
B-B' 断面図 1/30



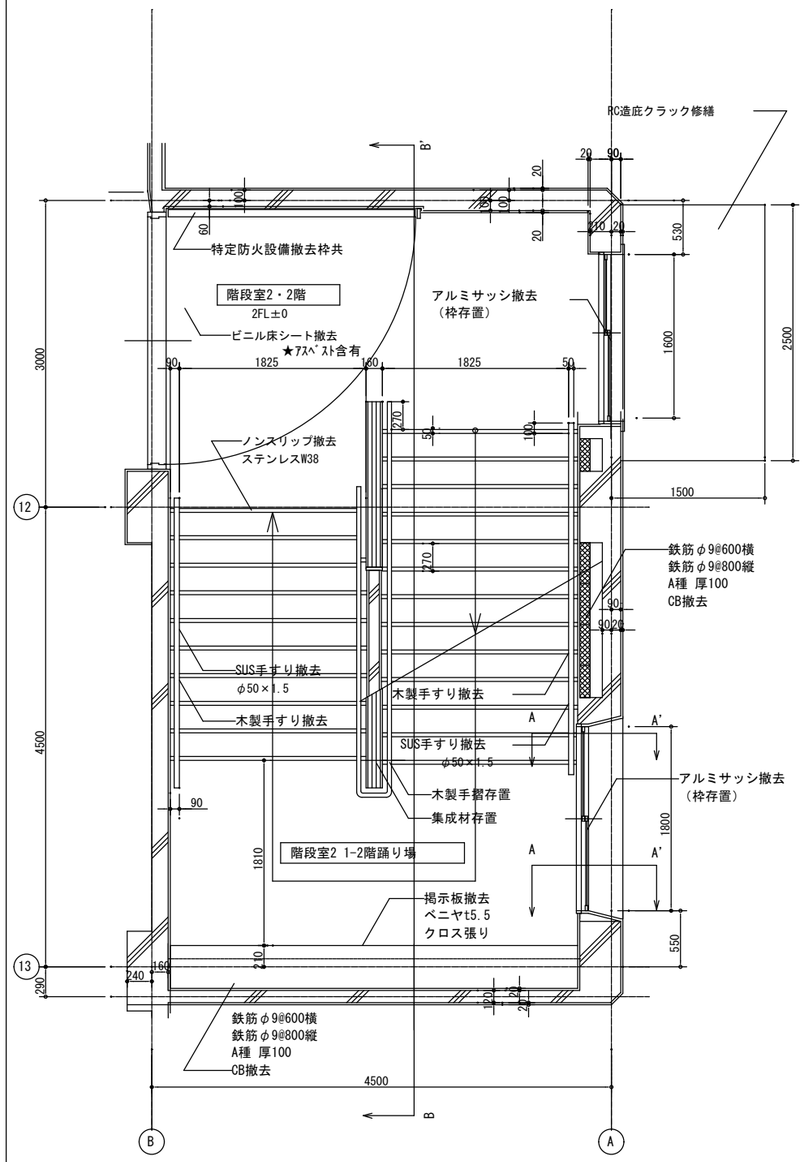
A-A' 断面図 1/30

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：30 A3 1：60 設計年月日　R7.2.28	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　階段室2　断面詳細図（撤去図）	No. A-20

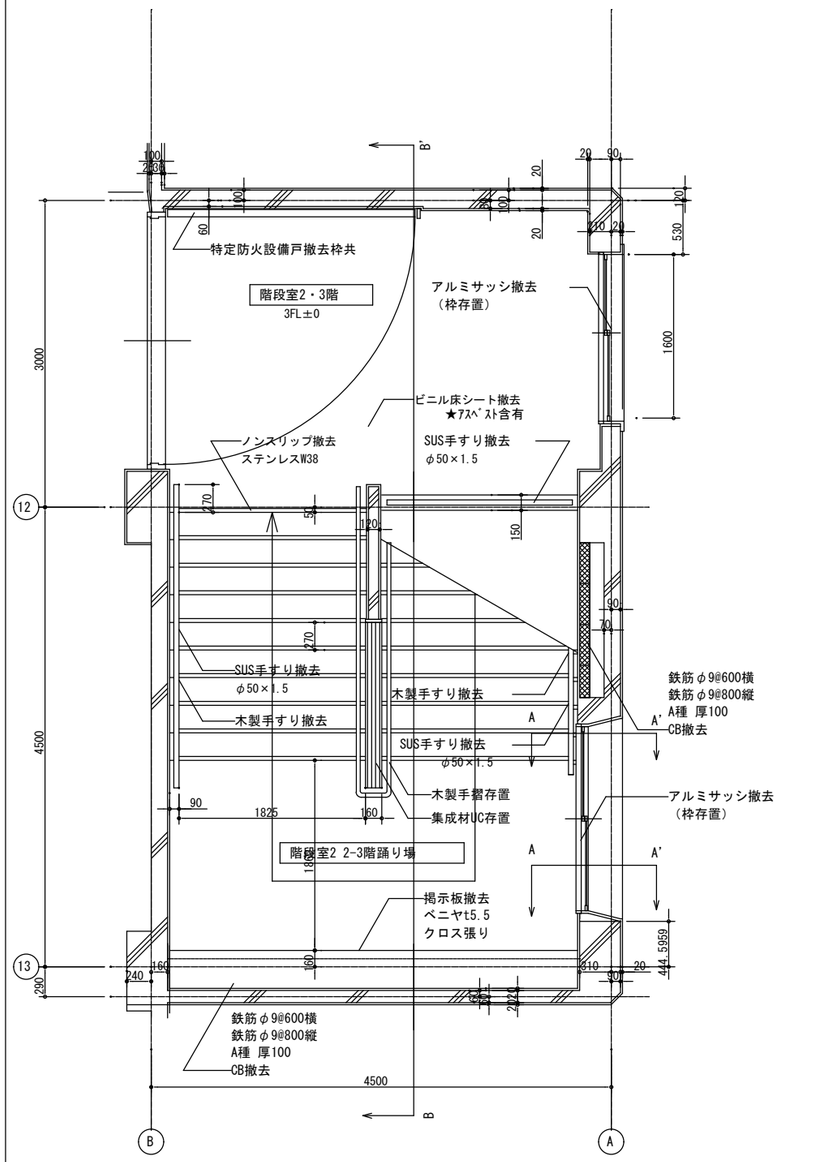
階段室1



階段室2 1階平面詳細図　1/30



階段室2 2階平面詳細図　1/30

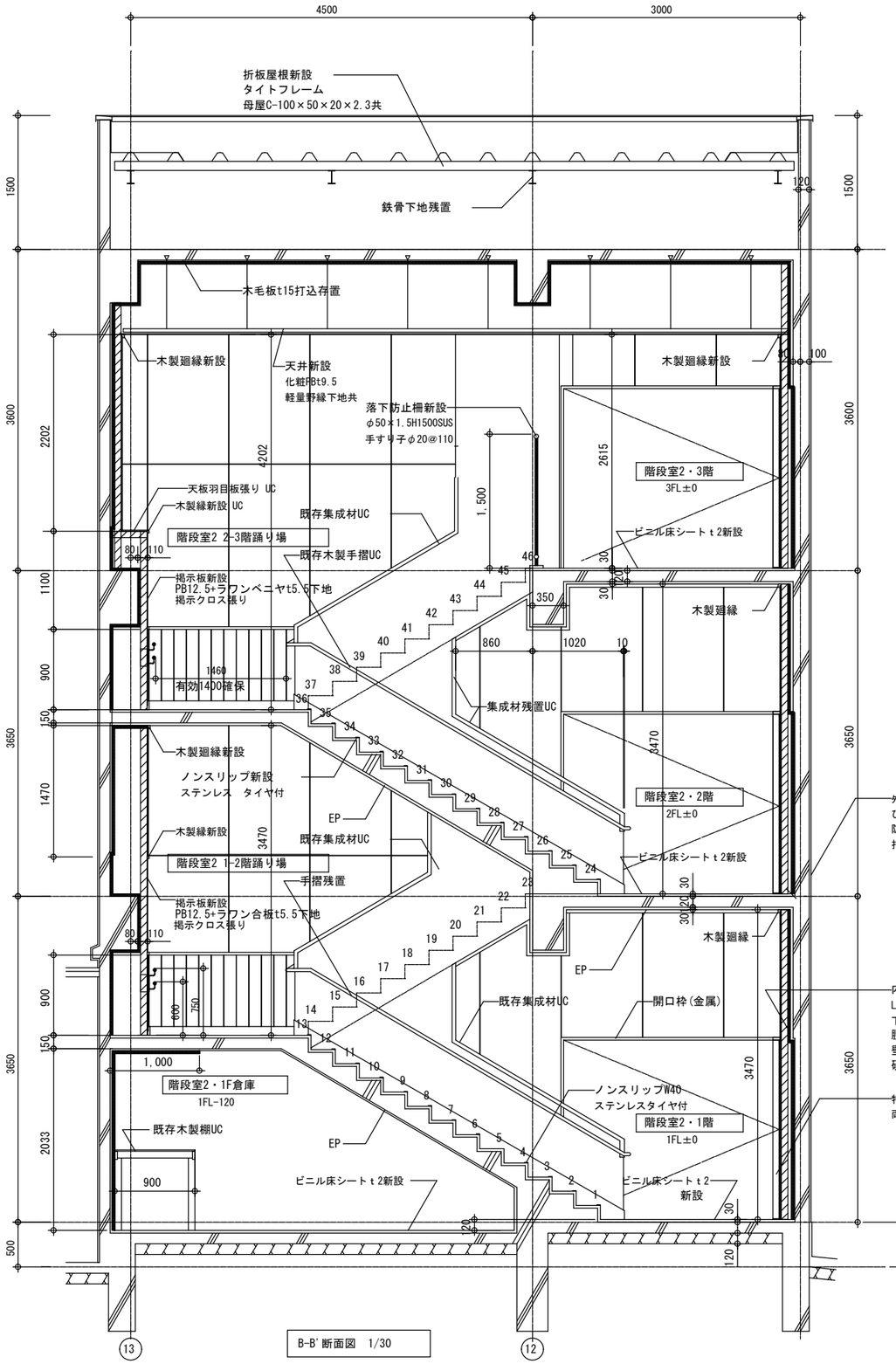


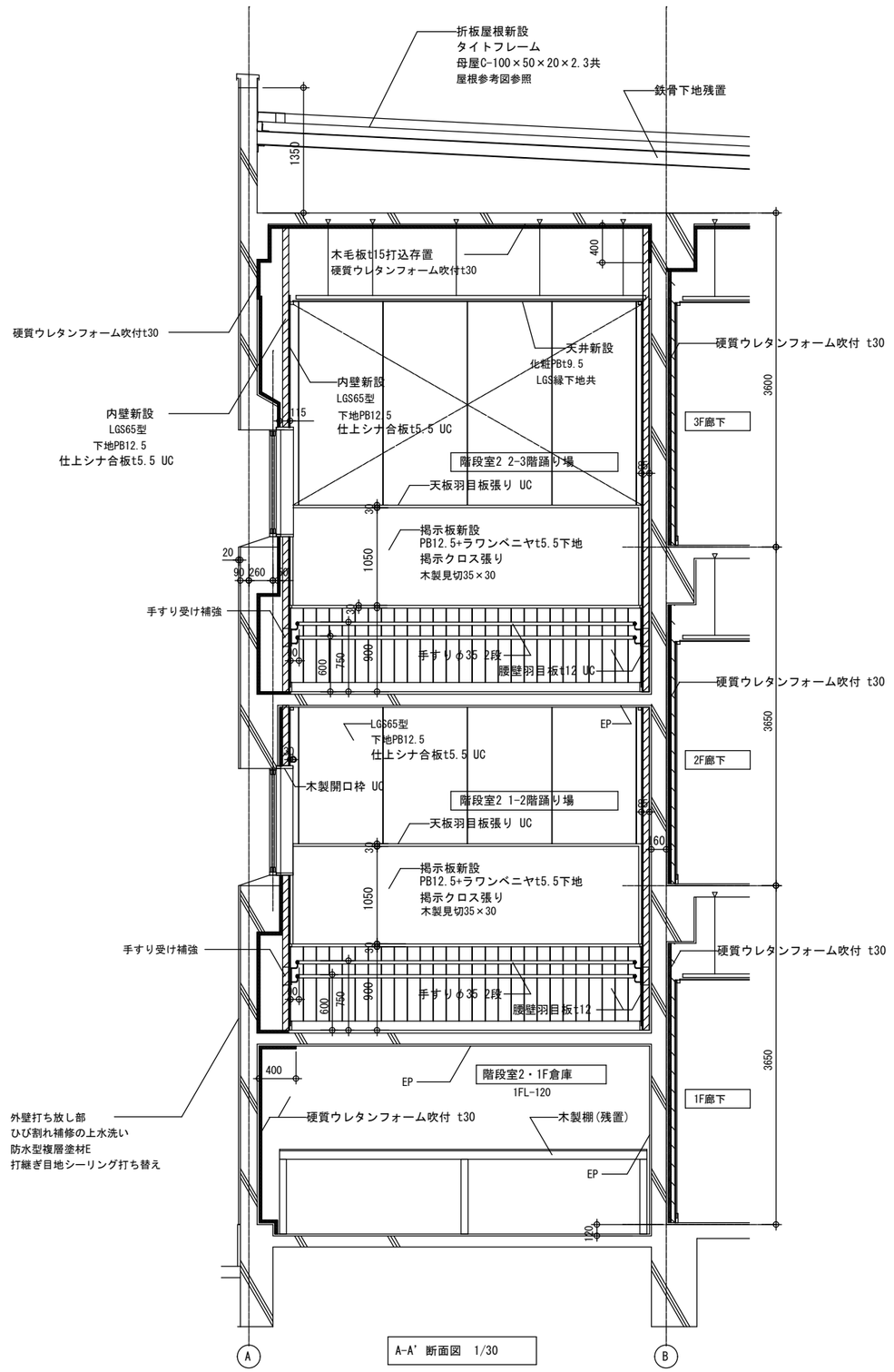
階段室2 3階平面詳細図　1/30

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺	A1 1：30 A3 1：60
設計年月日	R7. 2. 28
工事名	国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	階段室2　平面詳細図（撤去図）
No.	A-21

階段室1





LGS50 ：廊下

LGS65 ：階段室

断熱材：硬質ウレタンフォーム吹付 t30

相互一級建築士事務所	長野市北尾張部765	縮尺	A1 1：30 A3 1：60
一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号		工事名	国補 古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
一級建築士登録 第293036号	相野 徹	設計年月日	R7.2.28
		図面名称	階段室2 断面詳細図（改修図）
		No.	A-22

階段室2

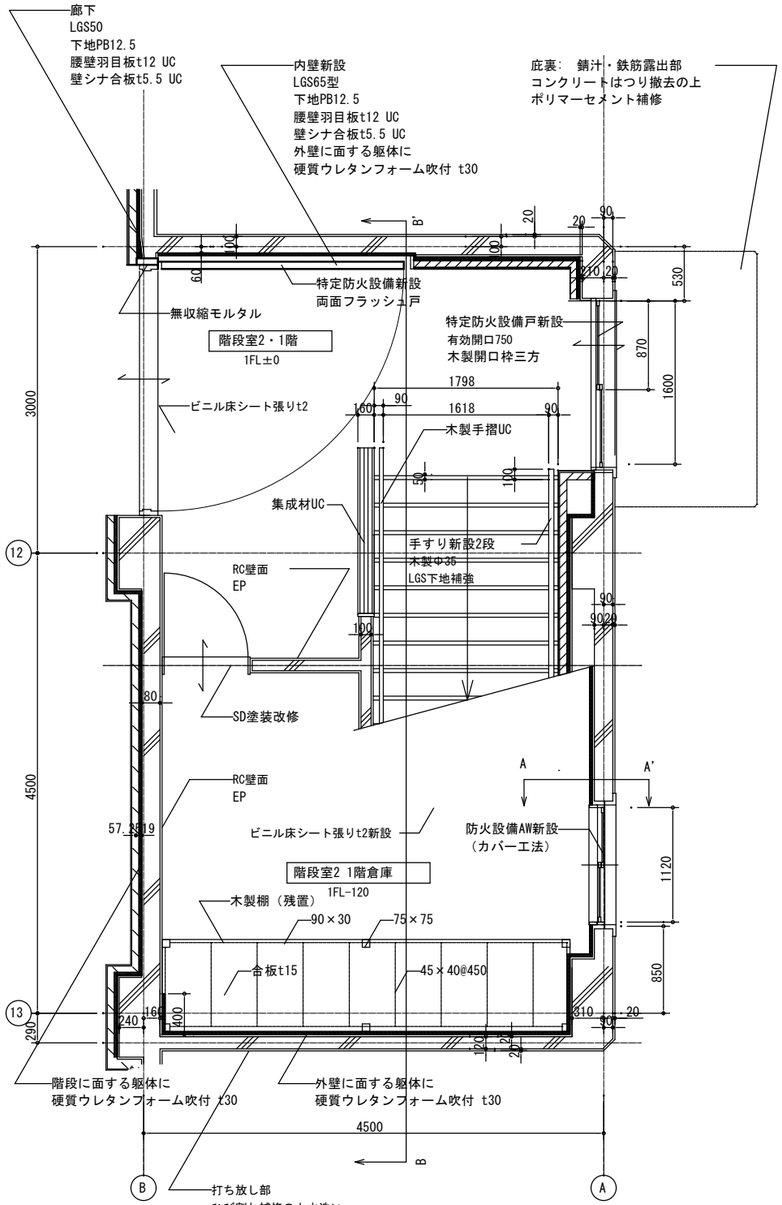
※階段の段鼻はノンスリップを設置し、踏面と明瞭に区別できる色とする。

※階段の踏面と蹴込みの色を変え段を識別しやすくする。

※階段の新設手すりは2段とし、壁と手すりの色相や明度の差を設け、手すりを認識しやすくする。

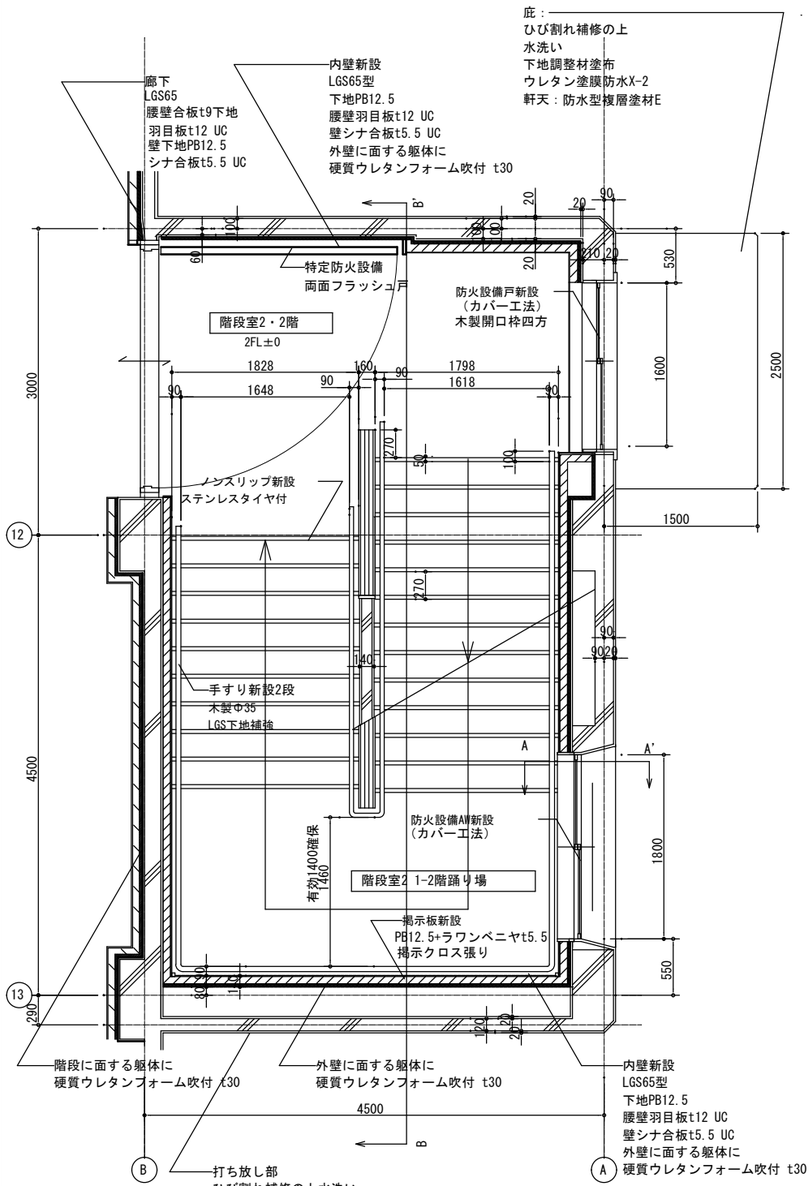
※階段の新設手すりの端部は袖口に引っかからないような形状とする。

※階段の新設手すりは各階へ連続したものとする。

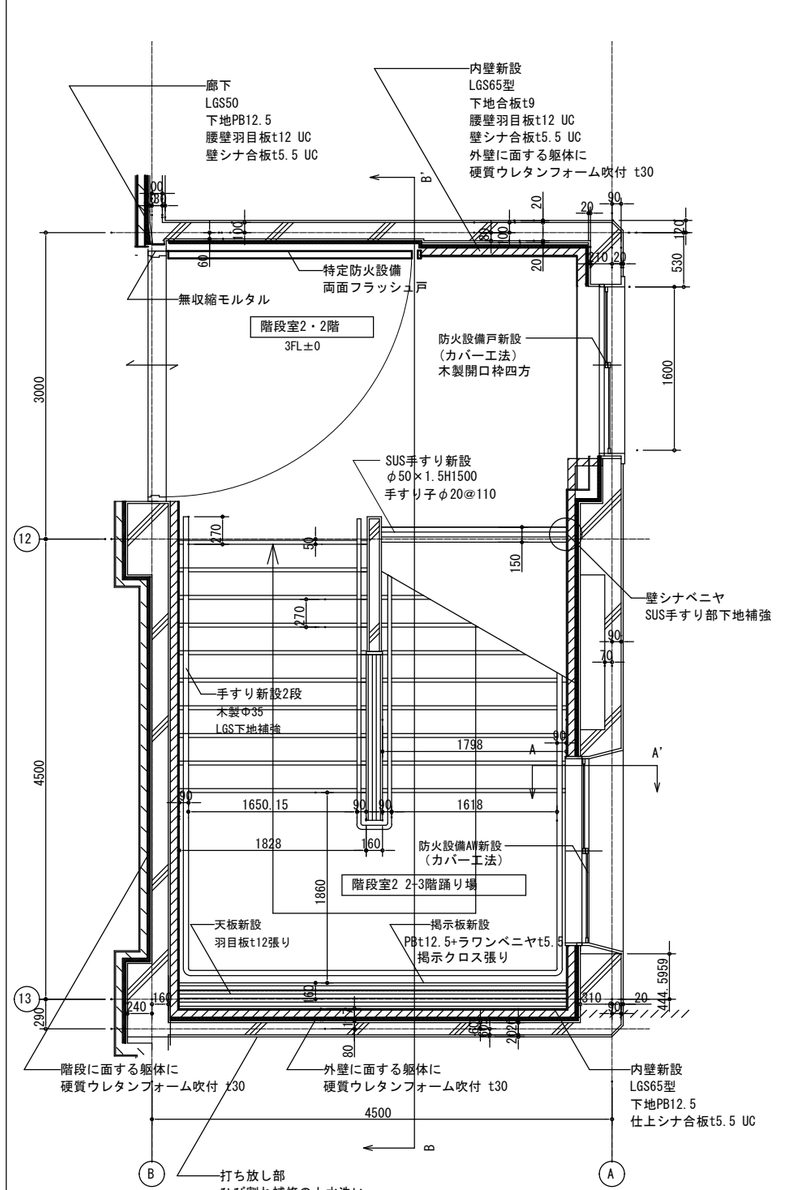


階段室2 1階平面詳細図 1/30

羽目板t12 UC



階段室2 2階平面詳細図 1/30



階段室2 3階平面詳細図 1/30

LGS50 ：廊下

LGS65 ：階段室

断熱材：硬質ウレタンフォーム吹付 t30

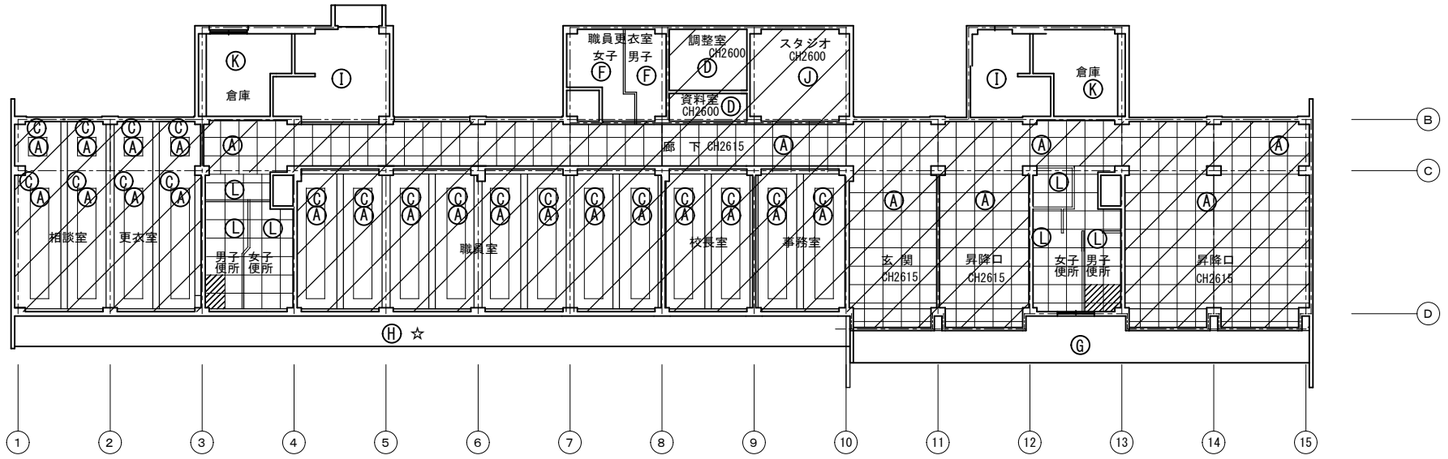
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765

一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号

一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1 1：30 A3 1：60
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	階段室2　平面詳細図（改修図）
No.	A-23

撤去図



1F天井伏図（撤去図）

凡例（既存）下地LGS共撤去（インサート残し）

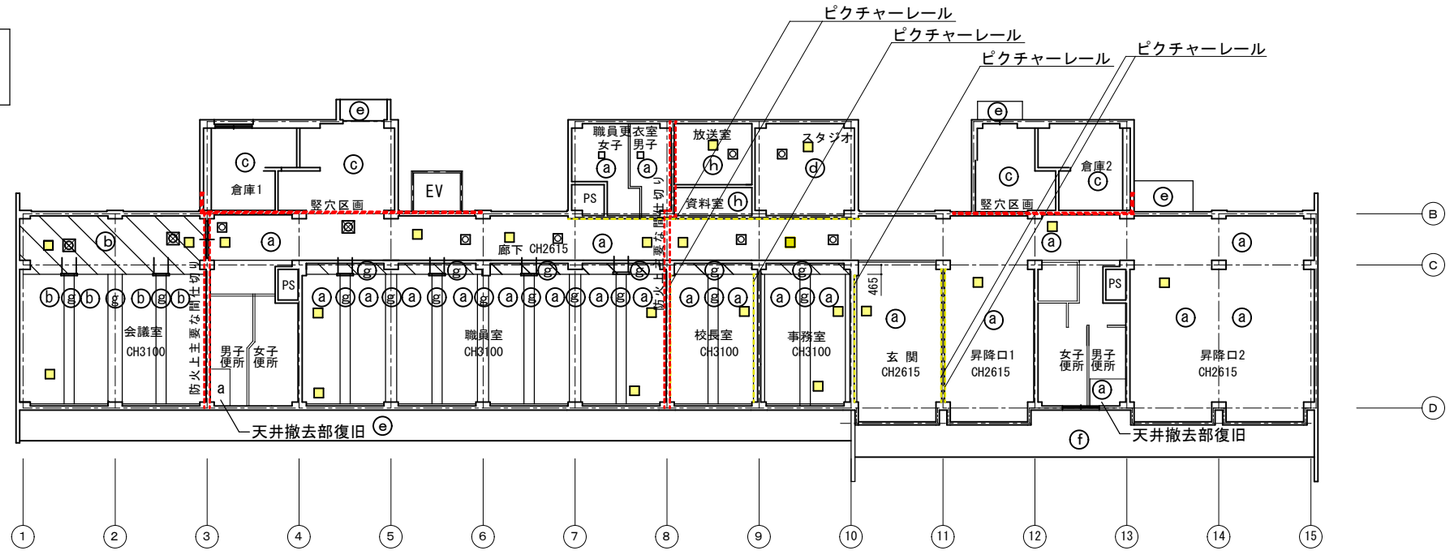
- Ⓐ有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9　EP（撤去）
- Ⓑ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9（撤去）
- Ⓒ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9 EP（撤去）
- Ⓓﾛｯｸｳｰﾙ吸音板 t 9（撤去）
- Ⓔ吸音ボード（撤去）
- Ⓕ木毛板t15色ｾﾒﾝﾄ吹付（残置）
- Ⓖｱﾙﾐ角波板　t 0.4（撤去）
- Ⓗベニヤ打放し　EP（残置）☆アスベスト含有
- Ⓘモルコテサテン（残置）☆アスベスト含有
- Ⓙ有孔石膏ボード下地ｸﾞﾗｽｳｰﾙt70（撤去）
- Ⓚベニヤ打放し色ｾﾒﾝﾄ吹付（残置）
- Ⓛ化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5（残置）ハッチ部天井撤去

天井撤去箇所

既存トイレ天井撤去箇所

☆　アスベスト含有建材

改修図



1F天井伏図（改修図）

凡例（改修）下地LGS共（既存インサート利用）

- ⓐ化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ　t 9.5（新設）下地共
- ⓑ吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5（新設）
- ⓒ下地調整　EP
- ⓓ有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ下地ｸﾞﾗｽｳｰﾙt50ｶﾞﾗｽｸﾛｽ張り（新設）
- ⓔ外装薄塗材E
- ⓕｱﾙﾐｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ t 0.4張り（新設）
- ⓖPB12.5下地シナ合板t5.5張UC（梁形）（新設）
- ⓗ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5下地ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板　t=9（新設）

ハッチ部下がり天井CH2615

凡例

- 天井点検口　600×600（設備用）
- 天井開口補強　600×600（設備用）
- 天井開口補強　450×450（設備用）
- 天井開口補強　300×300（設備用）

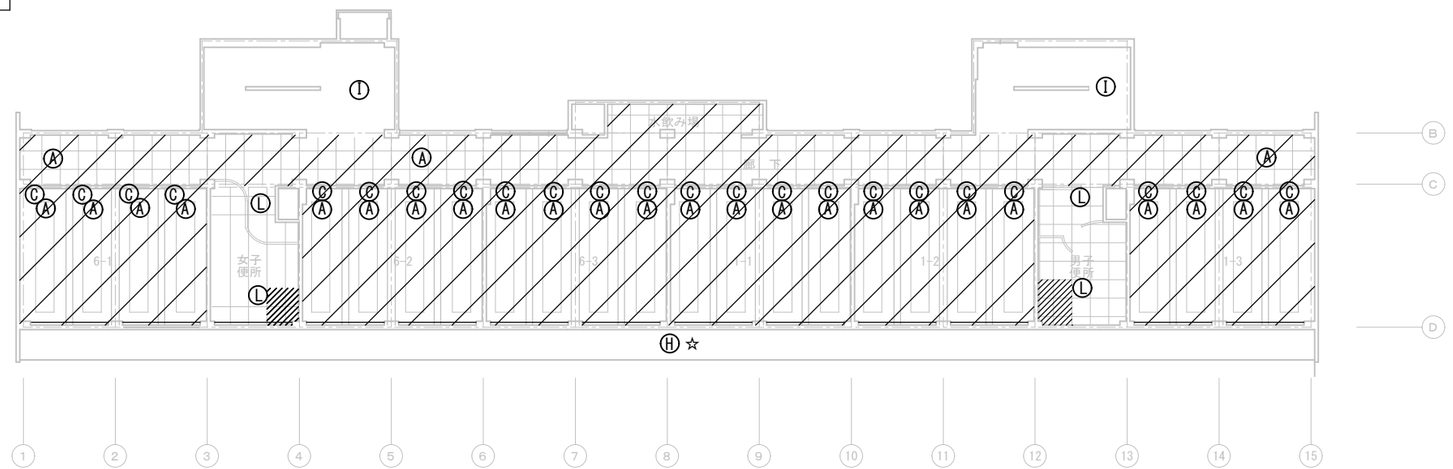
下がり壁開口補強150×1,000（設備吹き出し口用）

--- ピクチャーレール（下地補強共）

※開口大きさについては、別途発注機械設備と調整のこと。

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：150 A3 1：300 設計年月日　R7. 2. 28	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　1F天井伏図（撤去図・改修図）	No. A-24-1

撤去図



2F天井伏図（撤去図）

凡例（既存）下地LGS共撤去（インサート残し）

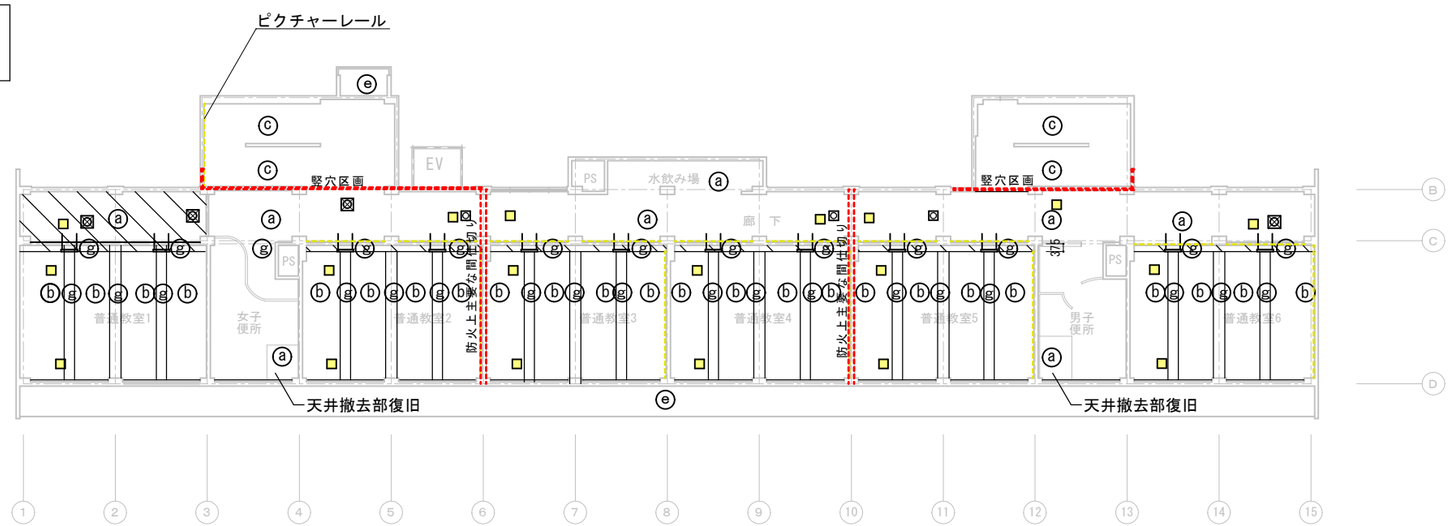
- Ⓐ有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9　EP（撤去）
- Ⓑ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9（撤去）
- Ⓒ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9 EP（撤去）
- Ⓓﾛｯｸｳｰﾙ吸音板 t 9（撤去）
- Ⓔ吸音ボード（撤去）
- Ⓕ木毛板t15色ｾﾒﾝﾄ吹付（残置）
- Ⓖｱﾙﾐ角波板　t 0.4（撤去）
- Ⓗベニヤ打放し　EP（残置）☆アスベスト含有
- Ⓘモルコテサテン（残置）☆アスベスト含有
- Ⓙ有孔石膏ボード下地ｸﾞﾗｽｳｰﾙt70（撤去）
- Ⓚベニヤ打放し色ｾﾒﾝﾄ吹付（残置）
- Ⓛ化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5（残置）ハッチ部天井撤去

天井撤去箇所

既存トイレ天井撤去箇所

☆ ｱｽﾍﾞｽﾄ含有

改修図



2F天井伏図（改修図）

凡例（改修）下地LGS共（既存インサート利用）

- ⓐ化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ　t 9.5（新設）下地共
- ⓑ吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5（新設）
- ⓒ下地調整　EP
- ⓓ有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ下地ｸﾞﾗｽｳｰﾙt50ｶﾞﾗｽｸﾛｽ張り（新設）
- ⓔ外装薄塗材E
- ⓕｱﾙﾐｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ t 0.4張り（新設）
- ⓖPB12.5下地シナ合板t5.5張UC（梁形）（新設）
- ⓗ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5下地ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板　t=9（新設）

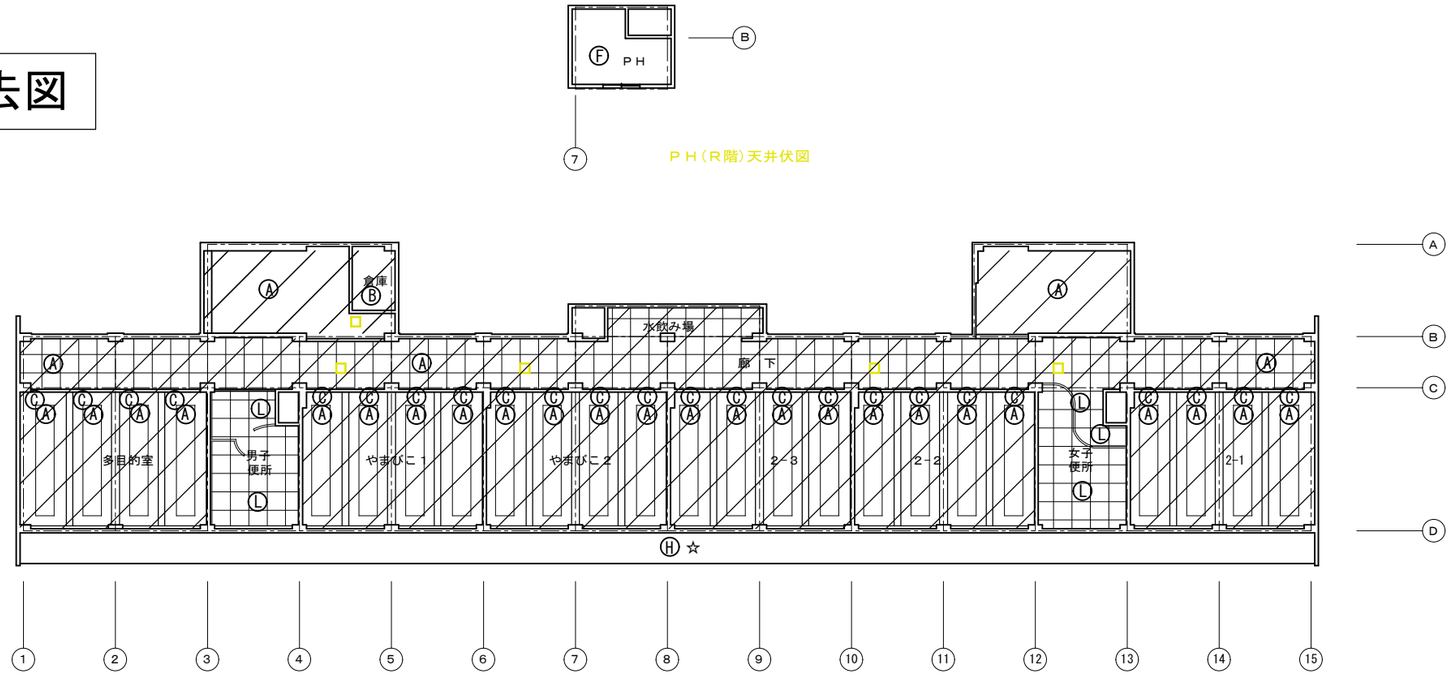
ハッチ部下がり天井CH2615

凡例

- 天井点検口　600×600（設備用）
- 天井開口補強　600×600（設備用）
- 天井開口補強　450×450（設備用）
- 天井開口補強　300×300（設備用）
- 下がり壁開口補強150×1000（設備吹き出し口用）
- ピクチャーレール（下地補強共）

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：150 A3 1：300	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	
	設計年月日　R7. 2. 28	図面名称　2F天井伏図（撤去図・改修図）	No. A-24-2

撤去図



3F天井伏図（撤去図）

凡例（既存）下地LGS共撤去（インサート残し）

- Ⓐ有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9　EP（撤去）
- Ⓑ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9（撤去）
- Ⓒ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9 EP（撤去）
- Ⓓﾛｯｸｳｰﾙ吸音板 t 9（撤去）
- Ⓔ吸音ボード（撤去）
- Ⓕ木毛板t15色ｾﾒﾝﾄ吹付（残置）
- Ⓖｱﾙﾐ角波板　t 0.4（撤去）
- Ⓗﾍﾞﾆﾔ打放し　EP（残置）☆ｱｽﾍﾞｽﾄ含有
- Ⓘﾓﾙｺﾃｻﾃﾝ（残置）☆ｱｽﾍﾞｽﾄ含有
- Ⓙ有孔石膏ボード下地ｸﾞﾗｽｳｰﾙt70（撤去）
- Ⓚﾍﾞﾆﾔ打放し色ｾﾒﾝﾄ吹付（残置）
- Ⓛ化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5（残置）ハッチ部天井撤去

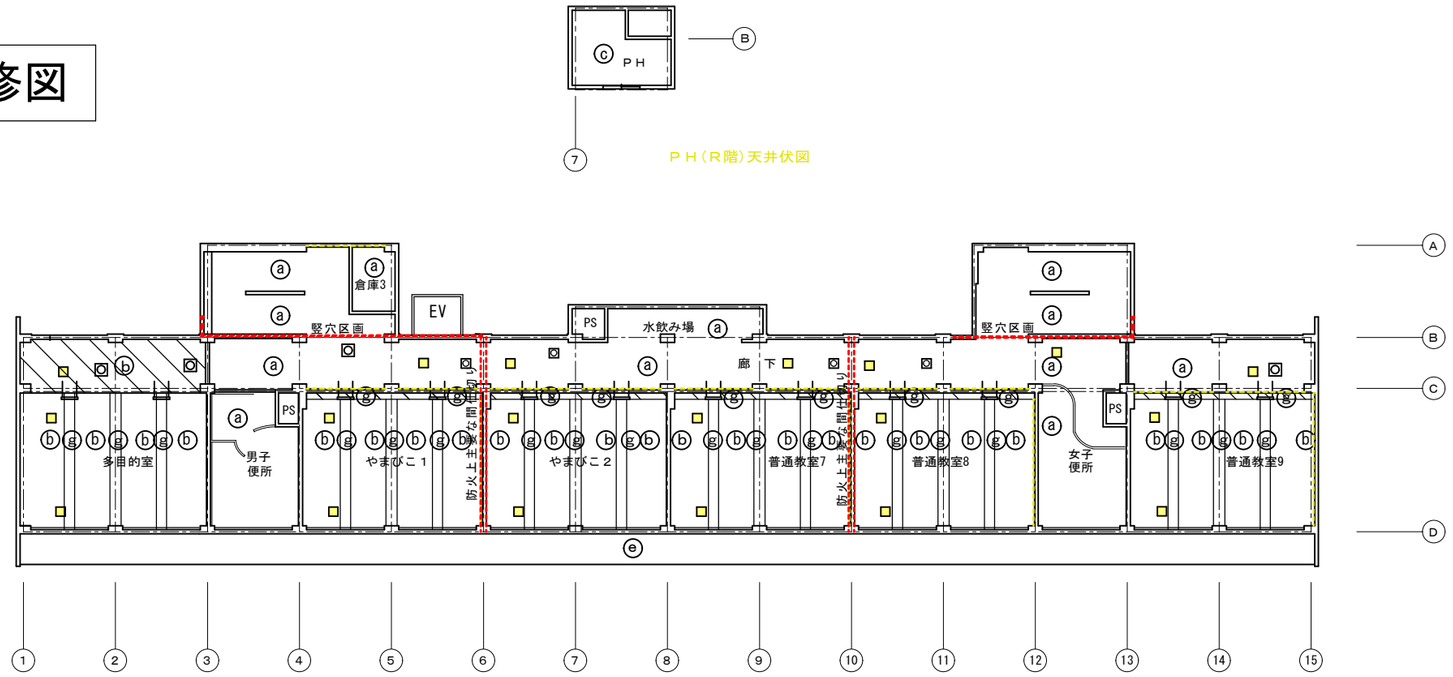
凡例

天井撤去箇所

□ 天井点検口

☆ ｱｽﾍﾞｽﾄ含有

改修図



3F天井伏図（改修図）

凡例（改修）下地LGS共（既存インサート利用）

- ⓐ化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ　t 9.5（新設）下地共
- ⓑ吸音化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5（新設）
- ⓒ下地調整　EP
- ⓓ有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ下地ｸﾞﾗｽｳｰﾙt50ｶﾞﾗｽｸﾛｽ張り（新設）
- ⓔ外装薄塗材E
- ⓕｱﾙﾐｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ t 0.4張り(新設)
- ⓖPB12.5下地シナ合板t5.5張UC（梁形）（新設）
- ⓗ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t 9.5下地ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板　t=9（新設）

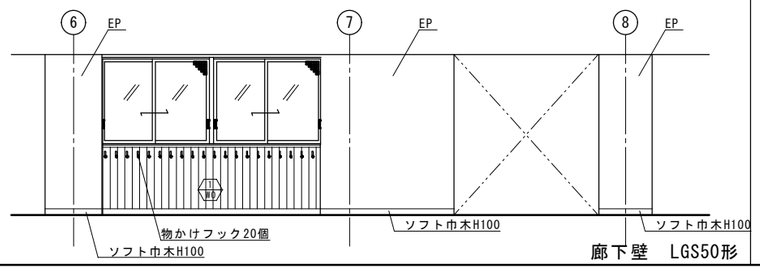
ハッチ部下がり天井CH2615

凡例

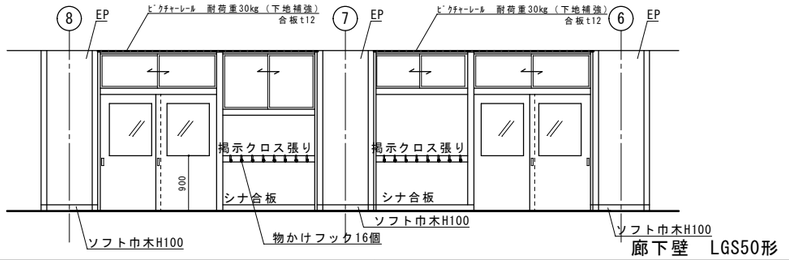
- □ 天井点検口　600×600（設備用）
- ▨ 天井開口補強　600×600（設備用）
- ▩ 天井開口補強　450×450（設備用）
- ▫ 天井開口補強　300×300（設備用）
- 下がり壁開口補強150×1000（設備吹き出し口用）
- ---- ピクチャーレール(下地補強共)

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺	A1 1：150 A3 1：300	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-24-3
	設計年月日	R7. 2. 28	図面名称　3F天井伏図（撤去図・改修図）	

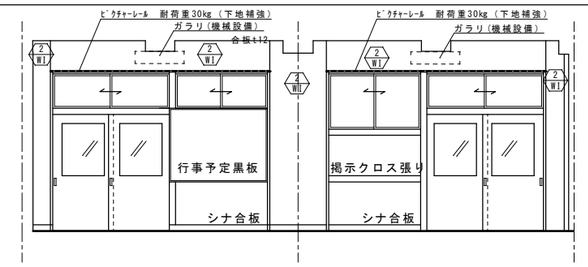
廊下展開図S=1/50　A



C

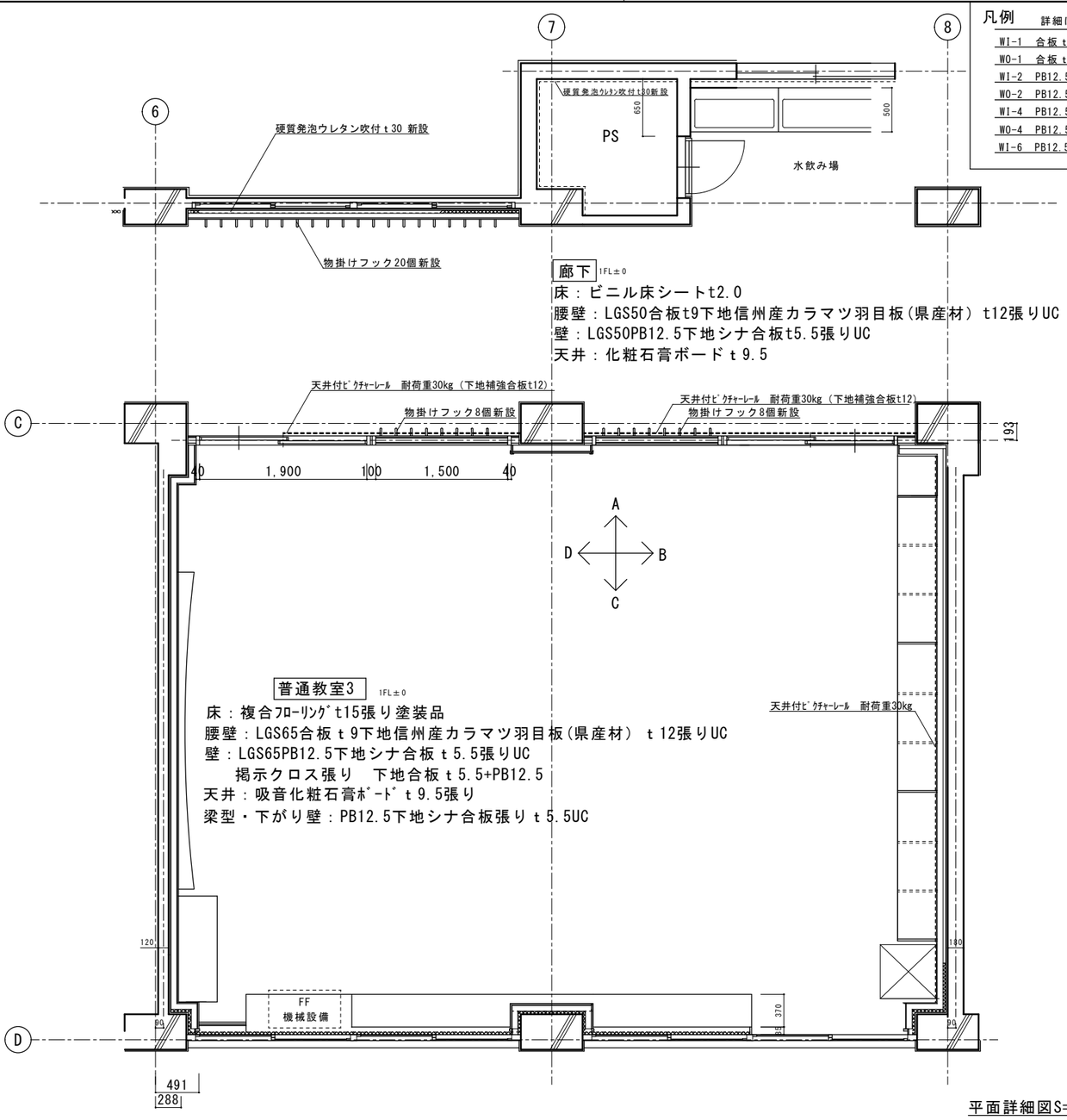


普通教室展開図　A



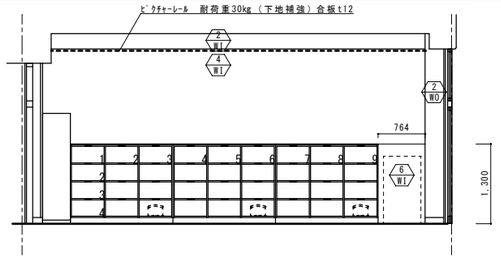
凡例　詳細については詳細図1参照

WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱無し
WO-2	PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
WI-6	PB12.5+化粧ケイカル板t6断熱無し

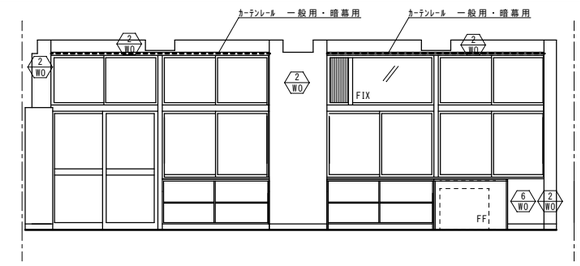


平面詳細図S=1/30

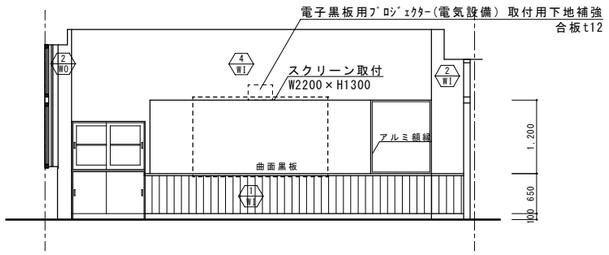
B

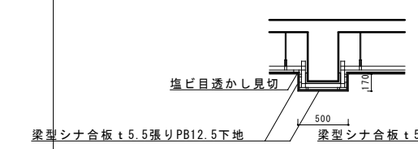


C

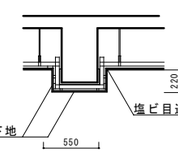


D

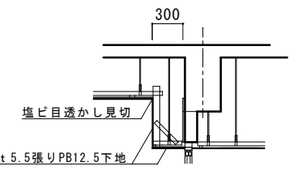




小梁ふかし詳細S＝1/30



大梁ふかし詳細S＝1/30

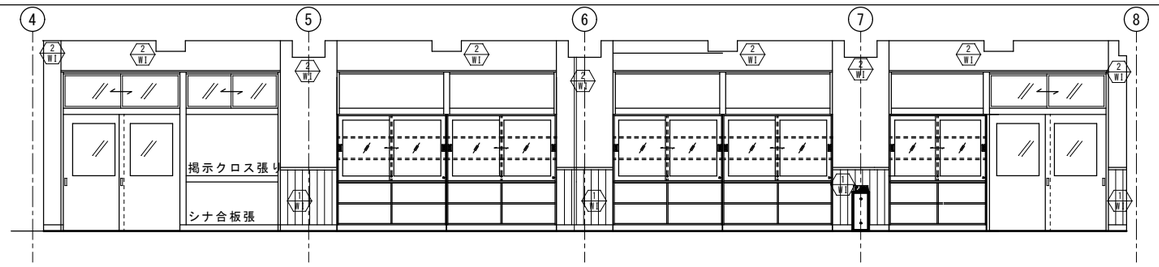


間仕切り部詳細S＝1/30

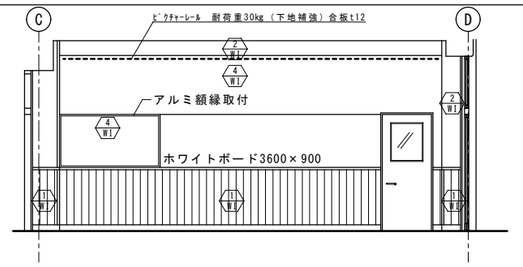
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺 A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日 R7.2.28	図面名称	教室平面詳細図・展開図
		No.	A-25

展開図　S=1/50

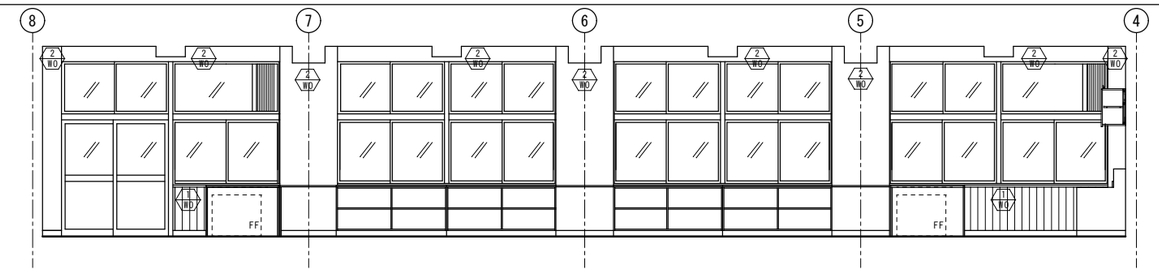
A



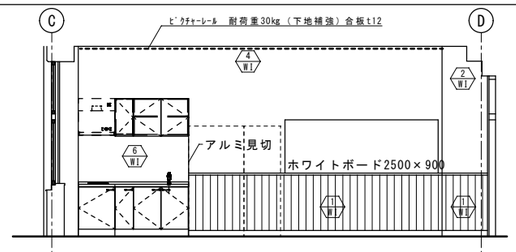
B



C



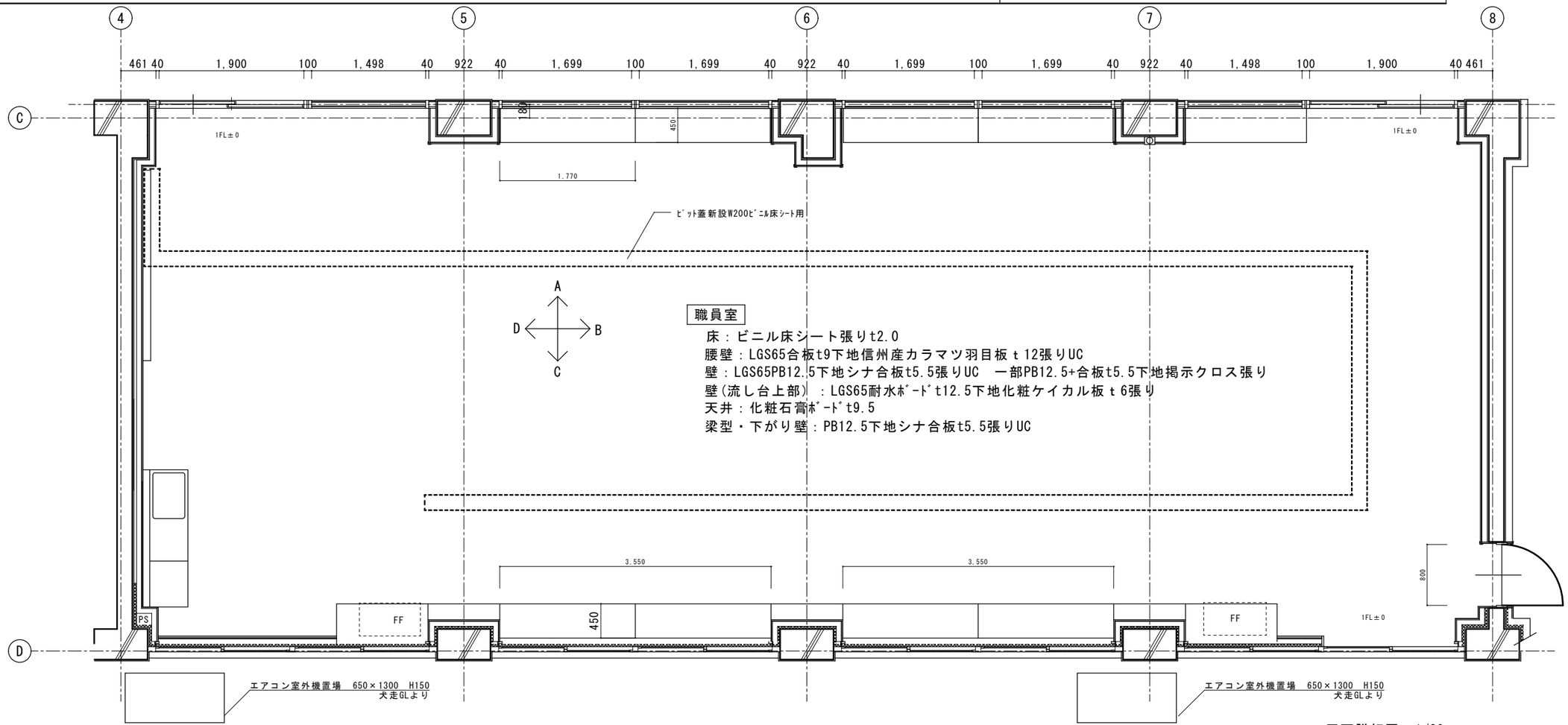
D



凡例　詳細については詳細図1参照

WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱無し
WO-2	PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
WI-6	耐水合板9化粧ケイ酸カルシウム板ｔ6.0断熱無し

ウレタン吹付



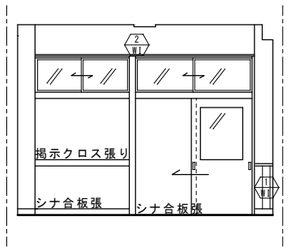
平面詳細図　1/30

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

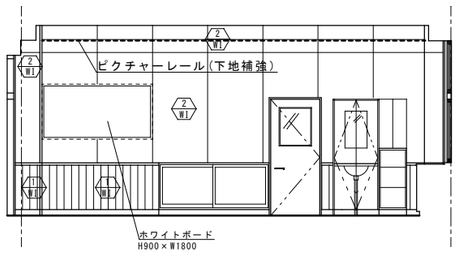
縮尺	A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	平面詳細図・展開図　職員室（改修図）
No.	A-26

校長室展開図 S=1/50

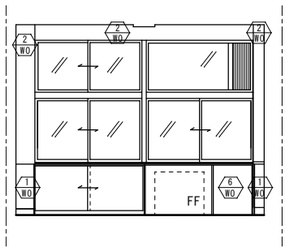
A



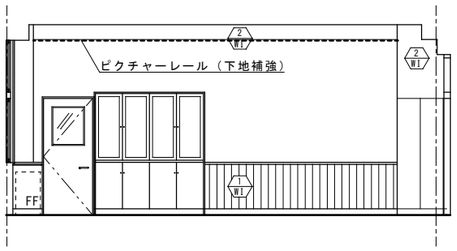
B



C

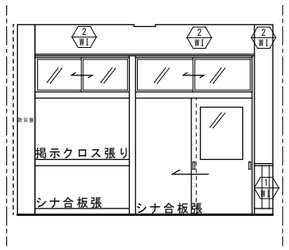


D

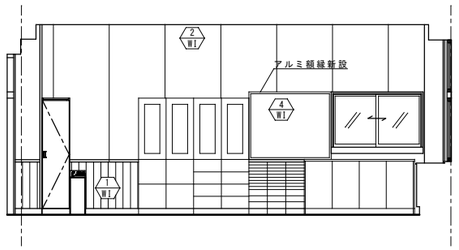


事務室展開図 S=1/50

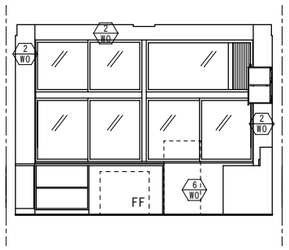
A



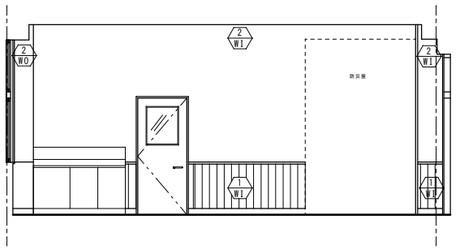
B

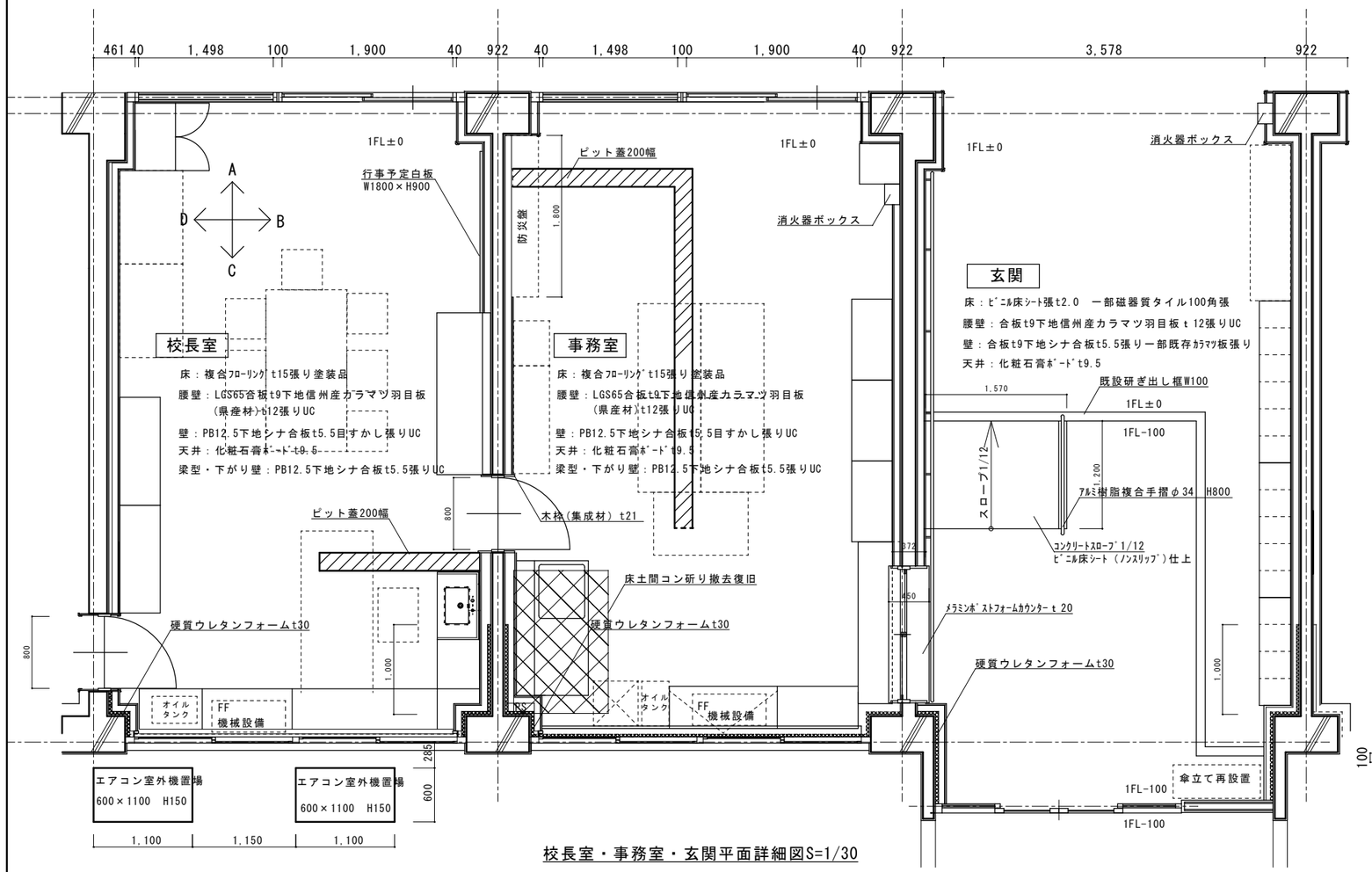


C

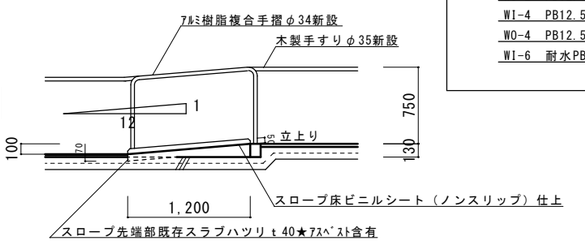


D



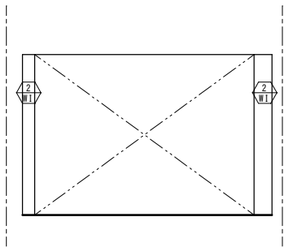


校長室・事務室・玄関平面詳細図S=1/30

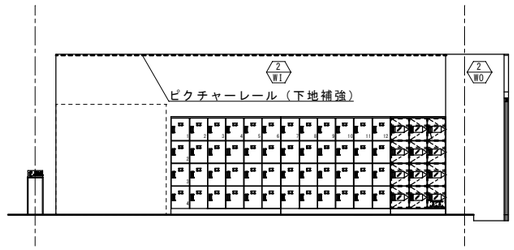


玄関内スロープ断面図S＝1/30

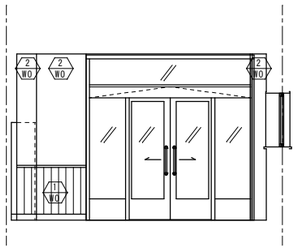
玄関展開図 A



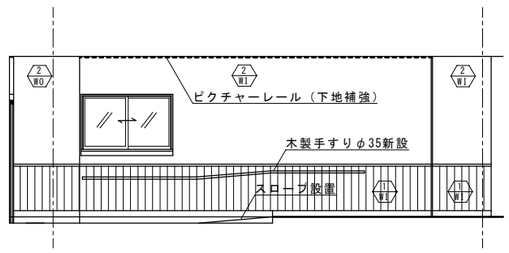
B



C



D



展開凡例　詳細については詳細図1参照

WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱無し
WO-2	PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
WI-6	耐水PB12.5下地合板ｔ6化粧ケイカル貼り断熱無し

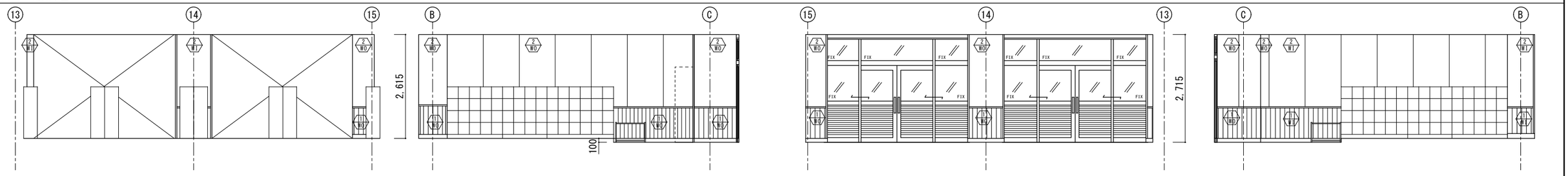
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765

一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号

一級建築士登録　第293036号　相野　徹

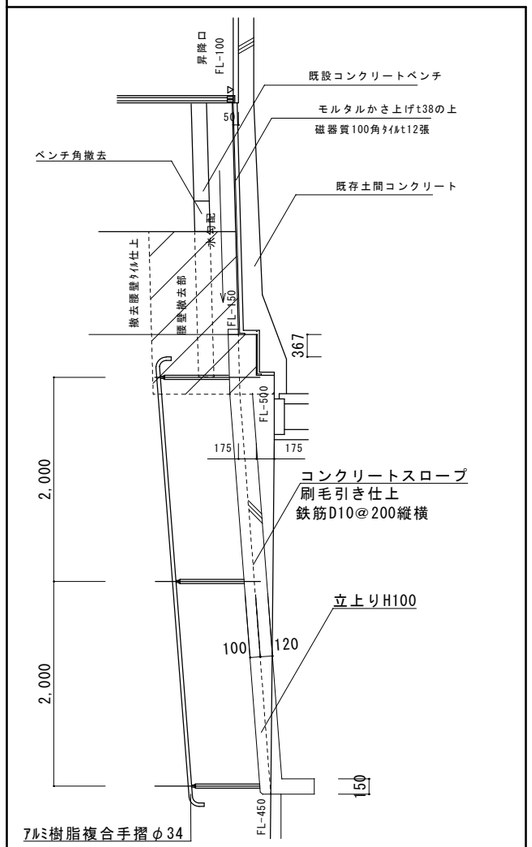
縮尺	A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	平面詳細図・展開図　事務室・校長室（改修図）
		No.	A-27

昇降口2展開図S＝1/50　　A　　B　　C　　D

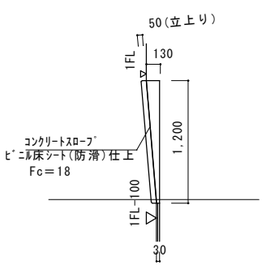


凡例　詳細については詳細図1参照

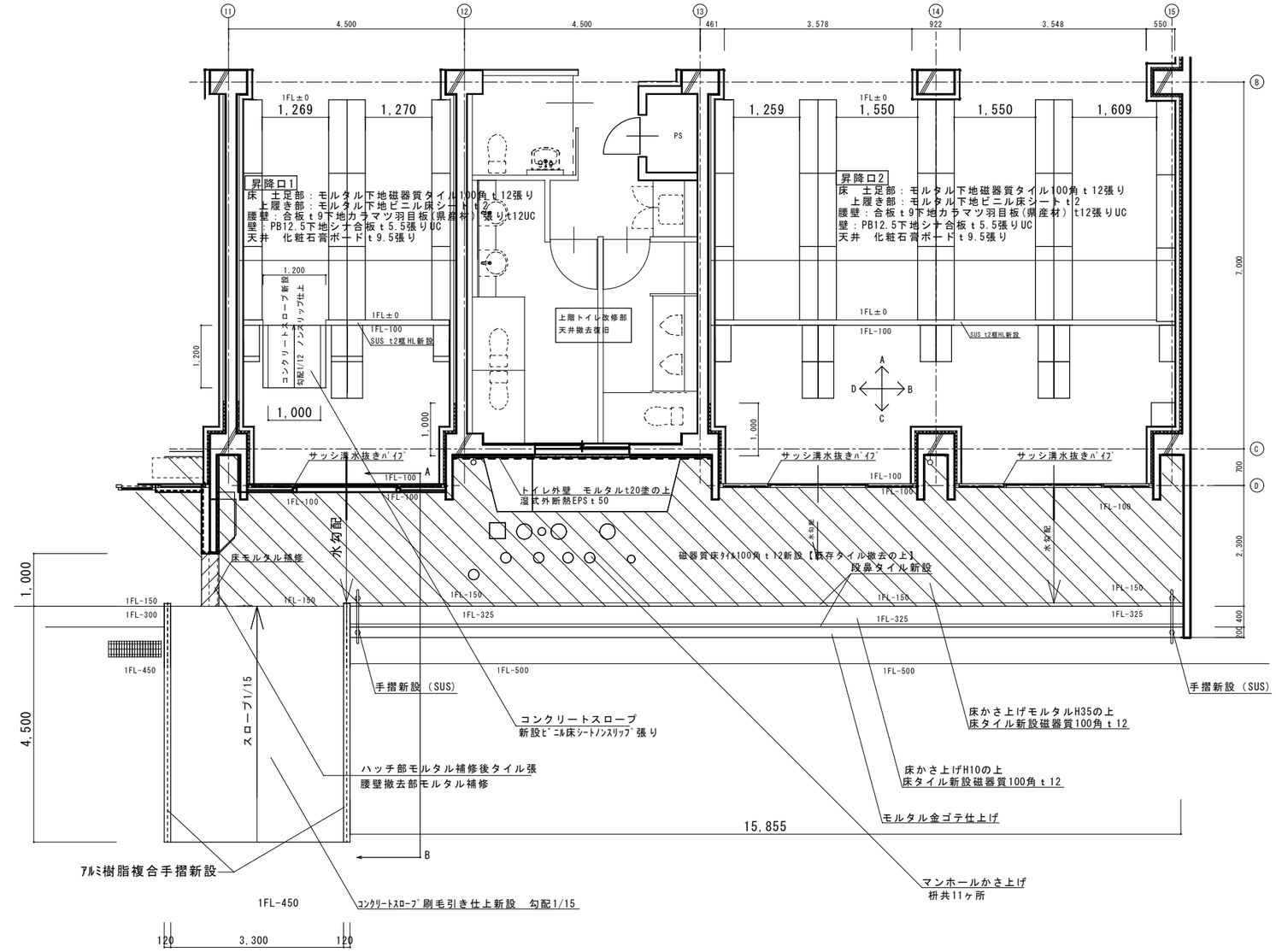
WI-1　合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1　合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2　PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱無し
WO-2　PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱有



A-B断面図S＝1/30

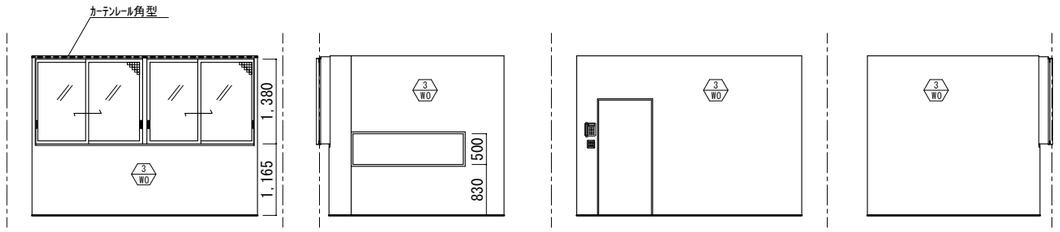


昇降口1ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾛｰﾌﾟ断面図　S＝1/30

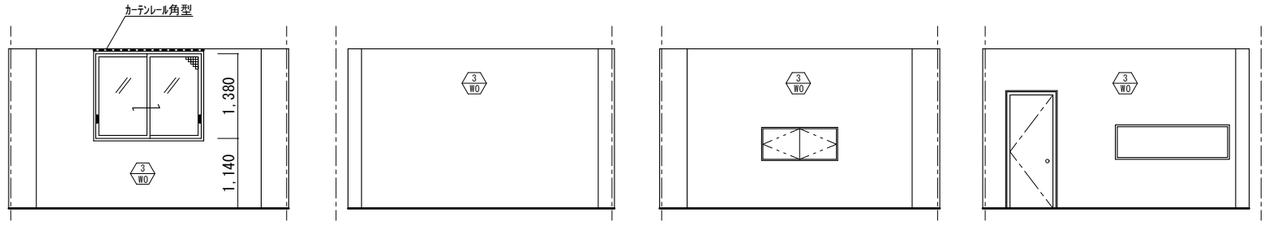


相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺 A1 1:50 A3 1:100	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-28
	設計年月日 R7.2.28	図面名称　平面詳細図・展開図昇降口（改修図）	

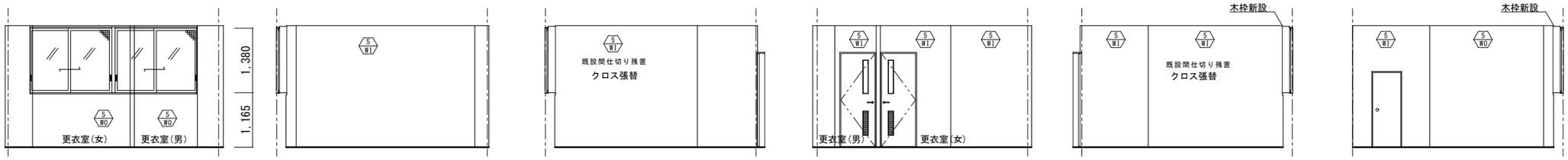
放送室展開図　S=1/50　A　B　C　D



スタジオ　A　B　C　D



職員更衣室展開図　S＝1/50　A　B　（男）　B　（女）　C　D　（男）　D　（女）



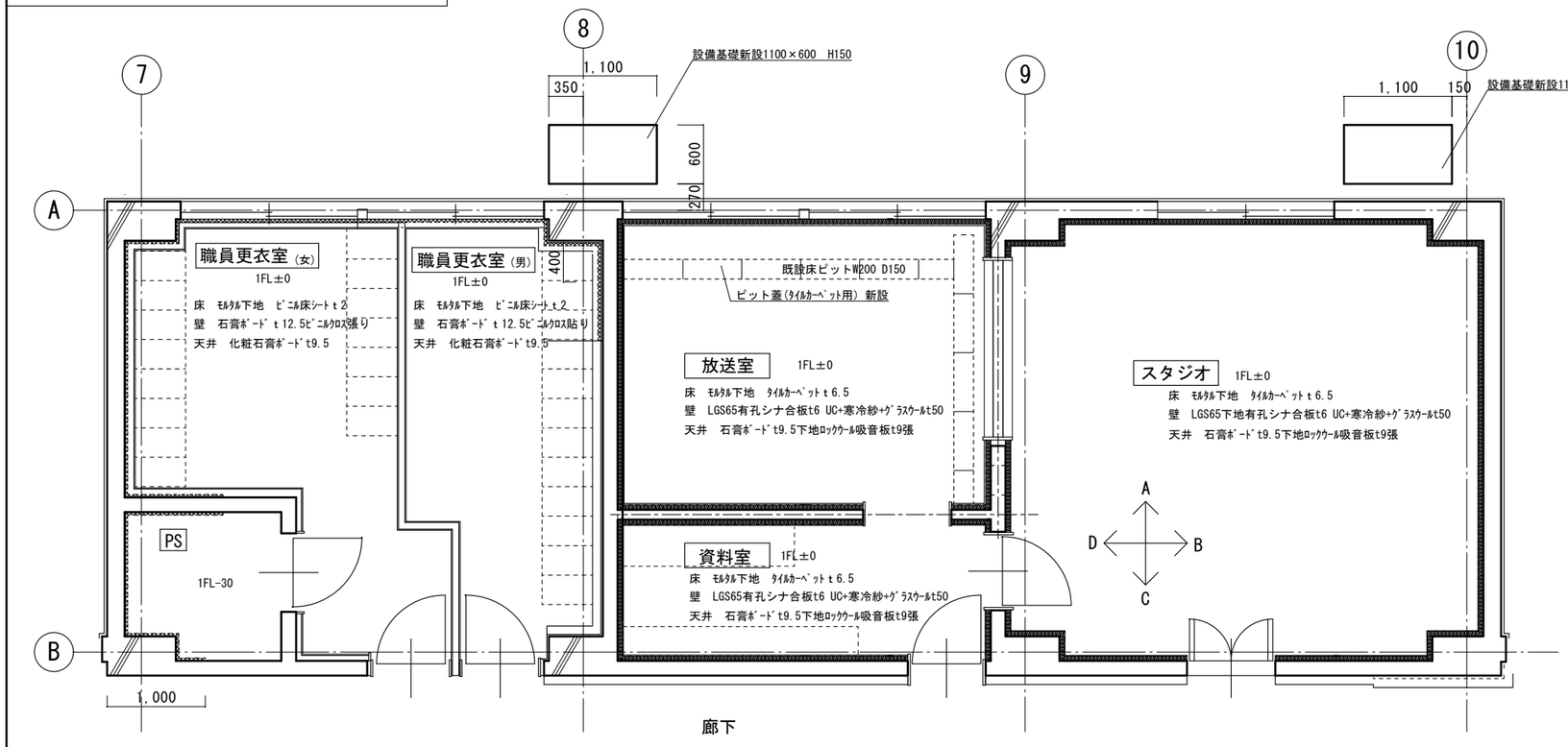
展開凡例　詳細については詳細図1参照

WO-3　有孔シナ合板t6 UC　寒冷紗張ｸﾞﾗｽｳｰﾙt50

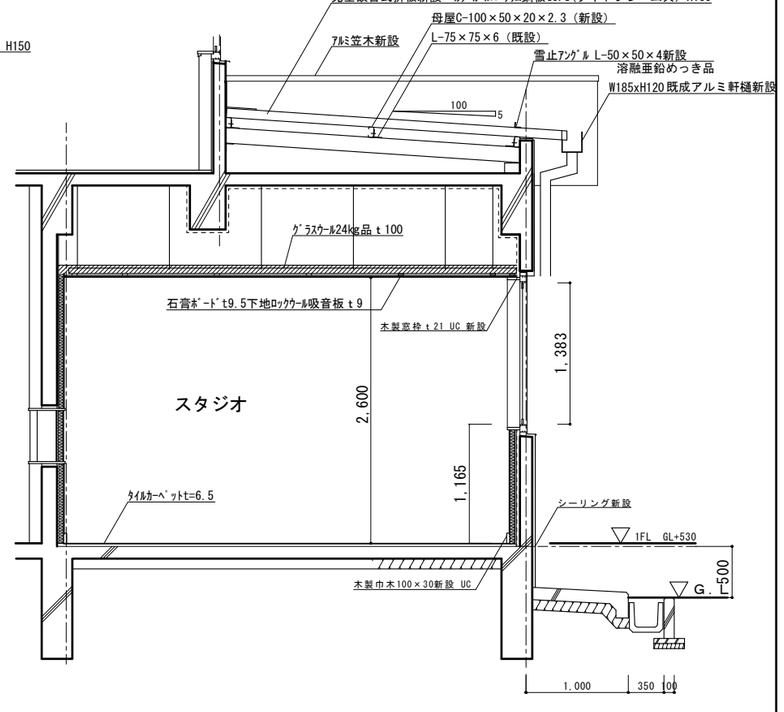
W1-5　RG-Bt12.5下地クロス貼り断熱無し

WO-5　RG-Bt12.5下地クロス貼り断熱有

展開図　S＝1/50



放送室・スタジオ・職員更衣室平面詳細図　S＝1/30

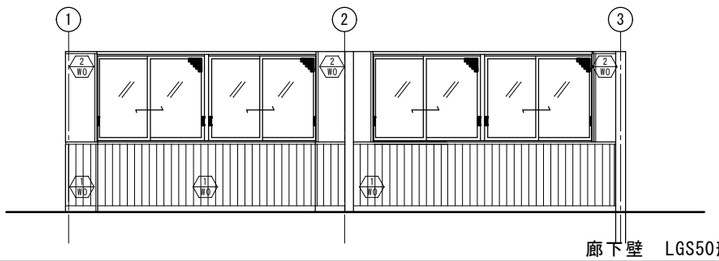


スタジオ断面詳細図　S＝1/30

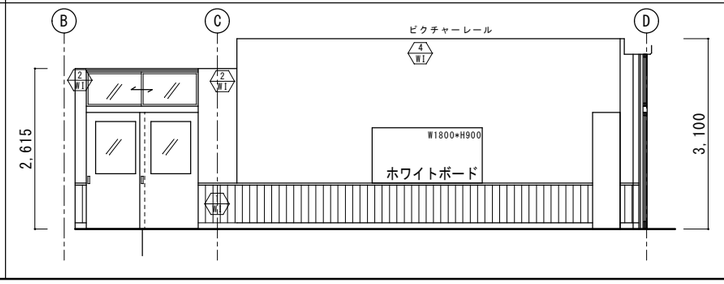
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺 A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100 設計年月日 R7.2.28	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　放送室・スタジオ・職員更衣室平面詳細図	No. A-29

会議室展開図　S＝1/50

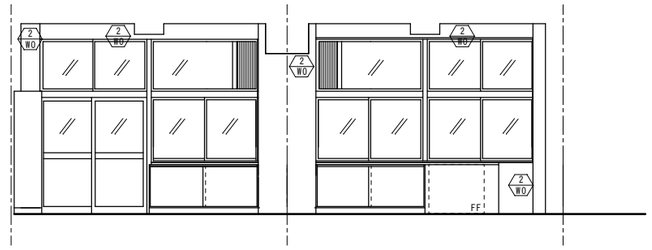
A



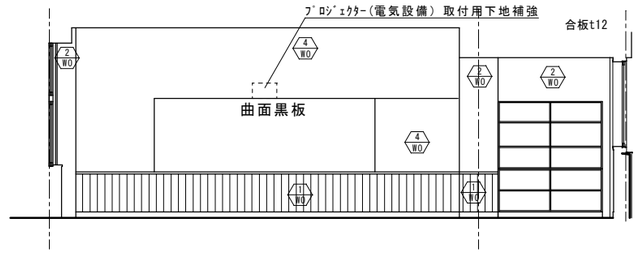
B

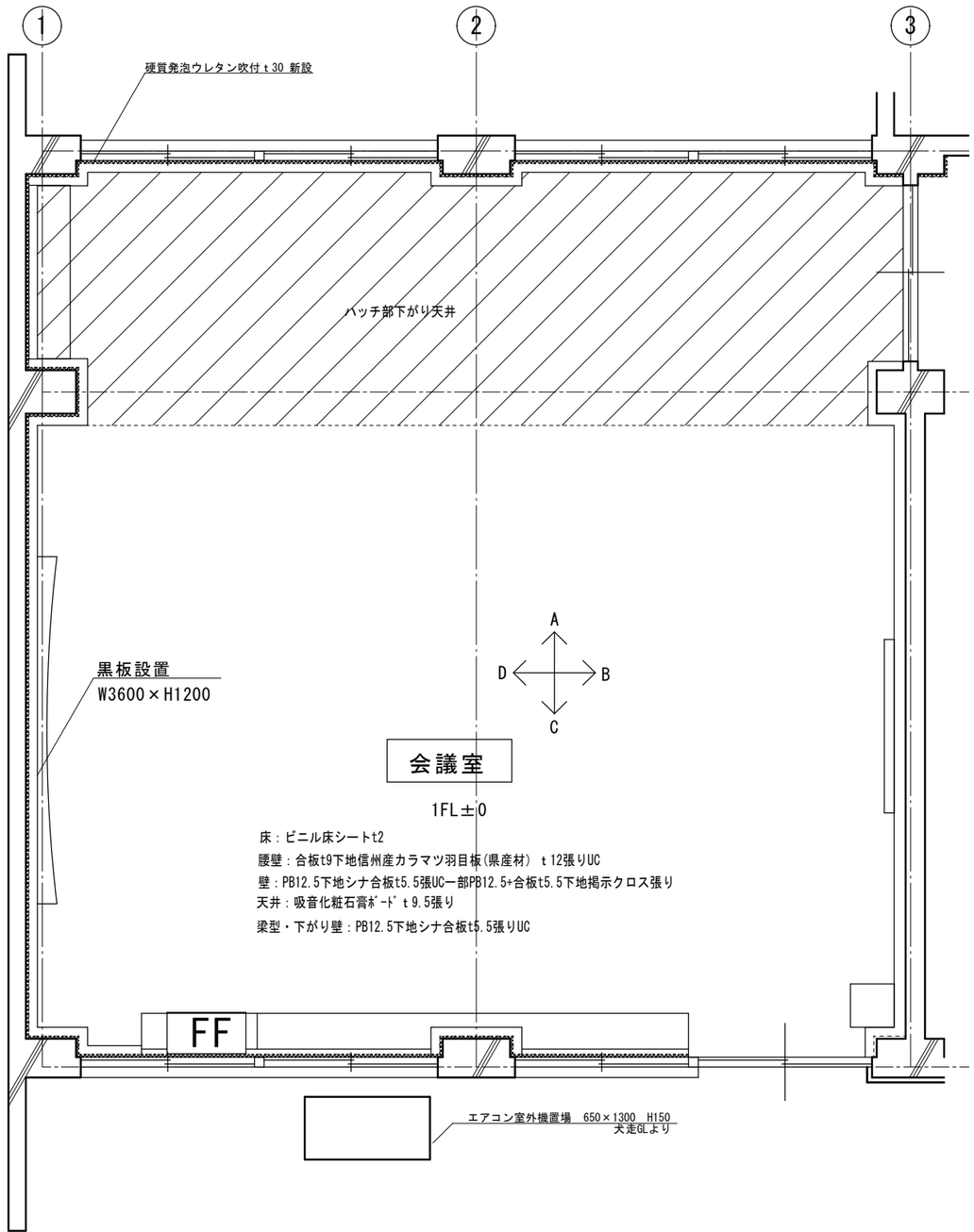


C



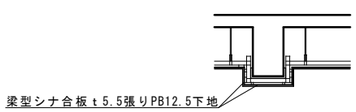
D



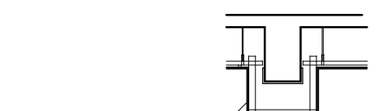


凡例　詳細については詳細図1参照

WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5下地シナ合板t5.5目すかし貼り断熱無し
WO-2	PB12.5下地シナ合板t5.5目すかし貼り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有



小梁ふかし詳細S＝1/30



大梁ふかし詳細S＝1/30

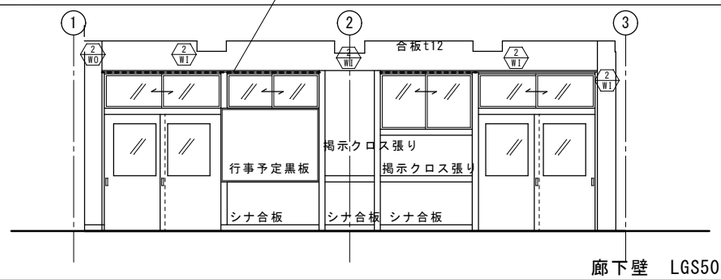
間仕切り部詳細S＝1/30

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺	A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	会議室平面詳細図・展開図
No.	A-30

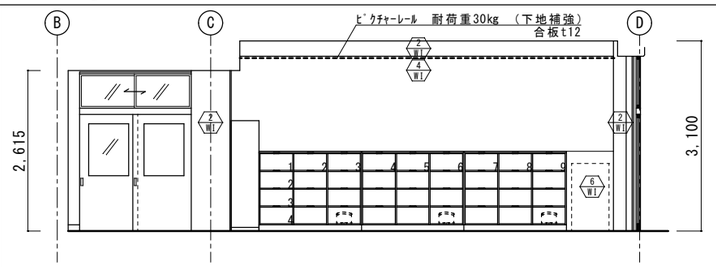
3-1教室展開図　S=1/50

A

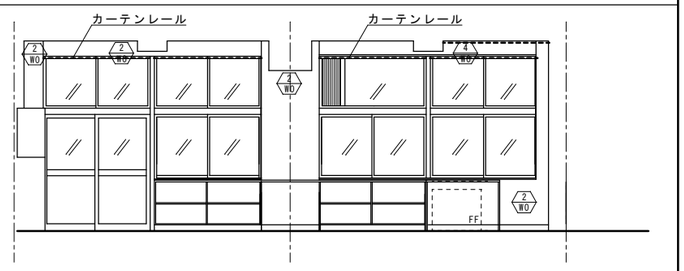


廊下壁　LGS50形

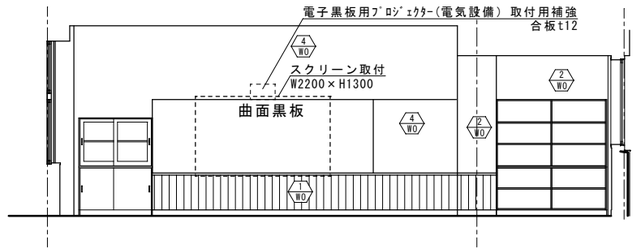
B

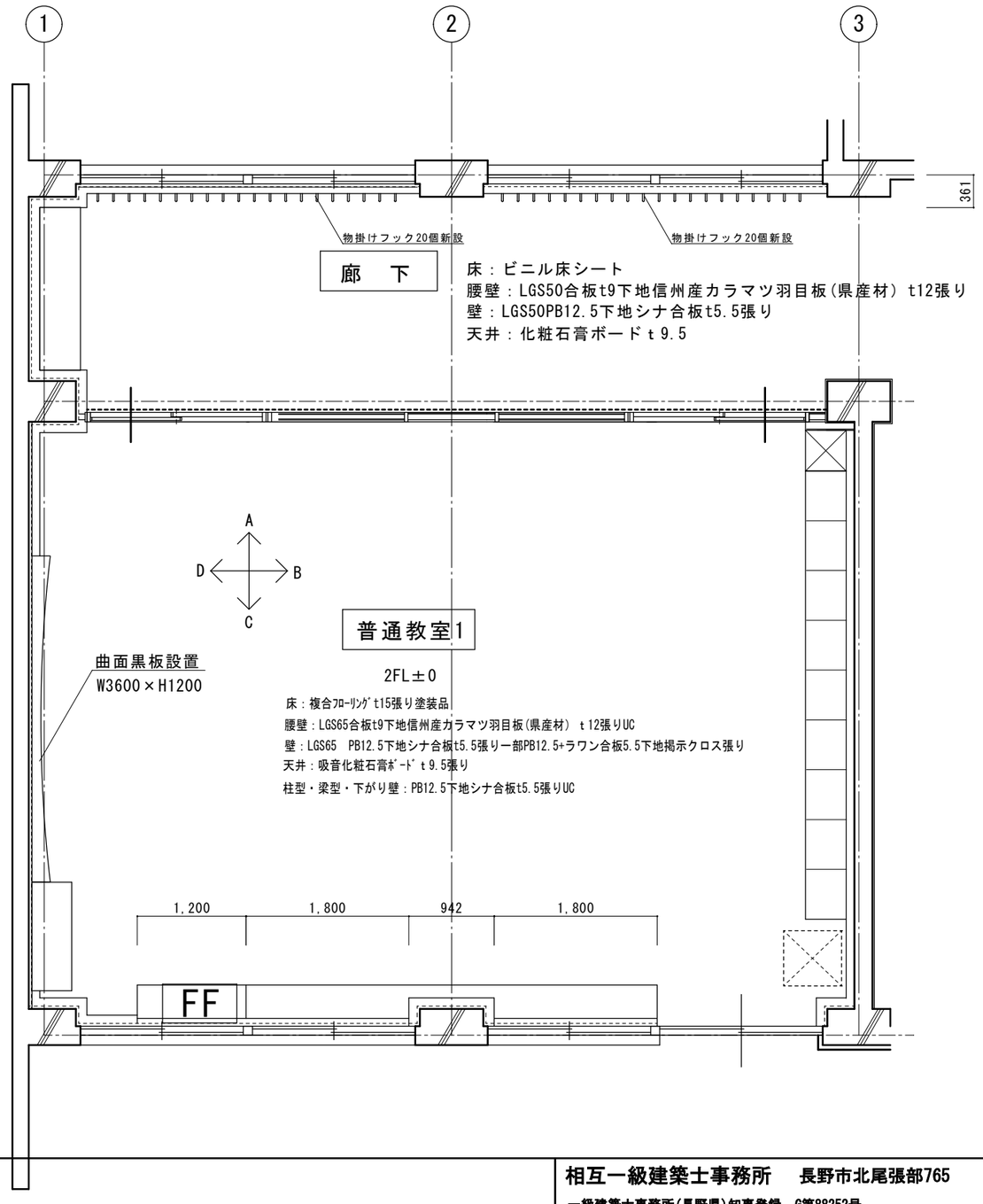


C



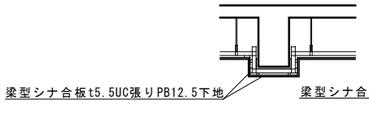
D



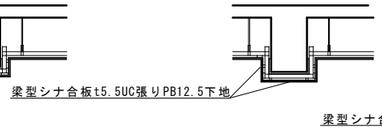


凡例　詳細については詳細図1参照

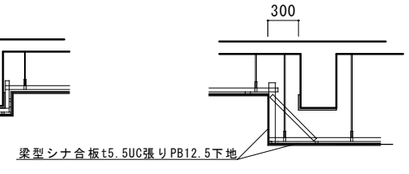
WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5シナ合板t5.5目すかし貼り断熱無し
WO-2	PB12.5シナ合板t5.5目すかし貼り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
WI-6	PB12.5+化粧ケイカル板t6断熱無し



小梁ふかし詳細S=1/30



大梁ふかし詳細S=1/30

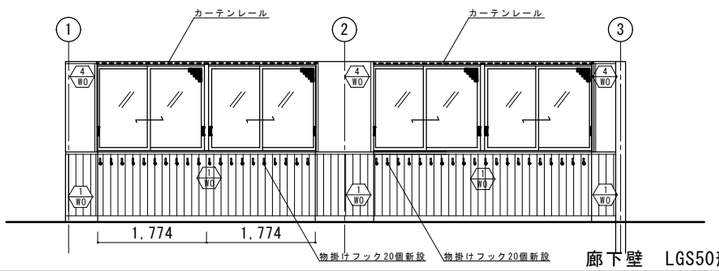


間仕切り部詳細S=1/30

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺 A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日 R7.2.28	図面名称	普通教室1平面詳細図・展開図（改修図）
		No.	A-31

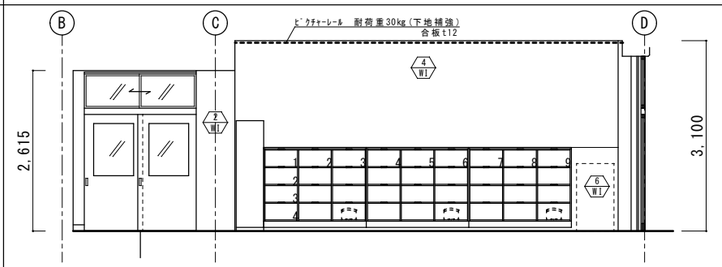
多目的室展開図　S＝1/50

A

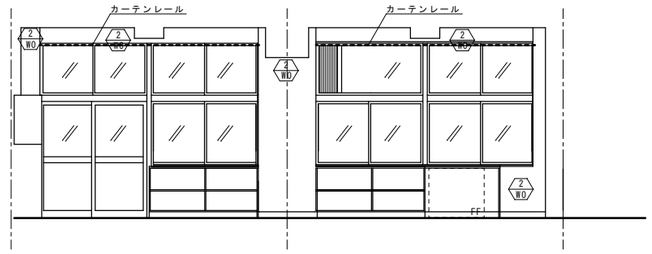


廊下壁　LGS50形

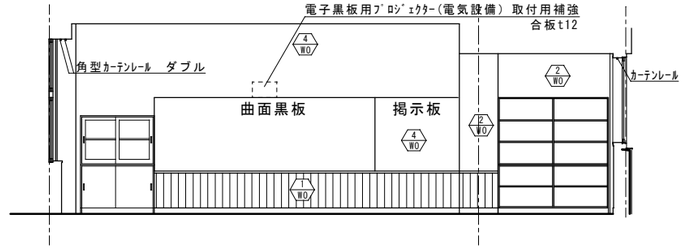
B

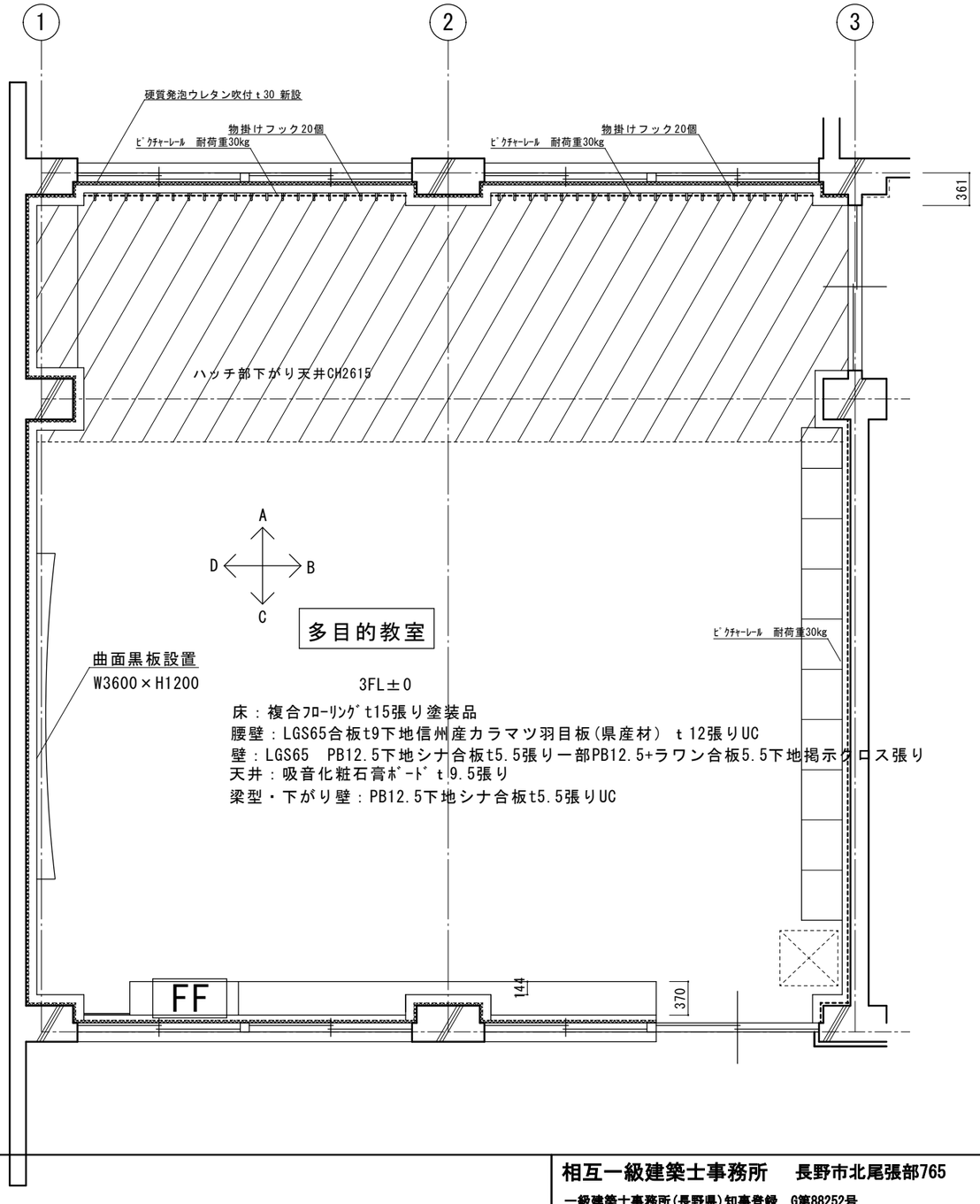


C



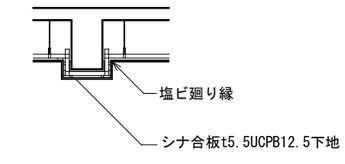
D



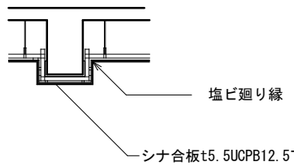


凡例　詳細については詳細図1参照

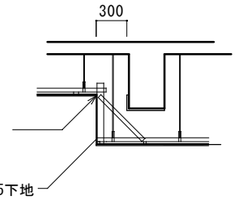
WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5下地シナ合板t5.5目すかし貼り断熱無し
WO-2	PB12.5下地シナ合板t5.5目すかし貼り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
WI-6	PB12.5+化粧ケイカル板t6断熱無し



小梁ふかし詳細S＝1/30



大梁ふかし詳細S＝1/30



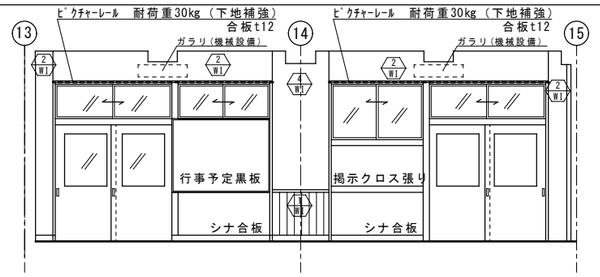
間仕切り部詳細S＝1/30

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

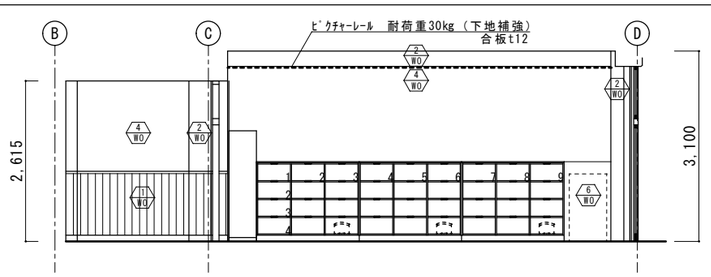
縮尺	A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	多目的教室平面詳細図・展開図（改修図）
No.	A-32

1-3,2-3教室展開図　S=1/50

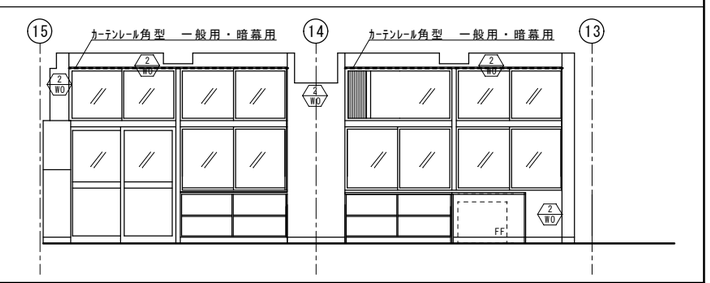
A



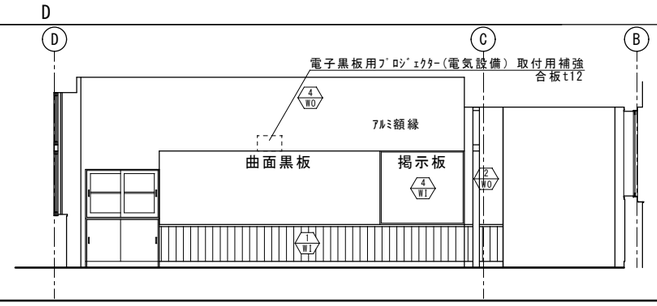
B

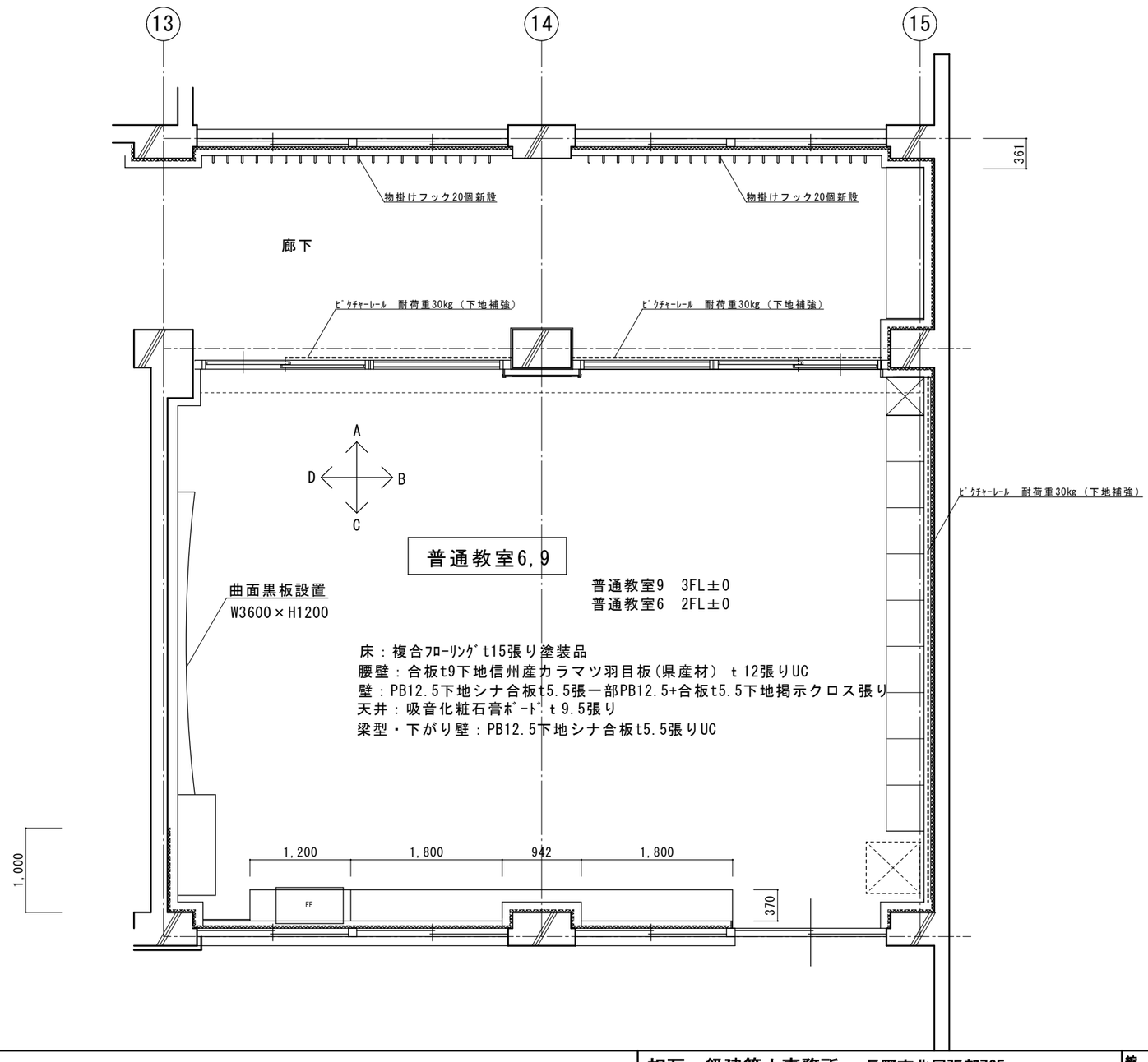


C



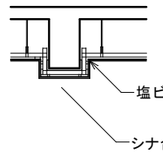
D



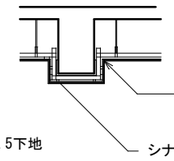


凡例　詳細については詳細図1参照

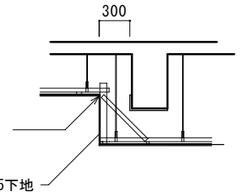
WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5下地シナ合板t5.5目すかし貼り断熱無し
WO-2	PB12.5下地シナ合板t5.5目すかし貼り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
WO-6	PB12.5+化粧ケイカル板ｔ6断熱有



小梁ふかし詳細S＝1/30

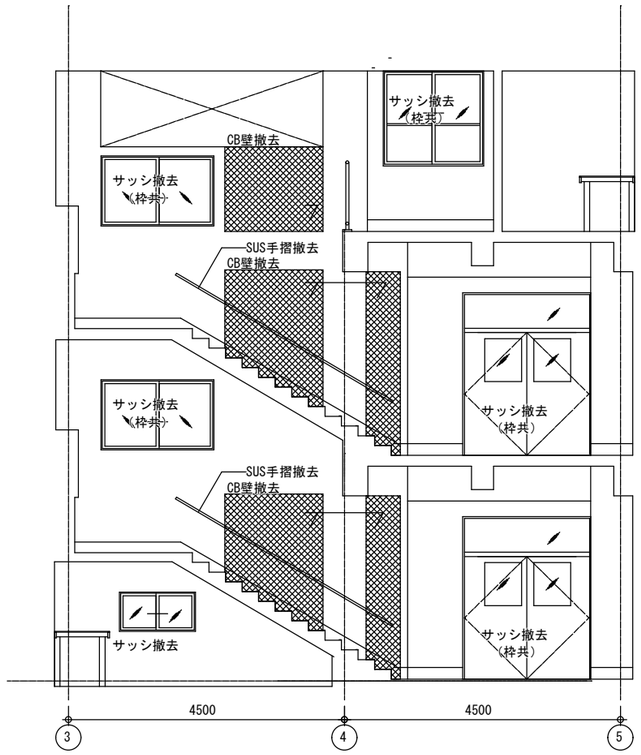


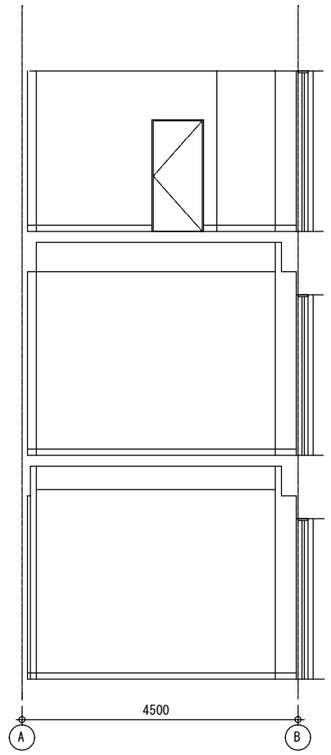
大梁ふかし詳細S＝1/30

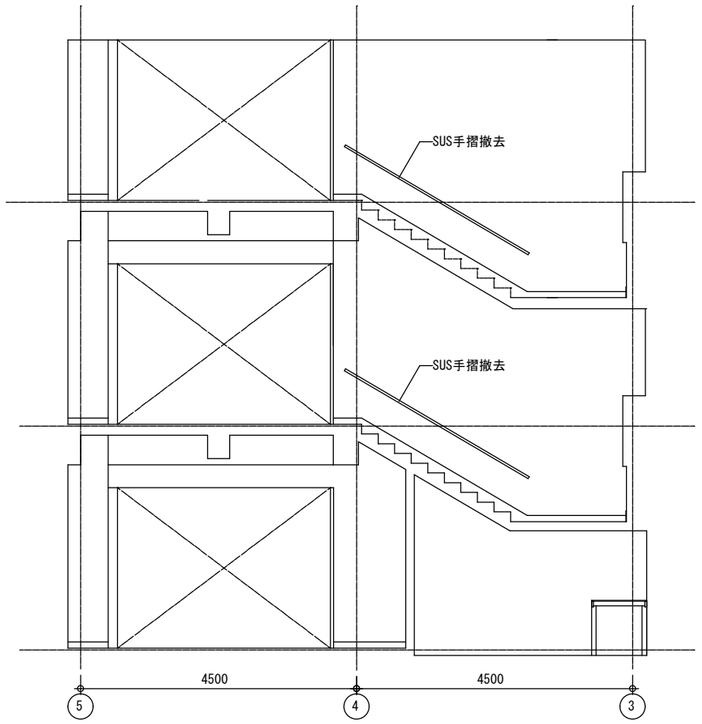


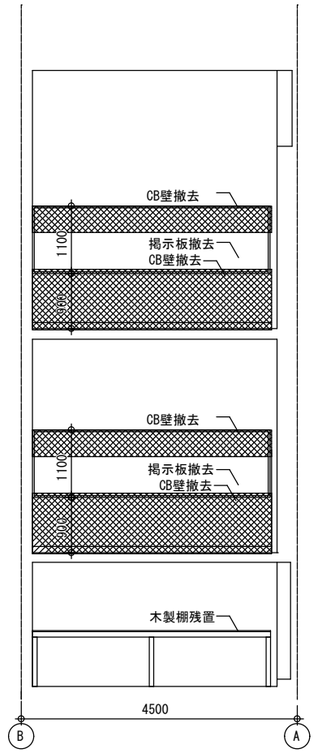
間仕切り部詳細S＝1/30

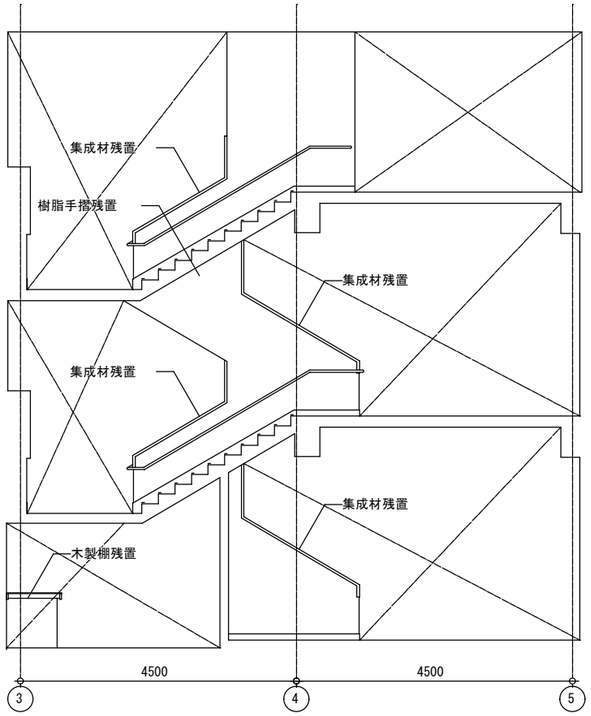
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺 A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日 R7.2.28	図面名称	普通教室6,9平面詳細図・展開図（改修図）
		No.	A-33

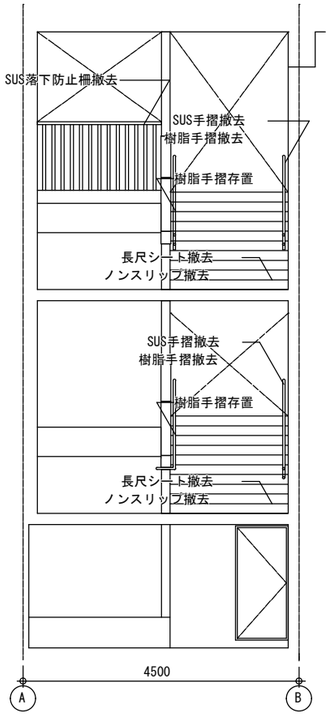


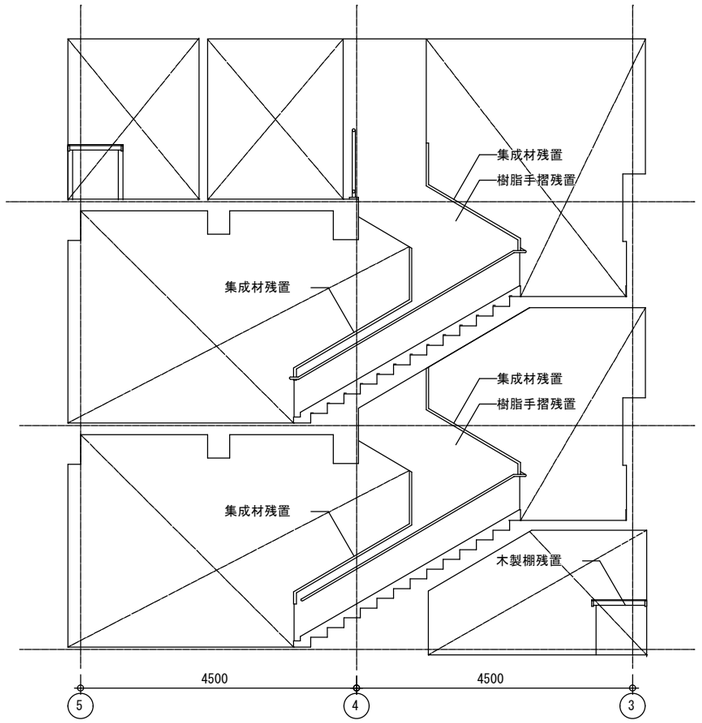


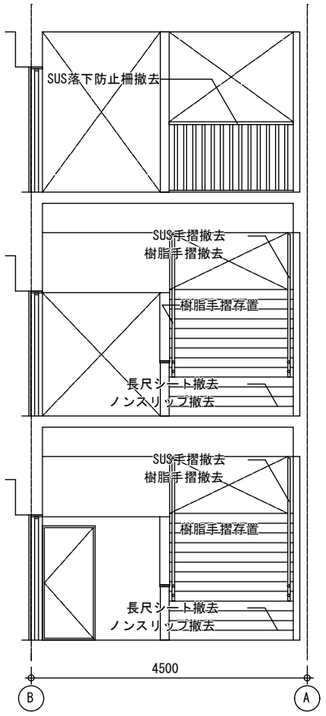




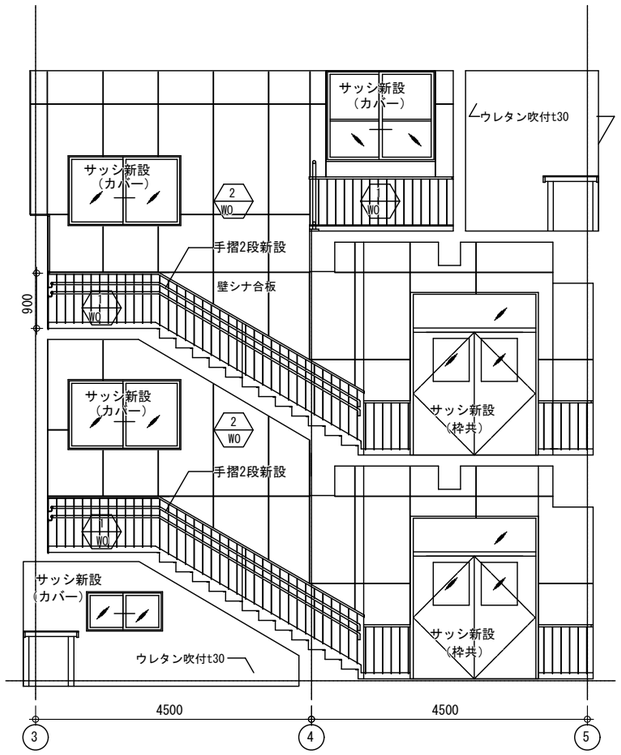


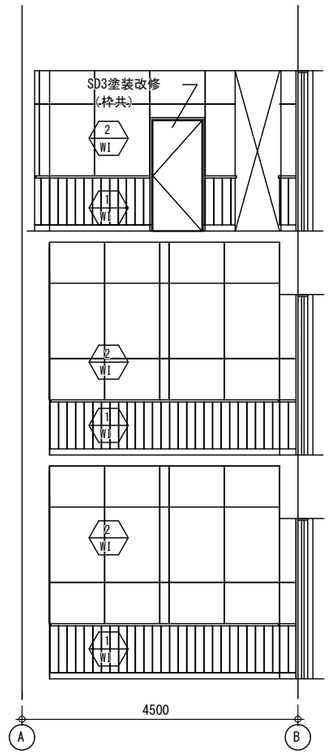


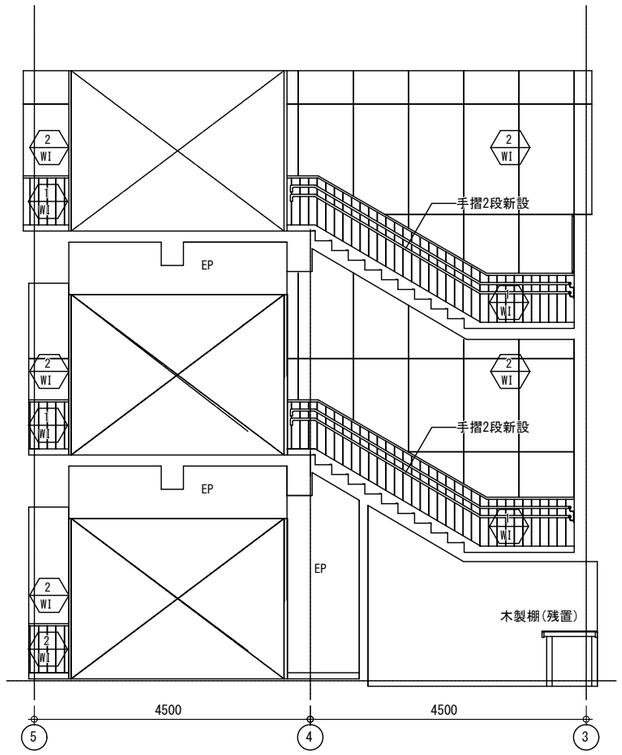


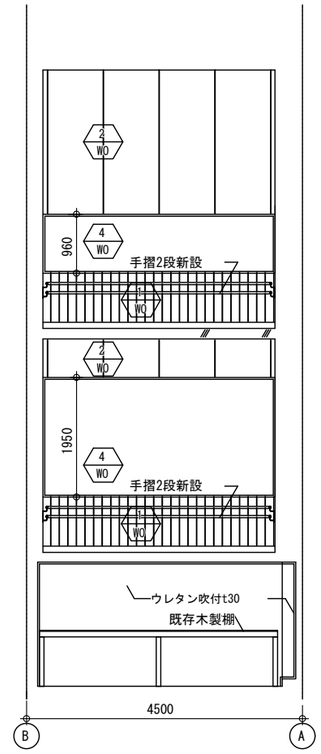


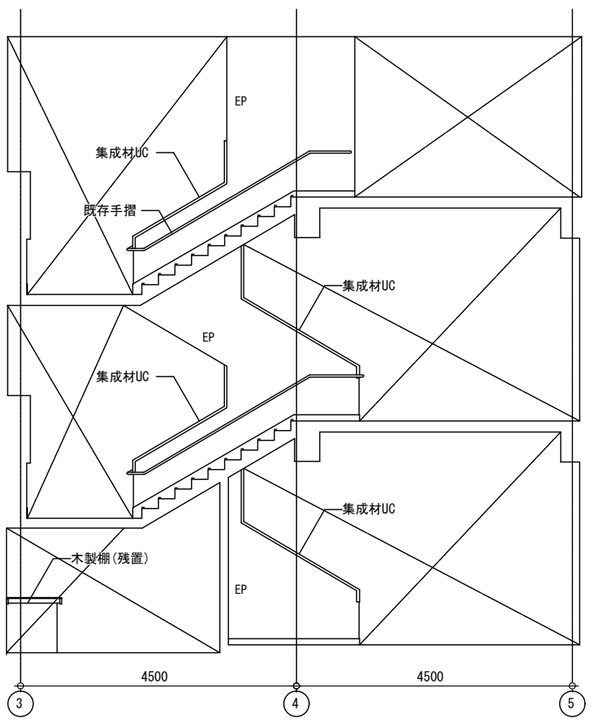
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：30 A3 1：60 設計年月日　R7.2.28	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　階段室1　展開図（撤去図）	No. A-33-1

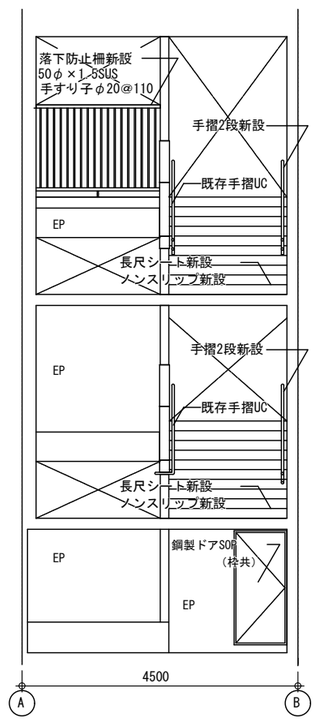


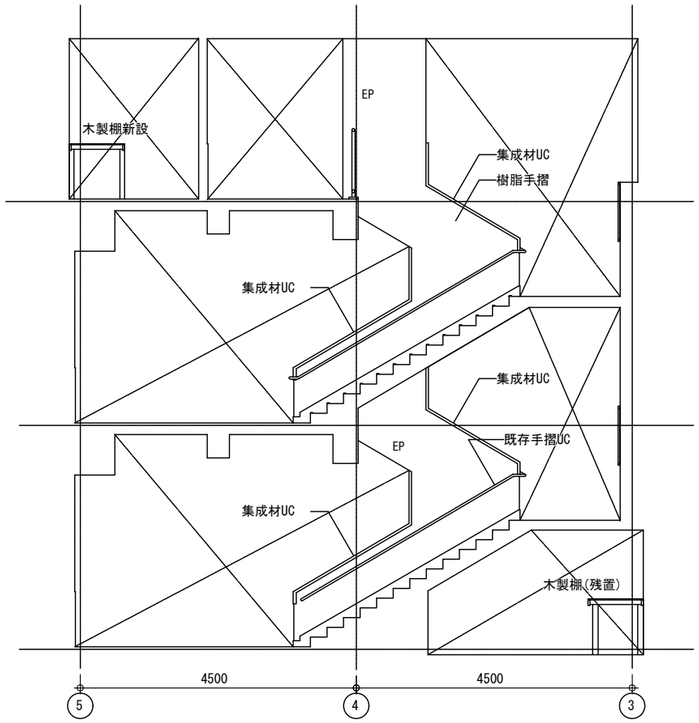


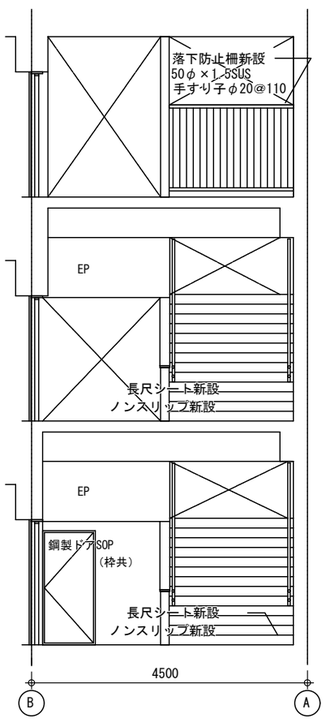




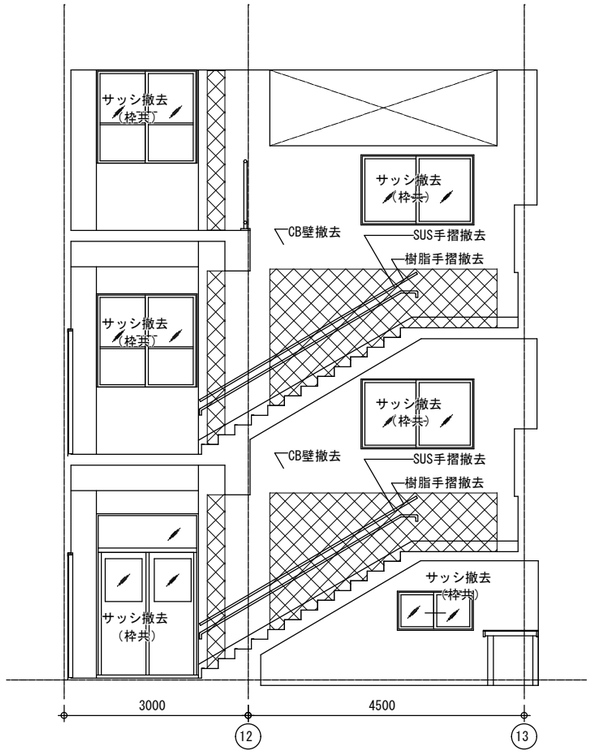


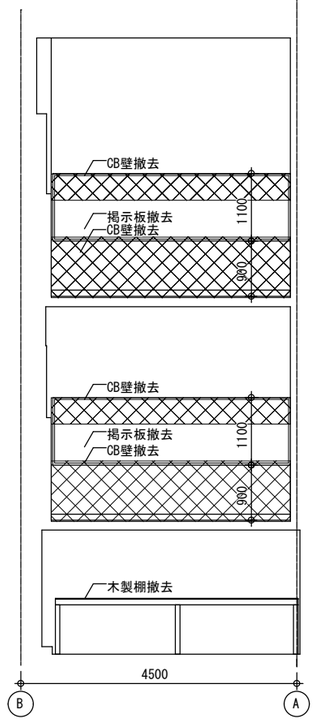


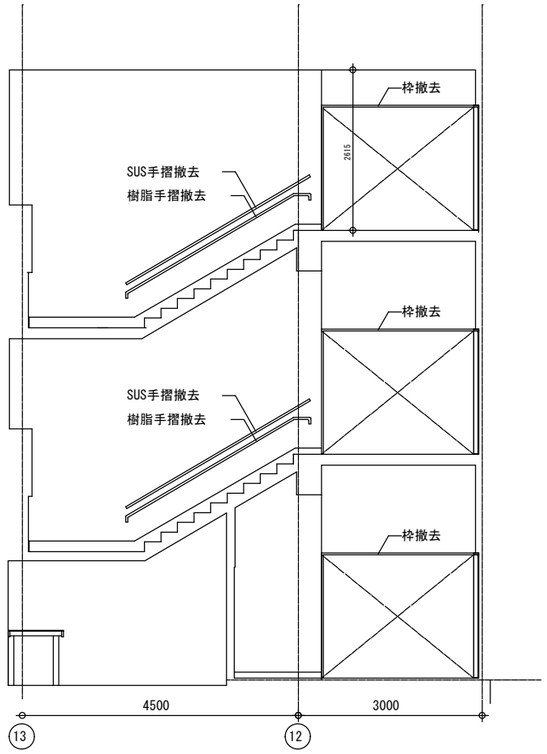


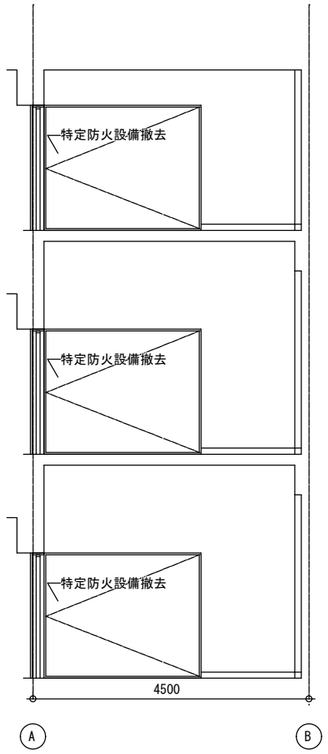


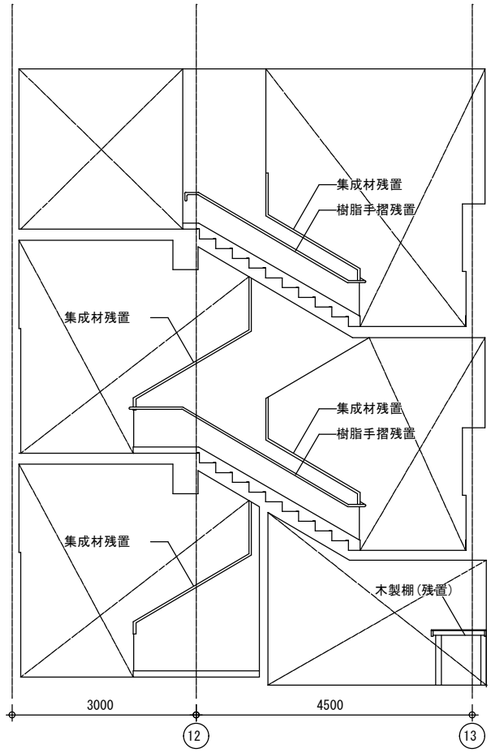
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：50 A3 1：100 設計年月日　R7.2.28	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　階段室1　展開図（改修図）	No. A-33-2

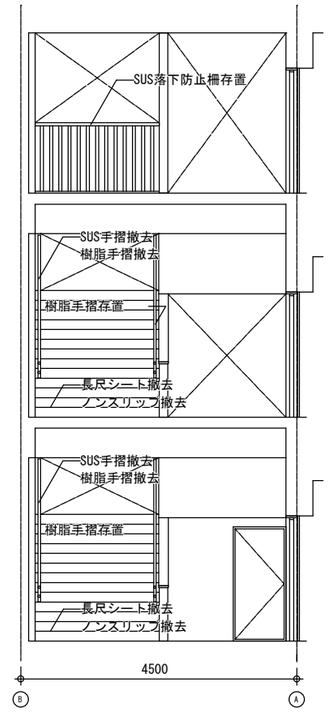


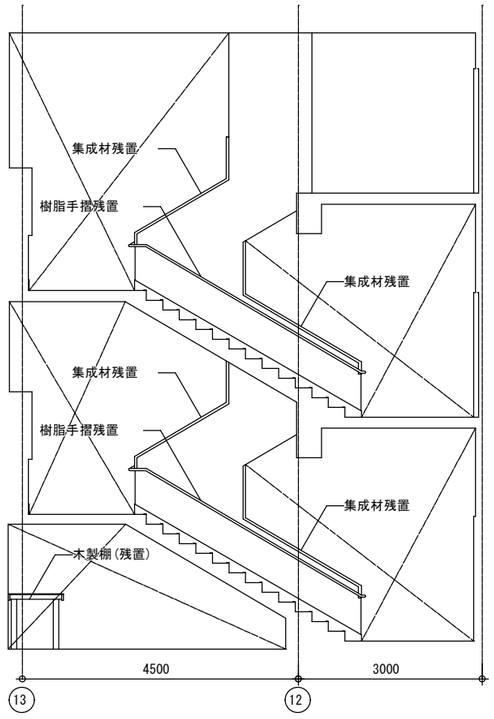


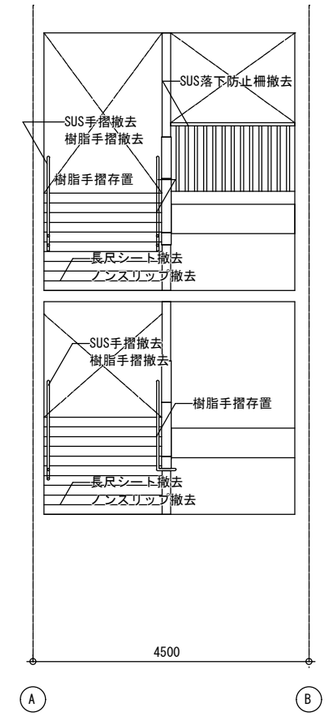




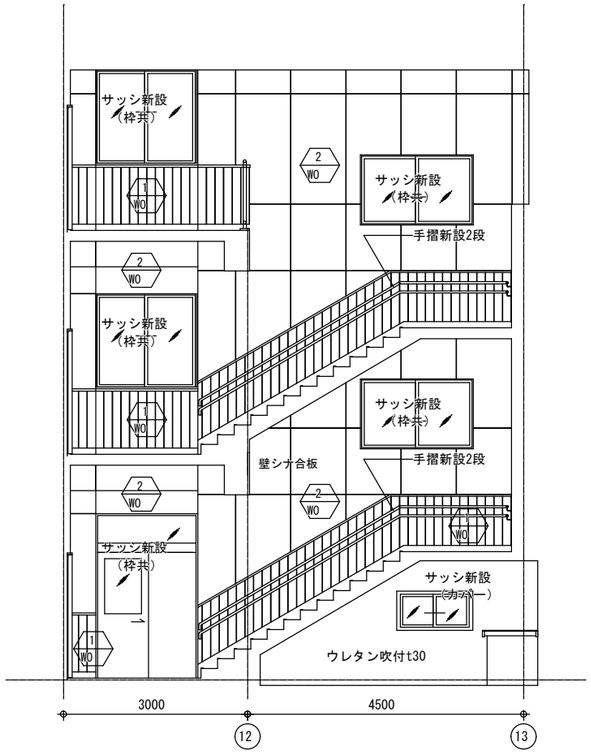


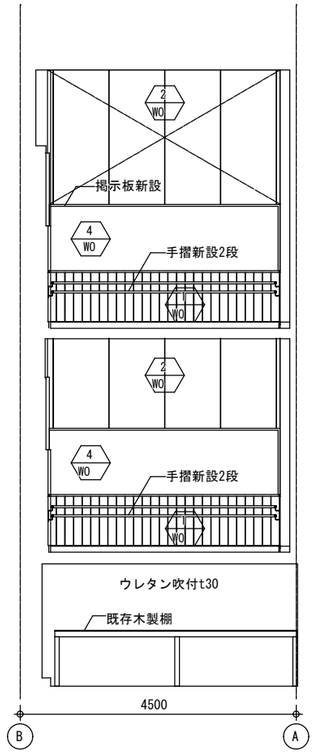


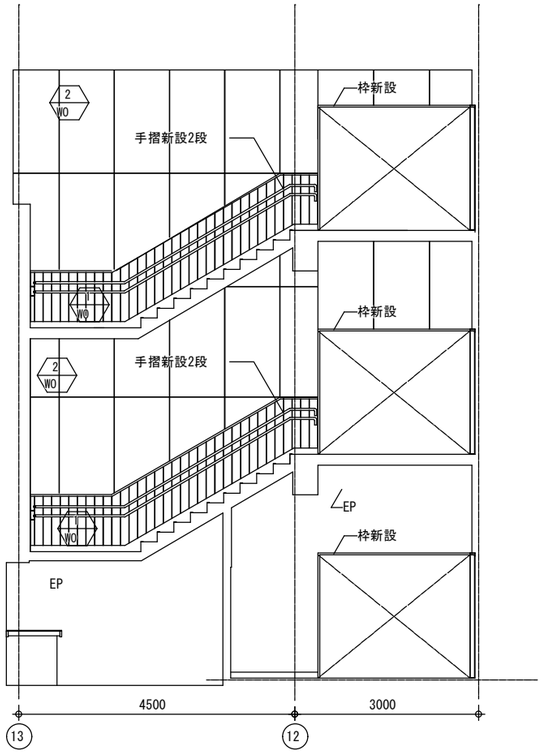


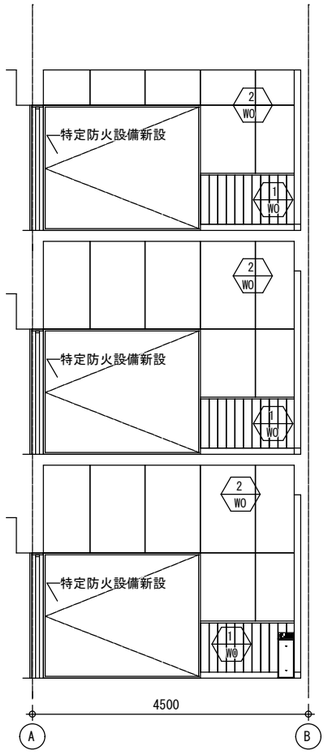


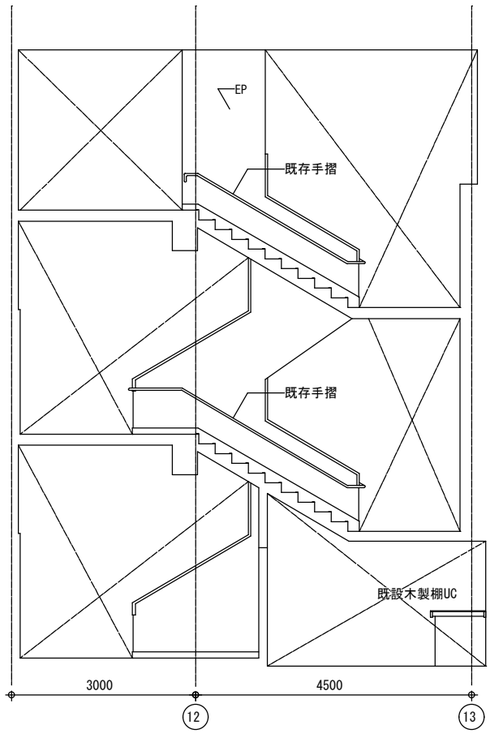
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：30 A3 1：60 設計年月日　R7.2.28	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　階段室2　展開図（撤去図）	No. A-33-3

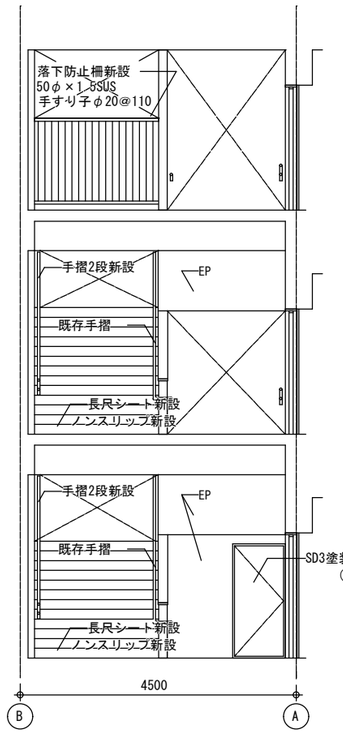


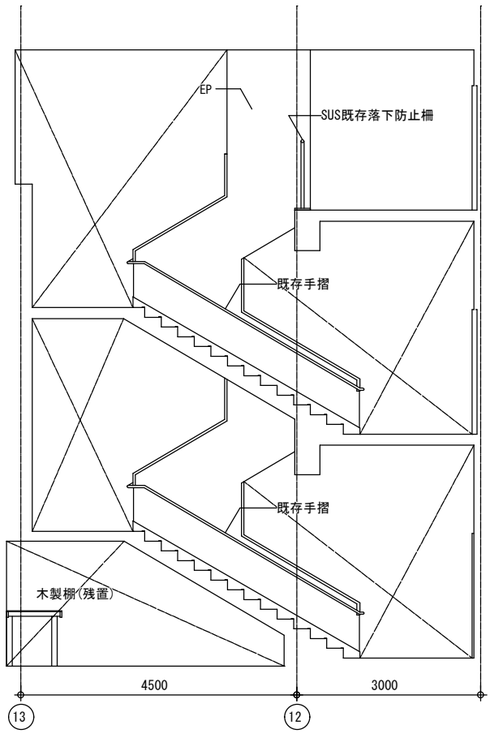


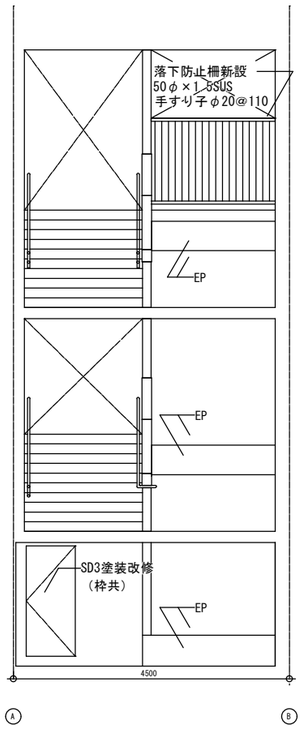






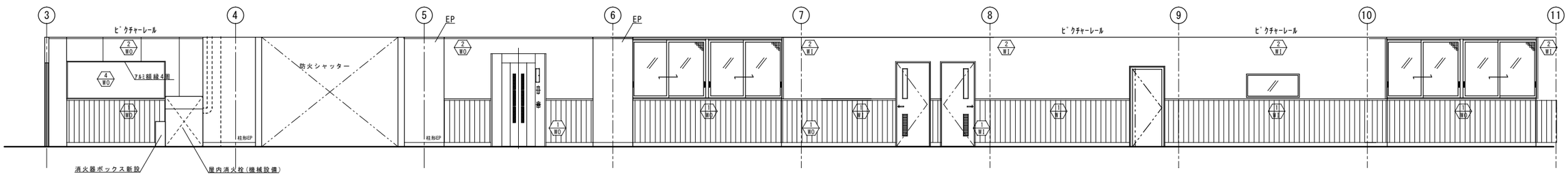






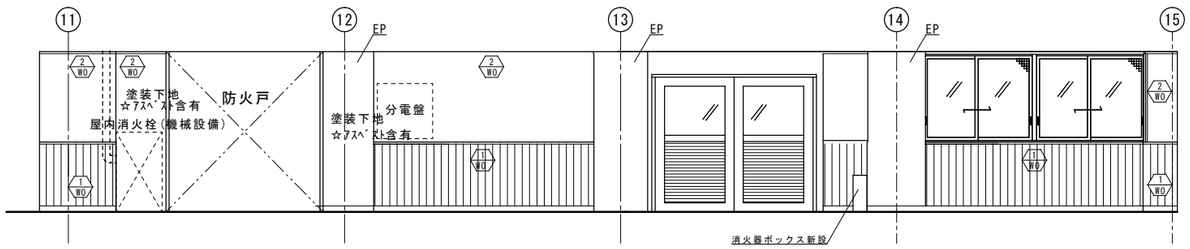
相互一級建築士事務所	長野市北尾張部765	縮　尺 A1 1：30 A3 1：60	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号	相野　徹	設計年月日 R7.2.28	図面名称　階段室2　展開図（改修図） No. A-33-4

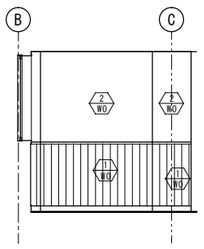
1F廊下展開図　S=1/50　A



1F廊下展開図　S=1/50　A

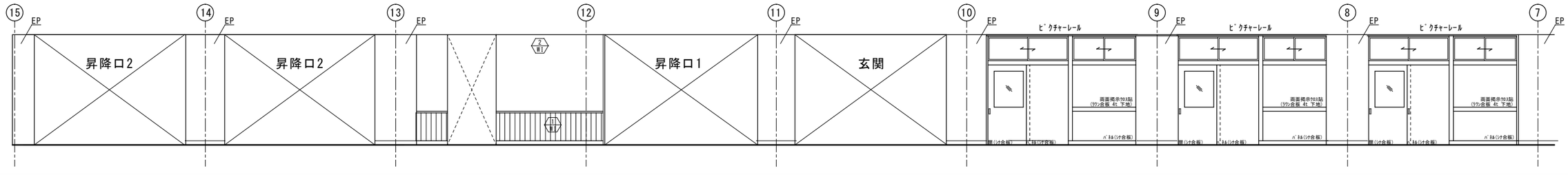
1F廊下展開図　S=1/50　B





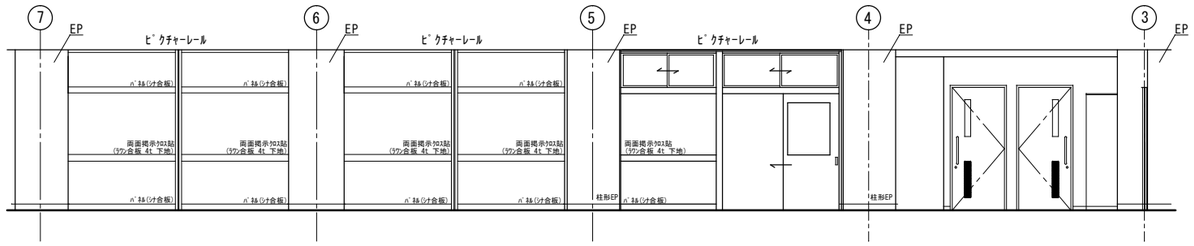
1F廊下展開図　S=1/50　C

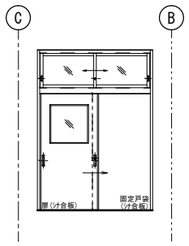
1F廊下展開図　S=1/50　C



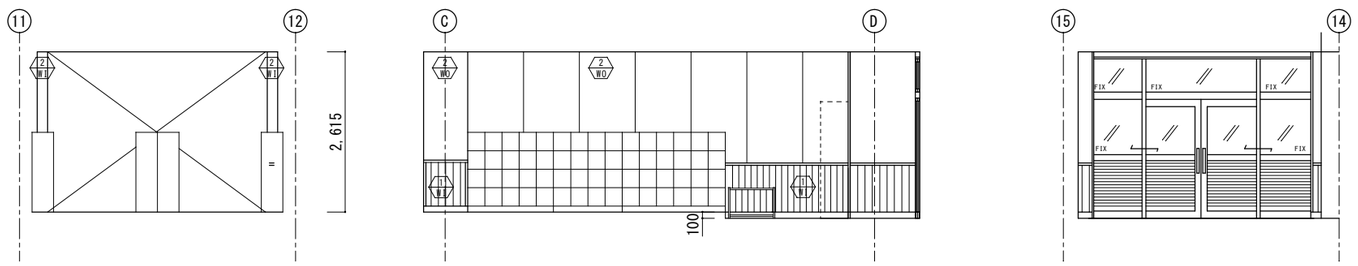
1F廊下展開図　S=1/50　C

1F廊下展開図　S=1/50　D





1F昇降口1展開図　S=1/50　A　B　C　D



凡例　詳細については詳細図1参照

- WI-1　合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
- WO-1　合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
- WI-2　PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱無し
- WO-2　PB12.5下地シナ合板t5.5張り断熱有
- WI-4　PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
- WO-4　PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有

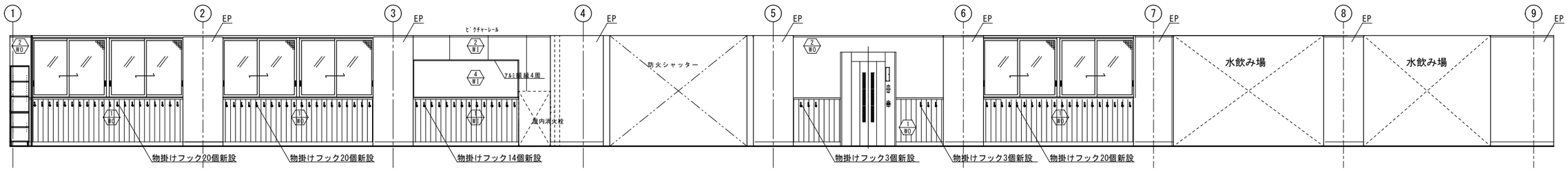
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765

一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号

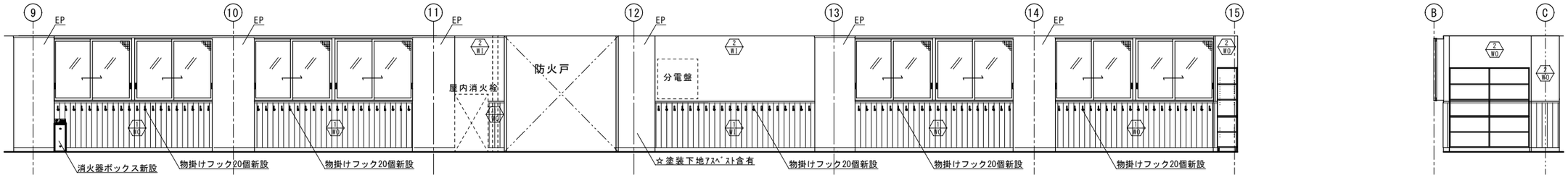
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1 1：50 A3 1：100	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	展開図 1（改修図）
		No.	A-34

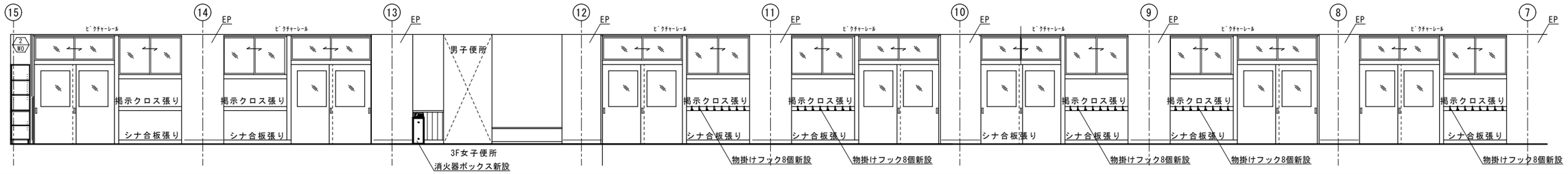
2F廊下展開図　S=1/50　　A



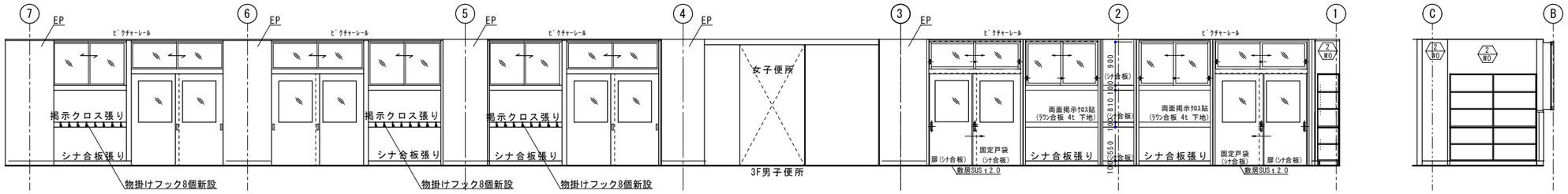
2F廊下展開図　S=1/50　　A　　B



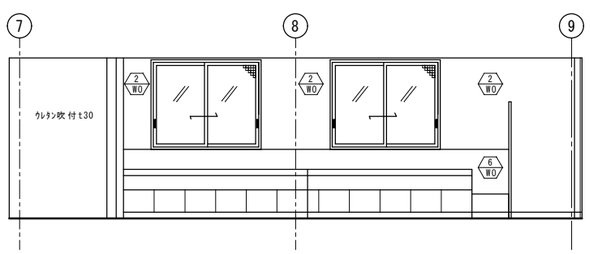
2F廊下展開図　S=1/50　　C



2F廊下展開図　S=1/50　　C　　D　　D



2F水飲み場展開図　S=1/50　　A



凡例　詳細については詳細図1参照

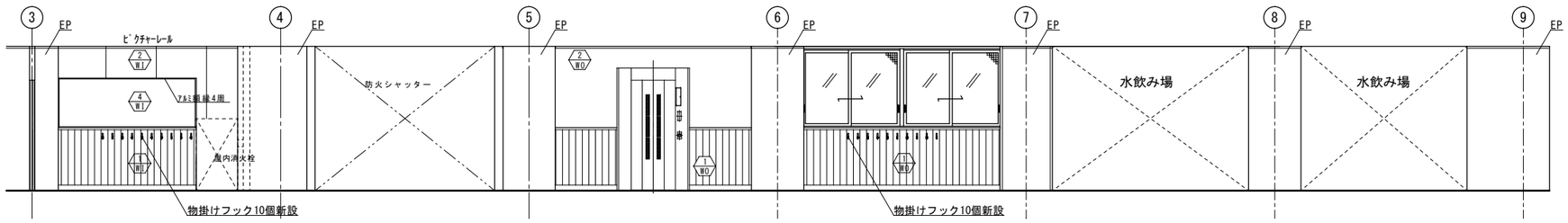
WI-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
WO-1	合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
WI-2	PB12.5下地シナ合板ｔ6張り断熱無し
WO-2	PB12.5下地シナ合板ｔ6張り断熱有
WI-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
WO-4	PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
WO-6	PB12.5+化粧ｹｲｶﾙ板ｔ6.0断熱有

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　　相野　徹

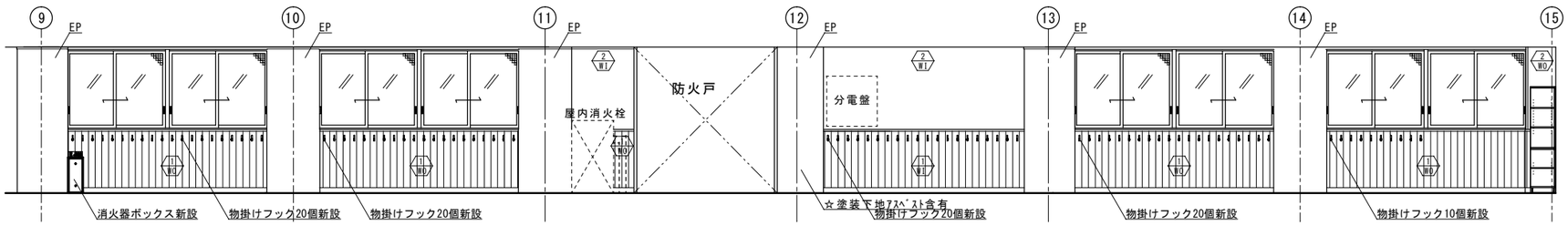
縮　尺	A1 1：50 A3 1：100	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	展開図 2（改修図）

No. A-35

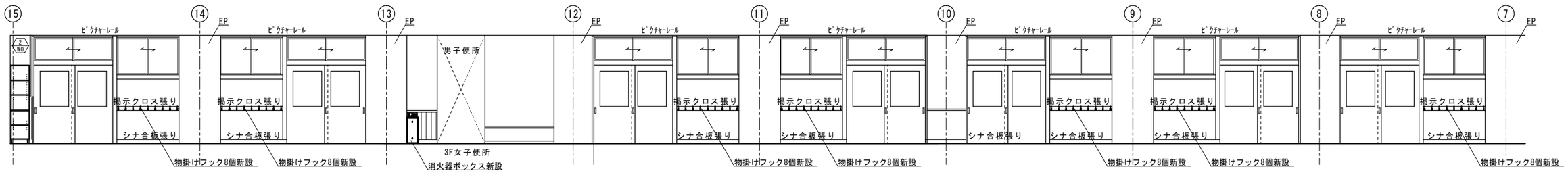
3F廊下展開図　S=1/50　　A



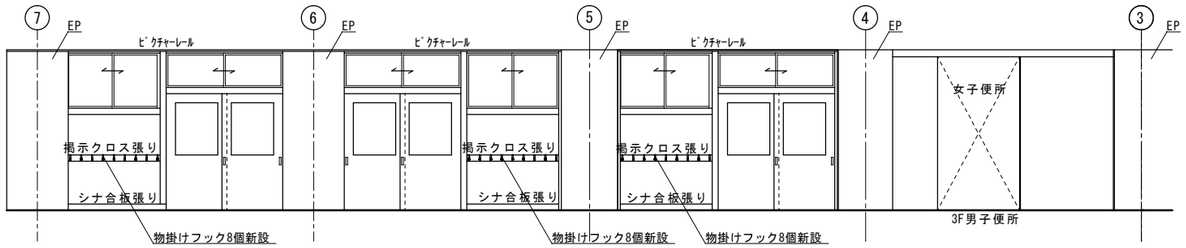
3F廊下展開図　S=1/50　　A　　B

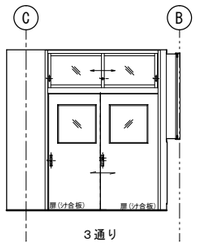


3F廊下展開図　S=1/50　　C

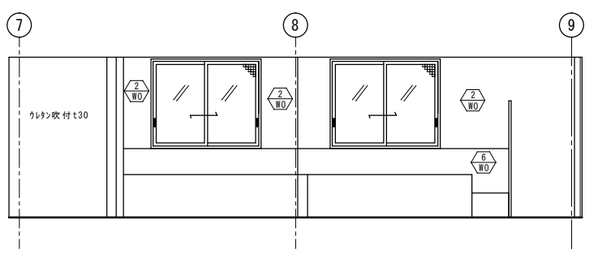


3F廊下展開図　S=1/50　　C　　D





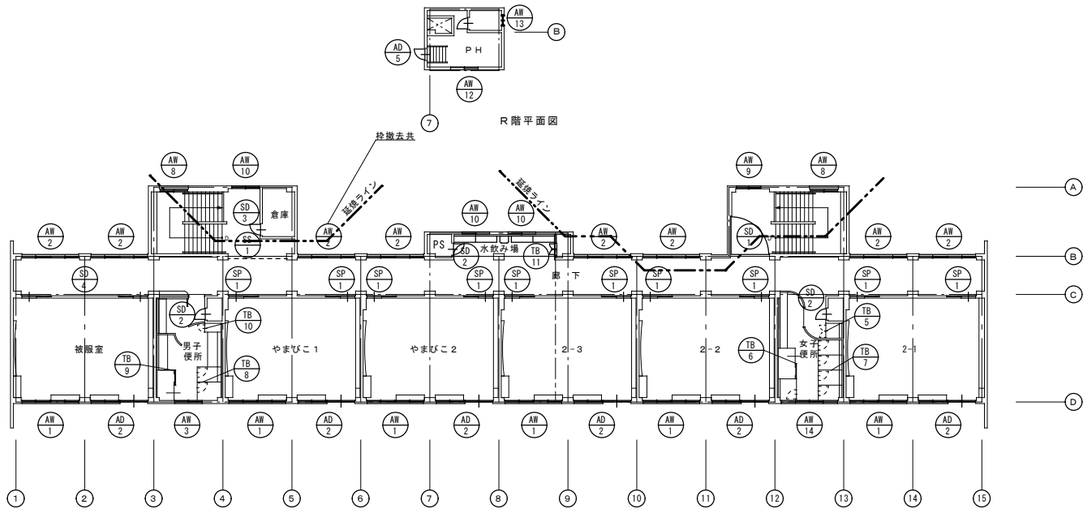
3F水飲み場展開図　S=1/50



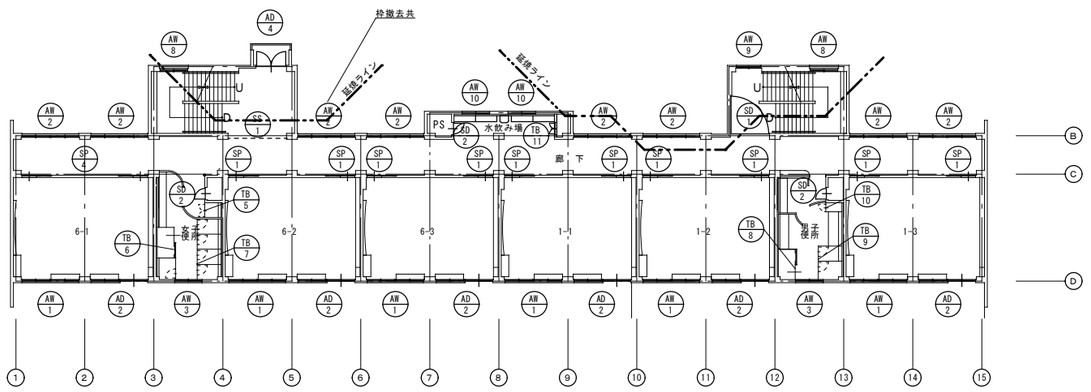
凡例　詳細については詳細図1参照

- WI-1　合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱無し
- WO-1　合板ｔ9下地信州産ｶﾗﾏﾂ羽目板ｔ12張り断熱有
- WI-2　PB12.5下地シナ合板ｔ6張り断熱無し
- WO-2　PB12.5下地シナ合板ｔ6張り断熱有
- WI-4　PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱無し
- WO-4　PB12.5+合板ｔ5.5下地掲示クロス貼り断熱有
- WO-6　PB12.5+化粧ｹｲｶﾙ板ｔ6.0断熱有

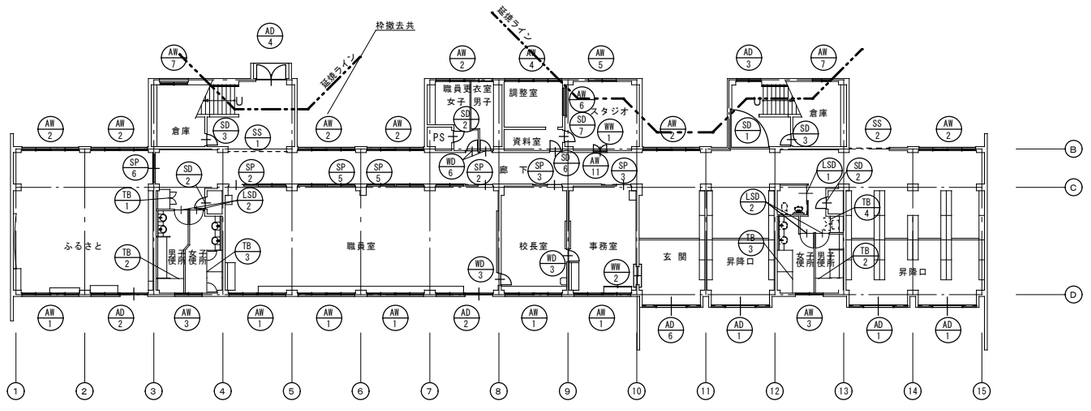
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：50 A3 1：100	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-35-1
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　展開図 3（改修図）	



3階平面図



2階平面図



1階平面図

記号	名称	AW-1	引き違いアルミサッシ	AW-2	引き違いアルミサッシ	AW-3	引き違い戸
姿図		枠存置 1,800 70 1,800 1,100 100 900 2,100		枠存置 1,800 70 1,800 1,500 ※EV設置個所は撤去枠共（3か所）		枠存置 1,800 1,500 ※面格子共撤去	
位置	数量	各教室南側（1F～3F）職員室 校長室（1F）	18	廊下北側（1F～3F）	23	便所（1F～3F）	5
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具	金物	ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 ｸﾚｾﾝﾄ		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切	
硝子	備考	透明ガラス3mm		透明ガラス3mm		型ガラス4mm アルミ面格子（1階西・東のみ）	

記号	名称	AW-4	引き違い二重窓	AW-5	引違い二重窓	AW-6	はめ殺し二重窓
姿図		枠存置 1,800 70 1,800 1,500		枠存置 1,800 1,500		枠存置 1,800 500	
位置	数量	調整室（1F）	1	スタジオ（1F）	1	調整室（1F）	1
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	100
建具	金物	ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重見切 ｸﾚｾﾝﾄ		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重見切 ｸﾚｾﾝﾄ			
硝子	備考	透明ｶﾞﾗｽ3mm+3mm		透明ｶﾞﾗｽ3mm+3mm		透明ガラス3mm+3mm	

記号	名称	AW-7	引違いアルミサッシ	AW-8	引違いアルミサッシ	AW-9	引違いアルミサッシ
姿図		枠存置 1,200 600		枠存置 1,800 1,100		枠存置 1,600 1,500	
位置	数量	倉庫（1F）	2	階段（2F,3F）	4	階段（2F,3F）	2
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具	金物	ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 皿板ｱﾙﾐW120mm	
硝子	備考	透明ｶﾞﾗｽ3mm		網入ｶﾞﾗｽ6.8mm		網入ｶﾞﾗｽ6.8mm 引戸下部ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ	

記号	名称	AW-10	2連引違いアルミサッシ	AW-11	はめ殺し二重窓	AW-12	引違いアルミサッシ
姿図		枠存置 1,800 1,500		枠存置 1,200 500		枠存置 1,800 600	
位置	数量	水飲場（2F, 3F）、階段（3F）	5	スタジオ（1F）	1	P.H.（RF）	1
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	100	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具	金物	ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切				ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切	
硝子	備考	透明ｶﾞﾗｽ3mm		透明ｶﾞﾗｽ3mm+3mm		透明ガラス3mm	

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

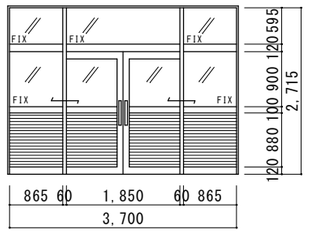
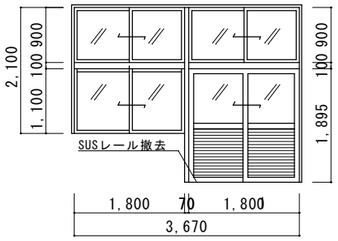
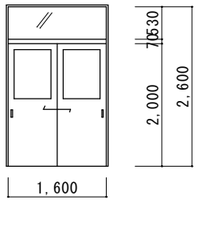
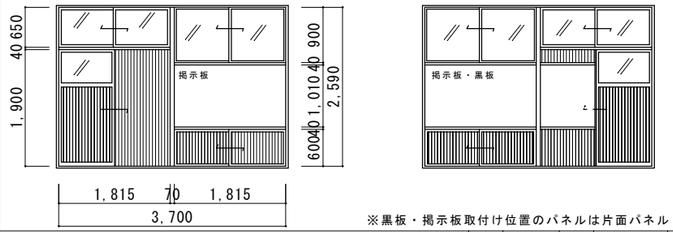
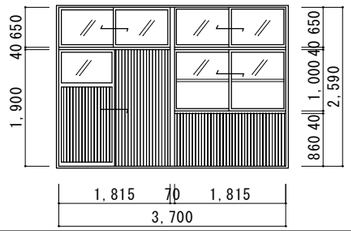
縮尺 A1 1:200 1:50 / A3 1:400 1:100

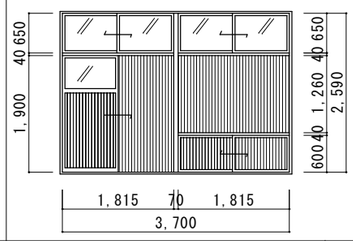
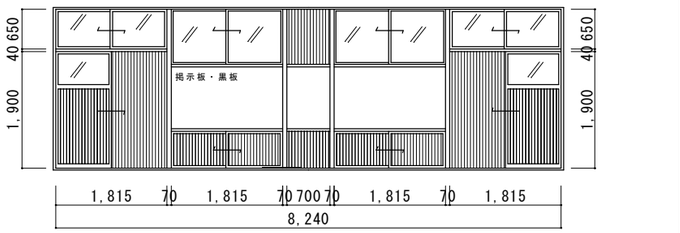
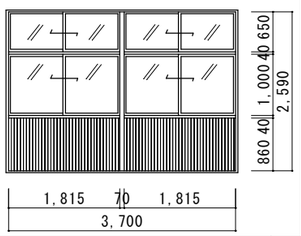
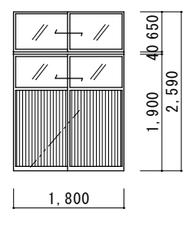
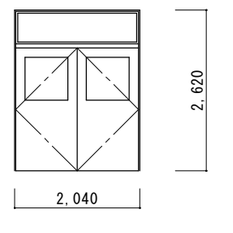
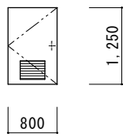
設計年月日 R7.2.28

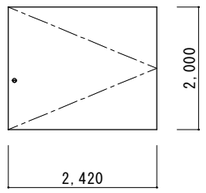
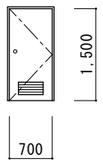
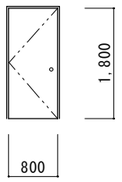
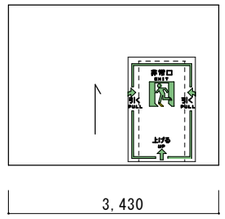
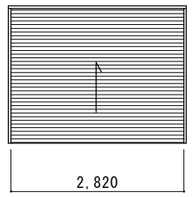
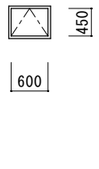
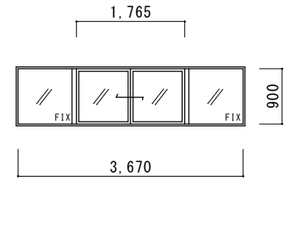
工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

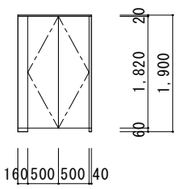
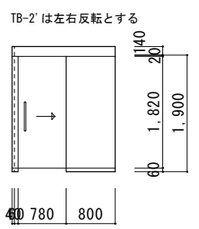
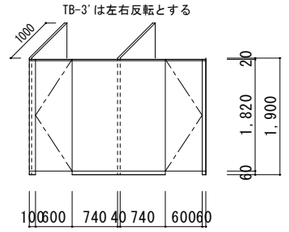
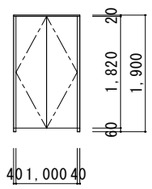
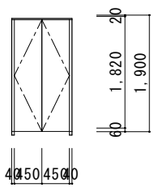
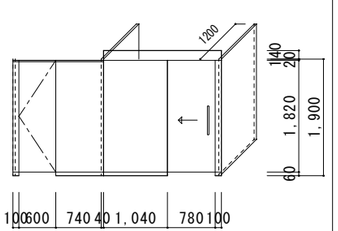
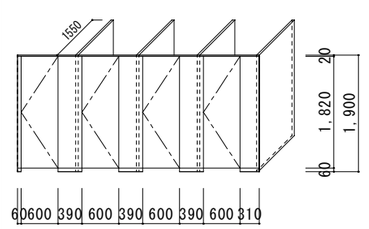
図面名称　建具キープラン・建具表1（撤去図）

No. A-36

記号	名称	AD-1	両引きｱﾙﾐｻｯｼ	AD-2	引き違いｱﾙﾐｻｯｼ	AD-3	ランマ付フラッシュ引き違い戸	SP-1	スクールパーティション	SP-2	スクールパーティション
姿図		枠存置		枠存置		枠撤去共		教室側より 枠撤去共	 ※黒板・掲示板取付け位置のパネルは片面パネル	枠撤去共	
位置	数量	昇降口（1F）	3	各教室(1F～3F)職員室(1F)	14	東側階段（1F）	1	教室出入口	本体 10 ドア 20 ランマ 20	職員室	2
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	100	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70	ｽﾁｰﾙﾊﾟﾈﾙ	70	ｽﾁｰﾙﾊﾟﾈﾙ	70
建具	金物	棒状引手 ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 敷居SUSt=2.0 SUSﾚｰﾙ		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ ｱﾙﾐ製皿板W120		鍵付 ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 堀込引手 框SUS2.0		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 押縁（ｽﾁｰﾙ）戸当り		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 押縁（ｽﾁｰﾙ）戸当り クレセント及び外締（又は鎌錠）	
硝子	備考	扉:上5mm,下ﾌﾞﾚｰﾄﾜｲﾔ6.8mm 欄間:中央5mm,両端3mm		強化4mm		網入ｶﾞﾗｽ6.8mm ランマ5mm		３㎜透明 アクリル樹脂焼付仕上 ４㎜型ガラス		３㎜透明 ４㎜型ガラス	

記号	名称	SP-3	スクールパーティション	SP-4	スクールパーティション	SP-5	スクールパーティション	SP-6	ランマ付き両引き戸	AD-4	両開きフラッシュ戸	AD-5	片面フラッシュ戸
姿図		枠撤去共		枠撤去共		枠撤去共		枠撤去共		枠撤去共		残置	
位置	数量	校長室・事務室(1F)	2	西側教室 （2F,3F）	2	職員室（1F）	2	ふるさと（1F）	1	階段（1F,2F）	2	P.H.（RF）	1
材質	仕上 見込	ｽﾁｰﾙﾊﾟﾈﾙ	70	ｽﾁｰﾙﾊﾟﾈﾙ	70	ｽﾁｰﾙﾊﾟﾈﾙ	70	ｽﾁｰﾙﾊﾟﾈﾙ	70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	100	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具	金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 押縁(ｽﾁｰﾙ)戸当 ｸﾚｾﾝﾄ及び外締		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 押縁(ｽﾁｰﾙ)戸当		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 押縁		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 押縁		丁番 付属金物一式 ﾄﾞｱﾁｪｯｸｽﾄｯﾌﾟ付 框SUSt=2		付属金物一式 ﾄﾞｱｽﾄｯﾌﾟ付	
硝子	備考	３㎜透明 ４㎜型ガラス		3㎜透明		３㎜透明 ４㎜型ガラス		３㎜透明 ランマ３㎜透明		ｱﾐ入りｶﾞﾗｽ t6..8 錠付		ｶﾞﾗﾘ400×300 錠付	

記号	名称	SD-1	両面ﾌﾗｯｼｭ戸	SD-2	片面ﾌﾗｯｼｭ戸	SD-3	片面ﾌﾗｯｼｭ戸	SS-1	シート式防火シャッター	SS-2	軽量シャッター	AW-13	押し開き窓	AW-14	引き違い窓
姿図		特定防火設備 枠撤去共		塗装改修		塗装改修		特定防火設備 残置		枠撤去共		枠存置		枠残置	
位置	数量	階段防火戸(1F～3F)	3	PS(1F～3F)	9	段下物入（1F）、物入（3F）	3	階段(1F～2F)	3	廊下(1F)	1	P.H.(RF)	1	便所(3F)	1
材質	仕上 見込	ｽﾁｰﾙﾌﾗｯｼｭ t=1.6 OP	70	ｽﾁｰﾙ片面ﾌﾗｯｼｭ t=1.2 OP	70	ｽﾁｰﾙ片面ﾌﾗｯｼｭ t=1.2 OP	70	ｽﾁｰﾙ製 ｽﾗｯﾄt=1.6	100	ｽﾁｰﾙ製 ｽﾗｯﾄt=0.8 OP	70	ｱﾙﾐ	70	ｱﾙﾐ	70
建具	金物	両面ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ ﾄﾞｱﾁｪｯｸ ｽﾃﾝﾚｽ丁番		SUS丁番 SUS握玉 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 沓摺SUS		SUS丁番 SUS握玉 ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 沓摺SUS		空錠 ﾄﾞｱﾁｪｯｸ		二方ｹｰｽ 施錠		ｶﾑﾗｯﾁ		ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切	
硝子	備考	熱及び煙感知器連動自動閉鎖		ｶﾞﾗﾘ1Fのみ		3Fのみｱｰﾑｽﾄｯﾊﾟｰ付		熱及び煙感知器連動自動閉鎖						型ｶﾞﾗｽ3mm	

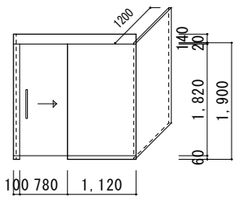
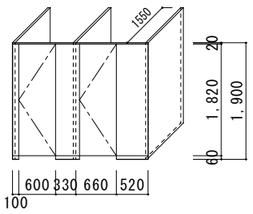
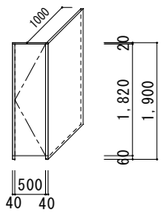
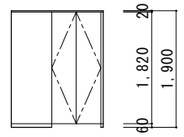
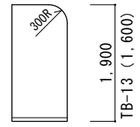
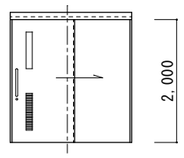
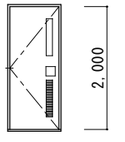
記号	名称	TB-1	トイレブース(竪牢型)	TB-2	トイレブース(竪牢型)	TB-3	トイレブース(竪牢型)	TB-4	トイレブース(竪牢型)	TB-5	トイレブース(竪牢型)	TB-6	トイレブース(竪牢型)	TB-7	トイレブース(竪牢型)
姿図		存置		存置	TB-2'は左右反転とする 	存置	TB-3'は左右反転とする 	存置		存置		存置		存置	
位置	数量	1F（西） 便所	1	男子（1F）（西・東）便所	2	女子（1F）（西・東）便所	2	東便所（1F）	1	女子便所（2F・3F）	2	女子便所（2F・3F）	2	女子便所（2F・3F）	2
材質	仕上 見込	パーティクルボード	40	同左	40	同左	40	同左	40	同左	40	同左	40	同左	40
建具	金物	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ 指挟防止ﾀｲﾌﾟ 巾木SUS		同左		同左		同左		同左		同左		同左	
硝子	備考	SUS笠木 ﾄﾞｱRｴｯｼﾞ 戸当り 付属金物一式		同左		同左		同左		同左		同左		同左	

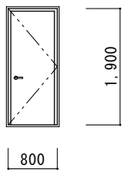
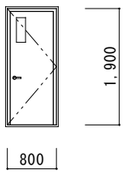
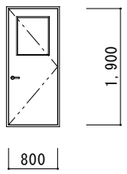
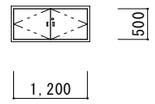
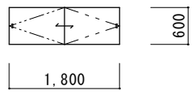
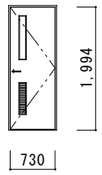
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765

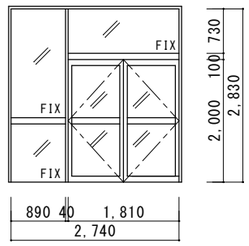
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号

一級建築士登録　第293036号　　相野　徹

縮尺	A1 1：50 A3 1：100
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	建具表2（撤去図）
No.	A-37

記号	名称	TB-8　トイレブース(竪牢型)		TB-9　トイレブース(竪牢型)		TB-10　トイレブース(竪牢型)		TB-11　トイレブース(竪牢型)		TB-12　TB-13　トイレブース(竪牢型)		LSD-1　自閉式片引き戸		LSD-2　鋼製片開きドア	
姿図		残置 		残置 		残置 		残置 		残置 		存置 		存置 	
位置	数量	2F･3F男子便所	2	2F･3F男子便所	2	2F･3F男子便所	2	2F･3F水飲み場	2	各階男子便所　TB-12	2 TB-13 2	多目的トイレ	1	1F男子・女子便所	4
材質	仕上 見込	ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	40	同左	40	同左	40	同左	40	同左	40	STG4　SOP	40	STG4　SOP	40
建具	金物	ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ 指挟防止ﾀｲﾌﾟ 巾木SUS		同左		同左		同左		同左		ﾌﾘｰｽﾄｯﾊﾟｰ、吊車、レール、ﾄﾞｱｶﾞｲﾄﾞ、振止め		SUS丁番、DC、SUS押し板	
硝子	備考	SUS笠木 ﾄﾞｱRｴｯｼﾞ 戸当り 付属金物一式		同左		同左		同左		同左		SUS引戸ﾊﾝﾄﾞﾙ、表示錠		戸先ｸｯｼｮﾝ、ｶﾞﾗﾘ、SUSﾊﾝﾄﾞﾙL450	

記号	名称	SD-6　鋼製防音フラッシュ戸		SD-7　鋼製防音フラッシュ戸		WD-3　フラッシュ戸		WW-1		WW-2		WD-6　片開きフラッシュドア	
姿図		残置 		残置 		撤去枠共 		撤去枠共 		撤去枠共 		残置 	
位置	数量	スタジオ入口	1	放送室入口	1	事務室 校長室	2	スタジオ	1	事務室窓側戸棚	2	職員更衣室（男、女）	2
材質	仕上 見込	鋼製	45	鋼製	45	化粧合板　OP	30	ﾍﾟﾆﾔﾌﾗｯｼｭt4 片面ｱｺｰｽﾄｰﾝ張 片面OP	30	(表) 化粧合板t4　(裏) ﾗﾜﾝﾍﾟﾆﾔt4	40	MDFオレフィンシート張り	45
建具	金物	防音ドア		防音ドア		ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ B.C.　戸当り　空錠		丁番 2枚吊		丁番 2枚吊		丁番　レバーハンドル　ドアクローザー	
硝子	備考	丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ		丁番、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ		型ガラスｔ4		大手張OP　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ入				スチレン系樹脂(ミスト)　ガラリ	

記号	名称	AD-6	
姿図			
位置	数量	玄関	1
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ	100
建具	金物	丁番　付属金物一式　ﾄﾞｱﾁｪｯｸｽﾄｯﾌﾟ付 框SUSt=2	
硝子	備考	ｱﾐ入りｶﾞﾗｽ t6..8　錠付	

記号	名称	
姿図		
位置	数量	
材質	仕上 見込	
建具	金物	
硝子	備考	

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺　A1 1：50　A3 1：100

設計年月日　R7.2.28

工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

図面名称　建具表3（撤去図）

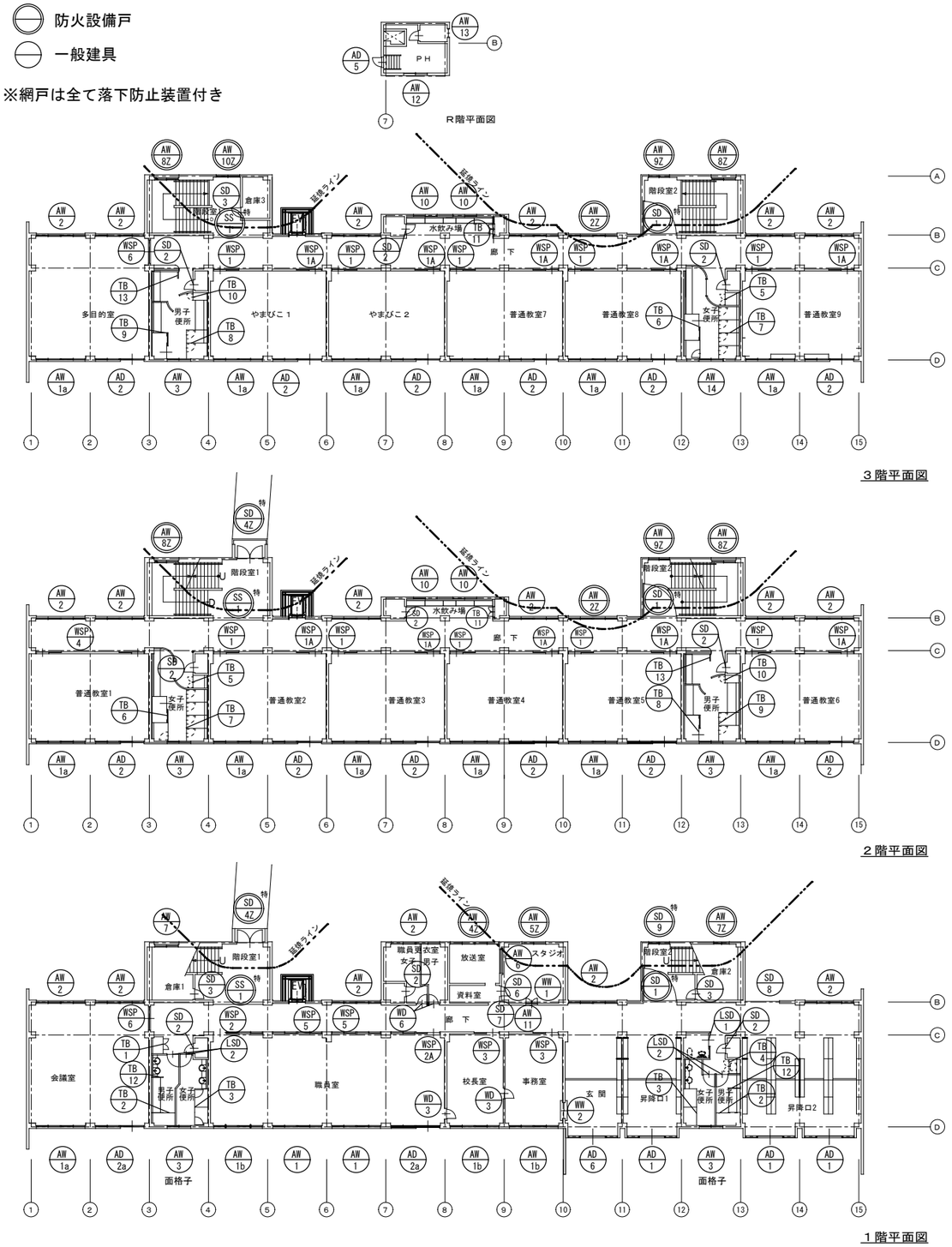
No. A-38

特 特定防火設備戸

防火設備戸

一般建具

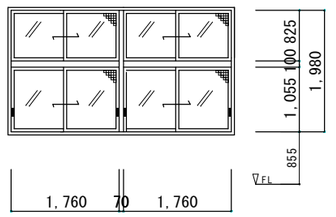
※網戸は全て落下防止装置付き



建具キープラン（改修図） S=1/200

AW-1 引き違いアルミ枠断熱サッシ

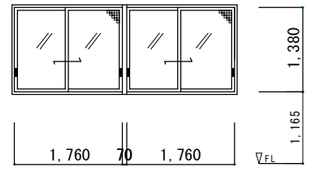
カバー工法



位置	職員室（1階）	2
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 ｸﾚｾﾝﾄ 開口制限ｽﾄｯﾊﾟｰ	
硝子備考	透明STP4+A12+透明STP4 網戸 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-2 引き違いアルミ枠断熱サッシ

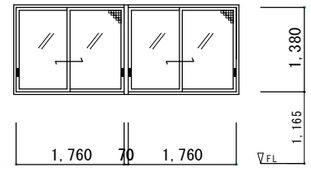
カバー工法



位置	廊下（1～3階）各教室北側（2～3階）会議室（1階）	18
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 ｸﾚｾﾝﾄ 開口制限ｽﾄｯﾊﾟｰ	
硝子備考	透明STP4+A12+透明STP4 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-2Z 引き違いアルミサッシ

防火設備戸 カバー工法（躯体固定）

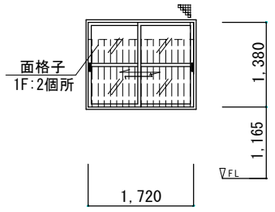


防火認定番号：EB-2943-2

位置	廊下（2～3階）	2
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 開口制限ｽﾄｯﾊﾟｰ ｸﾚｾﾝﾄ	
硝子備考	網入透明6.8+A12+Low-e5 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-3 アルミ枠断熱引き違い戸

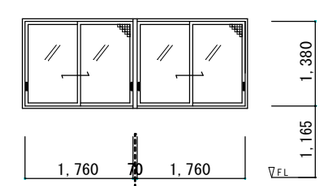
カバー工法



位置	便所（1～3階）	5
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 ｸﾚｾﾝﾄ 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	
硝子備考	透明STP4+A12+STP型4 アルミ面格子（1階のみ）	

AW-4Z 引き違いアルミサッシ

防火設備戸 カバー工法（躯体固定）

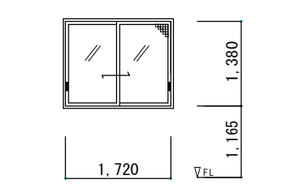


防火認定番号：EB-2943-2

位置	放送室（1階）	1
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 開口制限ｽﾄｯﾊﾟｰ ｸﾚｾﾝﾄ	
硝子備考	網入透明6.8+A12+Low-e5 網戸 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-5Z 引違いアルミサッシ

防火設備戸 カバー工法（躯体固定）

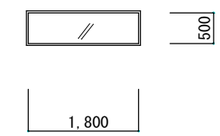


防火認定番号：EB-2943-2

位置	スタジオ（1階）	1
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 開口制限ｽﾄｯﾊﾟｰ ｸﾚｾﾝﾄ	
硝子備考	網入透明6.8+A12+Low-e5 網戸 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-6 はめ殺しアルミ枠断熱防音二重窓

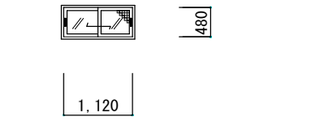
カバー工法 ｱﾙﾐ内窓



位置	放送室（1階）	1
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	100
建具金物		
硝子備考	透明STP4+A40+透明STP6 押縁止め（防音）	

AW-7 引き違いアルミ枠断熱サッシ

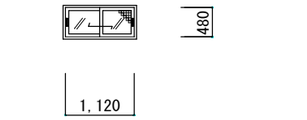
カバー工法



位置	倉庫1（1階）	1
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸 ｸﾚｾﾝﾄ 網戸	
硝子備考	透明STP4+A12+STP型4 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-7Z 引違いアルミサッシ

防火設備戸 カバー工法（躯体固定）

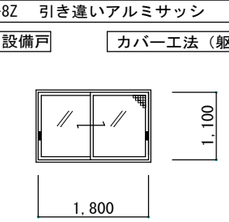


防火認定番号：EB-2943-2

位置	倉庫2（1階）	1
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸 ｸﾚｾﾝﾄ 網戸	
硝子備考	網入透明6.8+A12+Low-e5 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-8Z 引き違いアルミサッシ

防火設備戸 カバー工法（躯体固定）

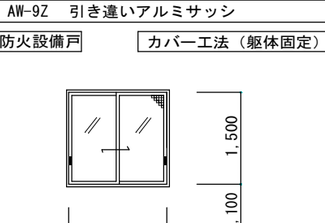


防火認定番号：EB-2943-2

位置	階段室1・2（2.3階）	4
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付	
硝子備考	網入透明6.8+A12+Low-e5 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-9Z 引き違いアルミサッシ

防火設備戸 カバー工法（躯体固定）

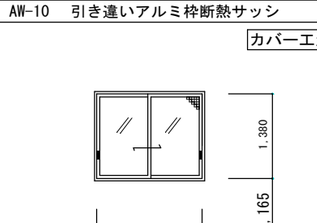


防火認定番号：EB-2943-2

位置	階段室2（2.3階）	2
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付	
硝子備考	網入透明6.8+A12+Low-e5 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

AW-10 引き違いアルミ枠断熱サッシ

カバー工法



位置	水飲場（2.3階）	4
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜 高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装）	70
建具金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付	
硝子備考	透明STP4+A12+STP型4 指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号
一級建築士登録 第293036号 相野 徹

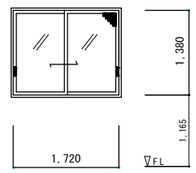
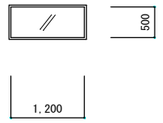
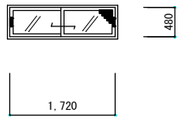
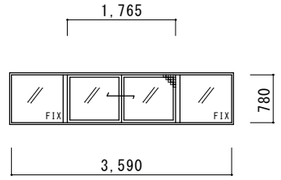
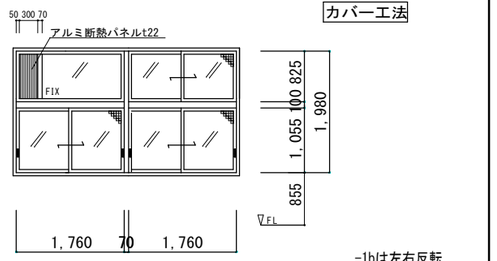
縮尺 A1 1:200 1:50 / A3 1:400 1:100

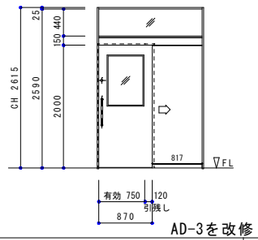
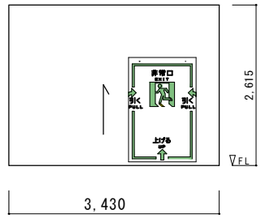
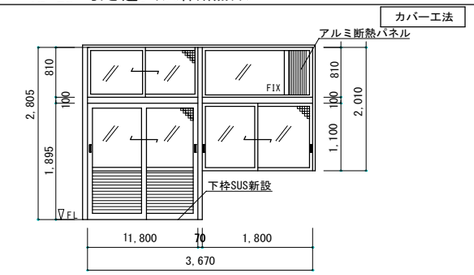
設計年月日 R7.2.28

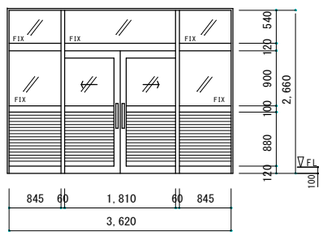
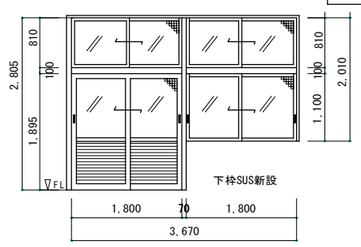
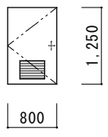
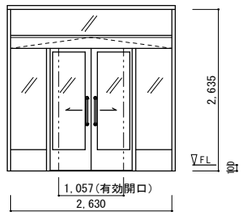
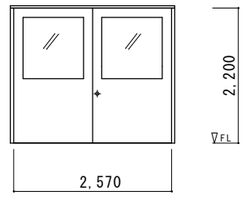
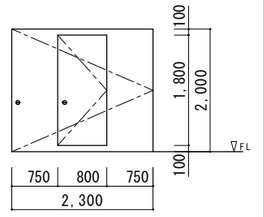
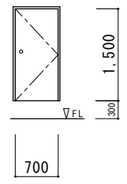
工事名 国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

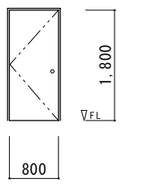
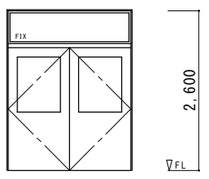
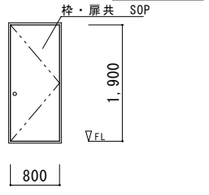
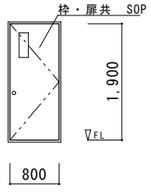
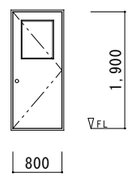
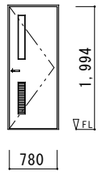
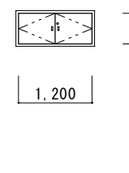
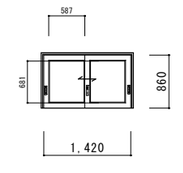
図面名称 建具キープラン・建具表1（改修図）

No. A-39

記号	名称	AW-10Z　2連引違いアルミサッシ	AW-11　羽目殺しアルミ枠断熱二重窓	AW-12　引き違いアルミ枠断熱サッシ	AW-13　上出し窓アルミ枠断熱サッシ	AW-14　両袖羽目殺し窓引き違いアルミ枠断熱サッシ	AW-1a, 1b　引き違いアルミ枠断熱サッシ
姿図		防火設備 / カバー工法（躯体固定）  防火認定番号：EB-2943-2	カバー工法 / 樹脂内窓 	カバー工法 	カバー工法 	カバー工法 	カバー工法  -1bは左右反転
位置	数量	階段室1（3階） 1	スタジオ（1階） 1	P.H（R階） 1	P.H. 1	3F便所 1	-1a 各教室南側（2～3階）相談室（1階）職員室 13　-1b 校長室・事務室 3
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 100	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 70	ﾌｯ素樹酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装 70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 70
建具	金物	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 開口制限ｽﾄｯﾊﾟｰ ｸﾚｾﾝﾄ		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ付 ｸﾚｾﾝﾄ	ｶﾑﾗｯﾁ	ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切　指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 網戸落下防止ﾜｲﾔｰ ｸﾚｾﾝﾄ 網戸　指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ
硝子	備考	網入透明6.8+A12+Low-e5　指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	透明STP4+A40+透明STP6　押縁止め（防音）	透明STP4+A12+Low-e5　指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	透明3+A12+Low-e5	STP4mm型+A12+STP4 網戸	透明STP4+A12+透明STP4

記号	名称	SD-9　ランマＦＩＸ付 戸袋パネル付片引戸	SS-1　シート式防火シャッター	AD-2a　引き違いｱﾙﾐ枠断熱ｻｯｼ
姿図		防火設備 / 新設  AD-3を改修	特定防火設備 / 改修無し 	カバー工法 
位置	数量	1階　階段室2 1	階段室1(1F～3F) 3	会議室　職員室 2
材質	仕上 見込	スチール枠:1.6t(SOP) 扉:1.6t(防錆塗装) 130	樹脂コーティングクロス 100	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 70
建具	金物	ﾄﾞｱﾊﾝﾄﾞﾙ・本締錠・引戸ｸﾛｰｻﾞｰ 指詰め防止ｺﾞﾑ一式	避難時停止装置付	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切内部ステンレス製テーパー付曲げ物　敷居SUSt=2.0 SUSﾚｰﾙ 網戸
硝子	備考	網入透明 6.8t　遮煙	熱及び煙感知器連動自動閉鎖	ｸﾚｾﾝﾄ　STP4+A12+STP4　腰ｱﾙﾐ断熱ﾊﾟﾈﾙ　指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ

記号	名称	AD-1　引き分けｱﾙﾐｻｯｼ	AD-2　引き違いアルミ枠断熱サッシ	AD-5　片面フラッシュ戸	AD-6　引き分け連動ｱﾙﾐｻｯｼ	SD-8 両開きフラッシュドア	SD-1　両面ﾌﾗｯｼｭ戸（常時解放式防火戸）	SD-2　片面ﾌﾗｯｼｭ戸
姿図		カバー工法 	カバー工法 	カバー工法 	カバー工法 	カバー工法 	特定防火設備 / 新設 	塗装改修 SOP枠共 
位置	数量	昇降口　（1階） 3	各教室南側（2F～3F） 12	P.H 1	玄関入口 1	1F廊下 1	階段室2（１F～3F） 3	PS（1F～3F） 9
材質	仕上 見込	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 70	ﾌｯ素樹酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装 70	ｱﾙﾐ（陽極酸化塗装複合被膜　高対候性電着ｸﾘｱｰ塗装） 100	ｽﾁｰﾙﾌﾗｯｼｭ t=1.6 SOP 100	ｽﾁｰﾙﾌﾗｯｼｭ 鉄板t=1.6 SOP 70	ｽﾁｰﾙ片面ﾌﾗｯｼｭ t=1.2 SOP 70
建具	金物	棒状引手　ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ　敷居SUSt=2.0 SUSﾚｰﾙ　ｸﾚｾﾝﾄ	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切内部ｽﾃﾝﾚｽ製ﾃｰﾊﾟｰ付曲げ物　敷居SUSt=2.0 網戸 ｸﾚｾﾝﾄ	付属金物一式　ﾄﾞｱｽﾄｯﾌﾟ付	敷居SUSt=2.0　SUSレール 棒状引手　ｷｯｸﾌﾟﾚｰﾄ　錠	敷居SUSt=2.0 ﾄﾞｱﾁｪｯｸ 引手 ﾄﾞｱｽﾄｯﾊﾟｰ	両面ケースハンドル　ドアチェック　ステンレス丁番	
硝子	備考	扉:STP4+A12+STP4　腰ｱﾙﾐ断熱ﾊﾟﾈﾙ 欄間:STP4+A12+Low-e5	STP4+A12+STP4 腰ｱﾙﾐ断熱ﾊﾟﾈﾙ　指はさみ防止用ｽﾄｯﾊﾟｰ	ｶﾞﾗﾘ400×300　錠付	透明STP5+A12+STP5	STP4+A12+STP4 ﾌﾗｽ落とし ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠	熱及び煙感知器連動自動閉鎖　遮煙性能	ｶﾞﾗﾘ1Fのみ

記号	名称	SD-3　片面ﾌﾗｯｼｭ戸	SD-4Z　両開きフラッシュ戸（常時閉鎖式防火戸）	SD-6　防音フラッシュ戸	SD-7　防音フラッシュ戸	WD-3　フラッシュ戸	WD-6　片開きフラッシュドア	WW-1	WW-2　引き違い受付窓
姿図		塗装改修 SOP枠共 	特定防火設備 / 新設  防火認定番号：EA-0103　AD-4を改修	残置 / 塗装改修 	残置 / 塗装改修 	新設 	残置 	新設 	新設 
位置	数量	倉庫1・2（1F）倉庫3（3F） 3	階段（1F,2F） 2	放送室内 1	放送室入口 1	事務室 校長室 2	職員更衣室（男、女） 2	スタジオ 1	事務室 1
材質	仕上 見込	ｽﾁｰﾙ片面ﾌﾗｯｼｭ t=1.2 SOP 70	ｽﾁｰﾙﾌﾗｯｼｭ t=1.6 SOP 100	スチール	スチール	化粧合板　UC 30	MDFオレフィンシート張り 36	シナ合板t6 片面遮音マット張 片面UC 30	木質面材　オレフィンシート張り 60
建具	金物		SUS丁番　付属金物一式　ﾄﾞｱﾁｪｯｸ ｼﾘﾝﾀﾞｰ鍵			ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ　B.C.　戸当り　空錠	丁番　レバーハンドル　ドアクローザー	丁番 2枚吊 指詰め防止ｽﾄｯﾊﾟｰ	吊レール、引手、受付窓錠
硝子	備考	3Fのみｱｰﾑｽﾄｯﾊﾟｰ付	耐熱強化ガラス（透明）t=8.0			型STP t 4　ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ	スチレン系樹脂（ミスト）　ガラリ	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ t 50入　気密パッキン	STP-4(透明)

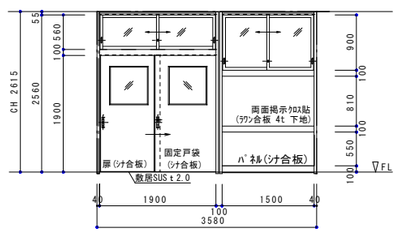
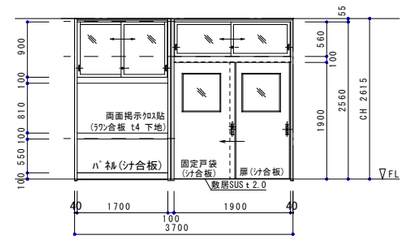
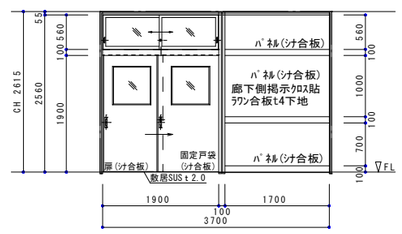
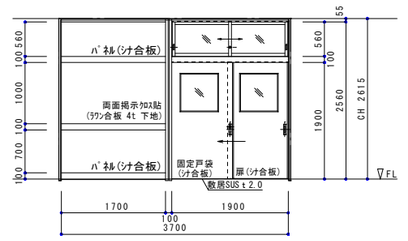
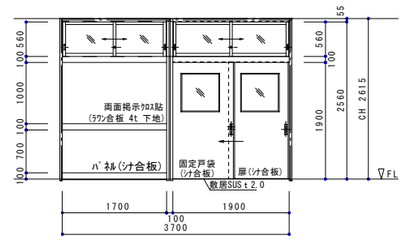
２階　教室6-1・３階　被服室

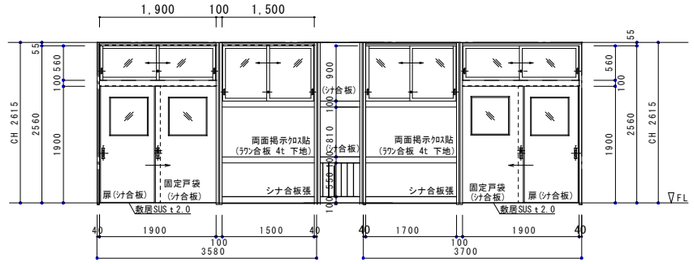
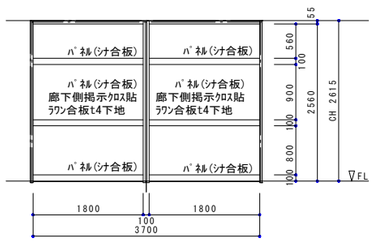
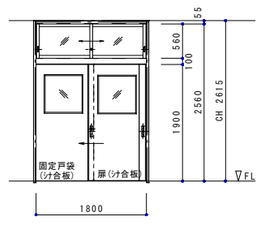
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765

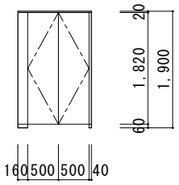
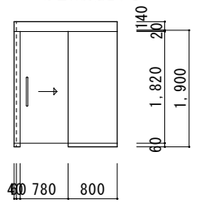
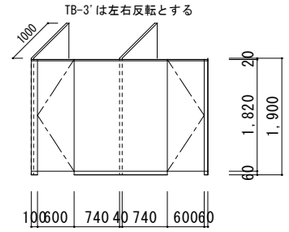
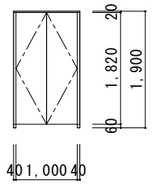
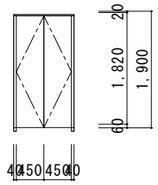
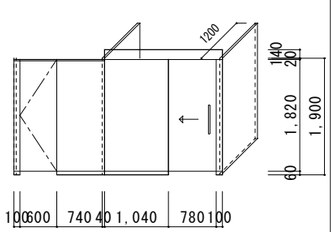
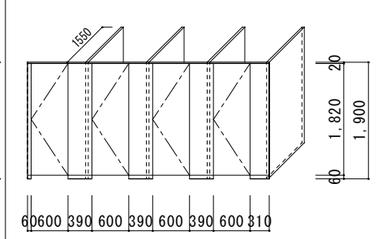
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号

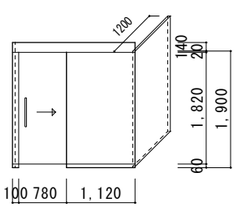
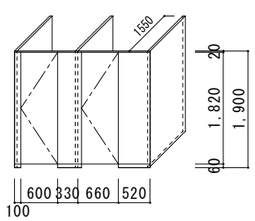
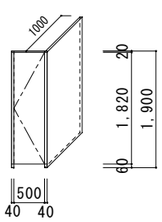
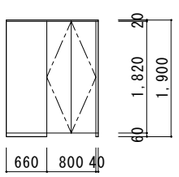
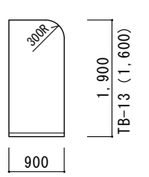
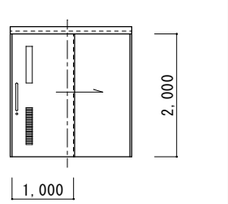
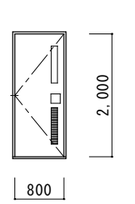
一級建築士登録　第293036号　**相野　徹**

縮尺	A1 1：50 A3 1：100
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	建具表2（改修図）
No.	A-40

記号	名称	WSP-1	WSP-1A	WSP-2	WSP-2A	WSP-3
		木製スクールパーティション	木製スクールパーティション	木製スクールパーティション	木製スクールパーティション	木製スクールパーティション
姿図		新設 	新設 	新設 	新設 	新設 
位置数量		2・3階 教室 10	2・3階 教室 10	1階 職員室 1	1階 職員室 1	1階 校長室・事務室 2
材質仕上見込		枠･ﾗﾝﾏ框:ｽﾌﾟﾙｰｽ 片引戸･戸袋･地窓:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105	枠･ﾗﾝﾏ框:ｽﾌﾟﾙｰｽ 片引戸･戸袋･地窓:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105	枠:ｽﾌﾟﾙｰｽ 片引戸･戸袋･ﾗﾝﾏﾊﾟﾈﾙ:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 羽目板 9t(県産材) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105	枠･ﾗﾝﾏ框:ｽﾌﾟﾙｰｽ 片引戸･戸袋･ﾗﾝﾏﾊﾟﾈﾙ:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 羽目板 9t(県産材) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105	枠･ﾗﾝﾏ框:ｽﾌﾟﾙｰｽ 片引戸･戸袋:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 羽目板 9t(県産材) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105
建具金物		引手･調整戸車･向錬錠･ﾜﾝﾀｯﾁﾛｯｸ･指詰め防止ｺﾞﾑ	引手･調整戸車･向錬錠･ﾜﾝﾀｯﾁﾛｯｸ･指詰め防止ｺﾞﾑ	引手･調整戸車･向錬錠･ﾜﾝﾀｯﾁﾛｯｸ･指詰め防止ｺﾞﾑ	引手･調整戸車･向錬錠･ﾜﾝﾀｯﾁﾛｯｸ･指詰め防止ｺﾞﾑ	引手･調整戸車･向錬錠･ﾜﾝﾀｯﾁﾛｯｸ･指詰め防止ｺﾞﾑ
硝子備考		透明STP4	透明STP4	透明STP4	透明STP4	透明STP4

記号	名称	WSP-4	WSP-5	WSP-6	
		木製スクールパーティション	木製スクールパーティション	木製スクールパーティション	
姿図		新設 	新設 	新設 	
位置数量		2階 普通教室1 1	1階 職員室 2	会議室、多目的 2	
材質仕上見込		枠･ﾗﾝﾏ框:ｽﾌﾟﾙｰｽ 片引戸･戸袋･地窓･腰ﾊﾟﾈﾙ:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105	枠:ｽﾌﾟﾙｰｽ ﾊﾟﾈﾙ:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105	枠･ﾗﾝﾏ框:ｽﾌﾟﾙｰｽ 片引戸･戸袋:ｼﾅ合板(ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ芯) 仕上:ｸﾘｱ塗装 105	
建具金物		引手･調整戸車･向錬錠･ﾜﾝﾀｯﾁﾛｯｸ 指詰め防止ｺﾞﾑ		引手･調整戸車･向錬錠･ﾜﾝﾀｯﾁﾛｯｸ･指詰め防止ｺﾞﾑ	
硝子備考		ｽｸｰﾙﾃﾝﾊﾟ 4t 透明	透明STP4	透明STP4	

記号	名称	TB-1	TB-2	TB-3	TB-4	TB-5	TB-6	TB-7
		トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)
姿図		残置 	残置 TB-2'は左右反転とする 	残置 TB-3'は左右反転とする 	残置 	残置 	残置 	残置 
位置数量		1F(西)便所 1	1F男子(西･東)便所 2	1F女子(西･東)便所 2	1F東便所 1	2F･3F女子便所 2	2F･3F女子便所 2	2F･3F女子便所 2
材質仕上見込		パーティクルボード 40	同左 40	同左 40	同左 40	同左 40	同左 40	同左 40
建具金物		ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ 指挟防止ﾀｲﾌﾟ 巾木SUS	同左	同左	同左	同左	同左	同左
硝子備考		SUS笠木 ﾄﾞｱRｴｯｼﾞ 戸当り 付属金物一式	同左	同左	同左	同左	同左	同左

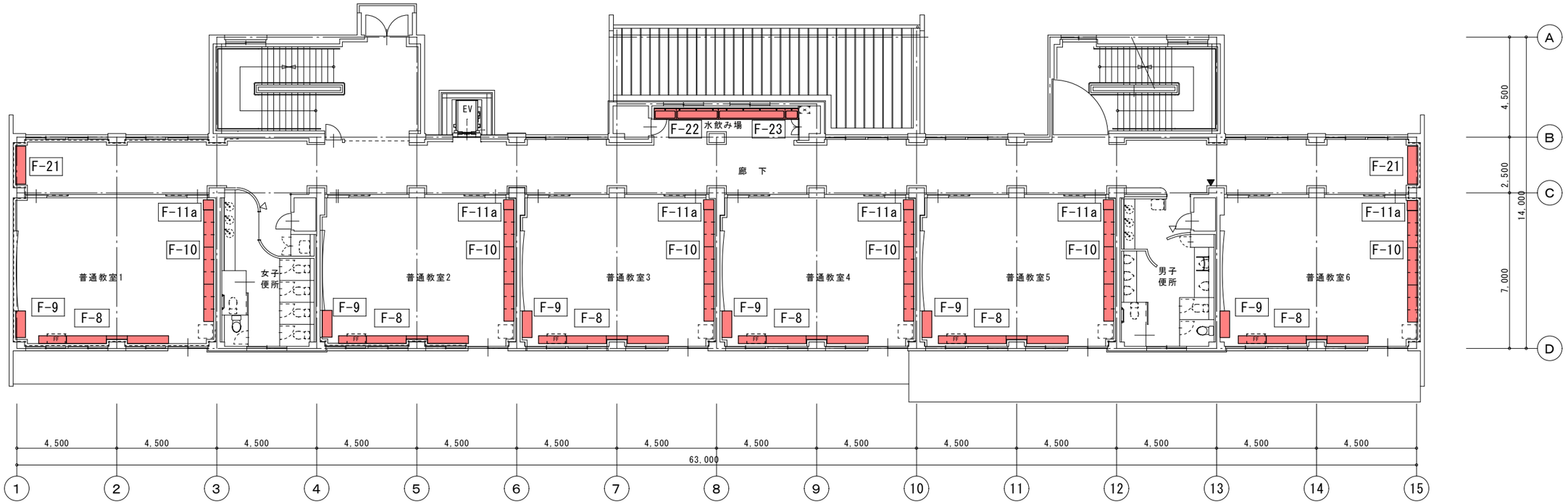
記号	名称	TB-8	TB-9	TB-10	TB-11	TB-12 TB-13	LSD-1	LSD-2
		トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	トイレブース(竪牢型)	自閉式片引き戸	鋼製片開きドア
姿図		残置 	残置 	残置 	残置 	残置 	残置 	残置 
位置数量		2F･3F男子便所 2	2F･3F男子便所 2	2F･3F男子便所 2	2F･3F水飲み場 2	各階男子便所 TB-12 2 TB-13 2	多目的トイレ 1	1F男子・女子便所 4
材質仕上見込		パーティクルボード 40	同左 40	同左 40	同左 40	同左 40	STG4 SOP 40	STG4 SOP 40
建具金物		ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ 指挟防止ﾀｲﾌﾟ 巾木SUS	同左	同左	同左	同左	ﾌﾘｰｽﾄｯﾊﾟｰ、吊車、レール、ﾄﾞｱｶﾞｲﾄﾞ、振止め	SUS丁番、DC、SUS押し板
硝子備考		SUS笠木 ﾄﾞｱRｴｯｼﾞ 戸当り 付属金物一式	同左	同左	同左	同左	SUS引戸ﾊﾝﾄﾞﾙ、表示錠	戸先ｸｯｼｮﾝ、ｶﾞﾗﾘ、SUSﾊﾝﾄﾞﾙ450

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765

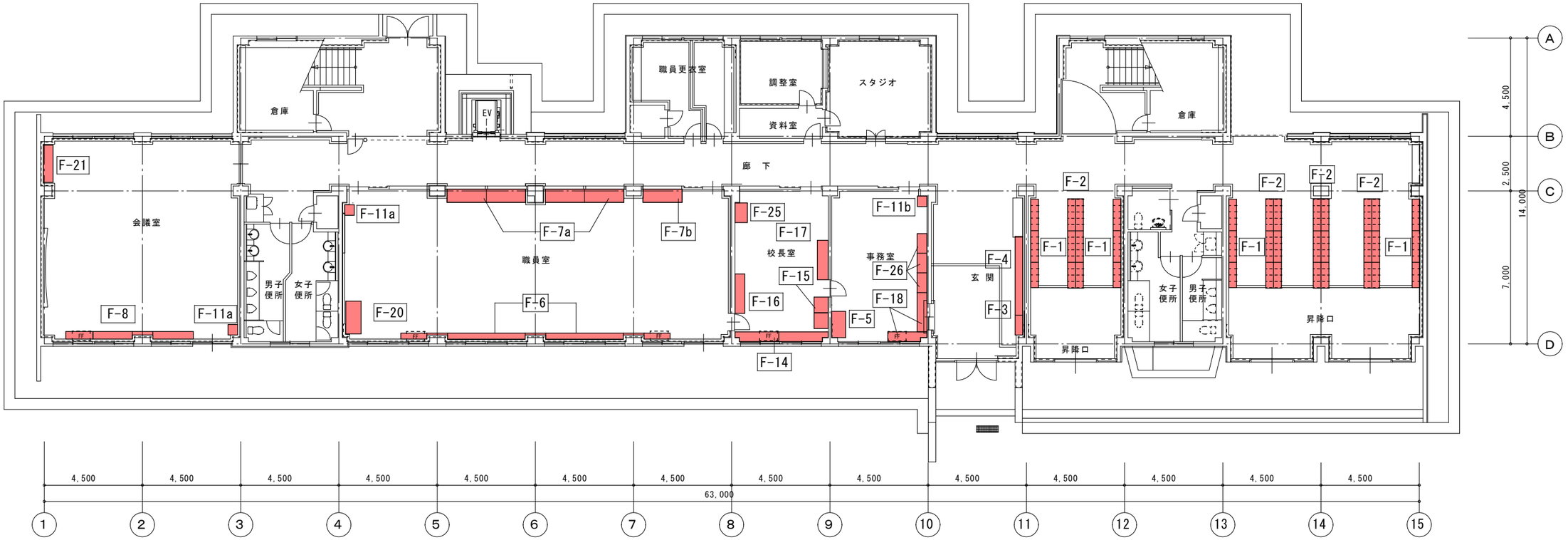
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号

一級建築士登録　第293036号　　相野　徹

縮尺	A1 1：50 A3 1：100
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	建具表3（改修図）
No.	A-41

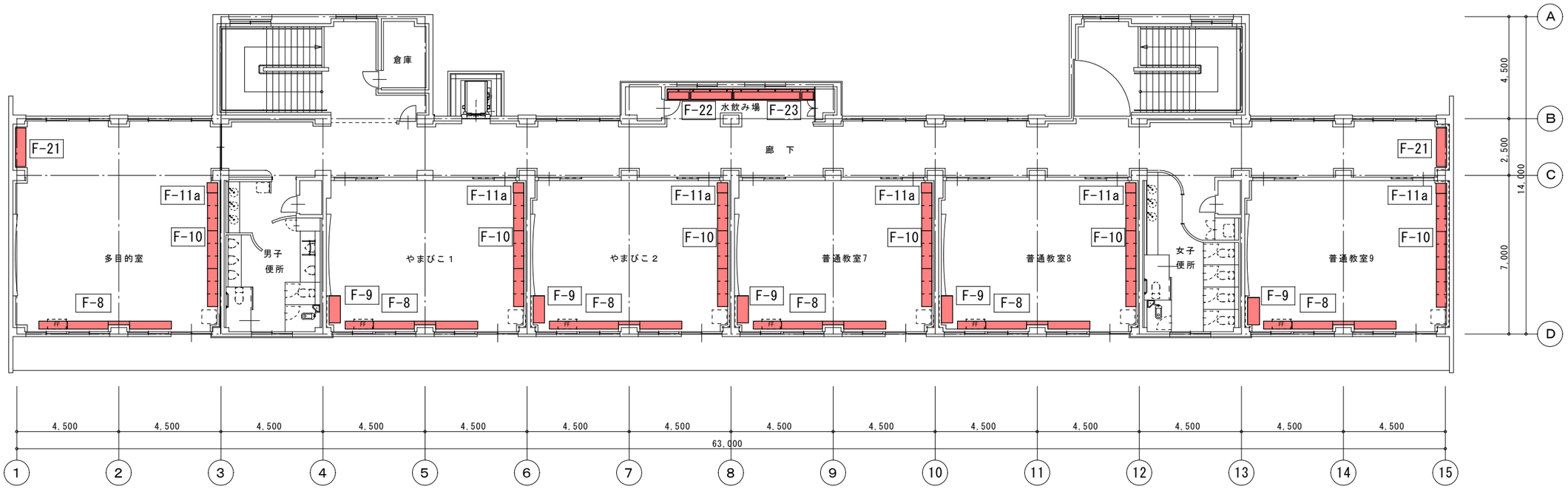


2階平面図



1階平面図

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：100 A3 1：200	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-42
	設計年月日　R7. 2. 28	図面名称　家具配置図(1)	



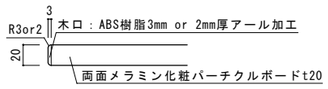
３階平面図

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：100 A3 1：200	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-43
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　家具配置図(2)	

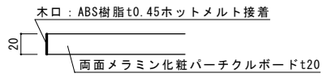
家具共通仕様　「 図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」

1 本体・棚板　室内ＶＯＣ（ ホルムアルデヒド等 ）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面メラミン化粧パーティクルボード（ ユニボードピュアＨｉ ）厚さ２０mm、Ｆ☆☆☆☆を使用する。
上記材料は、ＪＩＳ－Ａ５９０８適合、１８タイプ（ 曲げ強さ１８Ｎ／平方ミリメートル以上 ）とし、
ＪＩＳマーク認定の国内工場での生産品、且つグリーン購入法適合品とする。

2 木口処理　躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ（ ＡＢＳ製樹脂をホットメルト練付 ）加工とする。
開き扉・抽斗前板はセフティーエッジ（ ＡＢＳ製　厚さ3mm　ホットメルト練付 ）加工とする。



【セフティエッジ】



【フラットエッジ】

3 表面処理　本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制するために鉛筆硬度　９Ｈ　以上の表面材を使用する。
本体色については色見本帳（ ４５色以上 ）を提出の上決定する。

4 裏板　ポリエステル化粧合板　Ｆ☆☆☆☆　厚さ４mmを使用し、

5 本体組立て　片面フラッシュ（ ４５０mm　ピッチ以内に格子状桟組構造 ）とする。

6 巾木・台輪　組立ては、製作工場での木製ダボ組接合とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。
ポリエステル化粧合板仕上げ　Ｆ☆☆☆☆（ 塗装不要 ）とする。

7 建具　板戸・戸枠は、くるいやホゾ抜け防止のため、かまち組み等は不可とし１枚物とする。
引違戸の鴨居側には耐震外れ止めスライドガイド、敷居側には上下調整戸車を使用する。
戸枠付きガラス戸は、安全性のため透明強化の刻印入り　厚さ４mmを使用し
メンテナンスが容易な樹脂成型（ ＡＢＳ製 ）の押縁で固定する。

8 把手・蝶番　樹脂成型品（ ＡＢＳ製 ）の把手・引手を使用する。
蝶番は、メンテナンスが容易なキャッチ機構付１１０°程度開き（ ソフトクローズ機構付 ）を使用する。
［ 掃除用具入れの吊元側板への蝶番固定は、５点吊中３ヶ所のみ貫通ボルト止めとする。］

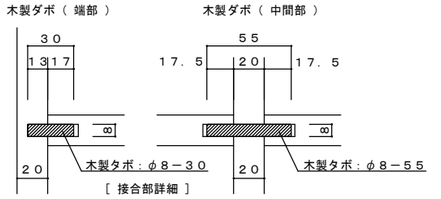
9 鴨居・敷居　メンテナンス性が容易な樹脂成型レール（ ＡＢＳ製 ）を埋め込んだ鴨居と面付けの敷居（ ＡＢＳ製 ）とする。

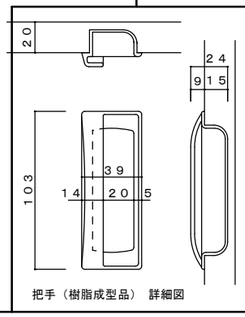
10 抽斗箱　細菌・カビ・悪臭のつきにくい樹脂化粧ＭＤＦとする。

11 棚板受け　安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボを使用する。
棚板は外れ止めシャクリ加工を施す。

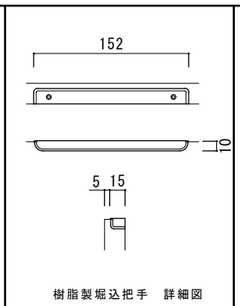
12 特記事項　環境配慮及び品質確保のため、取り扱いは ＩＳＯ １４００１、製作は ＩＳＯ ９００１ 取得企業とする。
製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。
室内空気清浄保持のために、学校環境衛生基準に対して参考となる類似製品のＶＯＣ測定データを提出する。

13 施工　家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。

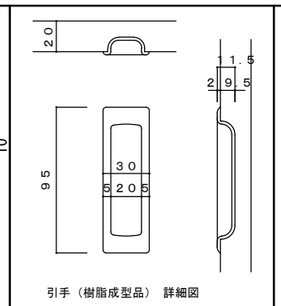




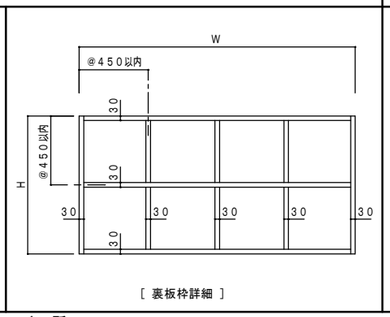
把手（樹脂成型品） 詳細図



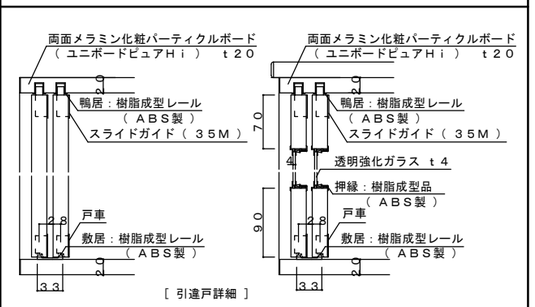
樹脂製堀込把手　詳細図



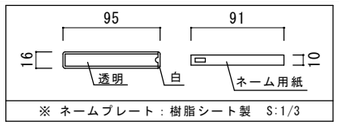
引手（樹脂成型品） 詳細図



［ 裏板枠詳細 ］



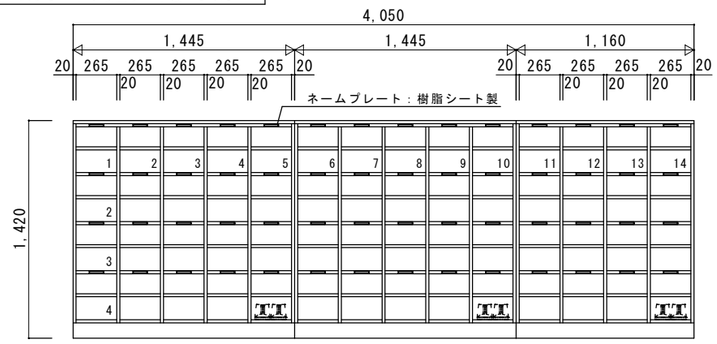
F-1　生徒用下足入れ(片面)　1階　昇降口　4ヶ所



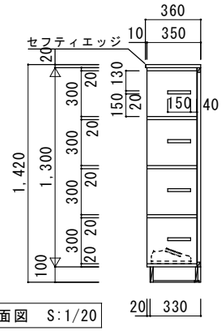
※ ネームプレート：樹脂シート製　S:1/3

仕　様	
背　板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
台　輪	ポリ合板貼

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ

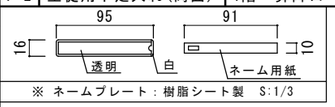


立面図　S:1/20



断面図　S:1/20

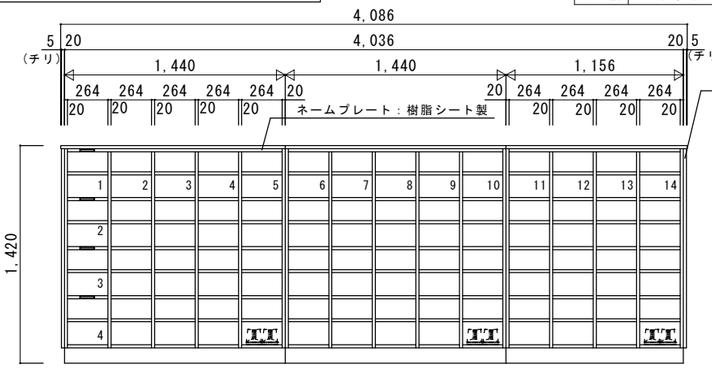
F-2　生徒用下足入れ(両面)　1階　昇降口　4ヶ所



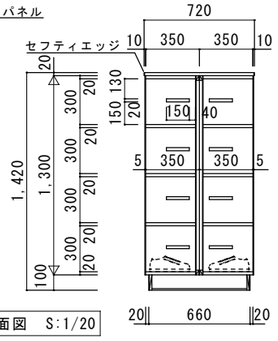
※ ネームプレート：樹脂シート製　S:1/3

仕　様	
背　板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
台　輪	ポリ合板貼

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ

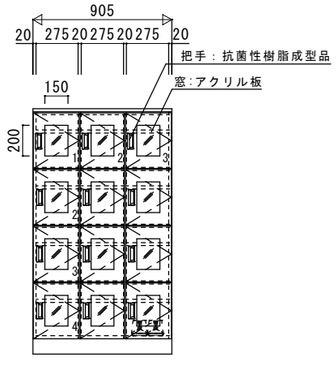


立面図　S:1/20

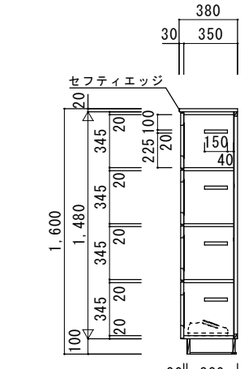


断面図　S:1/20

F-3　来客用下足入れ　1階　玄関　1ヶ所



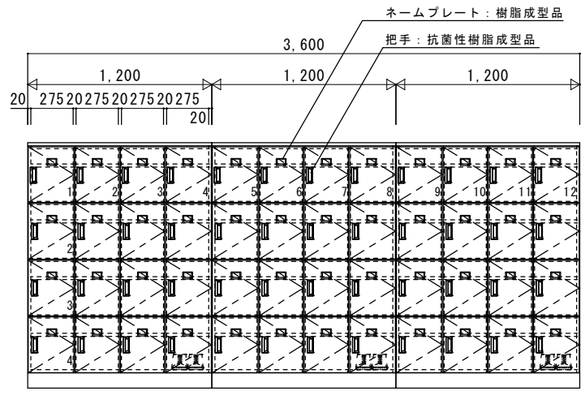
立面図　S:1/20　12人用



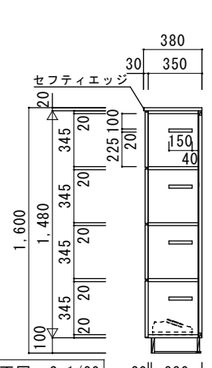
断面図　S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ
背　板	ポリ合板貼
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
台　輪	ポリ合板貼

F-4　職員用下足入れ　1階　玄関　1ヶ所

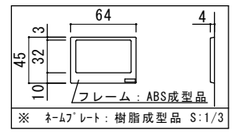


立面図　S:1/20　48人用



断面図　S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ
背　板	ポリ合板貼
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
台　輪	ポリ合板貼

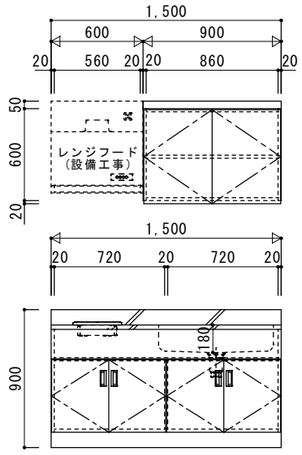


※ ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄ：樹脂成型品 S:1/3

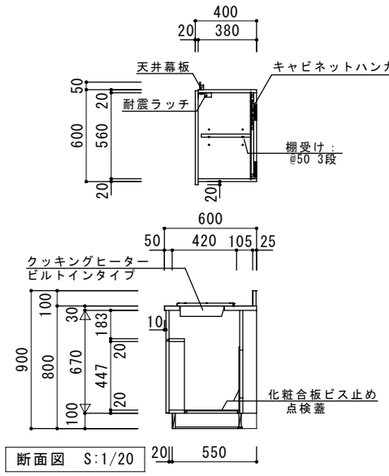
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1 1：20 A3 1：40
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	家具詳細図(1)
No.	A-44

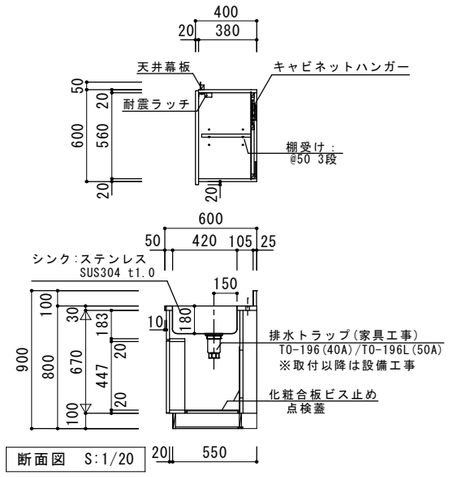
F-5 流し台・吊戸棚　1階　事務室　計1ヶ所



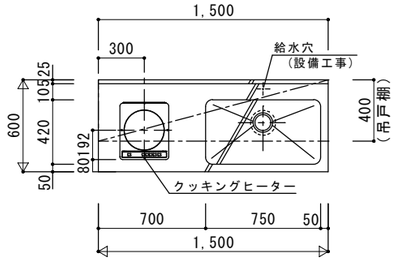
立面図　S:1/20



断面図　S:1/20



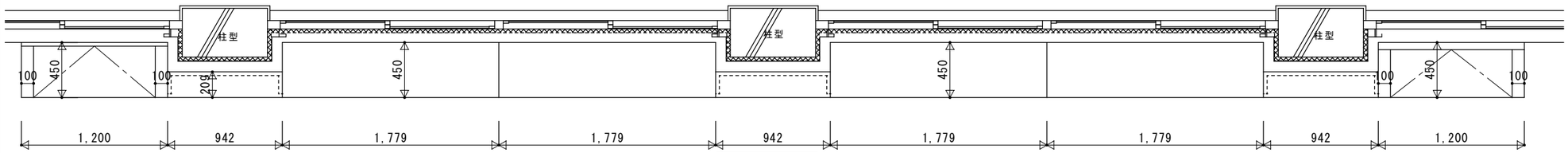
断面図　S:1/20



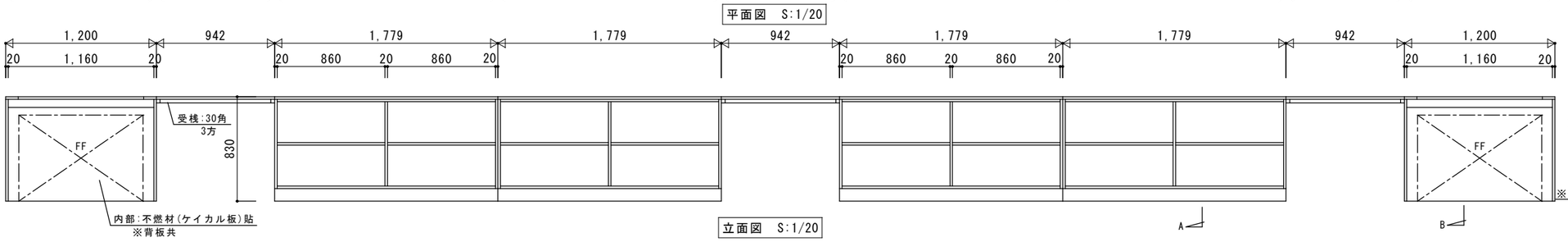
平面図　S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	ステンレスSUS304　t1.0 #400
シンク	ステンレスSUS304　t1.0 #400
背　板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
	棚受ダボ：ステンレスφ9
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
台　輪	ポリ合板貼

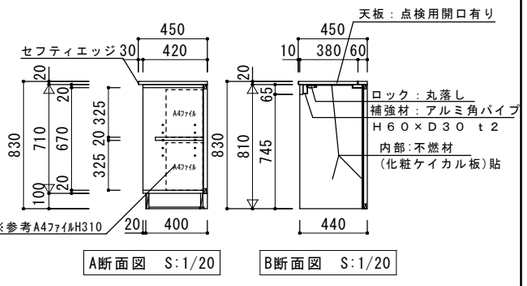
F-6 窓下棚　1階　職員室　1ヶ所



平面図　S:1/20



立面図　S:1/20



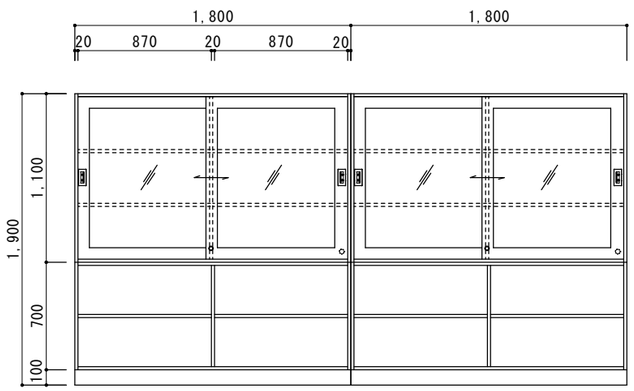
A断面図　S:1/20

B断面図　S:1/20

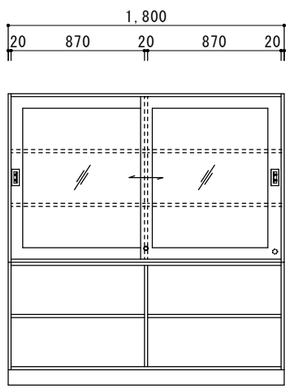
仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ
背　板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
	棚受ダボ：ステンレスφ9
台　輪	ポリ合板貼

F-7 収納棚　1階　職員室　1ヶ所

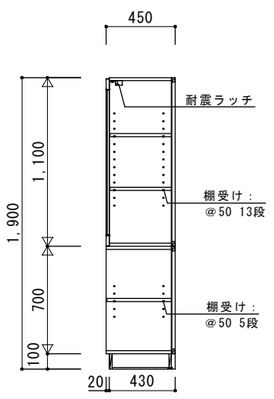
階	ヶ所
a	2
b	1



F-7a　立面図　S:1/20



F-7b　立面図　S:1/20



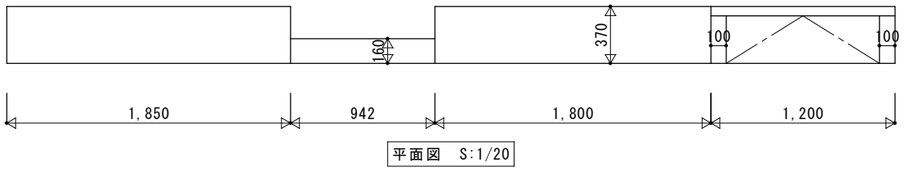
断面図　S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
背　板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
	棚受ダボ：ステンレスφ9
台　輪	ポリ合板貼

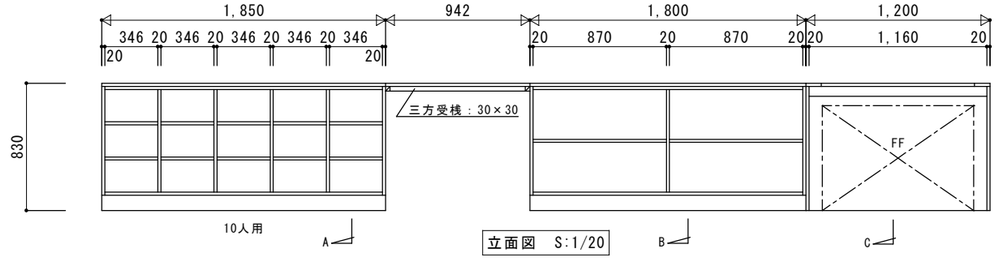
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺	A1 1：20 A3 1：40	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　家具詳細図(2)　No. A-45

F-8 観察台　1階 1ヶ所 / 2階 6ヶ所 / 3階 6ヶ所　合計13ヶ所

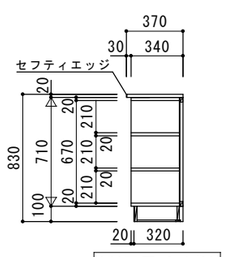
階	室名	ヶ所
1	会議室	1
2	普通教室1～6	6
3	多目的室	1
	やまびこ1･2	2
	普通教室7～9	3
合計		13



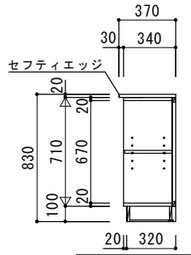
平面図　S:1/20



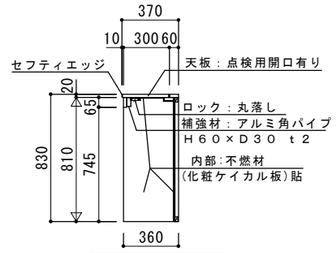
立面図　S:1/20



A断面図　S:1/20



B断面図　S:1/20



C断面図　S:1/20

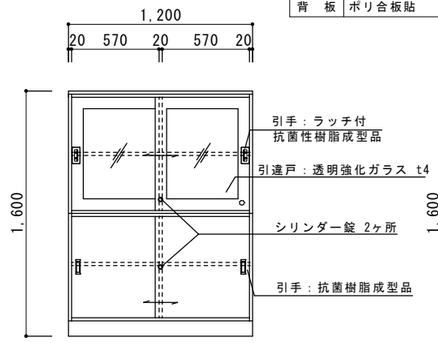
仕様	
本体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ
背板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
	木口:フラットエッジ
台輪	ポリ合板貼

F-9 教師用戸棚　2階 6ヶ所 / 3階 5ヶ所　合計12ヶ所

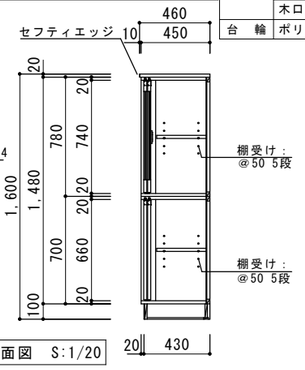
階	室名	ヶ所
2	普通教室1～6	6
3	やまびこ1･2	2
	普通教室7～9	3
	多目的室	1
合計		12

仕様	
本体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ
背板	ポリ合板貼

仕様	
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	透明強化ガラス t4
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
	木口:フラットエッジ
台輪	ポリ合板貼



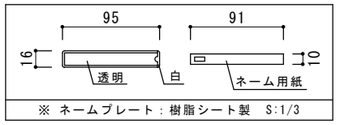
立面図　S:1/20



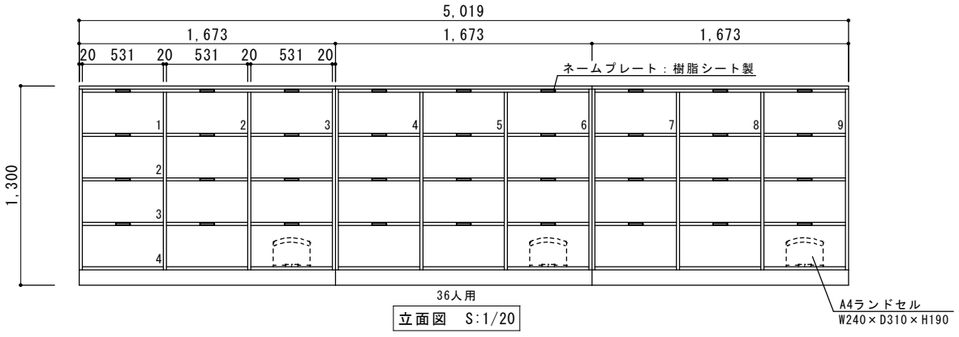
断面図　S:1/20

F-10 生徒用ロッカー(4段)　2階 6ヶ所 / 3階 6ヶ所　合計12ヶ所

階	室名	ヶ所
2	普通教室1～6	6
3	やまびこ1･2	2
	普通教室7～9	3
	多目的室	1
合計		12

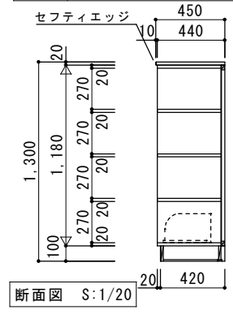


※ ネームプレート：樹脂シート製　S:1/3



立面図　S:1/20

仕様	
本体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ
背板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
台輪	ポリ合板貼



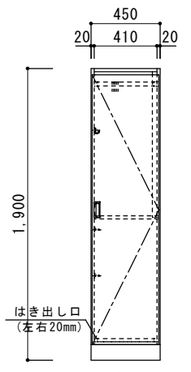
断面図　S:1/20

F-11 掃除用具入　1階 3ヶ所 / 2階 6ヶ所 / 3階 6ヶ所　合計15ヶ所

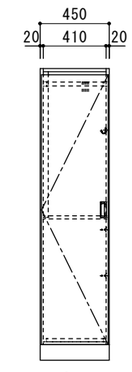
仕様	
本体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
背板	ポリ合板貼

仕様	
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
台輪	ポリ合板貼

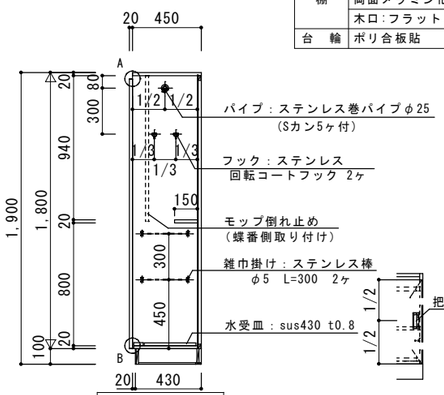
階	室名	a	b
1	会議室	1	
	職員室	1	
	事務室		1
2	普通教室1～6	6	
3	多目的室	1	
	やまびこ1･2	2	
	普通教室7～9	3	
合計		14	1



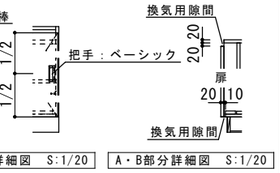
aタイプ(右吊元)
立面図　S:1/20



bタイプ(左吊元)
立面図　S:1/20



断面図　S:1/20

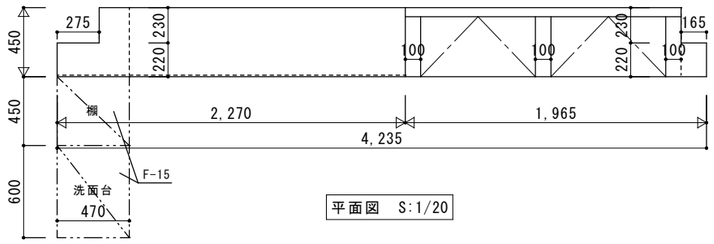


把手位置詳細図　S:1/20

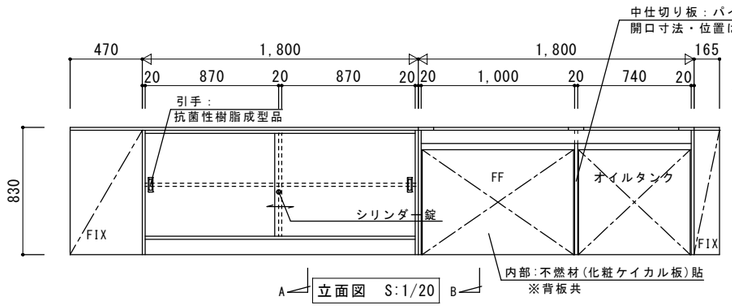
A・B部分詳細図　S:1/20

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺	A1 1：20 A3 1：40	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　家具詳細図(3)
			No. A-46

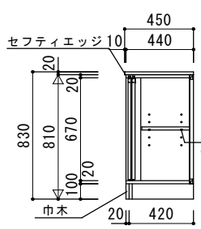
F-14 窓下収納　1階 校長室 1ヶ所



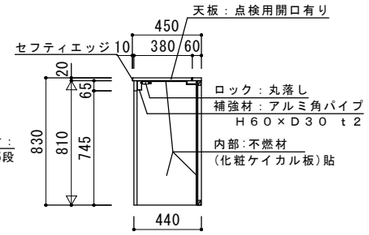
平面図 S:1/20



立面図 S:1/20



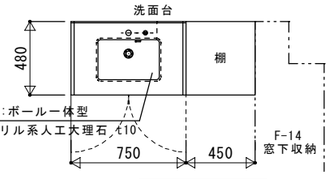
A断面図 S:1/20



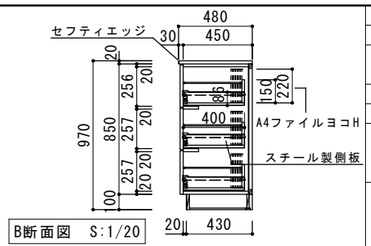
B断面図 S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
背　板	ポリ合板貼
引　戸	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	引手：抗菌性樹脂成型品
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
台　輪	ポリ合板貼

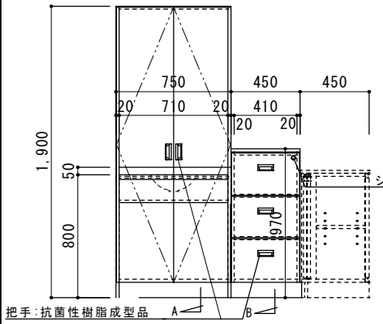
F-15 棚・洗面台　1階 校長室 1ヶ所



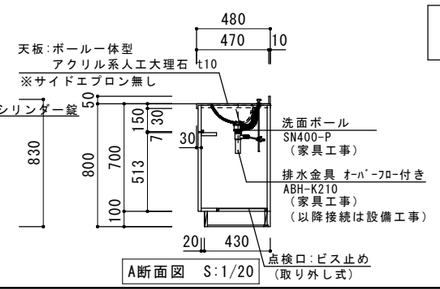
平面図 S:1/20



B断面図 S:1/20



立面図 S:1/20

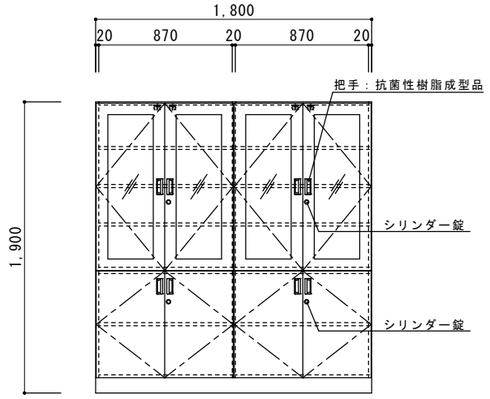


A断面図 S:1/20

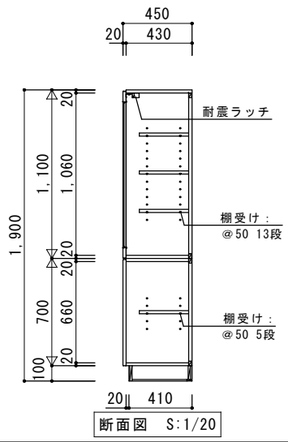
仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
手洗い	天板:ボール一体型 アクリル系人工大理石 t10
背　板	ポリ合板貼
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
抽　斗	前板：両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	抽斗箱：スチール製側板
	把手：抗菌性樹脂成型品
台　輪	ポリ合板貼

※給水:設備工事
※排水:家具工事（接続は設備工事）
※洗面ボール:家具工事

F-16 戸棚　1階 校長室 1ヶ所



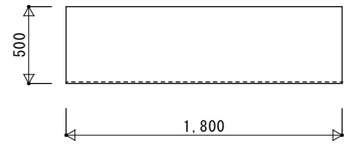
立面図 S:1/20



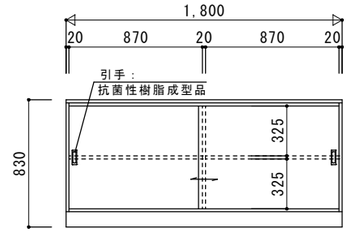
断面図 S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
背　板	ポリ合板貼
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	透明強化ガラス t4
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品　鍵付
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
台　輪	ポリ合板貼

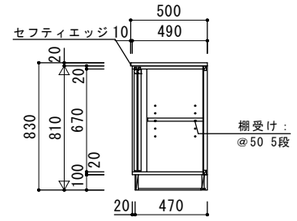
F-17 窓下棚　1階 校長室 1ヶ所



平面図 S:1/20

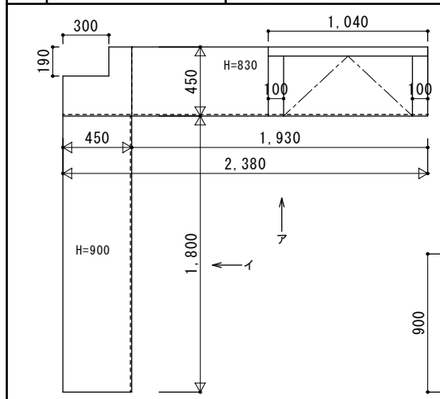


立面図 S:1/20

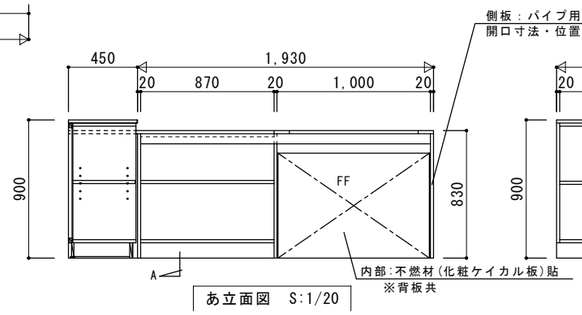


仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
背　板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
引　戸	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	引手：樹脂成型品型
台　輪	ポリ合板貼

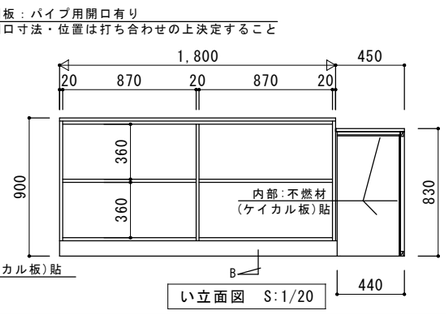
F-18 窓下収納　1階 事務室 1ヶ所



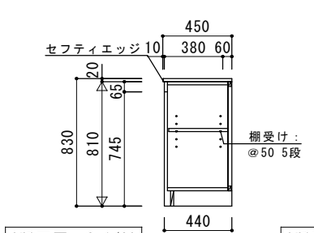
平面図 S:1/20



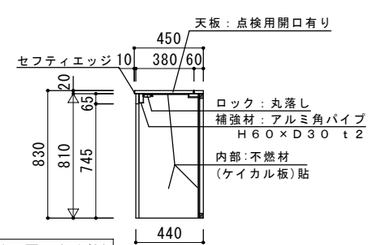
あ立面図 S:1/20



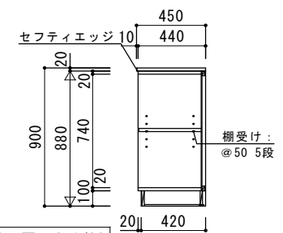
い立面図 S:1/20



A断面図 S:1/20



A断面図 S:1/20

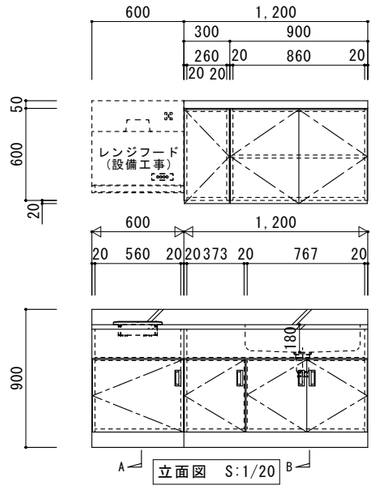


B断面図 S:1/20

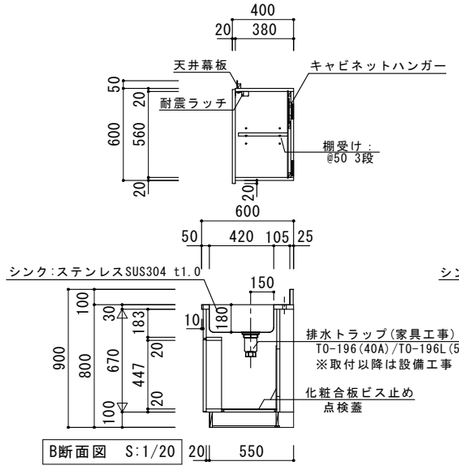
仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
背　板	ポリ合板貼
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
台　輪	ポリ合板貼

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺	A1 1：20 A3 1：40	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　家具詳細図(4)（改修図）　No. A-47

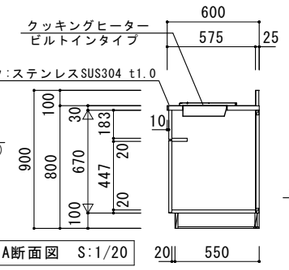
F-20 流し台・吊戸棚　職員室　計１ヶ所



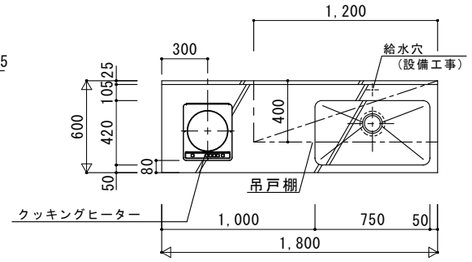
立面図　S:1/20



B断面図　S:1/20



A断面図　S:1/20



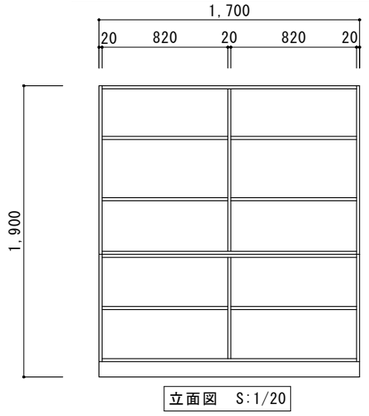
平面図　S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	ステンレスSUS304　t1.0 #400
シンク	ステンレスSUS304　t1.0 #400
背　板	ポリ合板貼
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
	木口:フラットエッジ
台　輪	ポリ合板貼

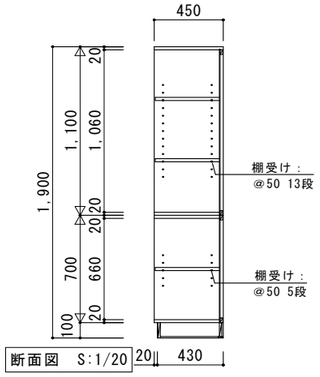
F-21 階段棚　1階会議室　1ヶ所　2階廊下　2ヶ所　3階廊下 2ヶ所　計5ヶ所

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
背　板	ポリ合板貼

仕　様	
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	棚受ダボ：ステンレスφ9
	木口:フラットエッジ
台　輪	ポリ合板貼

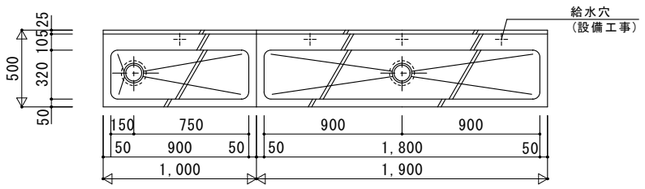


立面図　S:1/20

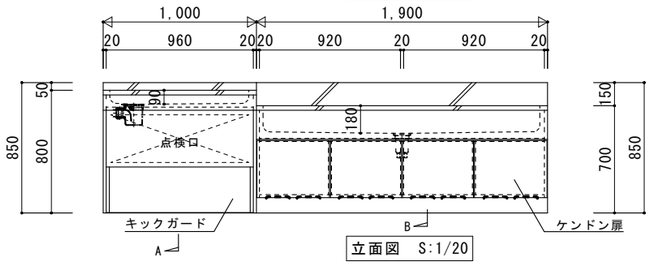


断面図　S:1/20

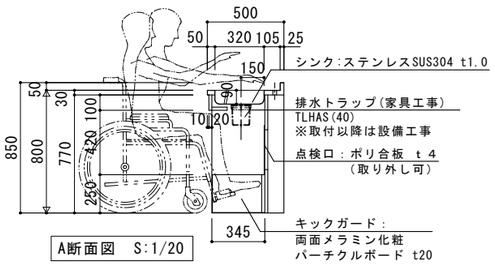
F-22 流し台　2階　3階手洗い場　計2ヶ所



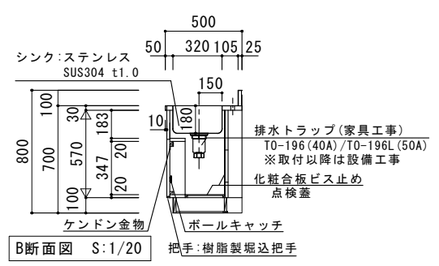
平面図　S:1/20



立面図　S:1/20



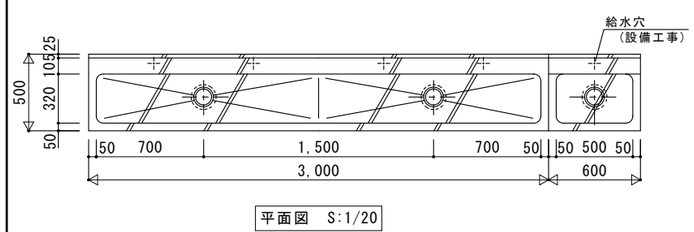
A断面図　S:1/20



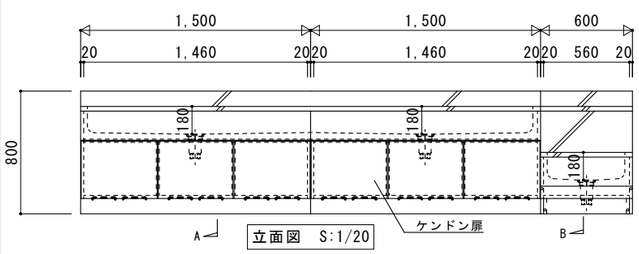
B断面図　S:1/20

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	ステンレスSUS304　t1.0 #400
シンク	ステンレスSUS304　t1.0 #400
背　板	ポリ合板貼
ケンドン扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
台　輪	ポリ合板貼

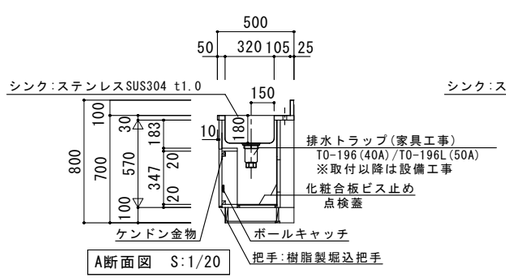
F-23 流し台バケツ流し付　2階　3階手洗い場　計2ヶ所



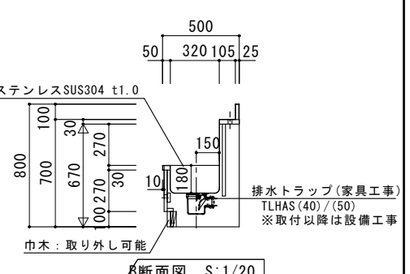
平面図　S:1/20



立面図　S:1/20



A断面図　S:1/20



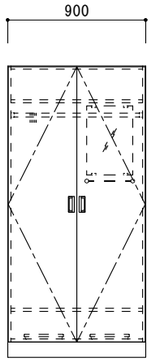
B断面図　S:1/20

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

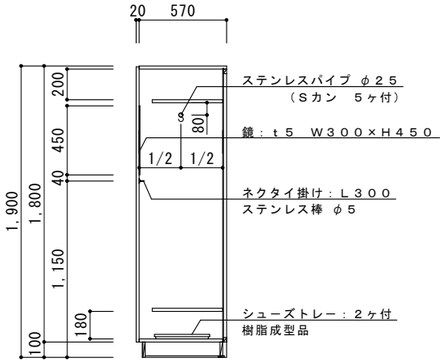
縮　尺	A1 1：20 A3 1：40	工事名	国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	家具詳細図(5)
		No.	A-48

F-25 ワードローブ　1階　校長室　1ヶ所

仕　様	
本　体	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
天　板	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	前木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	他木口:フラットエッジ
背　板	ポリ合板貼
扉	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口：ABS樹脂3mm厚（セフティエッジ）
	把手：抗菌性樹脂成型品
棚	両面メラミン化粧パーチクルボード t20
	木口:フラットエッジ
台　輪	ポリ合板貼

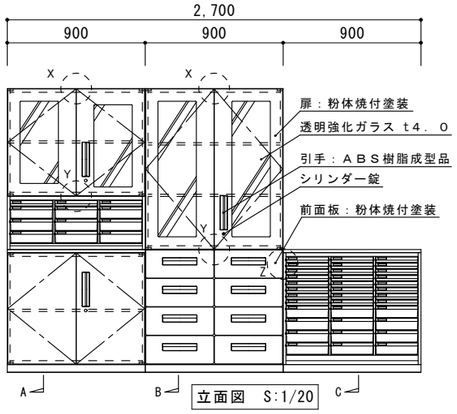


立面図　S:1/20

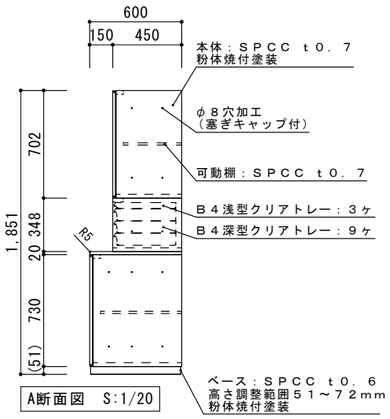


断面図　S:1/20

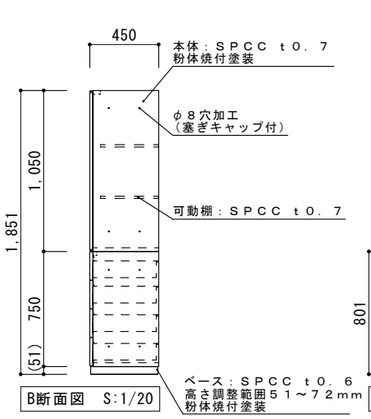
F-26 スチール戸棚　1階　事務室　1ヶ所



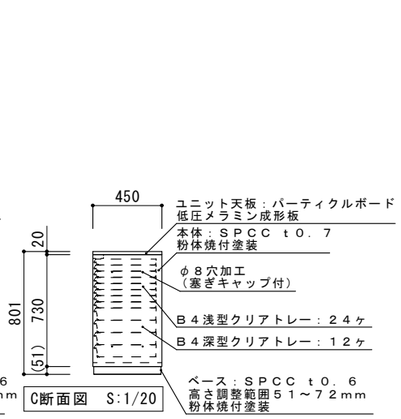
立面図　S:1/20



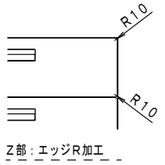
A断面図　S:1/20

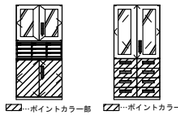


B断面図　S:1/20



C断面図　S:1/20





※口はカラー番号

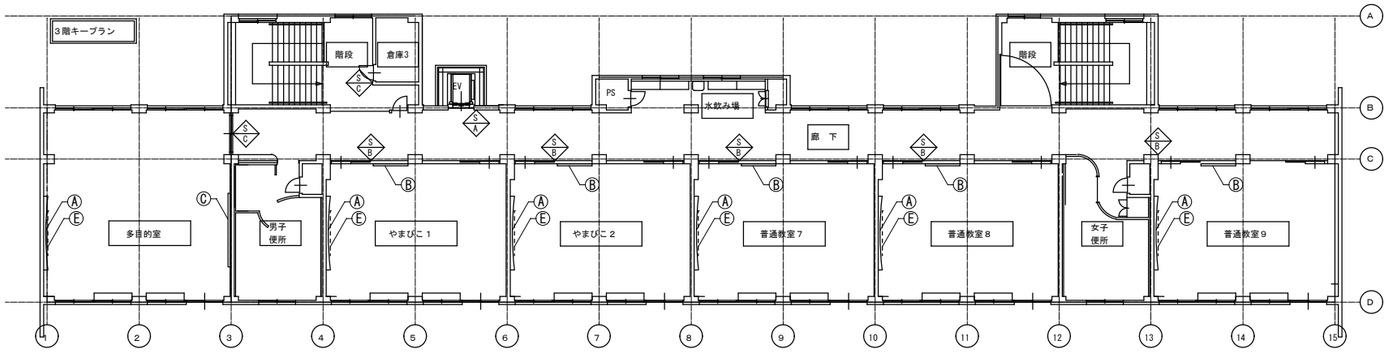
口	ポイントカラー
0	オフホワイト(OW)
1	パウダーブルー(PB)
2	ベージュ(BE)
3	ティールグリーン(TGR)
4	シェルピンク(SPI)
5	ミッドナイトブルー(MBL)
6	レモンイエロー(LY)
7	オパールグリーン(OGR)
8	グレイ(GY)
9	ライトブラウン(LBR)

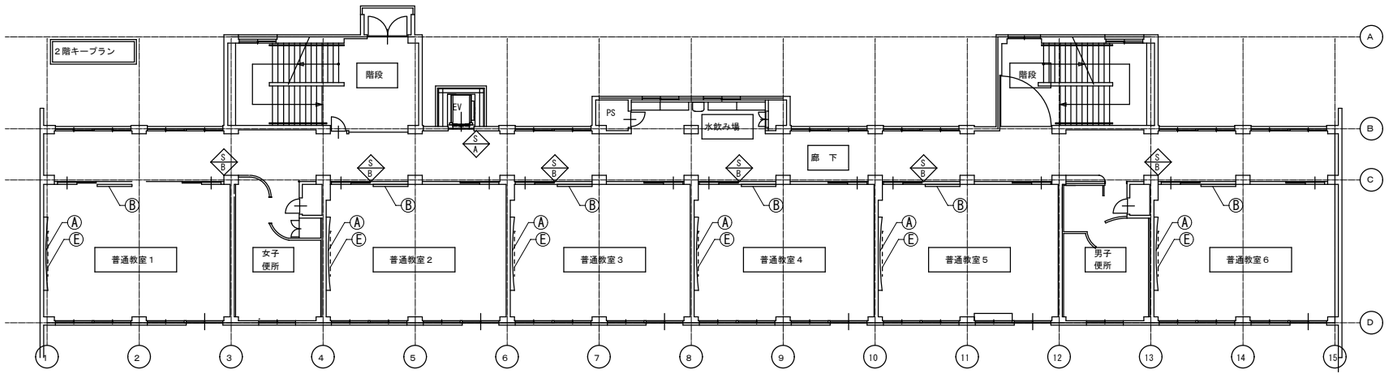
※ベースカラー：オフホワイト（OW）

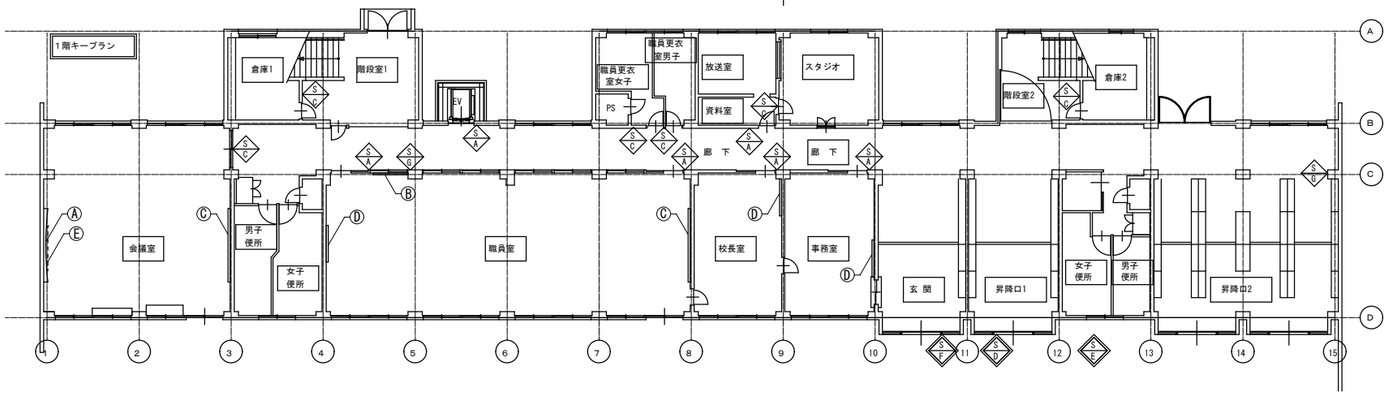
塗装色
オフホワイト（OW）

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1 1：20 A3 1：40
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	家具詳細図(6)
No.	A-49





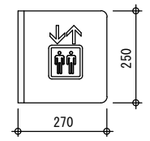


ユニット類リスト

記号	名 称	備 考	数 量			
			1階	2階	3階	計
Ⓐ	曲面黒板	3600×1200	1	6	6	13
Ⓑ	スケジュール黒板	1600×900	1	6	5	12
Ⓒ	ホワイトボード	3600×1200	2	0	1	3
Ⓓ	ホワイトボード	1800×900	2	0	0	2
Ⓔ	スクリーン	2200×1300	1	6	6	13

記号 SA 名称 木製サイン 突き出し（スイング式）

姿 図

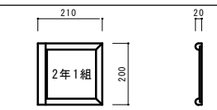


※位置、表示内容は施工時に再確認

数量 室名 5 ピクト 3 1～3F EV室 事務室,校長室,職員室
放送室
材 質 木製t12 留金ステンレス

記号 SB 名称 室名札 突き出し

姿 図



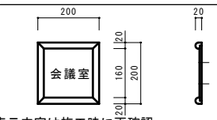
※位置、表示内容は施工時に再確認

数量 室名 11 普通教室×9、やまびこ×2

材 質 アクリルt3（留金ｱﾙﾐ）本体 木製

記号 SC 名称 室名札 平付

姿 図



※位置、表示内容は施工時に再確認

数量 室名 8 多目的室、職員更衣室(男・女各1)
スタジオ、倉庫×3
材 質 アクリルt3 本体 木製

記号 SD 名称 校章 箱文字（撤去清掃再設置）

姿 図

数量 室名 1 玄関上部壁
材 質 ステンレス

記号 SE 名称 校名 箱文字（撤去清掃再設置）

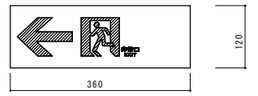
姿 図

長野市立古里小学校

数量 室名 1 玄関上部壁
材 質 ステンレス

記号 SG 名称 蓄光誘導標識 平付

姿 図

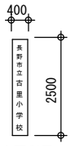


※位置、表示内容は施工時に再確認

数量 室名 3 昇降口1、廊下2
材 質 PETステッカー

記号 SF 名称 校名

姿 図

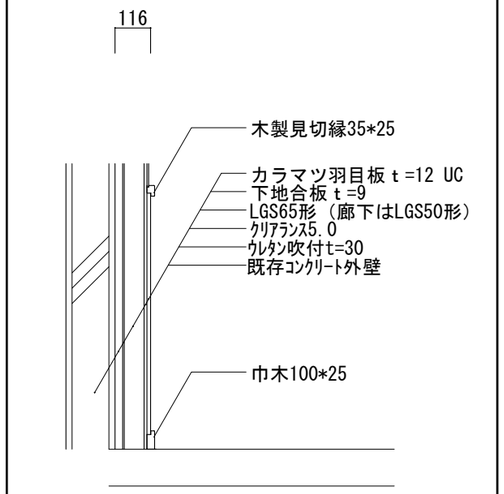


※既存木製校名板を再利用

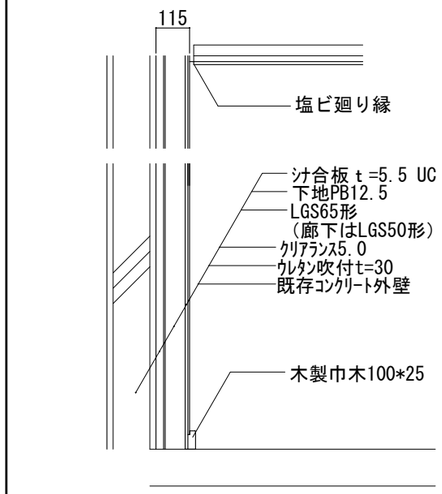
数量 室名 1 玄関上部壁
材 質 木

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号 一級建築士登録 第293036号 相野 徹	縮 尺 A1 1：100 A3 1：200 設計年月日 R7.2.28	工事名 国補 古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称 サインキープラン・サイン表（改修図）	No. A-50

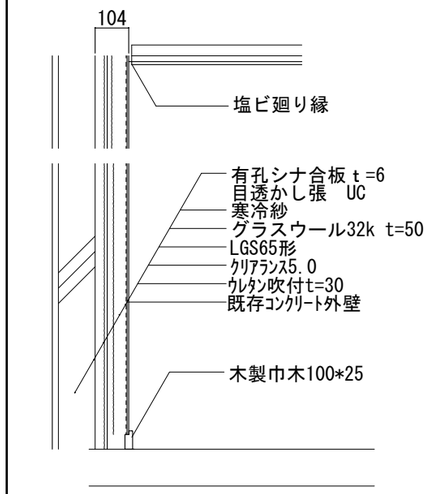
壁詳細図（腰壁：カラマツ羽目板） WO-1　外壁部



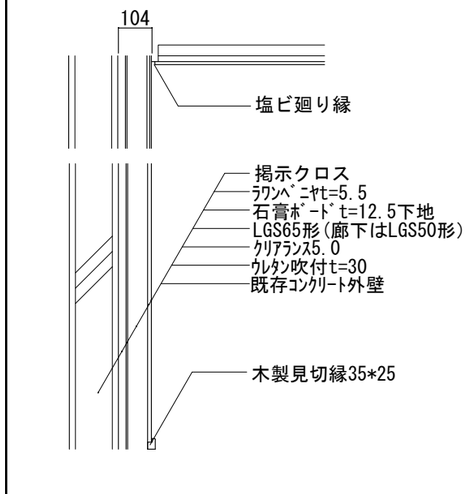
壁詳細図（腰壁・壁：ｼﾅ合板） WO-2　外壁部



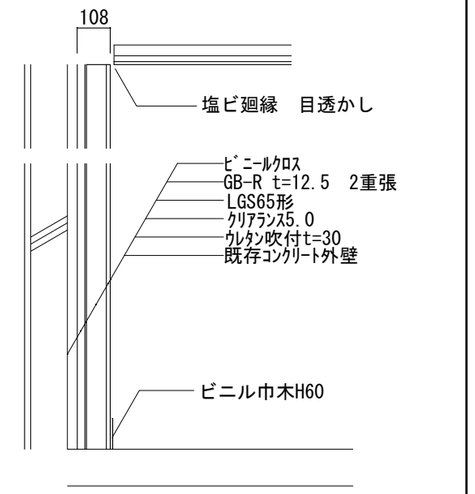
壁詳細図（腰壁・壁：有孔シナ合板） WO-3　外壁部



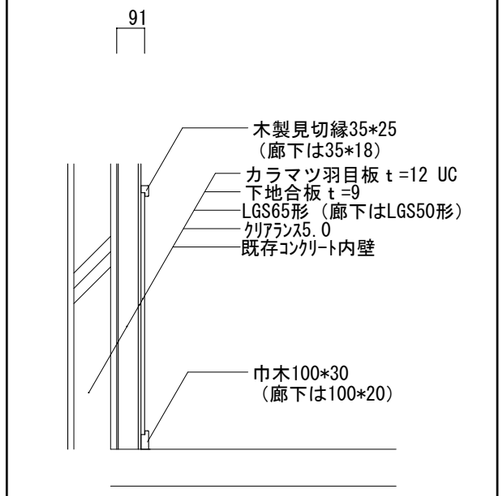
壁詳細図（壁：掲示クロス貼り） WO-4　外壁部



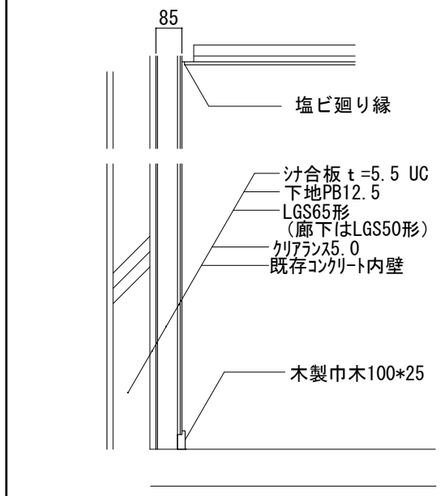
壁詳細図（ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ張り） WO-5　WI-5ｳﾚﾀﾝ吹付無



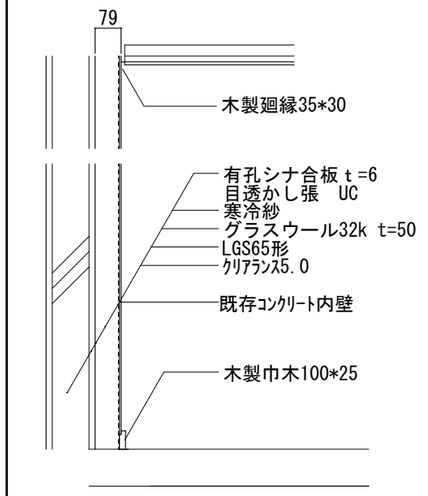
壁詳細図（腰壁：カラマツ羽目板） WI-1　内壁部



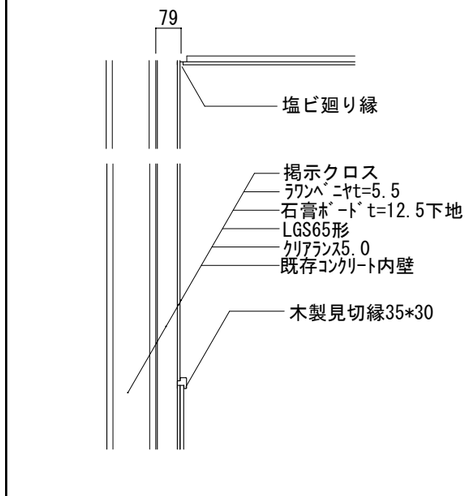
壁詳細図（腰壁・壁：ｼﾅ合板） WI-2　内壁部



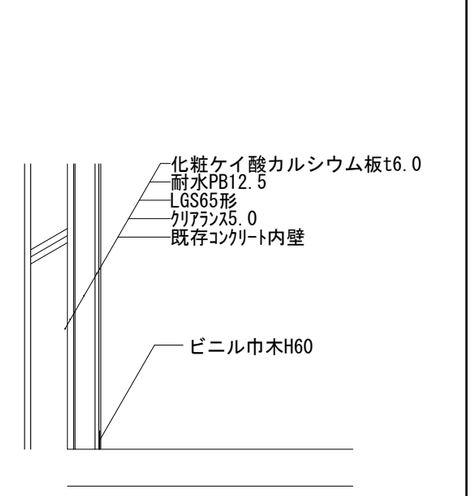
壁詳細図（腰壁・壁：有孔シナ合板） WI-3　内壁部



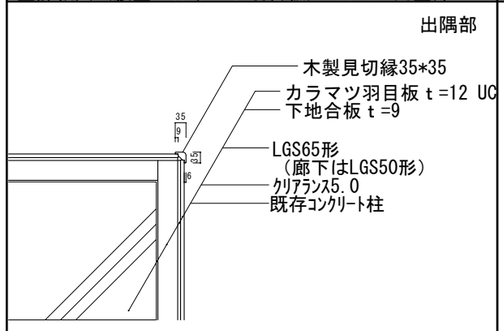
壁詳細図（壁：掲示クロス貼り） WI-4　内壁部



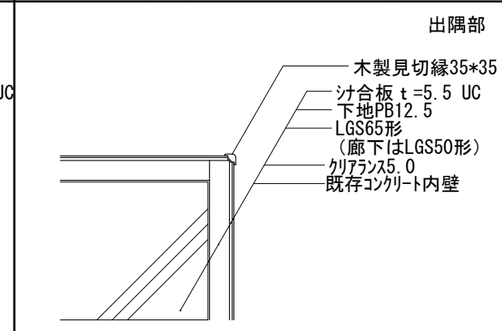
壁詳細図（化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0） WI-6



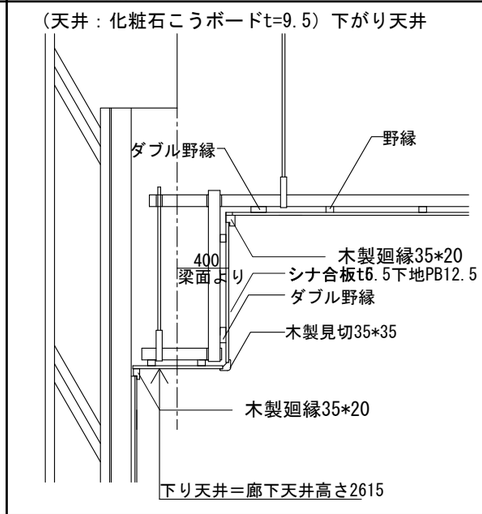
壁詳細図（腰壁：カラマツ羽目板） WI-1　内壁部



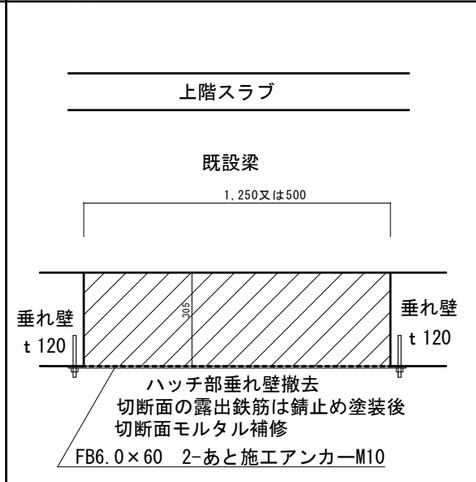
壁詳細図（腰壁・壁：ｼﾅ合板） WI-2　内壁部



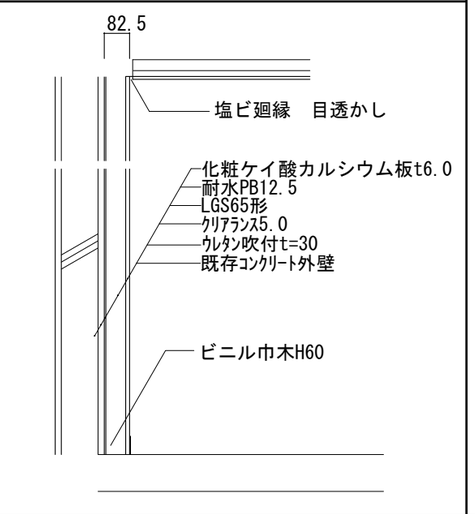
下がり天井詳細図



下がり壁撤去部詳細図



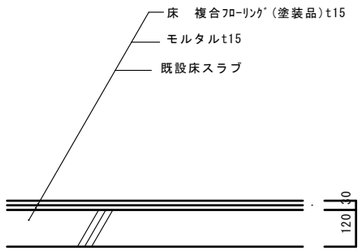
壁詳細図（化粧ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6.0） WO-6



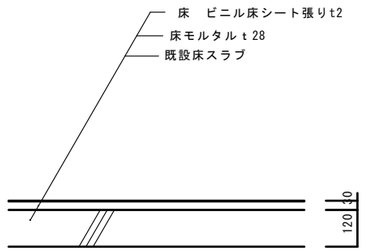
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所（長野県）知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺	A1 1：10 A3 1：20
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	詳細図1
No.	A-51

床詳細図（床：複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ突板張）F1

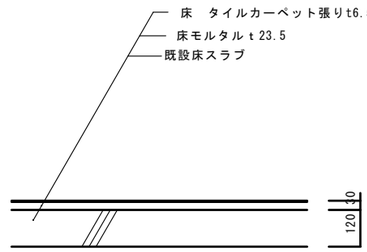


床詳細図（床：ビニル床シート張りt=2.0）F2



※モルタルにて床レベル段差解消

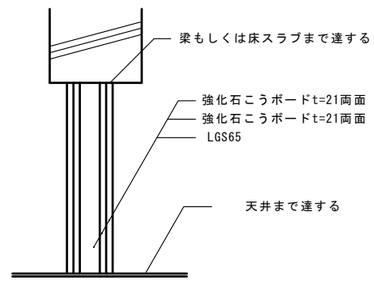
床詳細図（床：タイルカーペット張りt=6.0）F2



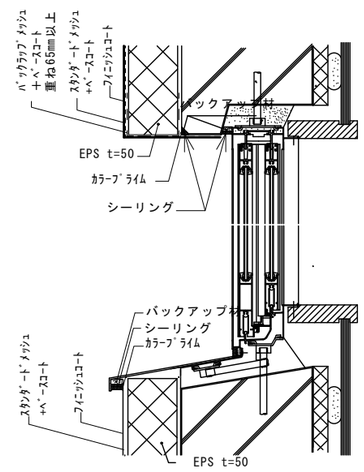
※モルタルにて床レベル段差解消

防火上主要な間仕切り

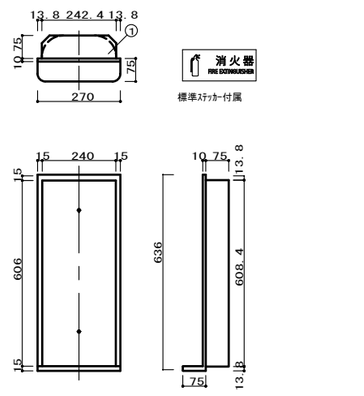
※（耐火構造）H12建告1399　第1 二 ヘ(1)



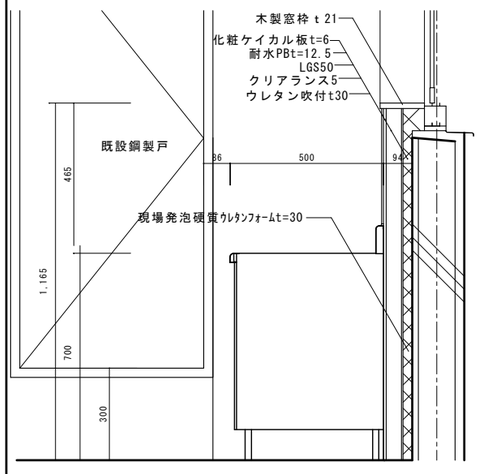
外断熱工法（サッシ回り）　（参考）



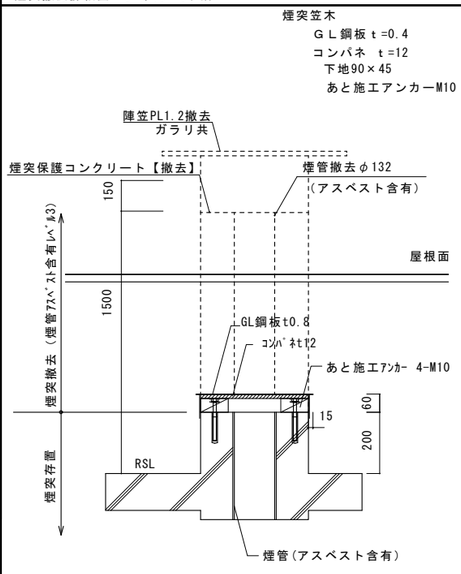
半埋込式ｵｰﾌﾞﾝﾀｲﾌﾟ消火器ﾎﾞｯｸｽ詳細図S=1/10



水飲み場詳細図S=1/10

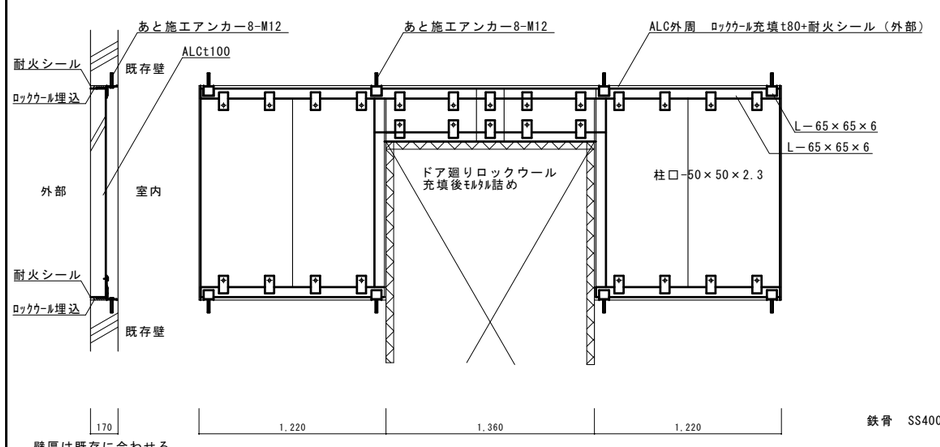


煙突撤去詳細図　S=1/10　6ヶ所

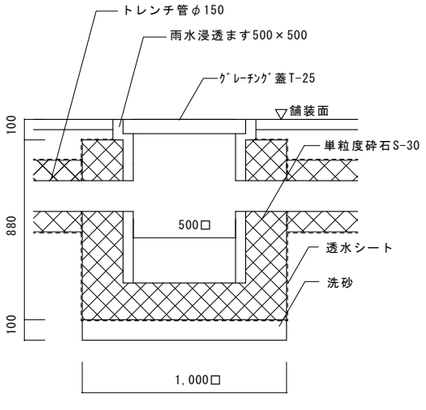


煙突切断時は粉じんが外部に出ないよう
適切に養生すること

RC壁開口閉塞詳細（S=1/20)窓閉塞部（EV設置個所）

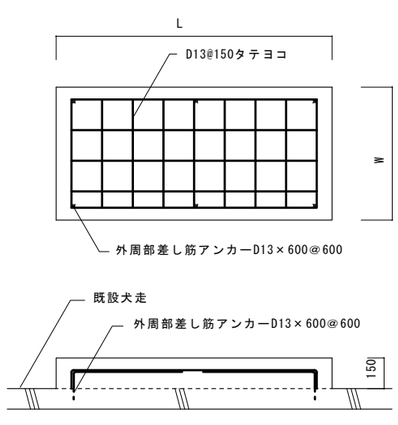


雨水浸透桝詳細（s=1/15）



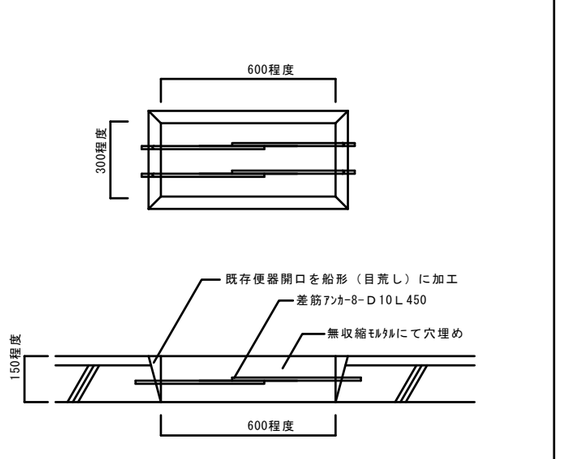
桝をつなぐトレンチ管は水平とする。
放流するトレンチ管は3%程度の勾配とする。

室外機基礎配筋詳細（S=1/15）

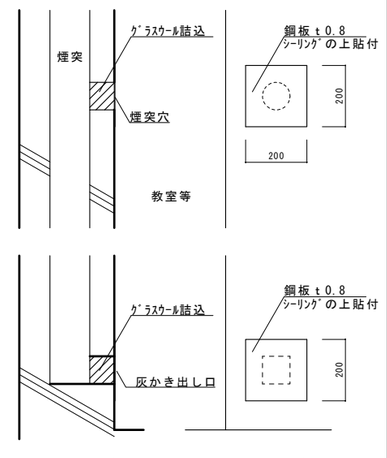


ガスボンベ庫基礎も同様

既存和便器開口閉塞補強（参考図）



煙突穴閉塞詳細図　S=1/10

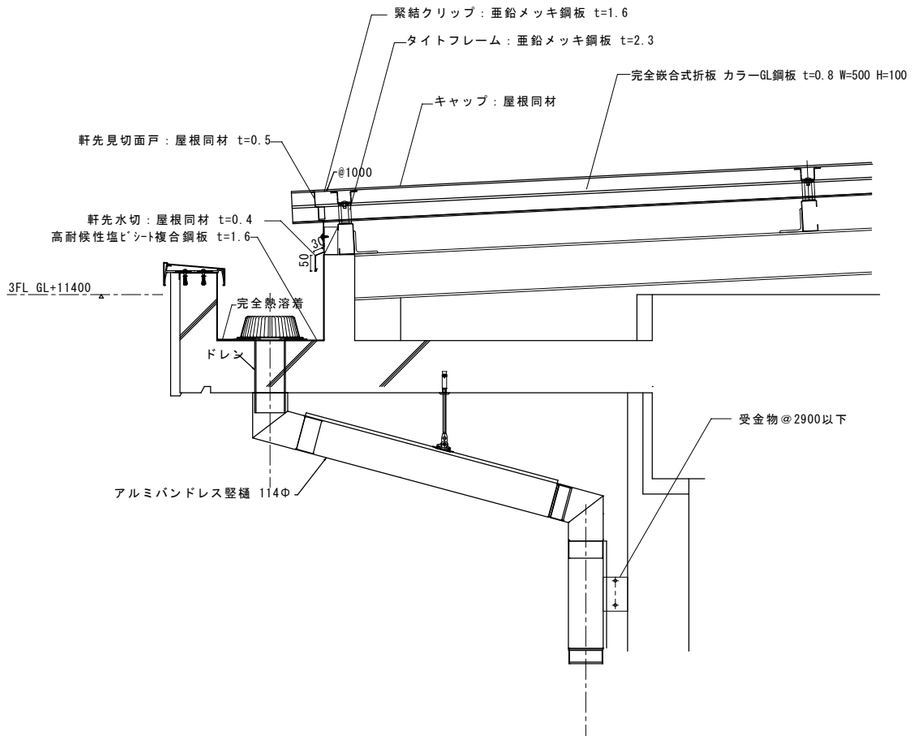


断面図　S＝1/10　　展開図　S＝1/10

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺	A1 1：10 A3 1：20	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　詳細図2　　No. A-52

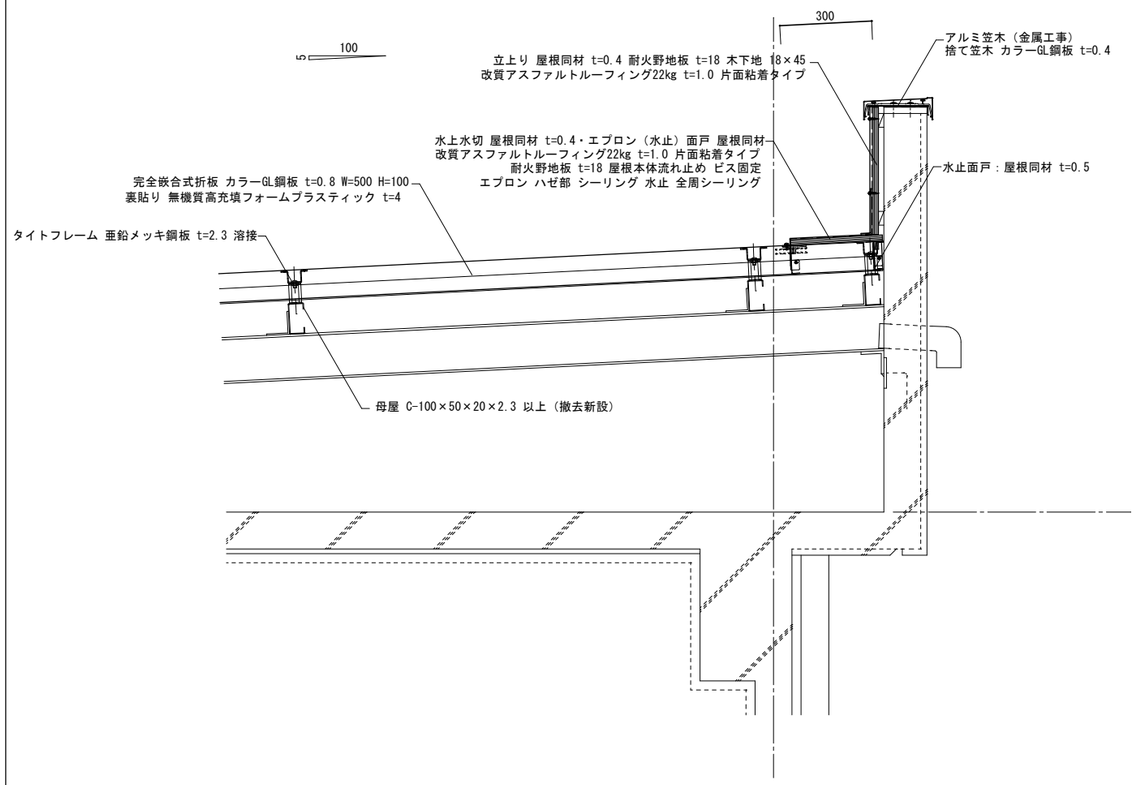
大屋根 軒先 部分 詳細図

A1：S=1/10・A3：S=1/20



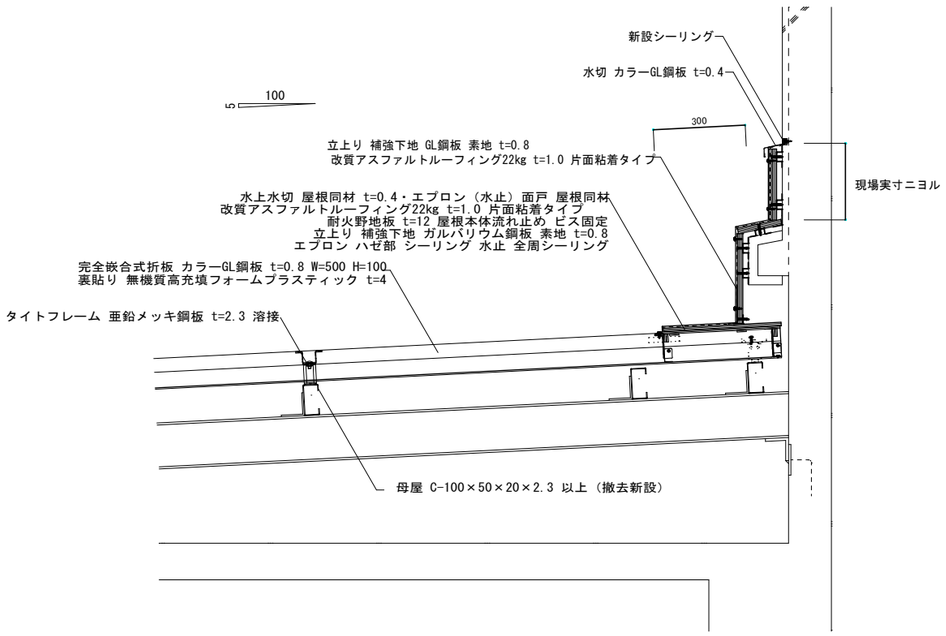
大屋根 水上 パラペット 取合い 部分 詳細図

A1：S=1/10・A3：S=1/20



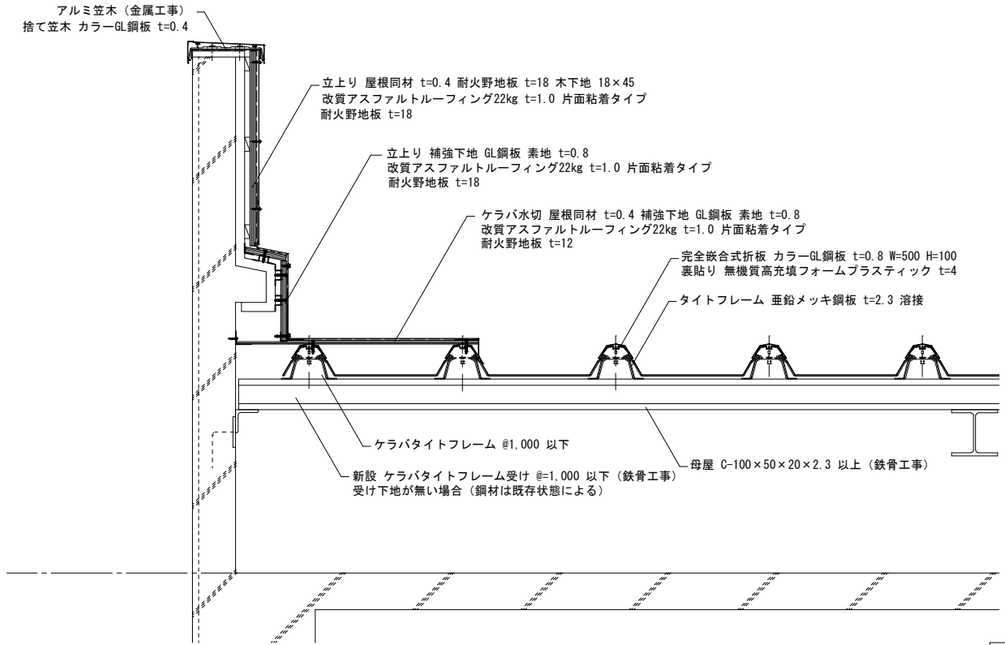
大屋根 水上 PH 外壁 取合い 部分 詳細図

A1：S=1/10・A3：S=1/20



大屋根 ケラバ パラペット 取合い 部分 詳細図

A1：S=1/10・A3：S=1/20

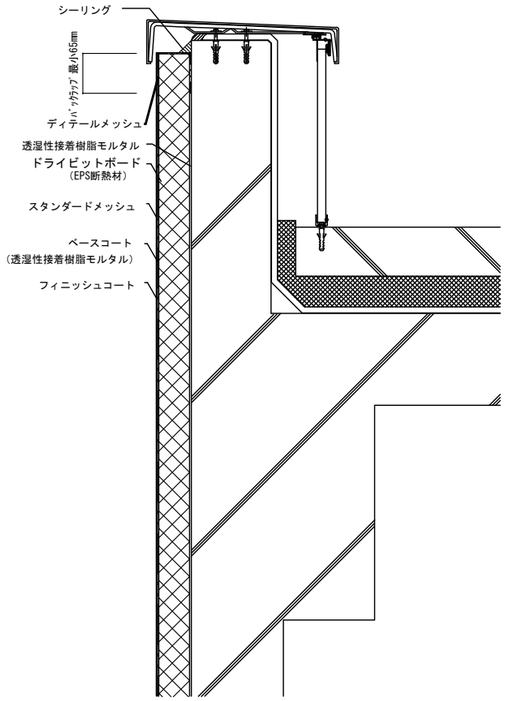


参考図

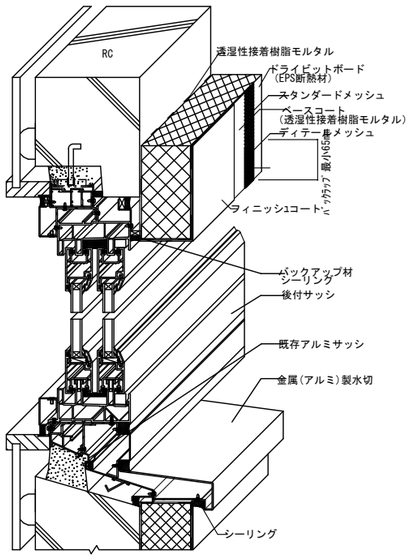
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：10 A3 1：20	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　屋根詳細図（参考図）	No. A-53

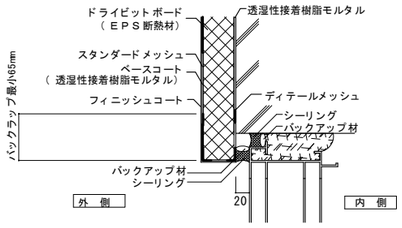
WSP-1　詳細図

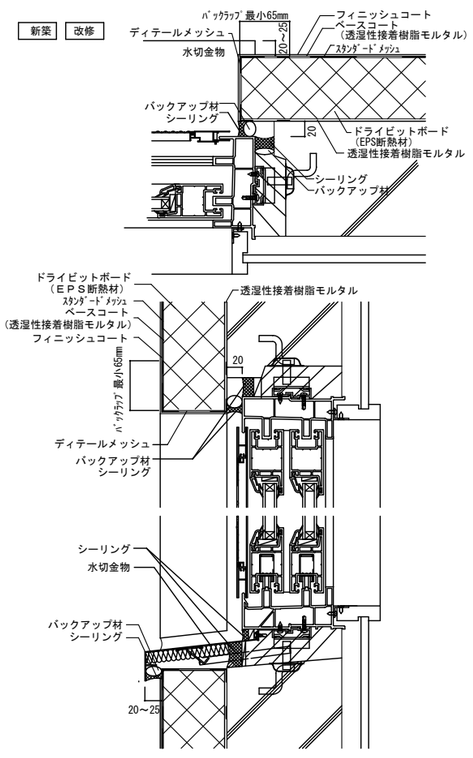
参考図



外断熱　詳細図　後付けサッシュの時の納まり詳細

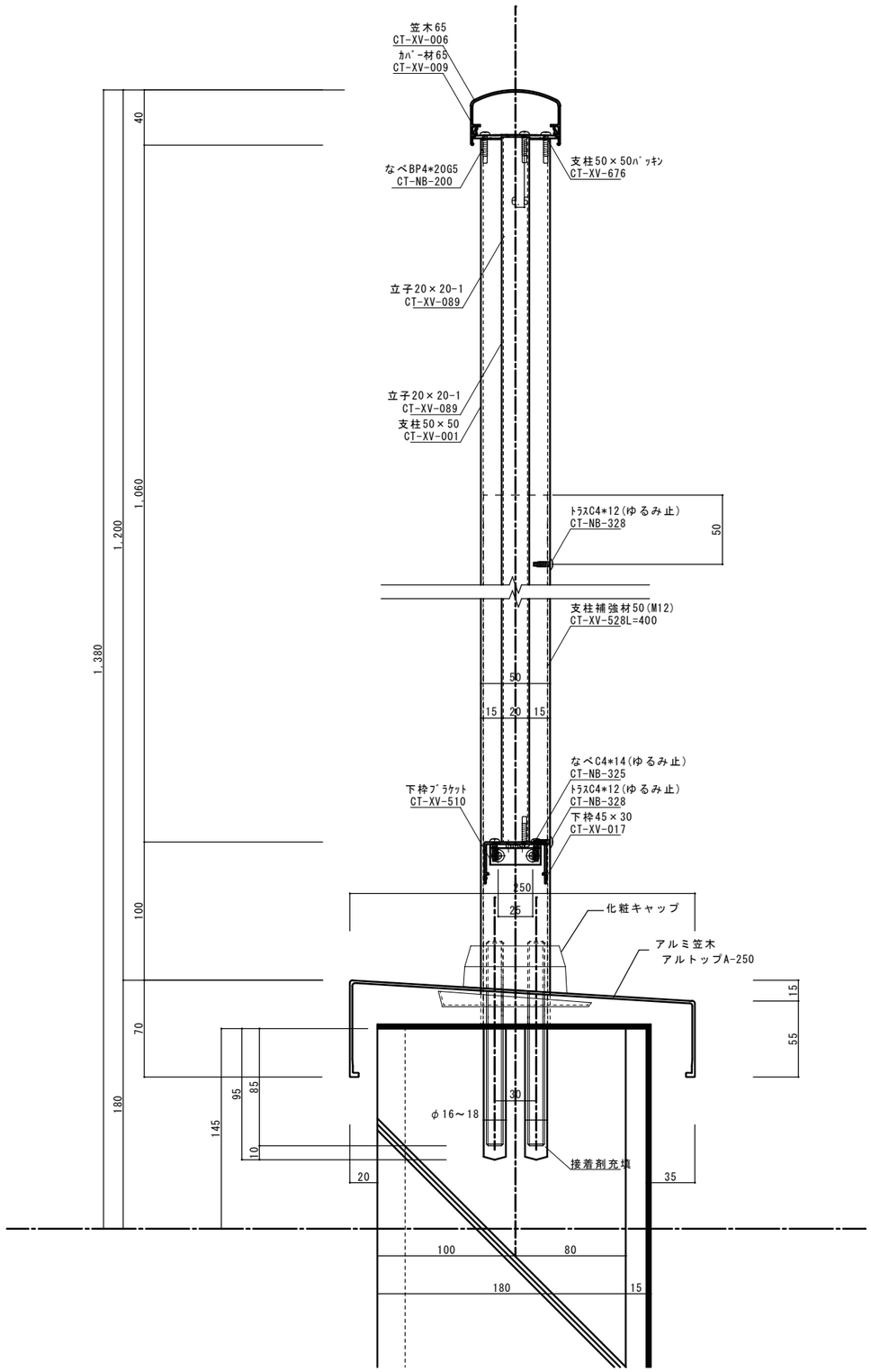


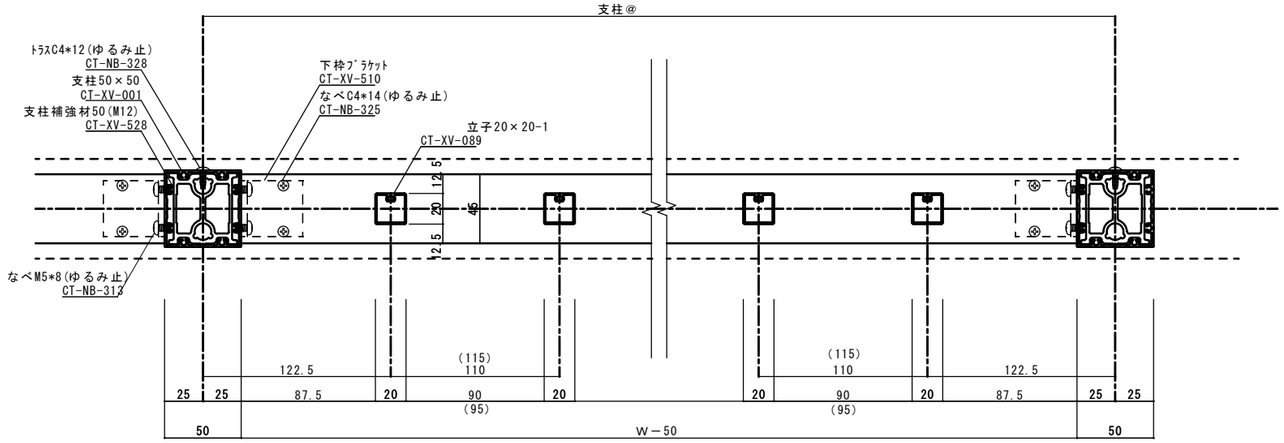




相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	A1 1：5 A3 1：10	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-54
	設計年月日 R7.2.28	図面名称　外断熱詳細図（参考図）	

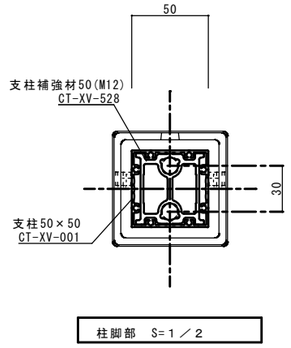
記　号　名　称	アルミ笠木付き手すり詳細図





W≦1200

水平荷重強度手すり上部1470ｋN以上
手すり取付用アンカーは各階１か所　引張強度試験を行なうこと。

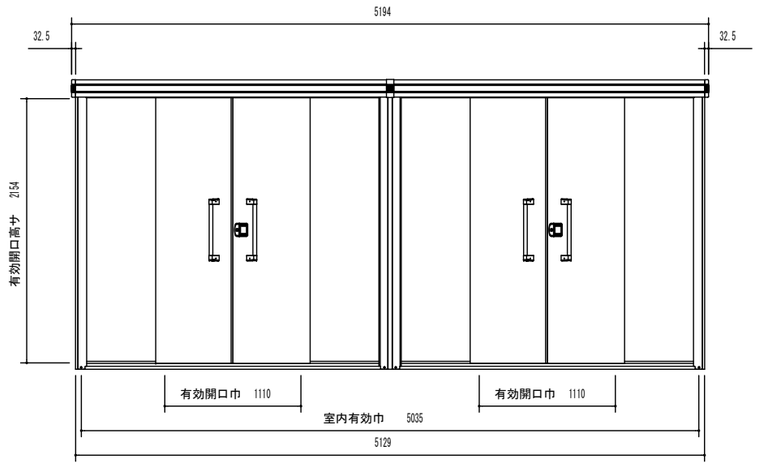


柱脚部　S=１／２

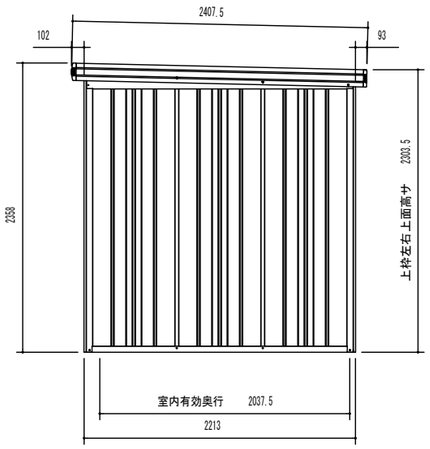
BL認定品であること（BL150型）
アンカー引抜き強度試験を行うこと

参考図

	相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	A1 1：50・1：4 A3 1：100・1：8 設計年月日 R7.2.28	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　ベランダ手すり詳細図（参考図）	No. A-55



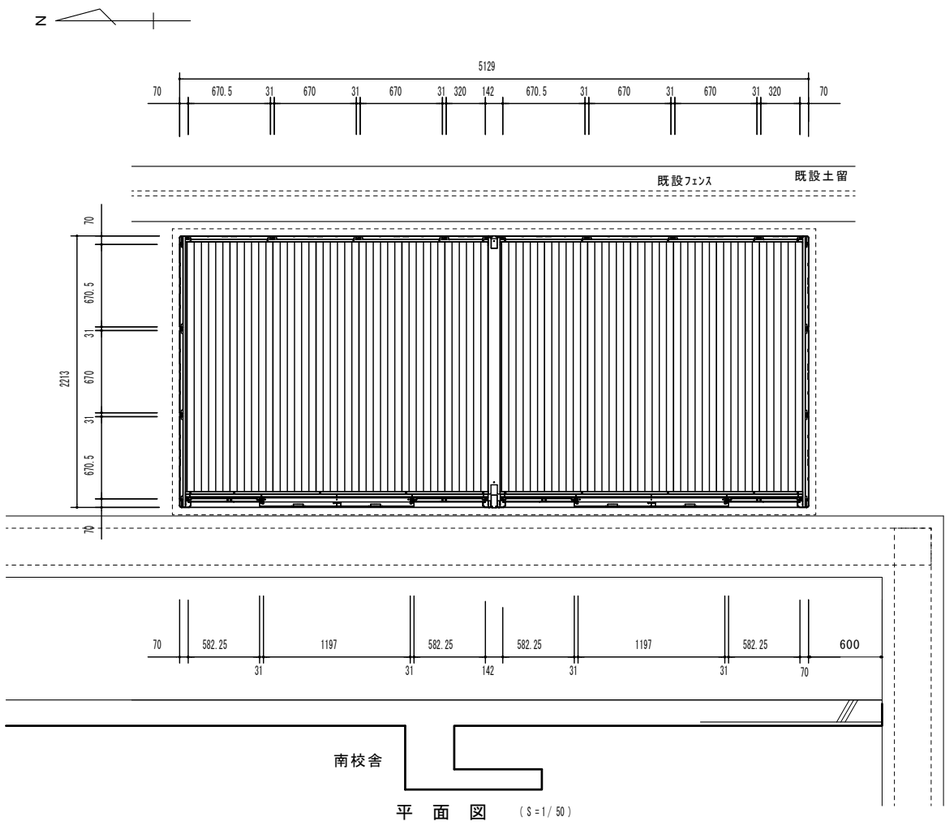
正 面 立 面 図 （S＝1／50）



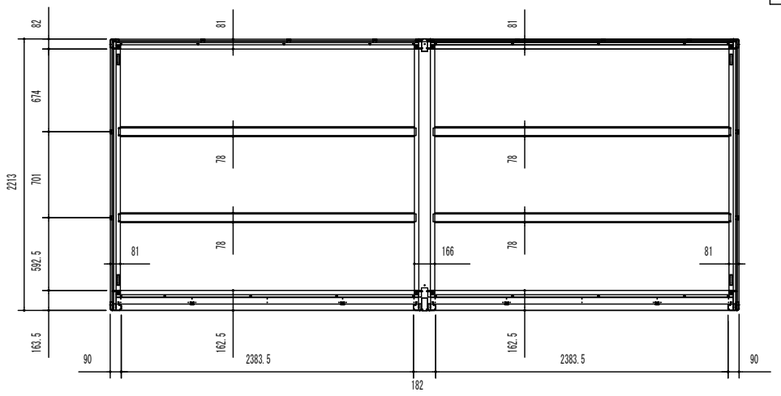
側 面 立 面 図 （S＝1／60）

部　材　名	厚さ(㎜/m)	材　　質	
屋 根 板	0.4	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
床 補 強	1.2	JIS G3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 SGLCC	
<一般型> もや B-A3.5	1.6	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
<積雪型> もや D-A3.5S	2.3	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
<積雪型> もや E-A3.5SW	1.6	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
下枠前（側・後・中）	1.2 （1.0）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
上 枠 前（後）	1.0 （0.8）	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
上 枠 左,右	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC（ツートンカラー）	
<一般型> 上枠中	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
<積雪型> 上枠中 S	1.6	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
上枠補強（積雪型のみ）	1.6	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
上レール	1.2	アルミニウム合金押出形材	
下レール	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
鼻 隠 し 前	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC（ツートンカラー）	
鼻 隠 し 後	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
中 柱	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	構造接着
	1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
扉	0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
壁 パ ネ ル	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
袖 壁	0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
間 柱	1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
床 板	0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 QGLCC	
アンカープレート（L）	2.3	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGCC（後塗装仕上げ）	

部　材　名	サイズ（巾×高サ）
扉 右 H-E	629 × 2178
扉 左 H-E	629 × 2178
壁パネル H-A	670 × 2110
壁パネル H-F	319.5 × 2110
袖 壁 H-E	582 × 2149



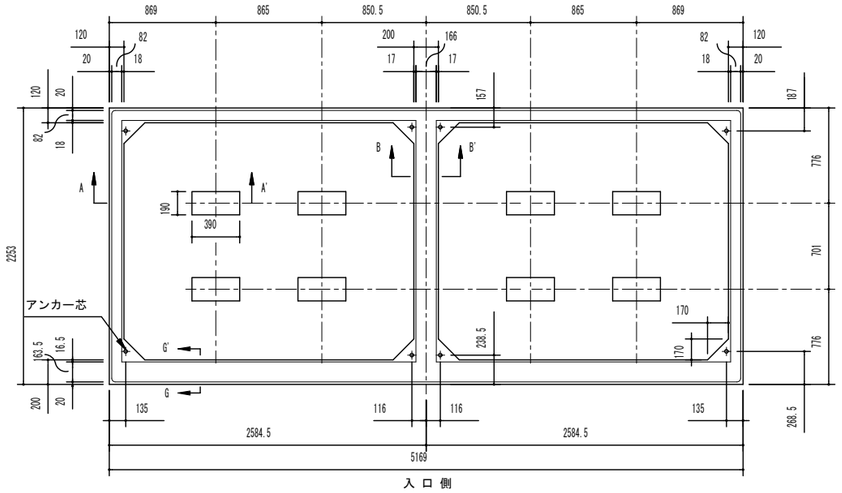
平 面 図 （S＝1／50）



床 伏 図 （S＝1／60）

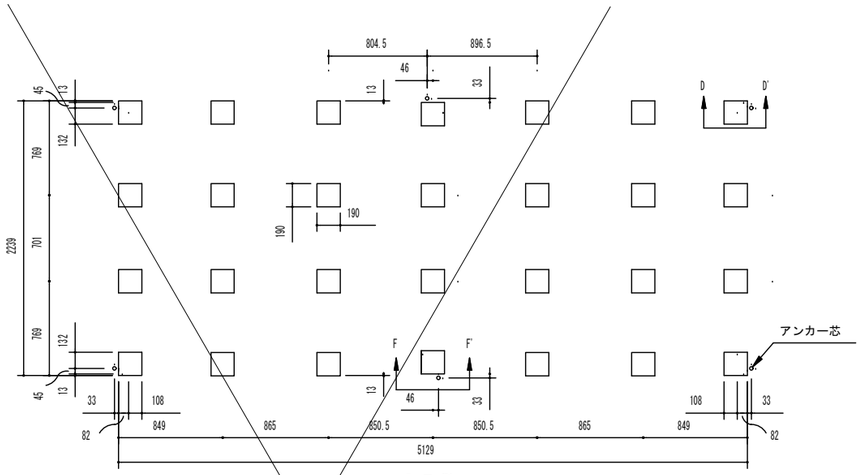
参考図

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	A1 1：25 A3 1：50 設計年月日 R7.2.28	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　物置詳細図（参考図）	No. A-56

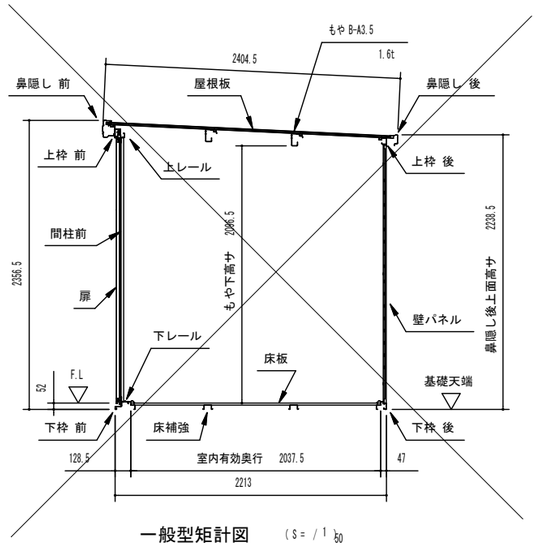


布基礎伏図 (S=1/50)

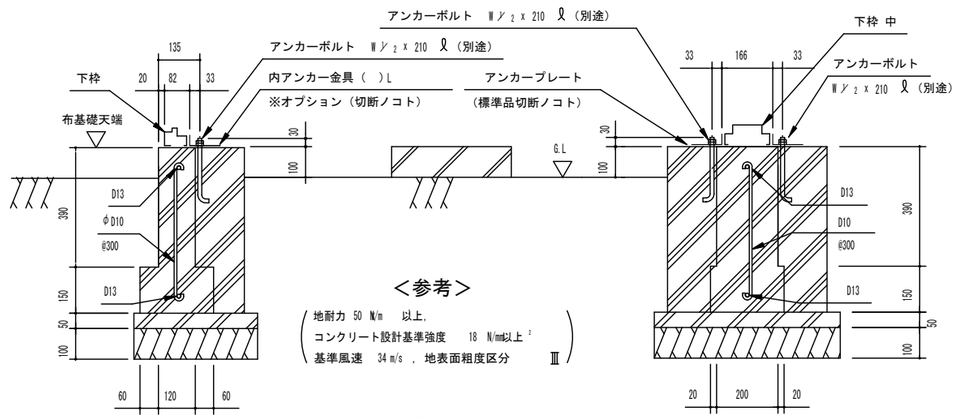
※内アンカーセット（オプション）別途必要



ブロック基礎伏図 (S=1/50)
（外アンカー用）



一般型矩計図 (S=1/50)



布基礎断面図 (S=1/20)

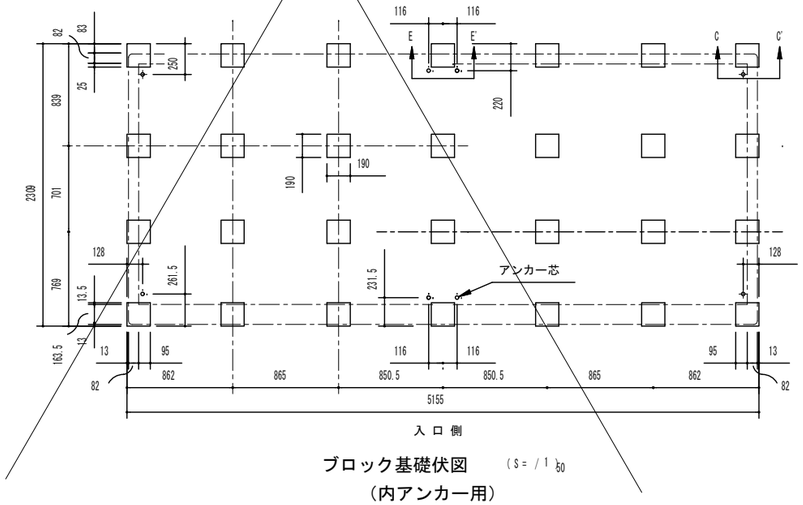
<参考>

地耐力 50 N/m 以上,
コンクリート設計基準強度 18 N/mm²以上
基準風速 34 m/s , 地表面粗度区分 Ⅲ

注1） 地耐力が 50 kN/m² 未満（ 30 kN/m²以上）の場合、底盤幅を 300mm とし、かつ補助筋を入れて下さい。

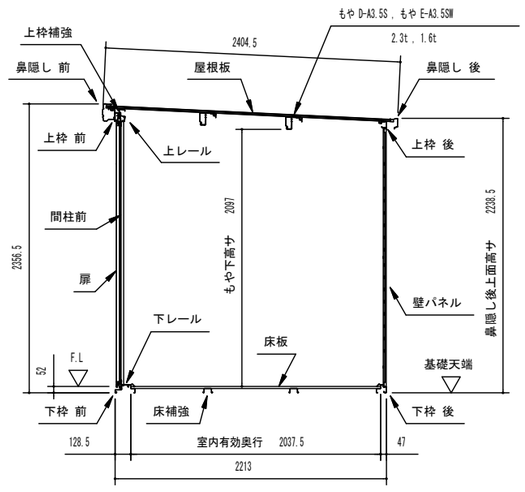
注2） 寒冷地の場合、凍結深度等を考慮し、実情にあわせて設計して下さい。

注3） その他現地の実情にあわせて設計して下さい。

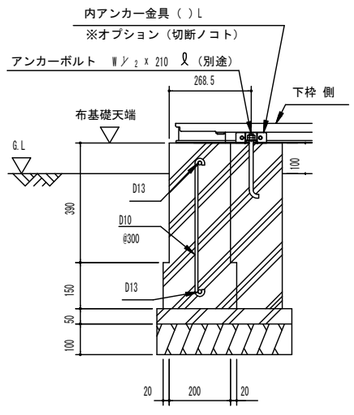


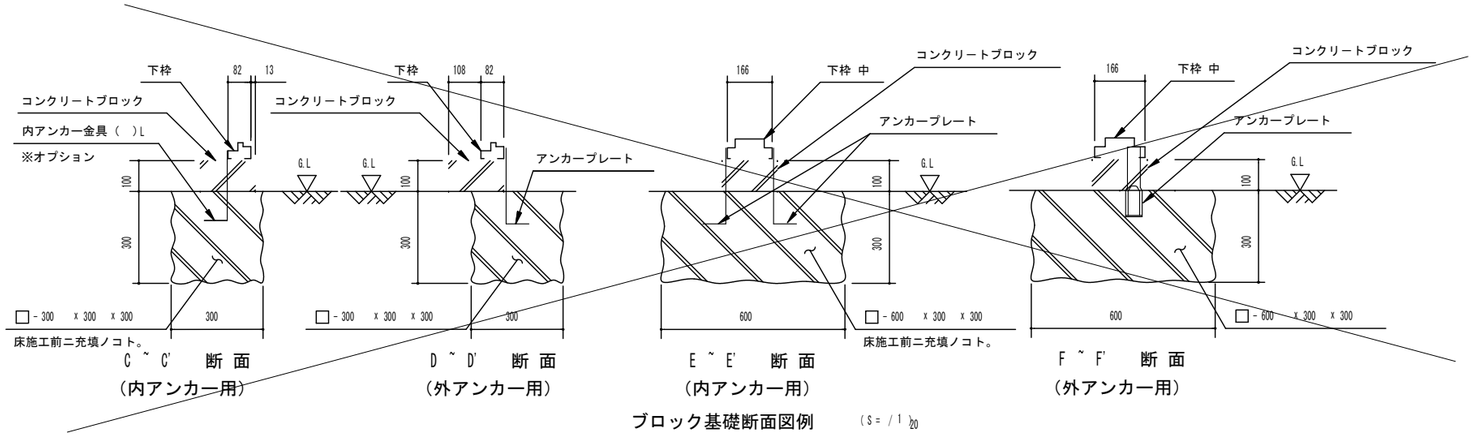
ブロック基礎伏図 (S=1/50)
（内アンカー用）

※内アンカーセット（オプション）別途必要

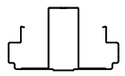


積雪型矩計図 (S=1/50)





ブロック基礎断面図例 (S=1/20)



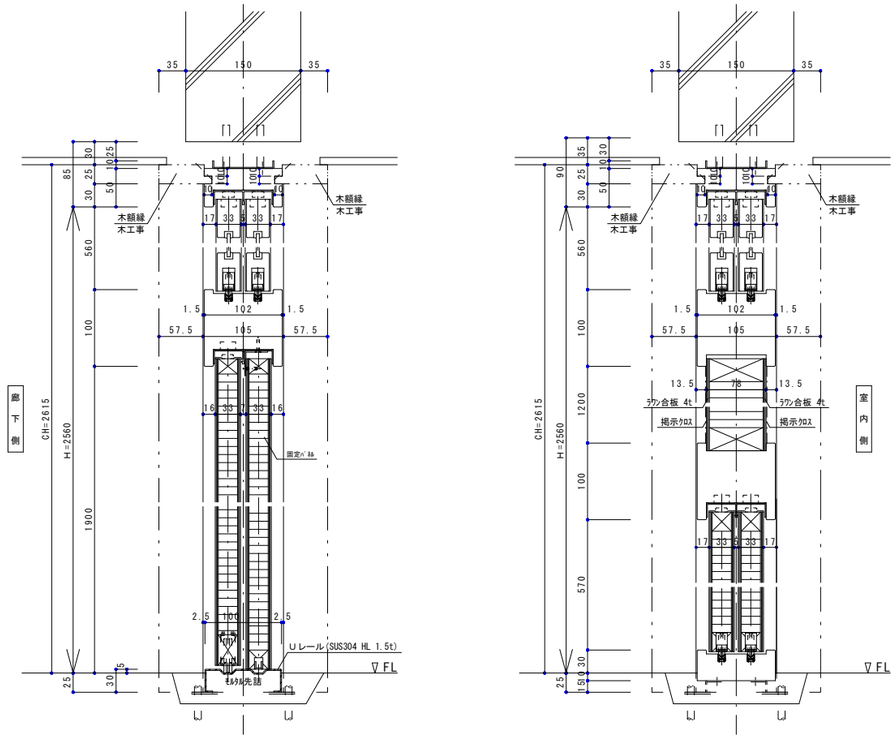
中柱 断面図 (S=1/10)

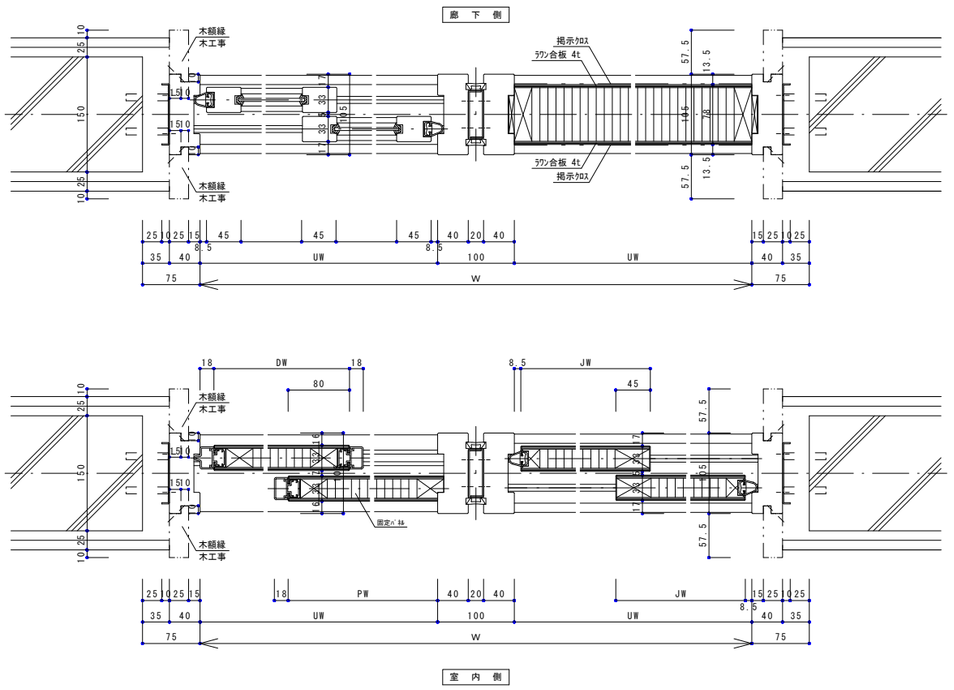
参考図

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録 F第38252号
一級建築士登録 第293036号 相野 徹

縮尺	A1 A3
設計年月日	
工事名	加茂小学校 南校舎長寿命化改修工事
図面名称	物置基礎図（参考図）
No.	A-57

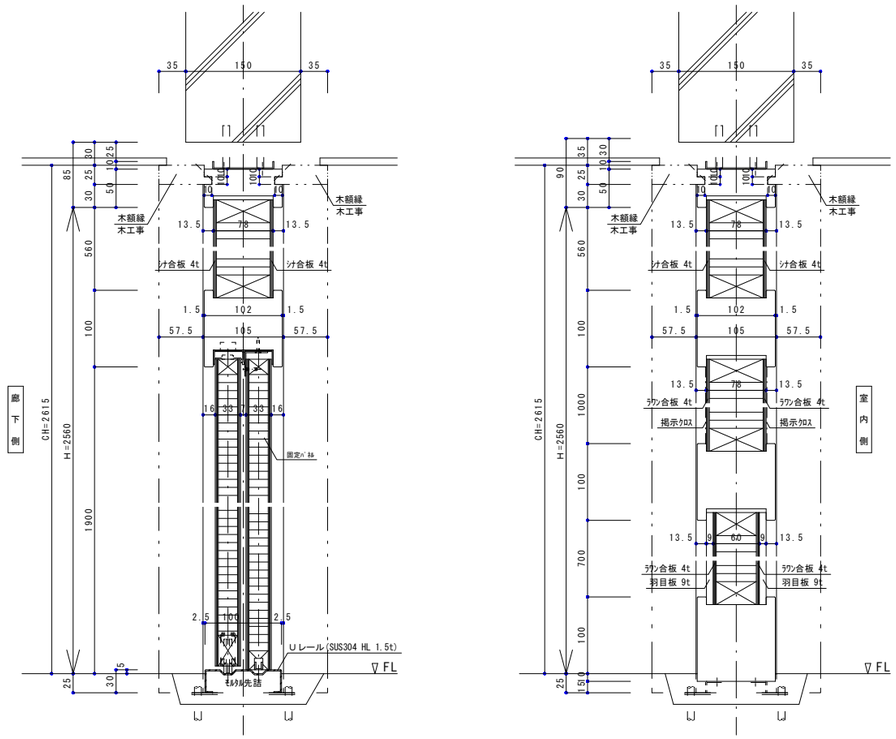
WSP-1　詳細図

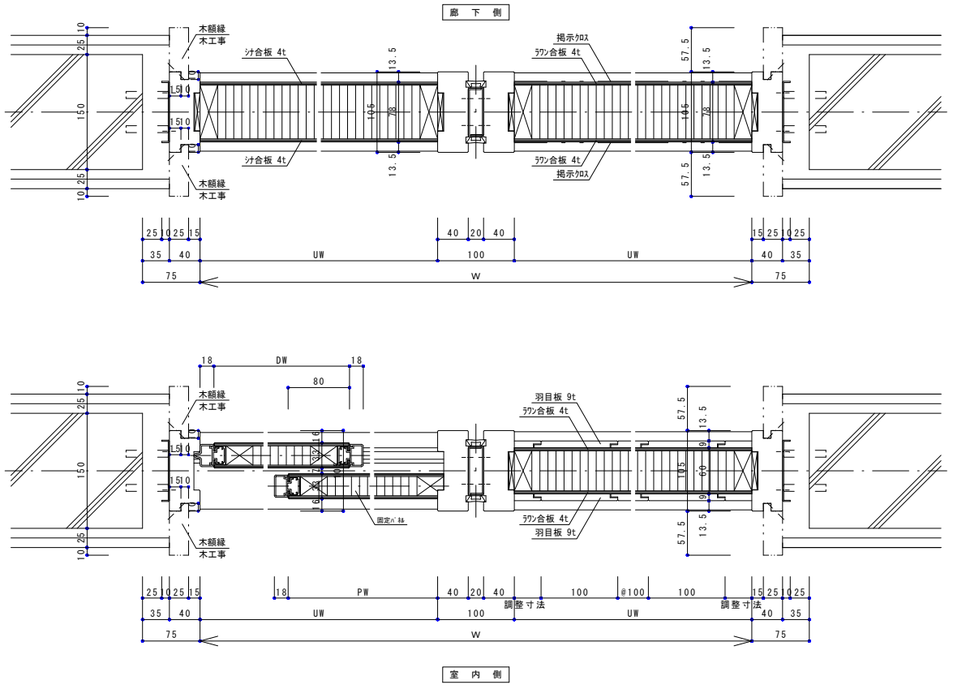




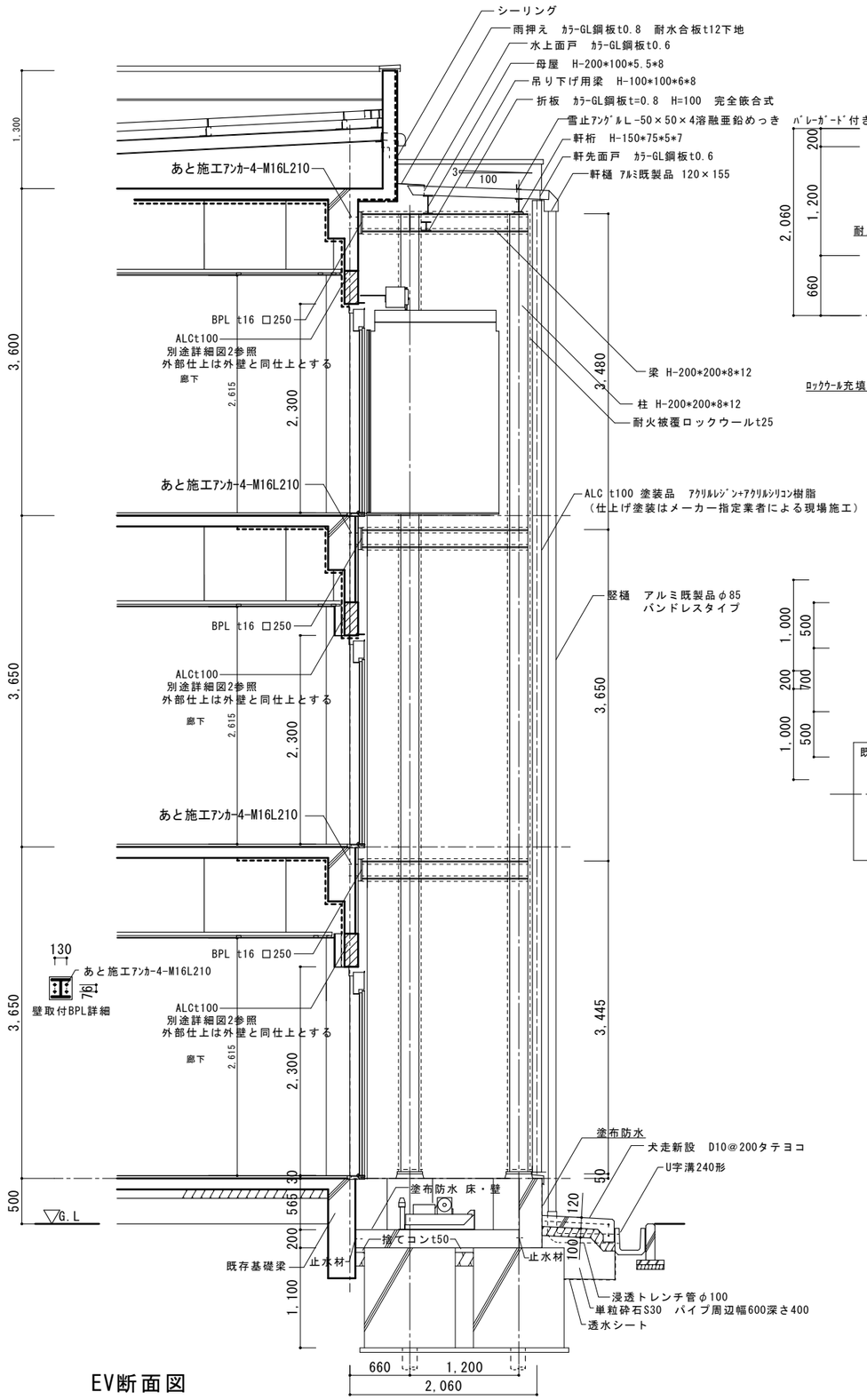
参考図

WSP-2　詳細図

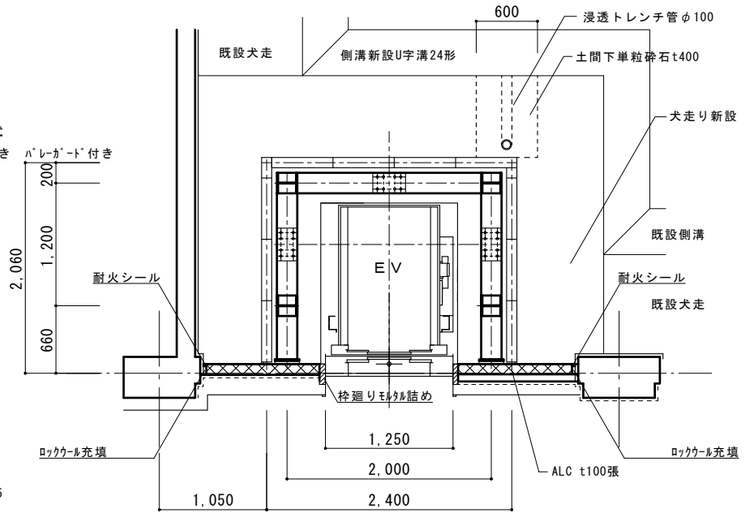




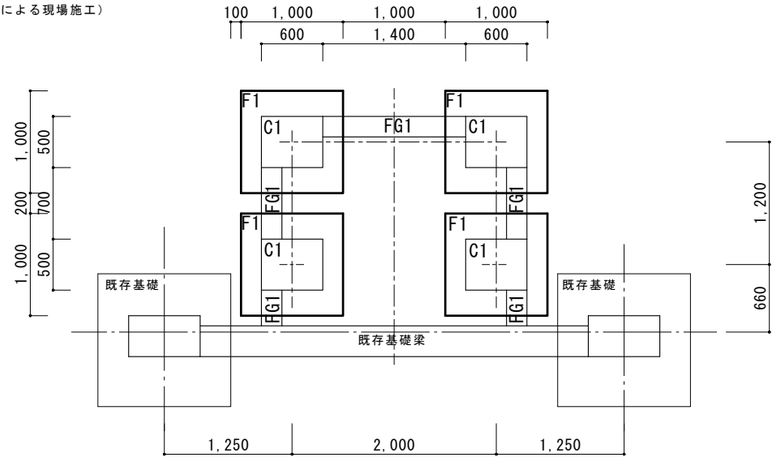
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	A1 1：4 A3 1：8	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　木製間仕切り詳細図（改修図）	No. A-58



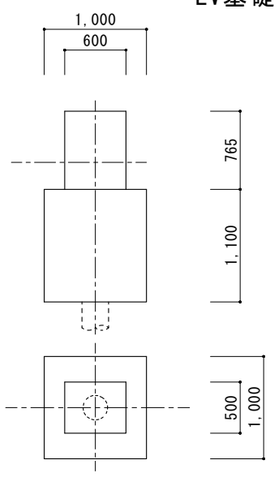
EV断面図



EV平面詳細図



EV基礎伏図



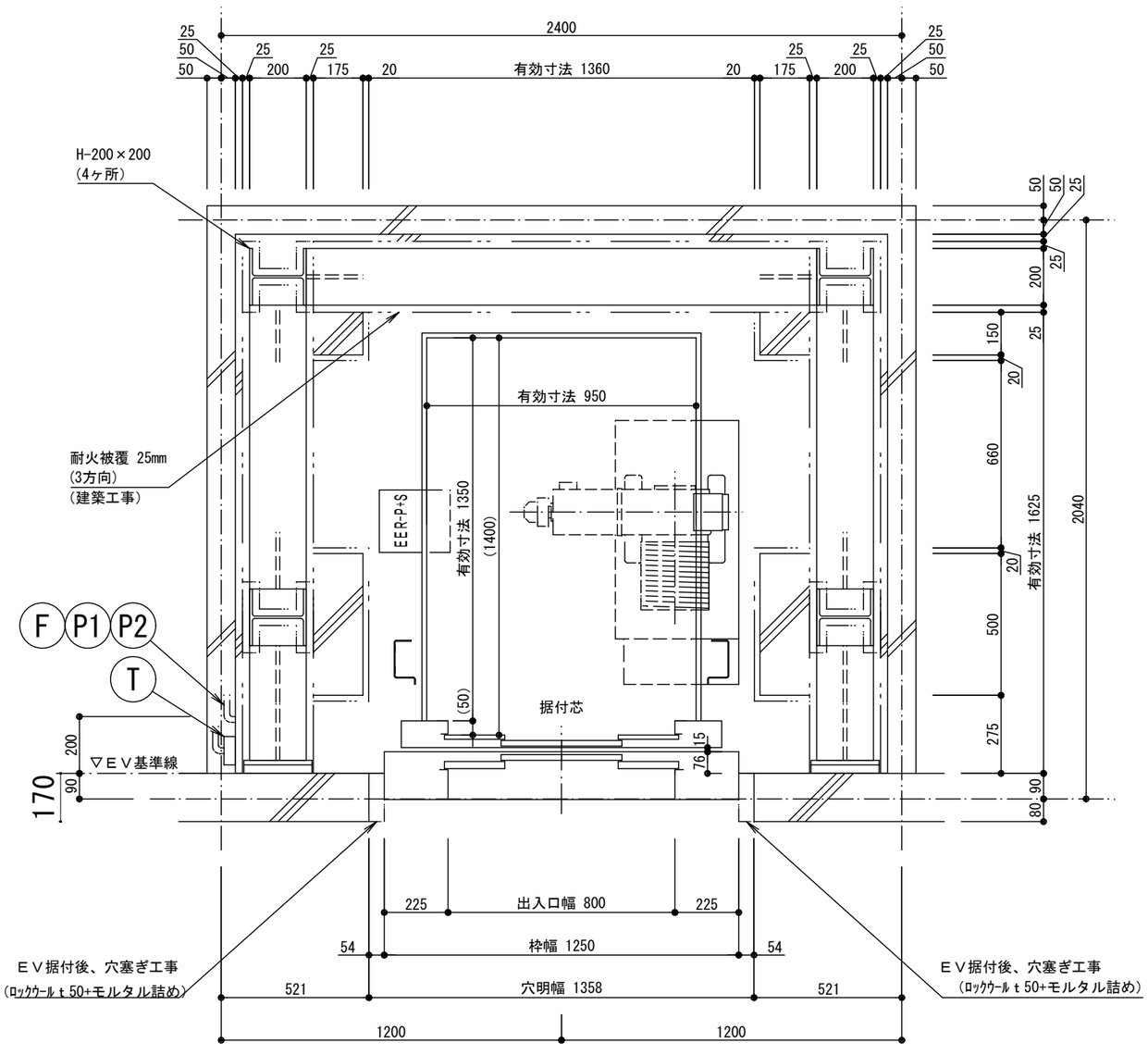
基礎詳細図

EV室外部仕上表

部　位	仕　様
根廻り	コンクリート打ち放し　防水型複層塗材E塗布
外　壁	ALC板ｔ=100塗装品（下塗り） 仕上塗装：高耐候ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗装(ﾒｰｶｰ仕様)
軒　裏	折板現し
屋　根	折板　ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑGL鋼板t=0.8　H=90 ３０分耐火　FP030RF1451-1
雨　樋	軒樋：アルミ既製品W120×1505受金物@455 竪樋：ｱﾙﾐ既製品　Φ85

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺	A1 1：30 A3 1：60	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　エレベーター詳細図（改修図）　No. A-59

参考図



昇降路平面図 Ｓ＝１／２０

小規模建物用小型エレベーター仕様	A	2414D1005
製造者認証番号	第製260505Gcc030390号	
型式適合認定番号	第型05Gcc030390号	
戸開走行保護装置大臣認定番号	ENNNUN-2568	
巻上ロープ大臣認定番号	MCBL-0004-1	
かご及び主要支持部分大臣認定番号	EPNNNN-2819	
遮煙ドア大臣認定番号	CAS-1150(1)	
用　途	乗用	
駆動方式	巻胴式・昇降路内駆動機設置	
制御方式	インバーター制御方式	
操作方式	単式自動方式（1BC）	
積載質量・定員	240kg（3名）	
定格速度	上昇20m(最高30m)/min・下降30m/min	
ドア形式	電動4枚戸両引き式	
停止箇所	3箇所(1,2,3F)	
エレベーター用電源	単相200V，単相100V　6.0kVA	
モーター容量	2.6kW	
ルーム	鋼板製	
ルーム内法	間口950㎜×奥行1350㎜×高さ2100㎜	
出入口寸法	間口800㎜×高さ2000㎜	
ロープ	φ8－2本	
乗場の窓	網入りガラス	
標準装備	停電時バッテリー運転(停電時最寄り下方階自動着床装置)	
	停電灯　(バッテリー残量警告ランプ付)	
	はさまりまセンサー(非接触形はさまれ防止センサー)	
	非常ブザー	外部連絡用電話機
	戸開走行保護装置	乗場ドア施錠装置
	速度検出装置	非常停止装置
	故障時救出運転	他階救出運転
	ドア過負荷検出装置	乗り過ぎ防止装置(秤装置)
	冠水時管制運転	スマ～と運転機能
	省エネモード	お知らせランプ
	ボタン発音機能	指定階待機機能
	非停止階設定機能	戸開時間延長機能(戸閉時ブザー付)
	クリーン仕様	管理用キースイッチ(最下階設置)
	乗場インジケーター	管理者銘板
	情報表示パネル	
	音声アナウンス	
	点字表示	
	段差補正機能	
	手すり(両側直線タイプ)	
	3段スリット窓(全階，ルーム)	
	「ヘルスエアー機能」搭載 循環ファン	
	ナイトモード	
	聴覚障がい者対応用インターホン(親機乗場枠組込:1F)	
地域係数	1.0	
オプション	P波センサー付地震時管制運転	
	火災時管制運転(避難階床：1F)	
	難燃戸仕様(全階，ルーム)	
	遮煙乗場ドア(全階)	
	煙感知器点検口スイッチ	
	ルームミラー(アルミ枠)	
特殊仕様	フェッシャープレート	

エレベーター除外工事	
建築関係	昇降路の築造と各階出入口の穴明け工事
	昇降路ピットの基礎工事
	ピット内防水仕上工事（必要な場合）
	各階エレベーター乗場ユニット取付後のユニットまわりの壁及び床の仕上工事
	エレベーター荷重支持用横梁の設置工事
	エレベーター機器荷揚げ用梁、または荷揚げ用フックの設置工事（吊荷重4900N）
	乗場側昇降路内壁とルーム敷居先端のすき間が125㎜を超える場合のふさぎ板追加工事
	煙感知器点検口の設置工事（必要な場合）
電気・電話関係	エレベーター受電盤への電源結線工事（単相200V、単相100V）
	エレベーター専用のD種接地工事
	昇降路内への電源線の引込み工事（単相200V、単相100V）
	工事用の仮設電源の供給工事（単相200V、単相100V）
	昇降路内への電話線引込み工事
	昇降路内への火報接点線引込み工事

(P1) 駆動用電源

単相200Vアース付き（D種接地）
線引き出し長さ：2m（アース線含め3芯） 電線：単線φ2.6㎜、または、より線5.5㎟
ブレーカー容量：30A

(P2) 照明・制御用電源

単相100V
線引き出し長さ：2m（2芯） 電線：単線φ1.6㎜、または、より線2.0㎟
ブレーカー容量：10A

(T) 電話線（昇降路内への電話線の引込みは電気工事）

器具：中継ボックス（モジュラーローゼット付）

(F) 火災時管制運転用配線

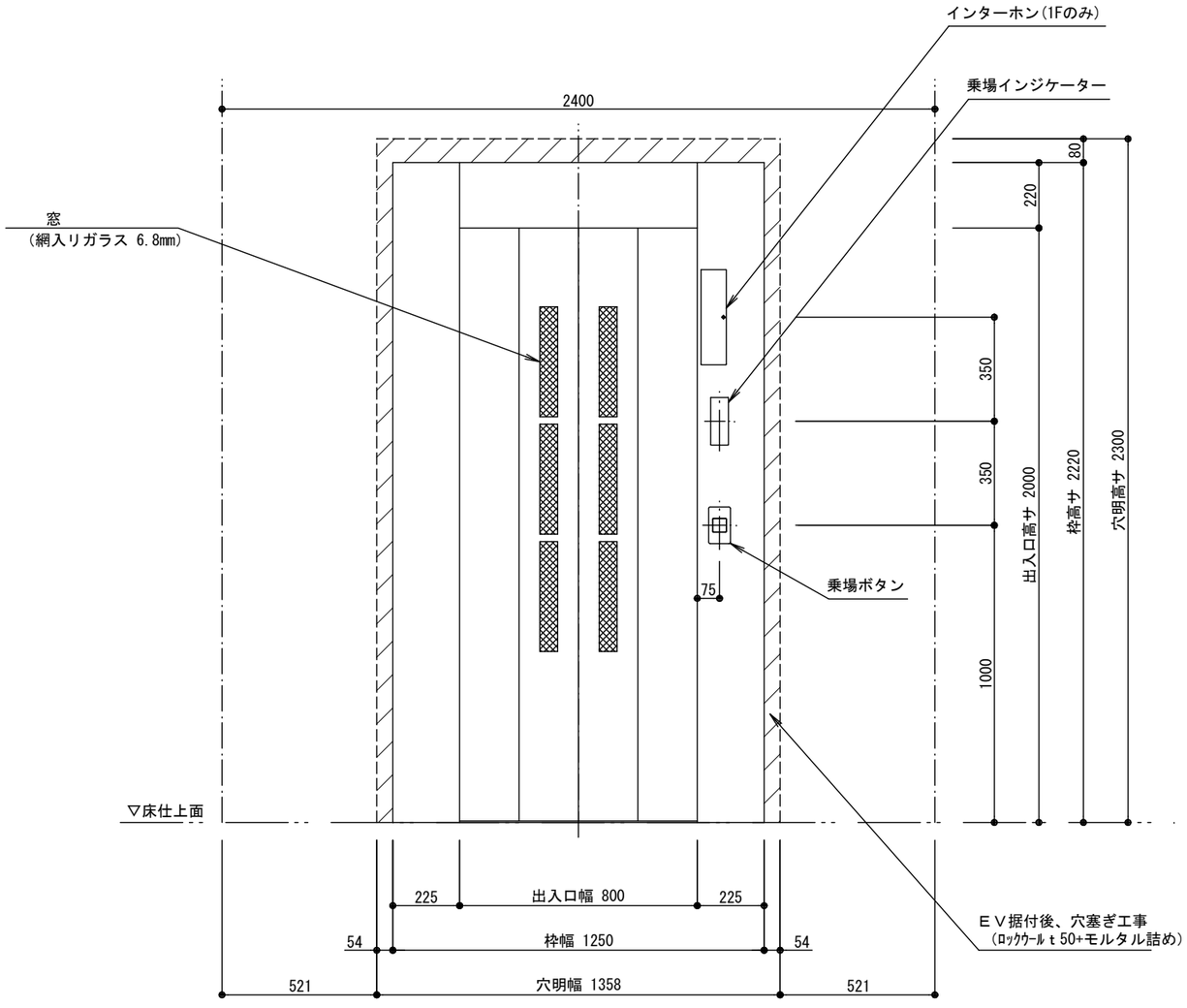
線引き出し長さ：2m（無電圧A接点） 電線：被覆ケーブル（2芯）単線φ0.9㎜以上 ※各火報接点を並列にした線2芯が必要です。

やむを得ず、指定場所以外から入線する場合は、電線を昇降路壁面にビス等で確実に固定（テープは不可）のうえ、指定場所まで配線願います。（建築工事）

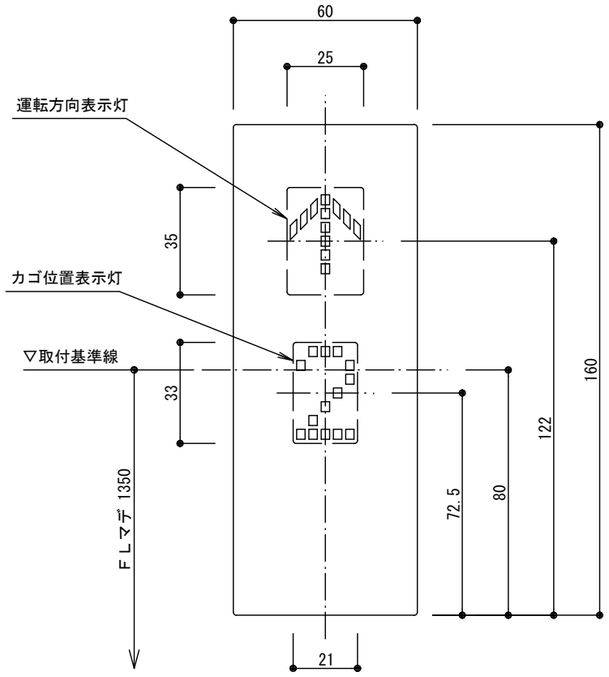
意匠仕様	乗場			ルーム（鋼板製）		
				天井		
				壁		
	3F					
	2F			扉		
	1F			床		

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺 A3 1：20	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	
	設計年月日 R7.10.04	図面名称　エレベーター詳細図（１）（参考図）	No. A-60

参考図



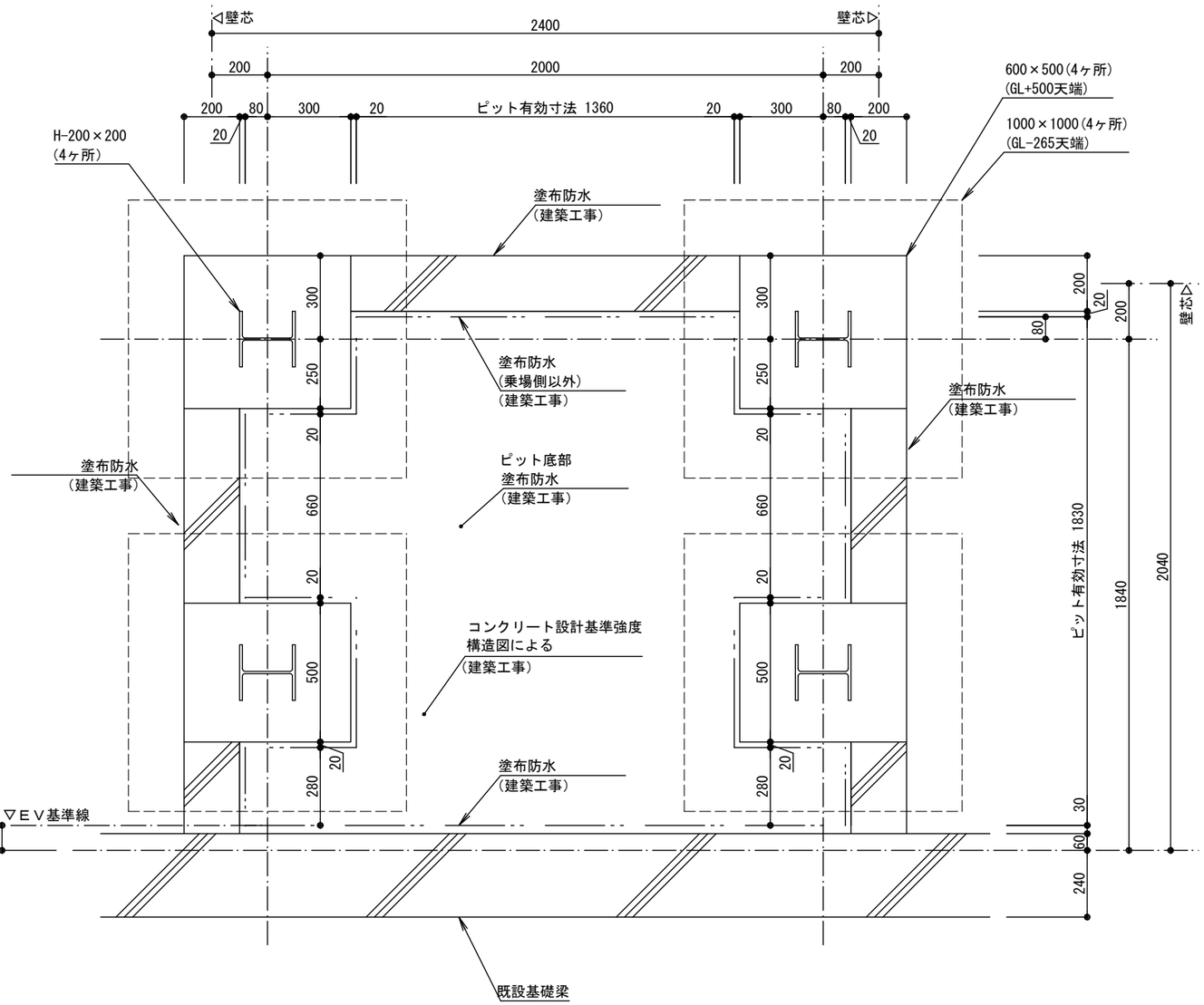
乗場正面図 Ｓ＝１／２０



乗場インジケーター意匠図 Ｓ＝１／２

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺 A3 1：20,1：2 設計年月日 R7.10.04	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　エレベーター詳細図（２）（参考図）	No. A-61

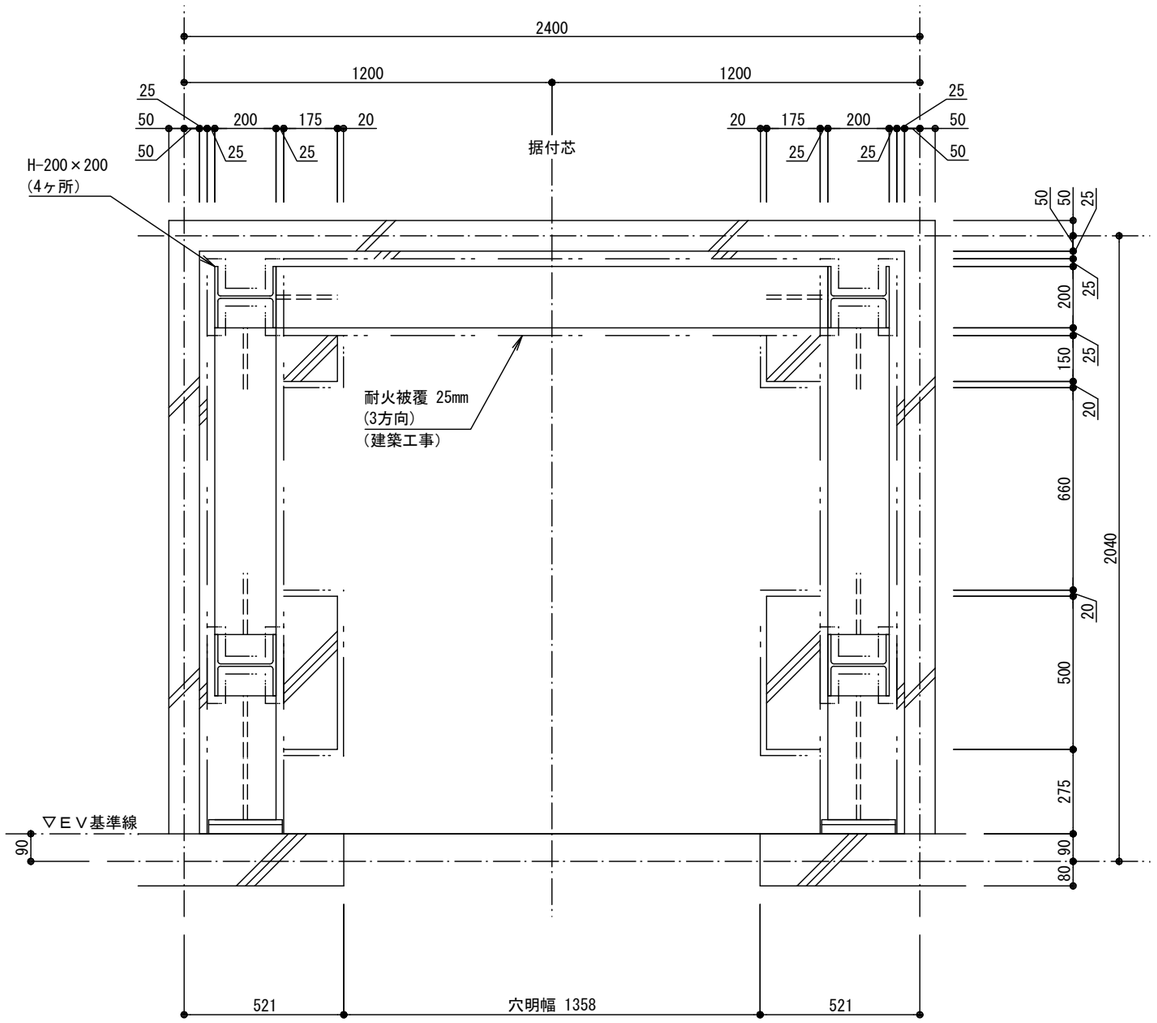
参考図



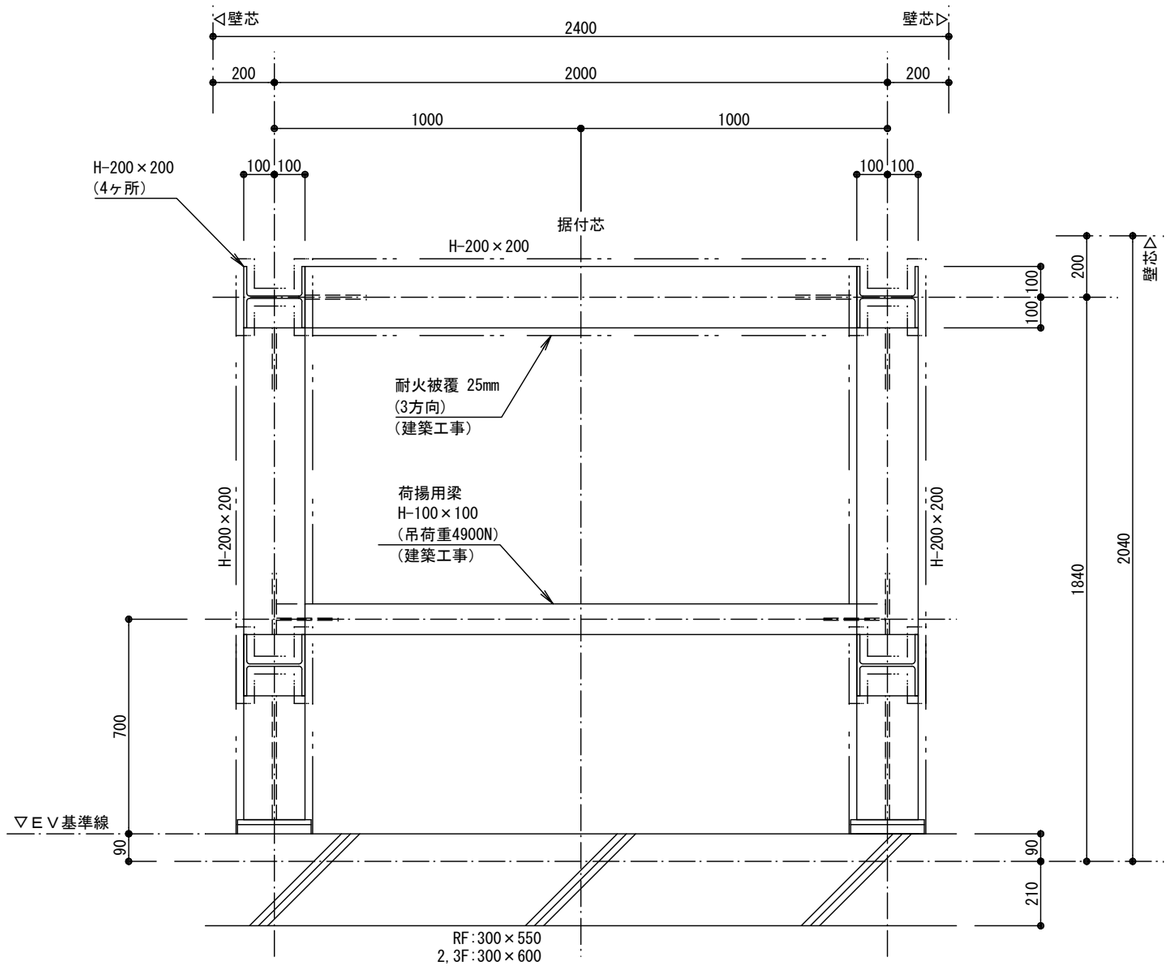
基礎伏せ図 Ｓ＝１／２０

	相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺 A3 1：20 設計年月日 R7.10.04	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　エレベーター詳細図（３）（参考図）	No. A-62

参考図

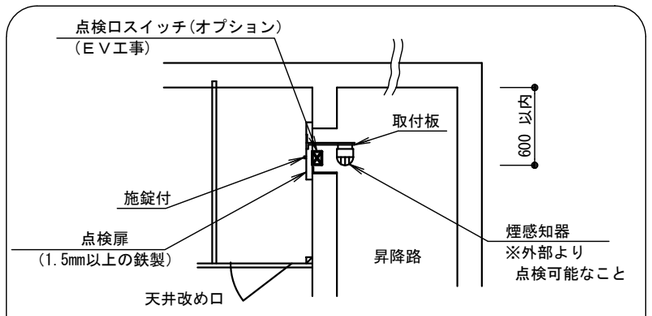


昇降路穴明図 Ｓ＝１／２０



梁配置図 Ｓ＝１／２０

	相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺 A3 1：20 設計年月日 R7.10.04	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事 図面名称　エレベーター詳細図（４）（参考図）	No. A-63



煙感知器施工例（別途電気工事）（参考）

消防法により、火災報知設備の中の一つである煙感知器を、昇降路頂部に
設置する場合、エレベーターの運行に支障を与えることなく
保守点検が容易に行うことができる構造とすること。（施工例参照）

やむを得ず、指定場所以外から入線する場合は、電線を昇降路壁面にビス等で確実に固定（テープは不可）のうえ、指定場所まで配線願います。（建築工事）

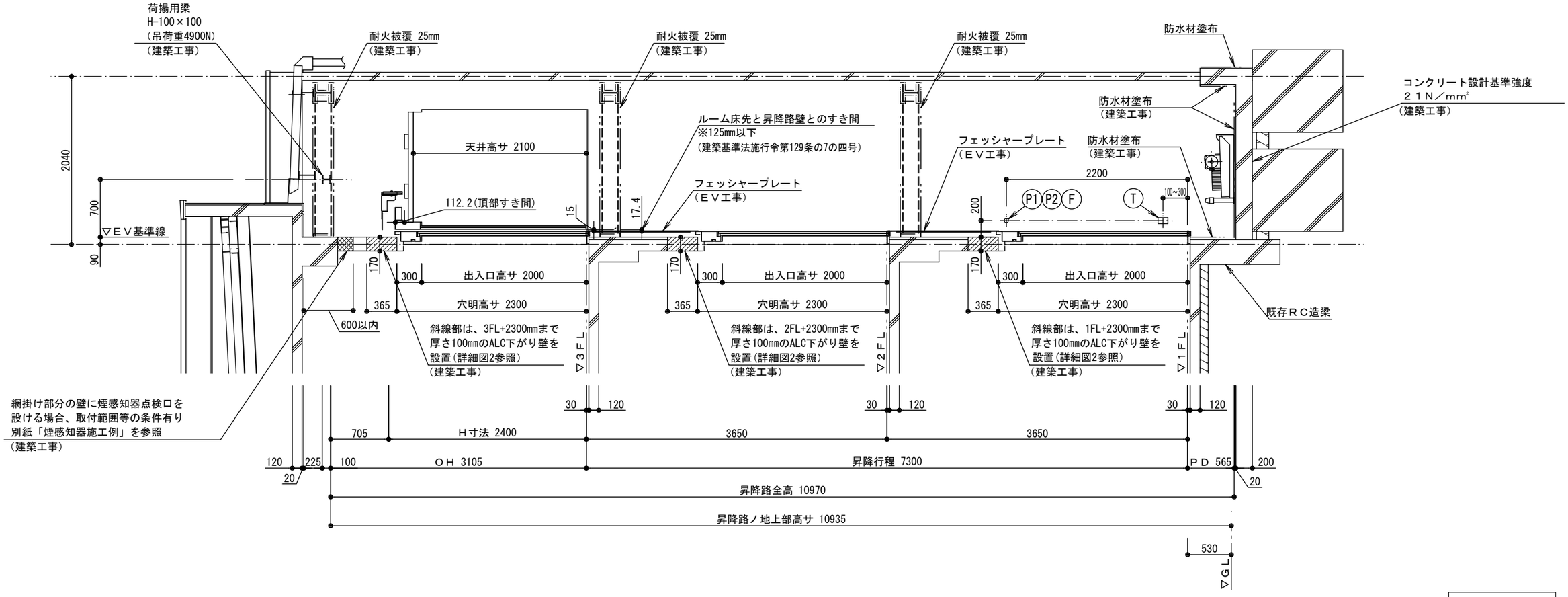
昇降路は外から人または物が昇降路内の機器に触れないようピット内や天井裏も含めて隙間のない構造として下さい。

Ⓟ1 駆動用電源
- 単相200Vアース付き（D種接地）
- 線引き出し長さ：2m（アース線含め3芯）
- 電線：単線φ2.6mm、または、より線5.5mm²
- ブレーカー容量：30A

Ⓟ2 照明・制御用電源
- 単相100V
- 線引き出し長さ：2m（2芯）
- 電線：単線φ1.6mm、または、より線2.0mm²
- ブレーカー容量：10A

Ⓣ 電話線（昇降路内への電話線の引込みは電気工事）
- 器具：中継ボックス（モジュラーローゼット付）

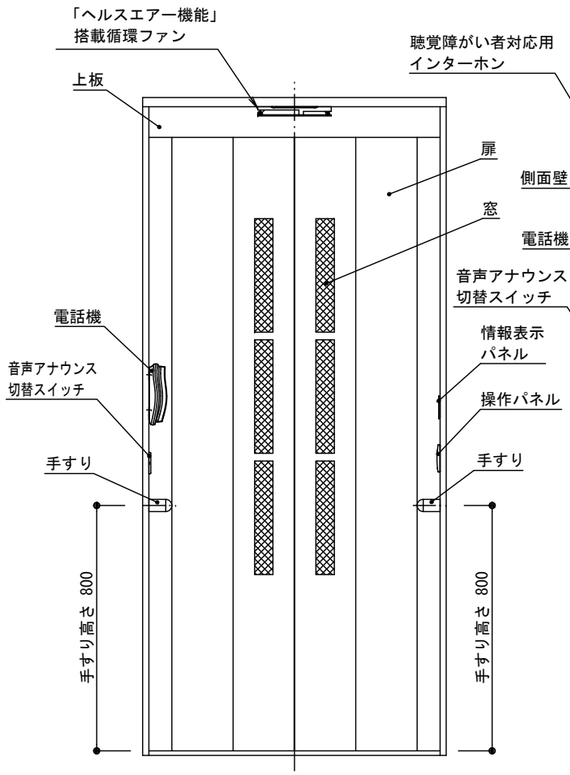
Ⓕ 火災時管制運転用配線
- 線引き出し長さ：2m（無電圧A接点）
- 電線：被覆ケーブル（2芯）単線φ0.9mm以上
  ※各火報接点を並列にした線2芯が必要です。



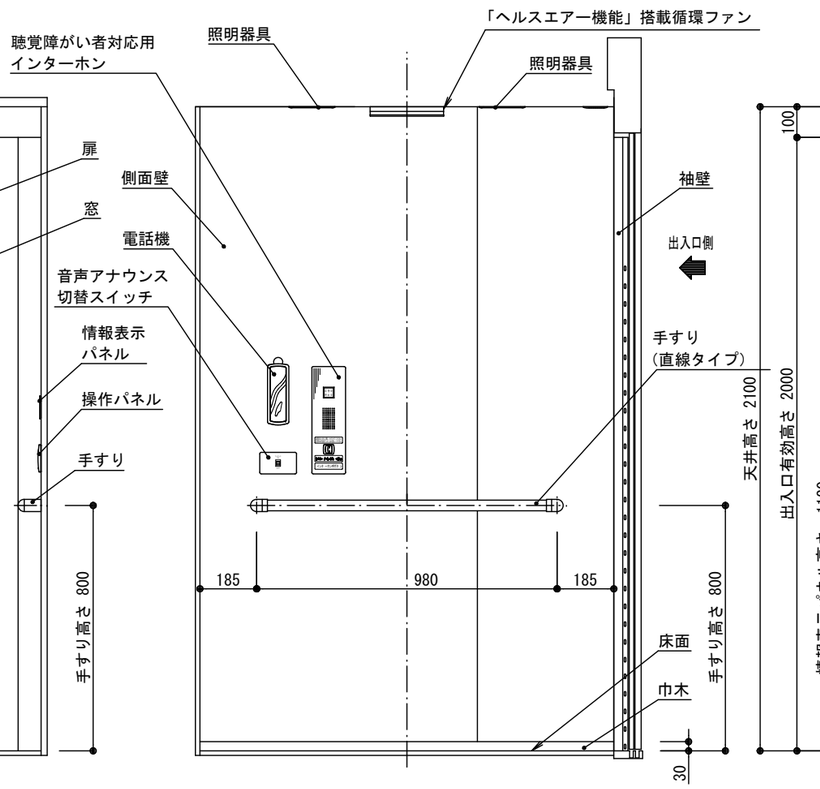
昇降路縦断面図 Ｓ＝１／５０

参考図

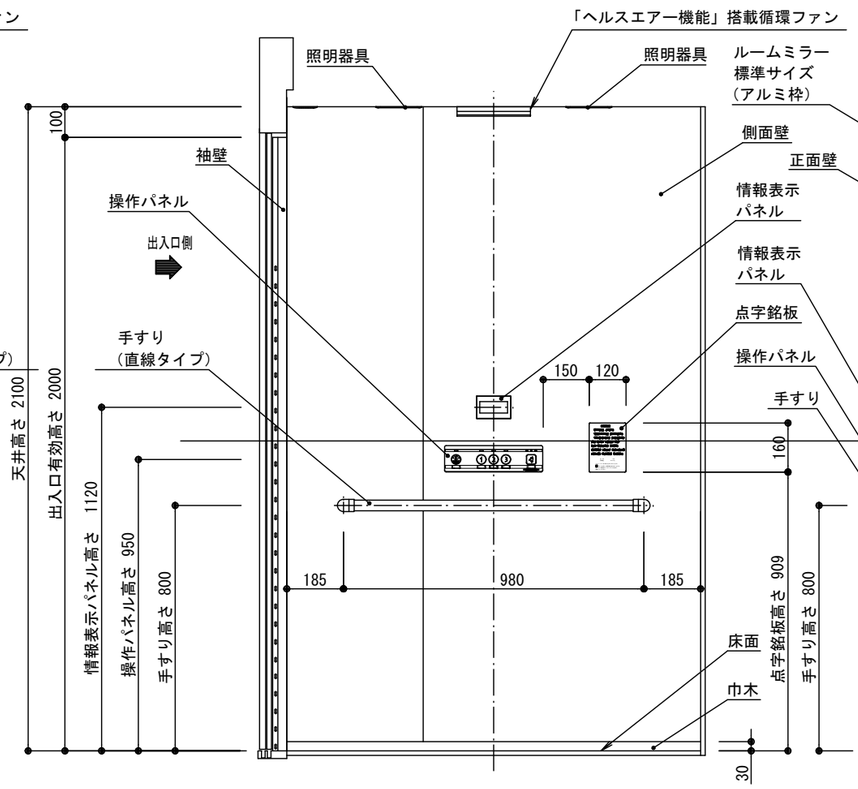
相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺 A3 1：50	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	
	設計年月日 R7.10.04	図面名称　エレベーター詳細図（５）（参考図）	No. A-64



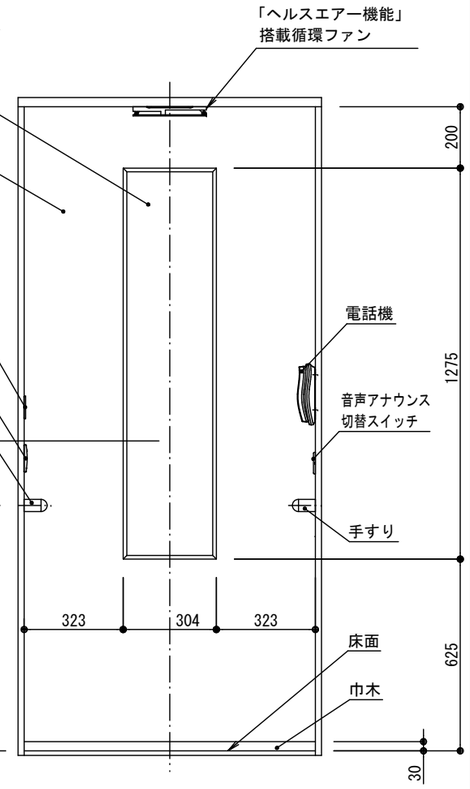
展開 A面 S＝1／20



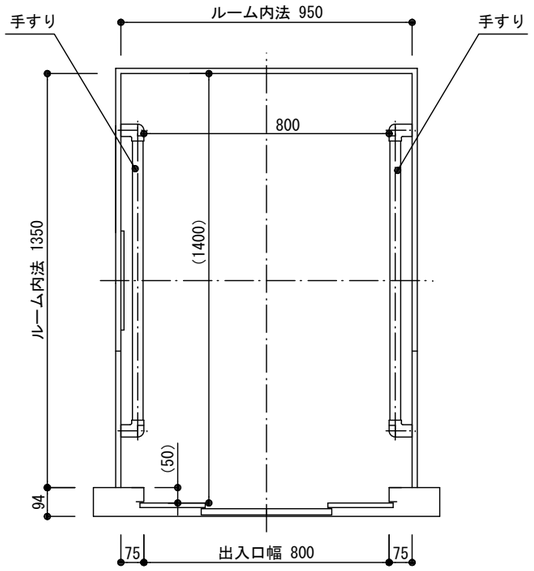
展開 B面 S＝1／20



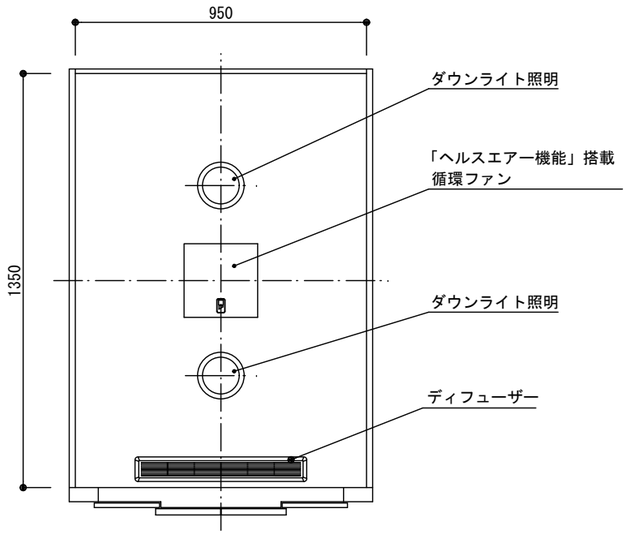
展開 C面 S＝1／20



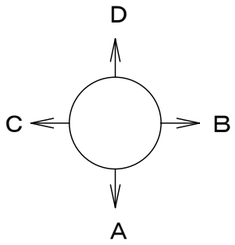
展開 D面 S＝1／20



ルーム平面図 S＝1／20



天井伏図 S＝1／20



ルーム意匠図

参考図

ルーム意匠仕様（ルームタイプ：鋼板製）		
天井、壁		化粧鋼板
照明器具		ダウンライト照明（乳白色樹脂）ＬＥＤ灯
扉（窓付）		化粧鋼板（窓：網入りガラス ）
巾　木		樹脂
床敷物		ビニールタイル
色　柄	天井	クリームフェザー，スノーウィロー，アイスホワイト
	ディフューザー	ベージュ，ブラック
	側面壁、正面壁、袖壁、上板	クリームフェザー，スノーウィロー，アイスホワイト
	扉	ソリッドブラック，ダークマホガニー，キャメルウォールナット，ジルフィーアッシュ，クリームフェザー，スノーウィロー，アイスホワイト
	床敷物	ダークグレー，ライトベージュ
電話機		ＫＸＴ－６４３（エクセル製）
「ヘルスエアー機能」搭載 循環ファン		標準装備
クリーン仕様		標準装備
情報表示パネル		標準装備
音声アナウンス		標準装備
点字表示		標準装備
聴覚障がい者対応用インターホン		標準装備
手すり		標準装備（両側直線タイプ）
ルームミラー		標準サイズ（アルミ枠）

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

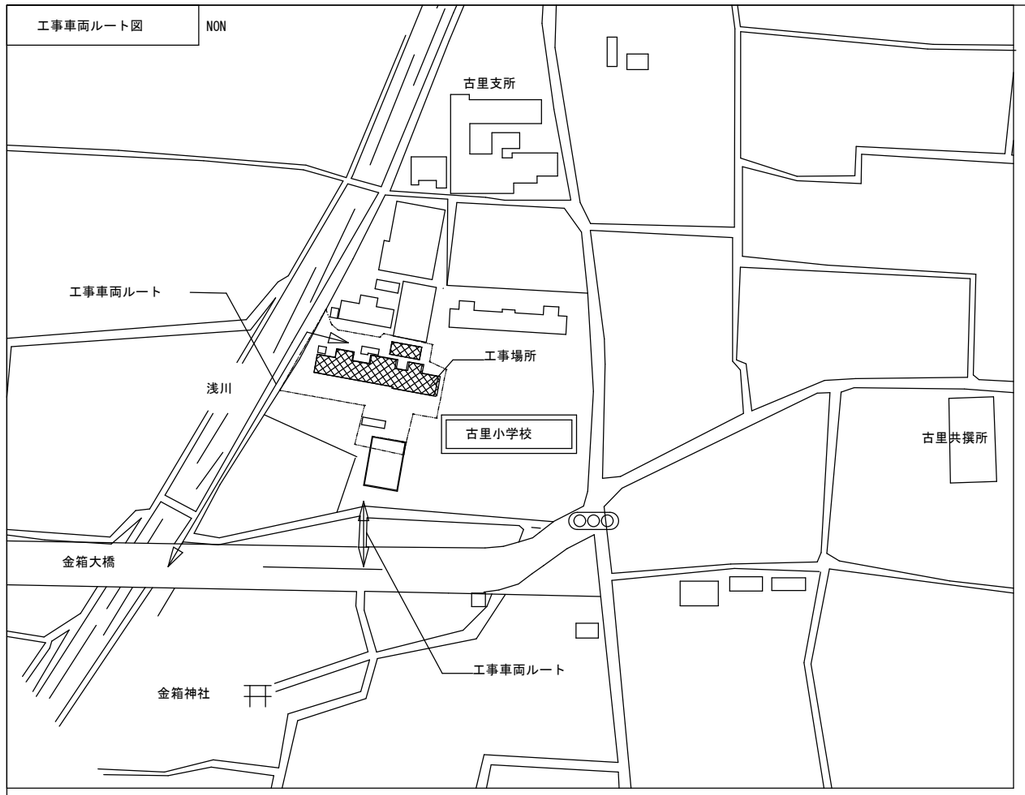
縮　尺	A3 1：20
設計年月日	R7.10.04
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	エレベーター詳細図（６）（参考図）
No.	A-65

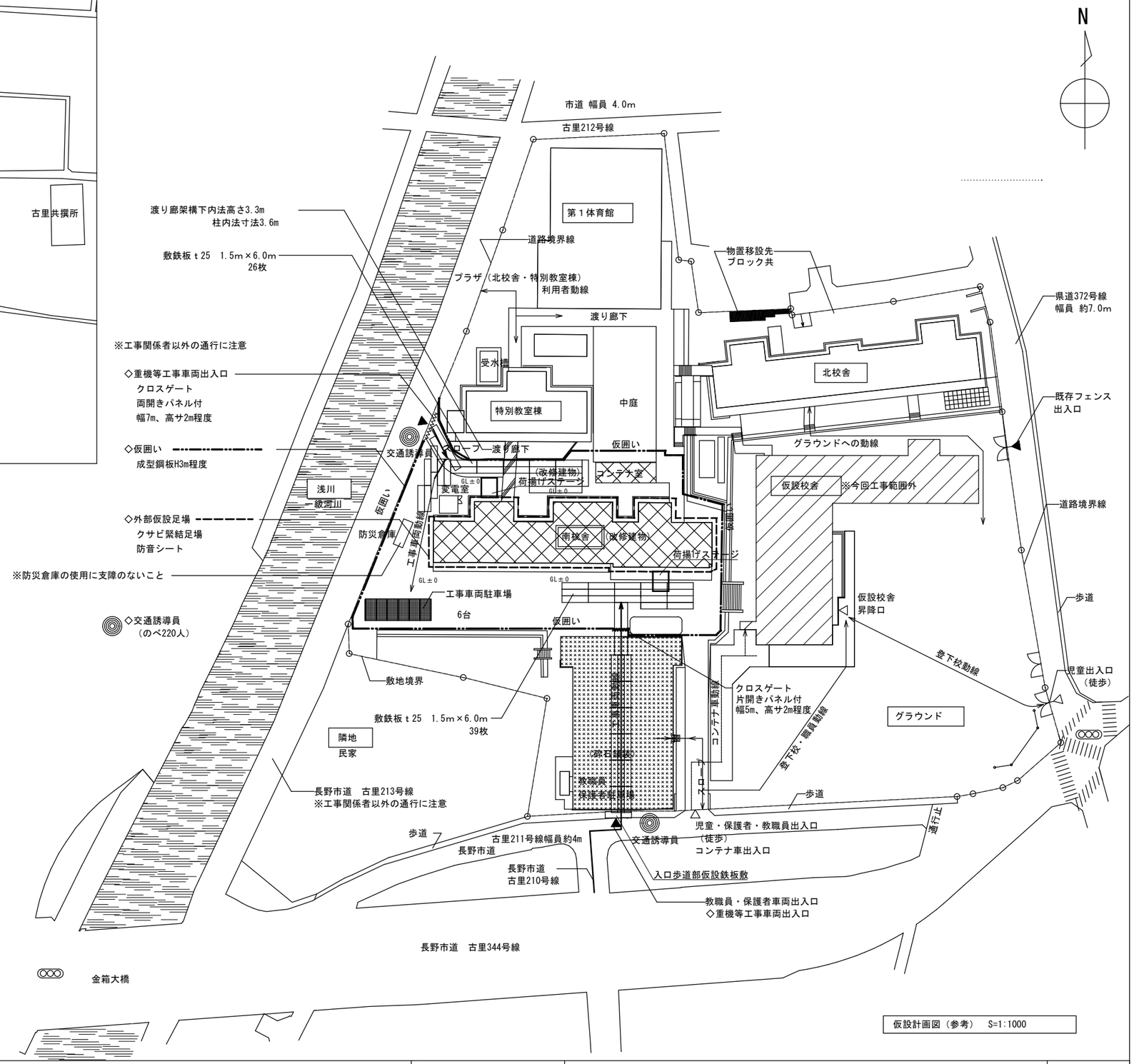
※本改修工事は小学校の改修のため、特に児童・教職員・保護者・学校関係者の安全確保に留意した仮設計画とすること。

※本改修工事は小学校の改修のため、事前に学校側と予定を共有し授業及び学校行事の妨げにならないよう工事を進めること。

※本改修工事期間は令和8年12月から令和9年11月となっており、冬期・夏期を含むため作業効率及び作業員の安全等に配慮すること。

工事車両ルート図



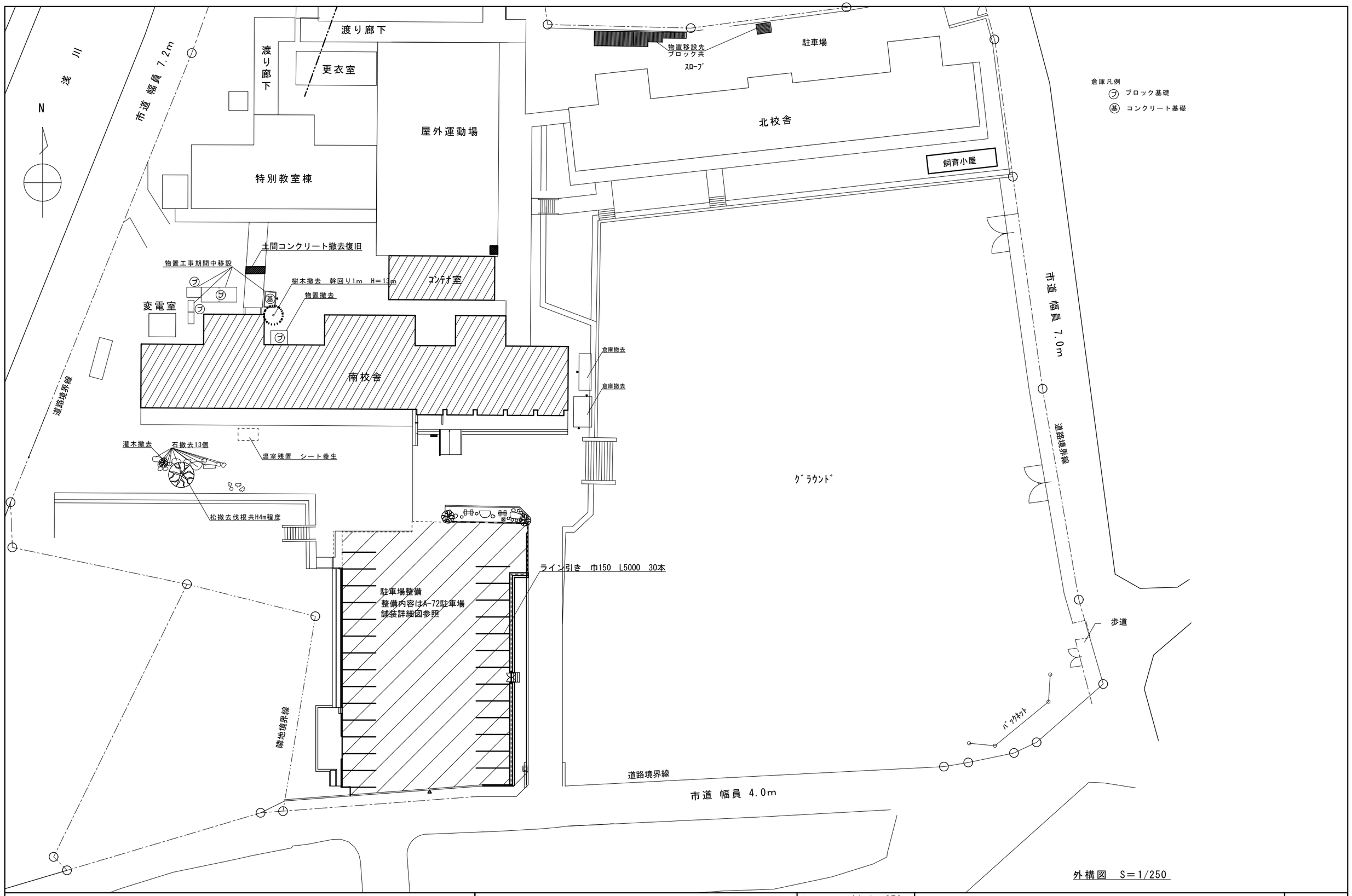


仮設計画図（参考） S=1:1000

概略工程表

令和8年度									令和9年度									
6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
						準備	長寿命化改修工事（10か月）														
						引越												引越			
		仮設校舎設置																	仮設校舎撤去		

相互一級建築士事務所	長野市北尾張部765	縮　尺	A1 1：500 A3 1：1000	工事名　国補　古里小学校南校舎長寿命化改修建築工事
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号		設計年月日	R7.2.28	図面名称　仮設計画図（参考）
一級建築士登録　第293036号	相野　徹			No. A-66



外構図 S＝1/250

相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録 G第88252号 一級建築士登録 第293036号 相野 徹	縮尺 A1 1：250 A3 1：500	工事名 国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	
	設計年月日 R7.2.28	図面名称 外構図	No. A-67

N

38,015

1,570

既設目隠しﾌｪﾝｽ （残置）

隣地境界線

隣地境界線

メッシュフェンス(既存)

B

B′

BM+1010

BM+810

BM+605

BM+1110

BM+810

BM+810

車止め設置58個

BM+605

BM+605

5,000

4,000

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

ライン幅150

駐車場 GL±0 BM+505

既設砕石敷整地の上

プライムコート　アスファルト舗装t50

アスファルト天端：BM+505

37,690

2,500

4,455

10,520

BM+455

既設側溝

BM+700

BM+750

駐車場入口

5,025

1,000

6,000

24,960

1,000

1,000

9,800

仮舗装部撤去再舗装

6,000

水勾配

水勾配

水勾配

水勾配

水勾配

水勾配

水勾配

水勾配

水勾配

トレンチ管φ150

トレンチ管φ150

トレンチ管φ100

勾配3%程度

側溝に放流既設配管穴利用（穴位置歩道面-500程度）

4,000

仮舗装部撤去再舗装

BM+535

BM+505

BM+505

既設横断防止柵

9,100

9,100

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27

ライン幅150

BM+530

BM+670

土留（残置）

階段（残置）

既設スロープ

既設スロープ

DN

UP

BM（境界ピン）±0

雨水浸透ます500×500×500設置（3か所）

枡天端：BM+455

スロープ

BM+600

BM+670

BM+505

BM+670

地先境界ﾌﾞﾛｯｸ

地先境界ﾌﾞﾛｯｸ

BM+670

6,900

たくましい子どもの碑

校歌の碑

思いやりのある子どもの碑

希望の像

14,430

2,600

7,300

南校舎

駐車場平面図　S=1/50

舗装：密粒度アスコン　A-5-15（合材・路盤材：再生材）

再生ｱｽﾌｧﾙﾄ混合材

路盤：既存砕石利用

路床：既存砕石利用

50

150

舗装構成　S=1/20

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1 1：250 A3 1：500	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. A-68
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　駐車場詳細図	

国補　古里小学校　南校舎長寿命化改修建築　工事設計図

仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　　長野市大字金箱

2．工事種目

	建物名	構　造	階　数	延床面積	備　考
1	コンテナ室	木造	平屋建て	59.62㎡	
2	渡り廊下	鉄骨造	平屋建て	ー	建築面積 9.20㎡

3．工事範囲

※「2．工事種目」すべてを工事範囲とする。

・「2．工事種目」のうち　　の工事範囲は下記表のとおりとする。

ただし、他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2　仮 設 工 事	
3-1 土　工	
3-2 地 業 工 事	
3-3 基 礎 工 事	
4　木 造 工 事	
5　軸組構法（壁構造系）工事	
6　軸組構法（軸構造系）工事	
7　枠組壁工法工事	
8　丸太組構法工事	
9　ＣＬＴパネル工法工事	
10　木 工 事	
11　防 水 工 事	
12　石 工 事	
13　タ イ ル 工 事	
14　屋根及びとい工事	
15　金 属 工 事	
16　左 官 工 事	
17　建 具 工 事	
18　塗 装 工 事	
19　内 装 工 事	
20　断熱・防露、ユニット工事	
21　排 水 工 事	
22　舗 装 工 事	
23　植 栽 工 事	

Ⅱ　建築工事仕様

1．共通仕様

（1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて長野市建設工事共通仕様書による。

（2）（1）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築木造工事標準仕様書 令和７年版 」(以下、「木造標仕」という。)により、木造標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版 」(以下「標仕」という。)による。

（3）木造標仕で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）の規定を優先する。
なお、関係法令を遵守する場合は具体的な対応策について監督職員と協議すること。

2．特記仕様

（1）項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。

（2）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。

（3）本工事は特記あるものを除き、長野市契約規則及び工事請負契約書の記載事項による。

（4）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、木造標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（5）特記事項に記載の［　　］内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（6）Ⓖ 印は「国等による環境物品等の調達等の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。なお、特定調達品目か否かの判断基準は監督職員との協議による。

（7）長野市環境方針について
工事にあたっては、長野市環境方針（最新版）を充分に配慮し、設計書及び標準仕様書はもとより、環境に配慮した材料の仕様、廃棄物の発生抑制、アイドリングストップや省エネ重機の使用による省エネルギーの推進、低公害工事機材の使用、工事従業者への教育など、施工にあたって細心の注意を払うことにより、工事の環境への影響を極力少なくする よう配慮すること。なお、具体的な計画を、施工計画書に記載し実践するものとする。
また、循環型社会の構築への取り組みとして、リサイクル促進の観点から「長野市溶融スラグ入りコンクリート二次製品利用基準」に基づき、溶融スラグ入りコンクリート二次製品の積極的な利用に努めること。

（8）長野市公契約等基本条例に関する事項
受注者等は、法令を遵守するとともに、次に掲げる取組その他長野市公契約等基本条例第３条の基本理念に基づく必要な取組を行ない、公契約等を適正に履行するよう努めなければならない。
1）長野市公契約等基本条例の内容について、労働者等へ周知するとともに、事務所（作業所）等へポスターを掲示すること。
2）業務の一部を下請負者等に履行させるときは、長野市公契約等基本条例の内容について説明し、各々の対等な立場における合意に基づいて適正に契約を締結すること。
⊙ 長野市公契約等労働環境報告書１部及び施工体系図（共通仕様書に定められたもの）の写し１部を契約後速やかに監督職員へ提出すること。この場合、業務の一部を下請負者等に履行させるときは、下請負者等の労働環境報告書を取りまとめて提出すること。

（9）本工事における必要な諸手続等は原則として受注者において行うこと。

（10）工事の着手前に工事概要等を近隣住民等に周知するなど、理解協力を求めること。
また、工事車両の通行による道路の損傷には十分留意し、損傷が発生した場合は、道路管理者と協議のうえ受注者の責任において速やかに修復すること。

（11）工事区域外に土砂等を散乱することがないように注意すること。また、道路を汚した場合は速やかに清掃すること。

（12）作業時間、作業日、騒音振動等については、近隣住民に配慮し、関係法令を遵守することとし、事前に監督職員と協議のうえ、工事内容、施工条件等考慮して決めること。特に建設業法、建設リサイクル法には留意のこと。

（13）施設用途を充分に理解し、転倒防止、落下防止、衝突防止、足掛かり、指詰め防止、面取り等に配慮し、図示なくとも施工段階で考慮し安全性の高い施設になるよう努めること。

（14）諸材料については必要に応じ見本品または現品を提出し、監督職員の承諾を受け使用のこと。
ただし、JIS規格合格品等で監督職員がそれを確認できた場合はこの限りではない。

（15）施工上必要ある個所は、監督職員の指示により適切なる材料をもって養生を施し、急硬急乾凍結破損の防止をすること。

（16）施工するにあたり建築、電気設備、機械設備等の取合いを十分に検討すること。

（17）施工期間中の降雨等の排水については、任意仮設により水処理を行うこと。

（18）施工にあたり、必要最小限の樹木の枝打ち伐採は工事に含む。（監督職員と協議、承諾のうえとする）

（19）工事完了後検査不可能個所の施工にあたっては、必要に応じ監督職員の立会いのもとに施工のこと。

（20）工事完了後は速やかに工事現場内外の清掃、後片付け及び損傷個所の復旧補修をし、監督職員の確認を受けること。

（21）上記各事項に要する諸経費は全て受注者において負担する。

（22）工事しゅん工引渡し後特記あるものを除き、工事の施工に起因した不具合が生じた場合は、木造建物及び工作物１年間（受注者の故意または重大な過失による場合、５年間）以内に、期日を定め補修工事をし、市建築課係員の検査を受けること。

（23）暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置について
1）長野市が発注する建設工事（以下「発注工事」という。）において、暴力団員等による不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否すること。また、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うこと。
2）上記により警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を記載した書面により発注者に報告すること。
3）発注工事において、暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。

（24）過去の工事における瑕疵等を発見した場合は速やかに監督職員に報告すること。

章	項　目	特　記　事　項
① 一般共通事項	① 適用基準等	⊙建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修　令和４年版） ⊙工事写真撮影ガイドブック（建築工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和５年版） ・建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）同解説・令和５年版（国土交通省官房官庁営繕部監修）
	② 週休２日工事	本工事は、発注者指定型の週休２日工事の対象工事である。実施にあたっては、長野市週休２日工事実施要領により行う。 ※ 月単位の週休２日工事 本工事は、月単位の週休２日工事である。当初予定価格において、４週８休以上の達成を前提とした経費補正を行っている。そのため、現場の閉所実績を確認し、月単位での４週８休未満の場合は、実施要領に定めるところにより減額変更を行う。 ⊙ 通期の週休２日工事 本工事は、通期の週休２日工事である。当初予定価格において４週８休以上の達成を前提とした経費補正を行っている。そのため、４週８休未満の場合は、実施要領に定めるところにより減額変更を行う。
	③ 熱中症対策に資する現場管理費補正（試行）	本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して現場管理費の補正を試行的に実施する対象工事である。熱中症リスク軽減対策として、遮光ネット（足場に設置するものに限る）等の設置を予定し現場管理費の補正を求める場合は、受発注者間で必要な設置期間等を協議し、設計変更により対応する。 受注者は、事前（施工計画書等）に「熱中症リスク軽減に対する具体的対策内容」を記載し、竣工時に熱中症対策に資する現場管理の実績報告書を提出するものとする。
	③-2 猛暑を考慮した工期設定	猛暑による作業不能日数（ＷＢＧＴ値31以上の過去５年分の平均）を５日と設定し、発注の当初工期に加算しています。工期中に発生した猛暑による作業不能日数が著しく増加した場合は、受発注者協議により必要に応じて契約変更で対応するものとします。
	④ 工事実績情報の登録	※ 適用する（工事カルテ：請負金額500万以上）　(1.1.4)
	⑤ 火災保険等	工事目的物及び工事用材料（支給材料を含む）について、次により保険を付す。 保険の種類　・火災保険　※ 建設工事保険（ ⊙ 水災害特約を含む ） 保険期間　工事着手から工事目的物引渡し日まで
	⑥ 書面の書式等	※長野市公共建築工事関係提出書類様式（令和４年度改定）による。　(1.1.5)(1.2.4)
	7 品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。　(1.2.2) ※ 風速（Vo=30m/s） ※ 地表面粗度区分（ ・Ⅰ ・Ⅱ ※Ⅲ ・Ⅳ ） ※ 積雪区分　建告示第 1455 号　別表（ ・第25号　※第26号 ）
	⑧ 電気保安技術者	⊙適用する　・適用しない　(1.3.3)
	9 条件明示項目	部分引渡し　・無　・有　範囲（　　）　(1.3.5) 引渡し時期：令和　年　月 部分使用　・無　・有　範囲（　　） 使用開始時期：令和　年　月 イメージアップ　・行う（　　）
	⑩ 発生材の処理等	※構外搬出適切処理　(1.3.11)
	⑪ 環境配慮	揮発性有機化学物を放散させる建築材料等　(1.4.1) 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の 1）から 5）を満たすものとする。 1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 2）保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 3）接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン を 放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 5）1）、3）及び 4）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
	⑫ 材料の品質等	建築材料等　(1.4.2) 本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし、製造業者等が記載されている場合に同等以上のものとする場合はあらかじめ監督職員の承諾を受ける。 材料・機材等の製造業者は次の（1）から（6）すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける （1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること （2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること （3）安定的な供給が可能であること （4）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること （5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること （6）販売、保守等の営業体制が整えられていること ※製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い、あらかじめ「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁 平成18年2月15日）に準拠した証明書を、監督職員に提出する。
	⑬ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

	⑭ 技能士	(1.5.2)

適用工事種別	技　能　検　定　作　業
仮設工事	・とび作業
鉄筋工事	・鉄筋組立作業
コンクリート工事	・型枠工事作業　・コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	⊙構造物鉄工作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ALCﾊﾟﾈﾙ	・コンクリートブロック工事作業
押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	・エーエルシーパネル工事作業
防水工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業　・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業　・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	・タイル張り作業
木工事	⊙大工工事作業
屋根及びとい工事	・内外装板金作業　・スレート工事作業　・瓦葺き作業
金属工事	・鋼製下地工事作業　・内外装板金作業
左官工事	・左官作業
建具工事	・ビル用サッシ施工作業　・ガラス工事作業　・自動ドア施工作業
塗装工事	・建築塗装作業
内装工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上作業 ・木質系床仕上げ工事作業　・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業
排水工事	・建築配管作業
舗装工事	・溶融ﾍﾞｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業　・加熱ﾍﾞｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	・造園工事作業

15	見本施工の実施	・実施する　・実施しない　(1.5.5)
⑯	化学物質の濃度測定	(1.5.10) 設計書の仕様のみならず、ＶＯＣ等濃度を下げる施工方法を提案し、かつ、しゅん工前に「厚生労働省が定める室内濃度に関する指針値」によるＶＯＣ測定（対象物：ホルムアルデヒト、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン）を行い、指針値以下であることを確認する。また、測定により指針値を超えた場合、監督職員との協議により必要な措置（強制換気等による対象物質の放散法、ＶＯＣ等の吸収、分解法他、工期の延期及び再検査等）を講ずるものとする。 測定結果について、測定時の室温を記載した報告書を監督職員に提出すること。 測定はアクティブ方式にて行う。 着工前の測定　※ 行わない　・行う 測定対象室　※図示　測定箇所数　※図示
17	技術検査	中間技術検査　・ 行わない　(1.6.2) ※ 行う（※建て方完了時　・　　） ※ 行う（長野市建設工事中間検査実施要領第３（契約金額5000万以上））
⑱	完成図等	完成図　(1.7.1～2)(表 1.7.1) ※ 作成する

様式等	作成方法	部数	備考
建築主体原図	CADデータ	1	
総合版製本	見開きＡ1製本		
	見開きＡ3製本	3	

※　製本については、白焼きとし、背表紙に年度と工事名、表紙に年度、工事名、設計者名、工事監理者名、施工者名、工期しゅん工日を印刷する。
※　電気設備工事、機械設備工事等が別途発注されている場合は総合版で提出すること。
※　CADデータの提出は、CDに jww形式（SXF対応拡張線色・線種）で保存したものを１部提出する。

保全に関する資料　(1.7.3)
※ 作成する　提出部数２部
なお、「建築物等の利用に関する説明書」は、建築物等の利用に関する説明書作成の手引き（国土交通省大臣官房官庁営繕部計画課保全指導室）を参考に、保全に関する事項について作成すること。

⑲	電子納品に関する事項（試行）	※適用する　・適用しない（国庫補助事業による工事） 竣工書類の電子納品について、受注者が電子媒体の提出を希望し、発注者（長野市の工事担当課）がこれを認めた場合に適用する。 電子納品は「工事書類の電子納品に関する運用の手引き」に基づくものとする（図面関係、写真関係のみ）。なお、電子納品における書類の作成費用等は工事費の諸経費（共通仮設費の率分）に含まれ、検査に要する費用においても受注者の負担とする。
20	情報共有システム	(1.1.5) 本工事は、情報共有システムを利用できる工事である。利用にあたっては、長野市情報共有システム実施要領により行う。 利用するシステムは「長野市情報共有システム機能仕様書」を満たすものから受注者が選択し、事前に監督員の承諾を受けるものとする。 情報共有システム利用に要する費用（登録料及び利用料）は、共通仮設費の積み上げによる算定とし、設計変更により対応する。
21	完成写真	⊙作成する　・作成しない　(1.7.2) 下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ（mm）
※カラー　※ 2L判 ・ ｷｬﾋﾞﾈ判	外部（　）内部（　）	※ 1	※ 100×125 以上
・カラー半切木製パネル 324×400（mm）	外部（　）内部（　）	※ 2	・
※電子データ（ﾌﾙｻｲｽﾞ＋ｻﾑﾈｲﾙ）	外部（　）内部（　）	※ 1	※ 428 万画素以上 ※ 350 dpi 以上

電子データは、RGB 各 8 ビット（フルカラー）、JPEG 形式最高画質としCD-Rにて提出する。
撮影業者は監督職員の承諾する撮影業者（建築完成写真撮影の実績のある業者）とする。

22	設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
23	設計ＧＬ	※ 図示　・ 設計ＧＬ＝ 現状ＧＬ
24	工事写真	・「営繕工事電子納品要領（令和３年改定）」による ・着工前状況及び完成後の工事写真について電子データで１部提出すること。
25	工事数量総括表	・有り　・なし

② 仮設工事	① 足場その他	足場を設ける場合、「標仕」2.2.4（b）によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の(1)手すり据置方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行うこと。　(2.2.4)
	② 監督職員事務所	・設ける　（　　）㎡程度　※設けない　(2.3.1) 設ける備品（机, 椅子, 書棚, 行事予定表, 長靴, 雨合羽, 懐中電灯, 安全帯, 更衣ロッカー, 時計, 事務用品, ｶｳﾝﾄﾎﾞｰﾄﾞ, 冷暖房, 冷蔵庫, 電話, インターネット回線, プリンター, コピー機）
	③ 工事用水	構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※ 有償　・ 無償）
	④ 工事用電力	構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（※ 有償　・ 無償）
	5 交通誘導員	※配置する （延べ　　人） ・配置しない
③ 土・地業・基礎工事	① 埋戻し及び盛土	種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.1)
	② 建設発生土の処理	・ 現場説明書による　※構外搬出適切処理　(3.2.1) ・ 構内指示の場所にたい積　・構内指示の場所に散き均し ※ 本工事の残土搬出先は井上産業リサイクルプラント（長野市若穂）、運搬距離は10.0km、第３種発生土を想定しています。残土搬出先は積算上の参考処分場であり、指定するものではありません。なお、参考処分場以外に搬出する場合（自社処分場、無償処分地、参考処分地での受け入れが不可により他の有料処分地）土質区分が想定と異なる場合は、変更協議の対象とする。
	3 山留め	山留めの撤去　・有り　・なし　(3.2.1) 山留め撤去跡の処理　（・　　・砂充填　）
		３節 地業 及び ４節 基礎工事は木造建築特記仕様書（構造関係）による
④ 木造工事	① 材料	使用する材料は図示及び特記による指定並びに木造標仕各章の規定による。 ※ 信州木材認証製品又は同等品（長野県産材）を極力使用すること ・ 材料のホルムアルデヒド放散量 ※ 木造標仕 4.2.1(2)による　(4.2.1)

製材 Ⓖ　(4.2.2(1))

JAS 1083-3、-4 による構造用製材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種	構造材の種別	等級 目視等級	等級 機械等級	材面の品質		含水率
⊙ 土台	ﾋﾉｷ	甲種Ⅱ	⊙級・2級・3級				・D15・D20・D25
⊙ 柱	ｽｷﾞ	乙種	⊙級・2級・3級	・E50　・E70	・2方	・無節	
・ 隅柱		乙種	⊙級・2級・3級	・E90　・E110	・3方	・上小節	・D15・D20・D25
・ 管柱	ｽｷﾞ	乙種	⊙級・2級・3級	・E130・E150	・4方	・小節	
⊙ 梁	ｽｷﾞ	甲種Ⅱ	⊙級・2級・3級				
⊙ 胴差	ﾍﾞｲﾏﾂ						
⊙ 桁							
⊙ 母屋							
⊙ 棟木							
・ 根太							
⊙ たる木							

JAS 1083-4 による広葉樹製材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種	等級	含水率	備考
・	ケヤキ	・特等・1等・2等	・D10・D13	
・	なら			

加工前の縦振動ヤング係数測定部位　※図示

無等級材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種	材面の品質		含水率	備考
・	桧	・2方・3方・4方	・上小節・小節	・	
・	杉				

無等級材の縦振動ヤング係数測定部位　※図示

国土交通大臣指定を受け基準強度の数値を指定された製材の含水率　※図示　・　%

枠組壁工法構造用製材 Ⓖ　(4.2.2(2))

JAS 0600に基づく甲種枠組材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名又は樹種群	寸法型式名	乾燥材、未乾燥材の別	材面の品質
・	ﾊﾟｲﾝ		・乾燥材　・未乾燥材	・特級・1級・2級・3級
・				

JAS 0600に基づく乙種枠組材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名又は樹種群	寸法型式名	乾燥材、未乾燥材の別	材面の品質
・	ﾊﾟｲﾝ	・104・204・210	・乾燥材　・未乾燥材	・ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾕﾃｨﾘﾃｨ
・				

JAS 0600に基づくＭＳＲ枠組材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名又は樹種群	ＭＳＲ等級（曲げ・引張）	寸法型式名	乾燥材、未乾燥材の別
・	ﾊﾟｲﾝ		・104　・204　・210	・乾燥材　・未乾燥材

枠組壁工法構造用たて継ぎ材 Ⓖ　(4.2.2(3))

JAS 0600に基づくたて枠用たて継ぎ材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名又は樹種群	寸法型式名	備考
・	ﾊﾟｲﾝ		
・			

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　一級建築士登録第124970号　松井　昭夫

JAS 0600に基づく甲種たて継ぎ材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名又は樹種群	寸法型式名	備考
・	ﾊﾟｲﾝ	・206 ・212	

JAS 0600に基づく乙種たて継ぎ材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名又は樹種群	寸法型式名	備考
・	ﾊﾟｲﾝ	・203 ・204	

JAS 0600に基づくＭＳＲたて継ぎ材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名又は樹種群	寸法型式名	備考
・	ﾊﾟｲﾝ		

下地用製材 G　(4.2.2(4))

JAS 1083-5に基づく下地用製材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名	等級	含水率	備考
・	桧	・1級 ・2級	・D15 ・D20	
・	杉			

集成材 G　(4.2.2(5))

JAS 1152に基づく構造用集成材　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名 最外層	樹種名 中間層	品名	強度等級（曲げ性能）	材面の品質	接着性能（使用環境）	保存処理（性能区分）
通し柱			・異等級構成集成材 ・同一等級構成集成材		・１種 ・２種 ・３種	・Ａ ・Ｂ ・Ｃ	・Ｋ３
梁							
間柱							

JAS 1152に基づく化粧ばり構造用集成柱　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	樹種名 芯材	樹種名 化粧薄板	曲げヤング係数	曲げ強さ	見付材面の化粧面数	備考
通し柱						
梁						
間柱						

構造用単板積層材 G　(4.2.2(6))

JAS 0701に基づく構造用単板積層材
・Ａ種構造用単板積層材
・Ｂ種構造用単板積層材

施工部位	接着性能（使用環境）	樹種名	曲げヤング係数区分	曲げ性能等級（Ａ種構造用単板積層材のみ）	水平せん断区分	保存処理（性能区分）
	・Ａ ・Ｂ ・Ｃ		・	・特級 ・１級 ・２級	・	・
・						

直交集成板 G　(4.2.2(7))

JAS 3079に基づく直交集成板　（※下表による（寸法は図示）　・図示 ）

施工部位	品名	樹種名	強度等級（曲げ性能）	種別	ラミナの等級区分 ラミナの樹種群等級	接着性能（使用環境）
・	・異等級構成直交集成板 ・同一等級構成直交集成板	・	・	・A種構成 ・B種構成	・	・Ａ ・Ｂ ・Ｃ
・						

丸太材 G　(4.2.2(8))

施工部位	樹種名	寸法(mm)	含水率	末口径(mm)
・	・	・	・20%以下	・
・				

・加工前に縦振動ヤング係数を測定する施工部位（対象部材：　　）

木質接着成形軸材料 G 木質複合軸材料 G　(4.2.2(9))

形状、寸法　　※図示　・（　　）

含水率（　　%）

② 構造用面材 G

構造用面材　(4.2.2(10))

JIS A 5905に基づくＭＤＦ G

施工部位	普通、構造用MDFの区分	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	厚さ(mm)	難燃性による区分
・	・普通MDF ・構造用MDF	・無研磨板 ・研磨板 ・塗装 ・単板オーバーレイ ・プラスチックオーバーレイ	・30タイプ ・25タイプ ・15タイプ ・5タイプ	・耐水１(Mタイプ) ・耐水２(Pタイプ)	・	・難燃2級 ・難燃3級
・	・	・	・	・	・	・

JAS 0233に基づく構造用合板 G

施工部位	品名	強度等級 曲げ性能	接着の程度	厚さ(mm)	板面の品質	単板の樹種名
	○構造用合板 ・構造用合板(防虫処理) ・構造用合板(さね加工)	・１級 ○２級	・特類 ○１類	・12	・C-D ・	・
・	・	・	・	・	・	・

JAS 0233に基づく化粧ばり構造用合板 G

施工部位	品名	接着の程度	厚さ(mm)	板面の品質	単板の樹種名
	・化粧ばり構造用合板 ・化粧ばり構造用合板(防虫処理) ・化粧ばり構造用合板(さね加工)	・特類 ・１類	・	・	・
・	・	・	・	・	・

JAS 0360に基づく構造用パネル G

施工部位	厚さ(mm)	曲げ性能等級（常態曲げ試験）	曲げ性能等級（湿潤曲げ試験）
・	・	・1級 ・2級 ・3級 ・4級	・1級 ・2級 ・3級 ・4級
・	・	・	・

JIS A 5908に基づくパーティクルボード G

施工部位	種類	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	厚さ(mm)
・	・	・無研磨板 ・研磨板 ・	・13タイプ ・18タイプ ・	・耐水１(Mタイプ) ・耐水２(Pタイプ)	・
・	・	・	・	・	・

JIS A 5905に基づくハードファイバーボード G

施工部位	種類 ・スタンダードボード(無処理)	種類 ・テンパードボード(処理)	難燃性による区分	厚さ(mm)
・	・素地ハードボード ・無研磨板 ・研磨板 ・内装用化粧ハードボード ・曲げ強さによる区分 ・35タイプ	・素地ハードボード ・無研磨板 ・研磨板 ・外装用化粧ハードボード ・曲げ強さによる区分 ・45タイプ ・35タイプ	・２級 ・３級	・
・	・	・	・	・

JIS A 5404に基づく硬質木片セメント板 G

施工部位	断面形状	重ねしろの有無	厚さ(mm)
・	・平板 ・凹凸板	・有り ・無し	・
・	・	・	・

JIS A 6901に基づく石こうボード

施工部位	種類	厚さ(mm)
・	・構造用せっこうボード (GB-St-A)	・
・	・構造用せっこうボード (GB-St-B)	・
・	・せっこうボード (GB-R)	・
・	・強化せっこうボード (GB-F)	・
・	・せっこうラスボード (GB-L)	・
	・	・

JIS A 5905に基づくシージングボード

施工部位	厚さ(mm)
・	・12 ・15 ・18
・	・

JIS A 5524に基づくラスシート

施工部位	ラス目による区分	山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分	板厚(mm)
・	・モルタル下地用(M)	・LS1 ・LS2 ・LS3 ・LS4	・
・	・	・	・

JIS A 5430に基づくフレキシブル板

施工部位	厚さ(mm)
・	・6 ・8
・	・

JIS A 5440に基づく火山性ガラス質複層板（VSボード）

施工部位	密度による区分 (g/cm3)	曲げ強度 (N/mm2)	厚さ(mm)
・	・0.6以上 0.8未満 ・0.8以上	・11.5以上	・
・	・	・	・

木質断熱複合パネル G 木質接着複合パネル G

施工部位	形状	厚さ(mm)	含水率
・	・	・	・
・	・	・	・

③ 接合金物、接合具等

接合金物　(4.2.7)

施工部位及び接合金物名称、記号、寸法は図示による

接合金物規格		
	○Ｚマーク表示金物	・Ｃマーク表示金物
	・Ｍマーク表示金物	・χマーク表示金物
	・Ｄマーク表示金物	・Ｓマーク表示金物

屋外環境下の使用金物
・溶融亜鉛めっき製　・銅板製　・ステンレス製

接合具等
釘、木ねじ、特殊ねじ

使用部位	種類	記号	規格	表面処理	備考
・せっこうボード耐力壁	せっこうボード用釘	PW	大臣認定品		
		GNF	JIS A 5508		
・構造用合板耐力壁 ・床下地 ○屋根下地 ・火打ち土台 ○間柱	普通鉄丸釘	N	JIS A 5508	※鉄 ・SUS	
	太め鉄丸釘 シージングボード用釘	CN			
		SN			
	太め釘	ZN			
○接合金物	太め釘	ZN	日本住宅		
	平釘	ZF	木材技術	JIS H 8641	Zﾏｰｸ表示
	スクリュー釘	ZS	ｾﾝﾀｰ規格		

ボルト、アンカーボルト、ナット及び座金
ボルト、ナットはJIS B 1180、JIS B 1181による
引張り応力を受けるボルトに用いる座金
・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種 ・F種 ・G種
せん断応力を受けるボルトに用いる座金
・H種 ・I種 ・J種 ・K種 ・L種
ラグスクリューの材質、形状、寸法　※図示　・（　　）
ドリフトピンの径、寸法　※図示　・（　　）
木栓及びダボの樹種、形状、長さ　※図示　・（　　）

接着剤
床鳴り防止用接着剤の適用　・適用する　・適用しない
床鳴り防止用接着剤の種類　※図示　・（ ・一般用 ・構造用Ⅰ類 ・構造用Ⅱ類 ）
接着剤併用接合の適用　・適用する（部位 ※図示 ・　　）・適用しない
併用接着剤の種類　※図示　・（ 床根太用接着剤 JIS A 5550 ）

輪型ジベル接合、圧入型ジベル接合

施工部位	種類	材質、形状、寸法等
・	・	・
・	・	・

④ 防腐・防蟻処理

防腐・防蟻処理　(4.3.1)

工場における薬剤の加圧注入等

施工部位（適用部材）	保存処理の性能区分
・土台	○K2又はA03 ・K3又はA02 ・K4又はA01
・	・

木造軸組4.3.1(1)(ｱ)(b)に基づく加圧式保存処理

施工部位（適用部材）	保存処理の性能区分	インサイジング
・	・K2又はA03相当・K3又はA02相当・K4又はA01相当	・適用・適用なし
・	・	・

○ 薬剤の塗布等　（処理の方法　※木造軸仕4.3.1による）
・ 薬剤の接着剤への混入による防腐防蟻処理
・ 合板等の加圧注入等による防腐防蟻処理
・ 防蟻性能のある断熱材

施工部位	防蟻性能	断熱性能（熱伝導率 W/m-k）	断熱材の厚さ(mm)
・	・	・	・
・	・	・	・

土壌の防蟻処理　(4.3.3)

・行う（薬剤名：　　使用量：　　）　○行わない

防腐措置　(4.3.4)

・床下換気
基礎外周部の換気孔（・ねこ土台　・換気孔　）
・小屋裏換気
換気方法（木造軸仕4.3.4(3)　・(a)・(b)・(c)・(d)・(e)　）
換気孔の大きさ（※図示による）

5 防耐火処理等

防火被覆の材料及び工法　(4.4.2)

・防火被覆材

施工部位	材料	厚さ(mm)	防火被覆処理 留付け材の種類	防火被覆処理 留付け間隔(mm)	留付ける各層の防火被覆詳細 下地材への留付け長さ	留付ける各層の防火被覆詳細 端あき距離(mm)	留付ける各層の防火被覆詳細 接着剤の使用	留付ける各層の防火被覆詳細 目地等の処理方法
・	・	・	・	・	・	・	・	・図示
・	・	・	・	・	・	・	・	・

・柱又は梁の継手及び仕口の接合金物の防火処理（※図示による ）

不燃処理木材等　(4.4.4)

施工部位（適用部材）	材料規格等 ・不燃材料	・準不燃材料	・難燃材料
・	・	・	・

6 鋼材等の接合

鋼材と木材の接合　(4.5.1)

・当該木材と鋼材の接合部分

接合部位（施工部位）	接合詳細	工法適用の有無
・	・	・
・	・	・

5 軸組構法（壁構造系）工事

⑥ 軸組構法（軸構造系）工事

① 木材の加工

現寸図　(5.4.2)(6.4.2)

床書き現寸図の作成
・行う　○行わない

孔あけ加工　(5.4.6)(6.4.6)

ボルトの径に加える木部のボルト孔の大きさ
※ 表5.4.2又は表6.4.2による　・（　　）
ドリフトピンの孔径
※ ピン径と同径　・（　　）

表面仕上げ　(5.4.7)(6.4.7)

見え掛り面の仕上げの程度
・機械加工

施工部位（適用部材）	仕上の程度
・	※プレーナー加工仕上 ・超自動機械かんな掛け仕上げ ・サンダー掛け仕上げ
・	・

・手加工

施工部位（適用部材）	仕上の程度
・	・斜めから光線を当て、さか目、かんなまくれが全くないもの ・さか目、かんなまくれがほとんどないもの ・多少のさか目、かんなまくれを許容するが、のこ目が見えないもの

見え掛り面の表面保護　[18.12.2][表18.12.1]

工事現場搬入前の木材保護塗料塗り
・行う（ ※標仕18章12節 木材保護塗料塗り(WP)　・　　）

施工部位（適用部材）	種別 ・Ａ種 ・Ｂ種
・	

② 搬入及び建方

アンカーボルトの設置等　(5.5.3)(表5.5.1)(6.5.3)(表6.5.1)

施工部位	埋込み深さ(mm)	保持及び埋込み工法	埋込み位置の許容誤差
・	・図示による	・Ａ種 ・Ｂ種	※±5mm ・
・	・	・	・

基礎天端及び柱底均しモルタルの仕上げ　(5.5.4)(表5.5.2)(6.5.4)(表6.5.2)

施工部位	無収縮モルタル	モルタルの厚さ(mm)	柱底均しモルタルの工法
・	・適用する ・適用しない	・図示による ・	・Ａ種 ※Ｂ種
・	・	・	・

建方精度　(5.5.7)(6.5.7)

建入れ直し後の水平、垂直の誤差の範囲
※ 1/1000以下　・

接合金物の工法　(5.5.9)(6.5.9)
面材の取付けに必要な場合の木材への彫り込み
※ 行わない　・図示による

釘、木ねじ、木質構造用ねじ等の工法　(5.5.10)(6.5.10)
構造材を仕上材として用いる場合の釘打ち
・隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し
構造材を仕上材として用いる場合の木ねじの留付け
※木ねじ頭埋め木 ・

各種ボルトの工法　(5.5.11)(6.5.11)
構造材を仕上材として用いる場合の見え掛り部のボルトの取付け方法
・図示による ・埋め木 ・

ラグスクリューの工法　(5.5.12)(6.5.12)
構造材を仕上材として用いる場合の見え掛り部に使用するラグスクリューの取付け方法
・図示による ・埋め木 ・

ドリフトピンの工法　(5.5.13)(6.5.13)
構造材を仕上材として用いる場合の見え掛り部のドリフトピンの取付け方法
・ 図示による ・埋め木

3 軸組

火打土台　(5.6.2)(6.6.2)
・木製火打土台
・鋼製火打土台
・Ｚマーク表示金物火打金物（・ＨＢ ・ＨＢ－Ｓ）

4 小屋組

火打梁　(5.7.8)(5.8.6)(6.7.8)(6.8.6)
・木製火打梁
・鋼製火打梁
・Ｚマーク表示金物火打金物（・ＨＢ ・ＨＢ－Ｓ）

5 床組

床束の種別　(5.8.2)(6.8.2)
・木製床束
・鋼製床束（仕様及び設置方法 ※図示による ・　　）
・樹脂製床束（仕様及び設置方法 ※図示による ・　　）

6 壁

軸組耐力壁　(5.9.2)(6.9.2)
・木筋かい
・鉄筋筋かい
材料 ・図示による ・
留付け方法及び接合金物・接合具の種類 ・図示による ・
大壁造の面材耐力壁　(5.9.3)(6.9.3)
・ラスシートの留付けに使用する釘又はドリリングタッピンねじの留付け間隔
・ 図示による ・
真壁造の面材耐力壁　(5.9.7)(6.9.7)
間渡し竹の種類 （ ・マダケ ・シノチク ）
土塗り壁の厚さ （・ mm ※ 図示 ）
大臣認定耐力壁　(5.9.10)(6.9.10)
国土交通大臣が認定した耐力壁の適用
・適用する（適用部位： ・図示による） ・適用しない

7 枠組壁工法工事

1 材料

材料　(7.2.2)
国土交通大臣の認定を受けた耐力壁に使用する枠組材の含水率
※15%以下 ・ %以下
国土交通大臣の指定を受けたもので、基準強度の数値を指定された木材の含水率
※20%以下 ・ %以下

接合金物、接合具等　(7.2.3)
木質構造用ねじ
※木造特記仕様書「4 木造工事 材料」による
建築基準法施行規則第８条の３の認定工法を受けた耐力壁に用いる接合具
・

2 搬入及び建方

アンカーボルトの設置等　(7.5.3)(表7.5.1)

施工部位	埋込み深さ(mm)	保持及び埋込み工法	埋込み位置の許容誤差
・	・図示による	・A種 ・B種	※±5mm ・
・	・	・	・

基礎天端均しモルタルの仕上げ　(7.5.4)

施工部位	埋込み深さ(mm)	モルタルの厚さ(mm)
・	・適用する ・適用しない	・図示による ・
・	・	・

ラグスクリューの工法　(7.5.10)
構造材を仕上材として用いる場合の見え掛り部に使用するラグスクリューの取付け方法
・図示による ・埋め木 ・

3 床版

床パネル　(7.7.1)
床根太の転び留め
・設ける ・設けない
床根太トラス
・使用する ・使用しない
床版材料
・直交集成板 ・木質断熱複合パネル ・木質接着複合パネル

大引又は床束を用いる場合　(7.7.2)
床束の種別
・木製床束
・鋼製床束（仕様及び設置方法 ※図示による ・　　）
・樹脂製床束（仕様及び設置方法 ※図示による ・　　）

4 小屋組等

小屋組及び屋根パネル　(7.9.1)
屋根版材料
・直交集成板 ・木質断熱複合パネル ・木質接着複合パネル

〒380-0916 長野市大字稲葉字中千田2189-4 ℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士 一級建築士登録第108578号 清水 勉
図面を作成した建築士 一級建築士登録第124970号 松井 昭夫

8 丸太組構法工事

1 材料

接合金物、接合具 (8.2.4)

だぼの適用

・木だぼは、(4.2.7(2)(イ)(e))材料による

・鋼製だぼは、木造標仕8.2.4(7)(b)による

・ラグスクリューだぼ

・Ｚマーク表示金物だぼ　・Ｚマーク表示金物以外のだぼは、図示による

2 木材の加工

丸太組壁用木材の表面仕上げ (8.4.5)

見え掛り面の仕上げの程度

・機械加工

施工部位（適用部材）	仕上の程度
・	※ブレーナー加工仕上 ・超自動機械かんな掛け仕上げ ・サンダー掛け仕上げ
・	・

・手加工

施工部位（適用部材）	仕上の程度
・	・斜めから光線を当て、さか目、かんなまくれが全くないもの ・さか目、かんなまくれがほとんどないもの ・多少のさか目、かんなまくれを許容するが、のこ目が見えないもの ・ちょうな仕上げ

見え掛り面の表面保護 [18.12.2][表18.12.1]

工事現場搬入前の木材保護塗料塗り

・行う（ ※標仕18章12節 木材保護塗料塗り(WP) ・　　）

施工部位（適用部材）	種別
・	・Ａ種　・Ｂ種

丸太組壁の仮組立　・行う　・行わない (8.4.9)

手加工による丸太組壁加工材の場合は仮組立てを行う

3 搬入及び建方

アンカーボルトの設置等 (8.5.3)

施工部位	埋込み深さ(mm)	保持及び埋込み工法	埋込み位置の許容誤差
・	・図示による	・A種　・B種	※±5mm　・
・	・	・	・

基礎天端均しモルタルの仕上げ (8.5.4)

施工部位	埋込み深さ(mm)	モルタルの厚さ(mm)
・	・適用する ・適用しない	・図示による ・
・	・	・

釘、木ねじ、木質構造用ねじ等の工法 (8.5.11)

構造材を仕上材として用いる場合の釘打ち

・隠し釘打ち　・釘頭埋め木　・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し

構造材を仕上材として用いる場合の木ねじの留付け

※木ねじ頭埋め木　・

4 土台及び丸太組壁

火打土台 (8.6.2)

・木製火打土台　・適用する（樹種　　寸法 ※図示）　・適用しない

・鋼製火打土台　・適用する（材質　　寸法 ※図示）　・適用しない

5 小屋組

火打梁 (8.7.9)

・木製火打梁　・適用する（樹種　　寸法 ※図示）　・適用しない

・鋼製火打梁　・適用する（材質　　寸法 ※図示）　・適用しない

6 床組

床束 (8.8.2)

・木製床束　・適用する（樹種　　寸法 ※図示）　・適用しない

・鋼製床束　・適用する（仕様、設置方法 ※図示）　・適用しない

・樹脂製床束　・適用する（仕様、設置方法 ※図示）　・適用しない

火打梁 (8.8.6)

・木製火打梁　・適用する（樹種　　寸法 ※図示）　・適用しない

・鋼製火打梁　・適用する（材質　　寸法 ※図示）　・適用しない

9 ＣＬＴパネル工法工事

1 木材の加工

孔あけ加工 (9.4.4)

ボルトの径に加える木部のボルト孔の大きさ

※ 表9.4.1による　・（　　）

ドリフトピンの孔径

※ ピン軸径と同径　・（　　）

引きボルトの孔径

※ 軸径＋5～10mm　・（　　）

表面仕上げ (9.4.5)

見え掛り面の仕上げの程度

・機械加工

施工部位（適用部材）	仕上の程度
・	※ブレーナー加工仕上 ・サンダー掛け仕上げ
・	・

見え掛り面の表面保護 [18.12.2][表18.12.1]

工事現場搬入前の木材保護塗料塗り

・行う（ ※標仕18章12節 木材保護塗料塗り(WP) ・　　）

施工部位（適用部材）	種別
・	・Ａ種　・Ｂ種

2 搬入及び建方

アンカーボルトの設置等

施工部位	埋込深さ	保持及び埋込み工法	埋込み位置の許容誤差
・CLT用アンカーボルト	・図示による	・Ａ種　・Ｂ種	・
・土台用アンカーボルト	・図示による	・Ａ種　・Ｂ種	※±5mm

基礎天端均しモルタルの仕上げ (9.5.4)

施工部位	無収縮モルタル	モルタルの厚さ(mm)
・	・適用する　・適用しない	・図示による
・	・	・

建方精度 (9.5.7)

建入れ直し後の水平、垂直の誤差の許容値

※ 1/1000以下　・

建入れ直し後の床の天端及び壁の天端の平坦さ

※±3mm以下　・

接合金物の工法 (9.5.9)

構造材を仕上材として用いる場合の見え掛り部に使用する接合金物の取付方法

※ 図示による　・（　　）

釘、木ねじ、木質構造用ねじ等の工法 (9.5.10)

構造材を仕上材として用いる場合の釘打ち

・ 隠し釘打ち　・ 釘頭埋め木　・ つぶし頭釘打ち　・ 釘頭現し

構造材を仕上材として用いる場合の木ねじの留付け

※ 木ねじ頭埋め木　・

ドリフトピンの工法 (9.5.13)

構造材を仕上材として用いる場合の見え掛り部のドリフトピンの取付方法

・ 図示による　・埋め木

3 壁等

ＣＬＴパネルによる壁等 (9.9.1)

ＣＬＴ壁パネルの接合部の処理

・ 図示による　・埋め木

⑩木工事

1 表面仕上げ

見え掛り面の仕上げの程度 (10.1.4)

・機械加工

施工部位（適用部材）	仕上の程度
・	※ブレーナー加工仕上 ・超自動機械かんな掛け仕上げ ・サンダー掛け仕上げ
・	・

・手加工　（　　）

2 木材 G

木材の品質 (10.2.1)

※信州木材認証製品又は同等品(長野県産材)　・木造標仕 10.2.1　・市販品

製材 (10.2.1(2))

種　別	施工部位	樹種名	寸法	等級(材面の品質)	含水率
・ 下地用製材	・		※図示	・1級　※2級	※A種・B種
・ 造作用製材	・		※図示	・上小節 ※小節以上・並	※A種・B種
・ 広葉樹製材	・		※図示	・特等 ※1等　・2等	※10%以下・
・ JAS1038以外の製材	・		※図示	※A種　・B種	※A種・B種

3 集成材等 G

造作用集成材等 (10.2.1(3))

種　別	施工部位	品名	樹種・見付材面の品質 化粧薄板の厚さ等	寸法
・ 造作用集成材	・	・	※図示(A-　図)	※図示
・ 化粧ばり造作用集成材	・	・	※図示(A-　図)	※図示
・JAS以外の造作用集成材	・		※図示(A-　図)	※図示
・JAS以外の化粧ばり造作用集成材	・		※図示(A-　図)	※図示

造作用単板積層材 (10.2.1(4))

施工部位	品名	表面の化粧加工		防虫処理	寸法(mm)
・	・	・無し ・1等 ・2等 ・3等	・有り ・天然木化粧加工 ・塗装加工	・行う ・行わない	

直交集成板 (10.2.1(5))

施工部位	品名	強度等級	接着性能	樹種名	ラミナの構成・等級	寸法(mm)
			・A ・B ・C		※図示(A-　図)	※図示

4 合板等 G

(10.2.3)

施工部位	品名	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	単板の樹種名	防虫処理
	・普通合板	※5.5	※1類 ・2類	・2等以上 ・C-D以上	※図示(A-　図)	・有 ・無
	・構造用合板	※12	・特類 ・1類	※C-D以上	※図示(A-　図)	・有 ・無
	・化粧ばり構造用合板	・	・特類 ・1類		※図示(A-　図)	・有 ・無
	・天然木化粧合板	・	・特類 ・1類		※図示(A-　図)	・有 ・無
	・特殊加工化粧合板	・	・特類 ・1類		※図示(A-　図)	・有 ・無
	・構造用パネル	・				

構造用合板の強度等級　※２級以上　・１級

特殊加工化粧合板の表面性能　・Ｆ　・ＦＷ　・Ｗ　・ＳＷ

特殊加工化粧合板の化粧加工の方法　・オーバーレイ　・プリント　・塗装

施工部位	品名	厚さ(mm)	表面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
	・ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	・9 ※15	・	※13タイプ ・18タイプ	・耐水1(Mﾀｲﾌﾟ) ・耐水2(Pﾀｲﾌﾟ)	・難燃2級 ・難燃3級
	・ＭＤＦ	・	・	・	・耐水1(Mﾀｲﾌﾟ) ・耐水2(Pﾀｲﾌﾟ)	・難燃2級 ・難燃3級

5 接合具等

釘等 (10.2.2)

造作材化粧面の釘打ち

※ 隠し釘打ち　・ 釘頭埋め木　・ つぶし頭釘打ち　・ 釘頭現し

鋲金物形状及び材質

※ 木造標仕10.2.2(2)による

6 防腐、防蟻、防虫処理等

防腐、防蟻処理 (10.3.1)

・工場における薬剤の加圧注入処理

・JAS1083に基づく保存処理又は優良木質建材等認証制度に基づく保存処理

施工部位（適用部材）	保存処理の性能区分
・	・Ｋ２又はＡＱ３　・Ｋ３又はＡＱ２　・Ｋ４又はＡＱ１

・木造標仕10.3.1(7)(b)に基づく加圧式保存処理

施工部位（適用部材）	保存処理の性能区分	インサイジング
・	・Ｋ２又はＡＱ３相当 ・Ｋ３又はＡＱ２相当 ・Ｋ４又はＡＱ１相当	・適用する ・適用しない

・薬剤の塗布

薬剤の種類（　　）適用部材（　　）

・薬剤の接着剤への混入

施工部位（適用部材）	保存剤の種類	処理の方法
・	・	・

・合板等の加圧注入等

施工部位（適用部材）	保存処理の性能区分
・	・Ｋ３又はＡＱ２

防虫処理 (10.3.2)

・適用する（適用部位：　　）

不燃処理木材等 (10.3.3)

施工部位（適用部材）	不燃材料	準不燃材料	難燃材料
・	・	・	・

7 屋根回り

軒先　けらば回り (10.4.1)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
鼻隠し	※ 図示　・（　　）		
破風板	※ 図示　・（　　）		
広小舞　登りよど	※ 図示　・（　　）		
面戸板	※ 図示　・（　　）		

屋根下地 (10.4.2)

瓦棒葺屋根用心木材の樹種及び寸法　※ 図示　・（　　）

屋根の構造用面材の上部に通気層を設ける場合

通気垂木の樹種及び寸法　※ 図示　・（　　）

断熱材の厚さ　※ 図示　・（　　）

通気垂木に留め付ける下地合板の種類及び厚さ　※ 図示　・（　　）

軒天井下地 (10.4.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
野縁受け	※ 図示　・（　　）		
野縁	※ 図示　・（　　）		
下地板	※ 図示　・（　　）		

8 外部開口部回り

建具回り (10.5.1)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
取付下地材	※ 図示　・（　　）		
受材	※ 図示　・（　　）		

外部出入口木製建具回り (10.5.2)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
枠材	※ 図示　・（　　）		

下枠 (10.5.2)

材質、種類	厚さ(mm)	寸法(mm)	形　状
※ステンレス製	※2.0	※ 図示　・（　　）	
・花こう岩	※40以上	※ 図示　・（　　）	

外部額縁 (10.5.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
額縁材	※ 図示　・（　　）		

9 内部開口部回り

内部出入口木製建具回り (10.6.1)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
枠材	※ 図示　・（　　）		

内部窓回り (10.6.2)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
窓枠材	※ 図示　・（　　）		

10 内部床回り

内部床下地 (10.7.1)

施工部位（適用部材）	材料名	厚さ(mm)	備　考
・ 下地用床材	・ 構造用合板 ・ パーティクルボード	※12 ・15	
・ 二重張り用合板	※ 普通合板	※12　・	

内部床板張り (10.7.2)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
製材	※ 図示　・（　　）		

上がりかまち (10.7.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
製材	※ 図示　・（　　）		

11 外壁回り

外壁下地材料 (10.8.1)

施工部位	樹種名	寸法(mm)	間　隔	防腐・防蟻処理
胴縁	※ 図示　・（　　）			・適用・適用しない

施工部位	樹種名	厚さ(mm)	幅(mm)	釘の種類・寸法	防腐・防蟻処理
ラス下地板	※ 図示　・（　　）	※12	※75	※NZ50　・	・適用・適用しない

施工部位	下地用合板の留付け釘			防腐・防蟻処理
	種類	寸法(mm)	間隔(mm)	
下地用合板				・適用・適用しない

施工部位	樹種名	厚さ(mm)	幅(mm)	通気金物形状及び寸法	防腐・防蟻処理
通気胴縁	※ 図示　・（　杉　）	※18	※45		・適用・適用しない

12 外壁通気工法

通気胴縁工法 (10.8.2)

胴縁の負荷が大きい場合の接合具と留付け間隔　※ 図示　・（　　）

積雪地域の胴縁補強の方法及び高さ　※ 木造標仕10.8.2(ウ)(h)③による　・（　　）

横通気胴縁工法

胴縁の間隔　※ 図示　・（　　）

積雪地域の胴縁補強の方法及び高さ　※ 木造標仕10.8.2(ウ)(i)③による　・（　　）

13 外壁板張り

・押縁下見板張り (10.8.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
押縁	※ 図示　・（　　）		
下見板	※ 図示　・（　　）		

・南京下見板張り (10.8.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
下見板	※ 図示　・（　　）		

・横羽目板張り及び縦羽目板張り (10.8.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
羽目板	※ 図示　・（　　）		

・目板付縦羽目板張り (10.8.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
目板	※ 図示　・（　　）		
羽目板	※ 図示　・（　　）		

・敷目板張り (10.8.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
敷目板	※ 図示　・（　　）		

14 外壁造作

材料 (10.8.4)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
付け土台	※ 図示　・（　　）		
雨押え	※ 図示　・（　　）		
見切り縁	※ 図示　・（　　）		
笠木	※ 図示　・（　　）		
外部回り縁	※ 図示　・（　　）		

15 ひさし

陸ひさし (10.8.5)

種　別	樹種名	寸法(mm)	備　考
製材	※ 図示　・（　　）		

霧除けひさし (10.8.5)

種　別	樹種名	寸法(mm)	備　考
製材	※ 図示　・（　　）		

腕木ひさし (10.8.5)

種　別	樹種名	寸法(mm)	備　考
製材	※ 図示　・（　　）		

16 内部壁

内壁下地材料 (10.9.1)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	間隔(mm)	備　考
胴縁	※ 図示　・（　　）			

・横羽目板張り　・縦羽目板張り材料 (10.9.2)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
羽目板	※ 図示　・（　　）		

・目板付縦羽目板張り (10.9.2)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
目板	※ 図示　・（　　）		
羽目板	※ 図示　・（　　）		

・敷目板張り (10.9.2)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
敷目板	※ 図示　・（　　）		

〒380-0916 長野市大字稲葉字中千田2189-4 TEL026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号

管理建築士 一級建築士登録第108578号 清水　勉

図面を作成した建築士 一級建築士登録第124970号 松井　昭夫

⑩ 木工事

17 内部造作

材料 (10.9.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
幅木	※ 図示 ・（　）		
回り縁	※ 図示 ・（　）		
二重回り縁	※ 図示 ・（　）		

18 天井下地

材料 (10.9.4)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
吊木受け	※ 図示 ・（　）		
吊木	※ 図示 ・（　）		
野縁	※ 図示 ・（　）		
野縁受け	※ 図示 ・（　）		
板野縁	※ 図示 ・（　）		

19 天井板張り

・敷目天井板張り (10.9.5)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
敷目板	※ 図示 ・（　）		

・打上げ天井板張り (10.9.5)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
羽目板	※ 図示 ・（　）		

20 和室の造作

材料 (10.10.1) (10.10.2)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
柱	※ 図示 ・（　）		・背割不要処理製材
敷居	※ 図示 ・（　）		
かもい	※ 図示 ・（　）		
・			

21 壁回り

材料 (10.10.3)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
塗込め貫	※ 図示 ・（　）		

22 床回り

材料 (10.10.4)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	厚さ(mm)	備　考
畳下地板	※ 図示 ・（　）			
畳寄せ	※ 図示 ・（　）			

23 天井回り

・竿縁天井板張り (10.10.5)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
竿縁天井板	※ 図示 ・（　）		

・格縁天井板張り (10.10.5)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
格縁天井板	※ 図示 ・（　）		

24 床の間回り

材料 (10.10.7)

施工部位（適用部材）	樹種名	寸法(mm)	備　考
製材（床の間）	※ 図示 ・（　）		
製材（床脇棚）	※ 図示 ・（　）		

⑪ 防水工事

1 ＦＲＰ系塗膜防水

ルーフドレン　※ FRP系塗膜防水用ルーフドレン　・ 鋳鉄製 (11.2.2)

下地合板の上の防火板　・ 有　・ 無 (11.2.4)

材質（ ※ケイ酸カルシウム板　・　　） 厚さ（ ※10mm　・　） (11.2.4)

防水層平場の勾配 (11.2.4)

※ 1/100　・

水張り試験　※ 行う　・ 行わない (11.2.4)

2 シーリング

下表以外は、木造標仕表 11.3.1による (11.3.2,3)(表 11.3.1)

施工箇所	シーリング材の種類（記号）	目地寸法
		・図示

接着性試験　※行う　・行わない (10.3.5)

（※簡易接着性試験　・引張接着性試験）

3 ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別 [9.6.3]

※ C-SUI　・ C-SUP

4 防水テープ

両面粘着テープの幅　※ 50mm　・　mm (11.4.2)

5 バルコニー手すり

バルコニー手すり (11.4.3)

※ 木造標仕11.4.3(2)（ｹ）による。

固定方法　※　図示

6 保証書の提出

※受注者及び施工業者と連名で、保証書を提出すること。

・ FRP防水　　保証期間 10年

12 石工事

1 石材

粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ　・図示　・

・天然石張り [10.2.1][表 10.2.1～2]

天然石

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上げの種類	バフ仕上げの有無

・テラゾ張り [10.2.1][表 10.2.2]

種　類	種石の種類,大きさ(mm)	形状	仕上げ	寸法	表面仕上げ
・テラゾブロック	※大理石　※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面仕上げ ・両面仕上げ		・粗磨き ・水磨き
・テラゾタイル	※大理石　※1.5～12			・300型 ・400型	・本磨き

2 取付金物

外壁湿式工法、内壁空積工法用金物の材質、形状及び寸法 [10.2.2]

受け金物　※標仕10.2.2(1)(ｲ)による

特殊部位用金物の材質、形状等

・引金物、だぼ、かすがい及び受け金物（　　）

・吊り金物、化粧吊りボルト（　　）

アンカーの材質、寸法

・湿式工法、空積工法（　　）

あと施工アンカーの材質、寸法等（　　）

その他の取付金物（　　）

3 外壁湿式工法

下地ごしらえ ※ 流し筋工法　・ あと施工アンカー工法　・ [10.3.2～3]

石裏面処理　・適用する　・適用しない

裏打ち処理　・適用する　・適用しない

ドレンパイプの材質　※ ステンレス SUS 304　・樹脂ネットパイプクロスネット巻き

一般目地　目地幅(mm)　※6mm　・

シーリング材　・適用する　・適用しない

4 内壁空積工法

下地ごしらえ ※ あと施ｴﾝｶｰ横筋流し工法　・ あと施工アンカー工法　・ [10.4.2～3]

石裏面処理　・適用する　・適用しない

裏打ち処理　・適用する　・適用しない

一般目地　目地幅(mm)　※6mm　・

シーリング材　・適用する　・適用しない

5 乾式工法

石裏面処理　・適用する（・小口共）　・適用しない [10.5.2～3]

裏打ち処理　・適用する　・適用しない

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）

・適用しない

一般目地　目地幅(mm)　※8mm　・

シーリング材　・適用する　・適用しない

6 床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理　・適用する　・適用しない [10.6.2][10.6.3]

階段石張りの裏面処理　・適用する　・適用しない

7 特殊部位の石張り

[10.7.1～10.7.3]

施工箇所	工法	材料	厚さ	表面処理	裏打ち処理
	・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法			・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない

8 石材の剖付け

・イモ目地　・ウマ目地 [10.1.3]

9 清掃

屋内本磨き床ワックス　・行う（適用箇所　・すべて　・　　）　・行わない [10.1.5]

13 タイル工事

1 陶磁器質タイル

タイルの種類 [11.2.2,11.3.2]

主な用途区分 施工箇所	形状・寸法(mm)	吸水率区分			釉薬		役物		色		再生材適用	耐凍害性		備考
		Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施釉	無釉	あり	なし	標準	特注	G	あり	なし	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする

タイルの試験張り　※ 行わない　・行う（※ 外壁タイル　・　　）

タイルの見本焼き　※ 行わない　・行う（※ 外壁タイル　・　　）

2 伸縮調整目地、ひび割れ誘発目地

目地の位置 [11.1.3]

※ 標仕 表11.1.1による　・ 図示

3 セメントモルタルによるタイル張り

既調合モルタル [11.2.3]

・（　　）

壁タイル張りの工法 [11.2.7][表 11.2.3]

内装タイル　※ 改良積上げ張り

外装タイル　・ 密着張り　・ 改良積上げ張り　・ 改良圧着張り

コンクリート素地面の処理　・行わない　※ 行う(施工範囲　※図示　・　　) [11.2.7]

処理方法　・ＭＣＲ工法　・目荒し工法

4 有機系接着剤によるタイル張り

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・第三種 [11.3.3]

壁タイル張りの工法 [11.3.7]

・内装壁タイル接着剤張り

・外装壁タイル接着剤張り（・外装タイル　・内装タイル以外のユニットタイル　）

コンクリート素地面の処理　・行わない　※ 行う(施工範囲　※図示　・　　)

処理方法　・ＭＣＲ工法　・目荒し工法

外装壁タイル接着剤張りにおける目地シーリング材 [11.3.4]

打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系　・

伸縮調整目地、その他目地　※変成シリコーン系　・

⑭ 屋根及びとい工事

① 金属板葺

(14.3.2)(表 14.3.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類、記号	板厚(mm)
・平葺（一文字葺） ・瓦棒葺（心木なし） ・横葺 ・立て平葺	※ 塗装溶融 55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150） ・	※ 0.4 ・ 0.5

下葺材料　・ アスファルトルーフィング 940 (14.2.2)

※ 改質アスファルトルーフィング下葺材（一般タイプ）

屋根葺工法　※ 図示（A-12図）

雪止め　※ 設ける（図示 A-12・13図） (14.3.4～8)

心木の樹種及び防腐防蟻処理 (14.3.2)

樹種（　　）

防腐防蟻方法（　　）

平葺（一文字葺）工法 (14.3.4)

はぜの作り方　※ 図示　・

吊子の間隔　※ 図示　・

軒先及びけらば　唐草の留付け間隔　※ 図示　・

心木あり瓦棒葺工法 (14.3.5)

瓦棒、吊子及び釘の留付け間隔　※ 図示　・

銅板以外の板による屋根一般部分の工法

清板及びキャップの留付け方法　※ 図示　・ 木造標仕14.3.5(3)(ｱ)(c)による

棟覆い

銅板以外　棟板の材質及び留付け間隔　※ 図示　・

銅板　通し付け子の留付け間隔　※ 図示　・

唐草　留付け間隔　※ 図示　・

心木なし瓦棒葺工法 (14.3.6)

棟覆いの釘の留付け間隔　※ 図示　・

軒先の釘の留付け間隔　※ 図示　・

屋根の流れ方向に並行な壁との取合い部

雨押えを付ける場合　※ 図示　・ 木造標仕14.3.6(4)(ｵ)(a)による

雨押えを用いない場合　※ 図示　・ 木造標仕14.3.6(4)(ｵ)(b)による

横葺工法 (14.3.7)

特殊工法　※ 図示　・

立て平葺工法 (14.3.8)

吊子の工法　※ 図示　・

特殊工法　※ 図示　・

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）

・適用しない

屋根の構造用面材の上部に通気層を設ける場合

通気垂木の樹種及びせん、断熱材の厚さ　※ 図示　・

通気垂木に留付ける下地合板の種類及び厚さ　※ 図示　・

② 折板葺

(14.4.2～3)

形　　式	※ 重ね形　⊙はぜ締め形　・かん合形
形　状(mm)	山高（　90　）　山ピッチ（　600　）
材　　料（規格等）	※ 塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ 150） ・
耐力区分	（　　）種
厚さ(mm)	※ 0.6　・0.8
軒先面戸板	※ 有り　・無し

断熱材張り

・行う　断熱材（種別：　　厚さ(mm)　　防火性能　　時間）

・行わない

タイトフレームを留め付ける下地材

（材質：　　形状：　　寸法：　　）

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）

・適用しない

雪止め　※ 設ける（図示 A-〇〇図）

3 粘土瓦葺

(14.5.2)

種　類	大きさ	産　地	役　物	雪止め瓦	備　考

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）

・適用しない

棟の工法 (14.5.3)

・冠瓦伏せ棟　・のし積み棟

面戸、雀口及び葺土の露出する瓦接合部の仕上げ

・モルタル　・瓦葺き用しっくい

4 スレート葺

(14.6.2)

種　類	寸　法	形　状	棟･けらば等役物	色　彩	備　考

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）

・適用しない

5 アスファルトシングル葺

(14.7.2)

品　質	寸　法	形　状	色　彩	備　考

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）

・適用しない

⑥ とい

材　種　・金属板　・銅板　⊙硬質塩化ビニル樹脂 (14.8.2)(表 14.8.1)

金属製とい (14.8.3)

部　位	金属板の種類	板　厚	備　考
と　い			
谷どい			

塩ビとい (14.8.3)

種　類	外　径	厚　さ	集水器･あんこうの形	備　考
たてとい	φ75	5.5		
のきとい	150×150	1.6	じょうご	

⑦ 保証書

※受注者及び施工業者と連名で、保証書を提出すること。

・ガルバリウム等　保証期間 10年

・折　板　保証期間 10年

・長尺カラー鉄板　保証期間 5年

⑮ 金属工事

① あと施工アンカー

引抜耐力の確認試験　※ 行う [14.1.3]

[14.2.1]

種　類	施工箇所
※ ＨＬ程度	下記以外の見え掛かり全て
・ №2 Ｂ 程度	
・ 鏡面仕上げ	

3 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

[14.2.2][表 14.2.1]

種　別	施工箇所
・ AB-1 種（無着色）	
・ BB-1 種（無着色）	
・ BB-2 種（・ﾌﾞﾗｳﾝ系　・ﾌﾞﾗｯｸ　・ｽﾃﾝﾚｽｶﾗｰ）	

陽極酸化皮膜も着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

4 鉄鋼の亜鉛めっき

[14.2.3][表 14.2.2]

表面処理方法	種　別	施工箇所
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

5 軽量鉄骨天井下地

・ダクト等により吊ボルト間隔が900mmを超える場合の補強　※図示（A- 図） [14.4.4]

・天井ふところ 1.5m 以上の場合　※吊りボルトの補強を行う

・天井ふところ 3.0m を超える場合の補強　※図示（A- 図）

・耐震性を考慮した補強　※ 図示（A- 図）

・屋外の軒天井及びピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強　※ 図示（A- 図）

6 軽量鉄骨壁下地

スタッドの高さが５ｍを超える場合　※図示 [14.5.3][表 14.5.1]

7 金属成形板張り

[14.6.2][表 14.2.1]

形　状	製　法	材　種	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面処理
・ スパンドレル形	・ 押出し ・ ロール	※ アルミニウム製 ・			・ B-1 種 ・ B-2 種（　）
・ パネル形	※ プレス ・				・

伸縮調整継手　※ 設けない　・ 設ける（施工箇所は図示）

8 アルミニウム製笠木

[14.7.2][表 14.2.1][表 14.7.1]

種　類	呼称肉厚(mm)	表面処理	固定間隔	備　考
・250 形	1.6 以上	※ A-1 又は B-1 種 ・ B-2 種（　）	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。
・300 形	1.8 以上			
・100 形				
・				

9 手すり

[14.2.1][14.8.2][表 14.2.2]

材料の種別	表面処理
※ ステンレス SUS 304	※ ＨＬ程度　・ 鏡面程度　・
・ 鉄	亜鉛めっき（外部 ※C種　・　内部 ※E種　・　）

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306

一級建築士事務所登録（長野）I-83311号

管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉

図面を作成した建築士　一級建築士登録第124970号　松井　昭夫

⑯ 左官工事

1 ラス系下地 [15.2.4]
種類
通気工法 ・二層下地 ・単層下地 ・（ ）
直張り工法 ・ラスモルタル下地 ・ラスシートモルタル下地 ・（ ）
通気工法（外張断熱工法） ・（ ）
建築基準法に基づく指定がある場合の仕様
ラス下地板 ※図示 ・（ ）
下地用合板 ※図示 ・（ ）
面材等 ※図示 ・（ ）
材料
ラス及び補強用平ラス
素材による区分，種類及び単位面積当りの質量
※2種波形ラス700（通気工法二層下地） ・（ ）
※2種防水紙付きリブラス800（通気工法単層下地） ・（ ）
ラスシート
山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチ
※LS4（耐力壁） ・（ ）
ステープル
形状及びﾋﾞﾘ寸法
※L925TS（リブラス） ※L1019JS（波形ラス） ・（ ）
施工
通気工法二層下地の場合の換気口の措置
※公共建築木造工事標準仕様書1.4.3(2)(ｳ)による ・図示
直張工法のラスシートモルタル下地の場合のラスシートの施工（耐力壁）
※図示

② せっこうボード その他のボード下地 [15.2.5]
材料
せっこうボード及びラスボードの種類、厚さ ※図示 ・（ ）
木質系セメント板の種類、厚さ ※図示 ・（ ）

3 こまい下地 建築基準法に基づく耐力壁の指定 ※図示 ・（ ） [15.2.6]

4 木ずり下地 [15.2.7]
材料
木ずり用小幅板の樹種 ※杉（心去り材） ・（ ）

5 モルタル塗り [15.3.2]
モルタルの種類
・既調合モルタル ・普通ポルトランドセメント ・図示
既成目地材 [15.3.2]
・使用しない ・使用する（形状、寸法は図示）
床目地 ・設ける（工法： ） ・押目地 [15.3.5]

⑥ 床コンクリート直均し仕上げ 標仕 15.4.2 及び標仕表 6.2.5 による [15.4.2][表 6.2.5]

7 ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り ・せっこう系 ・セメント系 [15.5.2][表 15.5.1]

8 仕上塗材仕上げ [15.6.2][表 15.6.1]

種類	呼び名	仕上げの形状等	
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓi	・	
	・可とう形外装薄塗材Ｓi	・	
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状	
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状	
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状 ・さざ波形 ・凹凸状	
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状	
	・内装薄塗材Ｃ	・	吸放湿性
	・内装薄塗材Ｌ	・	・有 ・無
	・内装薄塗材Ｓi	・	
	・内装薄塗材Ｅ	砂壁状じゅらく	
	・内装薄塗材Ｗ	京壁状じゅらく	耐湿性 ・有 ・無
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ※凹凸模様	
	・複層塗材Ｓi	耐候性 ※3種 ・	
	・複層塗材Ｅ	上塗材	
	・複層塗材ＲＥ	溶媒 ※水系 ・溶剤系	
	・可とう形複層塗材ＣＥ	樹脂 ※アクリル系	
	・防水形複層塗材ＣＥ	・ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系 ・ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ系	
	・防水形複層塗材Ｅ	外観 ※つやあり ・つやなし	
	・防水形複層塗材ＲＥ	・メタリック	
	・防水形複層塗材ＲＳ	防水形の増塗材 ※行う	
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状	
	・こて塗用軽量塗材	平たん状	

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外 ・ 第三種
防火材料の指定 [15.6.2]
※ 屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。
所要量等の確認 [15.6.7]
※ 行う（単位面積当たりの使用量） ・行わない

9 しっくい塗り
下地 ※図示 ・（ ） [15.10.1]
材料 ・現場調合材料図示 ・既調合材料（しっくい塗材の種類等 ） [15.10.2]
調合及び塗厚 [15.10.3]
木ずり下地の場合 ※[表15.10.1]による ・（ ）
こまい土壁下地の場合 ※[表15.10.2]による ・（ ）
その他の下地の場合 ※図示による ・（ ）

10 こまい壁塗り
材料 [15.11.2]
のり
土壁用 ※つのまた ・（ ）
砂壁用 ※ふのり ・（ ）
色土
土物仕上げに用いる色土の種類 ・（ ） ・図示
大津仕上げに用いる色土の種類 ・（ ） ・図示
色砂 ・（ ） ・図示
調合 [15.11.3]
下塗りの調合 ※[表15.11.2]による ・（ ）
塗厚 [15.11.4]
※[表15.11.2]による ・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（ ）mm
工程 [15.11.5]
※A種 ・B種

11 土物仕上げ
工法 [15.11.7]
・土物仕上げ工法（・水ごね土物1 ・水ごね土物2 ・のりさし仕上げ ・のりごね仕上げ）
・砂壁仕上げ工法 ・切返し仕上げ工法

12 大津仕上げ
工法 [15.11.8]
・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき仕上げ工法

⑰ 建具工事

1 防火戸 [16.1.3]
防火戸の指定 ※図示（建具表による）
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸と連動させるもの
・図示 ・ヒューズ装置 ・熱感知器 ・煙感知器

2 見本の製作等 [16.1.4]
建具見本製作 ・行う（・工事に使用するもの ・納まりの確認） ※行わない
特殊な建具の仮組 ・行う（建具符号： ）※行わない

3 防犯建物部品 ※適用する（図示） ・適用しない [16.1.6]

④ アルミニウム製建具 [16.2.2][16.2.4][表 16.2.2]
外部に面する建具（木下地）

種別	耐風圧性	気圧性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・D種	S－2	※A-3	※W-3	※ 70	※ 図示
・E種	S－3	・	・	・	

表面処理 ※ BB-1種 ・ BB-2種（・ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ｱﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝｶﾗｰ） [表 14.2.1]
水切板、ぜん板等 ※図示による
防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級（ ）
断熱ドアセット、断熱サッシ G ・ 適用する 断熱性の等級（ ）
屋内建具
表面処理 ※ BC-1 種又は BB-1 種 [表 14.2.1]
・ BC-2 種又は BB-2 種（・ﾌﾞﾗｳﾝ系 ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）
結露水の処理方法 ※図示（A- 図） [16.2.4]
シャッター
・ 建具一体型 ・ 後付け
雨戸
・ アルミニウム製 ・ 塗装鋼板

⑤ 網戸 [16.2.3]
防虫網
網の種別 ※ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ 合成樹脂製 ・ ステンレス製（SUS 316）
形 式 ※ 外部可動式 ・ 固定式

6 樹脂製建具 [16.3.2,4][表 16.3.2～4]
外部に面する建具（木下地）

種別	耐風圧性	気圧性	水密性	枠見込み	遮音性能等級	断熱性能等級
・D種	S－2	A－4	W-3	※ 建具表による	・T-A種 ・T-B種	・H-A種 ・H-C種 ・H-B種
・E種	S－3					

表面色 ※ 標準色 ・ 特注色

7 鋼製建具 [16.4.2][表 16.4.1]
簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950㎜ [16.4.4]
又は有効高さが2,400㎜を超える場合の鋼板類の厚さ ※図示

8 鋼製軽量建具 [16.5.2]
簡易気密型ドアセットの適用 ※ 建具表による
片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950㎜ [16.5.4]
又は有効高さが2,400㎜を超える場合の鋼板類の厚さ ※図示

9 ステンレス製建具 [16.6.4]
表面仕上げ ※ ＨＬ程度 ・ 鏡面仕上げ
曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ（補強あり） [16.6.5]
特定防火設備の戸 ・ 適用あり [表 16.6.1]

施工箇所	鋼材の種類
屋外	※ SUS304又はSUS430JIL
屋内	※ SUS430 ・ SUS304又はSUS430JIL

10 木製建具 [16.7.2]
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外 ・ 第三種
フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ｳﾚﾀﾝ程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う	
・天然木化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う	
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 （ ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾞﾘｯﾄ ・塗装 ） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う	

表面材の厚さ ※標仕表16.7.6による ・

かまち戸
かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ） [16.7.2]
見込み寸法 ※36㎜ ・建具表による ・
ふすま
張りの種別 （ ・Ⅰ型 ・Ⅱ型 ） [表 16.7.3]
ふすまの上張り ※ 新鳥の子又はビニル紙程度(押入等の裏面は除く)・鳥の子
縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装） [表 16.7.10]
見込み寸法 ※19.5㎜ ・ 建具表による [16.7.3]
戸ぶすま
見込み寸法 ※30㎜ ・ 建具表による [16.7.3]
紙張り障子
見込み寸法 ※30㎜ ・ 建具表による [16.7.3]
枠、くつずりの材料 ※ 建具表による ・（ 枠： くつずり： ）

⑪ 建具用金物
マスターキー ※ 製作する（3本1組を鍵箱に収納） ・ 製作しない [16.8.4]
建具用金物 [16.3.6][16.5.6]
錠類はシリンダー箱錠（レバーハンドル）とする

12 自動ドア開閉機構 [16.9.2、3][表 16.9.1～4]

開閉方式	センサーの種類
※ スライディングドア ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2 ・ スイングドア ・ SWD-1 ・ SWD-2	※ 光線反射センサー ・ 熱線センサー ・音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ ・ 押しボタンスイッチ ・ 多機能トイレスイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

13 自閉式上吊り引戸装置 [16.10.2,3]
材料 ※ SUS 304 アルミニウム製等 防錆性能を有するもの
・ 製造所標準仕様による
性能等 ※ 標仕表 16.10.1 による
・ 製造所標準仕様による

14 重量シャッター [16.11.2]

シャッターの種類	
・ 一般重量シャッター	耐風圧強度（ ）N/㎡
・ 外壁用防火シャッター	耐風圧強度（ ）N/㎡
・ 屋内用防火シャッター	
・ 屋内用防煙シャッター	

開閉機能 ※ 上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式 [16.11.2][表 16.11.1]
保護装置
落下防止装置 ・二重チェーン ・急降下制動装置 ・急降下停止装置
危害防止機構 ※ 障害物感知装置（自動閉鎖型） ・ シャッターの二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース ※ 設ける ・ 設けない [16.11.2]
スラット及びシャッターケース用鋼板 [16.11.3]
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板） ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっきの付着量 ※Z12又はF12 ・ [16.11.3]

⑮ 軽量シャッター 開閉形式 ※ 手動式 ・ 上部電動式（手動併用） [16.12.2][表 16.12.1]
スラット 材質 ※ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は JIS G 3318（塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯）
・ 鋼板 [16.12.3]
形状 ※ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 [16.12.4]
ガイドレール等 ※ 鋼板製 ・ ステンレス製 SUS 304 [表 16.12.2]
耐風圧強度（ ）N/㎡

16 オーバーヘッドドア [16.13.2～3]

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板（SUS 304）

耐風圧性能（ ）Pa

17 ガラス [16.14.2]
材料
品種及び厚さによる種類 ※ 建具表による
ガラス留め材 [16.14.2][表 9.7.1]

建具の種類	材 種
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ ガスケット（ＦＩＸ部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材
ステンレス製	※ シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ [16.14.3]
標仕 16.13.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会 JASS 17 ｶﾞﾗｽ工事「3.1 納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する

18 ガラスブロック [16.14.5]
材料

表面形状	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	防火性能
・ 正方形 ・ 長方形	・	・	※ クリア ・カラー	※ 無し ・ 有り

壁用金属枠及び補強材 ・設ける（形状※図示 ・ ） ・設けない
化粧目地モルタルの色（ ）
ガラスブロック積みの金属製化粧カバー
材質（・ステンレス ・アルミニウム） 寸法（※図示 ・ ） 形状（※図示 ・ ）
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない

19 ガラス用フィルム（内張り用）

用途による区分	記号
・ ガラス飛散防止フィルム	※ GS-A-B
・ 日射調整フィルム/ガラス飛散防止フィルム	・ SC-A/GS-A-B ・ SC-B/GS-A-B
・ ガラス貫通防止フィルム	※ SF-A
・ 日射調整フィルム/ガラス貫通防止フィルム	・ SC-A/SF-A ・ SC-B/SF-A

品質 JIS A5759 による

⑱ 塗装工事

1 材料 [18.1.3]
屋内の壁、天井仕上げ材は防火材料とする
ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

2 素地ごしらえ [18.2.4][表 18.2.3][表 18.3.4]
亜鉛めっき面の素地ごしらえの種別

種 別	施工部位及び塗料種別
Ａ種	工場で行われる化成皮膜処理
Ｂ種	工事現場で行われる汚れ、付着物の除去、脱脂

3 床用塗料塗り
材 質 ウレタン樹脂系塗料（※ 標準色 ・ ）
仕上種別 ※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ
塗布量 プライマー塗りのうえ主剤 2 回塗りとし、総塗布量は 0.5kg/㎡ 以上とする

4 防塵用塗料塗り
材 質 水性アクリル系樹脂塗料（※ 標準色 ・ ）
仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量 主剤 2 回塗とし、総塗布量は 0.25kg/㎡ 以上とする。

5 クリヤラッカー塗り 木部のクリアラッカー塗り ・Ａ種 ※Ｂ種 [18.5.2]

⑥ 耐候性塗料塗り [18.7.2]
鉄鋼面の上塗り等級

等 級	塗料種別
・1級	ふっ素樹脂塗料
・2級	アクリルシリコン樹脂塗料
・3級	ポリウレタン樹脂塗料

[18.7.3]
亜鉛めっき鋼面の上塗り等級

等 級	塗料種別
・1級	ふっ素樹脂塗料
・2級	アクリルシリコン樹脂塗料
・3級	ポリウレタン樹脂塗料

[18.7.4]
コンクリート面及び押出成形セメント板面種別

種 別	塗料種別
・Ａ種	ふっ素樹脂塗料
・Ｂ種	アクリルシリコン樹脂塗料
・Ｃ種	ポリウレタン樹脂塗料

7 つや有合成樹脂エマルションペイント塗り コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面 ・Ａ種 ※Ｂ種 [18.8.2]

⑧ 合成樹脂エマルションペイント塗り コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面 ・Ａ種 ※Ｂ種 [18.9.2]

9 ウレタン樹脂ワニス塗り 木部のウレタン樹脂ワニス塗り ・Ａ種 ※Ｂ種 [18.11.2]

10 木材保護塗料塗り 屋外木部の木材保護塗料塗り ・Ａ種 ※Ｂ種 [18.13.2]

⑲ 内装工事

1 接着剤 [19.2.2][19.3.3]
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種
※ 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

2 ビニル床シート張り G [19.2.2]

種 類	JIS の記号	色 柄	厚さ(mm)
※ 発泡層のないもの	※ ＦＳ ・	※ 無地 ・マーブル柄	※ 2.0 ・
・ 発泡層のあるもの		※ 柄物 ・無地	
・			

工法 ※ 熱溶接工法 ・突付け（施工箇所： ） [19.2.3]
特殊機能 [19.2.2]
帯電防止 ・適用する
性能 ※帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値(JIS A 1454)1.0×10 ～10 Ω程度
※適用しない

3 ビニル床タイル張り G [19.2.2]

種 類	JIS の記号	厚さ(mm)	備 考
※ コンポジションビニル床タイル（半硬質）	ＫＴ	※ 2.0	
・ コンポジションビニル床タイル（軟質）	ＫＴ	・	
・ ホモジニアスビニル床タイル	ＴＴ、ＦＴ	・	

〒380-0916 長野市大字稲葉字中千田2189-4 Tel.026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士 一級建築士登録第108578号 清水 勉
図面を作成した建築士 一級建築士登録第124970号 松井 昭夫

19 内装工事

4 帯電防止床タイル張り G

[19.2.2]

種類	厚さ(mm)	性能
・コンポジションビニル床タイル	※ 2 ・	体積抵抗値（JIS K 6911 による）
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0 ・ 4.5	1.0×10^{9} Ω以下、または、
・	・	漏えい抵抗値（JIS A 1454 による）
・	・	1.0×10^{10} Ω未満

⑤ ビニル幅木

[19.2.2]

材質　※ 軟質　・硬質
高さ(mm)　※ 60　・ 70　・100
厚さ(mm)　※1.5　・

6 カーペット敷き

消防法に定める防炎性能を有するものとし、防炎表示のあるものとする

・織じゅうたん [19.3.2、3][表 19.3.1～2]

種別	パイル形状	色柄等	備考
・A種	・カットパイル	※ 無地	
・B種	・ループパイル	・柄物（標準品）	
・C種	・カット、ループパイル併用	・	

帯電性　・適用する（※ 人体帯電圧 3kV 以下　・　）　※適用しない
下敷き材　※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・タフテッドカーペット G [19.3.2、3][表 19.3.2]

パイル形状	パイル長(mm)	工法	備考
・カットパイル	※ 5～7 ・	※ 全面接着工法	
・ループパイル	※ 4～6 ・	・グリッパー工法	
・カット、ループ併用	・		

帯電性　・適用する（※ 人体帯電圧 3kV 以下　・　）　※適用しない
下敷き材（グリッパー工法の場合）
※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・ニードルパンチカーペット G　（厚さ　mm）
帯電性　・適用する（※ 人体帯電圧 3kV 以下　・　）　※適用しない

・タイルカーペット [19.3.2][表 19.3.2]

パイル形状	種類	形状	総厚さ(mm)	備考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・カットパイル				
・カット・ループ併用				

帯電性　・適用する　（※人体帯電圧 3kV 以下（フリーアクセスフロア敷設範囲））
※適用しない
タイルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・模様流し　・
階段　・市松敷き　※模様流し　・
見切り、押え金物　※適用する
材質（　）　種類（　）　形状（　）
・適用しない

7 合成樹脂塗床

[19.4.2、3][表 19.4.1～8]

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床材			※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床材		※ 薄膜流し展べ仕上げ ・ 厚膜流し展べ仕上げ ・ 樹脂モルタル仕上げ	※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量　[19.4.2]
※ 規制対象外　・ 第三種

8 フローリング張り

・単層フローリング G [19.5.2～7][表 19.5.1～4]

種別	工法	樹種	厚さ	仕上げ塗装等
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ	・釘どめ(根太張り) ・釘どめ(直張り) ※接着工法	※ なら ・ ひのき ・	※ 15 ・ 12 ・	※ 塗装品 ・ 無塗装品 ・ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜｰｽ塗り ・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗りﾜｯｸｽ塗 ・生地のままﾜｯｸｽ塗
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ	※接着工法 ・ﾓﾙﾀﾙ流し込み			
・ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ	※接着工法			

※天然木化粧複合フローリング G

種別	工法	樹種	厚さ	種別	仕上げ塗装等
・複合1種 ・複合2種 ・複合3種	・釘どめ(根太張り) ・釘どめ(直張り)	※ なら ・		・ A種 ・ B種 ※ C種	※ 塗装品
	※接着工法		※ 8 ・		

ホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・ 第三種　[19.5.2]
間伐材等の適用　・有　・無
防湿処理　・適用する　・適用しない　[19.5.4]
接着工法の場合の緩衝材　※合成樹脂発泡シート　・　[19.5.5]

9 畳敷き

[19.6.2][表 19.6.1]

下地の種類	畳の種別
標仕表 12.5.1 による床組	※ Ｂ種
ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G）	※ Ｃ種

畳表及び畳床は VOC 含有量が少ないものとする

⑩ ポリスチレンフォーム床下地材

ノンフロンのもの G
畳下地　厚さ(mm)　※ 40　・ 65　・ 80　（不燃）
フローリング類　厚さ(mm)　※ 80　・ 95　（不燃）

11 浴室天井材

市販品

材質	表面仕上げ	性能	幅(mm)	備考
※ アルミニウム製	※ 焼付け塗装品	準不燃品	※ 200	回り縁は縁付きとし製造所の標準品とする。

⑫ せっこうボード その他のボード張り

[19.7.2][表 19.7.1]

種類	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板 G	・ 15　・ 20　・ 25
・普通木毛セメント板 G	・ 15　・ 20　・ 25
・硬質木片セメント板 G	・ 15　・ 20　・ 25
・普通木片セメント板 G	・ 30
⊙ けい酸カルシウム板	※0.8 Fk タイプ 2（無石綿）（⊙ 6　・ 8　・）
	・ 化粧ボード（　・　・　・　）
・ ロックウール化粧吸音板	※ フラットタイプ（※ 9（不燃）・ 12　・　）
	・ 凹凸タイプ（※ 12（不燃）・ 15　・ 19　・　）
⊙ せっこうボード	※ 12.5（不燃）　・ 9.5（準不燃）
・ 不燃積層せっこうボード	9.5（不燃）化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・ シージングせっこうボード	12.5（不燃）
・ 強化せっこうボード	12.5（不燃）　15.0（不燃）
・ せっこうラスボード	9.5
・ 化粧せっこうボード（木目）	12.5（不燃）　幅 440mm 程度 模様（※ 柾目　・ 板目）専用下地材付き
⊙ 化粧せっこうボード（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ）	9.5（準不燃）
・ 普通合板（難燃処理） G	表面の材種 ・ 生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・ 不透明塗料塗り（しな合板程度） 板面の品質（　） 厚さ（mm）（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
・ 天然木化粧合板 G	樹種名（　） 接着の程度（ ・1類　・2類 ） 厚さ（mm）（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
・ 特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法　（ ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ｸﾞﾘｯﾄ ・塗装 ） 表面性能　（　）タイプ 接着の程度（ ・1類　・2類 ） 厚さ（mm）（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
・ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による　厚さ 1.2
・ ポリエステル樹脂化粧板	
・ ミディアムデンシティファイバーボード G	・ 素地 MDF(RS)化粧 MDF(・ DV ・ D0 ・ PC) ・ 3　・ 7　・ 9　・ 12
・ 単板張り パーティクルボード G	・ 無研磨板　VN ・ 研磨板　VS ・ 10　・ 12　・ 15　・ 18
・ 化粧 パーティクルボード G	・ 単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ 塗装 ・ 10（難燃）　・ 12（難燃）
・ ハードボード（素地） G	・ 素地　・ RN－HB　・ RS－HB ・ 2.5　・ 3.5　・ 5　・ 7
・ インシュレーションボード G	・ T－IB　・ A－IB　・ S－IB ・ 9　・ 12　・ 15　・ 18
・ ロックウール吸音ボード１号	※ 25
・ グラスウール吸音ボード 32K	※ 25(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み)

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外　・ 第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材　[19.7.2][表 9.6.1]
・ 適用する　（・ シーリング材　・ ジョイントコンパウンド）
合板類の張付け　・A種　※B種　[19.7.3]
せっこうボードの目地工法　（・ 継目処理工法　・ 突付工法　・ 目透し工法　・ 図示）[19.7.3]

13 壁紙張り

[19.8.2]

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維(織物)	プラ(ビニル)	その他(化学繊維)	無機質	防火性能	備考
	・	・	・	・	・	・ 不燃・ 準不燃・ 難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃・ 準不燃・ 難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃・ 準不燃・ 難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃・ 準不燃・ 難燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃・ 準不燃・ 難燃	

素地ごしらえ　[表 18.2.4][表 18.2.7]
モルタル面、プラスター面　※ Ｂ種　・ Ａ種（施工箇所：　）
コンクリート面、ＡＬＣ面　※ Ｂ種　・ Ａ種（施工箇所：　）
せっこうボード面　※ Ｂ種　・ Ａ種（施工箇所：　）
壁紙のホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・ 第三種　[19.8.2]

20 断熱・防露、ユニット及びその他の工事

① 断熱材等

・断熱材 (20.1.2)(表20.1.1)

種類		施工箇所	厚さ(mm)又は使用量	品質等
⊙ ﾌｪﾉｰﾙ状断熱材	⊙ ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	外壁面	100	
	・ ﾛｯｸｳｰﾙ			
・ボード状断熱材	・ ｸﾞﾗｽｳｰﾙ			
	・ ﾛｯｸｳｰﾙ			
	・ 木質繊維			
・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材	※ A種2種ｂ	※ 一般部	※ 25	ノンフロンのもの G
	※ A種3種ｂ	・	※ 25 ・	ノンフロンのもの G
・ ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材	※ A種1種	・	・	ノンフロンのもの G
・ 現場発泡断熱材	※ A種Ⅰ	※ 断熱材補修部分	——	ノンフロンのもの G
		・一般部 ・	※ 25 ・	※ 難燃性

ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材の
ホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外　・ 第三種

・防湿材
種類　・木造標仕20.2.2(2)(ｱ)　・木造標仕20.2.2(2)(ｲ)　・木造標仕20.2.2(2)(ｳ)
厚さ　・
施工箇所　※図示　・
・気密材
種類　・木造標仕20.2.3(ｱ)　・木造標仕20.2.2(3)(ｲ)　・木造標仕20.2.2(3)(ｳ)
・木造標仕20.2.2(3)(ｴ)　・木造標仕20.2.2(3)(ｵ)　・木造標仕20.2.2(3)(ｶ)
・木造標仕20.2.2(3)(ｷ)
厚さ　・
施工箇所　※図示　・
・防風材
種類　・木造標仕20.2.2(4)(ｱ)　・木造標仕20.2.2(4)(ｲ)　・木造標仕20.2.2(4)(ｳ)
・木造標仕20.2.2(4)(ｴ)　・木造標仕20.2.2(4)(ｵ)
厚さ　・
施工箇所　※図示　・
断熱材の施工
・充填断熱工法
・外張断熱工法
防蟻処理　※行う　・行わない
防湿層の施工
・省略する
床下及び小屋裏等の点検口まわり　・木造標仕20.2.4(5)(ｳ)(b)
コンセント及びスイッチボックスまわり　・木造標仕20.2.4(4)(ｺ)(b)①
・木造標仕20.2.4(4)(ｺ)(b)②

② サイディング工事

⊙ 窯業系サイディング (20.3.2)

種類	形状	働き長さ	働き幅(mm)	厚さ(mm)	表面模様	耐凍害性能
・素板ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ ・塗装用ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ ⊙化粧ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	・縦張り用 ⊙横張り用	・1820mm ・2730mm ⊙3030mm ・ mm	・182 ・303 ⊙455 ・	・12 ・15 ・18 ⊙16	⊙フラット ・木目調 ・タイル調 ・	・あり ⊙なし

防火、耐火性能（ ・耐火構造 ・準耐火構造 ・防火構造 ・準防火構造 ・なし ）
現場塗装用サイディングの下地処理及び仕上げ（　）
通気胴縁　樹種　※杉　・図示　寸法　※図示
通気胴縁の防腐処理方法（　）

・複合金属サイディング (20.3.3)

種類	形状	有効幅(呼び寸法)	長さ(mm)	厚さ(mm)	表面材・しん材の種別
・1種 ・2種	・縦張り用 ・横張り用	・150ﾀｲﾌﾟ・140ﾀｲﾌﾟ ・170ﾀｲﾌﾟ・165ﾀｲﾌﾟ ・225ﾀｲﾌﾟ・215ﾀｲﾌﾟ ・ ﾀｲﾌﾟ・ ﾀｲﾌﾟ	・2727 ・3030 ・3636 ・	・12～15 ・15～18	・塗装溶融亜鉛めっき鋼板・塩化ビニル鋼板 ・せっこうﾎﾞｰﾄﾞt9.5 ・せっこうﾎﾞｰﾄﾞt12.5

防火、耐火性能（ ・耐火構造 ・準耐火構造 ・防火構造 ・準防火構造 ・なし ）
現場塗装用サイディングの下地処理及び仕上げ（　）
通気胴縁　樹種　※杉　・図示　寸法　※図示
通気胴縁の防腐処理方法（　）

3 トイレブース

[20.2.5]

表面材の材質	脚部形状	ドアエッジ 形状	ドアエッジ 材質	備考
・ メラミン樹脂系化粧板	※ 幅木型	・ 標準	・ アルミニウム	ｱﾙﾐ製ｺｰﾅｰｴｯｼﾞ付き
・ ポリエステル樹脂系化粧板	・足金物型	・ R	・ ステンレス	

パネル材料のホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

4 階段手すり

[20.2.6]

種別	施工箇所
※ 集成材クリアラッカー仕上げ（市販品）	
・ ビニル製ハンドレール	

5 階段滑止め

材種　ステンレス SUS 304　[20.2.7]
形状　ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド　※ 有り（・ ステンレス製　※ ビニル製）　・ 無し
幅(mm)　・35　・
取付け工法　※ 接着工法　・ 埋込み工法

6 黒板及びホワイトボード

[20.2.9]

種類		寸法(mm)	色彩	備考
・ 黒板	※ 焼付け		※ 緑 ・ 黒	※平面 ・ 曲面 ・ ｽｸﾘｰﾝ付引分
・ ホワイトボード	※ ほうろう		※ 白	※平面 ・ 曲面 ・ ｽｸﾘｰﾝ付引分

7 鏡

寸法（mm）　・ 図示　・　[20.2.10]
厚さ（mm）　※ 5　・

8 表示

衝突防止表示　[20.2.11]
※ 図示（市販品 ※ ステンレス製 径約 30 mm　・　）
（※ 両面 ・ 片面）
・無し
表示標識　案内用図記号については JIS Z 8210 によるほか、図示による。
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。

9 ブラインド

[20.2.14]

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅(mm)
※ 横型	※ 手動	※ ｷﾞﾔ式 ・ ｺｰﾄﾞ式 ・ 操作棒式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	※ 25
	・ 電動		・	・
・ 縦型	・ 手動	・ 1本操作ｺｰﾄﾞ ※ 2本操作ｺｰﾄﾞ	・ ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ	・ 80
	・ 電動		・ ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・ 100

10 ロールスクリーン

防炎性能　※ 有り　[20.2.15]

取付箇所	材種	操作方法	種類	幅、高さ	遮光性能
		※ 手動	・ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式 ・ ｺｰﾄﾞ式		・1級・2級・3級
		・ 電動			

11 カーテン

防炎性能の表示があるものとする　[20.2.16]

施工箇所	種別 ﾄﾞﾚｰﾌﾟ	ｼｬｰ	形式 ｼﾝｸﾞﾙﾀﾞﾌﾞﾙ	片引	引分	装置 電動	ひも引	手引	性能	備考
	・	・	・	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・	・	・	・		
	・	・	・	・	・	・	・	・		

カーテン用きれ地
ひだの種類　・プレーンひだ　・片ひだ　・箱ひだ　・つまひだ　・フランスひだ
特殊加工　※ 防炎加工　・

12 カーテンレール

材種　※ アルミニウム製　・ ステンレス製　[20.2.14]
形式　・ シングル　・ ダブル
・ 片引き　・ 引分け

13 ブラインドボックス及びカーテンボックス

・市販品（アルミニウム製 押出し型材）　※ 木製
溝幅×深さ（mm）　・ 90×150　・ 120×80　※ 120×150　・ 150×80　・
色彩　※ Ｂ－1　・ Ｂ－2（※ ブラウン系　・ ブラック　・ ステンカラー）
・図示

14 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊙ アルミニウム製	⊙ 450×450	⊙ 一般型	・ 屋内外用	⊙ 枠ﾀｲﾌﾟ	⊙ 枠ﾀｲﾌﾟ
・	・ 600×600	⊙ 屋内用		・ 目地ﾀｲﾌﾟ	・ 目地ﾀｲﾌﾟ
		・ 密閉型			

15 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・ アルミニウム製	・ 450×450	・ 一般型	・ 屋内外用	・ 鍵付き
・ ステンレス製	・ 600×600	・ 密閉型	・ 屋内用	
・ 鋼製		・ 結露防止型		

16 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1種　・ 2種　・ 3種
・ 鋼製物品棚		・ 4種　・ 5種　・ 6種

17 かぎ箱

市販品
形式　（ ・ 30 組用　・ 60 組用　・ 120 組用　・　）

18 くつふきマット

市販品
材質　・塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）　・ ビニル製（ステンレス製受枠）
・ 硬質アルミニウム製（受枠とも）　・ ステンレス製（受枠とも）

19 流し台ユニット

種類	寸法(L= mm)	適用内容	規格 ・ 品質等
・ 流し台	※ 1200　・ 1500　・ 1800	トラップ付き	※ 優良住宅部品
・ コンロ台	※ 600　・ 700	ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ ※ 有り	(ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ I 型)
・ つり戸棚	※ 1200　・ 900　・ 600		・
・ 水切り棚	※ 1200　・ 900	ｽﾃﾝﾚｽ製 ※ 1段式	※ 市販品

20 屋内掲示板

枠の材質　※ アルミニウム製
表面の材質　※ 塩ビ発泡シート張り

21 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・ 人工大理石
奥行き(mm)　・ 約 450　・ 約 600

22 視覚障害者用床タイル（誘導用及び注意喚起用床材）

ブロックパターンは JIS T 9251 による　[19.2.2]
色彩は黄色を原則とする
屋 内　※ 塩化ビニル製　・ 磁器又はせっ器質タイル（※ 300　・　）
・ レジンコンクリート製
屋 外　※ レジンコンクリート製　・ 磁器又はせっ器質タイル（※ 300　・　）

23 フェンス

・ エキスパンドフェンス　（※ 樹脂塗装　・ 溶融亜鉛めっき）
・ メッシュフェンス　（※ 樹脂塗装　・　）

24 屋外掲示板

照明器具　※ 有り　・ 無し
施　錠　※ 有り　・ 無し

25 収納家具

材質
形状　・ 寸法　※ 図示
ホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・ 第三種

26 止水板

形状　・ 据置式　・ 壁張り式　・ 差込式
寸法

21 排水工事

① 屋外雨水排水

排水管用材料 [21.2.1][表 21.2.1][21.2.2]

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
※ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（※１種　・２種）	B形（ゴム接合）
・ 硬質ポリ塩化ビニル管	※ ＶＰ　・　ＶＵ	
・ ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ発泡三層管	・ RS-VU Ⓖ	
・ 硬質ポリ塩化ビニル管継手	・ ＤＶ	

桝の種類 [21.2.1]

種　別	形　状	寸法（mm）
・ 現場打ち	・ 角型	※ 図示
※ 既製品	・	・ 450×450

鋳鉄製マンホールふた [21.2.1]

種　類		適用荷重
・ 水封形	・ 密閉形（テーパー・パッキン式）	・ Ｔ－　２用
・ 簡易気密形（パッキン式）	・ 中ふた付密閉形	・ Ｔ－　６用
		・ Ｔ－１４用
		・ Ｔ－２０用

グレーチング蓋 [21.2.1]

材　質	形　式	種　類	適用荷重	ﾒｯｼｭﾋﾟｯﾁ	上面形状
・ 鋼製	※ 受枠付き	・ 溝ふた用	・ 歩行用	※ 細目	※ 凹凸形
・ ステンレス製	・	・ 桝ふた用	・ Ｔ－　２用	※ 普通目	※ 平形
	ボルト固定	・ かさ上げ用	・ Ｔ－　６用	・ 細目	・ 凹凸形
	※ 無し	・ Ｕ字溝用	・ Ｔ-１４用		
			・ Ｔ-２０用		

基床の厚さ及び種類（　　）
現場打ちコンクリート
　種類　※普通コンクリート　・（　　）
　設計基準強度　※18N/mm2　・（　　）
　スランプ　・15cm　・18cm
　鉄筋の種類　※SD295A　・（　　）
凍上抑制層の材料（・　　）
砂の粒度試験　・行う　・行わない
埋戻し材料の種別　・A種　※B種　・C種　・D種 [21.2.1][表 3.2.1]

2 浸透管及び浸透桝

※ 図示

③ 縁石及び側溝

コンクリート縁石及び側溝の形状、寸法 [21.3.1]
※ 図示（A- 11 図）
地業の材料及び厚さ　（・砂地業　・砂利地業　※地業の厚さ100mm）
コンクリート　※6章14節［無筋コンクリート］　※設計基準強度18N/mm2　（・　　）
凍上抑制層の材料（・　　）

22 舗装工事

1 路床安定処理

添加材料による安定処理　・行う　・行わない [22.2.2～3][表 22.2.2]
　種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントB種
　　・生石灰（　　）　・消石灰（　　）
　添加量　　kg/㎥（目標 CBR　※ 5 以上　・　　）
ジオテキスタイル
　・適用する
　　単位面積質量　・60g/m2以上　・
　　厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
　　引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
　　透水係数　・1.5×10-1cm/sec以上　・
　・適用しない

2 盛り土に用いる材料

・ Ａ種　※ Ｂ種　・ Ｃ種　・ Ｄ種 [22.2.3][表 3.2.1]

3 遮断層、凍上抑制層 フィルター層の材料

・ 遮断層　※ 川砂、海砂又良質な山砂 [22.2.2～3]
・ 凍上抑制層　※ 再生クラッシャラン　・ クラッシャラン　切り込み砂利　・ 砂
・ ﾌｨﾙﾀｰ層　※ ごみ、泥等の有機物を含まない砂

4 路床土の支持力比試験

・ 行う（※ 乱した土　・ 乱さない土）合格判定値　以上　・行わない [22.2.5]

5 路床締固め度の試験

・ 行う（合格判定値　以上）　・行わない [22.2.5]

6 砂の粒度試験

・ 行う　・行わない

7 路盤材料 Ⓖ

※ 再生クラッシャラン（ＲＣ－４０）Ⓖ [22.3.3]
・ クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－４０）Ⓖ
・ クラッシャラン（Ｃ－４０）
　透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

8 路盤の締固め度の試験

※ 行う [22.3.5]

9 アスファルト舗装

車道部の基層　※ 無し　・ 有り
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度 [22.4.2]
アスファルト　※ 再生アスファルト　・ ストレートアスファルト [22.4.3]
再生アスファルトの種類　・ 60～80　・80～100
加熱アスファルト混合物の種類 [22.4.4][表 22.4.4]

区分	・ 一般地域	・ 寒冷地域
表層	※ 密粒度アスファルト混合物（13）	※ 密粒度アスファルト混合物（13F）
	・ 細粒度アスファルト混合物（13）	・ 細粒度ギャップアスファルト混合物（13F）
基層	・ 粗粒度アスファルト混合物（20）	

シールコート　※ 行わない　・ 行う（施工範囲：　　） [22.4.5]
シールコート用乳剤の種別　・ ＰＫ－１　・ ＰＫ－２ [22.4.3]
アスファルト混合物の抽出試験　※ 行わない　・行う [22.4.6]

10 コンクリート舗装

早強セメント　※ 使用しない　・ 使用する [22.5.3]
注入目地材料　※ 低弾性タイプ　・ 高弾性タイプ [表 22.5.2]
　※目地の種類、間隔、構造　標仕表22.5.3 図22.5.1による　・図示
溶接金網　※ 有り　・ 無し [22.5.3～4]
[22.6.2～3]

種類	材料	厚さ	構　成
※ 加熱系	・有色骨材（焼成）・着色骨材（樹脂被覆）・自然石		
・ 常温系	・		

常温系カラー舗装着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装

11 カラー舗装

12 透水性アスファルト舗装 Ⓖ

アスファルト混合物の抽出試験　※ 行わない　・ 行う [22.7.6][22.4.6]

13 ブロック系舗装 Ⓖ

・ コンクリート平板舗装（コンクリート平板は、JIS A 5371 の平板） [22.8.2～3]

種　類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材
※ 普通平板（Ｎ）	※ 300角	※ 60	※ 砂
・ 透水平板（Ｐ）	・		・モルタル

・ インターロッキングブロック舗装 [22.8.2～3]

種　類	厚さ(mm)	色彩及び表面加工等
※ 普通ブロック（Ｎ）	車道部　※ 80　・	※ 標準品
・ 透水性ブロック（Ｐ）	歩道部　※ 60　・	・
・ 誘導、注意喚起用ブロック		誘導、注意喚起用は黄色系とする
・ 植生ブロック（Ｖ）	※ 80　・ 100	

・ 舗石舗装（石材は、JIS A 5003 の ２等品） [22.8.2～3]

種　類	厚さ(mm)	施工方法	基　層
※ 小舗石（花こう岩）	※ 80～100　・	※ うろこ張り	※ コンクリート舗装
・	・	・	・ アスファルト舗装

14 砂利敷き

・ Ａ種　・ Ｂ種 [22.9.2][表 22.9.1]

15 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	揮発性有機溶剤の含有率
・ １種 Ⓖ	常温	液状	※ 白	※ 150	※ 1.0	塗料総質量に対して
・ ２種 Ⓖ	加熱		・	・	・	5% 以下
※ ３種１号	溶融	粉体状				

23 植栽工事

1 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類 [23.2.2～3][表 23.2.1～2]

適　用	有効土層の厚さ(cm)	工　法	整備範囲
※ 行う　・ 行わない	※ 20	※ Ｂ種	※ 植栽範囲　・ 図示

樹木 [23.2.2～3][表 23.2.1～2]

樹木の樹高（m）	有効土層の厚さ(cm)	工　法	整備範囲
・ １２ 以上	※ 100	※ Ａ種	・ 葉張りの範囲
・ ７ 以上～１２ 未満	※ 80	・ Ｂ種	ただし、低木は植栽範囲
・ ３ 以上～７ 未満	※ 60	・ Ｃ種	・ 図示
・ ３ 未満	※ 50	・ Ｄ種	

工法Ｄ種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

2 植込み用土

※ 現場発生土の良質土　・ 客土（※ 畑土　・ 黒土） [23.2.3]

3 土壌改良材 Ⓖ

※ 適用する [23.2.3～4]
　施工箇所　※ 植栽範囲　・ 図示
バークたい肥 Ⓖ
　有機物の含有量（乾物）　：70%以上
　炭素窒素比（C/N比）　：35以下
　陽イオン交換容量（乾物）：70meq/100g以上
　pH　：5.5～7.5
　水分　：55～65%
　幼植物試験の結果　：生育阻害その他の以上を認めない
　窒素全量（現物）　：0.5%以上
　りん酸全量（現物）　：0.2%以下
　かり全量（現物）　：0.7%以上
発酵下水汚泥コンポスト Ⓖ
　「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする
　有機物の含有量（乾物）：35%以上
　炭素窒素比（C/N比）　：20以下
　pH　：8.5以下
　水分　：50%以下
　窒素全量（現物）　：0.8%以上
　りん酸全量（現物）　：1.0%以上
　アルカリ分（現物）　：15%以下（ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りでない）

4 支柱材

※ 杉、ひのき又はから松（皮はぎもの、間伐材）Ⓖ ※加圧式防腐処理 [23.3.2]
・ 真竹（良質な ２年生以上）

5 幹巻き用材料

※ 幹巻き用テープ　・ わら及びこも [23.3.2]

6 樹木の枯補償

期間（引渡しの日から）　・（　　）年　・ 1年 [23.3.4]

7 芝張り

種類　※ コウライシバ　・ノシバ [23.4.2]
工法　・ 目地張り　・ べた張り
　平地　※ 目地張り　・ べた張り
　法面　・ 目地張り　※ べた張り

8 吹付けは種用種子等

※ 洋芝類（採取後２年以内） [23.4.2]

9 他被類

※ コンテナ栽培品

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　一級建築士登録第124970号　松井　昭夫

木造特記仕様(構造関係)

Ⅰ　建物構造概要等

1. 建物概要

主要用途	学校（コンテナ室）	延べ面積	59.62 ㎡
階　数	地上　1 階　地下　　階	塔屋	階
建物高さ	4.603 m	軒高	3.663 m
工事種別	⊙新築　・増築　・改築　・移転		
増築計画	・有り　⊙無し		
構造種別	地上　木造　地下　　造		
耐震安全性の分類	・Ⅰ類（I=1.50）　・Ⅱ類（I=1.25）　・Ⅲ類（I=1.00）		

2. 構造計算条件

a　耐震設計条件		
地震荷重	建物一次固有周期	（　　）秒
	地盤種別	第（　　）種地盤
	地域係数	Z = 1.0
b　耐風設計条件		
基準風速　(V0)	30 m/秒	
地表面粗度区分	・Ⅰ　・Ⅱ　※Ⅲ　・Ⅳ	
c　耐積雪設計条件		
建設地の標高	（　　）m	
多雪区域の指定	・有り　・無し	
設計垂直積雪量	（　　）cm	

Ⅱ　建築工事仕様(構造関係)

1．共通仕様

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築木造工事標準仕様書 令和７年版 」（以下、「木造標仕」という）により、木造標仕に記載されていない事項は、「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版 」（以下、「標仕」という。）による。

2．特記仕様

（1）項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の（　　）内表示番号は、「木造標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）特記事項に記載の［　　］内表示番号は、「標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（5）Ⓖ 印は「国等による環境物品等の調達等の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。なお、特定調達品目か否かの判断基準は監督職員との協議による。

適用範囲

特記仕様(構造関係)の適用範囲は下記の工事種目とする。
※ 特記仕様書(1)　仕様書　Ⅰ工事概要 2工事種目に掲げる下記の工事種目番号
（番号○～番号○までの工事種目）
・

6-3 地業工事

① 支持力又は支持地盤の確認

支持地盤の位置及び種類　[4.3.4][4.3.5][4.5.5]
⊙杭基礎（基礎ぐいの先端の位置含む）
⊙構造図（　S-7　）による
・直接基礎(基礎底部の位置含む)
・構造図（　　）による
長期設計支持力度
・（　　）kN/㎡
試験
杭の載荷試験　[4.2.3][4.2.5]
・行わない
・行う
・構造図（　　）による　・
・報告書の記載事項（　　）

地盤の載荷試験(平板載荷試験)　[4.2.4][4.2.5]
・行わない
・行う
載荷荷重等仕様
・構造図（　　）による
・報告書の記載事項（　　）

② 液状化対策

・ 行う （工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等は構造図による。）
・ 行わない

③ 既製コンクリート杭地業

種類等　[4.3.3]
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)
・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)
SC杭の鋼管材料
・SKK400　・SKK490
材料
寸法、継手、性能等　[4.3.3]

	杭径(mm)		杭長(m)及び種類等 種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)	セット数	コンクリート強度(N/mm²)	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭		上杭							
		中杭							
		下杭							
本杭		上杭							
		中杭							
		下杭							

試験杭　[4.2.2][4.3.4]
試験杭の位置、本数及び寸法
・構造図（　　）による　・

④ 鋼杭地業

材料(種類の記号)　・ＳＫＫ400　・ＳＫＫ490　・ＳＨＫ400　・ＳＨＫ490Ｍ
寸法、継手、性能等　[4.4.3]

	杭径(mm)		杭長(m)及び種類等 種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭		上杭						
		中杭						
		下杭						
本杭		上杭						
		中杭						
		下杭						

試験杭　[4.2.2][4.4.4]
試験杭の位置、本数及び寸法
・構造図（　　）による　・
杭先端部形状
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・
施工方法
・セメントミルク工法　[4.3.4]
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
・1.5m程度　・
杭の支持地盤への根入れ深さ
・1.0m以上　・
杭の精度
・水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
・杭の傾斜
・1/100以内　・
・特定埋込杭工法　[4.3.5]
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内、α、β、γが
下記の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・プレボーリング拡大根固め工法　・中堀り拡大根固め工法
杭周固定液
・使用する　・使用しない
杭の精度　[4.3.5]
・水平方向の位置ずれ
・杭径の1/4かつ100mm以下　・
・杭の傾斜
・1/100以内　・評定条件又は認定条件による　・
杭継手工法　[4.3.6]
・アーク溶接継手
・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法　※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法　・
検査　※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目　・
施工　※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による　・
杭頭の処理(切断方法)　[4.3.8]
・処理しない
・処理する
切断方法
・構造図（　　）による　・
杭頭の中詰め材料
・基礎のコンクリートと同調合のもの　・

⑤ 砂利地業

材料　[4.6.2]
※ 再生クラッシャラン Ⓖ　・ 切込み砂利　・切込み砕石
厚さ及び適用範囲

厚さ	適用箇所
※ 60	・基礎スラブ下　・基礎梁下　・土間コンクリート下　・土に接するスラブ下
⊙100	構造図による

⑥ 捨コンクリート地業

厚さ及び適用範囲　[4.6.4]

厚さ	適用箇所
※ 50	・基礎スラブ下　・基礎梁下　・土に接するスラブ下
・	

※ 設計基準強度18N/mm2　・
※ スランプ15cm又は18cm　・

⑦ 床下防湿層

施工範囲　[4.6.5]
・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)・
防湿工法　[4.6.2]
⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・
防湿層の位置　[4.6.5]
・図面（　A-12　）による

⑧ 地盤改良（セメント系固化材を用いた工法による改良）

工法
・深層混合処理工法
改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は構造図（　　）による。
・浅層混合処理工法
改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は構造図（　　）による。

⑨ 置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等
・構造図（　　）による　・
支持地盤の長期設計支持力
（　　）kN/㎡
支持地盤
・構造図（　　）による　・
型枠使用の有無
・無し　・有り（型枠の使用箇所等は構造図Ｓ－〇〇による）

6-4 基礎工事（鉄筋工事）

① 適用基準

標仕５章　鉄筋工事による

② 鉄筋の種類

[5.2.1][表5.2.1]

規格の名称	種類の記号	呼び径(mm)	適用箇所	備考
鉄筋コンクリート用棒鋼（異形鉄筋）	⊙SD295	※ D16以下	床・壁・梁	
	⊙SD345	※ D19以上	柱・梁等	

③ 溶接金網

形状等　[5.2.2]

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	適用箇所
・溶接金網			
・鉄筋格子			

④ 鉄筋の継手

継手方法　[5.3.4]

適用箇所	継手方法と適用径の範囲
・基礎柱主筋	・ガス圧接(D19以上)　・
・基礎梁主筋	・ガス圧接(D19以上)　・
・基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ガス圧接（　　） ・重ね継手（　　）
・杭主筋	・重ね継手　・

⑤ 主筋の継手位置等

カットオフ鉄筋の長さ
・関東地方整備局営繕部版 構造関係共通図(配筋標準図)（以下「配筋標準図」という）
5.1、6.1、7.1、7.3による（・全て　・下記以外全て）
・上記以外の位置
・構造図（　　）による
基礎梁主筋の継手
・各部配筋参考図 1.3による
・配筋標準図 図5.2による（・全て・構造図による・　　）
・配筋標準図 図5.3による（・全て・構造図による・　　）
・配筋標準図 図5.4による（・全て・構造図による・　　）
・構造図（　　）による

⑥ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)　[5.3.5][表5.3.6]
※ 表5.3.6 による
・構造図（　　）による
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・無し　・有り　適用箇所（　　）
主筋のかぶり厚さ
・最小かぶり厚さ（　　）mm
特殊な要求性能におけるコンクリートの部分(耐久性上不利な部分)
・無し
・有り　適用箇所（　　）
・配筋標準図 表4.1に加える厚さ　（　）mm

⑦ 各部配筋

・配筋標準図による。　[5.3.7]
・構造図（　　）による。
・各部配筋参考図による。

⑧ 帯筋

組立の形の種別
・配筋標準図 6.2（　　形　）による
・構造図（　　）による

⑨ 圧接完了後の試験

外観試験　※行う(全数)　[5.4.10]
抜取試験（第三者試験機関による）　[5.4.10]
※超音波探傷試験
試験の箇所数等
・標仕 5.4.10、5.4.11による　・
・引張試験
試験片の採取数は、１ロットに対して（※３本・５本）とする
試験ロット：１組の作業班が１日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごとをとする
試験片を採取した箇所の処置：標仕5.4.10による

6-4 基礎工事（コンクリート）

1　適用基準

標仕６章　コンクリート工事による

2　コンクリートの使用骨材による種類及び強度

※ 普通コンクリート　[6.2.1～6.2.4]

設計基準強度 Fc (N/mm²)	スランプ (cm)	適用箇所
・21	※15	土間スラブ
・24	・18	基礎、基礎梁
・18	15 又は 18	

③ コンクリートの類別

類別　[6.2.1][表6.2.1]
※ Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・ Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

④ セメントの種類

[6.3.1][表6.3.1]

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外全て
・高炉セメントB種 Ⓖ ・フライアッシュセメントB種 Ⓖ ・エコセメント Ⓖ	・1FL より下部(立ち上がり部含む) ・

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7日	352J/g以下
	28日	402J/g以下

⑤ 骨材の種類

使用骨材のアルカリシリカ反応による区分　[6.3.1][6.11.2]
・ A
※ B（コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m3 以下）
普通エコセメントを使用するコンクリートに再生骨材Ｈを使用する　[6.3.1][6.11.2]
・ 適用する
・ 適用しない

⑥ 混和材料

・混和剤（JIS A 6204に適合するＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。）　[6.3.1]
・混和材（JIS A 6201に適合するフライアッシュのⅠ種又はⅡ種、JIS A 6206に適合する高炉スラグ微粉末又はJIS A 6202に適合する膨張材）

⑦ コンクリートの調合

構造体強度補正（Ｓ）　・図示による　※[表6.3.2]による　[6.3.2]
6.3.2(4)(f)①～③以外の混和材料の使用方法及び使用量　※図示による（　　）

⑧ 打継ぎ

打継ぎの位置　[6.6.4]
梁及びスラブ　・図示による　※そのスパンの中央又は端から1/4の付近
柱及び壁　・図示による　※スラブ、壁梁又は基礎の上端

⑨ 打継ぎ目地の寸法、位置及び形状

目地寸法　[6.6.4][6.8.1][9.7.3]
・標仕 9.7.3による　・
間隔　[6.8.1]
・意匠図による　・
位置　[6.8.1]
・意匠図による　・
※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打ち増し厚さ部で処理する

10　湿潤養生

期間　[6.7.2]
※[標仕 6.7.2]による　・
・普通エコセメントを使用した場合　（ ※ 7日以上　・　　）

11　コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　[6.2.5][6.6.6][表6.2.4]

種別	適用箇所
・ A種	
・ B種	
・ C種	

12　打増し厚さ

打増し厚さ　[6.8.1]
・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm　・20mm　・
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm　・
・床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行なう
・10mm　・20mm
打増し範囲
・意匠図による

⑬ 型枠

せき板の材料　[6.8.2]
・合板
・床型枠用鋼製デッキプレート
使用箇所等　※構造図による　・
※せき板の材料として合板を使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」に準拠した内容の板面表示等により合法性を確認し、監督職員に報告する。　[1.4.2]
スリーブの材種　[6.8.2][表6.8.1]
・標仕 6.8.2(9)(f)及び標仕 表6.8.1による

⑭ コンクリート強度及び試験方法

※ 標仕6.5.5、6.9.2、6.9.3、6.9.4、6.9.5による。　[6.5.5][6.9.2～5]
※ 構造体コンクリートで、10m3 未満かつ構造上重要でない部分については、フレッシュコンコンクリートの試験、コンクリートの強度試験を省略することができる。　[6.9.1]

15　軽量コンクリート

[6.10.1、表6.10.1]

種類	所要気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所	常時土又は水に直接接する部分
・1種	・1.8　・		・
・2種	・1.4		

⑯ 寒中コンクリートの適用期間

※ 打込み日を含む旬の日平均気温が 4℃以下の期間　[6.11.1]
（前年の気象庁データ、現場での実測データにより判断する）

⑰ 暑中コンクリートの適用期間

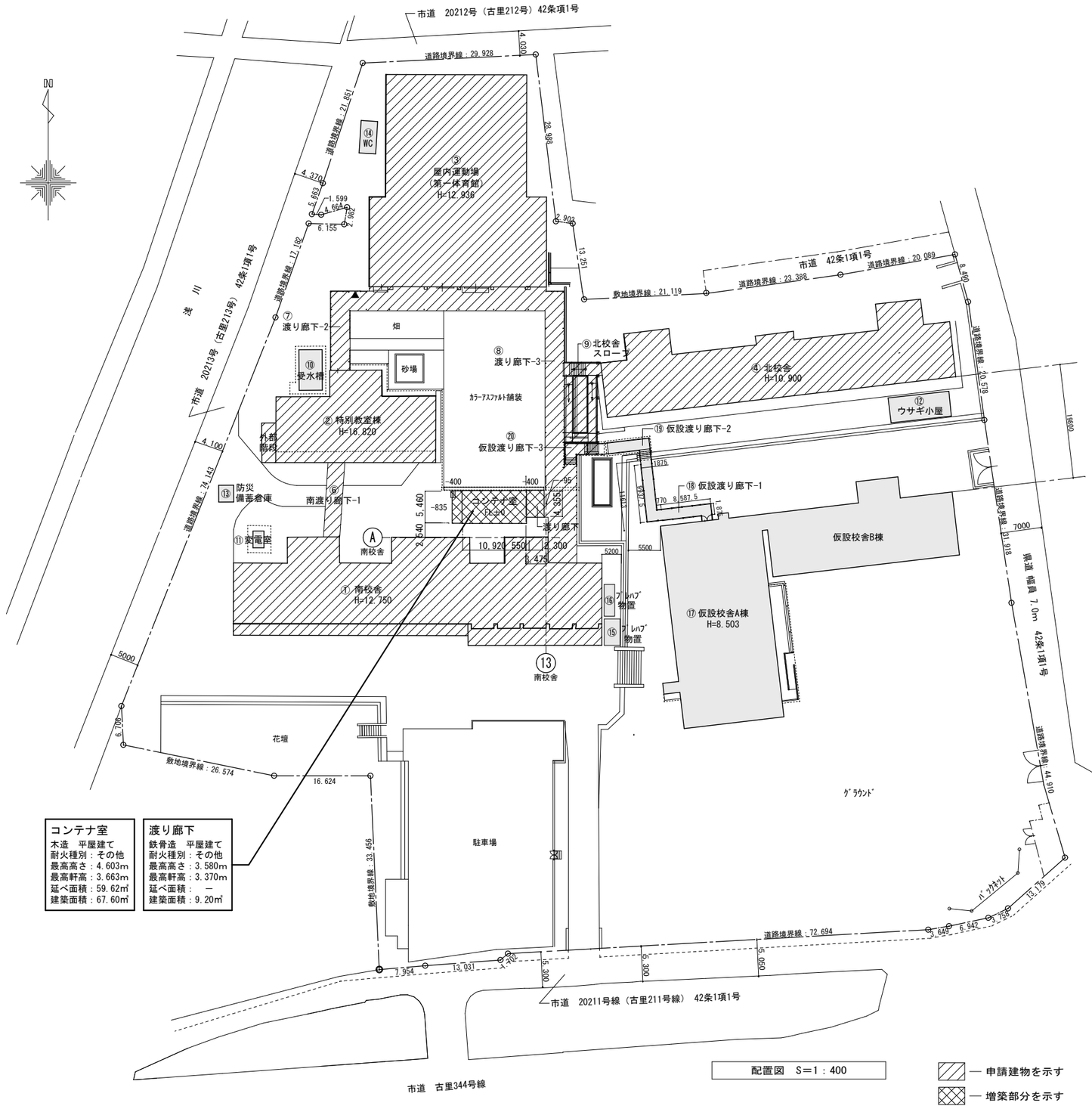
日平均気温の平年値が25℃を超える期間　[6.12.1]
※ 7月17日から8月27日（気象庁 長野地区 旬別平均気温及び7月8月平均値より）
構造体強度補正値 (S)
※ 6N/mm2　・ 3N/mm2　[6.12.2]

18　無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート　・　[6.14.1]

設計基準強度 Fc (N/mm²)	スランプ (cm)	セメントの種類	適用箇所
※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	捨コンクリート
・	又は18 ・	・高炉セメントB種	
		・フライアッシュセメントB種	

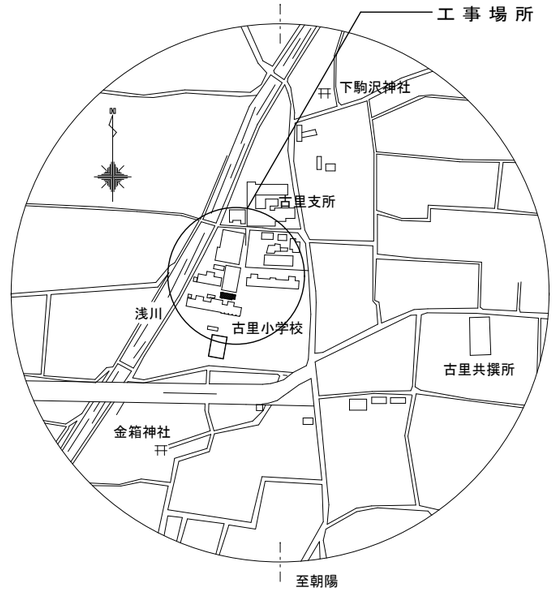
〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　一級建築士登録第124970号　松井　昭夫



配置図　S＝1：400

— 申請建物を示す

— 増築部分を示す



案内図

※雨水宅内処理とする

コンテナ室
木造　平屋建て
耐火種別：その他
最高高さ：4.603m
最高軒高：3.663m
延べ面積：59.62㎡
建築面積：67.60㎡

渡り廊下
鉄骨造　平屋建て
耐火種別：その他
最高高さ：3.580m
最高軒高：3.370m
延べ面積：　—
建築面積：9.20㎡

GLOBAL ARCHITECTURE
株式会社 グローバル企画設計

DAY 26・08・19

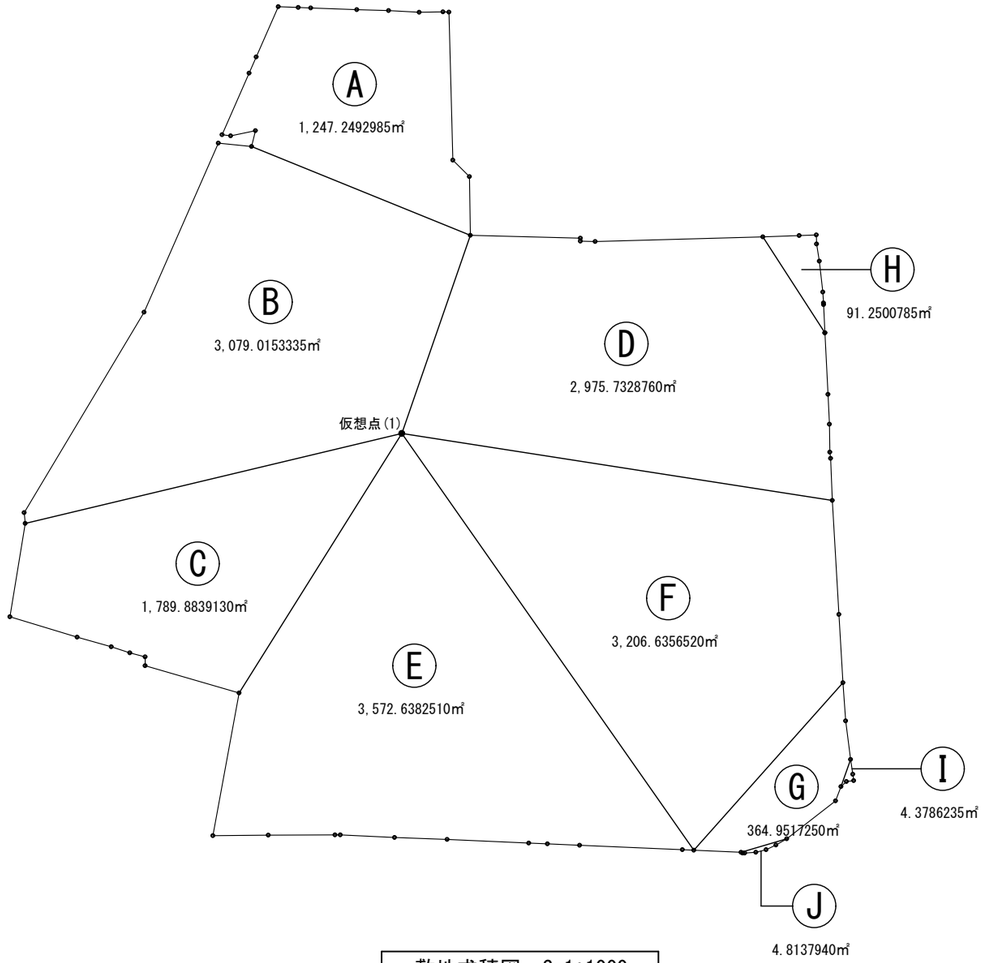
CONSTRUCTION NAME 国補　古里小学校　南校舎長寿命化改修建築工事

SCALE 1/200（A1）・1/400（A3）

MAP NAME 配置・案内図

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　Tel.026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　一級建築士登録第124970号　松井　昭夫

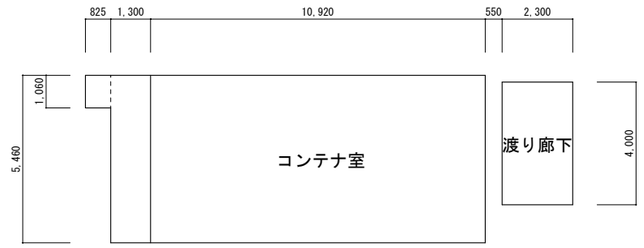
NO. A　77



敷地求積図　S=1:1000

※ 敷地が大きく、境界ポイントが多いため、以下の要領にて作成した。
1．敷地を複数に分けて作成。
2．仮想点を設けて作成。

エリア番号	面積
A	1,247.2492985
B	3,079.0153335
C	1,789.8839130
D	2,975.7328760
E	3,572.6382510
F	3,206.6356520
G	364.9517250
H	91.2500785
I	4.3786235
J	4.8137940
合計	16,336.5495450
敷地面積	16,336.54　㎡



コンテナ室	床面積	10.920	×	5.460	=	59.6232	→ 59.62㎡
	建築面積	10.920	×	5.460	=	59.6232	
		1.300	×	5.460	=	7.098	
		0.825	×	1.060	=	0.8745	→ 67.60㎡
渡り廊下	建築面積	2.300	×	4.000	=	9.200	→ 9.20㎡

仮設校舎含める

建築面積

	棟　名	建築面積	備　考
①	南校舎	759.80	3階建
②	特別教室棟	310.50	4階建
③	屋内運動場（第一体育館）	950.10	平屋
④	北校舎	693.40	3階建
⑤	コンテナ室	65.00	平屋
⑥	南渡り廊下 -1	72.40	平屋
⑦	渡り廊下 -2	40.50	平屋
⑧	渡り廊下 -3	117.60	平屋
⑨	北校舎へのスロープ	57.50	平屋
⑩	受水槽	61.40	平屋
⑪	変電室	14.00	平屋
⑫	ウサギ小屋	27.81	平屋
⑬	防災備蓄倉庫	14.50	平屋
⑭	トイレ棟	16.01	平屋
⑮	プレハブ物置	12.42	
⑯	プレハブ物置	9.93	
	合計	3,222.87	
	建築面積	3,222.87	

延べ床面積

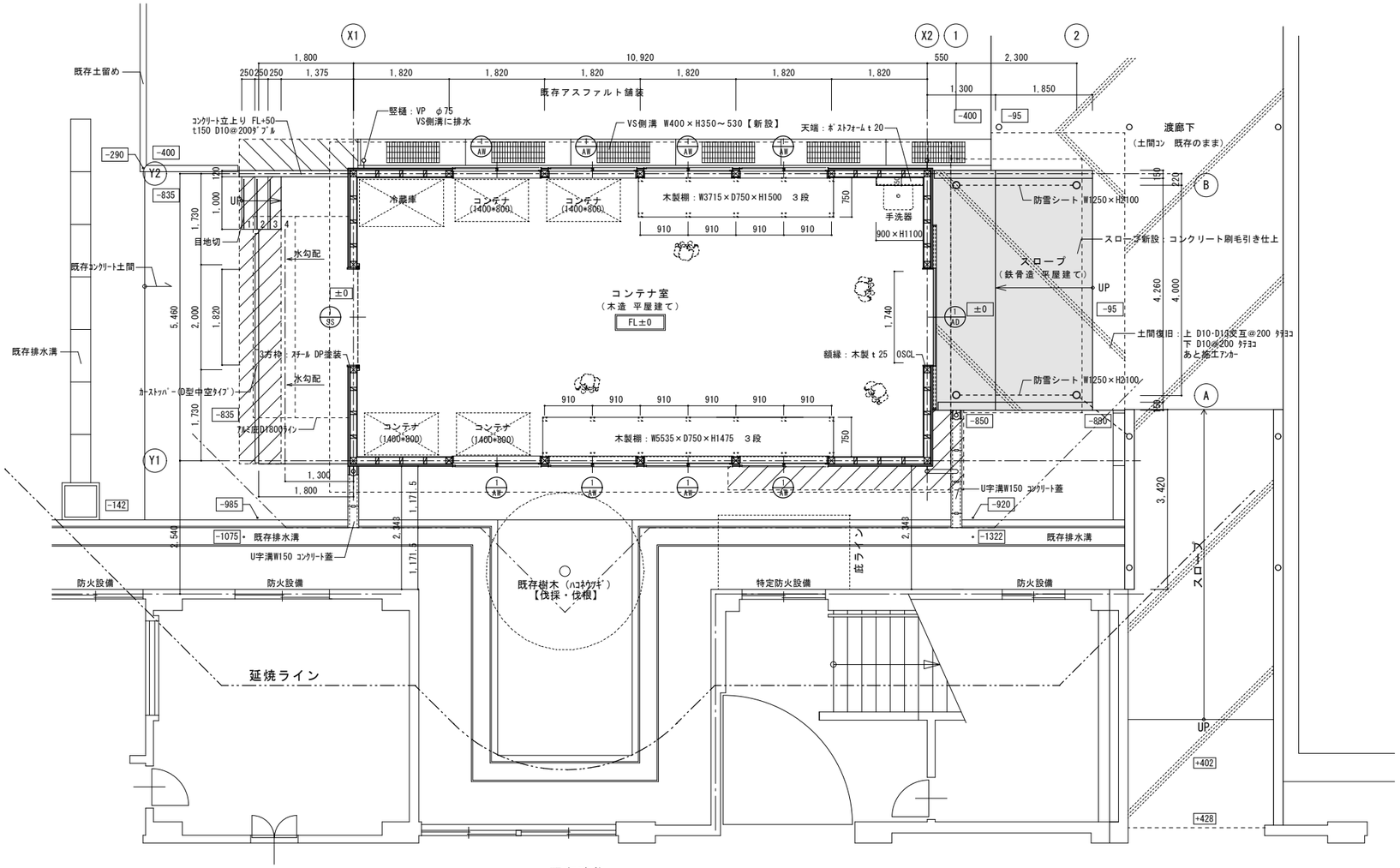
	棟　名	1階床面積	2階床面積	3階床面積	4階床面積	PH	合計延床面積	備　考
①	南校舎	783.70	700.60	700.60			2184.90	H14.4
②	特別教室棟	303.40	303.40	303.40	303.80		1214.00	H16.35
③	屋内運動場（第一体育館）	890.00	56.30				946.30	H11.55
④	北校舎	654.90	654.90	654.90			1964.70	H12.45
⑤	コンテナ室	65.00					65.00	H2.35
⑥	南渡り廊下 -1	36.20	36.20				72.40	H3.73
⑦	渡り廊下 -2	40.50					40.50	H3.73
⑧	渡り廊下 -3	117.60					117.60	H3.73
⑨	北校舎へのスロープ	57.50					57.50	H3.73
⑩	受水槽	41.80					41.80	H3
⑪	変電室	14.00					14.00	
⑫	ウサギ小屋	27.81					27.81	H2.82
⑬	防災備蓄倉庫	14.50					14.50	
⑭	トイレ棟	16.01					16.01	R1.06
⑮	プレハブ物置	12.42					12.42	
⑯	プレハブ物置	9.93					9.93	
	延床面積	2,869.67	1,751.40	1,658.90	303.80		6,583.77	

除外合計　⑦⑧⑨　215.60

延床面積合計　6,583.77

※ 渡り廊下⑦・⑧及び北校舎スロープ⑨は、十分な開放廊下の為、
延床面積には算入しない。

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　一級建築士登録第124970号　松井　昭夫



・・スロープ新設部（上部下屋新設共）

既存建物
南校舎

平面図　S=1:50

— カラーアスファルト舗装復旧範囲を示す

— コンクリート土間復旧範囲を示す
t150　あと施工アンカー　D10@200タテヨコ

■外部仕上げ表

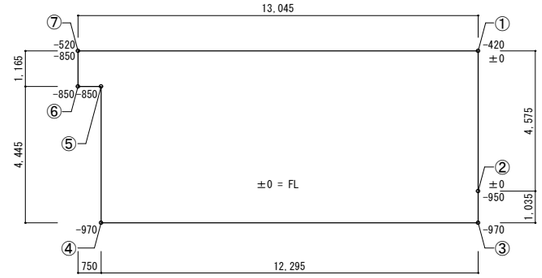
屋　根	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板　t0.4　立ﾊｾﾞ葺き＋ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ＋構造用合板t12 庇：アルミ製　既製品 D900
外　壁	構造用合板t12 ＋ 透湿防水ｼｰﾄ　+胴縁t18*45@455 ＋ 窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞt16
基　礎	布基礎（コンクリート打ち放し）
軒　天	木下地　ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板t6 EP-G
樋	軒樋：硬質塩化ビニル製 W150　、竪樋：VPφ75

■内部仕上げ表

名　称	下　地	仕上げ
床	ﾓﾙﾀﾙ金ゴテ	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ t=2.0
巾　木	木下地	ﾋﾞﾆﾙ巾木H=100
壁	木下地＋合板	合板t9+ケイ酸カルシウム板t6 EP
天　井	木下地	化粧石膏ボードt9
備　考		木製　棚

※内装　ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄについては、施設管理者と協議の上、通路部、高学年部、低学年部の３色色分けとし計画すること。

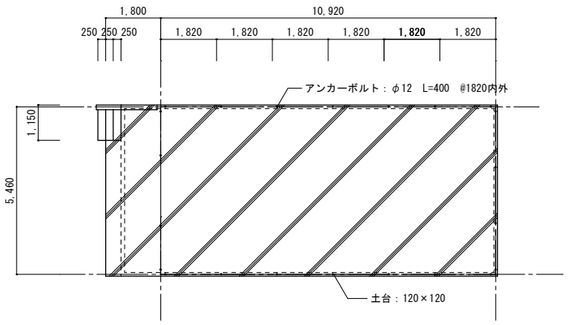
※AD-1については、建具下部ｶｲﾄﾞﾚｰﾙ排水を取れるよう計画すること。



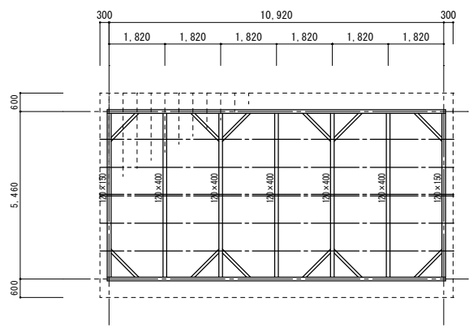
平均地盤算定図　S=1:100

平均地盤面算定表						
1～2	(0.00 + 0.00) ×	4.575	÷ 2	＝	0.0000	
2～3	(0.95 + 0.97) ×	1.035	÷ 2	＝	0.9936	
3～4	(0.97 + 0.97) ×	12.295	÷ 2	＝	11.9291	
4～5	(0.97 + 0.85) ×	4.445	÷ 2	＝	4.0450	
5～6	(0.85 + 0.85) ×	0.750	÷ 2	＝	0.6375	
6～7	(0.85 + 0.85) ×	1.165	÷ 2	＝	0.9903	
7～1	(0.52 + 0.42) ×	13.045	÷ 2	＝	6.1312	
			合計面積		24.727	㎡

合計面積	÷	周長	＝	平均高さ
24.727 ㎡	÷	37.310 m	＝	0.663 m
∴平均地盤面は　FL-663　＝　設計GL(BM)+187mm　とする				



基礎伏図　S=1:100



梁伏図　S=1:100

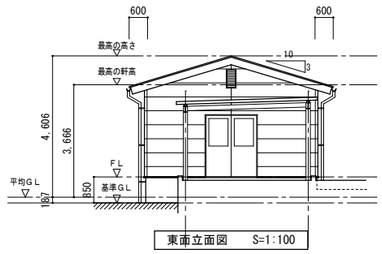
特記なき梁：120×120　管　柱　：120×120
棟　木　：120×120
母　屋　：105×105　@910
火打梁　：90×90
垂　木　：45×90　@455

GLOBAL ARCHITECTURE	株式会社 グローバル企画設計	DAY 26・08・19	CONSTRUCTION NAME 国補　古里小学校　南校舎長寿命化改修建築工事	SCALE 1/30・1/ 50・1/100 (A1) 1/60・1/100・1/200 (A3)	MAP NAME 仕上表・平面図・建具表・伏図・詳細図

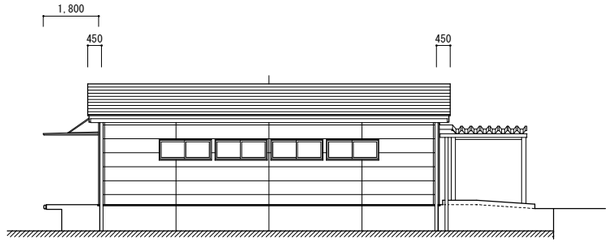
〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号

管理建築士	図面を作成した建築士
一級建築士登録第108578号　清水　勉	一級建築士登録第234882号　山崎　和彦

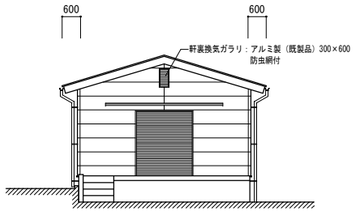
NO. A　79



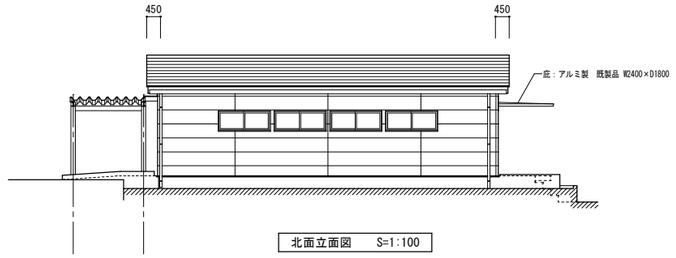
東面立面図　S=1:100



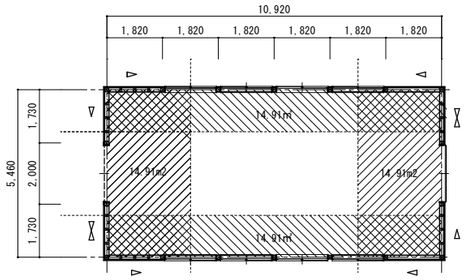
南面立面図　S=1:100



西面立面図　S=1:100



北面立面図　S=1:100

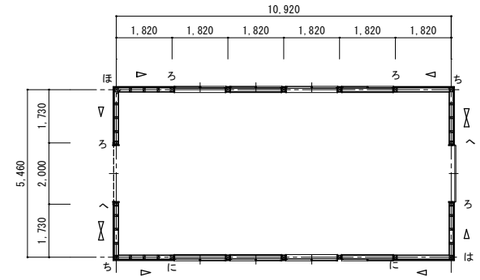


筋違イ配置図　S=1:100

▻　：筋違イ　45×90（シングル）

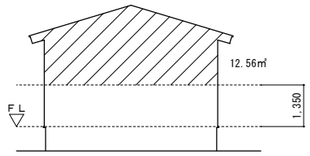
▻◅　：筋違イ　45×90（ダブル）

⊠　：管　柱　120×120（横架材間距離＝2,760
計算式＝75　＜　120　OK）

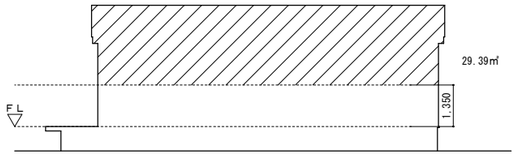


金物配置図　S=1:100

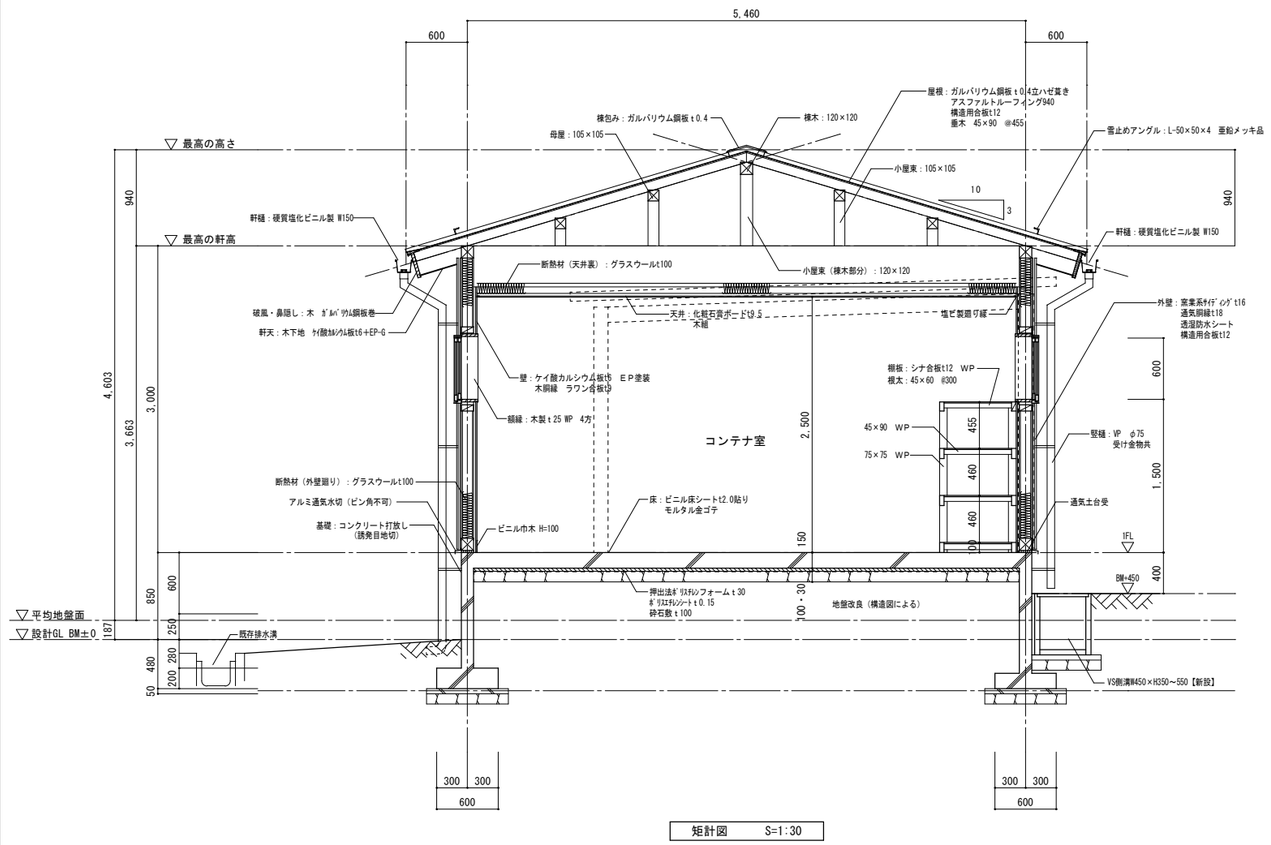
※記載のないものは、上下共　い　とする



X方向立面図　S=1:100



Y方向立面図　S=1:100



矩計図　S=1:30

【木造壁量計算】

■地震力による必要壁量

床面積	値	必要壁量
59.84㎡	0.14	8.38

■風圧力による必要壁量

X 方 向			Y 方 向		
見付面積	表三の値	必要壁量	見付面積	表三の値	必要壁量
12.56㎡	0.50	6.28	29.39㎡	0.50	14.70

■X方向設計壁量

長　さ	種　類	倍率	箇所	小　計	設計壁量		必要壁量
1.820	45×90　シングル	2.0	4	14.56	14.56	>	8.38
							6.28

■Y方向設計壁量

長　さ	種　類	倍率	箇所	小　計	設計壁量		必要壁量
1.730	45×90　ダブル	4.0	2	13.84	20.76	>	8.38
1.730	45×90　シングル	2.0	2	6.92			14.70

【耐力壁の配置】

■端部必要壁量

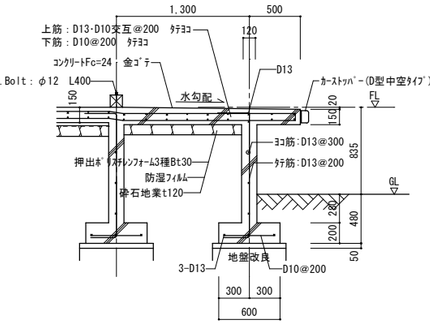
X 方 向				Y 方 向			
	床面積	表二の値	必要壁量		床面積	表二の値	必要壁量
上	14.91㎡	0.14	2.09	左	14.91㎡	0.14	2.09
下	14.91㎡	0.14	2.09	右	14.91㎡	0.14	2.09

■X方向存在壁量・壁量充足率

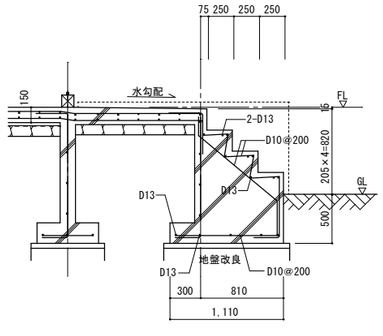
	長　さ	種　類	倍率	箇所	小　計	存在壁量	必要壁量	壁量充足率	壁率比（≧0.5）
上	1.820	45×90　シングル	2.0	2	7.28	7.28	2.09	3.48	1.00 OK
下	1.820	45×90　シングル	2.0	2	7.28	7.28	2.09	3.48	1.00 OK

■Y方向存在壁量・壁量充足率

	長　さ	種　類	倍率	箇所	小　計	存在壁量	必要壁量	壁量充足率	壁率比（≧0.5）
左	1.730	45×90　ダブル	4.0	1	6.92	10.38	2.09	4.97	1.00 OK
	1.730	45×90　シングル	2.0	1	3.46				
右	1.730	45×90　ダブル	4.0	1	7.28	10.38	2.09	4.97	1.00 OK
	1.730	45×90　シングル	2.0	1	3.46				

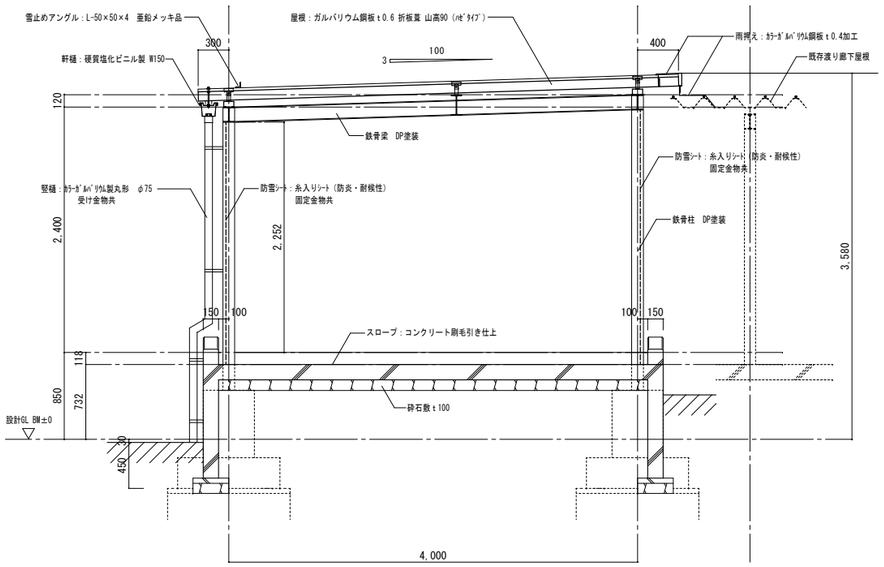


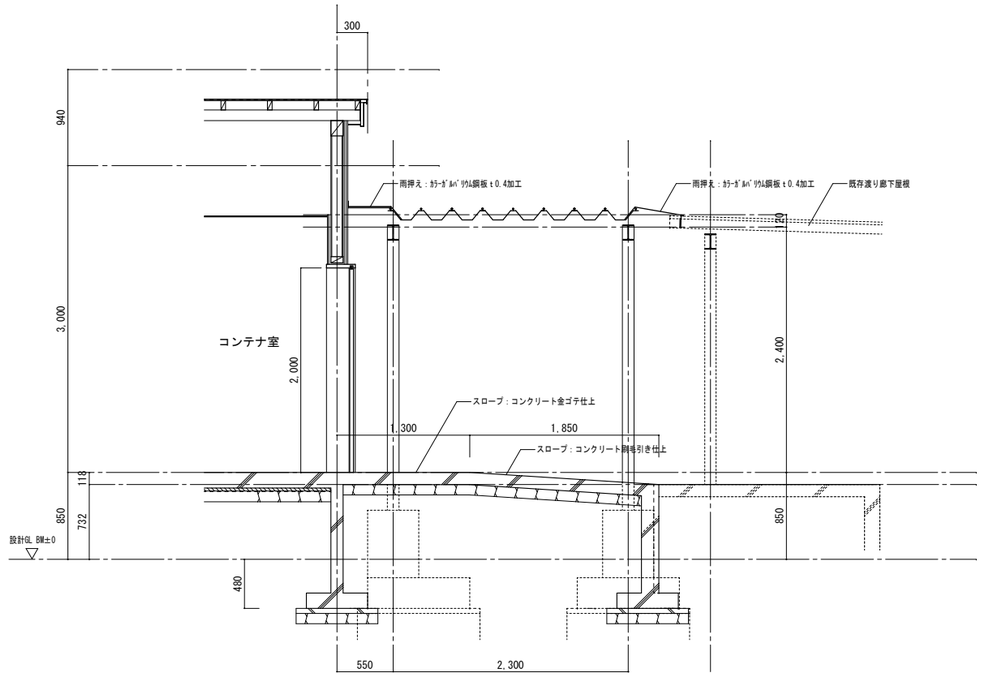
基礎詳細図　S=1:30

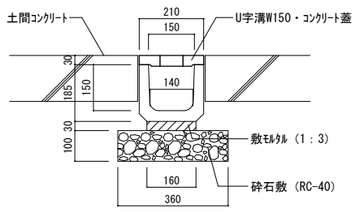


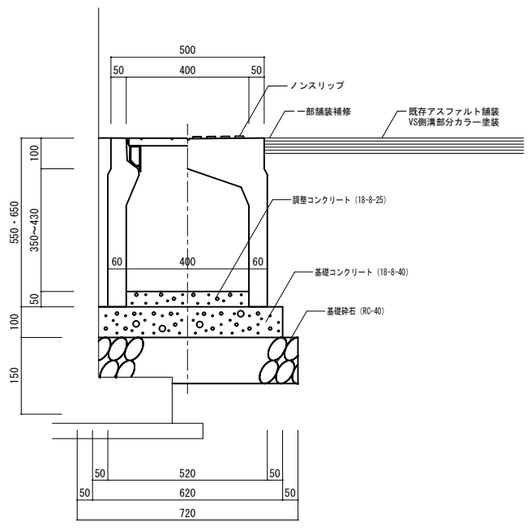
階段詳細図　S=1:30

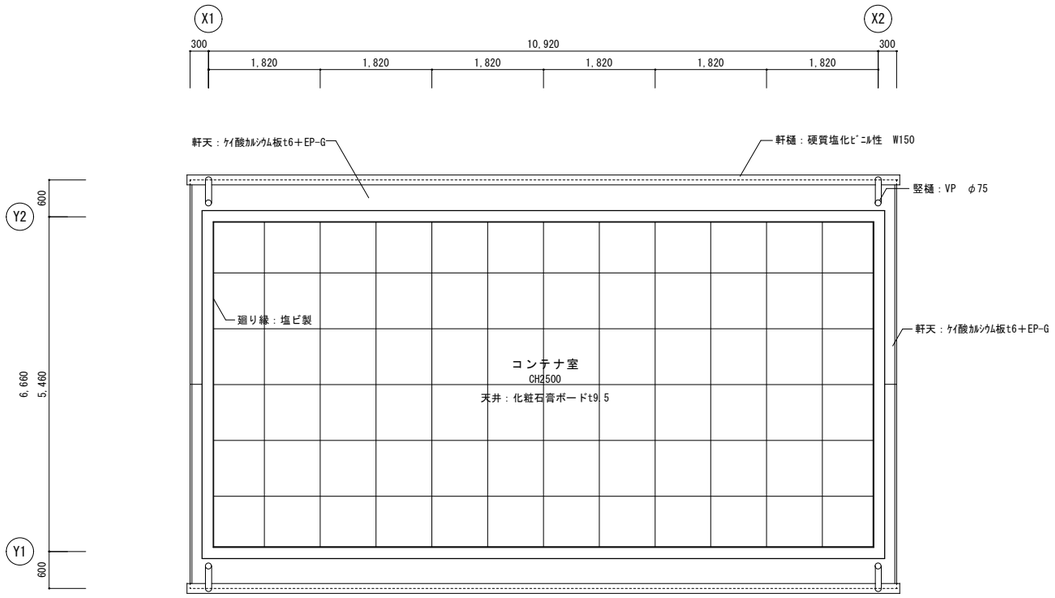
〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　一級建築士登録第234882号　山崎　和彦


雪止めアングル：L-50×50×4　亜鉛メッキ品
屋根：ガルバリウム鋼板 t 0.6 折板葺 山高90（ﾊﾟﾀｲﾌﾟ）
軒樋：硬質塩化ビニル製 W150
380
3
100
400
雨押え：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t 0.4加工
既存波り廊下屋根
120
鉄骨梁　DP塗装
防雪ｼｰﾄ：糸入りｼｰﾄ（防炎・耐候性）
固定金物共
竪樋：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ製丸形　φ75
受け金物共
防雪ｼｰﾄ：糸入りｼｰﾄ（防炎・耐候性）
固定金物共
鉄骨柱　DP塗装
2,400
2,252
3,580
150
100
100
150
スロープ：コンクリート刷毛引き仕上
118
850
732
砕石敷 t 100
設計GL　BM±0
450
50
4,000


300
940
雨押え：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t 0.4加工
雨押え：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t 0.4加工
既存波り廊下屋根
3,000
コンテナ室
2,000
2,400
スロープ：コンクリート金ゴテ仕上
1,300
1,850
スロープ：コンクリート刷毛引き仕上
118
850
732
850
設計GL　BM±0
480
550
2,300

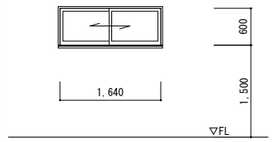
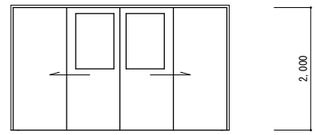
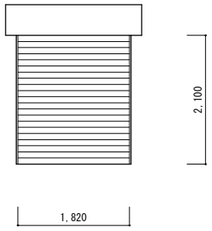

土間ｺﾝｸﾘｰﾄ
210
150
U字溝W150・ｺﾝｸﾘｰﾄ蓋
20
165
150
140
100
30
敷ﾓﾙﾀﾙ（1：3）
160
360
砕石敷（RC-40）


500
50
400
50
ノンスリップ
一部舗装補修
既存アスファルト舗装
VS側溝部分カラー塗装
100
550・650
350~430
50
100
150
調整コンクリート（18-8-25）
60
400
60
基礎コンクリート（18-8-40）
基礎砕石（RC-40）
50
520
50
50
620
50
720

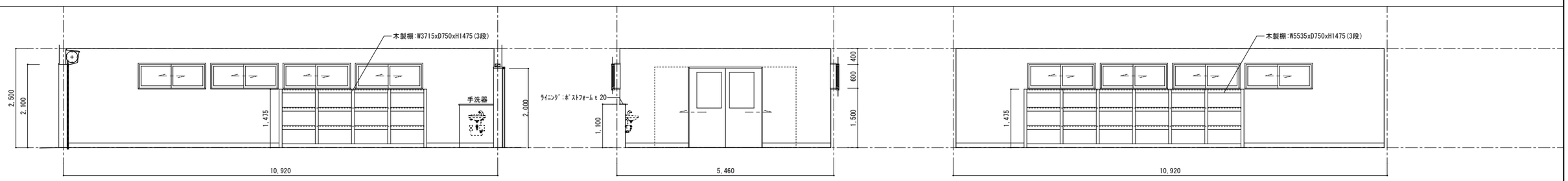


天井伏図　　S=1:50

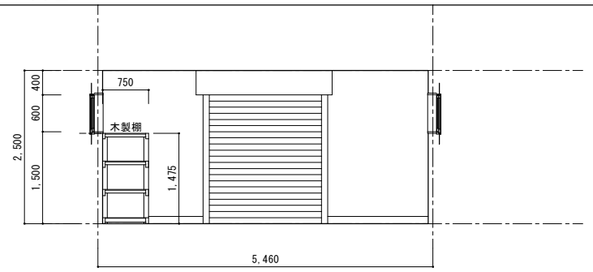
建具表　　S=1:50

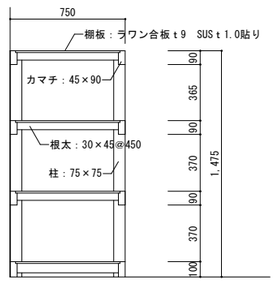
記号・数量	① AW コンテナ室　8ヶ所	① AD コンテナ室　1ヶ所	① SS コンテナ室　1ヶ所
姿　図			
建具種類	アルミ製引違い窓	アルミ製フラッシュ引分けハンガー戸	スチール製軽量シャッター
仕　様	アルミ　B種　　見込70	アルミ　B種　　見込70	カラー鋼板　t 0.6　　スチール枠 DP塗装
付属金物	アングル・水切り・クレセント・結露受・付属金物一式	アングル・水切り・シリンダー錠・結露受・付属金物一式	SUSマグサ・ガイドレール・付属金物一式
	水切安全ガード・網戸（落下防止ワイヤー部品付）	水切安全ガード	
硝子・塗装	複層ガラス（STG4+12A+FTG4）	複層ガラス（STG4+12A+FTG4）	

展開図　　S=1:50



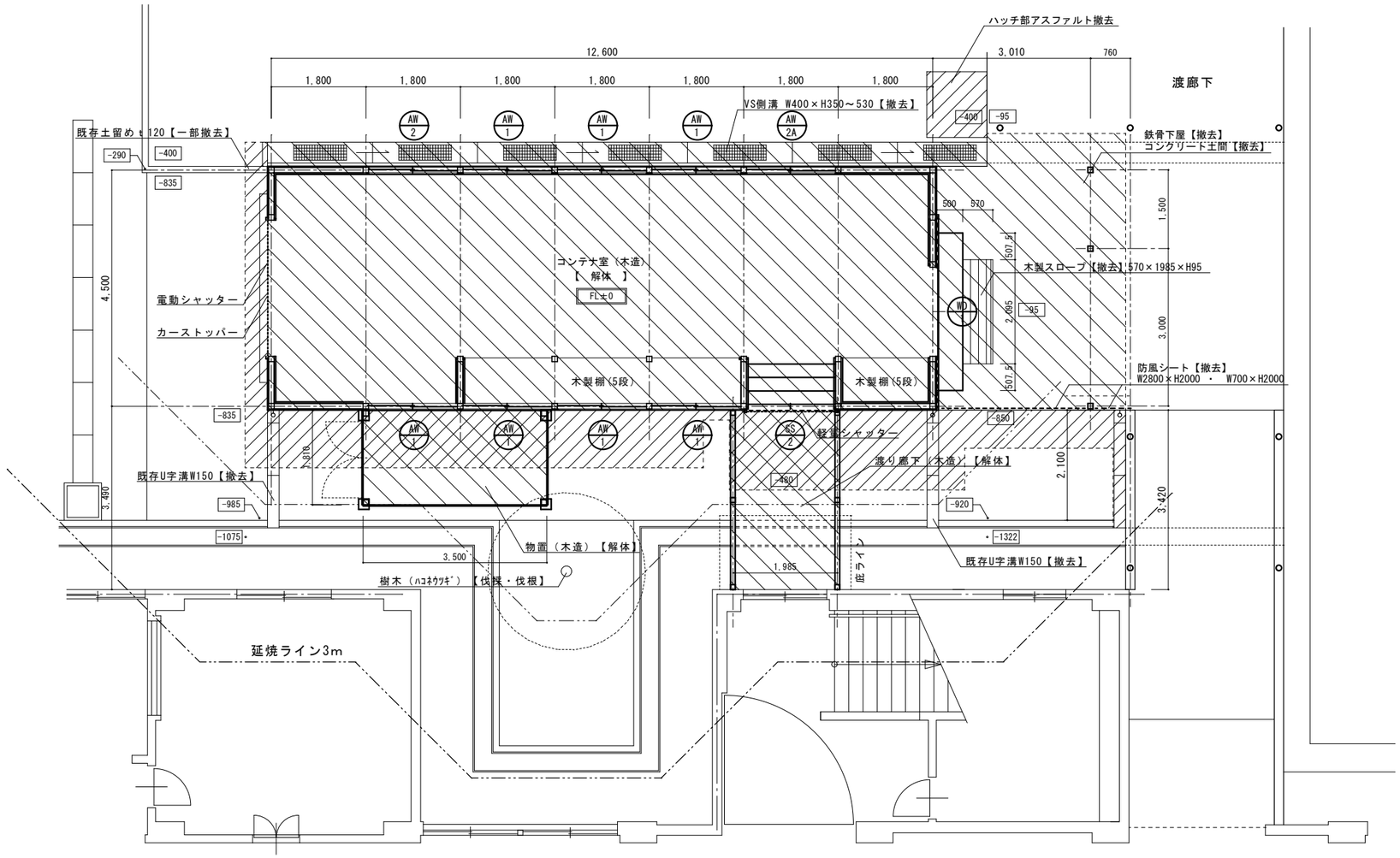
コンテナ室　　A　　B　　C





コンテナ室　　D

木製棚詳細図　　S=1：20



・・犬走 解体 Con t=200（D10@200ﾀﾃﾖｺ）程度

南校舎

■外部仕上げ表

屋 根	折板 ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t=0.6 H=90
外 壁	木下地＋モルタル＋吹付塗材
基 礎	布基礎（ 打ち放し）
軒 天	あらわし
樋	軒樋：ｱﾙﾐ角樋185*120 受金物@455 、竪樋：白ガス管 φ114

■内部仕上げ表

名 称	下 地	仕上げ
床	木下地	合板 t=12 + t=12
巾 木	木下地	木製 H=100
壁	木下地＋合板	ラワン合板 t=5.5
天 井	木下地	有孔石膏ﾎﾞｰﾄﾞ t=9 EP
備 考		木製 棚

記 号 名 称	AW-1 引き違いアルミサッシ	AW-2 引き違いアルミサッシ 2A 左右反転	WD-1 両引き戸	SS-1 電動シャッター	SS-2 軽量シャッター	
姿 図	枠撤去共 840 1,680	枠撤去共 アルミパネル 840 1,680	枠撤去共 1,810 1,710	撤去枠共 2,205 820 2,600	撤去枠共	
位 置 数 量	コンテナ室南側 6	コンテナ室北側 AW-2:1・AW-2A:1	入口 5	搬入口	通用口	
材質 仕上 見込	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ	木製フラッシュ	スチール	スチール	
建 具 金 物	ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切 ｸﾚｾﾝﾄ	ｸﾚｾﾝﾄ ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 二重水切	鍵			
硝 子 備 考	型ガラス4mm	型ガラス4mm				

GLOBAL ARCHITECTURE 株式会社 グローバル企画設計

DAY 26・08・19

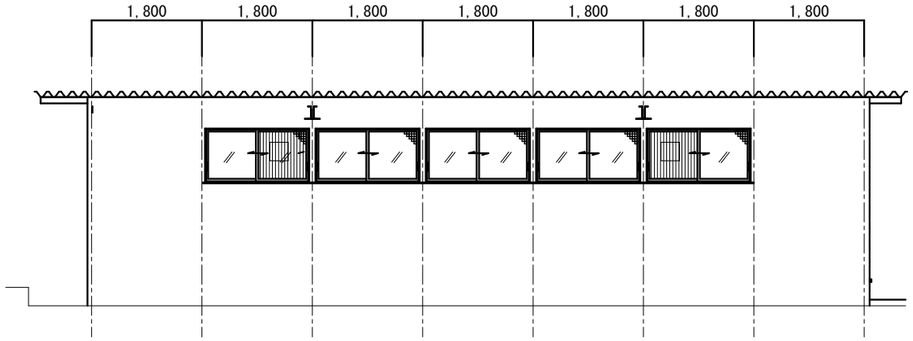
CONSTRUCTION NAME 国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事

SCALE 1/ 50 (A1)・1/ 100 (A3)

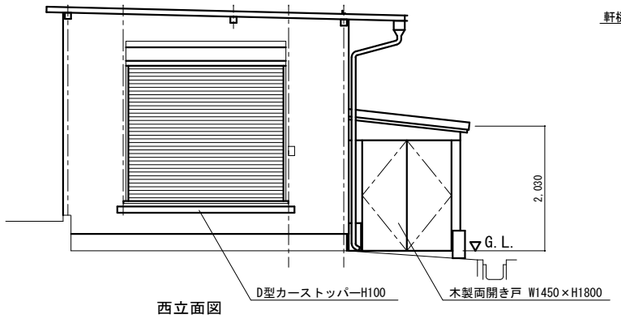
MAP NAME 既存コンテナ室 撤去図 建具表・展開図・天井伏図

〒380-0916 長野市大字稲葉字中千田2189-4 TEL026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士 一級建築士登録第108578号 清水 勉
図面を作成した建築士 一級建築士登録第124970号 松井 昭夫

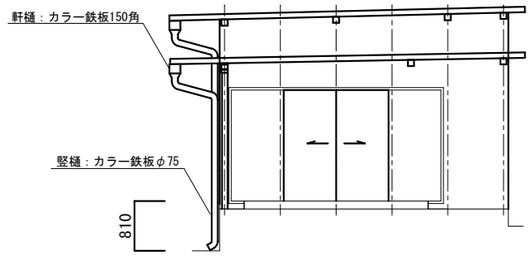
NO. A 83



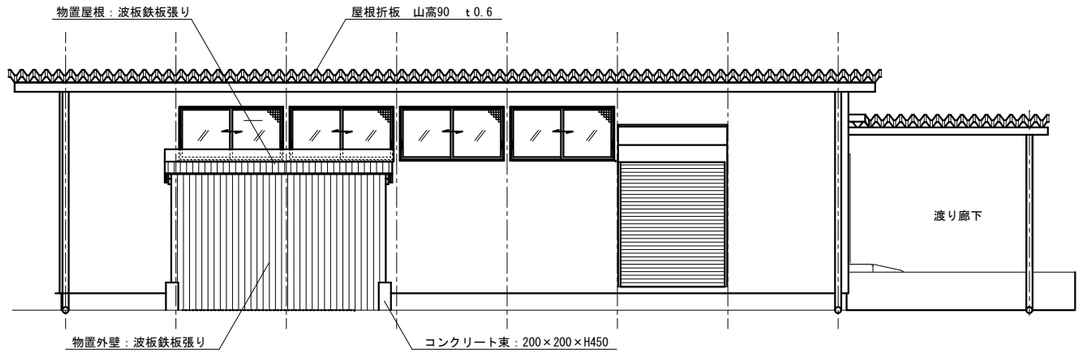
北立面図



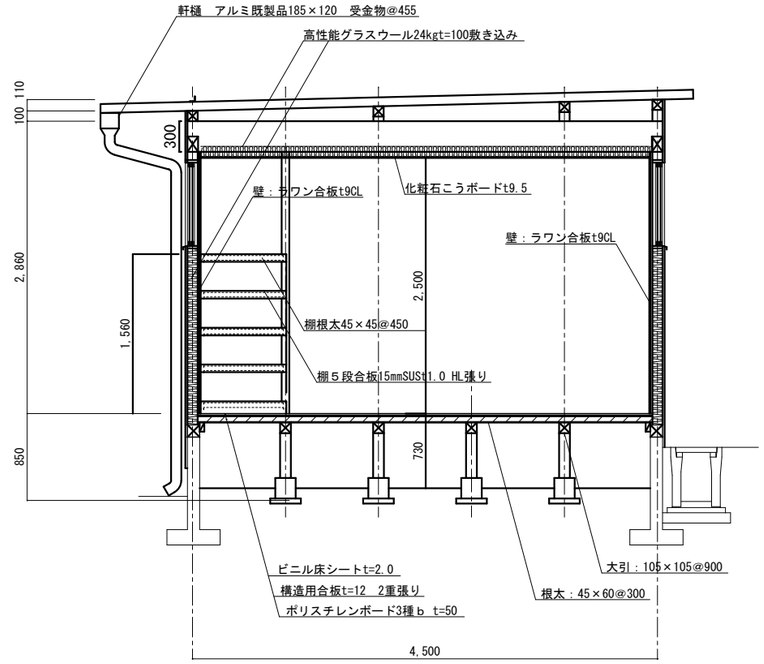
西立面図



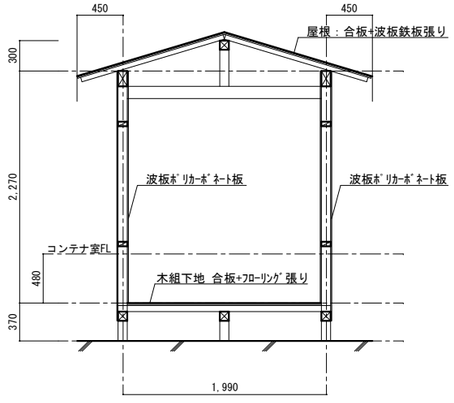
東立面図



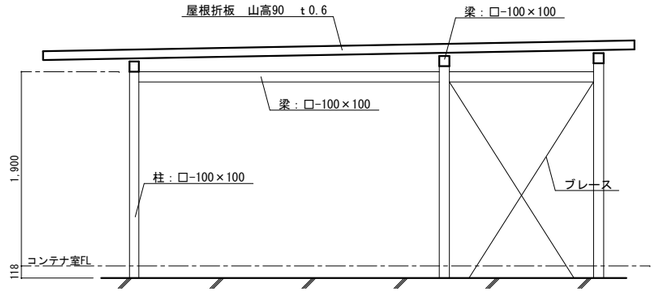
南立面図



コンテナ室　断面図



木造渡り廊下　断面図

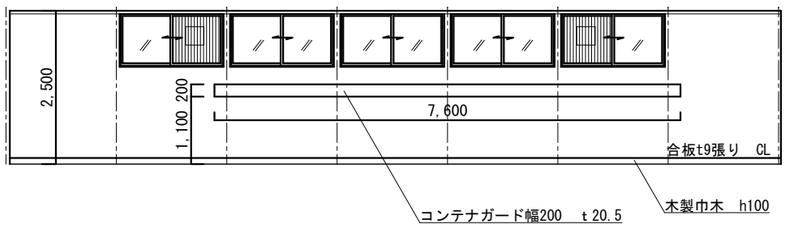


鉄骨渡り廊下　断面図

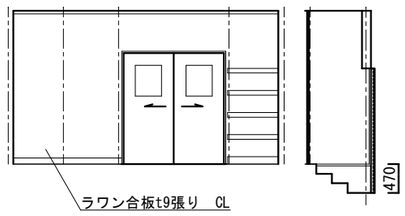
コンテナ室展開図　S=1/50

展開方向

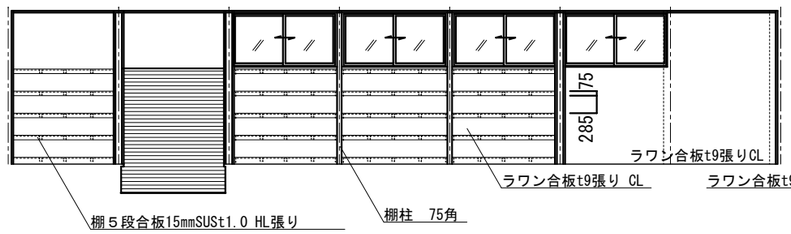
展開図　A



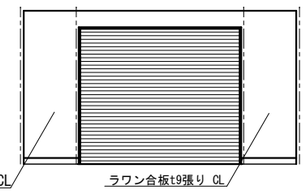
展開図　B



展開図　C



展開図　D



GLOBAL ARCHITECTURE　株式会社 グローバル企画設計

DAY 26・08・19

CONSTRUCTION NAME 国補　古里小学校　南校舎長寿命化改修建築工事

SCALE 1/50 (A1)・1/100 (A3)

MAP NAME 既存コンテナ室　撤去図
立面図・断面図・展開図

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　一級建築士登録第124970号　松井　昭夫

NO. A　84

構造設計特記仕様

※適用は ■ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

（1）建築場所　長野県長野市大字金箱

（2）工事種別　□新築　■増築　□増改築　□改築

（3）構造一級建築士の関与　□必要　■必要としない

□ 法第20条第一号（ 高さ60m超 ）

■ 法第20条第二号（ □RC高さ20m超　□S造4階建以上　□木造高さ13m超　□その他 ）

注（3）構造一級建築士の関与が義務付けられる建築物については解説書等を参照して確認する事。

（4）構造種別

□木造（W）　□補強コンクリートブロック造（CB）　■鉄骨造（S）

■鉄筋コンクリート造（RC 基礎）　□壁式鉄筋コンクリート造（WRC）

□鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）

□プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）　□

（5）階　数

1棟　地下　階　地上　3 階　塔屋　階

（6）主要用途　小学校

（7）屋上付属物

□高 架 水 槽　kN　□キュービクル　kN　□広告塔　□煙　突

（8）特別な荷重

■エレベータ　kN　□リフト　kN　□ホイスト　kN

□室外機　kN　□受水槽　kN　□キュービクル　kN

（9）付帯工事

□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□　□

(10) 増築計画　□有（　）■無

(11) 構造計算ルート　X方向ルート　2　Y方向ルート　2

2．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（1）コンクリート（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc = N/mm^u ²	品質基準強度 Fq = N/mm^u ²	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	■普通	18	-	18	
スラブコンクリート	■普通	21	21	18	
基礎・基礎梁	■普通	21	21	18	
柱・梁・床・壁	□普通、□軽量				
	□普通、□軽量				
デッキコンクリート	□普通、■軽量	21	21	18	
ラップルコンクリート	□普通				

■単位水量は 185m³ 以下、単位セメント量は 270kg/m³ 以上とする。

（2）コンクリートブロック（□ JIS A 5406 ）

□ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所（□　□　）

（3）鉄　筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋（JIS G 3112）	■ SD295 A	D16以下	基礎・基礎梁他	■ 重ね継手
	□ SD295 B			■ ガス圧接継手
	■ SD345	D19以上	基礎・基礎梁他	□ 溶接継手
	□ SD390			□ 重ね継手
	□			（ ）
高強度せん断補強筋	□ 材種			各継手の仕様詳細については本仕様5.(2)鉄筋の項による。
	□ 大臣認定番号 MSRB-			
丸　鋼（JIS G 3112）	□ SD295 A			
溶接金網（JIS G 3551）	□			

（4）鉄　骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
■ SS400　□ SM400　■ SN400 A Ⓡ C	大梁、小梁他	□有 ■無	
□ STKR400　□ STKR490　□ STK400	間口補強他	□有 ■無	
■ BCR295　□ BCP235　□ BCP325	柱	□有 ■無	大臣認定番号 MSTL-0142 同等品
□ SN490 A　□ SN490 B　□ SN490 C	柱脚　ダイアフラム	□有 ■無	
□ SSC400　□	胴縁他	□有 ■無	
□ SNR400 B	ブレース	□有 ■無	
溶接材料　□ JIS Z	-		

（5）ボルト

■ 高力ボルト

□ F10T(JIS B 1186)　■ S10T 認定番号 MBLT-9018 同等品　□ F8T　（■M16、■M20、□M22、□M24）

■ ボルト(JIS B 1180) M12　M16　□ 4.8(4T)　□

■ アンカーボルト

□ SS400　M12　L= 400 mm　ナット（□シングル、□ダブル）　※敷き胴縁

■ ABR400　M19　L= 700 mm　ナット（□シングル、■ダブル）

□ 既製品柱脚指定アンカーボルト

□ 頭付スタッドカボルト

φ=　L=　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

（6）屋根、床、壁

材種	型式 厚 その他	使用箇所	使用・構法
ALC (JIS A 5416)	厚	■壁 □床版	■スライド □ボルト止め □ロッキング □
折　板	H = 166　厚0.8	■屋根 □	□
ガルバリュウム鋼板	葺き　厚	□屋根 □	□
特殊デッキプレート (JIS A 3352)	型式　厚	□床版 □	□
デッキプレート (JIS A 3352)	型式 EZ-50　厚 1.2	□床版 □	□亜鉛メッキ品
キーストンプレート (JIS A 3352)	型式　厚	□床版 □	□

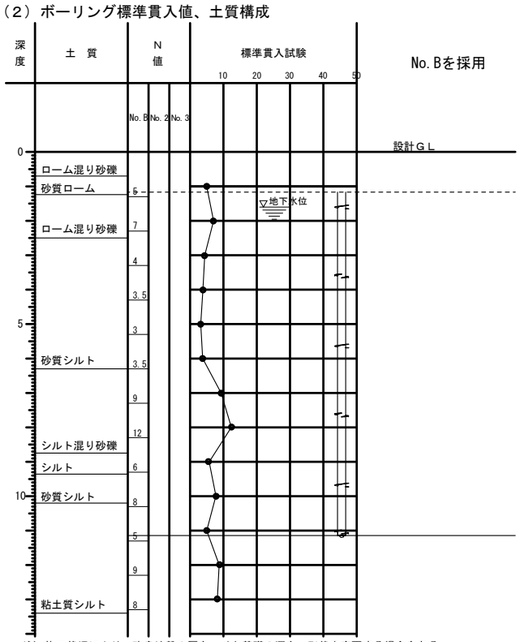
3．地　盤

（1）地盤調査資料と調査計画

■有　（■敷地内 □近隣）　□無　（調査計画　□有 □無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

（2）ボーリング標準貫入値、土質構成



注）施工状況により、改良地盤の厚さ、ベタ基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4．地業工事

（1）直接基礎　■べた基礎　□布基礎　□独立基礎　試験堀　□有 □無

深さ GL -1.20 m　支持層 - シルト質砂礫　長期許容支持力度 200 kN/m²　載荷試験　□有 □無

（2）地盤改良

□浅層混合処理工法　改良深さ GL-　m　設計基準強度　kN/m²　配合試験　□有 □無

□深層混合処理工法　設計基準強度　kN/m²　配合試験　□有 □無

□ラップルコンクリート 深さ GL-　m　設計基準強度　N/mm²

注）「建物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」をさんこうとする

（3）杭基礎

杭種	材料	施工法	備考
□RC　□PRC	PRC(□A-D16□A-D19□A-D22)	■打ち込み	
□PHC　□H鋼	PHC(□A種　□B種　□C種)	□埋め込み（　工法）	
□鋼管　■摩擦杭	鋼材　□SS400 ■STK490	□	
□SC杭　□PHC節杭	□JIS	□	
□場所打ちコンクリート杭	コンクリート Fc　N/mm²	□オールケーシング　□拡底杭	
	Fq　N/mm²	□リバースサーキュレーション	
	スランプ　cm以下	□アースドリル　□ミニアース	
	セメント量　kg/m³	□ＢＨ　□深礎（□手堀 □機械堀）	
	単位水量　kg/m³		
	鉄　筋　主筋 SD		
	HOOP SD		

杭仕様　■施工計画書承認　■杭施工結果報告書

試験杭　（■有 □無）　（■打ち込み □載荷 □孔壁測定）　1本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭先端深さ(m)	本数	特記事項
267.4φ羽径500	259.6(短期)	11.77	4	

5．鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度(Fc)が 36N/mm²以下に適用し、鉄筋の材種はSD390以下に適用する。

（1）コンクリート

■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS5 による。

■ 耐久設計基準強度　Ｆｄ　□短期　■標準　□長期　□超長期

■ セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。

■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１階の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS 5T - 603によることとし、供試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごとよとする。
また、打ち込み量が150m³ を超える場合は150m³m ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。
１階に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。
尚、共試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り６本以上として、その内４週用に３本を用いる。

■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。尚、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25 ℃未満の場合は 150 分以内、25 ℃以上の場合は 120 以内とする。

■ コンクリート打ち込み中及び打ち込み後５日間は、コンクリートの温度が２度を下回らない様にする。

■ 乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。

（2）鉄　筋

■ 鉄筋は JIS G 3112 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様に、JASS 5 による。

□ 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるＤ種１号適合品とする。

■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋基準図（１）（２）」による。

■ 鉄筋継手等

継手位置等の設計条件による使用・等級					
鉄筋継手工法	(1)引張力最小部位	(2) (1)以外の部位(注) A級	B級	SA級	鉄筋の径
■ 重ね継手	■ 40d □ 35d □ d	■			■ D16以下
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	■			■ D19以上
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D 以上
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D 以上

■ D19未満は、全て重ね継手とする。

■ 継手部分の施工要領は 社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
継手部の検査方法：・外観検査 ■有 □無 ・引張試験 □有 ■無 ・超音波探傷試験 ■有 □無
・外観試験の試験対象は、全圧接部とする。
・引張試験の試験片の採取数は、　１検査ロットにつき　□ 3本　□ 本
・超音波探傷試験の試験箇所数は、　１検査ロットにつき　■ 30箇所　□ 箇所
・引張試験及び超音波探傷試験の検査ロットの大きさは、同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200箇所程度までとする。

■ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、■Ｈ型（タガ型）　□W型（溶接型）　□Ｓ型（スパイラル型）とする。

■ コンクリート及び鉄筋の試験は、試験機関又は、工事現場等適切な場所で行う。なお、その場所の決定に当たっては、監督職員の承諾を受ける。

（3）型　枠

■ 材料　合板厚　12mm を標準とする。　■ 施工　JASS 5 による。

■ 型枠存置期間

種類 / 部位	せき板 基礎、梁側、柱、壁		せき板 スラブ下、梁下		支柱 スラブ下		支柱 梁下	
セメントの種類 / 早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
平均気温 / 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28	
(日) 5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm²		設計基準強度の50％		設計基準強度の 85％		100％	

注）1　片持ち梁、庇、スパン９．０ｍ以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注）2　大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材又は、これに代わるものを置く。
注）5　支柱盛りかえは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱っを取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）7　直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえは行わないこと。
注）8　支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれがある振動又は衝撃を与えないように行うこと。

6．鉄骨工事（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による

■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

□ 社）日本構造協会「建築鉄骨工事施工指針」

■ 鉄骨製作監理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれ検査・補強マニュアル」

（2）工事監理者の承認を必要とするもの

■製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書

■認定または登録工場（大臣認定　Ｓ　Ｈ　Ⓜ　Ｒ　Ｊ グレード　県登録　ランク）以上

■材料規格証明書※、または試験成績書

■鋼材　■高力ボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド

※ 社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格照明方法またはミルシート。

■社内検査表

（3）工事監理者が行う検査項目

（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）

■現寸検査　■組立・開先検査　■製品検査　■建方検査　□

（4）接合部の溶接は下記によること

■ 平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ

■ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」」

□ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱

（5）接合部の検査

■ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法		検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備考
■完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）		100 % 個	% 個	承認	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
	超音波探傷検査		100 % 個	30 % 個	承認	
□	内質検査	□硬さ試験	% 個	% 個	% 個	
		□赤温塗料塗布	% 個	% 個	% 個	
	マクロ試験・その他		個	個	個	
■スミ肉溶接部	外観検査（※）		100 % 個	% 個	承認	

第三者検査機関名

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注１）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷試験を100%行うこと

注２）知事が定めた重大な不具合が生じた場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

■ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

軸力導入試験　□ 要　■ 否　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　■ 否

■ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共廻り等の異常が無いことを確認する。

■ トルシア型高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

（6）防錆塗装　（劣化等級３）

■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾌﾟﾗｲﾏｰ + 2液形ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾌﾟﾗｲﾏｰ + ｴﾎﾟｷｼ樹脂ｴﾅﾒﾙを使用し
４つ星１回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。

■ 現場における高力ボルト接合及び接合部の素地調整は念入りに行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、２回塗りとする。

■ 品確法より、最下階のコンクリート面より100mm下がった位置より上方へ1000mm部分のPS部柱は上記錆止めにｴﾎﾟｷｼ樹脂ｴﾅﾒﾙ塗りとする。

（7）耐火被覆の材料

■ 耐火被覆材吹付け

7．設備関係

■ 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。

■ 建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、腐食のための有効な措置を講じること。

■ 建築物に設ける屋上から突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。

□ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５ｃｍ以上とした鉄筋コンクリート造とする。

■ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対し適切に支持されていること。

■ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。

■ エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。

■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。

■ 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし、間の間隔を３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。

8．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

■ 各試験の共試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

（参考）

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765

一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号

一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1:NON A3:NON	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	構造設計特記仕様
		No.	S-01

鉄筋コンクリート構造配筋基準図（１）

§１　一般事項

１－１ 基本事項

１．使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
２．設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
　また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書１－２－４に指定した共通仕様書及び日本建築学会「ＪＡＳＳ５（２００３）」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
３．本標準図は異形鉄筋を対象とし、ｄは呼び名に用いた数値とする。

１－２ その他

４．本標準図に示す単位は特記なき限りすべてｍｍとする。

§２　共通事項

２－１ 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記　号	●	×	⌀	●	○	◎	⊠	◘	✦	◆	▣
呼び径ｄ	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径Ｄ	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

２－２ 鉄筋の折り曲げ

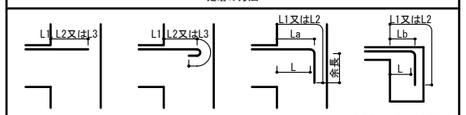
柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D) SD295A,SD295B,SD345 D16以下	SD295A,SD295B,SD345 D19～D38	SD390 D19～D38
180°	余長 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	余長 6d以上			
90°	余長 8d以上			
135°及び90°（幅止め筋）	余長 4d以上 / 余長 4d以上			

２－３ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手の長さ L1 直線	重ね継手の長さ L1 ﾌｯｸ付	定着の長さ フックなし L1	フックなし L2	フックなし L3 小梁	フックなし L3 ｽﾗﾌﾞ	フック有り L1	フック有り L2	フック有り L3 小梁	フック有り L3 ｽﾗﾌﾞ
SD295A SD295B	18	45d	35d	45d	40d	20d	10dかつ150mm以上	35d	30d	10d	—
	21	40d	30d	40d	35d			30d	25d		
	24・27	35d	25d	35d	30d			25d	20d		
	30・33・36	35d	25d	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	35d	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	30d	45d	35d			30d	25d		
	24・27	40d	30d	40d	35d			30d	25d		
	30・33・36	35d	25d	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	35d	50d	40d			35d	30d		
	24・27	45d	35d	45d	40d			35d	30d		
	30・33・36	40d	30d	40d	35d			30d	25d		

定着の方法



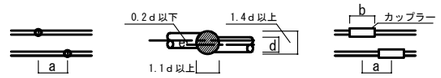
投影定着長さ La・Lb

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24・27	15d	15d
	30・33・36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24・27	20d	15d
	30・33・36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24・27	20d	20d
	30・33・36	20d	15d

２－４ 継手一般

１．主筋、耐力壁の鉄筋の重ね継手長さ及び柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは左表による。ただし構造設計特記仕様 1-(11) で、計算ルートがルート３以外の場合、主筋等の継手重ね長さと柱に取り付く梁の定着長さは表Ｌ１、Ｌ２かつ４０ｄ(軽量コンクリートを使用する場合は５０ｄ)とする。
２．定着方法は左図による。なお仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さＬが、左表のフックあり定着長さを確保できない場合は、全長を左表に示す直線定着長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの定着投影長さを左表に示す長さ（かつ梁主筋柱内定着においては、原則と内して、柱せいの３／４倍以上）をのみ込ませる。
３．軽量コンクリートの場合の定着長さは、表の値に５ｄを加えたものとする。

１．溶接継手



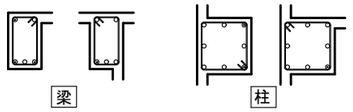
２．機械式継手

３．重ね継手　（下記のいずれかとする。）

４．Ｄ３５以上の鉄筋は重ね継手としてはならない。（溶接、機械式継手等による）
５．溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は２サイズ、突き合せ溶接の場合は１サイズまでとする。
６．溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

２－５ 鉄筋のフック

●下記の１．～７．に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
１．あばら筋及び帯筋　　２．煙突の鉄筋
３．柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）

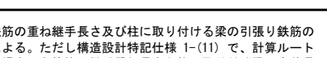


上図の●印の鉄筋の末端にはフックが必要。

４．単純梁の下端筋、片持ちスラブの上端筋の先端
５．最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
６．杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭２本打以上の場合）
７．鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

２－６ 鉄筋のあき

● 鉄筋のあきａは原則として下記による。
　呼び名の数値ｄの1.5倍以上
　粗骨材の最大寸法の1.25倍以上　　かつ25以上



● 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。
● 二段筋のあきは1.5ｄとする。

２－７ かぶりの厚さ

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

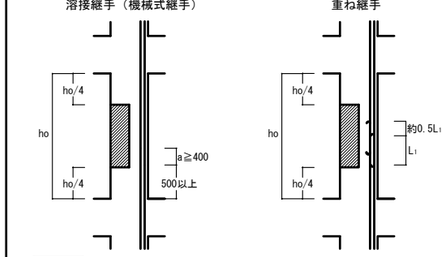
部位			かぶり厚さ 仕上げあり	かぶり厚さ 仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30(20)	30(20)
		屋外	30(20)	40(30)
	柱 梁 耐力壁	屋内	40(30)	40(30)
		屋外	40(30)	50(40)
	擁壁		50(40)※1	50(40)※1
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り		50(40)※2	
	基礎・擁壁		70(60)※2	

１．（　）内の数値は最小かぶり厚さを示す。
２．仕上げあり　とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
３．※１　品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で１０減の値とすることができる。
４．※２　軽量コンクリートの場合は、これに１０加算する。
５．柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の１．５倍以上とする。

§３　柱

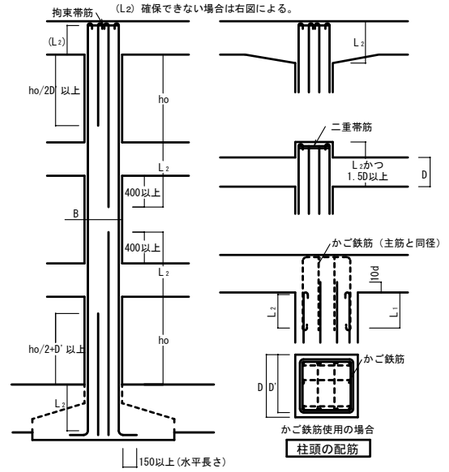
３－１ 主筋の継手

溶接継手（機械式継手）　　重ね継手

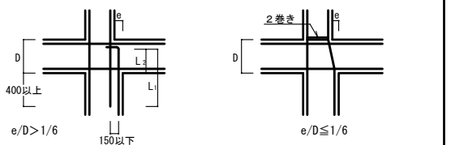


● 印内に継手中心部を設けることを原則とする。

３－２ 主筋の定着

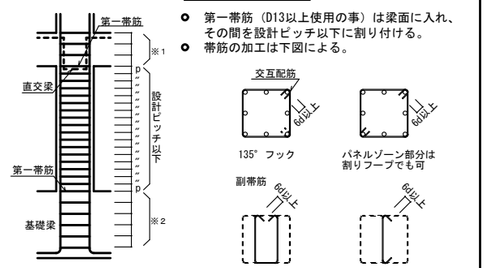


※　余長D'は柱有効成とし、構造計算によって確認すれば、それによってもいい。



柱径が異なる場合

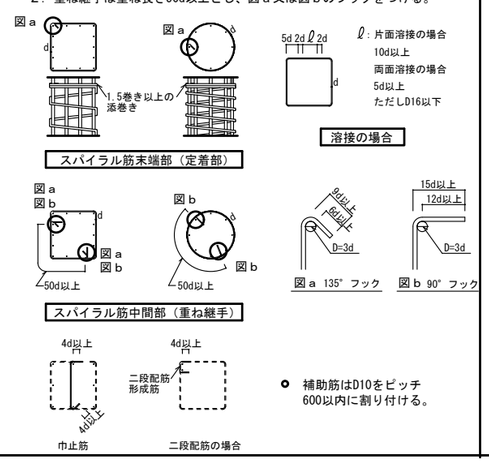
３－３ 帯筋 副帯筋



● 第一帯筋（D13以上使用の事）は梁面に入れ、その間を設計ピッチ以下に割り付ける。
● 帯筋の加工は下図による。

● パネルゾーンの帯筋は設計図によるが、明記なき場合は下記による。ただし、帯筋量(pw)は0.2%以上とする。
※１．設計ピッチの1.5倍以下とする。　□形以上の場合は同径同材質で□形@100以下とする。
※２．基礎梁部分は、同径で　□形@150以下とする。

● スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
１．末端は1.5巻き以上の添巻きをし、図ａのフックをつける。
２．重ね継手は重ね長さ50d以上とし、図ａ又は図ｂのフックをつける。

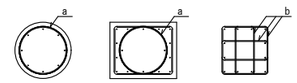


● 補助筋はD10をピッチ600以内に割り付ける。

３－４ 補助筋

３－５ 柱のコンファインド補強

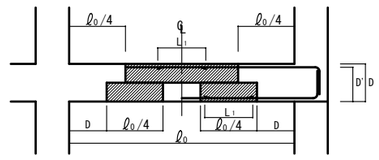
補強する柱は設計図による。（柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。）



ａ　スパイラル帯筋@60～75（有効間隔50程度）
ｂ　溶接閉鎖型帯筋@60～75（有効間隔50程度）

§４　梁

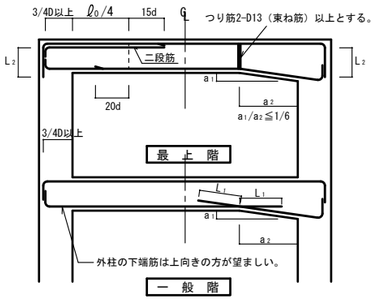
４－１ 主筋の継手



● 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は、柱面より500以上はなすこと。
● 定着形状を下記以外とする場合は設計図書による。

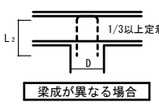
４－２ 主筋の定着及び余長

外　柱



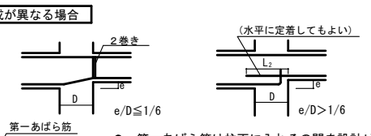
※　余長D'は梁有効成とし、構造計算によって確認すれば、それによってもいい。

中　柱

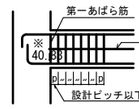


● 梁主筋は原則として通し筋とするが、最上階上端筋は1/3以上柱内に定着すること。
ただし、柱主筋が梁にL2以上定着されている場合はこの限りではない。

梁成が異なる場合

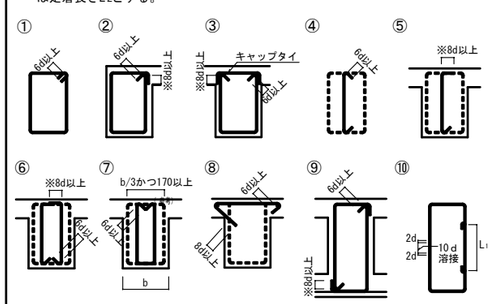


４－３ あばら筋 副あばら筋



● 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
● あばら筋の加工は下図①による。
②③⑤⑥⑧⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
● ⑨⑩は梁成の大きい場合。
● ⑧はピッチ2pで交互配置とする。
● 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

※　ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL2とする。



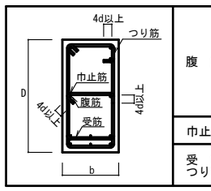
⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
※　柱面より梁成の範囲は、180° フック又は135° フックが望ましい。

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺	A1:NON A3:NON	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　鉄筋コンクリート構造配筋基準図（１）
			No. S-02

鉄筋コンクリート構造配筋基準図（２）

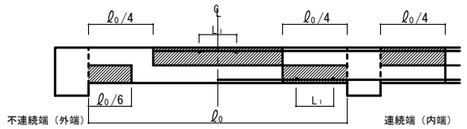
４－４ 補助筋

腹筋	D＜ 600　不要
	600≦D＜ 900　2-D10（１段）
	900≦D＜1200　4-D10（２段）
	1200≦D　D10 @300以内
巾止筋	D10 @1000以内で割り付ける。
受筋つり筋	D10 @1000以内で割り付ける。



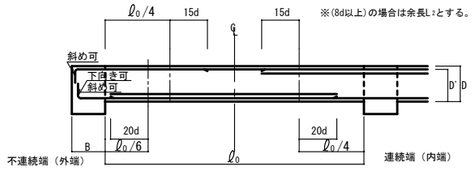
４－５ 小梁及び片持梁

a)小梁継手



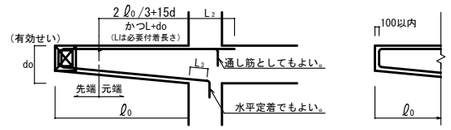
- ▨ 印内に継手中心部を設けること。ただし溶接継手の場合は梁面より500以上はなすこと。

定着



b)片持梁定着継手

- 下端筋は水平定着でも可。上端筋には継手を設けてはならない。



４－６ 基礎梁及び基礎小梁

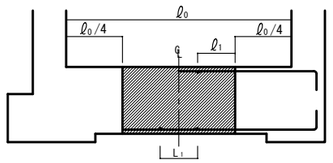
※ 地反力を受ける梁は設計図に示す。

① 地反力を受けなく、床など上載荷重を受ける場合は(4-1)(4-2)による。
ただし、余長は ℓ1 { ℓ1 ≧ min (D', L2) }とする。

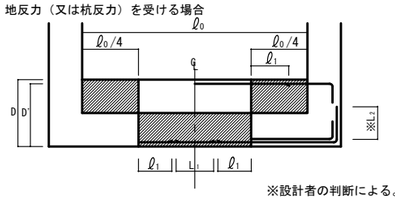
※ 余長D' は構造計算によって確認すれば、それによってもよい。

② 地反力及び上載荷重を受けない場合。

a)基礎梁の継手及び定着



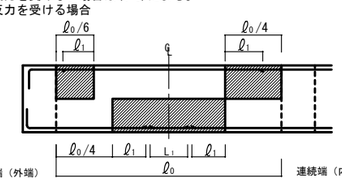
③ 地反力（又は杭反力）を受ける場合



※設計者の判断による。

b)基礎小梁の継手及び定着

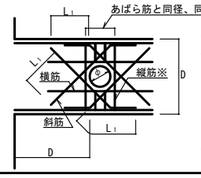
① 地反力を受けない場合は(4-5)による。
② 地反力を受ける場合



- ▨ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面（基礎小梁の場合は梁面）より500以上はなすこと。

４－７ 梁の貫通補強

１．補強筋は原則として工場製品（認定品）を使用する。
２．認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。



- 梁貫通孔は梁成の1/3以下とする。
- 孔が複数の場合は中心間隔を径（φ）の3倍以上とする。
  また位置は原則として柱面から梁成 D以上はなし、梁成の中央D/2の範囲内とする。
- φが100かつD/8未満のとき、補強を必要としないが、あばら筋を切断してはならない。
- ※縦筋はあばら筋加工とする。

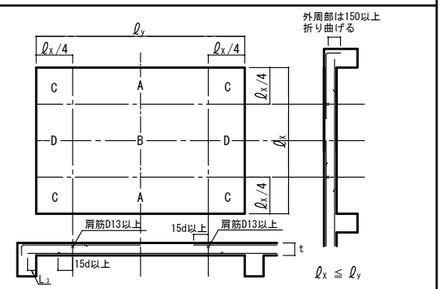
５－１ 鉄筋の折り曲げ及び定着

５－２ 継手

５－３ 片持ちスラブ

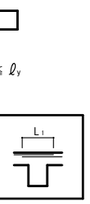
５－４ 補強筋

§ ５　スラブ



継手位置は原則として下表によるが、右図でもよい。

		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B　D
	長辺方向	A　B
下端筋	短辺・長辺方向	A　C　D



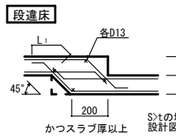
開口補強　A:開口面積

A ≦ 0.3㎡ かつ ℓ ≦ 0.6m

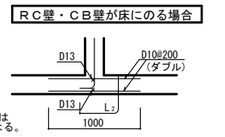
0.3㎡ < A ≦ 1.0㎡ かつ ℓ ≦ 1.0m

注）スラブ筋を切断しない場合は補強を要しない。

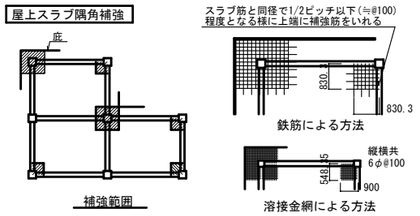
段違床



ＲＣ壁・ＣＢ壁が床にのる場合

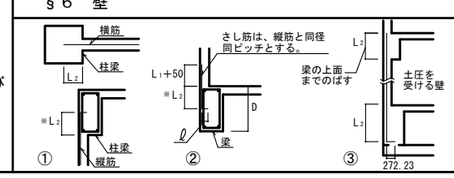


屋上スラブ隅角補強



§ ６　壁

６－１ 定着及び継手



６－２ 壁配筋

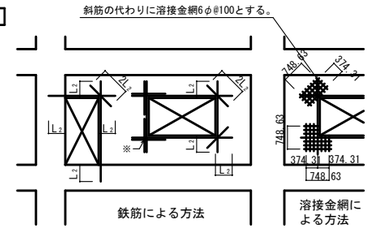
６－３ 補強筋

- 定着長さはL2、及び継手長さはL1とする。
  ※ただし耐震壁で帯筋、あばらの内側に定着できない場合は ℓ =150程度
  45°～90° 折り曲げ、定着長さはL2かつD/2以上とする。（通し配筋の場合は不要）
- 土圧を受ける壁の外側鉄筋の定着は③図による。
- 継手位置はどの部分でもよいが、土圧を受ける壁は5-2項の土圧面側を上端筋側に読み替える。

壁の配筋は設計図書による。

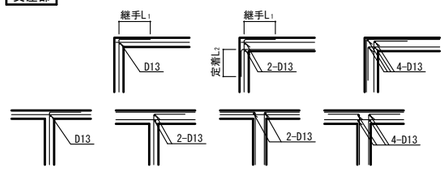
- ダブル配筋では巾止筋を縦横共D10@1000以内を標準とする。

開口部



- ※斜筋を縦・横補強筋でおきかえる場合は設計者の指示による。
- 斜筋は内側に配置する。壁筋を切断しない場合は補強を要しない。

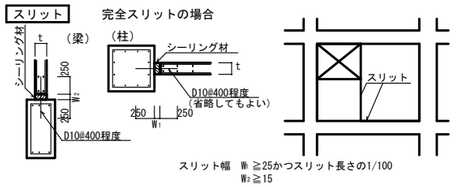
交差部



端部

- 開口補強筋はリストによる

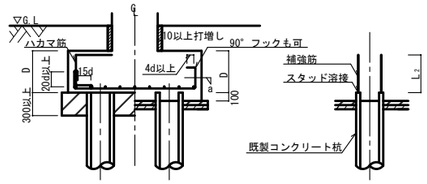
スリット　完全スリットの場合



§ ７　基礎

７－１ 独立基礎

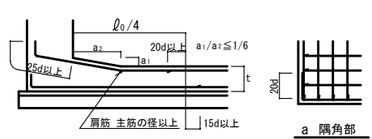
７－２ 杭基礎



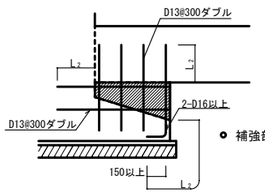
- １本杭で偏心していない場合は、立上り筋不要
- 杭頭補強筋は設計図による。
- 杭頭を切断した場合の補強は、設計者の指示による。

７－３ べた基礎継手及び定着

継手位置は5-2項の上端筋を下端筋に読み替える。



７－４ 基礎と基礎梁

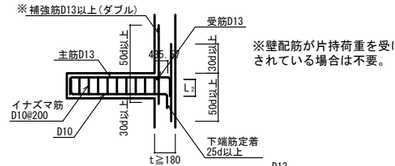


- 補強部 ▨ の厚さは梁巾とする。

§ ８　その他

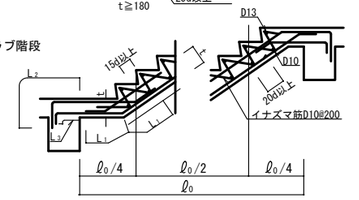
８－１ 階段

片持階段

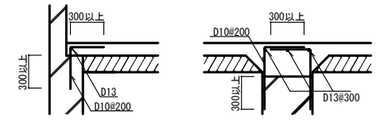


※壁配筋が片持荷重を受ける配筋とされている場合は不要。

スラブ階段

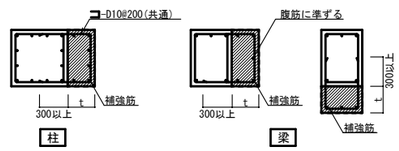


８－２ 土間コンクリート



ＲＣ壁・ＣＢ壁の補強

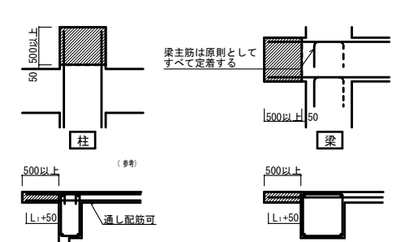
８－３ 打増し補強



- ▨ は打増し部分を示す。
- 補強筋（定着は20d以上）

t≦ 50 補強なし	50＜t≦100　D13@300
100＜t≦200　D16@300	200＜t≦300　D16@200
t＞300　設計図による	

８－４ 増築予定



- ▨ は、はつり部分を示す。
- 増築時の継手は、原則として柱・梁の主筋は溶接継手する。
  （増築側の鉄筋は水平定着でもよい。）

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮尺	A1:NON A3:NON
設計年月日	R7.2.28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋基準図（２）
No.	S-03

鉄骨構造標準図（１）

一　般　事　項

１．　適用範囲

（１）この基準図は，鉄骨構造，鉄骨鉄筋コンクリート構造の鉄骨部分の一般的な溶接基準を示すものである。
鉄骨製作業者は，本基準を基に工事監理者と協議の上，本工事用の溶接基準を作成し，承認を受けるものとする。

（２）この基準図は，アーク溶接，ガスシールドアーク半自動溶接により工場で溶接を行う場合に適応する。

（３）この基準図は，以下の鋼材に対して適応する。
SN400，SN490，SS400，SM400，SM490，SM520，STK400，STK490
BCR295，BCP235，BCP325，STKR400，STKR490，SSC400

（４）適用板厚は原則として４０mm以下とする。

（５）サブマージアーク自動溶接における開先形状は，原則として日本建築学会「鉄骨工事技術指針，工場製作編」によるが，工事監理者と協議の上決定する。

２．　工作一般

（１）鉄骨の製作及び施工に先立って，「鉄骨工事施工要領書」を工事監理者に提出し，承認を得る。

（２）溶接工は，施工する溶接に適用するＪＩＳＺ３８０１（手溶接）ＪＩＳＺ３８４１（半自動溶接）の溶接検定試験に合格し，引続き半年以上溶接に従事している者とする。

（３）溶接姿勢は原則として下向きとする。但し，工事監理者の指示により上向き，横向きとすることができる。

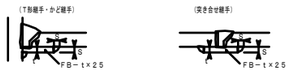
（４）裏はつり
突合わせ溶接における両面溶接は，原則として裏はつりを行う。但し，自動溶接において完全溶込みが得られる場合は裏はつりを省略してもよい。

（５）余盛り
突合わせ継手，かど継手，隅肉溶接，及びフレア溶接の溶接部には余盛りを行い，その高さの限度は下表による。

溶接継手	溶接工法	余盛りの限度
突合せ継手 かど継手	手　溶　接	3mm以下
	半自動溶接	4mm以下
	自動溶接	4mm以下
隅肉溶接 フレア溶接	手　溶　接 半自動溶接 自動溶接	（0.1S＋1）mm以下 S：隅肉溶接のサイズ

（６）溶接板の段差
突合わせ部の表面に，板厚又は板幅の差により，わずかな段違いのある場合は，表面の形が緩やかに移行するように余盛りをする。
板厚差による段違いが１０mmを越える場合は，厚い方の材を１／２．５以下の傾斜に加工し，開先部分で薄い方の材と同一の高さとする。

（７）裏当板の寸法及び溶接
片面溶接に用いる裏当板の溶接は，断続隔肉溶接とする。



（裏当板の寸法　単位mm）

溶接工法	t
手　溶　接	6以上
半自動溶接	9以上
自　動　溶　接	12以上

（溶接のサイズ　単位mm）

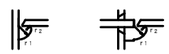
裏当板の寸法	S
t≦9	5
t＞9	9

（８）エンドタブ（突合わせ溶接に於いて、特記なき限りスチールタブを使用する）
エンドタブは，原則として母材と同厚で，母材開先形状と同じ形状のものを取り付ける。又，特記なき限り溶接検査終了後，エンドタブの一部（５～１０mm）を残して切断し，グラインダ仕上げをする。
セラミックスタブ及びゲージタブの使用については設計者の承認を得ること。

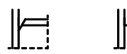
（エンドタブの寸法　単位　mm）

溶接工法	溶接方向長さ	直角方向長さ
手　溶　接	３５以上	３５以上
半自動溶接	４０以上	３５以上
自　動　溶　接	７０以上	３５以上

（９）スカラップ
スカラップは下記の１）または２）による。
１）改良スカラップ　：ｒ１は３５mm程度、ｒ２は１０mm程度とし、複合円は滑らかに仕上げること。



２）ノンスカラップ



同時ビルドＨの場合、梁の隅肉溶接はスカラップ端部の手前５mm程残して止める。

（１０）隅肉溶接の長さ
１）応力を伝達する隅肉溶接の有効長さは，隅肉のサイズの１０倍以上で，かつ４０mm以上とするのを原則とする。
但し，有効長さはビートの始点及びクレータを除いた部分の長さとする。

Ｌ：隅肉溶接の長さ
Ｓ：隅肉溶接のサイズ
Ｌe：有効長さ
Ｌ≧Ｓ

２）隅肉溶接に於いて，特記なき限り廻し溶接を行う。廻し溶接の長さは，隅肉のサイズの２倍を原則とする。

（１１）補強隅肉溶接
Ｔ型継手，（両面溶接）及び部分溶込み溶接の場合には補強隅肉を付加し，そのサイズは突合わせる板厚の１／４以上かつ１０mm以下とする。

溶　接　開　先　標　準　図

突き合せ溶接

突き合せ継手

1	≧6	F	G	0
		H	R	2
		V	α1	60°
2	≧6	F	G	6
		H	R	2
			α1	45°
	≧12	V	G	9
			R	2
			α1	35°
3	≧16	F	G	0
		H	D1	2/3（T－R）
			R	2
		V	D2	1/3（T－R）
			α1	60°
			α2	60°
4	≧6	F	G	0
		H	R	2
		V	α1	45°
5	≧6	F	G	6
		H	R	2
			α1	45°
	≧12	V	G	9
			R	2
			α1	35°
6	≧16	F	G	0
		H	D1	2/3（T－R）
			R	2
		V	D2	1/3（T－R）
			α1	45°
			α2	60°

Ｔ型継手

7	≧6	F	G	0
		H	R	2
		V	α1	45°
8	≧6	F	G	6
		H	R	2
			α1	45°
	≧12	V	G	9
			R	2
			α1	35°
9	≧16	F	G	0
		H	D1	2/3（T－R）
			R	2
		V	D2	1/3（T－R）
			α1	45°
			α2	60°

かど継手

10	≧6	F	G	0
		H	R	2
		V	α1	45°
11	≧6	F	G	6
		H	R	2
			α1	45°
	≧12	V	G	9
			R	2
			α1	35°
12	≧16	F	G	0
		H	D1	2/3（T－R）
			R	2
		V	D2	1/3（T－R）
			α1	45°
			α2	60°

隅肉溶接

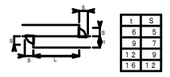
13　両面溶接　t≦16

t	S
6	5
9	7
12	9
16	12

14　K型　両面溶接　16＜t≦32

t	S
19	6
22	7
25	8
28	9
32	10

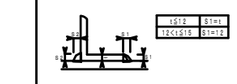
15　片面溶接　t≦16



t	S
6	5
9	7
12	9
16	12

L：薄い方の板厚の５倍以上かつ３０mm以上

16　形鋼溶接　t≦15



t≦12	S1＝t
12＜t≦15	S1＝12

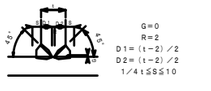
S2はS1の隅肉サイズの２倍又は、S1の溶接長さの２倍とする

部分溶込み溶接

17　片面溶接　12≦t≦32

t	D
12	10
16	11
19	12
22	13
25	13
28	14
32	15

18　両面溶接　16≦t≦32

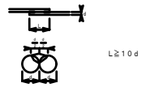


G＝0
R＝2
D1＝（t－2）／2
D2＝（t－2）／2
1／4 t≦S≦10

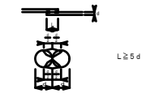
t＜16の場合は隅肉溶接とする

フレア溶接

19　片面溶接　鉄筋と鉄筋

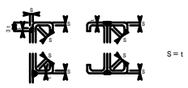


20　両面溶接　鉄筋と鉄筋

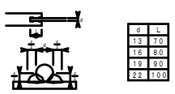


21　軽量形鋼

22　軽量形鋼



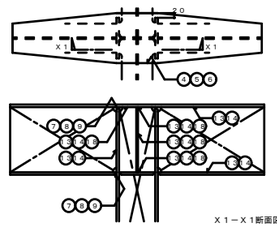
23　両面溶接　鉄筋とプレート



d	L
13	70
16	80
19	90
22	100

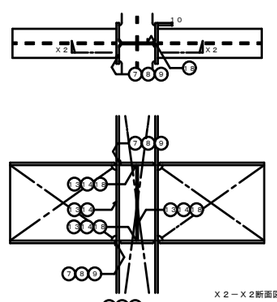
仕　口　部　標　準　詳　細　図

（ａ）柱頭部



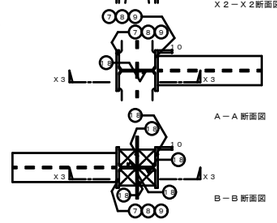
Ｘ１－Ｘ１断面図

（ｂ）一般部

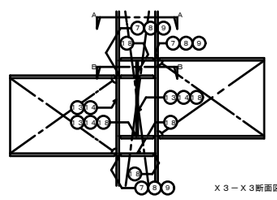


Ｘ２－Ｘ２断面図

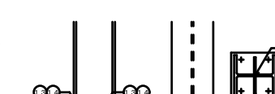
（ｃ）段差部



Ａ－Ａ 断面図

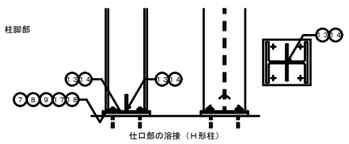


Ｂ－Ｂ 断面図



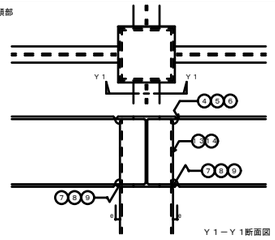
Ｘ３－Ｘ３断面図

（ｄ）柱脚部



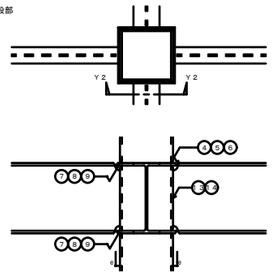
仕口部の溶接（Ｈ形柱）

（ａ）柱頭部



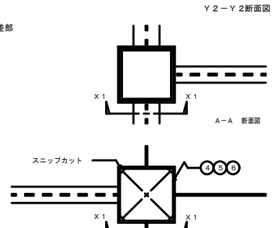
Ｙ１－Ｙ１断面図

（ｂ）一般部

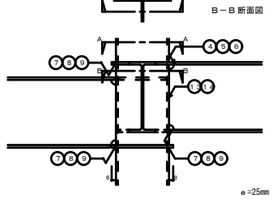


Ｙ２－Ｙ２断面図

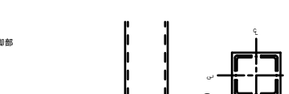
（ｃ）段差部



Ａ－Ａ 断面図



Ｂ－Ｂ 断面図

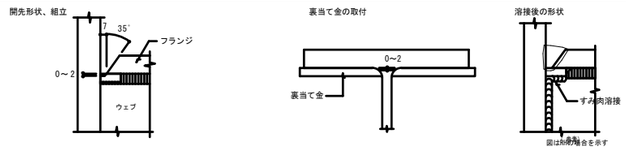


e＝25mm（柱板厚≧28の時30mm）

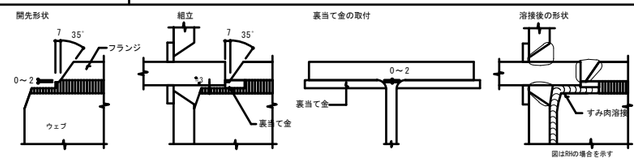
（ｄ）柱脚部

仕口部の溶接（角形柱）

工場溶接のノンスカラップ工法　柱通し形式（裏当て金方式、先組BH、RH）



工場溶接のノンスカラップ工法　通しダイヤフラム形式（裏当て金方式、先組BH、RH）



相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1：NON A3：NON
設計年月日	R7．2．28
工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
図面名称	鉄骨構造標準図（１）
No.	S-04

鉄骨構造標準図（２）

高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ・ボルト穴径・最小縁端距離（令68条による）

(mm)

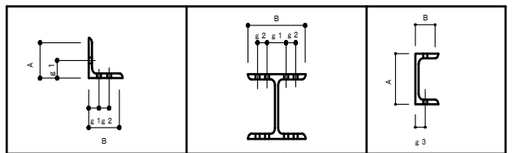
	呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト	M12	(12.5)		22	18	(30)	(30)	(50)
	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(40)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M34以上	呼び径＋５		9d/5	4d/3			

（）内はボルトを示す

〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

形鋼のゲージ

（単位 ： mm）

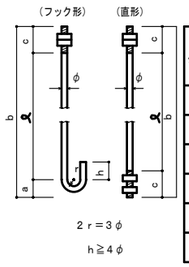


AあるいはB	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g3	最大軸径
40	22		10	100**	56		12	40	24	10
45	25		12	125	75		16	50	30	12
50**	30		12	150	90		22	65	35	20
60	35		16	175	105		22	70	40	20
65	35		20	200	120		24	75	40	22
70	40		20	250	150		24	80	45	22
75	40		22	300*	150	40	24	90	50	24
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24
90	50		24	400	140	90	24			
100	55		24							
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

＊ B＝300は千鳥打とする.

＊＊印の欄のgおよび最大ボルト径の値は強度上支障がないとき 、最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる.

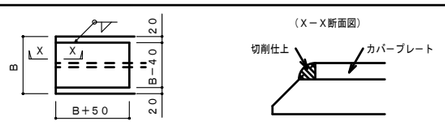
アンカーボルト定着長さ



材質：SS400（中ボルト）

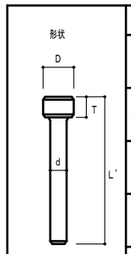
ボルト公称軸径 φ	フック形寸法 (mm) a	c	ℓ	b	h	直形寸法 (mm) c	ℓ	b
16	32	80	500	612	65			
20	40	80	600	720	80			
22	44	80	650	774	90	80	650	810
24	48	100	700	848	100	100	700	900
27						100	850	1050
30						100	900	1100

カバープレートの取付要領



頭付きスタッド

スタッド材の標準形状・寸法



呼び名	スタッド材 軸径d mm	頭径D mm	頭高さT mm	溶接後の長さL mm
φ13mm	13.0	25.0	8.0	80, 100, 120
φ16mm	16.0	29.0	8.0	80, 100, 120
φ19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0	35.0	10.0	80, 100, 130, 150

スタッドコネクタのピッチ・ゲージなどは下記による.

1）スタッドコネクタのピッチ（はりの材軸方向の間隔）は、軸径の７．５倍以上で、かつ６０ｃｍ以下とする.

2）スタッドコネクタのゲージ（はりの材軸と直角方向の間隔）は、軸径の５倍以上とする.

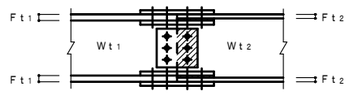
3）鉄骨ばりフランジ縁とスタッドコネクタの軸心との距離は、４ｃｍ以上とする.

4）コンクリートスラブの縁辺からスタッドコネクタの軸心までの距離は、１０ｃｍ以上とする.

5）スタッドコネクタのコンリートかぶり厚さは、あらゆる方向について３ｃｍ以上とする.
ただし、デッキプレートのみぞ幅によって制限される場合は、この項の適用を除外する.

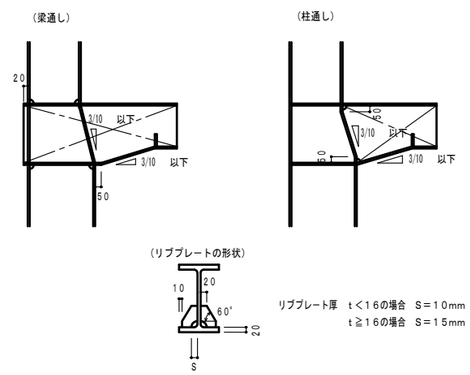
6）鉄骨梁のウェブ直上に溶接される場合を除き、溶接するスタッドコネクタの軸径は、フランジ板厚の２．５倍以下とする.

フランジ及ウェブ厚の差のある場合



Ft1－Ft2
Wt1－Wt2 ≧1mm フィラープレート併用のこと

柱及梁の仕口及絞り

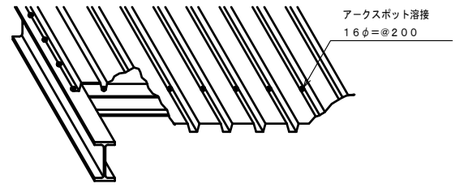


リブプレート厚 t＜16の場合 S＝10mm
t≧16の場合 S＝15mm

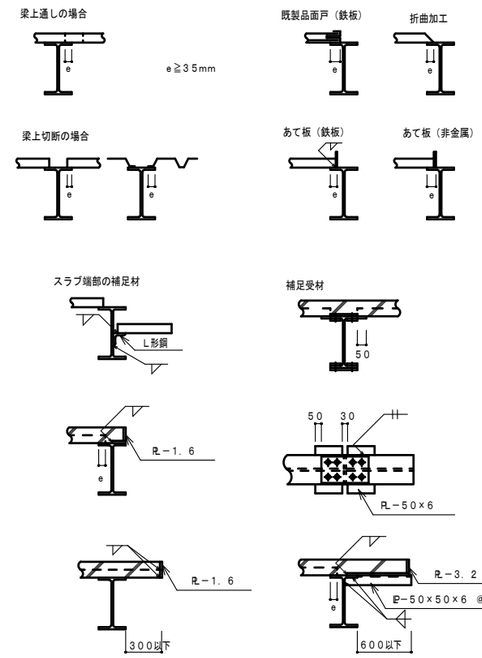
注）1. 柱・梁仕口パネルの板厚は、その仕口パネル面内方向に集まる柱・梁ウェブ材のうち最も厚い物が16mm以下の場合は、1サイズアップ、19mm以上の場合は同厚とする.
2. 柱・梁仕口のフランジ線上のスチフナは、幅・厚さ共に大きい方のフランジ以上とする.
3. 梁にハンチを設ける場合は、リブプレートをつけ板厚はウェブと同厚とする.

デッキプレート（床剛性を考慮する合成床 ・ 合成梁のときは構造図参照）

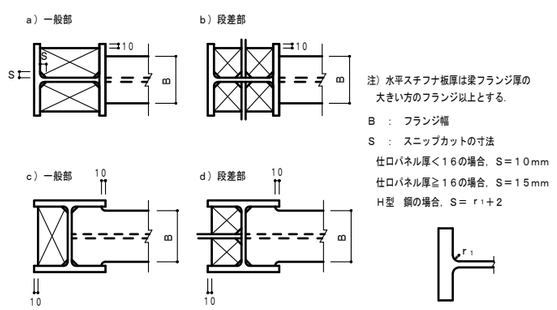
梁との溶接およびコネクター



受梁へのかかり寸法および端部処理



H型 柱用水平スチフナ



注）水平スチフナ板厚は梁フランジ厚の大きい方のフランジ以上とする.

B ： フランジ幅

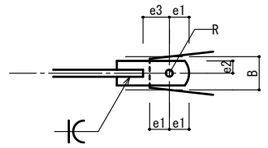
S ： スニップカットの寸法
仕口パネル厚＜16の場合、S＝10mm
仕口パネル厚≧16の場合、S＝15mm
H型 鋼の場合、S＝r1＋2

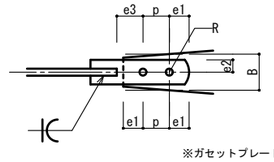
鉄骨ブレース(JIS規格品とする JIS A 5540...1982/5541・5542...2003)

a）羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最大		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小		10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ネジの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0 . -0.5 mm		R	13.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(1)	e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) (1)	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1)	e2	19.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付けボルト穴芯のあき(最小)		e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		Lb	40	50	55	60	75	85	85
溶接ビート幅		k	6	6	7	8	8	9	10
取付ボルト (2)	種類		JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T)						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

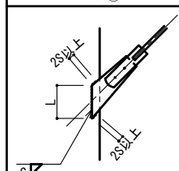
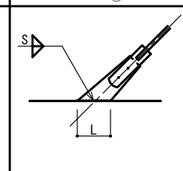
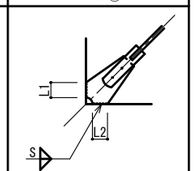
〔注〕(1)e1,e2が確保されていれば形状は自由。
(2)羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。





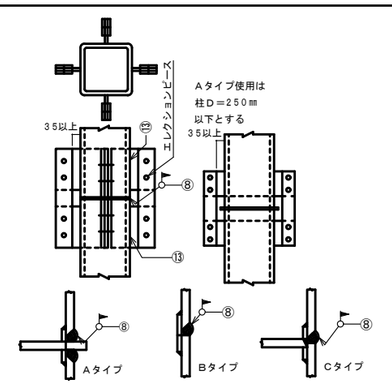
※ガセットプレート必要幅Bは、部材リストによる。

b）ガセットプレートの種類

TYPE ①	TYPE ②	TYPE ③
		
L≧Le	L≧Le/2+2S	L≧Le/2+4S

※溶接サイズS及び必要有効溶接長さLeは、部材リストによる。

柱継手リスト （SCSS－H97による）



相互一級建築士事務所 長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録 F第38252号 一級建築士登録 第293036号 相野 徹	縮尺	A1:NON A3:NON	工事名	国補 古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称	鉄骨構造標準図（２）
			No.	S-05

参考図

ハイベースNEO工法設計施工標準　（ハイベースNEO工法は、S造及びＣＦＴ造に適用）

2023/12

大臣認定　MSTL-0566、0404、0180（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042～0046（アンカー用ボルトセット）

BCJ評定　BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ、高強度柱適用タイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ ６ 鉄骨工事、建築工事標準仕様書
同解説 ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設　計

１．材質

（１）ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ（ＥＢ型式、ＥＭ型式、ＥＨ型式）,高強度柱適用タイプ（KB型式）

	ベースプレート エコタイプ	ベースプレート 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト※2	エコナット※2	ナット※2	座　金※2	定着板
規　格	JIS G3136 又は TMCP鋼※4	TMCP鋼※4	HAB（大臣認定取得材）	大臣認定取得材	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備　考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B, C	TMCP385B, C	降伏比 70%以下	–	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ（ＧＢ型式、ＧＭ型式、ＧＨ型式）

	ベースプレート※1	アンカーボルト※2	ナット※2	座　金※2	定着板
規　格	HCW490B,b HCW490st（大臣認定取得材）	HAB（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	メートル並目※3	メートル並目※3	—	—
備　考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5（二重ナット時） 強度区分8（一重ナット時）	SM490A	SS400

※1　国土交通大臣認定（ＭＳＴＬ-0566、０４０４、０１８０）　※2　国土交通大臣認定（ＭＢＬＴ-００４２～００４６）
※3　Ｍ７２は細目ねじ　※4　建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

（２）ベースプレート下面のモルタル

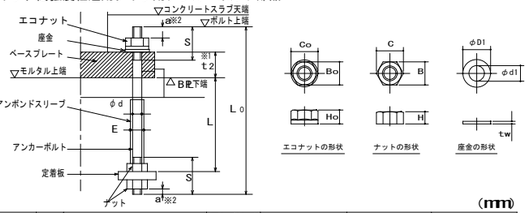
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※　※ センクシアが供給するものに限る
中心塗部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル（NX-２０００及びクイック３は使用不可。） ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（３）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、Ｆc＝１８～３６Ｎ／ mm²
鉄　筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱　形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の０．１倍以上確保しなければならない。

２．アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



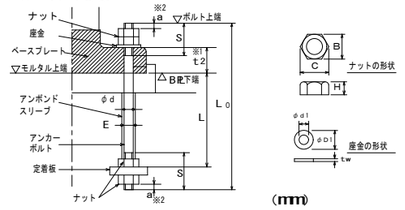
（mm）

	ねじの呼び	アンカーボルト 軸径 φd	ねじ ピッチ P	ねじ 長さ S	余長※2 a	定着長さ L	全長 LO	アンボンドスリーブ 外径 E	エコナット 高さ HO	エコナット 二面幅 BO	エコナット 対角距離 CO	ナット 高さ H	ナット 二面幅 B	ナット 対角距離 C	座金 厚さ tw	座金 内径 φd1	座金 外径 φD1
エコタイプ※3	M24	24	3	95 105	10	400 480	550 645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
	M30	30	3.5	110 130	13	400 600	580 800	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
	M36	36	4	130	16	480 720	690 925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
	M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
高強度柱適用タイプ	M42	42	4.5	165	18	840	1110	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1　t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
※2　ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3　表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、
エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

⚠注意
・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



（mm）

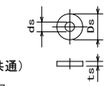
ねじの呼び	アンカーボルト 軸径 φd	ねじ ピッチ P	ねじ 長さ S	余長※2 a	定着長さ L	全長 LO	アンボンドスリーブ 外径 E	ナット 高さ H	ナット 二面幅 B	ナット 対角距離 C	座金 厚さ tw	座金 内径 φd1	座金 外径 φD1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130 155	16	720	925 955	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155 165	18	840	1080 1110	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	175 190	22	960	1235 1270	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	185 210	24	1120	1420 1470	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	200 230	28	1280	1610 1660	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	121	12	74	125

※1　t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースＮＥＯ型式によって変わります。
※2　ａ寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低３山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※3　上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

⚠注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

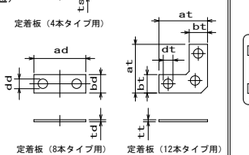
ベースプレートのアンカーボルト孔径　（mm）

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ 高強度柱適用タイプ	38	44	50	57	–	–	–	–
Gタイプ孔径	–	38	45	53	61	70	79	87



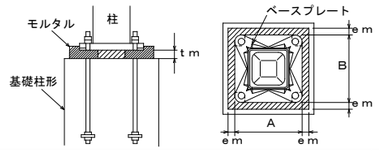
定着板（エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通）　（mm）

ねじの呼び	4本タイプ用 厚さ ts	外径 Ds	内径 ds	8本タイプ用 厚さ td	長さ ad	幅 bd	内径 dd	12本タイプ用 厚さ tt	長さ at	幅 bt	内径 dt
M24	16	70	27	–	–	–	–	–	–	–	–
M30	16	90	33	9	180	65	33	–	–	–	–
M36	19	100	39	9	215	75	39	–	–	–	–
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	–	–	–	16	380	145	76	16	375	145	76



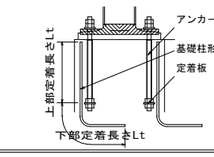
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースＮＥＯ工法設計ハンドブックを参照ください。

３．ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ（ｔm）	標準寸法　tm=50mm	許容範囲　３０≦ｔm≦７０mm
ベースプレート周辺のモルタル幅（ｅm）	ｅm≧３０mm	許容範囲 em≧２５mm

４．基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）



基礎柱形主筋の定着長さ（Lt）は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

１．溶　接　材　料

被覆アーク溶接	JIS Z 3211（旧JIS Z 3212）に従い選定する（低水素系）
ガスシールドアーク溶接	JIS Z 3312 又は JIS Z 3313に従い選定する

※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

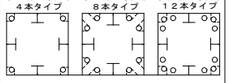
２．ベースプレートの鉄骨柱への取付け（柱端部に開先を設ける）

※　柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はＭＣ-ＴＬ-１Ｂ、ＧＣ-ＴＬ-１Ｂによる　　※開先形状は参考

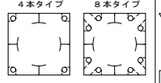
エコタイプ・高強度柱適用タイプ

ベースプレート形状

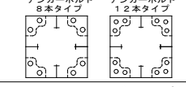
角形鋼管柱用（EB型式）
アンカーボルト ４本タイプ　アンカーボルト ８本タイプ　アンカーボルト １２本タイプ



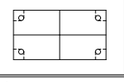
円形鋼管柱用（EM型式）
アンカーボルト ４本タイプ　アンカーボルト ８本タイプ



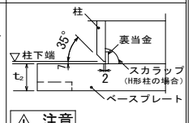
高強度角形鋼管柱用（KB型式）
アンカーボルト ８本タイプ　アンカーボルト １２本タイプ



H形柱用（EH型式）



開先形状



⚠注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。
アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

Gタイプ

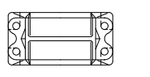
ベースプレート形状

角形鋼管柱用（GB型式）
アンカーボルト ４本タイプ　アンカーボルト ８本タイプ

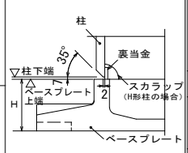
アンカーボルト １２本タイプ

円形鋼管柱用（GM型式）

H形柱用（GH型式）



開先形状



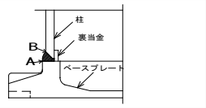
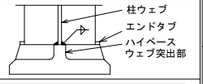
３．組立溶接

角形鋼管	円形鋼管	H形
40mm 40mm 組立溶接 柱フランジ	40mm 組立溶接	40mm 組立溶接

４．本溶接の手順

角形鋼管	円形鋼管	H形
2 4 3 1 対辺ごとに溶接を行う。（自動ロボット溶接の場合はこれによらない）	１パスごとに全周溶接を行う。	(1)ウェブの両面すみ肉溶接（曲げ負荷の場合は、完全溶込み溶接とする） (2)開先部の溶接

５．溶接施工一般

予　熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余　盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはＴ継手余盛り高さに準拠する（Ｇタイプ）。 
H形柱の溶接	エンドタブの取付とＨ形柱ウェブのすみ肉溶接 

⚠注意　柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱変によって曲がることがあります。

６．検　　査

方　法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（１）　有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （２）　溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から５０mm以上、はつり取り再溶接する。

現　場　施　工

（#）：センクシアの担当範囲

１．捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

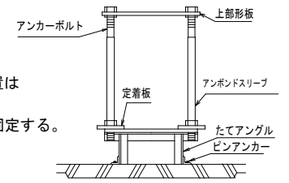
２．墨出し

３．アンカーボルト搬入（#）

４．アンカーボルト据付（#）

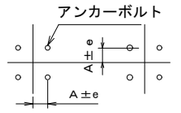
アンカーボルト設置

アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。



アンカーボルト設置例
（架台の形状は異なる場合あり）

アンカーボルト設置精度の目標値

平面	レベル
	基準高さよりの誤差eh －３mm≦eh≦10mm

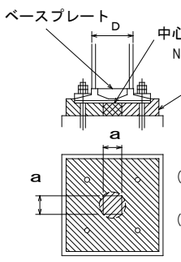
e≦３mm
（形板芯にて検査）

５．鉄筋配筋・型枠の立込み

６．基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

７．中心塗り部分モルタル施工



中心塗部分モルタル
ＮＸ-２０００、クイック３は使用不可。

後詰めモルタル
ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※
注入方法はヘッド圧工法による。
※ センクシアが供給するものに限る

（イ）□２５０以下、φ２６７．４以下、Ｈ２５０以下の場合
１００mm ≦ ａ ≦２００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下

（ロ）□３００以上□７００以下、φ３００以上φ７１１．２以下、および Ｈ２５０以上の場合
１５０mm ≦ ａ ≦３００mm　かつ柱寸法 Ｄ以下

（ハ）□７５０～□１２００、φ７５０～φ１０１６の場合
３００mm ≦ ａ ≦５００mm

中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH, KB型式	GH型式
８．鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	８．鉄骨建方
	９．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#）
９～１０．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#） アンカーボルト締付確認（#） ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	１０．アンカーボルト締付（#） 予備締め マーキング ナット回転法による本締め （30° 回転、許容差 $^{+10°}_{-0}$ ）

１１．モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースＮＥＯ工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社

本社　ＴＥＬ　０３-４２１４-１９３２
札幌　ＴＥＬ　０１１-７０８－１１７７
東北　ＴＥＬ　０２２-２１３-５５９５

ＵＲＬ　https://www.senqcia.co.jp/

関東　ＴＥＬ　０２７-３２２-９４１１
中部　ＴＥＬ　０５２－５８２－３３５６
北陸　ＴＥＬ　０７６-２３３-５２６０

関西　ＴＥＬ　０６-６３９５-２１３３
中四国 ＴＥＬ　０８２-２４０-１６３０
九州　ＴＥＬ　０９２-４５２-０３４１

⚠注意
1．アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2．アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3．設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4．建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5．本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所（長野県）知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

縮　尺	A1：NON A3：NON	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	ハイベースNEO　標準図
		No.	S-06

スクリューパイルEAZET-Ⅱ（イーゼット・ツー）設計施工標準（関東・甲信越地区）

・引抜き評定適用時の許容支持力及び適用範囲については別途カタログをご参照ください。
・本掲載内容及び仕様については、予告なしに変更することがあります。
・本掲載内容及び仕様は、2020年3月現在のものです。

【許容支持力および適用範囲】

1. 名称

羽根付き鋼管杭　スクリューパイルＥＡＺＥＴ-Ⅱ

2. 本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期ならびに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3}\left[9.81\alpha \overline{N}\, Ap + \left(\sum_{i=1}^{m} \tau si\, Lsi + \sum_{j=1}^{n} \tau cj\, Lcj\right) \Psi\right] (kN) \cdots (i)$$

2）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3}\left[9.81\alpha \overline{N}\, Ap + \left(\sum_{i=1}^{m} \tau si\, Lsi + \sum_{j=1}^{n} \tau cj\, Lcj\right) \Psi\right] (kN) \cdots (ii)$$

ここで、（i），（ii）式において、

α：先端支持力係数（α＝30）

$\overline{N}$：杭先端より下方に1Dw、上方に1Dw間の地盤の平均Ｎ値

平均Ｎ値は5以上とし、50を超える場合は50とする。

Dw：杭先端羽根部径（m）

Ap：基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

$Ap = A_D \cdot e$

e：有効面積率（e＝0.5）

A_D：くい先端平面積　$A_D = \pi \cdot Dw^2/4$（㎡）

τsi：砂質土層のi層目の杭周面摩擦応力度（kN/㎡）

$\overline{1} \leqq Nsi < 8$のとき　τsi＝12.56kN/㎡

$Nsi \geqq 8$のとき　$\tau si = 1.57\overline{Nsi}$　ただし、τsi≦49.05kN/㎡

$\overline{Nsi}$：i層目の砂質土層の平均Ｎ値

Lsi：砂質土層のi層目に接する杭の長さ（m）

m：摩擦を考慮する砂質土層の数

τcj：粘性土層のj層目の杭周面摩擦応力度（kN/㎡）

$\tau cj = 3.04\overline{Ncj} + 6.28$　ただし、τcj≦49.05kN/㎡

$\overline{Ncj}$：j層目の粘性土層の平均Ｎ値

Lcj：粘性土層のj層目に接する杭の長さ（m）

n：摩擦を考慮する粘性土層の数

Ψ：羽根の周長（m）

$\Psi = \pi \cdot Dw$

注意：周面摩擦力を考慮する長さは、杭の長さ（L）から1Dw（杭先端から1Dwの区間分）を差し引いたものとする。

3. くい材から決まる許容鉛直支持力

$Ra = fe \cdot Ae \times 10^{-3}$

Ra：くい材から決まる長期許容鉛直支持力（kN）

fe：くい材の長期許容応力度（＝ F /1.5）※

※ F：設計基準強度（N/mm²）

※ $F = F \cdot (0.80 + 2.5te / r)$かつ $F \leqq F$ ※

F：くい材の許容応力度を決定する場合の基準値

（STK400→235N/mm²、STK490→325N/mm²、SEAH590[STKT590]→440N/mm²）

te：腐食しろを除いた鋼管の肉厚(mm)

r：鋼管の半径(mm)

Ae：腐食しろを考慮したくい材の有効断面積（mm²）

4. 適用範囲

1）支持層

支持層は、砂質土層、礫質土層および粘性土層とする。

2）杭の長さL（m）

杭本体部径Do(mm)	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4
最小杭実長（m）	3	3	4	4	5	5
最大杭実長（m）	12	15	18	21	23	29

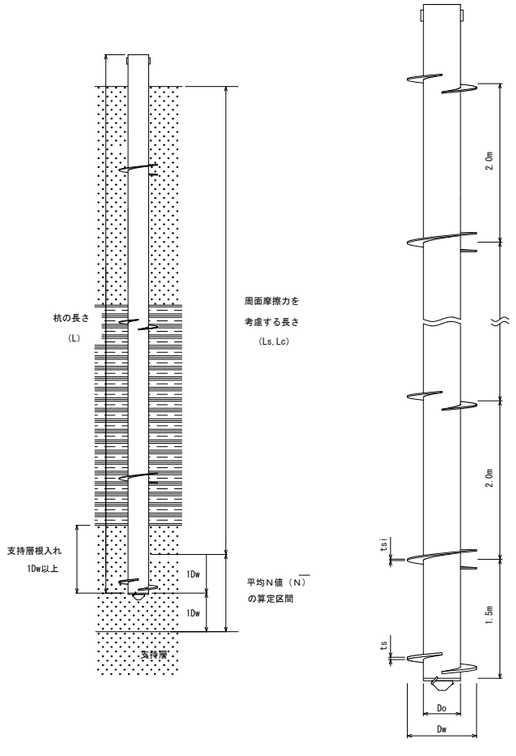
【ＥＡＺＥＴ－Ⅱの構造・規格】

関東・甲信越地区向け杭材仕様

杭本体部				羽根部			
杭本体部径	STK400	STK490	SEAH590[STKT590]	杭先端及び中間羽根部径	杭先端羽根部の厚さ	杭中間羽根部の厚さ	材質
Do(mm)	厚さ t(mm)			Dw(mm)	ts(mm)	tsi(mm)	
114.3	6.0	–	–	250	12.0	9.0	SM490A
139.8	6.6	–	–	300	16.0	9.0	
165.2	7.1	7.1	–	350	16.0	9.0	
190.7	–	7.0	–	400	19.0	9.0	
216.3	–	8.2 12.7	<8.2>	450	19.0	9.0	
267.4	–	8.0 12.7	<8.0> <12.7>	500	22.0	9.0	

※<　>の仕様は準標準材です。ご検討される場合は弊社担当までお問い合わせください。

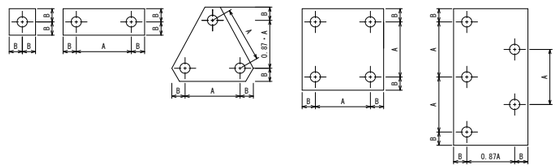
部材	規格
杭本体部	JIS G 3444　一般構造用炭素鋼鋼管　STK400、STK490
	MSTL-0419 国土交通大臣認定 基礎ぐい用高張力鋼管 SEAH590[STKT590]
杭先端部	JIS G 3106　溶接構造用圧延鋼材　SM490A



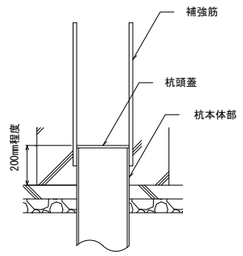
【基礎とフーチング形状例】

A：杭心間隔	B：へりあき
2 × Dw	1.25 × Do

※ Dw：杭先端羽根部径　Do：杭本体部径

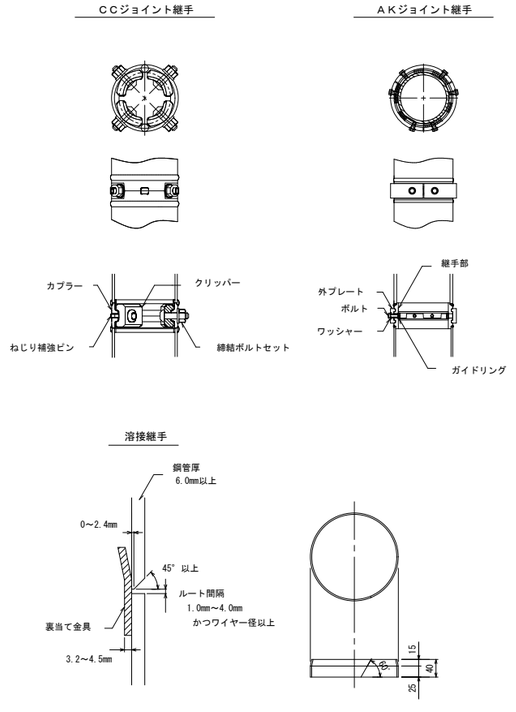


【杭頭接合例】



※杭頭接合部の設計は、認定書・評定書の中で規定されていませんので、設計者の判断に委ねられています。

【継手接続例】



【施工管理項目一覧】

工　程	施工管理項目	施工管理方法	管　理　値
杭材の受け入れ	材料寸法	・搬入時に測定検査	・杭径、杭長、肉厚、羽根径、羽根厚に誤りがないこと
	外観不良・数量	・搬入時に目視確認	・継手部に異常がないこと
回転埋設	杭心からのずれ	・逃げ心棒にて測定	・偏心量±2cm以内
	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	回転トルク	・施工機械の管理装置（トルク計）	・杭体のねじり強さ以内
溶接継手	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	接続状況	・目視により確認	・異常なアンダーカット、ビット割れなどがないこと
ＣＣジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・ボルトM16 → 約100N・m ・ボルトM20 → 約150N・m
	本締め	・シャーレンチによる	・ピンテールの破断、ボルト余長はネジ山２山以上
	共廻り防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
ＡＫジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク　90N・m±10%
	本締めトルク		・締付トルク　180N・m±10%
	締め忘れ防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
支持層の確認※	支持層到達確認	・施工機械のトルク計	・施工回転トルクの変化傾向 ・地盤調査データのN値の推移 ・施工回転トルクの管理目標値
	根入れ長さ	・施工機械の深度計	・支持層に１Dw以上
	回転貫入量	・専用紙に記録する	・回転貫入量の管理値による
杭頭のずれ	偏心量	・逃げ心棒にて測定	・±10cm以内

※Ｎ値が小さく、トルク管理、回転貫入量による管理ができない場合には、設計図書で定められた杭長を施工すること（杭長管理）により、設計深度に杭先端が到達したことを管理するものとする。

【EAZET-Ⅱ（イーゼット・ツー）取得済認定、公的評価】

旧建設大臣認定

工法の名称	認定番号	取得年月日
羽根付き鋼管杭 （名称：スクリューパイルＥＡＺＥＴ-Ⅱ）	建設省東住指発第449号	平成11年9月28日

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
鋼管くいに用いる無溶接継手（クリッパー式継手）	BCJ評定-FD0045-08	令和元年7月12日
鋼管杭に用いる接続プレート・嵌合方式無溶接継手（ＡＫジョイント）	BCJ評定-FD0509-03	令和元年6月20日

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
スクリューパイルＥＡＺＥＴ－Ⅱ工法による基礎ぐいの引抜き方向の地盤の許容支持力（先端地盤種別：砂質地盤、礫質地盤）	BCJ評定-FD0512-02	令和元年7月12日

旭化成建材株式会社

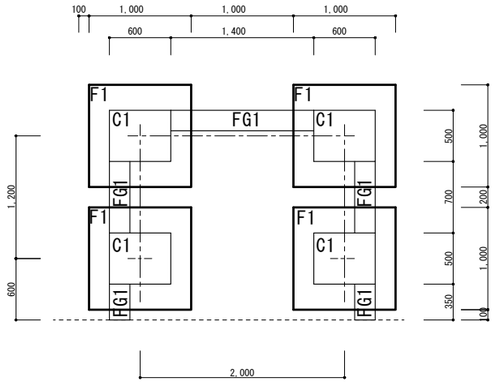
東京基礎設計・工事部

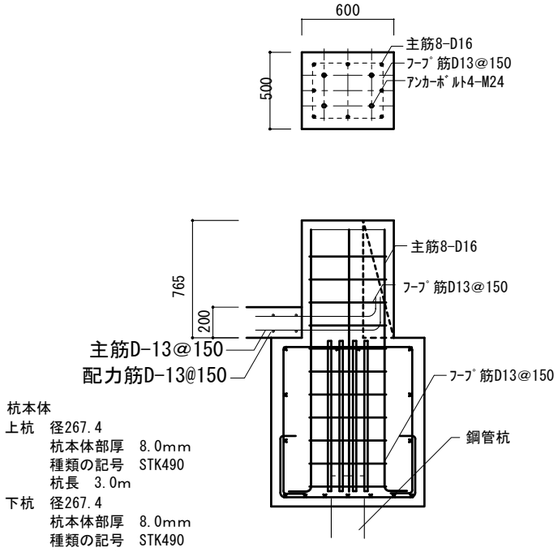
東京都千代田区神田神保町1-105（神保町三井ビルディング 8F）

ＴＥＬ．03-3296-3546　ＦＡＸ．03-3296-3547

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮　尺　A1：NON A3：NON	工事名　国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事	No. S-07
	設計年月日　R7.2.28	図面名称　スクリューパイルEAZET（イーゼット）設計施工標準	

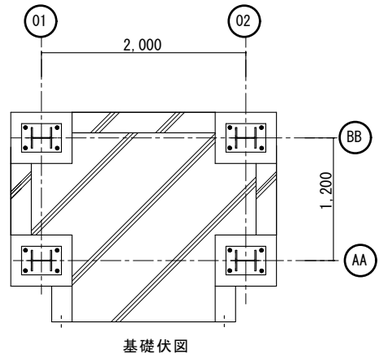
F1



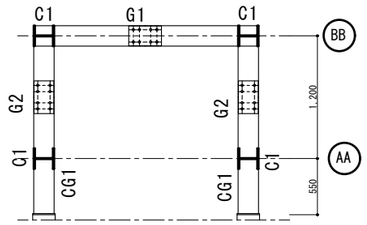


A部詳細図S=1/10

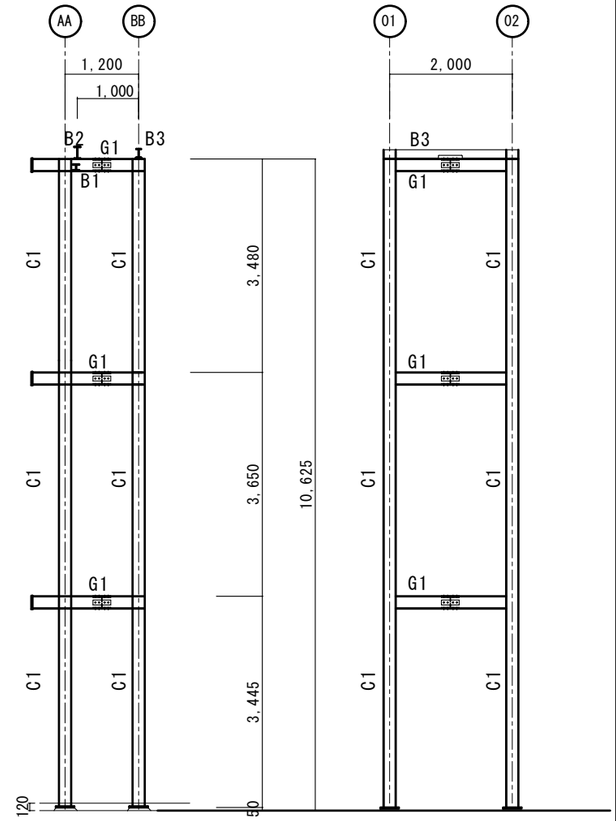
杭本体
上杭　径267.4
　　杭本体部厚　8.0mm
　　種類の記号　STK490
　　杭長　3.0m
下杭　径267.4
　　杭本体部厚　8.0mm
　　種類の記号　STK490
　　杭長　7.0m
羽根　径500
　　先端羽根厚　22.0mm
　　種類の記号　STK490
杭全長　10.0m
杭本数　4本
長期支持力　129.8kN



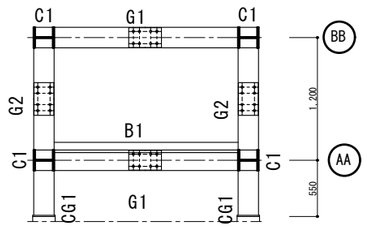
基礎伏図



2F,3F伏図

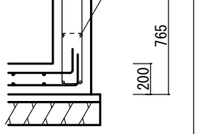


01通り・02通り軸組図　　BB通り軸組図

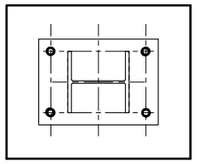


RF伏図

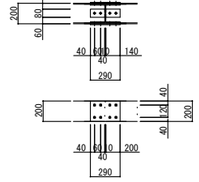
基礎梁詳細図

符号	FG
断面	
断面寸法	立上り　250×765 基礎ｽﾗﾌﾞ　t 200
立上り	上端筋2-D19 下端筋2-D19
	ﾌｰﾌﾟD10 @200 巾止筋D10
ベース 上端筋	D13@200ﾀﾃﾖｺ
ベース 下端筋	D13@200ﾀﾃﾖｺ

柱脚詳細図

符号	C1
断面	H200×200×8×12 
ベースプレート	ﾊｲﾍﾞｰｽNEO　EH200*200-4-24 BPL-42×390×280
アンカーボルト	4-M24

接合部詳細図

符号	G1
断面	□200×200×8×12 
フランジ	2　SPL-9x200x290 4　SPL-9x80x290
	トルシアHTB　16-M20×60
ウェブ	2　SPL-6x80x290
	トルシアHTB　4-M20×60

柱リスト

符号	階数	鉄骨　部材	材　質	接　合　部
C1	1～3	H-200×200×8×12	SN400B	（ダイヤフラム）490C

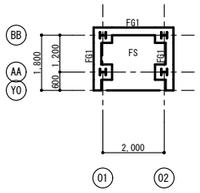
大梁リスト

符号	階数	鉄骨　部材	材　質	
G1	1～3	H-200×200×8×12	SN400B	（継手）GGF-4X-J2020.0812
G2	1～3	H-200×200×8×12	SN400B	

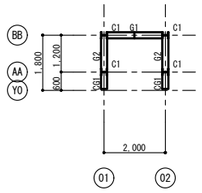
荷揚用梁	B1	H100×100×6×8 2-M16
母屋	B2	H-200×100×5.5×8　4-M16
鼻隠し	B3	H-150×75×5×7 4-M16

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765
一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号
一級建築士登録　第293036号　相野　徹

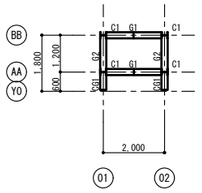
縮　尺	A1 1：30 A3 1：60	工事名	国補　古里小学校 南校舎長寿命化改修建築工事
設計年月日	R7.2.28	図面名称	エレベーターシャフト構造図
		No.	S-08



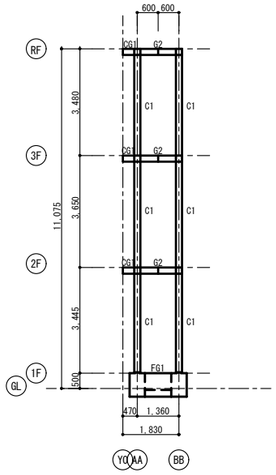
基礎伏図



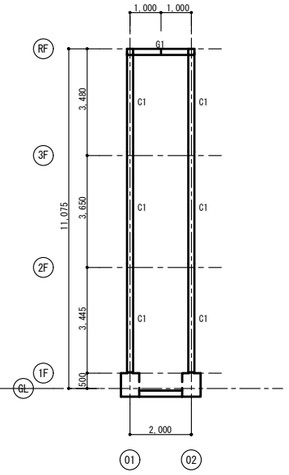
3・2階伏図



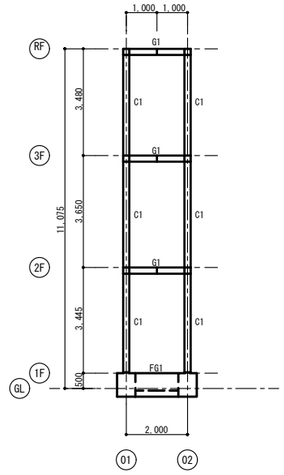
R階伏図



01・02通軸組図

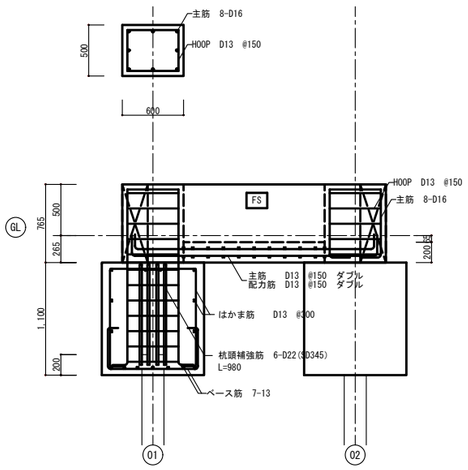


AA通軸組図

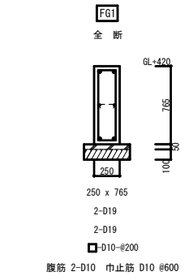


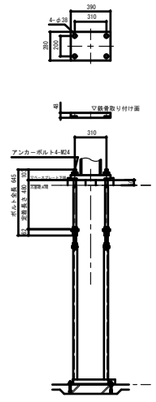
BB通軸組図

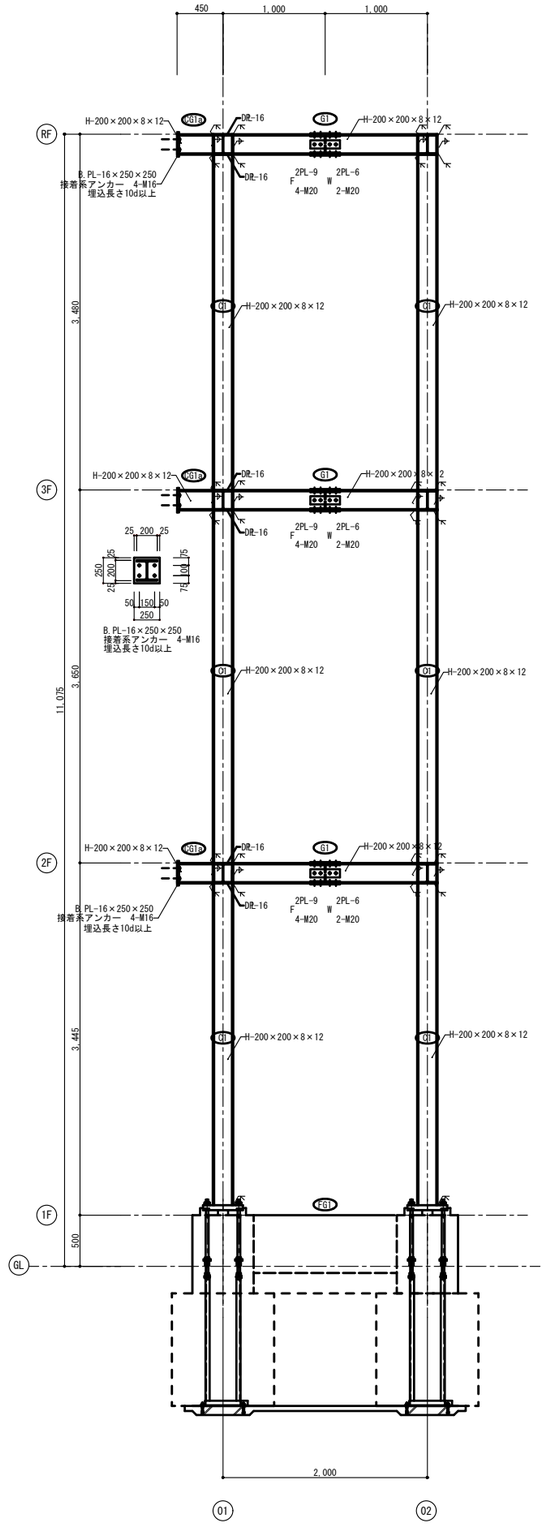
柱サイズ	H-200×200×8×12
アンカーボルト	4-M24
柱脚	口 600×500
主筋（材質）	8-D16 (SD295)
帯筋（材質）	D13@150 (SD295)
鉄筋の定着長さ	300



地中梁詳細図







鉄骨架構詳細図

相互一級建築士事務所　長野市北尾張部765 一級建築士事務所(長野県)知事登録　G第88252号 一級建築士登録　第293036号　相野　徹	縮尺	A1 1：100、30 A3 1：200、60	工事名　国補　古里小学校　南校舎長寿命化改修建築工事
	設計年月日	R7.2.28	図面名称　エレベーター伏図・軸組図
			No. S-09

構 造 設 計 標 準 仕 様

適用は ▨ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

（１） 工事名称　国補　古里小学校　南校舎長寿命化改修建築工事
建築場所　長野市　大字金箱
（２） 工事種別　新築
（３） 構造種別　鉄骨造

（４） 階　数　平屋建て

（５） 主要用途　学校
（６） 屋上付属物
□広告塔　□高　架　水　槽　ＫＮ
□煙　突　□キュービクル　ＫＮ　□
（７） 増築計画　□有　（　　）　▨無
（８） 付帯工事
□門塀　□擁壁　□　□　□
（９） 特別な荷重
□エレベータ　人乗（ロープ式・油圧式）　□リフト　ＫＮ　□ホイスト　ＫＮ
□倉庫積載床用　Ｎ／㎡　□受水槽　ＫＮ
（１０） その他
▨ 最深積雪量　H＝ 80cm

2．使用構造材料

（１） コンクリート

適応箇所	種　類	設計基準強度 Ｆｃ＝Ｎ／mm²	スランプｃｍ	備　考
捨コンクリート	普通	18	15	
土間コンクリート	普通	24	15	
基礎、基礎梁	普通	24	15	
押さえコンクリート				

（２） コンクリートブロック（ＣＢ）
□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種　厚 □１００、　□１２０、　□１５０、　□１９０

（３） 鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	▨SD295A	D10･D13･D16	床・壁・梁	▨重ね継手
	▨SD345	D19～	柱・梁等	Ｄ１０・Ｄ１３・Ｄ１６
	□SD395			▨ガス圧接継手
	□U12．6			D19～
高強度せん断補強筋	□			□特殊継手
丸　鋼	□SR235			（　　）
溶接金網	□			

（４） 鉄　骨

	種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
鋼　材	▨ SN400B	大梁	□有　▨無	
	▨ SS400	小梁	□有　▨無	
	□ BCR295　▨ STKR400	柱	□有　□無	
	□ SSC400	モヤ等	□有　▨無	

（５） ボルト
▨高力ボルト □Ｆ１０Ｔ □Ｓ８Ｔ ▨Ｓ１０Ｔ 認定品 □Ｍ１２、▨Ｍ１６、□Ｍ２０、□Ｍ２２、Ｍ２４）
▨中ボルト　Ｍ＝１２　Ｍ＝　高力ボルトすべり係数試験　□要　▨否
高力ボルト導入張力確認試験　□要　▨否
□ アンカーボルト　露出型弾性固定柱脚工法 仕様書による
▨ アンカーボルトＡＢＲ４００　Ｍ＝16　Ｌ＝400mm　ナット（ダブル）

□頭付スタッドボルト　φ＝ 19　Ｌ＝ 100 mm
使用箇所（ □ 柱　□大梁　□小梁）

（６） 屋根、床、壁

	H	t	使用箇所	備　考
▨ 折板	90	0.6	屋根	意匠図による
□デッキプレート	50、75	1.2	床	

3．地　盤

（１） 地盤調査資料
▨有（ ▨数地内　□近隣）　▨ボーリング調査　□スウェーデン式サウンディング試験
□水平地盤反力係数の測定
□無　（調査予定　□有　□無）

（２） 地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数の測定
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験　□

（３） 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状は、設計者の指示により変更する事。

（４） ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）
別紙による

4．地業工事

（１） 直接基礎　□ベタ基礎　□ 布基礎　▨独立基礎
［長期許容地耐力　Ra＝　ｋN/m2］　（地盤改良有り）
土間コンクリート（：土間コンクリート上載荷重20ｋN /m2 想定

（２） 杭基礎　試験掘　▨有　□無　載荷試験　□有　▨無

杭　種	材　料	施工法	備　考
■ 木杭	PHC □A種　□B種　□C種）	□打ち込み □埋め込み（ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ拡大根固め工法）	▨ 環境パイル工法
□鋼管杭	鋼材　STK490・400		
□ＳＴ杭	ST　□A種　□B種　□C種）		
□ＣＰＲＣ一杭	杭リスト　による		
□ 場所打ち コンクリート杭	コンクリートＦｃ＝２１ セメント量　kg／㎥ 鉄　筋　主　筋　SD345 HOOP　SD295	□オールケーシング リバースサーキュレーション □アースドリル　□ミニアース □ＢＨ　□深礎（□手堀 □機械掘）	拡低杭 日本建築センター認定 第　　号 年　月　日

杭仕様　施工計画書承認　杭施工結果報告書

試験杭　（□有　▨無）　（□打 ち 込 み □載荷）　本（本杭兼用）

杭径（mm）	設計支持力（ＫＮ）	杭の先端の深さ（m） 上杭　＋　下杭	本数	特記事項 上杭＋下杭
杭リスト参照				

5．鉄筋コンクリート工事

（１） コンクリート

▨ コンクリートはＪＩＳ認定工場の製品とし施工に関してはＪＡＳＳ５－２００３による。
▨ 耐久設計基準強度　Ｆｄ　□一般　▨標準（24N/mm2）　□長期
▨ セメントは、ＪＩＳ　Ｒ５２１０の普通ポルトランドセメントを標準とする。
▨ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
▨ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法などの必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
▨ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
▨ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（ＪＡＳＳ５Ｔ－６０３）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が１５０㎥をこえる場合は１５０㎥ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別な指示なき場合は、１回当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
▨ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１５０分、２５℃以上の場合は１２０分以内とする。

（２） 鉄　筋

▨ 鉄筋はＪＩＳ　Ｇ３１１２の規格品を標準とする。
▨ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。
▨ Ｄ１９未満は、すべて重ね継手とする。継手（Ｄ１９以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
▨ ガス圧接部の抜き取り検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。
（1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧縮箇所で200か所程度とする）
外観検査　▨有　□無、　引張試験 ▨有　□無、　超音波深傷試験 ▨有　□無
▨ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、▨Ｈ型（タガ型）　□Ｗ型（溶接型）　□Ｓ型（スパイラル型）とする。
▨ 圧接作業における技能資格者は、工事に相応したＪＩＳＺ３８８１（ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準）による技量を有する圧接技量資格者とする。
□ コンクリート及び鉄筋の試験は第三者検査機関とし、工事監理者の承認を得る。

（３） 型　枠

▨ 材料　合板厚　１２㎜／ｍを標準とする　□
▨ 型枠存置期間

種類・部位	せき板			支柱			
	基礎、はり側、柱、壁			スラブ下			梁　下
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメントA種	高炉セメントB種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメントA種	高炉セメントB種	左記のすべてのセメント
存置期間の平均気温							
コンクリート強度が12N/mm²以上となるまでの日数 15℃以上	2	3	5	8	17	28	28
5℃以上	3	5	7	12	25		
0℃以上	5	8	10	15	28		
コンクリートの圧縮強度	圧縮強度が5N／mm²以上となるまで。			圧縮強度が設計基準強度(Fc)の85%以上又は12N/mm以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。			圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

注） １　片持ばり、庇、スパン９．０Ｍ以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注） ２　大張の支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注） ３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注） ４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注） ５　支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注） ６　上記以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6．鉄骨工事

（１） 鉄骨工事は指示のない限り下記による
▨ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
▨ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
▨ （社）鉄骨建設業協会「突合せ継ぎ手の食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２） 工事監理者の承認を必要とするもの
▨ 製作工場　▨ 製作要領書　▨ 工作図　▨ 施工計画書
▨ 国土交通省告示第１１０３号による認定工場　大臣認定　Ｒグレード
▨ 材料規格証明書または試験成績書
▨ 鋼材　▨ 高力ボルト　▨ 特殊ボルト　□ スタッドボルト
▨ 社内検査表　□

（３） 工事監理者が行う検査項目
（▨ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□ 現寸検査　▨ 組立・開先検査　▨ 製品検査
▨ 建方検査　□

（４） 接合部の溶接は下記によること
□ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第１２章）
▨ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

（５） 接合部の検査
▨ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告する事）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備　考
▨ 完全溶込み溶接部	超音波深傷試験	１００ %	30%	%	
▨	外観（目視）検査	１００ %	30%	%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名	（都知事登録第　　号）				
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注） 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
注） 現場溶接は、超音波探傷試験を１００%行うこと。

▨ 高力ボルトは「ＪＩＳ　Ｂ１１８６の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが５０Ｓ以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
▨ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として２度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
▨ 溶接部の検査は国土交通省告示1464号に関する溶接部の検査による。

（６） 防錆塗装
▨ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、ＪＩＳ　Ｋ５６７４、２回塗りを標準とする。
▨ 現場における高力ボルトの接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。

（７） 耐火被覆の材料
□

7．設備関係

▨ 特記以外の衛生貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
▨ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
▨ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５ｃｍ以上を原則とする。
▨ 給湯設備は平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

8．その他

▨ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
▨ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
▨ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士　一級建築士登録第108578号　清水　勉
図面を作成した建築士　構造設計一級建築士第7927号　春原　記明

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）　構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）　記号

ｄ・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値　　Ｄ・・・部材の成　　Ｒ・・・直径

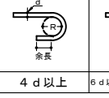
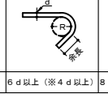
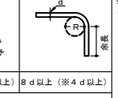
＠・・・間隔　　ｒ・・・半径　　℄・・・中心線　Ｉ０・・・部材間の内法距離

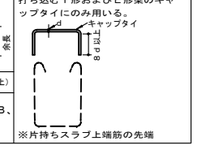
ｈｏ・・・部材間の内法高さ　　ＳＴ・・・あばら筋　　ＨＯＯＰ・・・帯筋

Ｓ．ＨＯＯＰ・・・補強帯筋　　φ・・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１）　鉄筋末端部の折曲げの形状

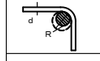
折曲げ角度	１８０度	１３５度	９０度
図			
鉄筋の余長	４ｄ以上	６ｄ以上（※４ｄ以上）	８ｄ以上（※４ｄ以上）



折曲げ角度９０度はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むＴ形およびＬ形梁のキャップタイにのみ用いる。

折曲げ内法寸法Ｒは、ＳＲ２３５は３ｄ以上、ＳＤ２９５Ａ、ＳＤ２９５Ｂ、ＳＤ３４５のＤ１６以下は、３ｄ以上、Ｄ１９以上は４ｄ以上

（２）　鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の曲げ角度９０度以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法寸法（Ｒ）
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	１６φ Ｄ１６以下	３ｄ以上
			１９φ Ｄ１９以上	４ｄ以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B、SD345	１６φ Ｄ１６以下	４ｄ以上
			１９φ～２５φ Ｄ１９からＤ２５	６ｄ以上
			２８φ～３２φ Ｄ２９からＤ３８	８ｄ以上

（３）　鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲（Ｎ／ｍｍ²）	定着の長さ 一般（Ｌ２）	定着の長さ 下ば筋（Ｌ３） 小梁	定着の長さ 下ば筋（Ｌ３） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（Ｌ１）
SR235	21、22．5、24	３５ｄフックつき	２５ｄフックつき	１５ｃｍフックつき	３５ｄフックつき
	16、18	４５ｄフックつき			４５ｄフックつき
SD295A SD295B SD345	21、24	３５ｄまたは２５ｄフックつき	２５ｄまたは１５ｄフックつき	１０ｄかつ１５０ｃｍ以上	４０ｄ
	16、18	４０ｄまたは３０ｄフックつき			４５ｄ

継　　手

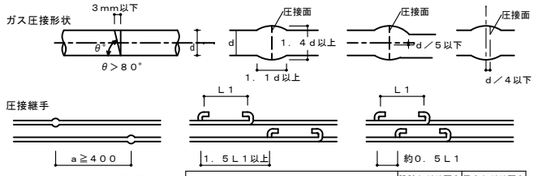
１．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない

２．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

３．直径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

４．Ｄ２９以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない

５．鉄筋径の差が７㎜を超える場合は、圧接としてはならない



（４）　鉄筋のかぶり厚さ　（単位ｍｍ）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部位			設計かぶり厚さ（mm）	最少かぶり厚さ（mm）
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	３０	２０
		屋外	４０（１）	３０（２０）
	柱 はり 耐力壁	屋内	４０	３０
		屋外	５０（２）	４０（１）３０
	擁壁		５０（３）	４０
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁		５０	４０（４）
	基礎・擁壁		７０	６０（４）

［注］（１）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて３０㎜とすることができる。

（２）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて４０㎜とすることができる。

（３）コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事管理者の承認を受けて４０㎜とすることができる。

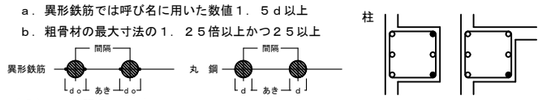
（４）軽量コンクリートの場合は、１０㎜増しの値とする。

（５）（　）内は仕上げがある場合。

（５）　鉄筋のあき

ａ．異形鉄筋では呼び名に用いた数値１．５ｄ以上

ｂ．粗骨材の最大寸法の１．２５倍以上かつ２５以上



図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

（６）　鉄筋のフック　（ａ～ｆに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

ａ．丸鋼　ｂ．あばら筋、帯筋　ｃ．煙突の鉄筋

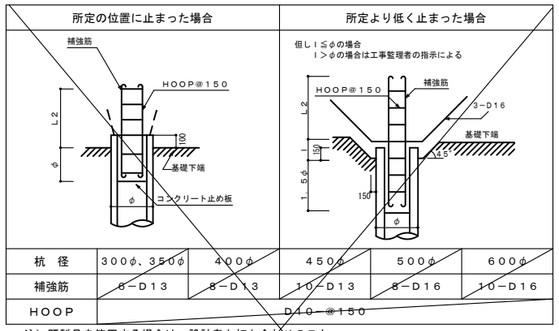
ｄ．柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

ｅ．単純梁の下端筋

ｆ．その他、本配筋標準に記載する箇所

３．杭　（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

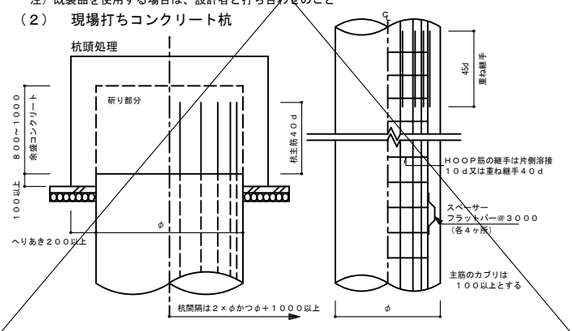
（１）　ＰＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う（ＮＣＰアンカー）



杭径	３００φ、３５０φ	４００φ	４５０φ	５００φ	６００φ
補強筋	６－Ｄ１３	８－Ｄ１３	１０－Ｄ１３	８－Ｄ１６	１０－Ｄ１６
ＨＯＯＰ	Ｄ１０－＠１５０				

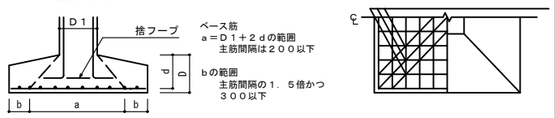
注）既製品を使用する場合は、設計者と打ち合わせのこと

（２）　現場打ちコンクリート杭

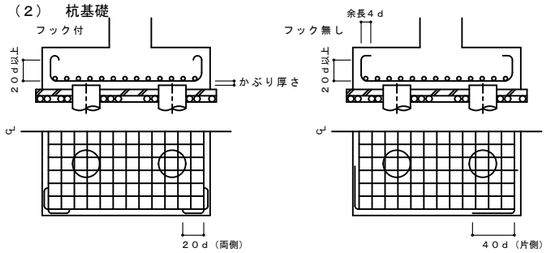


４．基礎

（１）　直接基礎

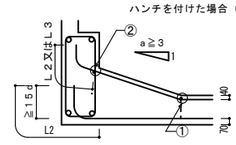


（２）　杭基礎



（３）　べた基礎

ハンチを付けた場合（ａ≧３）



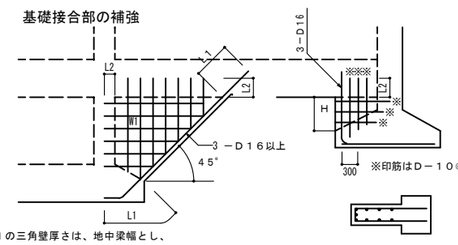
１．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上端筋と下端筋を読みかえる

２．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

３．②の鉄筋はＤ１３以上

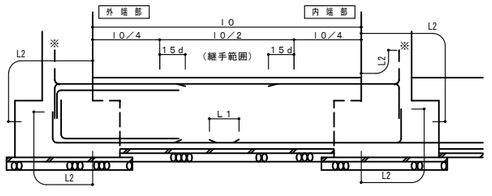
４．埋戻し土のある場合は４０を７０とする

（４）　基礎接合部の補強



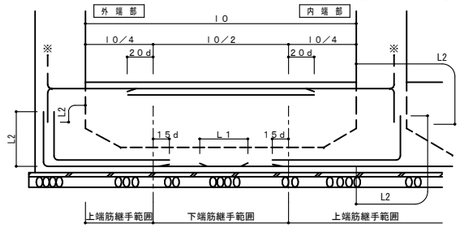
５．地中梁

（１）　独立基礎、杭基礎の場合　（定着、継手）



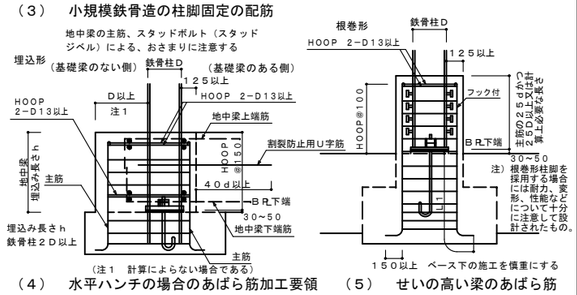
（２）　布基礎、べた基礎の場合　（定着、継手）

※上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる

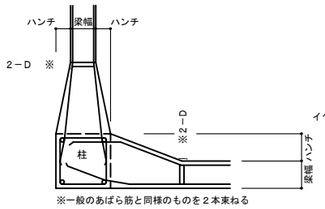


（３）　小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

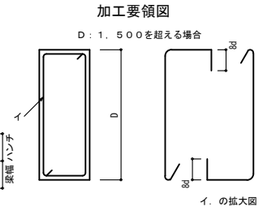
地中梁の主筋、スタッドボルト（スタッドジベル）による、おさまりに注意する



（４）　水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

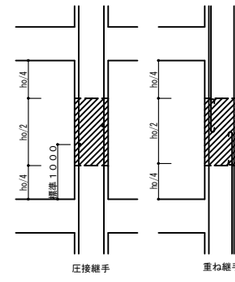


（５）　せいの高い梁のあばら筋加工要領図

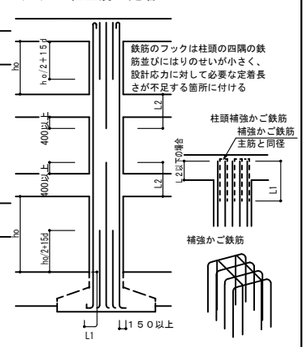


６．柱

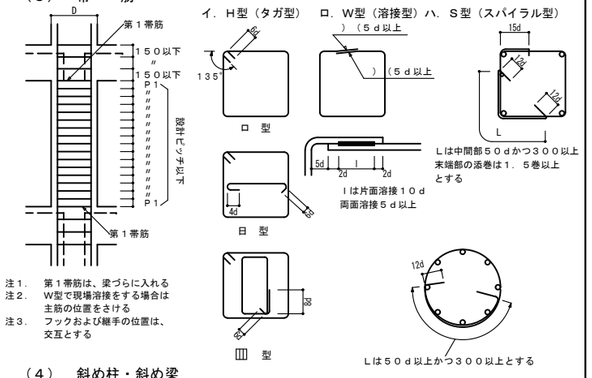
（１）　柱主筋の継手



（２）　柱主筋の定着



（３）　帯　筋



（５ｄ以上）

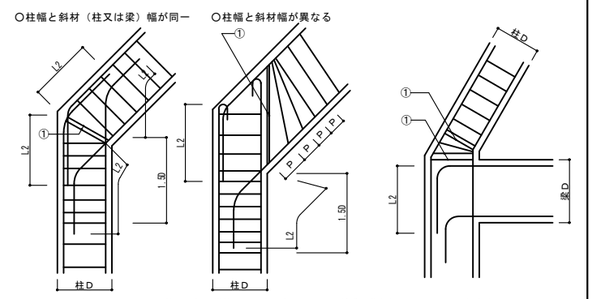
Ｌは中間部５０ｄかつ３００以上
末端部の添巻は１．５巻以上とする

Ⅰは片面溶接１０ｄ
両面溶接５ｄ以上

注１．　第１帯筋は、梁づらに入れる
注２．　Ｗ型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注３．　フックおよび継手の位置は、交互とする

Ⅳ型　Ｌは５０ｄ以上かつ３００以上とする

（４）　斜め柱・斜め梁


○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一
○柱幅と斜材幅が異なる
Ｌ２
Ｌ１
①
Ｌ２／３
Ｌ２／３
Ｌ２／３

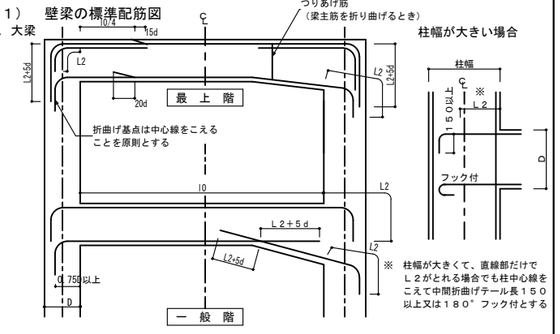
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

Ｌ＝鉄筋コンクリート構造配筋
標準図（１）の２－（３）による。

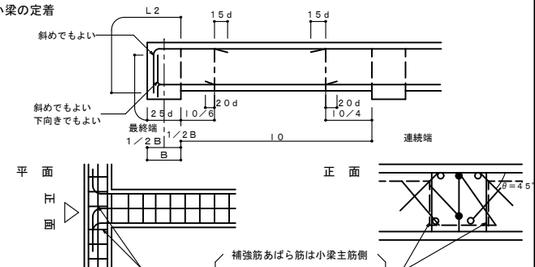
７．大梁、小梁、片持梁

（１） 壁梁の標準配筋図

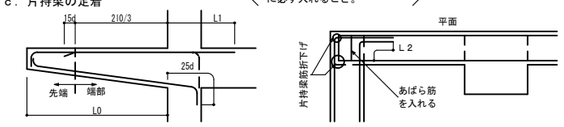
ａ．大梁



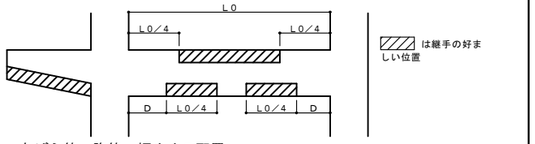
ｂ．小梁の定着



ｃ．片持梁の定着

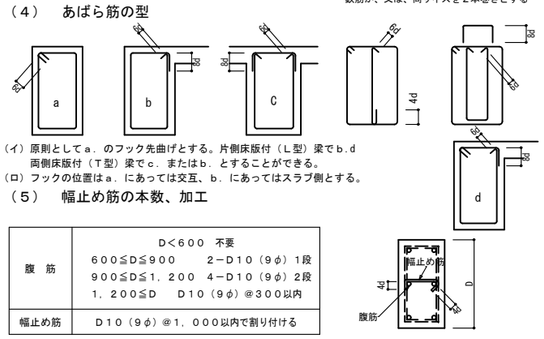


（２） 大梁主筋の継手



（３） あばら筋、腹筋、幅止めの配置

（４） あばら筋の型



（イ）原則としてａ．のフック先曲げとする。片側床版付（Ｌ型）梁でｂ.ｄ
両側床版付（Ｔ型）梁でｃ．またはｂ．とすることができる。
（ロ）フックの位置はａ．にあっては交互、ｂ．にあってはスラブ側とする。

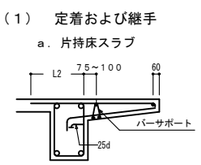
（５） 幅止め筋の本数、加工

腹 筋	Ｄ＜６００ 不要 ６００≦Ｄ≦９００ ２－Ｄ１０（９φ）１段 ９００≦Ｄ≦１，２００ ４－Ｄ１０（９φ）２段 １，２００≦Ｄ Ｄ１０（９φ）＠３００以内
幅止め筋	Ｄ１０（９φ）＠１，０００以内で割り付ける

８．床 板

（１） 定着および継手

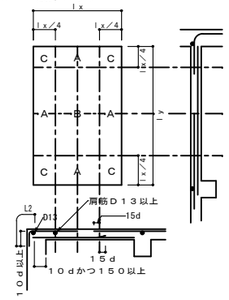
ａ．片持床スラブ



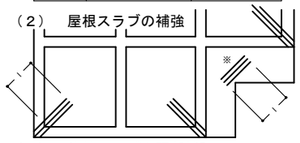
継手位置は原則として下表による

		標準継手位置
上端筋	短 辺 方 向	Ｂ
	長 辺 方 向	Ｂ
下端筋	短辺・長辺方向	Ａ Ｃ

ｂ．一般床スラブ

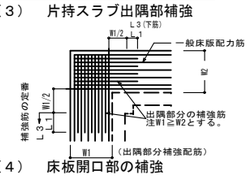


（２） 屋根スラブの補強

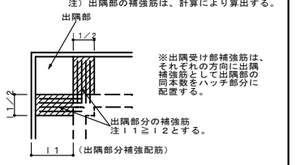


ａ．補強筋は各３－Ｄ１３又はスラブ主筋の同一径でＩ＝１，５００とし、上端筋の下に配筋する
ｂ．※の個所（入隅）は各階補強する

（３） 片持スラブ出隅部補強

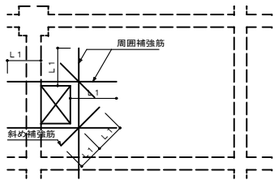


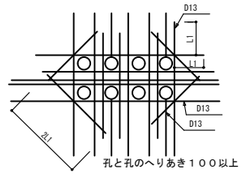
注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。



※出隅受け部補強筋は、
それぞれの方向に出隅
補強筋として出隅部の
同本数をハッチ部分に
配置する。

（４） 床板開口部の補強



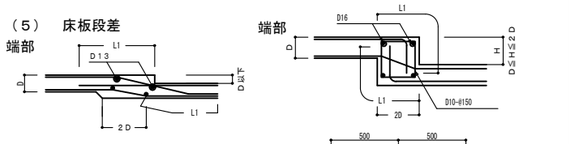


孔と孔のへりあき１００以上

注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

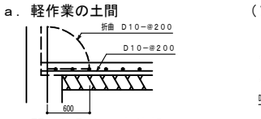
スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2－D13（L=80ｄ）シングルを上下鉄筋の内側に配筋する。

（５） 床板段差

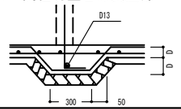


（６） 土間コンクリート

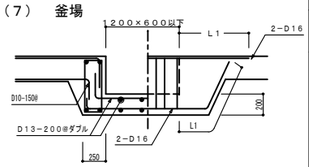
ａ．軽作業の土間



ｂ．間仕切壁との交差部



（７） 釜場



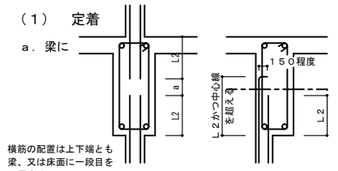
（８） 打継補強

●設計配筋間隔の１／２ピッチ 長さ２Ｌ１以上
●無筋部分Ｄ１０－@２００ 長さ８００以上

９．壁

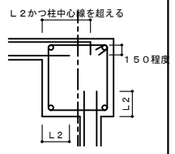
（１） 定着

ａ．梁に

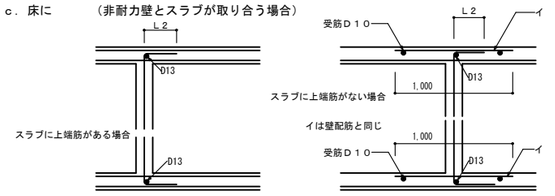


横筋の配置は上下端とも梁、又は床面に一段目を配置する。

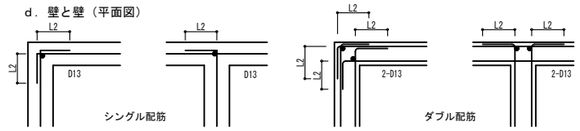
ｂ．柱に（平面図）



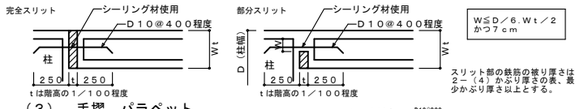
ｃ．床に （非耐力壁とスラブが取り合う場合）



ｄ．壁と壁（平面図）



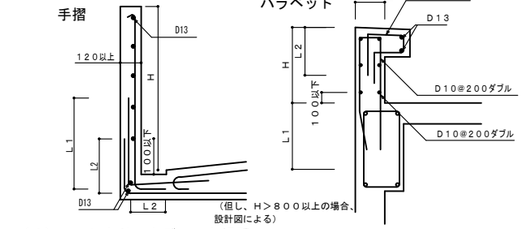
（２） スリット部（設計図に記入のあるとき）



Ｗ≦Ｄ／６，Ｗｔ／２
かつ７ｃｍ

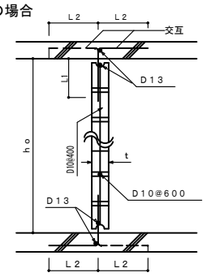
スリット部の鉄筋の被り厚さは２－｛４｝かぶり厚さの表、最少かぶり厚さ以上とする。

（３） 手摺、パラペット

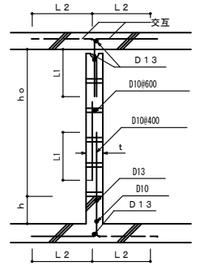


（４） コンクリートブロック帳壁

一般の場合



下部防水立上りのある場合

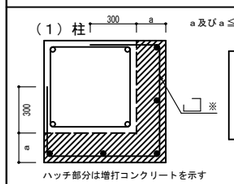


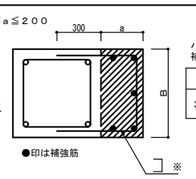
注）ｈｏ≦２５ｔかつ３，５００以下とする。但し直交方向２５ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、２００≦ｈ≦４００
注）鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。

１０．柱、梁増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと）

（１）柱



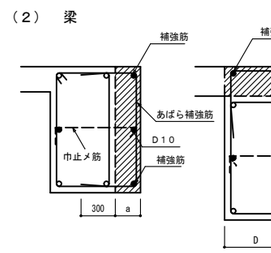


ハッチ部分の面積Ａｃｍ²
補強縦筋

A<500	500≦A<1000	1000≦A<1500
3－D16	4－D16	6－D16

※柱と同径、同ピッチとする
又、補強筋定着長は柱主筋と同様とする

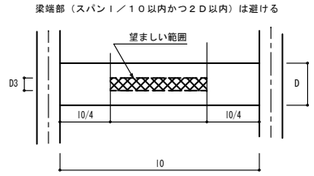
（２） 梁

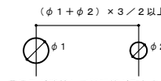


●補強筋は、梁主筋の1段落し径・地中梁は梁主筋の2段落し径（D16 以上）とする。
●あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
●腹筋Ｄ１０ピッチは、梁の腹筋と合せる。
●Ｄ≧４００の場合は補強筋を３本とする。
●ａは１００～２５０程度。
●梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
●補強筋定着長は梁主筋と同様とする。

１１．梁貫通孔補強

（１） 設置可能範囲

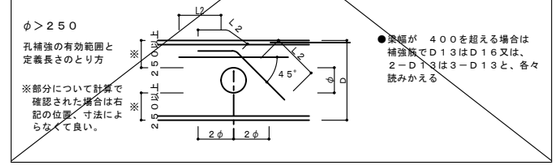




貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２） 鉄筋標準配筋 但し φ≦Ｄ／３とする

φ＝50 （水抜きパイプ） 折 筋 ２－（２－Ｄ１３）	１００＜φ≦１５０ 折 筋 ２－（２－Ｄ１３） 縦 筋 ＳＴ２－Ｄ１３－@１００ 横 筋 ２－（２－Ｄ１３）	１５０＞φ＞２５０ 斜 筋 ４－（２－Ｄ１３） 縦 筋 ＳＴ２－Ｄ１３－@１００ 横 筋 ２－（２－Ｄ１３） 上下縦筋 ＳＴ－２－Ｄ１３



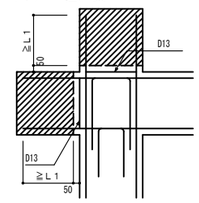
●梁幅が ４００を超える場合は補強筋でＤ１３はＤ１６又は、２－Ｄ１３は３－Ｄ１３と、各々読みかえる

（３） 既製品「認定品とする」（使用するときには、設計者又は工事監理者と打ち合わせのこと）

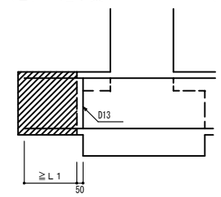
■リング型 □ハイフ型 □金網型 □フレート型

１２．増築予定 （将来増築予定のコンクリート増打部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する）

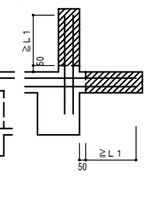
（１） 柱、梁



（２） 地中梁



（３） 床版、壁



〒380-0916 長野市大字稲葉字中千田2189-4 ℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）Ｉ-83311号
管理建築士 一級建築士登録第108578号 清水 勉
図面を作成した建築士 構造設計一級建築士第7927号 春原 記明

鉄骨構造標準図(1)

1．一般事項

（1） 材料及び検査

（a） 構造設計仕様による

（b） 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが４０mm以下のものとする

（c） 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

（2） 工作一般

（a） 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

（b） 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

（c） 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする

（3） 高力ボルト接合

（a） 本締めに使用するボルトと、仮止めボルトの併用はしてはならない

（4） 溶接接合

（a） 溶 接 工

溶接工は施工する溶接に適応するＪＩＳ Ｚ３８０１（手溶接）又はＪＩＳ Ｚ３８４１（半自動溶）の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

（b） 溶接機器

（イ） 交流アーク溶接機 ３００Ａ～５００Ａ　　（ニ） 炭酸ガスアーク半自動溶接機

（ロ） アークエアーガウジング機（直流）　　（ホ） 溶接電流を測定する電流計

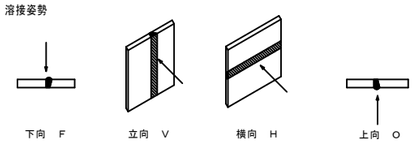
（ハ） サブマージアーク溶接機１式　　（ヘ） 溶接棒乾燥器

（c） 溶接方法

アーク手溶接（ＭＣ）　　ガスシールドアーク半自動溶接機

セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接機（ＮＧＣ）　　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）

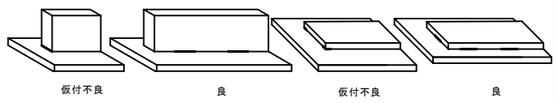
（d） 溶接姿勢



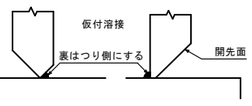
（e） 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う

（イ） 仮付位置

仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



（ロ） 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



（f） 溶接施工

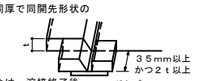
（イ） エンドタブ

Ⅰ）突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける

Ⅱ）エンドタブの材質は、原則母材と同質とする

Ⅲ）エンドタブの長さは、ＭＣ：３５mm以上

ＮＧＣ、ＧＣ：４０mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、エンドタブ母材より１０mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする

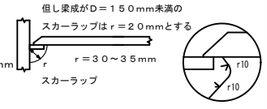


Ⅳ）圏形タブ使用については、施工要領・溶接品質管理要領・自社の欠陥率等の資料を提出して工事監理者の承認を得る

（ロ）裏あて金

材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６mm、半自動溶接で９mm以上とする

但し梁成がＤ＝１５０mm未満のスカーラップはｒ＝２０mmとする



（ハ）スカラップ　半径は３０～３５mmと１０mmのダブルアールとする

（ニ）裏はつり

規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材にマークをつける

（ホ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいたためない様に、養生を行う

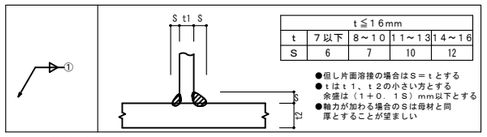
（5） 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2．溶接規準図

（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：フェース　Ｓ：脚長　（単位mm）

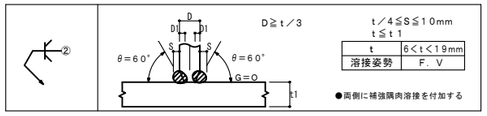
（1） 隅肉溶接



	t≦16mm			
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

●但し片面溶接の場合はＳ＝ｔとする
●ｔはｔ１、ｔ２の小さい方とする
余盛は（１＋０．１Ｓ）mm以下とする
●軸力が加わる場合のＳは母材と同厚とすることが望ましい

（2） 部分溶け込み溶接 （使用箇所に注意）

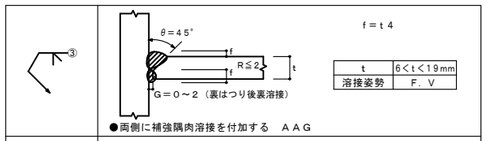


t／4≦S≦10mm
t≦t１

t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●両側に補強隅肉溶接を付加する

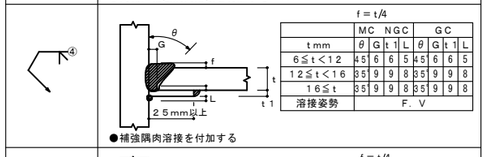
（3） 突合せ溶接 （平継手 Ｔ形継手）



f＝ｔ4

t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

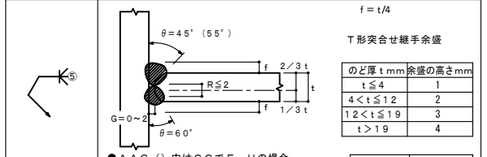
●両側に補強隅肉溶接を付加する　ＡＡＧ



f＝t/4

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t＜12	45	6	6	5	45	6	6	5
12≦t≦19	35	9	9	8	35	9	9	8
16≦t	35	9	9	8	35	9	9	8
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ							

●補強隅肉溶接を付加する



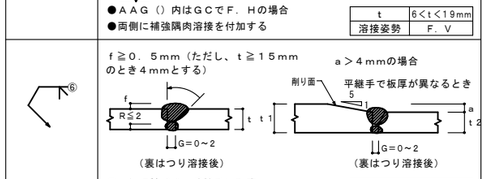
f＝t/4

Ｔ形突合せ継手余盛

のど厚ｔmm	余盛の高さmm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
t＞19	4

t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●ＡＡＧ（）内はＧＣでＦ．Ｈの場合
●両側に補強隅肉溶接を付加する

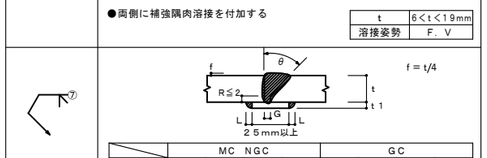


ｆ≧０．５mm（ただし、ｔ≧１５mmのとき４mmとする）

ａ＞４mmの場合

t	6＜t＜19mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

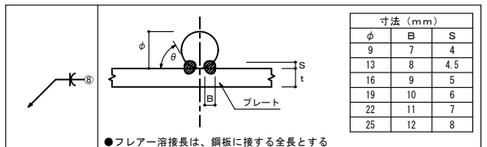
●両側に補強隅肉溶接を付加する



f＝t/4

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	35°	9	9	5
t＞19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ							

（4） フレアー溶接

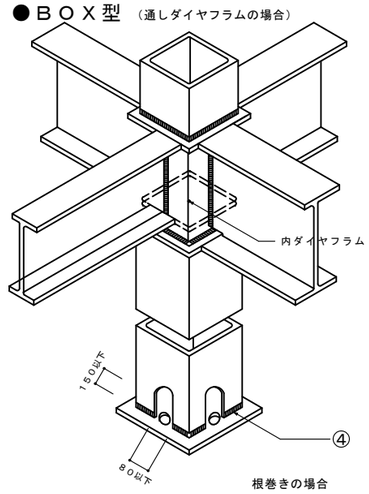


寸法（mm）		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

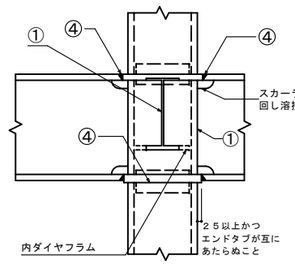
●フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
●９mm～１６mmは１パス以上、１９mmは２パス以上とする
溶接棒角度θは３０°～４０°とする

○溶接記号番号を○の中に記入のこと

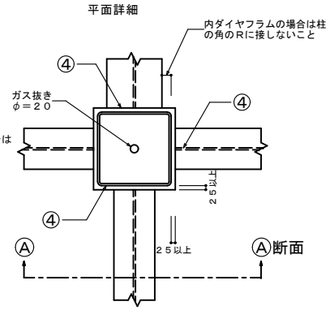
●ＢＯＸ型 （通しダイヤフラムの場合）



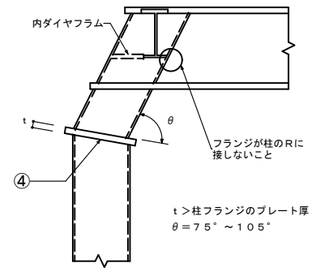
Ａ－Ａ断面図

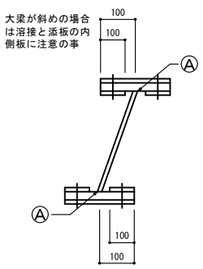


平面詳細

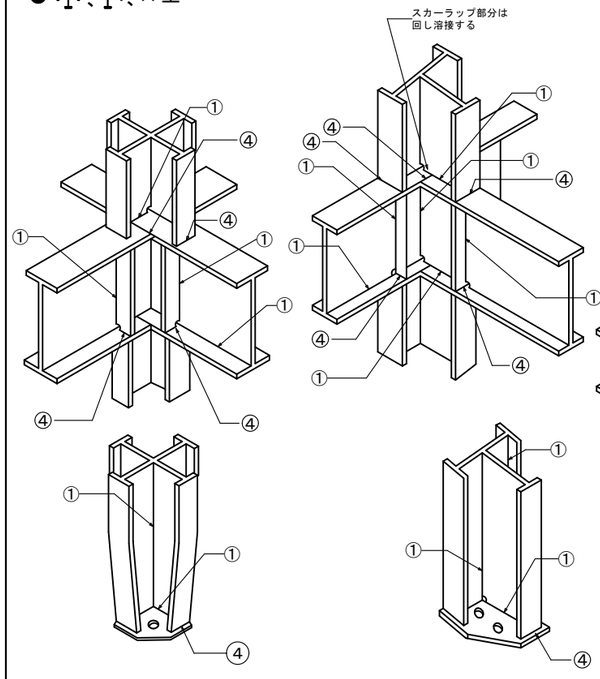


●柱が途中で折れる場合及梁成が異なる場合

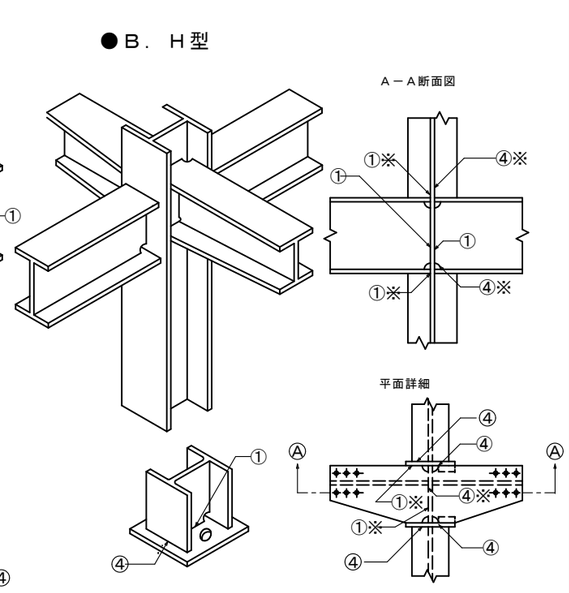




●Ｈ、Ｈ、Ｈ型



●Ｂ．Ｈ型



※全周隅肉溶接又は突合せ（裏あて金付）

※梁貫通ハ、フリードーナツ又ハ、ＨＩＲＩＮＧヲ使用トスル

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）Ⅰ-83311号

管理建築士
一級建築士登録第108578号　清水　勉

図面を作成した建築士
構造設計一級建築士第7927号　春原　記明

鉄　骨　構　造　標　準　図　（２）

６．継手規準図、その他

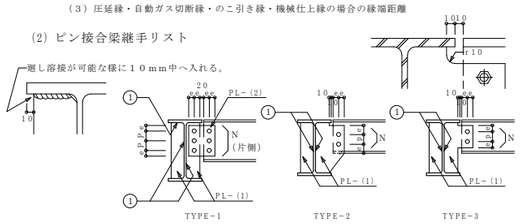
(1) ボルトピッチ（Ｐ）ボルト穴径、最小縁端距離

(mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離（e）				ピッチ（P）	
		(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60

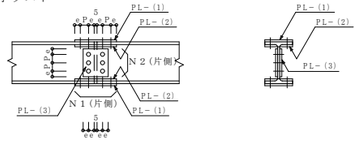
〔注〕（１）引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL－(1)	PL－(2)	N－径
		鉄骨リストによる。			

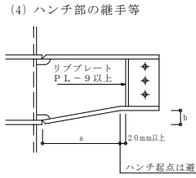
(3) 剛接合継手リスト



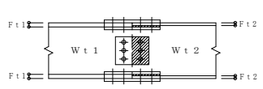
注）端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

符号	部材	フランジ			ウエブ	
		PL－(1)	PL－(2)	N１－径	PL－(3)	N２－径
	鉄骨リストによる。					

(4) ハンチ部の継手等

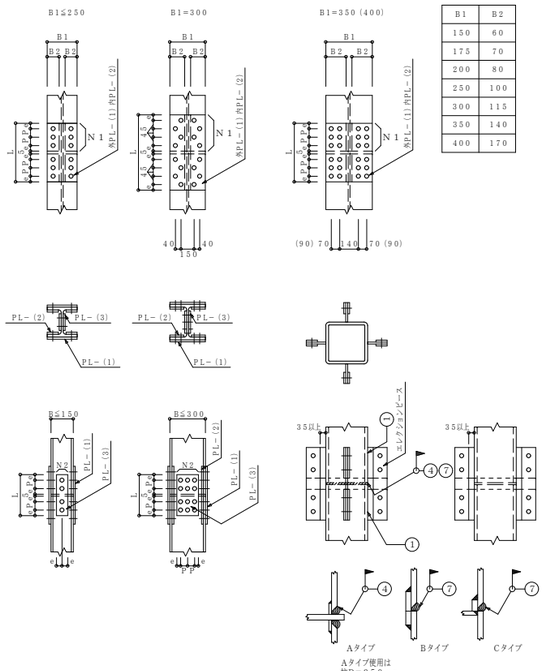


ハンチ勾配は特記なき場合、$\frac{b}{a} \leqq \frac{1}{4}$とする。



Ｆｔ１－Ｆｔ２
Ｗｔ１－Ｗｔ２≧１mmフィラープレート併用のこと

(5) 柱継手リスト



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	115
350	140
400	170

注）Ｂ＝２００～２５０のＮ２は２列並びとする
注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を１００％行う

符号	部材	フランジ			ウエブ	
		PL－(1)	PL－(2)	N１－径	PL－(3)	N２－径
	鉄骨リストによる。					

(6) ブレース　（ＪＩＳ規格品とする・・・ＪＩＳＡ５５４０～５５４２・・・１９８２）

（ａ）鉄筋ブレース

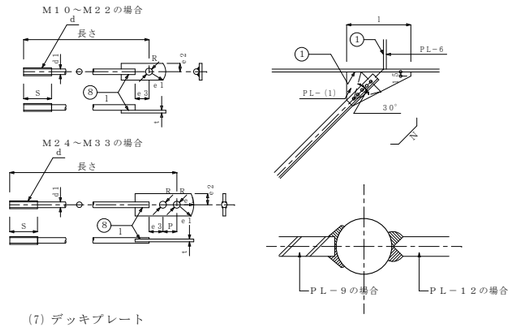
ねじの呼び（d）		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ	S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0.-0.5mm	R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小）(2)	e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(1)（最小） e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(1)（最小） e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき（最小）	e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）	l	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト(2)	種類	ＪＩＳ Ｂ 1186　２種高力ボルト（Ｆ１０Ｔ）						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数	1	1	1	1	1	1	2

注（１）ｅ１、ｅ２が確保されていれば形状は自由でよい
（２）羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

（ｂ）形鋼ブレース

符号	部材	PL－(1)	N－径	l
	鉄骨リストによる。			

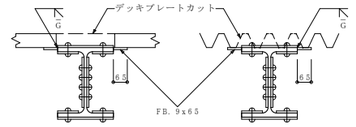
羽子板ボルト　　形鋼ブレース



(7) デッキプレート

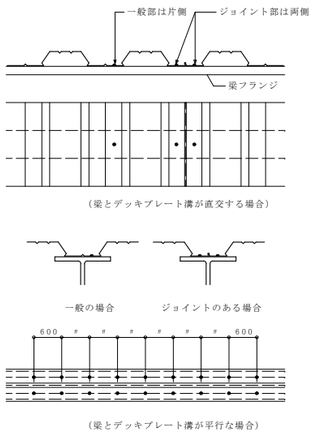
（ａ）剤　付
デッキプレートは大梁フランジ上で焼抜栓溶接ができる様に剤付ける。
（デッキプレートのフランジへのかかりしろは５０mm以上とする。）

（ｂ）デッキプレート受
梁接合部にデッキプレートが当たる場合は、デッキプレートをカットして、
デッキプレート受（ＦＢ．９×６５）を取り付け木口部はふさぐものとする。



梁とデッキプレート溝が直交する場合　　梁とデッキプレート溝が平行な場合

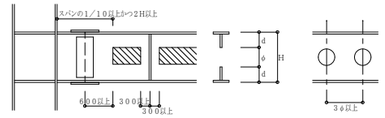
（Ｃ）焼抜栓溶接
焼抜栓溶接の形状は２５～３０mmの円形とし、ピッチは下記による。



（ｄ）ワイヤメッシュ
ワイヤメッシュはφ６＠１５０を用い、重ねしろは１．５マスとして充分結束する。
尚、かぶり厚は２０mmとする。

(8) 梁貫通孔の補強

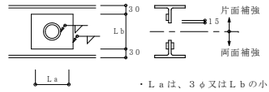
１．梁貫通孔の位置及び大きさ



・ｄ≧Ｈ／５かつ１００mm以上
・φ≦Ｈ／３かつ２５０φ以下（その他は特記による）
・貫通孔が並列する場合の孔の中心間隔は、平均孔径（φ'）の３倍以上とする。

２．補強方法　→　国交大臣認定品を用いる事

（ａ）プレート補強

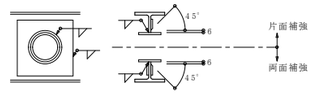


・Ｌａは、３φ又はＬｂの小さい方とする。
・補強ＰＬの材質はウェブの材質と同じとする。
・補強ＰＬの厚さは、９mmまでとし、それ以上必要な場合は
必要厚×１／２以上のＰＬを両面溶接とする。

（ｂ）鋼管補強

貫通孔径（φ）	補強鋼管
100	114.3φ×4.5
150	165.2φ×4.5
200	216.3φ×5.8
250	267.4φ×6.6

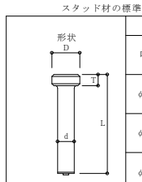
（ｃ）鋼管補強＋プレート補強



※φ≦Ｈ／５かつ５０mm以下は無補強とする。

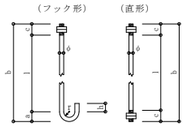
(9) 頭付きスタッド　（ＪＩＳ　１１９８）

スタッド材の標準形状・寸法



呼び名	スタッド材 軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さT mm	溶接後の長さL mm
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80, 100, 130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100, 130, 150

(10) アンカーボルト定着長さ及び穴径

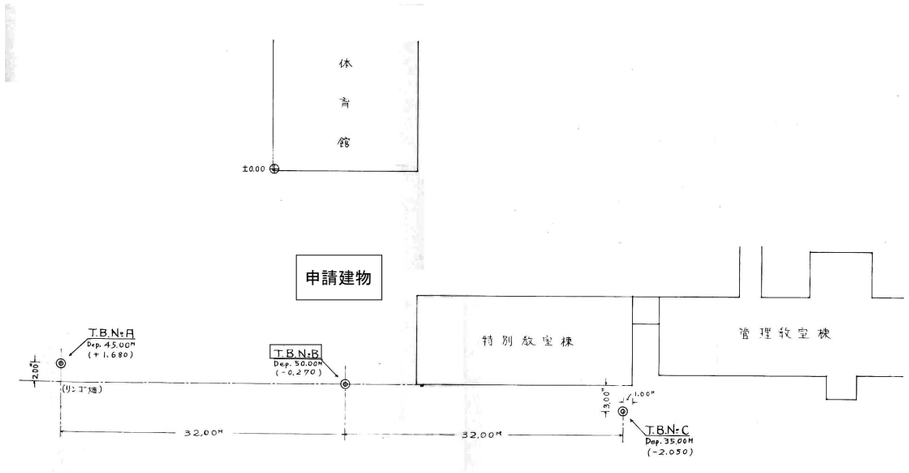


材質：ＳＳ４００（中ボルト）

ボルト公称軸径φ	フック形寸法(mm) a	c	l	b	h	直形寸法(mm) c	l	b
16	32	80	500	612	65			
20	40	80	600	720	80			
22	44	80	650	774	90	80	650	810
24	48	100	700	848	100	100	700	900
27						100	850	1050
30						100	900	1100

注）アンカーボルト穴径はφ＋５mmを標準とする。

（１）アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別は原則として「建築工事共通仕様書」
（（社）公共建築協会）のＢ種とする。
（２）柱底ならしモルタルの工法は同仕様書のＢ種とする。

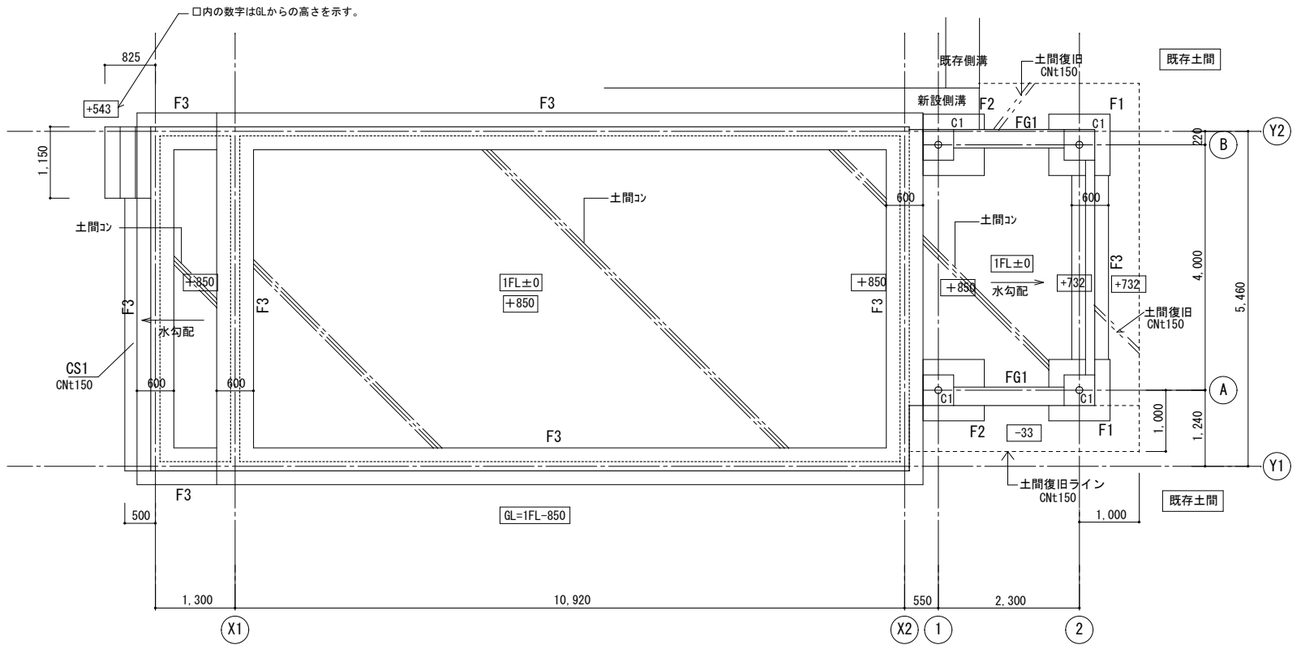


位置図

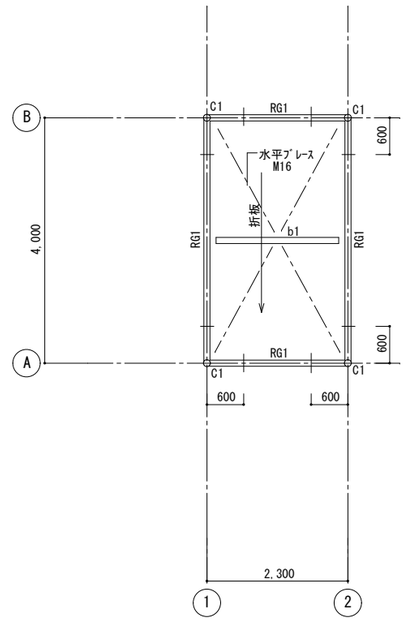
ボーリング柱状図（T.B.N・B）

調査件名	長野市立古里小学校改築工事建設敷地地盤調査	施工	株式会社 中部地質
調査地名	長野市 金箱 439-2	現場責任者	手塚貴美男
調査期間	S.48年 月 日 ～ 48年 月 日	報告責任者	成沢晃一
調査深度	Dep. 50.00M	備考	
ボーリング工法	ロータリー式コアーボーリング		
ボーリング機種	KR-100型		

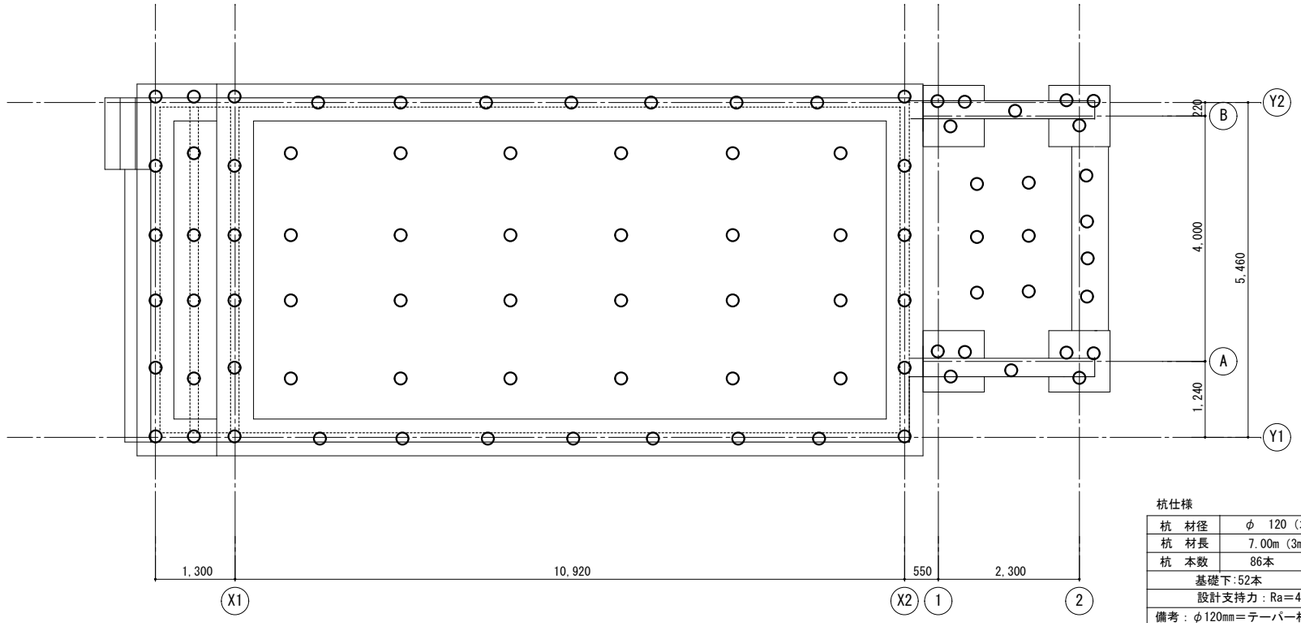
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	土質記号	土質名	色調	コンシステンシー相対密度	孔内水位 (m)	観察	試料採取位置 (m)	標準貫入試験 深度 (m)	N値 回/cm	10cm毎の打撃回数 10 20 30	10 20 30 40 50
0		0.00												
		0.70	0.70		ローム混り砂質	暗灰褐	中位		含水小 粘性小 φ10～50%の砂多し					
1		1.25	0.55		砂質ローム	黄灰褐	軟		含水中 粘性中		1.00	5		
2									含水大 粘性小 φ10～50%の円礫多し 下位ほど砂質 砂は粗度分布よし		1.30			
3		2.80	1.55		ローム混り砂質	灰褐	密				2.00	7		
4									含水大 粘性中 4.00M以下少量の礫混入		2.30			
5											3.00	11		
6											3.30			
7		6.90	4.10		砂質シルト	暗灰褐	軟				4.00	36		
8		8.75	1.85		シルト混り砂質	暗灰	密い		含水中 粘性やや大 礫は亜円～亜角礫 φ15%内外多し 最大φ 50% 3.45～8.75M間 礫多し 砂は粗度分布よし		4.30			
9		9.35	0.60		シルト	暗灰	軟		含水中 粘性やや大		5.00	3		
10		10.20	0.85		砂質シルト	暗緑灰	中位		含水中 粘性中		5.30			
11									含水中 粘性小～大 有機質シルト互層状に夾む		6.00	3		
12											6.30			
13		13.40	3.20		粘土質シルト	暗灰	中位				7.00	9		
14									含水大 粘性中 φ10%以下の小礫多し 砂は粗度分布よし		7.30			
15		15.00	1.60		シルト混り砂礫	暗灰	密い				8.00	12		
		15.40	0.40		腐植土	黒灰	軟		含水大 粘性やや大		8.30			
16									含水中 粘性中～やや小 互層状に砂を夾む、所々砂分多し		8.60	4		
17											9.00			
18											9.30	7		
19					砂混り						10.00			
		19.90	4.50		砂質シルト	暗灰	中位				10.30	8		
20									含水中 粘性大 僅かに砂質分を含む		11.00			
21		21.25	1.35		シルト	暗灰	中位				11.30	5		
22									含水中 粘性中 下位は砂質分多くなる		12.00			
23		23.10	1.85		砂質シルト	暗灰	中位				12.30	9		
24									含水中 粘性中 薄片状有機物、砂を互層状に夾む		13.00			
25											13.30	3		
26		26.60	3.50		砂質シルト	灰褐	中位				14.00			
27									含水中 粘性小 中粗砂多し		14.30	11		
28		28.00	1.40		シルト質砂	暗灰	密い				15.00			
											15.30	7		
30		30.20	2.20		砂混りシルト	暗青灰	中位		含水中 粘性やや小 所々団粒している 腐植物も小礫混入		16.00			
											16.30	7		
31		31.40	1.20		シルト混り砂	青緑灰	密		含水中 腐植物若干混入		17.00			
									含水大 粘性小		17.30	5		
											18.00			
											18.30	8		
											19.00			
											19.30	6		
											20.00			
											20.30	66		
											21.00			
											21.30	7		
											22.00			
											22.30	13		
											23.00			
											23.30	14		
											24.00			
											24.30	9		
											25.00			
											25.30	11		
											26.00			
											26.30	9		
											27.00			
											27.30	12		
											28.00			
											28.30	9		
											29.00			
											29.30	16		
											30.00			
											30.30	26		
											31.00			
											31.30	33		



基礎伏図



屋根伏図

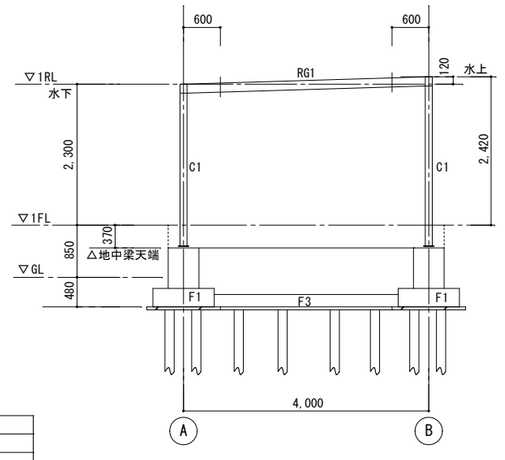


杭　伏図

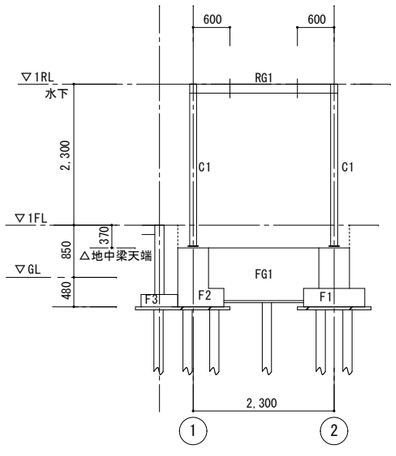
杭仕様

杭　材径	φ　120（木杭）
杭　材長	7.00m（3m＋4m）
杭　本数	86本
基礎下:52本　　土間コン下：34本	
設計支持力：Ra＝44.2ｋN/本	
備考：φ120mm＝テーパー材orφ140mm＝ロータリー材	
工法：環境パイル（S）工法	

注）上記仕様はSW式サウンヂング試験後に決定する。



2通り　軸組図



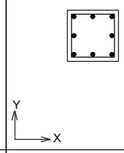
A通り　軸組図

〒380-0916　長野市大字稲葉字中千田2189-4　℡026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号

管理建築士
一級建築士登録第108578号　清水　勉

図面を作成した建築士
春原記明　構造設計一級建築士第7927号

柱 リスト

符号		C1
1階	断面形状	通しプレート PL-16x175x175 (SN400C) □ STKR400
	寸法	□-125x125x6
柱脚	断面形状	
	形式	露出柱脚
	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	19x305x305 (SN490B)
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	4-M16 L=400 (ABR400)
基礎柱	断面形状	
	寸法 B x D	500x500
	主筋	8-D19
	フープ	ロ-D10@150
柱脚保護	断面	500x500 (h370～252)
	主筋	4-D13
	フープ	1-ロ-D13

大梁 リスト

符号		RG1
位置		全断面
R階	断面形状	I SN400B
	寸法	H-148x100x6x9

小梁 リスト

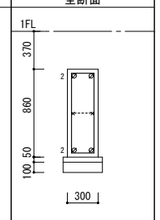
符号	b1	M16
位置	全断面	全断面
断面形状	I SS400	○
寸法	H-198x99x4.5x7	φ16
仕口	GPL-9 2-M16	GPL-9 1-M16

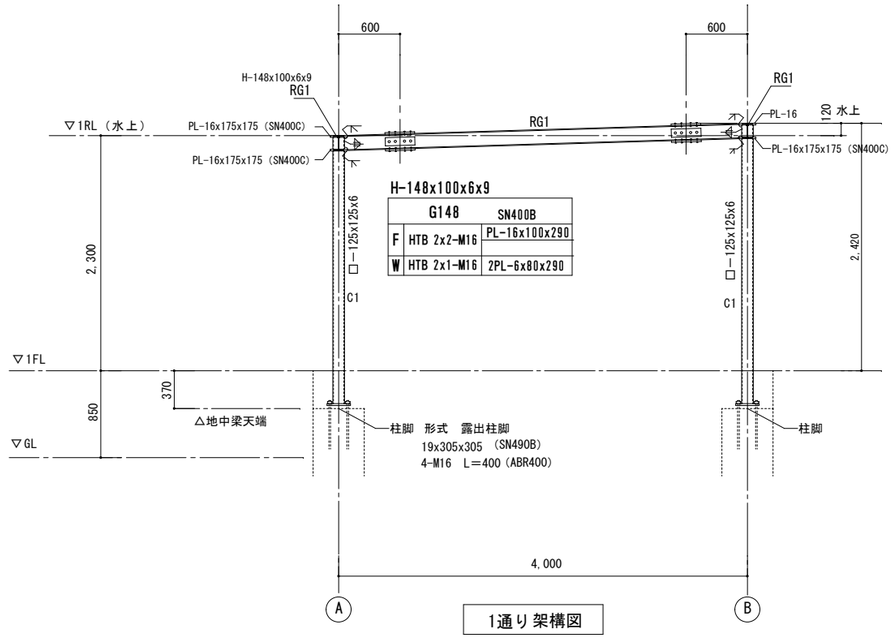
継手 リスト

＊継手位置（柱芯～継手位置）は L=600 とする

符号	断面寸法	フランジ		ウェブ	
		ﾎﾞﾙﾄ（片面）	添板	ﾎﾞﾙﾄ（片面）	添板
RG1	H-148x100x6x9 SN400B	2x2-M16	PL-16x100x290	1x2-M16	PL-6x80x290

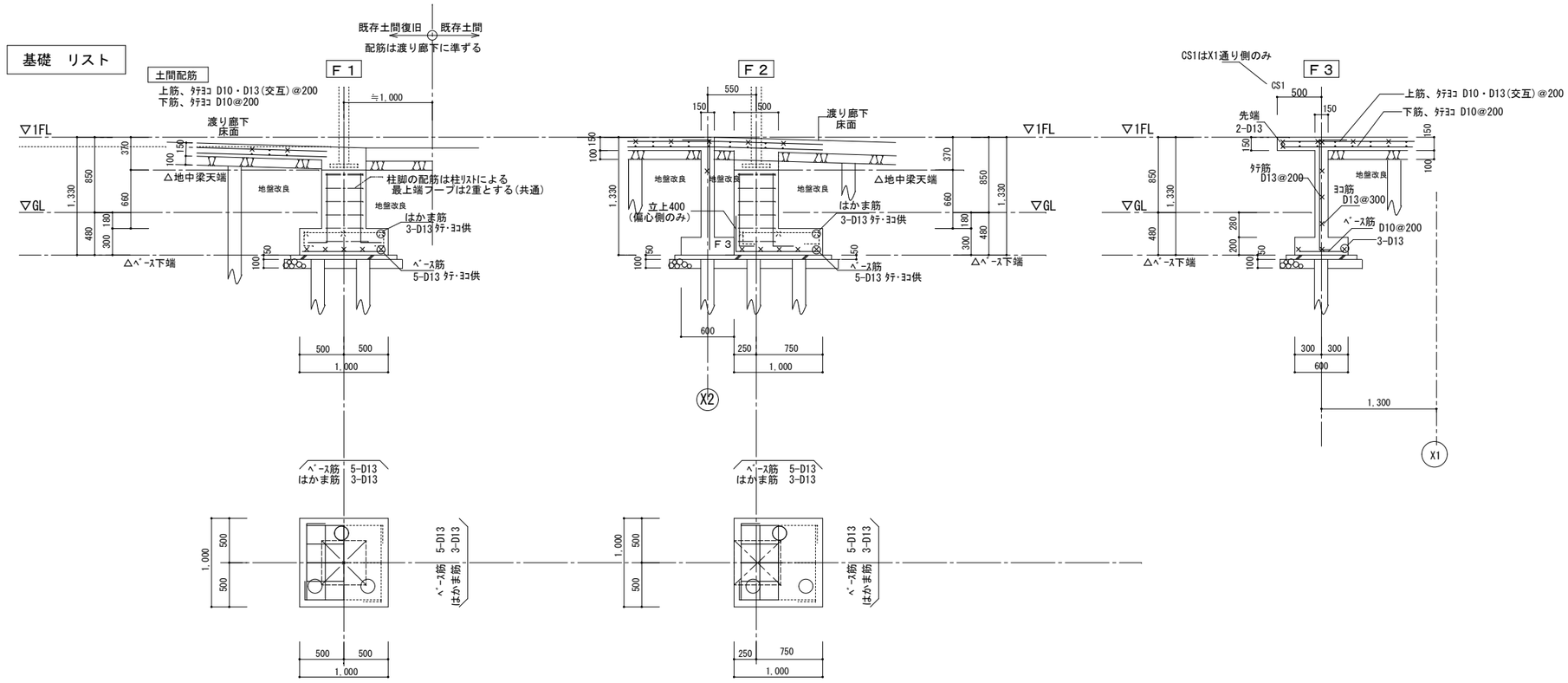
地中梁 リスト

符号	FG1
位置	全断面
断面形状	
B×D	300 x 860
上端筋	2-D16
下端筋	2-D16
スターラップ	ロ-D10@200
腹筋	2-D10
幅止筋	D10@1,000



1通り架構図

基礎 リスト



〒380-0916 長野市大字稲葉字中千田2189-4 TEL026-226-1306
一級建築士事務所登録（長野）I-83311号
管理建築士 一級建築士登録第108578号 清水 勉
図面を作成した建築士 春原記明 構造設計一級建築士第7927号